

健康福祉学部

社会福祉学科

(授業科目名 五十音順)

科目名	医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	医学の基礎知識	講義	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ライフステージごとの心身の変化と健康課題が理解できる。</li> <li>2.康・疾病について理解できる。</li> <li>3.身体構造と心身機能について理解できる。</li> <li>4.病と障害の成り立ちや回復過程が理解できる。</li> <li>5.公衆衛生の観点から健康に及ぼす要因や健康課題の解決策が理解できる。</li> <li>6.こころとからだのしくみが理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>看護師として病院や介護保険対象の事業所で勤務したことがある教員が以下の内容を指導します。 人のライフステージごとに特徴があるこころとからだのしくみや変化と健康課題について学ぶとともに、健康・疾病の捉え方、身体構造と心身機能、疾病と障害の成り立ち及び回復過程について学習し、公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を学びます。 社会福祉士や介護福祉士として現場で実践するために必要な、人体の構造・機能や医学的知識を学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回の授業内容の復習としてノート整理に取り組むことを各回3時間程度行う。次回の授業の予習として教科書を読んでおくことを各回1時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ライフステージにおける心身の変化と健康課題</li> <li>2.こころのしくみの理解 ライフステージにおける心身の変化と健康課題</li> <li>3.心身の加齢・老化 ライフステージ別の健康課題</li> <li>4.健康及び疾病の捉え方</li> <li>5.健康の概念 疾病の概念</li> <li>6.国際生活機能分類(ICF)</li> <li>7.身体構造と心身機能 からだのしくみの理解</li> <li>8.人体部位の名称</li> <li>9.基幹系と臓器の役割</li> <li>10.疾病と障害の成り立ち及び回復過程 疾病の発生原因 病変の成立機序 障害の概要</li> <li>11.リハビリテーションの概要と範囲 疾病と障害及びその予防・治療・予後・リハビリテーション</li> <li>12.公衆衛生 公衆衛生の概要 健康増進と保健医療対策</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	医学の基礎知識	講義	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]  
筆記試験の成績(80%)  
復習ノート(20%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
復習ノートを適宜確認し、コメントする。  
ミニテストを授業の後半で適宜実施し、成績が悪い場合は個別に面談する。  
毎回の授業の最初に前回の授業を振り返りコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:筆記試験・復習ノート

科目名	医療的ケア I	前期	2 単位
サブタイトル	医療を必要としている生活者	講義	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケアを行う上での専門的役割を理解できる</li> <li>2. 医療的ケアのニーズが増加する社会背景や医療制度を理解する</li> <li>3. チーム医療と経管栄養、喀痰吸引を行う上での連携を理解する</li> <li>4. 安全に行うための方法やリスクマネジメントを理解し、応急処置を学ぶ</li> <li>5. 医療的ケアに関して清潔や感染予防の必要性を学ぶ</li> <li>6. 健康状態の把握の方法を学ぶ</li> <li>7. 喀痰吸引の知識、手順を理解する</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>「医療的ケア I」ではこれに続く「医療的ケア II」「医療的ケア III・IV」とともにその資格取得講習会の「医療的ケア実施の基本研修(講義)(演習)」の一部にあたる内容である。介護福祉士として安全な医療的ケアを実施するために必要な基礎知識である、医療的ケアに関する制度、医療的ケアを必要とする人の理解、医療チームとの連携などに必要な基礎的知識、実施手順などについて、教員の医療行為の経験を活かして指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野について、予習復習を合わせて4時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・医療的ケア実施に向けての基礎的知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>第1章(1)人間と社会、個人の尊厳と自立、(2)医療の倫理、(3)利用者の気持ちの・安全な療養生活</li> </ol> </li> <li>2. 第2章(1)保健医療に関する制度、(2)医行為に関する法律       <ol style="list-style-type: none"> <li>(3)保健医療制度とチーム医療・介護職員との連携</li> </ol> </li> <li>3. 第3章(1)たんの吸引や経管栄養の安全な実施 (2)救急蘇生法</li> <li>4. 第4章(1)感染予防、(2)職員の感染予防、(3)療養環境の清潔・消毒法</li> <li>5. 第4章(4)滅菌と消毒 汚物の処理とガウンテクニック</li> <li>6. 第5章(1)身体・精神の健康、(2)健康状態を知る項目(バイタルサインなど)       <ol style="list-style-type: none"> <li>(3)急変状態について</li> </ol> </li> <li>7. 第5章 救急蘇生法</li> <li>8. 第6章(1)呼吸のしくみとはたらき</li> <li>9. 第6章(2)いつもと違う呼吸状態、(3)たんの吸引とは①</li> <li>10. 第6章(3)たんの吸引とは②、(4)人工呼吸器と吸引①</li> <li>11. 第6章(4)人工呼吸器と吸引②</li> <li>12. 第6章(5)子どもの吸引について、(6)吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</li> <li>13. まとめ(振り返り)</li> </ol>			

科目名	医療的ケア I	前期	2 単位
サブタイトル	医療を必要としている生活者	講義	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]

受講態度40%、課題10%、筆記試験50%

医療的ケアは全ての授業を受講しなければ、修了を認定できない授業です。欠席することがないよう、日ごろから健康管理に重々注意してください。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

提出を求めた課題については添削して返却する。

毎回の授業開始時に前回の授業を振り返りコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:

受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:

受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

[ 教科書 (ISBN) ]

介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名:全国訪問看護事業協会 出版社:中央法規 (978-4-8058-5250-7)

[ 参考書 (ISBN) ]

なし

科目名	医療的ケアⅡ	前期	2 単位
サブタイトル	吸引・経管栄養	講義	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          吸引に関係する呼吸器系の感染と予防について説明ができる。          痰の吸引により生じる危険、事後の安全確認について説明ができる。          痰の吸引による急変、事故発生時の対応と事前対策について説明できる。          自然な食物摂取から排泄までの機序を理解した上で、経管栄養の必要な状況を説明できる。          経鼻、胃ろう、腸ろうによる栄養法、またそのしくみを理解する。          経管栄養実施上の留意点がわかり、経管栄養によって生じる危険や感染が予防できる。          経管栄養を受ける利用者(児)、家族の気持ちを理解することやその対応、説明と同意のそれぞれの重要性と方法を説明できる。          経管栄養に関しての急変や事故が予測できる。</p> <p>[授業概要]          看護師として現場での経験が5年以上ある教員が、医療的ケアについて指導します。          施設や在宅で医療的ケアを必要としながら生活する人が増加し、介護福祉士が一部の医療的ケアを医療職と連携して担うことが制度化された経緯があり、「医療的ケアⅡ」は、「医療的ケアⅠ」に引き続き、医療的ケア実施の基本研修(講義)の一部であり、介護福祉士として、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できることを目的に、喀痰吸引の続きと経管栄養の基礎的知識、実施手順を学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          前回の授業内容を復習し次回の授業の予習として教科書の内容確認を各回4時間程度しておくこと。</p> <p>[授業計画]          1. 第6章(7)呼吸器の感染と予防(吸引と関連して)、(8)たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認①          2. 第6章(8)たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認②、(9)急変・事故発生時の対応と事前対策①          3. 第6章(9)急変・事故発生時の対応と事前対策②、第7章(1)たんの吸引で用いる用具、器材とそのしくみ、清潔の保持①          4. 第7章(1)たんの吸引で用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持②、(2)吸引の技術と留意点①          5. 第7章(3)たんの吸引に伴うケア、(4)報告及び記録          6. 第8章(1)消化器のしくみとはたらき          7. 第8章(2)消化・吸収とよくある消化器の症状、(3)経管栄養とは①          8. 第8章(3)経管栄養とは②、(4)注入に関する知識          9. 第8章(5)経管栄養実施上の留意点、(6)子どもの経管栄養について①          10. 第8章(6)子どもの経管栄養について②、(7)経管栄養に関する感染と予防          11. 第8章(8)経管栄養を受ける利用者の気持ちと対応、説明と同意          12. (9)経管栄養に生じる危険、注入後の安全確認          13. まとめ(振り返り)</p>			

科目名	医療的ケアⅡ	前期	2 単位
サブタイトル	吸引・経管栄養	講義	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]  
 受講態度40%、課題10%、筆記試験50%  
 医療的ケアは全ての授業を受講しなければ、修了を認定できない授業です。欠席することがないよう、日ごろから健康管理に重々注意してください。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
 課題提出時にコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
 成績評価方法:受講態度、課題、筆記試験

[ 教科書 (ISBN) ]  
 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名:全国訪問看護事業協会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5250-7)  
 配布プリント

[ 参考書 (ISBN) ]  
 なし

科目名	医療的ケアⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	医行為	講義	
担当者	津田 理恵子、神原 珠美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	技術演習	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①安全で適切な経管栄養(経鼻経管栄養・胃ろう注入)の実施手順、留意点が説明できる。  ②利用者の実施前後、注入中の状態観察、留意点が説明できる。  ③経管栄養に関しての急変や事故が発生したときの対応と事前対策が説明できる。  ④報告方法と、記録の意義・内容が説明できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>看護師として実践現場で5年以上ある教員が、吸引と経管栄養の知識と技術を指導する。  高齢化が進展するなか、医療的ケアを必要とする人は増加の一途をたどるが、残念ながら病院の病床数には限りがある。そこで、医療的ニーズをかかえながらも福祉施設や在宅で暮らす方たちのニーズに対応するため、一定の基礎研修と実地研修を修了した介護福祉士が、医療職と連携を図りながら、喀痰吸引や経管栄養などの支援にあたるのが法的に認められた。「医療的ケアⅢ」は、「医療的ケアⅠ」「医療的ケアⅡ」に続く基本研修(講義)の一部と、経管栄養が安全、適切に行えるように経管栄養や胃ろう注入の演習を通じてその基礎的知識、実施手順を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>これまでに履修済みの科目のうち、解剖生理学、消化管疾患、呼吸器疾患、感染、応急処置緊急時の対応など、医療と関係深い分野の復習と医療的ケアの実技に必要な知識についての予習を各回4時間程度行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第8章(10)急変・事故発生時の対応と事前対策、第9章(1)経管栄養(経鼻経管栄養法)で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持①(津田・神原)</li> <li>第9章(1)経管栄養(胃ろう注入)で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持②、(2)経管栄養の技術と留意点①(津田・神原)</li> <li>第9章(1)経管栄養で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持③、(2)演習による経管栄養(経鼻経管栄養)の技術と留意の習得①(津田・神原)</li> <li>第9章(2)演習による経管栄養(胃ろう注入)の技術と留意点の習得②(津田・神原)</li> <li>第9章(2)演習による経管栄養の技術と留意点③、(3)演習による経管栄養の技術と留意点④(津田・神原)</li> <li>第9章(3)経管栄養に必要なケア⑤、(4)報告及び記録(津田・神原)</li> <li>まとめ(振り返り)(津田・神原)</li> </ol>			



科目名	医療的ケアⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	医行為	講義	
担当者	津田 理恵子、神原 珠美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加度50%、課題50%  医療的ケアは全ての授業を受講しなければ、修了を認定できない授業です。欠席することがないよう、日ごろから健康管理に重々注意してください。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  自分なりの手順書を作成するため、作成した手順書を提出してもらい確認コメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加度、課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名:全国訪問看護事業協会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5250-7)  配布プリント</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

P11001970 [ WWH3-048 ]

[4福C]\*前期集中

科目名	医療的ケアⅣ(演習)	前期	1 単位
サブタイトル	医行為	演習	
担当者	津田 理恵子、横山 淳子、神原 珠美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他	技術演習と技術テスト	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①吸引、経管栄養の医療的ケア5項目を医療職との連携のもとで安全・適切に実施できる技術を習得する。 ②救急蘇生法を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>看護師として5年以上の現場経験がある教員が、吸引と経管栄養の実技が身につくように指導する。「医療的ケアⅣ」は「介護職員によるたんの吸引等の研修」の「基本研修のなかの演習」の部分にあたる。本学での医療的ケアの「基本研修」の講義科目である「医療的ケアⅠ」「医療的ケアⅡ」と「医療的ケアⅢ(一部が講義)」を履修した後に、演習を通じて対象者の安全を守り、尊厳を保持しながら介護福祉士がひとりで適切にこれらの技術が提供できることを目指して3名の教員で指導を行う。具体的には喀痰吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内)と経管栄養(経鼻経管・胃ろう)、救急蘇生法の演習を行う。「基本研修(演習)」には評価基準があり、シミュレーターを使い、テキストの「評価票」に準じて、喀痰吸引は口腔内吸引15回以上、鼻腔内吸引15回以上、気管カニューレ内吸引15回以上、経管栄養では胃ろうまたは腸ろう5回以上、経鼻経管5回以上、そして救急蘇生法1回以上を手順どおりに実施できることが合格の基準である。ただし、吸引と経管栄養は5回のうち、最後の1回に手順ミスがなければ合格である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野の復習をしたうえで、実技ができるように、実技に関する知識と技術を各回2時間程度予習・復習する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. たんの吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内)演習(神原 津田 横山)</li> <li>2. 口腔内吸引演習(神原 津田 横山)</li> <li>3. 鼻腔内吸引演習(神原 津田 横山)</li> <li>4. 気管カニューレ内吸引演習(神原 津田 横山)</li> <li>5. 経管栄養法(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)演習(神原 津田 横山)</li> <li>6. 胃ろうまたは腸ろう経管栄養演習(神原 津田 横山)</li> <li>7. 救急蘇生法(神原 津田 横山)</li> </ol>			

科目名	医療的ケアⅣ(演習)	前期	1 単位
サブタイトル	医行為	演習	
担当者	津田 理恵子、横山 淳子、神原 珠美		
<p>[ 成績評価方法 ] 実技試験(90%) 授業参加度(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 実技試験の際に個別にコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: 実技試験 授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実技試験 授業参加度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名:全国訪問看護事業協会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5250-7 ) 配布プリント</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	医療福祉論	後期	2 単位
サブタイトル	人間の健康に関する総合的な理解。	講義	
担当者	阿江 善春		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] WHOの健康定義を柱に人間の持つ様々な課題をからだ、こころ、くらしの全体にわたり理解すると同時に、日本の社会保障体系(3福祉+公的扶助+5保険)を押さえた「具体的な場面における相談援助」を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ] 1 健康と医療について、からだ、こころ、くらしのすべての視点からその基礎的知識を学習する。 2 その中でも特に福祉専門職として対人援助の業務に就くものとして、その基礎的な知識と技術を学習する。またその中で自身の健康を大切にす知識と方法についても習得する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 前期履修の「保健医療と福祉」と、人体と疾病の理解、心理学支援、地域福祉、障がい者福祉、高齢者福祉、児童・家庭福祉、社会保障、公的扶助などのテキストに目を通しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 1.医療ソーシャルワークの全体像(業務指針と業務統計から) 2.業務指針の理解①(業務分野と範囲ー前半) 3.業務指針の理解②(業務分野と範囲ー後半) 4.業務指針の理解③(方法) 5.事例検討と関連分野の制度理解①(医療保障と医療保険) 6.事例検討と関連分野の制度理解②(介護保障と介護保険) 7.事例検討と関連分野の制度理解③(年金保障と年金保険) 8.事例検討と関連分野の制度理解④(雇用保障と雇用保険) 9.事例検討と関連分野の制度理解⑤(業務上災害と補償) 10.事例検討と関連分野の制度理解⑥(障がい者福祉とMSW) 11.事例検討と関連分野の制度理解⑦(高齢者福祉とMSW) 12.事例検討と関連分野の制度理解⑧(児童・家庭福祉とMSW) 13.事例検討と関連分野の制度理解⑨(地域福祉とMSW)</p>			

科目名	医療福祉論	後期	2 単位
サブタイトル	人間の健康に関する総合的な理解。	講義	
担当者	阿江 善春		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業レポート40%、試験60%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後に解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業レポート40%、試験60%</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	介護過程 I		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	木村 あい			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.介護過程の全体の流れが説明できる。</li> <li>2.介護過程の各段階の内容を理解できる。</li> <li>3.思考過程で論理的思考、判断を行使していることが理解できる。</li> <li>4.問題解決にあたり思考過程を自覚することができる。</li> <li>5.個別介護に介護過程の展開が必要であることを知る。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>介護の対象者の自立、自己実現にむけた支援のために、対象の状態・状況に応じた意図的、科学的で、適切で個別的な介護を提供できる介護過程展開の能力を養う。  介護過程の学習は、他の科目で学習した知識や技術を統合したうえで、情報収集やアセスメントの仕方、生活課題の抽出方法や介護の目標のとらえ方、具体的な支援方法などを学習する。</p> <p>介護福祉士の資格を持って5年以上実践現場で経験ある教員が、介護過程の展開を介護福祉実習につながるように指導する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>これまでの履修済みの「介護」に関する科目を復習しておく。予習復習を含めて2時間程度の学修を行う</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護の専門性と介護過程の意義と基礎的理解</li> <li>2. 介護過程の構造</li> <li>3. ICFの視点、介護の理念、医学モデル・社会モデル・生活支援モデル</li> <li>4. 観察、コミュニケーション 情報収集、記録</li> <li>5. 生活の仕方とアセスメント 健康・機能障害</li> <li>6. 活動・参加の障害 生活障害</li> <li>7. ノーマライゼーション、自立への支援と価値</li> <li>8. 多職種との連携の必要性和チームアプローチ(介護過程とチームアプローチ)</li> <li>9. 生活課題の抽出、具体的な支援の方法、目標設定</li> <li>10. 介護計画の立て方と評価方法</li> <li>11. 事例演習①</li> <li>12. 事例演習②</li> <li>13. まとめと評価</li> </ol>				

科目名	介護過程 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] レポートなどの課題(20%)、試験(80%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・レポートなどの課題は授業内や、manabaでコメントします。 ・試験は終了後に解答の解説をします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポートなどの課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポートなどの課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験・レポートなどの課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・レポートなどの課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験・レポートなどの課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 介護過程 出版社:建帛社</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜紹介する</p>			

科目名	介護過程Ⅱ	前期	1 単位
サブタイトル	介護保険下におけるケアマネジメントと介護過程の展開	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアマネジメントの歴史、目的、方法が理解できる</li> <li>2. 介護保険制度と障害者総合支援法のそれぞれを理解し、高齢者、障害のある人のケアマネジメントが理解できる</li> <li>3. 多職種間の連携とチームアプローチが理解できる</li> <li>4. 個別の介護計画の必要性を理解し、ICFに基づく介護計画を立案できる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険制度の概要を知り、「ケアマネジメント」の位置づけを学ぶ</li> <li>2. ケアマネジメントを支える多職種や介護支援専門員の役割について学ぶ</li> <li>3. 介護支援専門員の立案するケアプランと介護過程との関係や介護職の役割と連携の方法を学ぶ</li> <li>4. 介護実践場面での「ケアマネジメント」の意義を学ぶ</li> <li>5. 日本における高齢者施設や事業所などで提供されている介護保険サービスのひとつとしての生活支援が、介護過程展開によって進められている実際を学ぶ</li> <li>6. ケアマネジメントの考え方、介護保険制度下でのケアマネジメントの実際、ケアマネジメントと介護過程の関係を演習を通し学び、事例を用いて介護過程を展開させる。</li> <li>7. ケアマネジメントと介護福祉士の役割の関係を学ぶ</li> <li>8. 介護の専門的実践の重要性に気づいて、地域社会での介護過程展開の実際について学ぶ</li> </ol> <p>介護福祉士の資格を持って5年以上実践現場で経験のある教員が、介護過程の展開を介護福祉実習につながるように指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>これまでに学んだ社会福祉政策、介護の基本、科目「介護過程Ⅰ」がこの授業の基礎知識となるので、これらについて復習をしておく</p> <p>予習・復習を合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアマネジメントの理解①歴史、定義、方法</li> <li>2. 介護保険制度と障害者総合支援法の理解</li> <li>3. 介護保険法における介護サービス ケアプランの視点(ICFと生活支援)</li> <li>4. 施設におけるケアマネジメント ケアプランや介護計画に使用されるツール</li> <li>5. ケアプランと介護過程展開(事例)</li> <li>6. 介護過程の展開の理解(事例1)①介護計画における情報収集</li> <li>7. 介護過程の展開の理解(事例1)②アセスメント</li> <li>8. 介護過程の展開の理解(事例1)③計画の立案</li> <li>9. 介護計画の発表</li> <li>10. 介護過程の展開の理解(事例2)①情報収集</li> <li>11. 介護過程の展開の理解(事例2)②アセスメント</li> <li>12. 介護過程の展開の理解(事例2)③計画の立案</li> <li>13. 介護計画の発表 まとめ</li> </ol>			



科目名	介護過程Ⅱ	前期	1 単位
サブタイトル	介護保険下におけるケアマネジメントと介護過程の展開	演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題(40%)・課題への取り組み(30%)筆記試験(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート・課題については、添削し返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:筆記試験、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み・グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題への取り組み・グループワーク</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題への取り組み、ディスカッション、グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業への取り組み・課題・発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 介護過程 (介護過程Ⅰの教科書と同じ) 出版社:建帛社</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	介護過程Ⅲ		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	名定 慎也			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>(1) ICF、利用者本意、尊厳、人権、自立支援の意味を理解し、介護過程の展開に取り入れることができる。</p> <p>(2) 提供された事例について実践的展開ができる。 支援アプローチで各理論の示す自己実現や生活の質の向上を目指すケアの本質論を介護過程の思考に活用できる。</p> <p>(3) ICF、利用者本意、尊厳、人権、自立支援の意味を理解し、介護過程の展開に取り入れることができる。</p> <p>(4) 提供された事例について実践的展開ができる。 支援アプローチの各理論が示す自己実現や生活の質の向上を目指すケアの本質論を介護過程の思考に活用できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って、5年以上実践現場での経験がある教員が、多くの臨床ケースをもとに介護過程において特性に応じた展開ができるように支援する。これまで介護過程ⅠⅡで介護過程の展開の基礎、方法論を学んでいる。ここでは介護実習Ⅰの課題であった「情報収集」の事例に対して、ICFに沿いながら情報収集・分析・支援計画・実践・評価といった一連の介護過程の展開を学ぶ。実際の現場では、個々の支援内容は多岐に渡り、一人として同じ支援の人はいない。介護過程の展開能力を習得するには、これまでに他科目で学習した知識や技術を統合して考える力が必要である。その能力を用いて、対象とする利用者の介護計画を立案する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>介護実習Ⅰの情報収集用紙を整理する。各回、予習復習合わせて2時間程度、各事例を再度読み直し、記録内容や書式、アセスメントなどフェーズに合わせて整理しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ICF、ICIDHの理解と実習Ⅰ事例の介護過程振り返り</li> <li>3. アセスメントの思考の方法</li> <li>4. アセスメントの視点の提示</li> <li>5. 介護過程展開のためのアセスメントツールの活用 ①</li> <li>6. 介護過程展開のためのアセスメントツールの活用 ②</li> <li>7. 介護過程展開のためのアセスメントツールの活用 ③</li> <li>8. アセスメント(情報の解釈・関連付け・統合化)</li> <li>9. アセスメントによる生活課題の抽出、優先順位のつけ方</li> <li>10. 介護計画の立案(介護目標の設定・具体的な支援内容・支援方法の決定)</li> <li>11. 介護の実施(実施における留意点・実施の記録)</li> <li>12. 評価の修正の方法(評価の意義と目的・評価の内容と方法、再アセスメント)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	介護過程Ⅲ	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業課題(20%) 筆記試験(70%) 授業への取り組み(10%)の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  個別指導及びmanabaを活用する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業課題及びプレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:グループワーク及びディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:グループワーク及びディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:グループワーク及びディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業課題</p>			

科目名	介護過程Ⅳ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICF、利用者本意、尊厳、人権、自立支援の意味を理解し、介護過程の展開に取り入れることができる。</li> <li>・提供された事例について実践的展開ができる。</li> <li>・文献検索や活用方法が理解できる。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで介護過程Ⅰ～Ⅲで介護過程の展開の基礎、方法論を学んだが、ここでは事例を用いて介護過程の展開を行う。</li> <li>・介護過程の展開能力を習得するにあたり、これまで他科目で学習した知識や技術を統合して、対象利用者の介護過程を展開する。</li> </ul> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>介護過程Ⅰ～Ⅲについて整理しておく。毎回、情報収集・アセスメントに関する文献・資料準備に2時間程度予習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 介護過程の振り返り</li> <li>3. 情報収集～アセスメント</li> <li>4. 介護計画立案</li> <li>5. 発表① 実践と評価①</li> <li>6. 発表② 実践と評価②</li> <li>7. 発表③ 実践と評価③</li> <li>8. 計画の修正・介護過程に伴う記録</li> <li>9. 福祉現場の事例紹介・事例検討①(高齢者等)</li> <li>10. 福祉現場の事例紹介・事例検討②(障害者等)</li> <li>11. 介護過程におけるチームアプローチの視点</li> <li>12. 介護過程の展開、事例研究に活かす文献とその活用方法</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	介護過程Ⅳ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業課題 (20%) 筆記試験 (70%) 授業への取り組み (10%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ]  課題はコメントを記入してフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉1-1 / 多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法: 筆記試験</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉1-2 / 多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法: 筆記試験</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉2-1 / 家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法: 授業課題</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉2-2 / 多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法: 授業課題</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 福祉3-2 / 現代社会における人びとのダイバーシティ (多様性) を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法: 授業課題及びプレゼンテーション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 責任感 / 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法: グループワーク及びディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢  成績評価方法: グループワーク及びディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 多様性理解 / 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法: グループワーク及びディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 表現力 / 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 授業課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 授業課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: 授業課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  「介護過程」は既に購入済み 著者名: 柘崎京子 編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-3435-8 )</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  適宜、資料を配布する。必要があれば、その際、購入を求める。</p>			

科目名	介護過程Ⅴ(事例研究)	前期	1 単位
サブタイトル	ケーススタディ	演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、泉 妙子、名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1 介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。</p> <p>2 事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正をすることができる。</p> <p>3 他学生の事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉実習Ⅲで担当した利用者を通して、生活課題を明らかにし、実習で体験した介護計画の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。一人一人に向き合い、互いに関わり合う事例研究は、当事者はもちろんの事、支援者も大きく成長できる場でもある。発信は、メゾ・マクロといった広義の支援体制構築につながり研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護の重要性を学ぶ。1年生から学んだ介護過程の展開の集大成として、最終的に事例研究として文献にまとめ、報告会において発表し評価を受ける。</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>介護福祉実習Ⅲの事例について、情報収集・アセスメント用紙・介護計画用紙・実践記録を整理しておく。情報収集・アセスメントに関連する文献・資料等を毎回2時間程度予習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(泉・津田・木村・名定)</li> <li>2. 研究とは 事例研究とは 発表と評価(泉・津田・木村・名定)</li> <li>3. 論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際)(泉・津田・木村・名定)</li> <li>4. 論文と抄録の作成(考察 おわりに謝辞、文献)(泉・津田・木村・名定)</li> <li>5. 論文の確認 PPTの作成方法 (泉・津田・木村・名定)</li> <li>6. 抄録様式・PPT様式確認(泉・津田・木村・名定)</li> <li>7. 論文指導 テーマ はじめに 介護の実際(泉・津田・木村・名定)</li> <li>8. 論文指導 評価、考察、おわりに 謝辞、文献 (泉・津田・木村・名定)</li> <li>9. 発表指導 PPT(泉・津田・木村・名定)</li> <li>10.発表指導・準備 完成発表原稿作成・予演(泉・津田・木村・名定)</li> <li>11.発表会 (泉・津田・木村・名定)</li> <li>12.発表会 (泉・津田・木村・名定)</li> <li>13.まとめと評価 (泉・津田・木村・名定)</li> </ol>			

科目名	介護過程Ⅴ(事例研究)	前期	1 単位
サブタイトル	ケーススタディ	演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、泉 妙子、名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

研究への課題提出(30%)、論文内容(50%)、発表(20%)の総合評価  
課題は毎回添削して返却する

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
manabaに提出された課題にコメントをする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:課題提出、論文内容、発表

[ 教科書(ISBN) ]  
配布資料

[ 参考書(ISBN) ]  
適宜紹介

科目名	介護総合演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習 I 事前指導	演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、泉 妙子、名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.実習目標明確になり行動計画書を作成できる</li> <li>2.実習生としての社会的スキルが身につく</li> <li>3.介護老人保健施設の機能・役割が理解できる</li> <li>4.利用者の個別の特性や疾病について理解を深める</li> <li>5.介護福祉士の職業倫理が理解できる</li> <li>6.求められるコミュニケーション能力が発揮できる</li> <li>7.多職種協働ができる</li> <li>8.各領域で学んだ知識と技術の統合を図る</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が介護福祉実習 I での学びが深まるように指導する。</p> <p>介護老人保健施設の理解を深め、実習生としての基本的なスキルとなる実習態度や求められる記録・報告・コミュニケーションについて学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)社会福祉の動向を理解する</li> <li>2)実習に関連する科目の知識・技術を整理しておく</li> </ol> <p>各回、予習・復習を合わせて2時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション 介護福祉実習の進め方 (木村)</li> <li>2.実習目的と行動 (木村)</li> <li>3.実習施設の理解 介護老人保健施設・関連諸機関 (木村)</li> <li>4.実習施設の理解 法的根拠・多職種協働 (木村)</li> <li>5.生活理解 対象者の特性と理解 (木村)</li> <li>6.実習記録の意義 実習目標の明確化(木村)</li> <li>7.実習目標と行動計画書(木村)</li> <li>8.介護実習記録の実際 (木村)</li> <li>9.介護実習諸手続き(木村)</li> <li>10.生活支援技術の確認、生活リハビリ・レクリエーション、感染予防について (木村)</li> <li>11.社会人、実習生としてのルール・マナー、コミュニケーションの工夫 (木村・泉・津田・名定)</li> <li>12.介護福祉士の倫理と求められる介護福祉士像 (木村・泉・津田・名定)</li> <li>13諸注意(事前訪問・記録と報告・実習態度・リスクマネジメント)(木村・泉・津田・名定)</li> </ol>			



科目名	介護総合演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習 I 事前指導	演習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、泉 妙子、名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]  
授業への取り組み(50%) 提出物(50%)の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
提出課題にはコメントを記入した上で個別指導を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:レポート等の提出物

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:レポート等の提出物

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:レポート等の提出物、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:レポート等の提出物、授業への取り組み

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:レポート等の提出物

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:レポート等の提出物、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:レポート等の提出物、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:レポート等の提出物、授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:レポート等の提出物、授業への取り組み

[ 教科書(ISBN) ]  
介護実習の手引き  
※最初の授業で配布

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導	演習	
担当者	名定 慎也、津田 理恵子、木村 あい、泉 妙子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.介護福祉士としての自己の介護観を説明できる</li> <li>2.自己の実習課題が説明できる</li> <li>3.施設・事業所の特徴、多職種との連携、個別介護の必要性が説明できる</li> <li>4.対象者の個別の生活が理解できる</li> <li>5.専門職としての態度が理解できる</li> <li>6.介護福祉士の役割や倫理が理解できる</li> <li>7.コミュニケーションを図る目的が理解できる</li> <li>8.各領域で学んだ知識と技術を統合の統合を図る</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が以下の項目に従ってグループ指導及び個別指導をする。 学生の老人保健施設実習での学びの振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合させるとともに、実習での目標の達成度を確認し、個々の課題を明確にする指導を、教員のケア経験を活かして行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>実習の振り返り、記録類の整理・報告の準備について予習復習合わせて2時間程度を行っておく</p> <p>[授業計画]</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.帰校日 (実習の記録)(名定・津田・木村・泉)</li> <li>2.帰校日 (実習目標の到達度)(名定・津田・木村・泉)</li> <li>3.帰校日 (情報収集・アセスメント)(名定・津田・木村・泉)</li> <li>4.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(名定・津田・木村・泉)</li> <li>5.オリエンテーション(名定・津田・木村・泉)</li> <li>6.課題・記録の整理 個別介護の整理(アセスメント、ニーズの把握、介護計画に向けて)(名定・津田・木村・泉)</li> <li>7.老人保健施設での知識と技術の統合 施設事業所の特徴 多職種との連携(名定・津田・木村・泉)</li> <li>8.介護福祉士の役割と態度(スーパービジョン)(名定・津田・木村・泉)</li> <li>9.実習報告会の準備 まとめ(名定・津田・木村・泉)</li> <li>10.実習報告会の準備 資料作成(名定・津田・木村・泉)</li> <li>11.実習報告会前半(名定・津田・木村・泉)</li> <li>12.実習報告会後半(名定・津田・木村・泉)</li> <li>13.自己課題の明確化(名定・津田・木村・泉)</li> </ol>			

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導	演習	
担当者	名定 慎也、津田 理恵子、木村 あい、泉 妙子		

[ 成績評価方法 ]

授業への取り組み(30%)、提出課題(40%)、報告(30%)の総合評価  
提出した課題レポートは添削、評価をフィードバックします。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

対面による個別指導及びmanabaを活用する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:提出課題

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:報告(実習のまとめ発表)

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:提出課題・発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:授業への取り組み

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:提出課題・発表

[ 教科書(ISBN) ]

実習の手引き

[ 参考書(ISBN) ]

適宜配布

科目名	介護総合演習Ⅲ		後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導		演習	
担当者	泉 妙子、津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問介護事業所の概要と訪問介護サービス内容が理解できる。</li> <li>2. 本人・家族の特徴や生活が理解できる。</li> <li>3. 個別に応じたケアマネジメントが理解できる。</li> <li>4. 地域で働く介護福祉士の役割や職種間の連携が理解できる。</li> <li>5. 実習目標・行動計画が明確になる。</li> <li>6. 各領域で学んだ知識と技術の統合を図る</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が以下の項目に従ってグループ指導及び個別指導をする。</p> <p>事前指導として、全体指導・グループ指導・個別指導を各項目に従って行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。</li> <li>2) 実習目標・実習行動計画書が明確になる。</li> <li>3) 地域における居宅サービスの内容・多職種連携の必要性を学ぶ。</li> <li>4) 多職種協働や地域で働く介護福祉士の果たす役割が理解できる。</li> <li>5) 地域で生活する本人や家族の生活ニーズにそった基礎的な知識・技術を学習する。</li> <li>6) 地域における生活支援が理解できる。</li> </ol> <p>事後指導として、個別に各課題に従って指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己の実習課題が明確になる。</li> <li>2) 地域における生活支援が理解できる。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>介護保険やケアマネジメント・訪問介護事業所・居宅サービスに必要な知識・技術を毎回2時間程度予習・復習しておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 訪問介護事業所・ケアマネジメント(泉)</li> <li>2. 介護を実践する対象・本人主体生活・その人らしく生きることを支援するとは(泉)</li> <li>3. 地域とのつながり・求められる介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力(泉)</li> <li>4. 生活者としての理解・住み慣れた家で暮らす条件・福祉サービス(泉)</li> <li>5. 多職種連携・チームアプローチ・求められる在宅支援(泉)</li> <li>6. 実習目標の明確化(津田・名定・木村・泉)</li> <li>7. 実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・名定・木村・泉)</li> <li>8. 訪問時のルールとマナー・専門職の倫理と価値(津田・名定・木村・泉)</li> <li>9. 帰校日(記録指導)(津田・名定・木村・泉)</li> <li>10. 帰校日(課題指導)(津田・名定・木村・泉)</li> <li>11. 帰校日(記録指導と評価)(津田・名定・木村・泉)</li> <li>12. 帰校日(記録指導と評価・課題)(津田・名定・木村・泉)</li> <li>13. 記録の整理と自己課題の明確化(津田・名定・木村・泉)</li> </ol>				

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ 事前・事後指導	演習	
担当者	泉 妙子、津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

ミニテスト(30%)・提出書類/実習評価等の総合評価(70%)  
提出課題は毎回添削して返却する

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

個別による対面指導及びmanabaを活用する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:課題・記録内容・演習への参加度

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:授業目標に従った課題を提出する

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:課題・記録内容・演習への参加度

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:課題・記録内容・演習への参加度

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:課題・記録内容・演習への参加度

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:課題・記録内容・演習への参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:課題・記録内容・演習への参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:課題・記録内容・演習への参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:課題・記録内容・演習への参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:課題・記録内容・演習への参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:発表内容・課題・記録内容・演習への参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:発表内容・課題・記録内容・演習への参加度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:発表内容・課題・記録内容・演習への参加度

[ 教科書(ISBN) ]

介護福祉実習の手引き

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導	演習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.自分自身の課題と実習目標・行動計画が明確になる</li> <li>2.介護老人福祉施設と併設のサービス、多職種協働のチームアプローチが理解できる</li> <li>3.介護の対象者(本人と家族)との信頼関係の築き方が理解できる</li> <li>4.介護保険制度と介護サービス、社会資源と地域が理解できる</li> <li>5.専門職としての介護福祉士の役割が理解できる</li> <li>6.介護過程の展開技法と事例研究の意義が理解できる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅲでの学びが深まるように指導します。介護老人福祉施設とそれに併設している在宅サービスや介護保険制度について学び、社会資源や対象者を取り巻く人々、介護過程の展開について指導します。さらに、専門職としての役割や信頼関係の築き方について指導し、そのうえで、介護福祉実習Ⅲにおける実習目標に対して、自分自身の課題や実習の行動計画を整理できるように指導します。介護実践の科学的探究を通して知識と技術を統合し、専門職者としての価値感が整理できるように指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険制度や介護老人福祉施設の働きなど実習に必要な知識・技術を各回、2時間予習・復習しておく</li> <li>2. 介護過程の展開技法について復習しておく</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション・介護福祉実習と事例研究の概要・介護の対象者の理解と信頼関係の築き方(津田)</li> <li>2.老人福祉法と介護老人福祉施設の機能と役割・介護保険制度と介護サービス(津田)</li> <li>3. 介護過程の展開・科学的思考・社会資源・専門職としての介護福祉士・求められる介護福祉士像(津田・名定・木村)</li> <li>4.実習目標の明確化・実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・名定・木村)</li> <li>5.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・名定・木村)</li> <li>6.介護老人福祉施設と併設の在宅サービスの種類・多職種とチームアプローチ・まとめ(津田)</li> <li>7.諸注意・記録と報告、感染予防(津田・名定・木村)</li> <li>8.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> <li>9.帰校日(担当利用者・実習記録)(津田・名定・木村)</li> <li>10.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> <li>11.帰校日(介護過程の展開・知識と技術の統合・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> <li>12.帰校日(介護過程の展開・介護実践のエビデンス・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> <li>13.帰校日(介護過程の展開・専門職者としての価値・実習目標の到達度)(津田・名定・木村)</li> </ol>			

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	1 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導	演習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験(40%) 授業参加度(25%) 提出課題(35%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 提出課題については、コメントを記入したうえで学生への個別面接を実施する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験、授業参加度、提出課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業参加度、提出課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:筆記試験、授業参加度、提出課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業参加度、提出課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:提出課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:提出課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業参加度、提出課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業参加度、提出課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、授業参加度、提出課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度、提出課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度、提出課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、授業参加度、提出課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、授業参加度、提出課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度、提出課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験、提出課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業参加度、提出課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業参加度、提出課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 実習の手引き</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 参考資料を適宜紹介・配布</p>			

科目名	介護の基本 I	後期	2 単位
サブタイトル	自立に向けた介護福祉の理念とケア	講義	
担当者	泉 妙子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  介護の基本となる倫理をベースとして、「質の高い介護とは何か」を理解し、その人らしい生活の実現に必要な知識・技術を学び実践できる能力を養う。</p> <p>[ 授業概要 ]  1)本人本位の生活を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を学ぶ  2)自分自身の生活と照らし合わせて「暮らし」「生活」「願い」について考える  3)介護を要する人がどのような人で、どのような生活をしているのかを具体的な事例を通して学ぶ。  4)自立に向けた介護とは何かを生活支援の視点から学ぶと共にその意義を学ぶ</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  介護を取り巻く状況を把握し、生活を支える介護の重要性を理解する。関連した文献・新聞などを読み、毎回4時間程度予習復習の時間に充てる。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.介護福祉の基本となる理念・介護の原則</li> <li>2.介護を必要とする人の理解</li> <li>3.生活の捉え方・私たちの生活</li> <li>4.高齢者や障害を持った人たちの暮らしと介護</li> <li>5.その人らしさの理解</li> <li>6.生活環境の捉え方</li> <li>7.生活障害の理解と生活ニーズ</li> <li>8.自立に向けた介護・「生活支援」としての介護</li> <li>9.様々な生活支援とその意義</li> <li>10.尊厳を支える介護</li> <li>11.ICFの概念・ICFにおけるアセスメント</li> <li>12.リハビリテーションと介護</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			



科目名	介護の基本 I	後期	2 単位
サブタイトル	自立に向けた介護福祉の理念とケア	講義	
担当者	泉 妙子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内容確認課題12回 30% 確認テスト70% の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 対面指導及びmanabaを活用する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:終講試験を受講する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業目標に従ったレジュメを整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業目標に従ったレジュメを整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 最新介護福祉士養成講座3 介護の基本 I 著者名: 荘村明彦他 出版社: 中央法規出版</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

P11001640 [ WWH1-011 ]

[1福]\*後期水3

科目名	介護の基本Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	生活を支えるしくみ 協働する機能と役割	講義	
担当者	泉 妙子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 理論的な裏づけのある介護は、利用者の安全で安心できる支援となり、利用者との信頼関係の基本となる。介護サービスの質の向上には人間力・人間性が大きく影響することを理解し、専門職としての確かな知識と技術習得の必要性を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 1)介護福祉の目的や原則について理解するとともに、介護サービスの意義や特性を理解できる。 2)専門職として、身体的・精神的な変化に対する観察力やコミュニケーション力を養い、変化に速やかに対処できる知識を身につける。 3)福祉現場における多職種連携の必要性を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 1)介護の基本Ⅰを復習し、学習ノートを確認する 2)介護福祉の理念と介護福祉士としての倫理観を身につける</p> <p>[授業計画] 1. 利用者の人権と自立支援 2. 介護福祉士が守るべき義務規定 3. 介護福祉士の資質向上の責務 4. 介護福祉士の役割と機能 5. 介護福祉士の倫理 6. 介護サービスと介護福祉士の働く場 7. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 8. 介護サービスの意味・種類・特性 9. 介護サービス提供の場 10. 介護サービス提供の特性(高齢者関連)・介護実践における地域連携 11. 障害者総合支援法・介護サービス提供の特性(障害者関連) 12. 協働する多職種の機能と役割・チームアプローチ 13. まとめ</p>			

科目名	介護の基本Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	生活を支えるしくみ 協働する機能と役割	講義	
担当者	泉 妙子		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験70% 学習ノート20% 授業参加度10%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 毎回授業課題を提出する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:終講試験を受講する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業目標に従った授業内容を整理し、感想を記入して毎回提出する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 著者名:編集 介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版株式会社 (ISBN978-4-8058-5764-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] エンパワメント実践の理論と技法 著者名:小田兼三他 出版社:中央法規 (4-8058-1810-7C3036)</p>			

P11001650 [ WWH2-015 ]

[2福]\*後期水4

科目名	介護の基本Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	介護福祉学総論	講義	
担当者	泉 妙子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 本講義では、介護福祉学総論として、各領域、人間と社会・介護・こころとからだのしくみ・医療的ケアなどの観点から、総合的に教授することを主たる目的とする。</p> <p>[授業概要] 1)介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる知識や技術を総合的に整理する。 2)コミュニケーション能力・アカウンタビリティや根拠に基づく介護実践の必要性を理解する。 3)介護保険制度や社会保障制度などを整理し統合する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 4つの専門領域である、人間と社会・介護・こころとからだ・医療的ケアの各到達目標を見直し、学習内容を整理しておく。毎回模擬問題・過去問など予習復習に2時間程度取り組むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人オリエンテーション 人間の尊厳と自立</li> <li>2. 人間関係とコミュニケーション</li> <li>3. 生活と福祉</li> <li>4. 社会保障制度</li> <li>5. 介護保険制度と障害者総合支援法</li> <li>6. 介護実践に関連する諸制度</li> <li>7. 介護の基本</li> <li>8. コミュニケーション技術</li> <li>9. 生活支援技術</li> <li>10. 介護過程</li> <li>11. 発達と老化の理解・こころとからだのしくみ</li> <li>12. 認知症の理解・障害の理解</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	介護の基本Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	介護福祉学総論	講義	
担当者	泉 妙子		
<p>[ 成績評価方法 ]  模擬テスト(50%)確認テスト(50%)の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  個別に対面指導及びmanabaを活用する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:事例問題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:事例問題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:模擬試験・チャレンジ問題・終講試験・事例問題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  見て覚える介護福祉士国試ナビ2024 著者名:いとう総研資格取得支援センター編集 出版社:中央法規出版 (ISBN978-4-8058-8864-3C3036)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  合格テキスト2023 著者名:介護福祉士国家試験受験対策研究会編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8324-2C3036)</p>			

科目名	介護福祉実習 I (老人保健施設)	前期	4 単位
サブタイトル	老人保健施設	実習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、泉 妙子、名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.介護老人保健施設の機能・役割が理解できる</li> <li>2.信頼関係の築き方が理解できる</li> <li>3.個別ケアの必要性が理解できる</li> <li>4.基本的な生活支援技術が実践できる</li> <li>5.介護福祉士の職業倫理とチームアプローチの必要性が理解できる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士もしくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上経験のある教員が、20日間の老人保健施設での実習において、以下の1)～5)を遂行できるように指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 20日間の介護老人保健施設実習を介護実習計画書に従って目標を達成する</li> <li>2) 対象者に応じた個々の生活リズムや特性を理解する</li> <li>3) 生活支援技術の理解・職種間連携・コミュニケーション等を通して介護福祉士の役割について学ぶ</li> <li>4) 併設されている通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する</li> <li>5) 職業倫理やチームアプローチの重要性を学ぶ</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>介護保険制度や事業所の概要を理解しておく。 予習・復習を合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <p>実習計画書に沿って実習目標を達成する カンファレンスに参加する 本人・家族の理解を深める 本人を取り巻く環境について理解する 在宅支援の必要性を理解する 実習目標達成度の指導を受ける 社会人・実習生としてのルールとマナーを身につける 現場で求められる職業倫理を身につける コミュニケーションスキルを高める 基本的な生活支援技術を身につける 地域における生活支援の実践について理解する 介護過程の展開(情報収集・アセスメント) 課題や実習日誌・報告書を提出する 自己の課題を明確にする 感染予防や事故防止、防災計画について理解する</p>			

科目名	介護福祉実習 I (老人保健施設)	前期	4 単位
サブタイトル	老人保健施設	実習	
担当者	木村 あい、津田 理恵子、泉 妙子、名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習評価票に基づく評価(100%) 個別面談によるフィードバック</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 対面による個別指導及びmanabaを活用する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題提出、論文内容、発表</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 介護福祉実習の手引き</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 適宜配布</p>			

科目名	介護福祉実習Ⅱ(在宅介護)	後期	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習	実習	
担当者	泉 妙子、津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問介護事業所の機能・役割が理解できる。</li> <li>2. 対象者の地域における生活支援が理解できる。</li> <li>3. ケアマネジメントが理解できる。</li> <li>4. 地域で働く介護福祉士の役割が理解できる。</li> <li>5. 多職種協働の実践・チームケアが理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士若しくは看護師の資格を持って5年以上の実践現場での経験がある教員が介護福祉実習Ⅱでの学びが深まるように以下の項目を中心に指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 5日間の訪問介護実習を行い、個々の生活リズムや個性を理解し、地域の生活の場において個別ケアを学ぶ。</li> <li>2) 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を養う。</li> <li>3) 本人・家族の人とコミュニケーションの実践、特性に応じた生活支援技術を確認する。</li> <li>4) 多職種協働や関連機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>以下の項目を中心に、事前に根拠法令に基づく最新福祉サービス・改正点・課題など資料を作成しておく。毎日実習目標の立案と、終了後実習日誌・考察まとめに3時間の振り返り時間を要す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事業所・施設の概要について調べる</li> <li>2) 訪問実習に必要な知識、技術の復習をしておく</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <p>実習行動計画書にそって介護目標を達成する  訪問介護場所の特徴を理解する  対象となる人の生活ニーズを理解する  家族の多様なニーズを理解する  ケアマネジメントの流れを理解する  社会資源の活用・福祉用具の活用  介護福祉士の果たす役割  記録・報告・連絡・相談の重要性  本人や家族とのコミュニケーション  多職種協働の実践とチームアプローチの重要性  本人の望む生活・在宅支援と介護福祉士の役割  地域における生活支援の実践  介護福祉士の職業倫理  実習目標到達度の確認と課題</p>			



科目名	介護福祉実習Ⅱ(在宅介護)	後期	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習	実習	
担当者	泉 妙子、津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習評価票に基づく評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 個別による対面指導・グループ演習・個別にmanabaを活用する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:施設評価票及び自己評価票・教員評価票による総合評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習内容・実習記録・カンファレンス評価・施設指導者評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 介護福祉実習の手引き</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜配布</p>			

科目名	介護福祉実習Ⅲ(老人福祉施設)	後期	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム	実習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.介護老人福祉施設の機能・役割が理解できる</li> <li>2.介護福祉士として介護の対象者と信頼関係を築くことができる</li> <li>3.介護過程の実践的展開ができる</li> <li>4.根拠に基づく生活支援技術が実践できる</li> <li>5.チームの一員として多職種協働の実践ができる</li> <li>6.地域・家族を視野に入れた支援が実践できる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士若しくは看護師の資格を持ち実践現場で5年以上の経験がある教員が、32日間の介護老人福祉施設において、対象者のアセスメントを深め、介護計画に基づく実施・評価や、これを踏まえた計画の修正といった実践的な介護過程を、他科目で学習した知識や技術を統合して展開できるように指導します。さらに、チームの一員として多職種協働によるチームアプローチや社会資源の活用、介護福祉士の価値に基づいた、介護の対象者(利用者・家族)との信頼関係の築き方について実践を通して指導します。また、老人福祉施設に併設されている在宅サービスでの実習を通し、多様な視点から介護の対象者や対象者を取り巻く環境について指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.施設や事業所、社会資源などの概要について調べておく</li> <li>2.実習に必要な知識、技術の復習をしておく</li> <li>3.学習環境・生活環境を整え健康管理に留意する</li> <li>4.実習場所での不明な点について自宅学習する</li> </ol> <p>1~4について各回2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>実習計画書にそった実習と達成度の確認(津田・木村・名定)  実習日誌による助言・指導(津田・木村・名定)  介護老人福祉施設の機能・特徴と施設サービス(津田・木村・名定)  実習先の施設に併設している在宅サービス(津田・木村・名定)  社会資源の活用(津田・木村・名定)  感染予防(津田・木村・名定)  地域・家族を視野に入れた支援(津田・木村・名定)  介護の対象者とのコミュニケーションと信頼関係(津田・木村・名定)  介護過程の実践的展開と科学的思考(アセスメント・介護計画立案・実践・評価・修正)(津田・木村・名定)  チームの一員として多職種との連携(津田・木村・名定)  夜勤実習(利用者の24時間の生活理解)(津田・木村・名定)  根拠に基づいた生活支援技術  専門職としての価値・倫理  目指すべき介護福祉士像</p>			

科目名	介護福祉実習Ⅲ(老人福祉施設)	後期	6単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム	実習	
担当者	津田 理恵子、木村 あい、名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習評価票に基づく評価(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 日々の実習日誌に対するコメントを入力し、manabaから配信し、必要時は個別面談を行う。 帰校日と実習施設でのカンファレンスでは、直接個別にコメントをする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習評価票に基づく評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 介護福祉実習の手引き</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 参考資料を適宜紹介・配布</p>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解すること、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度 新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解すること、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度 新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解すること、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			



科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解すること、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度 新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	清水 弥生		

[ 成績評価方法 ]  
授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートは後日添削して返却する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

[ 教科書 (ISBN) ]  
19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)

[ 参考書 (ISBN) ]  
教員から指示する

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解すること、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度 新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解すること、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	田中 希世子		

[ 成績評価方法 ]  
授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートは後日添削して返却する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

[ 教科書 (ISBN) ]  
19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)

[ 参考書 (ISBN) ]  
教員から指示する

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解すること、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(2時間程度)</p> <p>新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事をもとに、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンタリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンタリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎) or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			



科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	渡辺 晴子		

[ 成績評価方法 ]  
授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートは後日添削して返却する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

[ 教科書 (ISBN) ]  
19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)

[ 参考書 (ISBN) ]  
教員から指示する

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解すること、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度 新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学で学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。</li> <li>3. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>大学とはどのような使命を有する教育機関であるのか、前期の基礎ゼミナールでは学生が大学の存在意義を理解すること、長い人生のなかで学生はこの4年間をどのように学びの歩みを進めれば良いのか、大学生生活の基盤形成にかかわることを学ぶ。加えて、社会福祉学科で学ぶことは将来、社会でどのような役割を担うことになるのか、その基本についても学ぶ。学生ひとり一人が確かな学びの基盤を形成するために、基礎ゼミナールでは1年生全体で学んだり、その学びを後日、ゼミ単位で振り返るなど、学生が主体的に、かつ、自らが考えるよう、学習スタイルにも工夫を施している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度 新聞・TVニュース、インターネット等で報道される社会福祉に関する事件や出来事はもとより、自分が暮らしている地域についても関心を持つ。ゼミでは、課せられた課題の発表に限らず、自己の問題意識をゼミで問い、議論を求めるような主体的な姿勢を期待する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・大学での学び</li> <li>2. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>3. 上級生との交流 or 学内オリエンテーリング</li> <li>4. 地域探求と振り返り</li> <li>5. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>6. 図書館の活用(ゼミ毎)or グループワーク</li> <li>7. レポートの書き方</li> <li>8. ボランティア活動の勧め</li> <li>9. レポート発表</li> <li>10. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>11. ゼミでの活動(テキスト講読と発表)</li> <li>12. 教務説明/ゼミ毎の質疑応答</li> <li>13. まとめ・夏休みの課題について</li> </ol>			

科目名	基礎演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	津田 理恵子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)により評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。  2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通して、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなが、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。  2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通して、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			



科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなが、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	佐々木 勝一		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。
2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。

[授業概要]

多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通して、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回についての予習・復習2時間程度

新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。

[授業計画]

1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①
2. 夏休みの課題発表②
3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)
4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)
5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)
6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り
7. デートDV防止講座
8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表
9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)
10. 社会福祉研究交流会の振り返り
11. ゼミ単位での活動
12. 福祉関係国家資格と国家試験
13. まとめ

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。  2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通して、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	清水 弥生		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。  2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通して、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなが、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	田中 希世子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。
2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。

[授業概要]

多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通して、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回についての予習・復習2時間程度

新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。

[授業計画]

1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①
2. 夏休みの課題発表②
3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)
4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)
5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)
6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り
7. デートDV防止講座
8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表
9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)
10. 社会福祉研究交流会の振り返り
11. ゼミ単位での活動
12. 福祉関係国家資格と国家試験
13. まとめ



科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。  2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通して、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(2時間程度)  新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなが、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。  2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通して、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 社会福祉への関心を高めながら、福祉が身近な問題であり、対象とする分野が広いことを理解する。  2. ゼミでの課題を通して、聴く・読む技術、調べる・整理する技術、まとめる・書く技術、表現する・伝える技術を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>多様な分野の福祉について、当事者や支援者、更には、卒業生等から話を聞くことで、問題や支援の実状を知るとともに、自身の経験や生活に引き付けて福祉を捉えていくことを学習する。また、地域でのサービスラーニングの実践を通して、社会的な活動の第一歩とする。一連の学びを確実にするため、事前に次回の活動に関する概要等を調べておき、学びの後は必ず振り返りを行ない、気づきや考察を整理してゼミで発表・共有する。以上の積み重ねを通じて、社会福祉を学ぶための基礎作りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習2時間程度  新聞・雑誌・TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心をもつとともに、問題点や疑問点について考える。レポートやゼミ発表等の課題を進めるスケジュールを各自調整する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・夏休みの課題発表①</li> <li>2. 夏休みの課題発表②</li> <li>3. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第4回に参加予定のゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>4. 赤ちゃん先生プロジェクト参加(第3回日に参加済みのゼミは振り返り)</li> <li>5. 赤ちゃん先生に関する振り返り(振り返りを終えたゼミはゼミ単位での活動)</li> <li>6. 地域でのサービスラーニング参加と振り返り</li> <li>7. デートDV防止講座</li> <li>8. デートDV防止講座の振り返りレポート発表</li> <li>9. 社会福祉研究交流会(社会福祉現場で働く卒業生の講演)</li> <li>10. 社会福祉研究交流会の振り返り</li> <li>11. ゼミ単位での活動</li> <li>12. 福祉関係国家資格と国家試験</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉入門ゼミ	演習	
担当者	津田 理恵子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加状況(40%)、レポート等の課題(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業参加状況、レポート等の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  19歳からの社会保障 著者名:横山北斗 出版社:日本評論社 (978-4-535-58766-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  教員から指示する</p>			

科目名	刑事司法と福祉	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中村 寛子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。  2 刑事司法における精神保健福祉士の役割について理解する。  3 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。  上記の目的に向かって取り組むことにより、「刑事司法と福祉」分野におけるソーシャルワーカーとしての価値、技能、知識を獲得することをめざす。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>本科目は社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験科目の一つである。  講師は地方行政機関で精神保健福祉士として、国の地方機関である保護観察所で社会復帰調整官として働いた実務経験をふまえて講義を行う。  刑事司法制度は平成の時代に大きな法改正がされた。また、その運用において、福祉制度、精神科医療の活用が進み、行政機関、福祉施設、精神科医療機関等の関係機関との連携が重要視されるようになった。  刑事司法制度は膨大な法律と下位法令によって規定されているが、制度を概観して説明する。その上で、罪を犯した人に司法手続き中にあるいは司法手続きを終えたのちに、ソーシャルワーカーが関わる現状と課題を提示する。犯罪被害者等支援についても同様に紹介する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>1 日頃から、事件報道や罪を犯した人への支援、犯罪被害者等支援について新聞、TV、ネットの報道をチェックし、最近の動向を知っておくこと。2 テキストの事前予習。3 毎回感想及び質問をミニツツペーパーとして提出を求めするので、そこに記載するなどして積極的に活用を。「毎回、予習復習合わせて4時間程度」</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>第1回 オリエンテーション、総論、「令和5年版犯罪白書の概要」を読む  第2回 社会と犯罪  第3回 犯罪原因論と対策  第4回 刑罰とは何か  第5回 刑事司法  第6回 少年司法  第7回 施設内処遇① 成人  第8回 施設内処遇② 少年  第9回 社会内処遇① 更生保護の理念と概要  第10回 社会内処遇② 更生保護の実際  第11回 精神障害者を対象とした医療観察制度  第12回 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉  第13回 アディクションを抱える人と司法  第14回 犯罪被害者等支援  第15回 コミュニティと刑事司法、加害者家族支援</p>			



科目名	刑事司法と福祉	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中村 寛子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加度45%授業中課題(ミニッツペーパー)と最終レポート55%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニッツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニッツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニッツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニッツペーパーと最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10 刑事司法と福祉』 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編) 出版社:中央法規 (978-4-8058-8240-5)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  {令和5年版犯罪白書の概要.https://www.moj.go.jp/content/001407764.pdf}  司法福祉・実践と展望-少年司法、刑事司法、医療観察、被害者支援- 著者名:伊藤富士江 出版社:ぎょうせい (978-4-324-11066-9)  最新・はじめて学ぶ社会福祉20 刑事司法と福祉 著者名:相谷登、今福章二、椿百合子 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-09554-4)</p>			

科目名	現代の精神保健の課題と支援 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	中村 寛子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  ②精神保健の基本的考え方を理解する。  ③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。  ④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。  ⑤国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>精神保健の視点から、ライフサイクルにおける精神保健、現代社会における精神保健の諸課題について、的確に支援できる精神保健福祉士を目指すため、精神保健の重要性と精神保健の基礎知識を習得しつつ、現代社会の個別課題への取り組みについて教科書に沿って理解する。  政令指定都市の保健所、精神保健福祉センターで精神保健福祉相談員として勤務経験があり、現在は精神科医療機関、司法機関で精神保健福祉士として勤務する教員が担当する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>・日ごろから精神保健に関心を持つ。自身や周りの人が持つ精神保健課題について考える。関連する報道に着目し、関心があるものについては、深く検索してみる。  ・毎回授業終了後、課題を提示するので、指示された方法で提出する。  「毎回、予習復習合わせて4時間程度」</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>1)精神保健の動向 2)現代の精神保健分野の動向と基本的考え方</li> <li>家族に関連する精神保健の課題と支援</li> <li>精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ</li> <li>精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ</li> <li>精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①</li> <li>精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②</li> <li>精神保健の発生予防と対策①</li> <li>1)精神保健の発生予防と対策② 2)地域精神保健に関する偏見・差別等の課題</li> <li>精神保健に関する専門職種と公的機関、団体等の役割及び連携</li> <li>諸外国の精神保健活動の現状及び対策</li> <li>精神保健に期待されることとその限界</li> <li>まとめ</li> </ol>				

科目名	現代の精神保健の課題と支援 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中村 寛子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加度45%  授業中課題(ミニツツペーパー)と最終レポート55%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題に関する説明は、次の授業の冒頭で行う。  その他、必要に応じて適宜の方法で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  最新 精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8253-5)</p>			

科目名	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中村 寛子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  ②精神保健の基本的考え方を理解する。  ③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。  ④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。  ⑤国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>精神保健の視点から、ライフサイクルにおける精神保健、現代社会における精神保健の諸課題について、的確に支援できる精神保健福祉士を目指すため、精神保健の重要性と精神保健の基礎知識を習得しつつ、話題となっている分野、考え方を深める。  政令指定都市の保健所、精神保健福祉センターで精神保健福祉相談員として勤務経験があり、現在は精神科医療機関、司法機関で精神保健福祉士として勤務する教員が担当する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>・日ごろから精神保健に関心を持つ。自身や周りの人が持つ精神保健課題について考える。関連する報道に着目し、関心があるものについては、深く検索してみる。  ・毎回授業終了後、課題を提示するので、指示された方法で提出する。  「毎回、予習復習合わせて4時間程度」</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期授業の振り返り</li> <li>2. 女性の精神保健の課題と支援①</li> <li>3. 女性の精神保健の課題と支援②</li> <li>4. 災害時の精神保健の課題と支援①</li> <li>5. 災害時の精神保健の課題と支援②</li> <li>6. 依存症と精神保健の課題と支援①</li> <li>7. 依存症と精神保健の課題と支援②</li> <li>8. ケアラーと精神保健の課題と支援①</li> <li>9. 援助希求と精神保健の課題と支援</li> <li>10. 軽度知的障害者と精神保健の課題と支援</li> <li>11. 司法領域での精神保健の課題と支援</li> <li>12. 地域での精神保健の課題と支援</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中村 寛子		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート( 40% ): 課題について、指示された内容を適切にまとめることができる  平常点( 60% ): 授業参加や毎回提出するミニツツペーパーに基づく</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題に関する説明は、次の授業の冒頭で行う。  その他、必要に応じて適宜の方法で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業終了後提出のミニツツペーパーと最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:最終レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  最新 精神保健福祉士養成講座 2精神保健の課題と支援 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8253-5)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	権利擁護を支える法制度	後期	2 単位
サブタイトル	福祉サービス利用者の権利擁護とは	講義	
担当者	佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>利用者の権利擁護に関して、①相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、②相談援助活動において必要となる成年後見制度(後見人等の役割を含む)、③成年後見制度の実際、④社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解することを目標とします。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>社会福祉の相談援助活動と法の関わりについて、日本国憲法、行政法、民法の視点から概説し、成年後見制度や日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業について講義します。続いて、社会福祉士として関わった権利擁護にかかわる組織・団体、同じく専門職の役割、成年後見活動や権利擁護活動の実際についても言及します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で人権に関する出来事に関心を深めておいてください。各回、予習復習合わせて1時間程度行ってください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・相談援助活動と法</li> <li>2. 日本国憲法の理解</li> <li>3. 行政法の理解</li> <li>4. 民法の理解</li> <li>5. 成年後見制度①-後見・保佐・補助</li> <li>6. 成年後見制度②-法定後見の申し立て・任意後見</li> <li>7. 成年後見制度③-成年後見人等の義務と責任</li> <li>8. 成年後見制度④-成年後見制度の最近の動向と課題</li> <li>9. 日常生活自立支援事業</li> <li>10. 成年後見制度利用支援事業</li> <li>11. 権利擁護にかかわる組織・団体</li> <li>12. 権利擁護にかかわる専門職の役割</li> <li>13. 成年後見活動・権利擁護活動の実際</li> </ol>			

科目名	権利擁護を支える法制度	後期	2 単位
サブタイトル	福祉サービス利用者の権利擁護とは	講義	
担当者	佐々木 勝一		

[ 成績評価方法 ]

授業への取り組み姿勢(30%)、毎回のmanabaレポート(20%)、最終試験(50%)の配分で評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

毎回の授業で、manabaレポート作成を求めます。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

[ 教科書(ISBN) ]

最新 社会福祉士養成講座 権利擁護を支える法制度 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8239-9 C3036)

科目名	高齢者福祉	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>この講義の目標は、1. 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する、2. 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する、3. 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する、4. 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する、5. 地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する、6. 高齢者福祉、障害者福祉および権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得すること、の6点である。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>授業の前半では、高齢者福祉の基本的知識となる高齢社会や高齢者の生活実態等について学ぶ。その後高齢者福祉の歴史について学習し、高齢者の医療・保健・福祉制度の発展について学んでいく。高齢者を支援するためには、高齢者についての知識とさまざまな制度、支援のあり方を理解することが重要である。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の定義と特性</li> <li>2. 高齢者の生活実態とこれを取りまく社会環境</li> <li>3. 高齢者福祉制度の発展過程①</li> <li>4. 高齢者福祉制度の発展過程②</li> <li>5. 高齢者に対する法制度</li> <li>6. 老人福祉法</li> <li>7. 高齢者福祉と介護保険制度</li> <li>8. 介護保険制度と介護実践に関する諸制度</li> <li>9. 高齢者と家族の支援における関係機関と専門職の役割</li> <li>10. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策</li> <li>11. 高齢者と家族に対する支援の実際</li> <li>12. 地域包括ケアシステムにおける認知症高齢者支援</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			



科目名	高齢者福祉	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策	講義	
担当者	清水 弥生		

[ 成績評価方法 ]

試験(70%)、授業中の小レポート、小テスト等(30%)で総合的に評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

小テストは授業中に解答の解説を行います。試験は答案を回収後解説を行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業中の小レポート、小テストおよび試験

[ 教科書(ISBN) ]

高齢者福祉 著者名:大和三重、岡田進一、齊藤雅茂編著 出版社:ミネルヴァ書房(978-4-623-09050-1)

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	国際健康福祉プログラムⅢ		前期	1 単位
サブタイトル	北中欧の福祉		講義	
担当者	木村 あい、清水 弥生、下司 実奈			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 福祉国家の中で上位に位置づけられる北欧型福祉について、その仕組みや制度を学び、実際に現地で社会福祉施設、教育機関等の見学や実習を通し、高度に構築された福祉システムを学ぶ。また、北中欧の学校を訪問し、教員や学生と交流することによって、障がいのある学生がどのように学んでいるか、またそれを支える制度を体験し、国際社会福祉に対する感覚を養うことができる。</p> <p>[ 授業概要 ] 北中欧諸国の福祉について、その仕組みや制度を学び事前学習のうえ、北中欧の社会福祉施設や、学校を訪問し、現地の人との交流を通して「福祉とは何か、幸せとは何か」を考える。また、現地の人たちとの触れ合いを通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 1 前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておくこと。 2 日頃から、授業に関するニュースに関心を持つこと。 3 訪問先の情報収集をすること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 渡航先の文化と言語(木村)</li> <li>2. 北欧の福祉 社会福祉(清水)</li> <li>3. 北欧の福祉 医療、労働環境の実情(清水)</li> <li>4. 北中欧の福祉(下司)</li> <li>5. 北中欧の福祉(下司)</li> <li>6. 北欧の介護福祉(木村)</li> <li>7. 海外渡航における注意事項、北欧の介護福祉(木村)</li> <li>8. 現地でのフィールドワーク①</li> <li>9. 現地でのフィールドワーク②</li> <li>10. 現地でのフィールドワーク③</li> <li>11. 現地でのフィールドワーク④</li> <li>12. 総合討論・まとめ</li> <li>13. 神戸女子大学での報告会(下司・清水・木村)</li> </ol> <p>※8～12回目は現地で行う(引率:木村・下司)。</p>				

科目名	国際健康福祉プログラムⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	北中欧の福祉	講義	
担当者	木村 あい、清水 弥生、下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(研修報告含む)(60%)・授業への取り組みの総合評価(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内や報告会で課題についてコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート・授業への取り組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし、プリントを適宜配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業で紹介する</p>			

科目名	こころとからだ I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>休息・睡眠・移動・身じたく・食事・排泄に関連したからだのしくみ、機能の低下・障害とその生活場面への影響が理解でき、支援の方法が理解できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>1.介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解する。 2.対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>1.人体の構造と機能及び疾病を履修し、理解しておくこと。 2.毎回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと(2時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション生活支援における観察 環境整備(居室環境を整える、ベットメイキング)</li> <li>2. 移動に関連した基礎知識とこころとからだのしくみ</li> <li>3. 移動(機能低下や障害が生活に及ぼす影響)杖で歩行する体験学習</li> <li>4. 移動(まとめ)</li> <li>5. 身じたくに関連した基礎知識とこころとからだのしくみ</li> <li>6. 身じたく(機能低下や障害が生活に及ぼす影響・まとめ) 身じたくの心理社会的影響についてグループワーク</li> <li>7. 食事に関連した基礎知識とこころとからだのしくみ 感じてみよう舌の動きや働き(体験)</li> <li>8. 食事(機能低下や障害が生活に及ぼす影響)</li> <li>9. 食事(まとめ)</li> <li>10. 排泄に関連した基礎知識とこころとからだのしくみ 排泄動作の分析(ワーク)</li> <li>11. 排泄(機能低下や障害が生活に及ぼす影響)</li> <li>12. 排泄(まとめ)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	こころとからだ I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業の取り組み(30%)・筆記試験(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内やmanabaでコメントします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  こころとからだのしくみ 出版社:中央法規</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  適宜紹介</p>			

科目名	こころとからだⅡ	後期	1 単位
サブタイトル	生活支援技術の根拠となる知識	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.障害の特性に応じた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したからだのしくみが理解できる。</p> <p>2.基本的及び障害の特性に応じた介護実践に必要な入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみが理解できる。</p> <p>3.障害などが生活に及ぼす影響と心身の活性化につながる支援が理解できる。</p> <p>4.多職種連携が必要な内容が理解できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>介護福祉士や看護師の資格を有し5年以上経験がある教員が、障害の特性に応じた介護実践に必要な、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したからだのしくみ、機能の低下・障害が生活に及ぼす影響、生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について指導します。</p> <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できるように指導します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回の授業内容を復習し、次回の授業の予習を4時間程度しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.オリエンテーション 心身の活性化につながるレクリエーションの意義と方法</p> <p>2.機能低下・障害が及ぼす影響と観察に関するこころとからだのしくみ</p> <p>3.観察を通じた医療職や他職種との連携に関する基礎的知識</p> <p>4.障害に応じた休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>5.視覚障害に応じた移動に関するこころとからだのしくみ</p> <p>6.視覚障害に応じた食事に関するこころとからだのしくみ</p> <p>7.身体障害に応じた身じたく・移動に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>8.障害の特徴に応じた自助具の活用に関する知識</p> <p>9.障害に応じた排泄に関するこころとからだのしくみ</p> <p>10.障害の特性に応じた排泄方法</p> <p>11.入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>12.機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響</p> <p>13.入浴、清潔保持に関連した多職種との連携まとめ</p>			

科目名	こころとからだⅡ	後期	1 単位
サブタイトル	生活支援技術の根拠となる知識	演習	
担当者	津田 理恵子		

[ 成績評価方法 ]

授業参加度20%、提出物30%、筆記試験50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

毎回の授業の最初に前回の振り返りをしてコメントを返す。  
授業態度については適宜面接をする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的知識を備えている。

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

学科DP番号/DP内容: 福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

学科DP番号/DP内容: 福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

学科DP番号/DP内容: 福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

学科DP番号/DP内容: 福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

学科DP番号/DP内容: 福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

学科DP番号/DP内容: 福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 授業参加度、提出物、筆記試験

科目名	こころとからだⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	特性に応じたこころとからだのしくみを学ぶ	演習	
担当者	泉 妙子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>1.障害、または重複障害の特性に合わせた移動、身支度、食事、排泄・清潔、休息・睡眠、人生の最終段階に関連したこころとからだのしくみが理解できる。</p> <p>2.障害が及ぼす移動、身支度、食事、排泄・清潔、休息・睡眠への影響と介護について理解する</p> <p>3.人生の最終段階を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について理解する</p> <p>4.人生の最終段階にある人と家族に関連した支援を理解する</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護師の資格を持って5年事情実践現場での経験がある教員がこころとからだのしくみについて知識が深まるように指導する。様々な障害をもって介護を必要とする人の生活支援を行うため、根拠となる知識をベースに介護実践に必要な観察力を養う。また、人間の心理や心の変容が人体の構造や機能などと密接につながっていることを理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>科目「人体の構造と機能及び疾病」を復習しておく。毎回4時間程度、専門用語・組織の働き・各機能の予習、復習をする。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2.感覚器障害、運動障害、内部疾患、認知症、知的障害、精神障害による機能低下</li> <li>3.感覚器障害、運動障害、内部疾患、認知症、知的障害、精神障害による生活への影響</li> <li>4.移動に関連したこころとからだ</li> <li>5.食事に関連したこころとからだ</li> <li>6.摂食障害と医療</li> <li>7.移動に関連したこころとからだのしくみ</li> <li>8.身支度に関連したこころとからだ</li> <li>9.排泄に関連したこころとからだ/排泄障害と医療</li> <li>10.清潔とこころとからだのしくみ</li> <li>11.休息と睡眠に関連したこころとからだ</li> <li>12.ターミナル期のこころとからだ・人生の最終段階に関連した支援</li> <li>13.振り返りとまとめ</li> </ol>			



科目名	こころとからだⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	特性に応じたこころとからだのしくみを学ぶ	演習	
担当者	泉 妙子		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題提出度(50%)筆記試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 提出課題にはコメントを返す。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:終講試験を実施</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業内容を整理した学習ノートと感想を毎回提出する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業内容を整理した学習ノートと感想を毎回提出する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業内容を整理した学習ノートと感想を毎回提出する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業内容を整理した学習ノートと感想を毎回提出する</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業内容を整理した学習ノートと感想を毎回提出する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業内容を整理した学習ノートと感想を毎回提出する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内容を整理した学習ノートと感想を毎回提出する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内容を整理した学習ノートと感想を毎回提出する</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業内容を整理した学習ノートと感想を毎回提出する</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] こころとからだのしくみ 2年時購入済み 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規 (978-4-8058-8400-3C3036)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	コミュニケーション技術		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	名定 慎也			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる。</li> <li>2.介護を必要とする人を理解し、支援関係を構築するための介護を必要とする人とのコミュニケーションのとり方が身につく。</li> <li>3.家族のおかれている状況を理解した上で、介護における家族とのコミュニケーションのとり方が身につく。</li> <li>4.障害の特性を理解した上で、障害の特性に応じたコミュニケーションのとり方が身につく。</li> <li>5.情報をまとめ発信するための方法を理解し、チームにおけるコミュニケーションのとり方が身につく。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>対人支援技術を専門的に研究し回想法の実践経験がある教員が、対人支援者として自己理解や他者の価値の受け入れなど、自己と向き合う基本的スキルを指導します。介護の対象となる本人、家族などの理解を深め、本人や家族との関係性の構築やチームケアを実施するための、コミュニケーションの基礎的知識と技術の習得を目指して指導します。そのうえで、障害の特性に合わせたコミュニケーション技法や、情報を適切にまとめ情報を共有化する意義と方法が修得できるように指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.当授業内容及び生活支援技術を復習し、日頃から学習したコミュニケーション技術を活用すること。</li> <li>2.次回の授業の予習として教科書の内容を確認しておくこと。予習復習を合わせて4時間程度の学修をしておく。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション 自己紹介</li> <li>2.コミュニケーションとは、自己理解 自己開示・他者理解・価値観の受け入れ</li> <li>3.コミュニケーションの構造と機能 介護福祉士の価値と倫理・関わり記録とロールプレイ</li> <li>4.利用者・家族・他職種・同職種とのコミュニケーションの必要性 記録の種類と報告・連絡・相談</li> <li>5.傾聴・受容・共感(グループディスカッション)</li> <li>6.コミュニケーションの基本技法・コミュニケーションの環境</li> <li>7.個別コミュニケーションとグループワークにおけるコミュニケーション技法</li> <li>8.対象者が生きてこられた時代の理解</li> <li>9.レクリエーションを通じた対象者への支援</li> <li>10.家族の理解と家族に合わせたコミュニケーション技法</li> <li>11.家族の理解と家族に合わせたコミュニケーションの工夫</li> <li>12.高齢者施設でのレクリエーション及びコミュニケーションの実施計画</li> <li>13.高齢者に合わせたコミュニケーション技法・ライフヒストリー</li> <li>14.障害(認知症)に合わせたコミュニケーション技法</li> <li>15.障害(言語障害・高次脳機能障害)に合わせたコミュニケーション技法</li> <li>16.障害(視覚障害・聴覚障害)に合わせたコミュニケーション技法</li> <li>17.障害(身体障害・難病)に合わせたコミュニケーション技法</li> <li>18.障害(知的障害・精神障害)に合わせたコミュニケーション技法</li> <li>19.高齢者施設でのレクリエーションの実践</li> <li>20.高齢者施設で入居者とのコミュニケーションの実践</li> <li>21.同職種の理解と同職種に合わせたコミュニケーション技法</li> <li>22.同職種の理解と同職種に合わせたコミュニケーションの工夫</li> <li>23.他職種の理解と他職種に合わせたコミュニケーション技法と連携</li> <li>24.他職種の理解と他職種に合わせたコミュニケーション技法と連携の工夫</li> <li>25.コミュニケーション技法の振り返り</li> <li>26.まとめ</li> </ol>				

科目名	コミュニケーション技術	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験60% レポート10% 実技発表20% 授業への取り組み10%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート課題に対してはコメントを記入して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実技発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実技発表及び筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート及び実技発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表・筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表・筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表・筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表・筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表・筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表・筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表・筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取り組み及び実技発表・筆記試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 最新介護福祉士養成講座コミュニケーション技術5 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8394-5 C3036)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	在宅支援	後期	1 単位
サブタイトル	その人らしい生活の実現	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.「生活」とは何かを説明できる。</li> <li>2.生活障害を持ちながらの在宅生活者の支援のあり方を考える。</li> <li>3.生活障害を支えるための具体的な方法を理解し実践できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅で生活する要介護者を支援するために、生活とは何かを定義していく。</li> <li>2. 生活の定義に基づいて、個々の生活課題(生活ニーズ)の多様性に気づき、尊厳ある生命維持のため、QOLの向上のために必要な生活の要素、生活の構成を学ぶ。</li> <li>3. 生活支援の基本的な考え方を理解し、自立を獲得するための具体的な支援の知識、技術を習得し、在宅でのあるいは地域においての、その人らしい生活ができるよう支援のあり方を学ぶ。</li> <li>4. 地域の社会資源について理解し、その活用の仕方や連携のあり方について学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「介護の基本」や社会福祉の諸制度を復習しておく。</li> <li>2. 前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておく(各回4時間程度)。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活するということ</li> <li>2. 在宅生活の基本 環境 介護保険と在宅福祉サービス</li> <li>3. 在宅生活の支援と介護予防 社会資源の活用</li> <li>4. 家庭生活</li> <li>5. 在宅支援の実際 掃除</li> <li>6. 在宅支援の実際 調理</li> <li>7. 生活支援の実際 洗濯</li> <li>8. 生活支援の実際 衣類の補修 管理</li> <li>9. 生活支援の実際 家庭管理 余暇 生きがい</li> <li>10. 在宅介護計画と介護過程の展開</li> <li>11. 地域包括ケアシステムについて 介護業務と法律的諸問題</li> <li>12. 在宅生活での人生の最終段階における支援</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>※ 5～8は、学びと演習の相乗効果を高めるため、土曜に1時間目から4時間目までの集中講義とする。日程は履修生の都合を勘案して後期授業の初日に調整する。集中講義はできるだけ欠席することがないように、体調を整えておくこと。なお、やむを得ず欠席となった場合は補講を行う。</p>			

科目名	在宅支援	後期	1 単位
サブタイトル	その人らしい生活の実現	演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] 演習の態度(20%)・課題の提出(50%)、発表(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題については添削し返却する。 発表についてはその場でコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:参加態度・課題・発表、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 既に購入済み。著者名:介護福祉士養成講座編集委員会編集 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5766-3)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11001690 [ WWH2-017 ]

[2福C]\*後期末1

科目名	児童・家庭福祉	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	○	実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会状況について理解する。</li> <li>2. 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。</li> <li>3. 児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。</li> <li>4. 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の枠割について理解する。</li> <li>5. 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>少子化の進行、地域や家庭における子育て機能の低下、児童虐待など児童に関するさまざまな問題が生じています。そこで、児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、児童福祉のニーズについて概観するとともに、児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の権利保障の歩みについて学びます。また、児童・家庭に対する相談援助を行っているそれぞれの分野で必要となる法制度や具体的サービスの内容について学びを深めます。</p> <p>適宜国家試験の過去問題や模擬問題を利用した小テストを行い、内容の理解と国家試験対策に努めます。また、授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携などのあり方など担当教員が児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていきます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業内容についてテキストの該当か所を読んで予習をして授業に臨んでください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童・家庭福祉の定義、児童・家庭の定義と権利</li> <li>2. 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境</li> <li>3. 児童・家庭福祉の歴史</li> <li>4. 児童・家庭に対する法制度</li> <li>5. 児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割</li> <li>6. 児童・家庭に対する支援の実際① 母子保健・障害児支援</li> <li>7. 児童・家庭に対する支援の実際② 子育て支援・健全育成</li> <li>8. 児童・家庭に対する支援の実際③ 保育</li> <li>9. 児童・家庭に対する支援の実際④ 社会的養護</li> <li>10. 児童・家庭に対する支援の実際⑤ 児童虐待</li> <li>11. 児童・家庭に対する支援の実際⑥ 非行問題・心理的支援</li> <li>12. 児童・家庭に対する支援の実際⑦ ひとり親家庭</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	児童・家庭福祉	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] 理解度確認試験(70%)、小テスト(15%)、授業態度(15%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストは毎回の授業の終わりに実施し、翌週の授業の始めに解説します。理解度確認試験については、終了後に解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:理解度確認試験、小テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック12 児童・家庭福祉」 著者名:林浩康・山本真美・湯澤直美 編著 出版社:ミネルヴァ書房 (9.78E+12)</p>			

P11001340 [ WWH1-010 ]

[1福]\*後期水1

科目名	社会学と社会システム	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会と社会福祉	講義	
担当者	中西 久雄		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の特性を理解する</li> <li>2. 生活の多様性について理解する</li> <li>3. 人と社会の関係について理解する</li> <li>4. 社会問題とその背景について理解する</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>「社会変動」、「社会システム」、「社会的役割」、「社会集団と組織」の基礎知識を身につけていく。さらに、「家族」、「地域」、「都市」、「産業」等の社会変動の理解を通して、社会福祉のニーズを理解していく。</p> <p>この授業では、社会福祉士国家試験科目の「社会学と社会システム」で及第点を得点するための、基礎知識・ノウハウを身に付けていく。「社会学と社会システム」は他の科目に比べて出題範囲が広い。よって過去の出題傾向を分析した上で、的を絞って学習する必要がある。特に、よく出題される「社会変動」「社会システム」「社会的役割」「社会集団と組織」の基礎知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>指定教科書の該当箇所について、各回予習復習合わせて4時間程度準備すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の視点</li> <li>2. 社会構造と社会変動</li> <li>3. 社会システム</li> <li>4. 地域</li> <li>5. 市民社会と公共性－社会問題－</li> <li>6. 災害と復興</li> <li>7. 社会的役割</li> <li>8. 生活と人生</li> <li>9. 家族とジェンダー</li> <li>10. 経済システム</li> <li>11. 自己と他者－相互作用－</li> <li>12. 社会集団と組織</li> <li>13. 社会関係</li> </ol>			



科目名	社会学と社会システム	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会と社会福祉	講義	
担当者	中西 久雄		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業参加度(30%)、期末テスト(70%)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] テストは終了後解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 社会福祉士養成講座編集委員会編 『最新・社会福祉士養成講座3 社会学と社会システム 第3版』2021 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版(978-4-8058-8233-7)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	社会福祉調査の基礎	後期	2 単位
サブタイトル	社会調査を通じて、思い込みを捨て、客観的に社会を把握・理解する。	講義	
担当者	湯川 宗紀		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 社会調査についての理解を深め、社会調査の必要性と社会調査に対するリテラシーを身につけることを目標とします。</p> <p>[ 授業概要 ] 「社会調査」と聞くと何か難しく、普段の自分の生活とは関係無いようなものに思えるかもしれませんが。しかし、社会には数多くのデータが氾濫し、自分自身も意識しないうちにカウントされ利用されている現実があります。</p> <p>この授業では現代社会の実態を客観的に見ること、例えば若者(受講者のみなさん)の未来はどれほど暗いのか、格差社会が叫ばれる中、どれくらいの人が貧困にあえいでいるのか、どのような人がどのようなことに苦しんでいるのか等、いくつかの事例から社会調査の目的と意義、社会調査から現実社会を読み解いていきます。</p> <p>なお、受講者の興味関心、習熟状況、社会動向の変化により講義内容や講義の進み具合が変わる場合があります。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 各回、予習復習あわせて4時間程度 予習 新聞を読み、ネットやワイドショーではなくニュース番組をきちんと見る 復習 講義内容を復習する</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 社会調査の意義と目的</li> <li>3. 量的調査の方法1 量的データから見る日本の現状</li> <li>4. 量的調査の方法2 量的データから導き出されるみなさんの未来</li> <li>5. 様々な質的調査法と留意点</li> <li>6. 質的調査の方法 質的データから見る日本の現状</li> <li>7. 量的データの分析方法・統計法1</li> <li>8. 量的データの分析方法・統計法2</li> <li>9. 質問紙作成の留意点(社会調査における倫理・個人情報の保護)</li> <li>10. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法1 Excelでの計算・関数</li> <li>11. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法2 Excelでのデータ集計</li> <li>12. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法3 Excelでのデータ検定</li> <li>13. 社会調査についてのまとめ</li> </ol>			

科目名	社会福祉調査の基礎	後期	2 単位
サブタイトル	社会調査を通じて、思い込みを捨て、客観的に社会を把握・理解する。	講義	
担当者	湯川 宗紀		
<p>[ 成績評価方法 ] 最終課題(50点)、期末レポート(50点)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] テストは講義中に正解を解説する レポートはレポート回収後に模範例を紹介する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 5「社会福祉調査の基礎」 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8235-1)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じてプリント等を配布、書籍の紹介を行います。</p>			

科目名	社会福祉特講 I	前期	2 単位
サブタイトル	児童福祉のための基礎知識	講義	
担当者	下司 実奈、曾田 里美、内 正子、佐々木 勝一、馬場 幹子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  児童福祉に関する基礎知識を学習し、支援を実行することの基盤を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ]  児童福祉がどういった歴史のもと、変化を遂げてきたのかを学び、現在、児童福祉はどういった課題に向き合っているのかを学ぶ。  乳幼児の発達を保障するために必要な基礎知識を様々な側面からアプローチして学ぶ。  児童福祉に関する実務経験のある教員が講義します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習合わせて4時間程度、前回・次回の課題について学習する。  普段の生活においても児童に関心を持ち、児童と関わる機会に授業での学びを復習し活用する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(下司)</li> <li>2. 児童福祉(曾田)</li> <li>3. 児童と遊び(下司)</li> <li>4. 養護を必要とする児童への支援(曾田)児童教育の変遷(下司)</li> <li>5. 食育と児童(馬場)</li> <li>6. 食育と児童(馬場)</li> <li>7. 食育と児童(馬場)</li> <li>8. 児童と福祉(佐々木)</li> <li>9. 乳幼児保育の歴史と現状(下司)</li> <li>10. 乳幼児の保健(内)</li> <li>11. 乳幼児の保健(内)</li> <li>12. 保育における心理学(下司)</li> <li>13. まとめ(下司)</li> </ol>			

科目名	社会福祉特講 I	前期	2 単位
サブタイトル	児童福祉のための基礎知識	講義	
担当者	下司 実奈、曾田 里美、内 正子、佐々木 勝一、馬場 幹子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業態度(50%)・提出物(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験について解答を解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業で教員から適宜紹介します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜紹介する。</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	家族が抱える生活問題と家族支援	講義	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          家族が抱える多様な生活問題(貧困・虐待・DV・社会的孤立など)の実態を理解し、問題発生メカニズムを読み解き、問題解決に向けた家族支援の方策を多角的・総合的に見出せるようになることを目標とする。</p> <p>[授業概要]          今日、わが国において注目されている「家族が抱える多様な生活問題」の現状を理解し、生活問題の発生メカニズムを「家族システム」の視点から読み解き、「家族の生活問題」を「社会の問題」と結びつけて考察できるようになることを目指す。その上で、ソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)として、ケアワーカー(介護福祉士)として、家族の生活問題の解決に向けて、ミクロレベル(家族に対する直接的な働きかけ)、メソレベル(家族と関わる支援機関や支援ネットワークに対する働きかけ)、マクロレベル(地域社会や行政に対する働きかけ)といった多面的なアプローチで支援する方策について学ぶ。さらに、「家族とは何か」「家族を支援するとはどういうことか」についても考察する。授業では、家族の生活問題をよりリアルに理解できるよう、新聞記事・DVD・手記なども教材として活用する。毎回の授業では、担当教員のソーシャルワーカーとしての実践経験、地域における家族支援経験、行政の福祉施策への参画経験などを活かして、具体的な事例などを紹介しながら、多様な生活問題を多面的に考察できるよう授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、家族が直面する生活問題に関心を持ち、専門書・新聞記事・ニュース・テレビ番組・映画・小説・エッセイなど、幅広いツールを活用し、また家族・友人など身近な人たちの普段の交流を通して、家族の生活問題への理解を深めるよう心がけること。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーション          2. 「家族」とは何か:家族観の基礎的理解          3. 家族心理学の基礎的理解          4. 家族のライフサイクルの基礎的理解          5. 家族が抱える生活問題:貧困・経済格差          6. 家族が抱える生活問題:虐待(児童・高齢者・障害者)          7. 家族が抱える生活問題:暴力(DV・家族間暴力など)          8. 家族が抱える生活問題:介護負担(二重介護・老々介護・老障介護・ヤングケアラー・介護殺人など)          9. 家族が抱える生活問題:引きこもり・社会的孤立(8050問題・孤独死など)          10. 家族に対する支援:家族カウンセリング          11. 家族に対する支援:家族会・家族教室・ソーシャルサポートネットワーク          12. 家族に対する支援:家族支援のための施策・制度          13. まとめ</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	家族が抱える生活問題と家族支援	講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業への取り組み及び振り返りへの評価はその場で、翌週の授業で、最終回の授業でフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート(60%)・授業への取り組み及び振り返り(40%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて資料をManabaに掲示</p>			

P11001110 [ WWH2-002 ]

[2福]\*後期水2

科目名	社会福祉特講Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉と医療、女性と労働	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  実習で必要となる高齢者福祉および医療や社会保障制度についての知識を身につけ、実際に応用できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  介護保険や医療保険、労働法、ワークライフバランス等に関する社会政策を学ぶ。個々の法律や育児休業制度等について理解するだけでなく、女性の労働を社会的に支えている北欧、フランス等の仕組みを学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  次回の学習課題について調べ、授業後は復習し他の授業との関連性について整理しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.オリエンテーション  2.介護保険制度  3.高齢者福祉の現状  4.地域包括支援センターの役割  5.医療保険  6.医療保険  7.女性労働の実情—ジェンダーの視点から  8.ブラック企業・ブラックバイト～労働基準法を知る  9.育児休業法と男女雇用機会均等法  10.スウェーデンのワークファミリーバランス  11.フランスのワークライフバランス  12.外部講師による特別講義  13.まとめ</p>			



科目名	社会福祉特講Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉と医療、女性と労働	講義	
担当者	清水 弥生		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(50%)・レポート(50%)を総合して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題については、授業中に補足、解説します。 レポートは後日返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] レジュメ・資料を配布する</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	社会的養護の子どもたちの生活と支援	講義	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]            家族のもとを離れて施設や里親家庭で生活する社会的養護の子どもたちの背景や実情を理解するとともに、子どもたちの置かれている状況に想像力を働かせ、必要な関わりや支援について考察することができる。</p> <p>[ 授業概要 ]            児童養護施設、児童虐待、里親、生い立ちの整理、子どもの貧困など社会的養護に関連する映像や新聞記事などを通して、子どもやその家族の実態や問題の背景について理解を深めていきます。これらの題材に対して多様な観点からグループディスカッションを行い、問題や子ども・家族の捉え方について気づきを得ながら共感的視点を身につけていきます。また、子どもや家族の立場にたつて必要な支援を考察していきます。            担当教員の児童福祉現場での実践経験やそこで得た知見を伝えながら、社会的養護の実情を多面的に理解、考察できるように授業を展開します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]            各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)            前回の授業内容を復習し理解するとともに、日頃から授業に関するニュースなど社会の出来事に関心をもつようにしてください。</p> <p>[ 授業計画 ]            1. オリエンテーション            2. 社会的養護の全体像            3. 施設における生活と支援            4. 児童養護施設の事例            5. 母子生活支援の事例            6. 「こうのとりのゆりかご」の実際①            7. 「こうのとりのゆりかご」の実際②            8. 児童発達支援センターの事例            9. ライフストーリーワーク(生い立ちの整理)①            10. ライフストーリーワーク(生い立ちの整理)②            11. 里親家庭の事例            12. 家族関係再構築支援            13. まとめ</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	社会的養護の子どもたちの生活と支援	講義	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業の参加状況(20%)、毎回の授業の振り返り(30%)、レポート試験(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業の振り返りは翌週の授業でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:毎回の授業の振り返り、レポート試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  使用しない。プリントを配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  教員から指示する。</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅴ	後期	2 単位
サブタイトル	私たちの生活の中の心理学	講義	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ] 心理学はどのように誕生し育ってきた学問なのか、また、人々の生活にどのように役立っているのかを知り、自分の心とからだ、人の心とからだへの想像力を育てる。</p> <p>[ 授業概要 ] 人の心とからだの関係について学び、対人援助の過程で必要とされる心理学的な視点と方法について気付きを得る。アセスメントや介入の実際を紹介しながら自己への気付き、人への気付きを促していく。臨床心理士の経験の中でクライアントとご家族から学んだことを伝える。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 学習内容を理解すること。 授業に関する新聞やニュース、TV番組等に関心をもって視聴すること。予習復習合わせて各回1時間程度をかけることが望ましい。</p> <p>[ 授業計画 ] 1.臨床心理学の歴史 2.想像力 3.睡眠と心理学 4.自律神経 自尊感情 5.アイデンティティとは 6.うつ病 産後うつ 小児うつ 7.DV 8.PTSD 9.発達障害 10.発達障害 11.心理検査 12.認知行動療法入門 13.まとめ</p>			

科目名	社会福祉特講Ⅴ	後期	2 単位
サブタイトル	私たちの生活の中の心理学	講義	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(40%)・プレゼンテーション課題(60%)を総合して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  フィードバックは授業中に行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:プレゼンテーション課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p>			

科目名	社会福祉の原理と政策 I		前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉学の基礎		講義	
担当者	渡辺 晴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論について説明できる。</li> <li>2. 社会福祉の歴史および理論の変遷をふまえ、日本の社会福祉の特性について説明できる。</li> <li>3. 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について説明できる。</li> <li>4. 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの「社会福祉の原理・基盤・政策を理解する科目」として、社会福祉学の基礎である社会福祉の歴史、思想、哲学、理論について体系的に理解するとともに、現代の社会問題とその構造的背景について学修する。</p> <p>また、介護福祉士養成カリキュラムの「人間の尊厳と自立」として、人間の理解を基礎に、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回についての予習・復習(4時間程度)</p> <p>【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。</p> <p>【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、自立の概念</li> <li>2. 社会福祉の原理</li> <li>3. 社会福祉の歴史①: 日本(萌芽期～発展期)</li> <li>4. 社会福祉の歴史②: 日本(成熟期～転換期)</li> <li>5. 社会福祉の歴史③: 欧米</li> <li>6. 現代の社会問題①: 社会問題と社会構造</li> <li>7. 現代の社会問題②: 格差と貧困</li> <li>8. 現代の社会問題③: 親密圏における暴力と社会的孤立</li> <li>9. 社会福祉の思想と哲学①: 福祉実践の先駆者たち</li> <li>10. 社会福祉の思想と哲学②: 社会福祉の価値観</li> <li>11. 社会福祉の理論①: 日本における社会福祉の理論</li> <li>12. 社会福祉の理論②: 福祉国家の理論</li> <li>13. 人間の尊厳と人権・福祉理念／まとめ</li> </ol>				

科目名	社会福祉の原理と政策 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉学の基礎	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 社会福祉の原理と政策 著者名:岩崎晋也・金子光一・木原活信編著 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-09048-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 社会福祉用語辞典(第9版) 著者名:山縣文治・柏女霊峰編 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-06543-1) 社会福祉小六法2024(令和6年版) 著者名:ミネルヴァ書房編集部編 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-09697-8)</p>			

科目名	社会福祉の原理と政策Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉政策	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉政策を捉える基本的な視点について説明できる。</li> <li>2. 福祉政策におけるニーズと資源をふまえて、福祉政策の構成要素・機能・過程について説明できる。</li> <li>3. 福祉政策の動向と課題、関連施策について説明できる。</li> <li>4. 福祉サービスの供給と利用の過程について説明できる。</li> <li>5. 国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について説明できる。</li> <li>6. 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの「社会福祉の原理・基盤・政策を理解する科目」として、福祉政策を捉える基本的な視点(理論)、機能、過程、財政および福祉サービスの供給と利用について理解するとともに、福祉政策と関連施策の動向と課題、国際比較の視点から日本の福祉政策について学修する。</p> <p>また、介護福祉士養成カリキュラムの「人間の尊厳と自立」として、人間の理解を基礎に、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回についての予習・復習(4時間程度)</p> <p>【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。</p> <p>【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 福祉政策の理論</li> <li>3. 福祉政策の機能①: 福祉政策の構成要素と機能</li> <li>4. 福祉政策の機能②: 福祉政策の過程</li> <li>5. 福祉政策における財政</li> <li>6. 福祉サービスの供給と利用①: 公的部門</li> <li>7. 福祉サービスの供給と利用②: 民間部門</li> <li>8. 福祉サービスの供給と利用③: 利用方式の多様化と支援</li> <li>9. 福祉政策の動向と課題</li> <li>10. 関連施策の動向と課題①: 保健医療政策とソーシャルワーク</li> <li>11. 関連施策の動向と課題②: 教育政策とソーシャルワーク</li> <li>12. 福祉政策の国際比較</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			



科目名	社会福祉の原理と政策Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉政策	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  社会福祉の原理と政策 著者名:岩崎晋也・金子光一・木原活信編著 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-09048-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  社会福祉用語辞典(第9版) 著者名:山縣文治・柏女霊峰編 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-06543-1)  社会福祉小六法2024(令和6年版) 著者名:ミネルヴァ書房編集部編 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-09697-8)</p>			

P11001190 [ WWH1-007 ]

[1福]\*後期月3

科目名	社会保障 I	前期	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>目標は1.個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える 2. 社会保障の概念や対象及びその理念について、その発達過程も含めて理解する 3. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する 4. 社会保障制度の体系と概要について理解する 5. 社会保障制度の財政について理解する の5点である。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>社会保障 I では、各社会福祉制度と直接間接に関わり、私たちの暮らしを支えるさまざまな制度について学ぶ。最初に、社会保障の考え方、枠組みについて説明し、社会保障の歴史について触れる。その後、年金制度ならびに、日本が直面する年金制度の課題について講義していく。適宜、新聞記事や映像資料を使用する。また、国家試験問題を利用して、小テストを行い、内容の振り返りに役立てる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習および復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会保障制度の現状、社会と生活のしくみ</li> <li>2. 社会保障の理念、対象と制度の発達</li> <li>3. 社会保障の概念と範囲、社会保険と社会扶助の関係</li> <li>4. 社会保障の役割と意義</li> <li>5. 社会保障制度の体系</li> <li>6. 日本の年金制度①年金とはなにか</li> <li>7. 日本の年金制度②国民年金の仕組み</li> <li>8. 日本の年金制度③国民年金の給付の種類</li> <li>9. 日本の年金制度④厚生年金の仕組み</li> <li>10. 日本の年金制度⑤厚生年金の給付の種類</li> <li>11. 年金制度の今後の課題</li> <li>12. 社会保障と財政</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	社会保障 I	前期	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ	講義	
担当者	清水 弥生		

[ 成績評価方法 ]

試験(70%)、授業中に行う小テストや小レポート等(30%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

小テストや小レポートは授業中に解説する。  
試験は答案回収後解説する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:小テストや小レポートおよび試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:小テストや小レポートおよび試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:小テストや小レポートおよび試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:小テストや小レポートおよび試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:小テストや小レポートおよび試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:小テストや小レポートおよび試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:小テストや小レポートおよび試験

[ 教科書(ISBN) ]

はじめての社会保障 著者名:椋野美智子、田中耕太郎 出版社:有斐閣 (978-4-641-)

[ 参考書(ISBN) ]

なし

科目名	社会保障Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>この授業では、1. 医療保険制度の具体的内容について理解する 2. 労働保険の具体的内容について理解する 3. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する 4. 諸外国における社会保障制度の概要について理解することを目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>各社会福祉制度と直接間接に関わり、私たちの暮らしを支えるさまざまな制度について学ぶ。社会保障Ⅱでは、医療制度について理解し、労働保険や介護保険等を社会保障の枠組みから学んでいく。 適宜、新聞記事や映像資料を使用する。また、国家試験問題を利用して、小テストを行い、内容の振り返りに役立てる。社会保障Ⅰを履修しておくことが望ましい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の医療保険制度①医療保障制度とはなにか</li> <li>2. 日本の医療保険制度②国民健康保険の目的および対象</li> <li>3. 日本の医療保険制度③国民健康保険の給付</li> <li>4. 日本の医療保険制度④健康保険の目的および対象</li> <li>5. 日本の医療保険制度⑤健康保険の給付</li> <li>6. 日本の医療保険制度⑥各種共済組合の医療保険、後期高齢者医療制度</li> <li>7. 医療保険制度の今後の課題</li> <li>8. 労働保険制度の概要①雇用保険制度</li> <li>9. 労働保険制度の概要②労災保険制度</li> <li>10. 公的保険制度と民間保険制度の関係</li> <li>11. 諸外国における社会保障制度の概要</li> <li>12. 障害者福祉と障害者保健福祉制度</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	社会保障Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ	講義	
担当者	清水 弥生		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)小レポート、小テスト等による授業参加度(30%)による総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストは授業中に解答の解説を行います。試験は答案を回収後、解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:小レポート、小テスト、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:小レポート、小テスト、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:小レポート、小テスト、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:小レポート、小テスト、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:小レポート、小テスト、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小レポート、小テスト、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:小レポート、小テスト、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] はじめての社会保障 著者名:椋野美智子、田中耕太郎 出版社:有斐閣</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	障害者福祉	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>本科目の目的・ねらいは、①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する、②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する、③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する、④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する、の4点である。</p> <p>また到達目標は、①障害の概念と特性が理解できる、②障害者の生活実態やこれを取り巻く社会環境について理解できる、③障害者福祉の歴史や障害者に対する法制度について理解できる、④障害者と家族等の支援における関係機関と専門性の役割について理解できる、⑤障害者と家族等に対する支援の実際を理解できる、の5点である。</p> <p>[授業概要]</p> <p>障害の概念と特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度について理解する。また、障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割及び障害者と家族等に対する支援の実際を理解する。毎回の授業では、担当教員の障害者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や地域で暮らす障害者と家族の地域活動への支援経験を活かして、障害者や家族の生活実態や支援のあり方を具体的に考えられるような講義を展開していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また、新聞記事・ニュースやボランティア活動等を通して、障害のある人たちの福祉課題に関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害概念と特性の理解および障害の基礎的理解(ICF、障害の定義と特性、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解)</li> <li>2. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境</li> <li>3. 障害者福祉の歴史: 障害者福祉の基本的理念と障害観および障害者処遇の変遷</li> <li>4. 障害者福祉の歴史: 障害者権利条約・障害者基本法・障害者福祉制度の発展過程および障害者福祉の現状と施策</li> <li>5. 障害者に対する法制度: 障害者総合支援法-1(概要・障害福祉サービス・相談支援)</li> <li>6. 障害者に対する法制度: 障害者総合支援法-2(障害支援区分・支給決定・自立支援医療・補装具・地域生活支援事業・障害福祉計画)</li> <li>7. 障害者に対する法制度: 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法</li> <li>8. 障害者に対する法制度: 児童福祉法・発達障害者支援法・障害者虐待防止法</li> <li>9. 障害者に対する法制度: 障害者差別解消法・バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法など</li> <li>10. 障害者と家族等の支援における関係機関および関連する専門職等の役割</li> <li>11. 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援(障害者の就労の支援を含む)</li> <li>12. 障害領域における社会福祉士および精神保健福祉士の役割と障害者・家族等への支援の実際(多職種連携・協働を含む)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	障害者福祉	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験(70%)・小テストおよびレポート課題(20%)・授業への取り組み状況(10%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑧障害者福祉(共通科目)」 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校</p>			

科目名	障害の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援について理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

[ 授業概要 ]

- 1 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を身につける。
- 2 医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。
- 3 ライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援を考察できる。
- 4 地域でのサポート体制や、多種職連携・協働による支援の基礎的な知識を身につける。
- 5 障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容過程や介護力に応じた支援を考察できる。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

予習・復習を4時間程度しておくこと。  
日頃から社会の動きに関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

- 1 障害の基礎的理解
- 2 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解
- 3 身体障害の基本的理解
- 4 身体障害者の心理的特徴と支援,家族の状況と家族への支援①
- 5 身体障害者の心理的特徴と支援,家族の状況と家族への支援②
- 6 身体障害者の心理的特徴と支援,家族の状況と家族への支援③
- 7 精神障害の基本的理解 精神障害者の心理的特徴と支援、家族の状況と家族への支援
- 8 知的障害の基本的理解 知的障害者の心理的特徴と支援、家族の状況と家族への支援
- 9 発達障害の基本的理解 発達障害者の心理的特徴と支援、家族の状況と家族への支援
- 10 難病の基本的理解
- 11 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 生活上の課題と支援のあり方、自立支援
- 12 連携と協働 地域におけるサポート体制 多種職連携と協働
- 13 まとめ



科目名	障害の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ]  テスト(70%)、授業に対する取り組み(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  提出課題については添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業に対する取り組み・実践、課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業に対する取り組み・実践、課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業に対する取り組み・実践、課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業に対する取り組み・実践、課題、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業に対する取り組み・実践、課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業に対する取り組み・実践、課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業に対する取り組み・実践、課題、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  障害の理解 出版社:中央法規</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  授業で紹介する</p>			

科目名	心理学と心理的支援	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  社会福祉専門職として、より有効な支援を提供するために、相手を知ること、そして自分を知ることが心理学を通して学ぶ。科学的な視点を基礎として、人が自分を認識しながら生きていくための様々な理論や方法を実践の場を想定しながら考えていく。</p> <p>[ 授業概要 ]  人はどうやって外界を認知していくのか、認知からうまれる感情、行動、思考の流れを知るための基礎知識を学ぶ。次に障害や疾患など課題を抱える人々に対してこれまで蓄積されてきた支援内容にその根拠と共に学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  manabaに提示する授業ノートを見て、テキストに目を通す。疑問点についてチェックする。授業後、できるだけ早く、manabaに提示した復習ノートに授業ノートを参照しながら答えを記入する。次の授業の冒頭の答え合わせをし、復習ノート、授業ノートに書き加える。予習復習各1時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚と知覚</li> <li>2. 記憶 ワーキングメモリー</li> <li>3. 脳 動機づけ</li> <li>4. フロイトの心的装置 防衛機制</li> <li>5. ストレス</li> <li>6. 愛着(ボウルビィとマラーの理論を中心に)</li> <li>7. 愛着(愛着を支えるもの)</li> <li>8. 発達と支援(乳幼児の発達)</li> <li>9. 発達と支援(発達に課題を抱える人々への支援)</li> <li>10. 条件付けと行動分析</li> <li>11. 心理療法</li> <li>12. 心理検査</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	心理学と心理的支援	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	下司 実奈		

[ 成績評価方法 ]  
 受講態度(20%)・レポート(20%)・筆記試験(60%)により総合的に評価する

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
 毎回、前回の復習ノートの答え合わせを行う。  
 試験の解答を解説する時間を設ける。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
 成績評価方法:試験及び復習ノート

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
 成績評価方法:試験及び復習ノート

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
 成績評価方法:試験及び復習ノート

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
 成績評価方法:試験及び復習ノート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
 成績評価方法:試験及び復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
 成績評価方法:試験及び復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
 成績評価方法:試験及び復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
 成績評価方法:試験及び復習ノート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
 成績評価方法:試験及び復習ノート

[ 教科書(ISBN) ]  
 心理学 第5版補訂版 著者名:鹿取廣人  
 杉本敏夫  
 鳥居修晃  
 河内十郎 出版社:東京大学出版会 (978-4-13-012117-0)

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	生活支援技術 I (基礎)	前期	2 単位
サブタイトル	基礎介護技術	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.生活を支える介護技術の基本的な知識と技術を身につけることができる。</li> <li>2.生活場面における生活支援技術の意義が理解できる。</li> <li>3.実践する技術の根拠が理解できる。</li> <li>4.観察・アセスメント・考察できる能力を身につけることができる。</li> <li>5.安全・安楽・プライバシーに留意した生活支援技術が実践できる。</li> <li>6.その人らしさについて考え、自立を促す生活支援技術を身につけることができる。</li> <li>7.福祉用具の意義、その目的や適切な使用方法を理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>介護福祉士に必要な生活場面における介護の基本的な知識と技術について学ぶ。生活支援技術の習得においては、介護実習室で介護者として技術を実践し、その振り返りから、その人らしさを尊重し、潜在能力を引き出すための技法を考察する。また、対象者役の体験を通して気づいた点を自己の技術に活かしていけるよう考察する。この過程を通し、対象者の自立に向けた生活を支えるために必要な思考能力を養う。 介護福祉士の資格を有し、5年以上の実践経験がある教員が生活支援技術習得に向けて指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておく。 こころからだ！と連動した授業なので、講義内容を理解しておく。 (予習・復習を含めて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護者の心得 観察・アセスメント・記録</li> <li>2. 生活支援の理解、生活支援と福祉用具の意義と活用</li> <li>3. ボディメカニクス・感染予防(名定)</li> <li>4. 自立に向けた居室環境の整備 ベッドメイキング</li> <li>5. 自立に向けた移動の介護①:移動の意義と目的</li> <li>6. 自立に向けた移動の介護②:移動の意義と目的・移動に関する利用者のアセスメント</li> <li>7. 自立に向けた移動の介護③:安全で的確な移動・移乗の介護</li> <li>8. 自立に向けた移動の介護④:安全で気兼ねなく動けることを支える介護</li> <li>9. 廃用症候群・シーツ交換・安楽な体位</li> <li>10. 自立に向けた身じたくの介護①:整容、自立に向けた身じたくの介護とその意義と目的・身じたくのアセスメント</li> <li>11. 自立に向けた身じたくの介護②:衣生活を調整する能力のアセスメントと介護</li> <li>12. 自立に向けた身じたくの介護③:整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介護</li> <li>13. 自立に向けた身じたくの介護④:生活習慣と装いの楽しみ</li> <li>14. 自立に向けた身じたくの介護⑤:生活習慣と装いの楽しみを支える介護</li> <li>15. 自立に向けた食事の介護①:食事の意義と目的</li> <li>16. 自立に向けた食事の介護②:食事に関する利用者のアセスメント</li> <li>17. 自立に向けた食事の介護③:「おいしく食べる」こと</li> <li>18. 自立に向けた食事の介護④:「おいしく食べる」ことを支える介護</li> <li>19. 自立に向けた排泄の介護①:排泄の意義と目的</li> <li>20. 自立に向けた排泄の介護②:排泄に関する利用者のアセスメント</li> <li>22. 自立に向けた排泄の介護④:安全で的確な排泄の介護の工夫</li> <li>23. 自立に向けた排泄の介護④:気持ちよい排泄</li> <li>24. 自立に向けた排泄の介護⑥:気持ちよい排泄を支える介護の工夫</li> <li>25. 自立に向けた生活支援の工夫</li> <li>26. 自立に向けた生活支援の振り返り まとめ</li> </ol>			

科目名	生活支援技術 I (基礎)	前期	2 単位
サブタイトル	基礎介護技術	演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業参加度20%、提出物20%、実技試験40%、筆記試験20%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 提出物はコメントを返し、適宜必要に応じて個別面接を行いフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:提出物、筆記テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験、筆記テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み方・提出物、実技試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術 I・II・III (この教科書は、生活支援技術 I～IVで使用します) 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜紹介する。</p>			

科目名	生活支援技術Ⅱ(応用)	後期	2単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護	演習	
担当者	津田 理恵子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

人間の尊厳の保持ができ、その人の状態・状況に合った生活支援技術や知識を習得できる。

[授業概要]

介護福祉士や看護師の資格を持って5年以上、実践現場での経験がある教員が生活支援技術の指導をする。尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得できるよう支援する。支援の現場は100人いれば100通りの関わり方が求められる。実際に当事者と関わる機会を設けることによって、個別支援の難しさと同時に、人間的関わりがベースにあるケアの大切さや信頼を培うことの重要性を学ぶ機会とする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

生活支援技術Ⅰの基本を実践し評価する場を設け、基本に必要な知識と技術を身につけておく。イメージトレーニングや各留意点など2時間程度予習復習に充てる。

[授業計画]

- 1.オリエンテーション 感覚機能が低下している人の介護
- 2.自立に向けた入浴・清潔の保持の介護
- 3.4.運動機能が低下している人の介護 利用者の状態・状況に応じた移動における介護の留意点
- 5.6. 利用者の状態・状況に応じた食事の介護の留意点  
認知・知覚能力が低下している人の介護
- 7.8.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点  
感染予防、誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点  
脱水の予防のための日常生活の留意点
- 9.10.利用者の状態・状況に応じた移動介護の留意点  
感覚機能が低下している人の介護  
運動機能が低下している人の介護
- 11.12.利用者の状態・状況に応じた身支度介護の留意点
- 13.14.利用者の状態・状況に応じた排泄の介護の留意点  
認知・知覚能力が低下している人の介護
- 15.16.利用者の状態・状況に応じた排泄の介護の留意点(学外特別講師)  
便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点  
尿回数が多い人への日常生活の留意点・失禁時の介護の留意点
- 17.18.利用者の状態・状況に応じた清潔に関連した 感覚機能が低下している人の介護
- 19.20.利用者の状態・状況に応じた休息・睡眠に関連した介護の留意点
- 21.22.利用者の状態・状況に応じたターミナル期の心と身体介護
- 23.24.人生の最終段階に関連した介護の留意点
- 25..26実技評価・まとめ

科目名	生活支援技術Ⅱ(応用)	後期	2 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護	演習	
担当者	津田 理恵子		
<p>[ 成績評価方法 ] 実技試験40点、筆記試験40%、レポート課題20点</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート課題にはコメントを返す。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実技試験、筆記試験、レポート課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ～Ⅲ 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版(978-4-8058-3941-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜紹介</p>			

科目名	生活支援技術Ⅲ(応用)	前期	2 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護	演習	
担当者	泉 妙子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 人間の尊厳の保持ができ、その人の状態・状況に合った生活支援技術や知識を習得できる。</p> <p>[授業概要] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得できるよう支援する。支援の現場は100人いれば100通りの関わり方が求められる。実際に当事者と関わる機会を設けることによって、個別支援の難しさと同時に、人間的関わりがベースにあるケアの大切さや信頼を培うことの重要性を学ぶ機会とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 生活支援技術Ⅰ・Ⅱの基本を実践し評価する場を設け、基本に必要な知識と技術を身につけておく。イメージトレーニングや各留意点など4時間程度予習復習に充てる。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.感覚機能が低下している人の介護 3.運動機能が低下している人の介護 4.利用者の状態・状況に応じた移動における介助の留意点 5.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点 認知・知覚能力が低下している人の介護 6.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点 誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点 脱水の予防のための日常生活の留意点 7.利用者の状態・状況に応じた移動介助の留意点(学外特別講師) 感覚機能が低下している人の介護 運動機能が低下している人の介護 8.利用者の状態・状況に応じた身支度介助の留意点 9.利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点 認知・知覚能力が低下している人の介護 10.利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点 便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点 尿回数が多い人への日常生活の留意点・失禁時の介護の留意点 11.利用者の状態・状況に応じた清潔に関連した 感覚機能が低下している人の介護 12.利用者の状態・状況に応じた休息・睡眠/ターミナル・人生の最終章に関連した介助の留意点 13.実技評価・まとめ</p>			



科目名	生活支援技術Ⅲ(応用)	前期	2 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護	演習	
担当者	泉 妙子		

[ 成績評価方法 ]  
実技試験50点、レポート課題50点などの総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポート課題にはコメントを返す。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法: 課題別実技への取り組み・事例問題への取り組み・終講実技試験

学科DP番号/DP内容: 福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法: 課題別実技への取り組み・事例問題への取り組み・終講実技試験

学科DP番号/DP内容: 福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法: 課題別実技への取り組み・事例問題への取り組み・終講実技試験

学科DP番号/DP内容: 福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法: 課題別実技への取り組み・事例問題への取り組み・終講実技試験

学科DP番号/DP内容: 福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法: 課題別実技への取り組み・事例問題への取り組み・終講実技試験

学科DP番号/DP内容: 福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。

成績評価方法: 課題別実技への取り組み・事例問題への取り組み・終講実技試験

学科DP番号/DP内容: 福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法: 課題別実技への取り組み・事例問題への取り組み・終講実技試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 課題別実技への取り組み・事例問題への取り組み・終講実技試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 事例問題への取り組み・終講実技試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 課題別実技への取り組み・事例問題への取り組み・終講実技試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 事例問題への取り組み・終講実技試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 事例問題への取り組み・終講実技試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 事例問題への取り組み・終講実技試験

[ 教科書(ISBN) ]

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ～Ⅲ 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版(978-4-8058-3941-6)

[ 参考書(ISBN) ]

P11001730 [ WWH3-037 ]

[3福C]\*前期水3・4

科目名	生活支援技術Ⅳ(個別介護技術)	後期	2 単位
サブタイトル	個別介護技術	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

- 1.対象となる人の心身の状況を把握し、個別的支援のできる介護技術や知識について修得する。
- 2.環境を整えることによって潜在能力を引き出し、その人の自立・自律を尊重した生活支援技術を身に着ける。
- 3.安全への配慮・プライバシー保護・その人らしさや楽しみとなる生活について考え実践できる。
- 4.生活場面において、多職種連携やチームの一員として役割を果たすことができる能力を養う。
- 5.ターミナルケアでの多職種連携、介護技術、グリーフケア等介護福祉士の役割の実践を理解する。
- 6.医療行為ではない支援による自立や生活範囲の拡大への個別支援を習得する。

[授業概要]

尊厳の保持の観点から、利用者の状況に合わせ、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、個別介護技術や知識について習得する。これらを教員のケア経験を活かして指導する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

これまで学習、実習体験で習得した生活支援技術の復習をしておく。授業内容を復習し、次回の授業の予習として教科書の内容を確認しておくこと。予習復習を合わせて4時間程度の学修をしておく。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 特性に応じた生活支援技術
3. 自立に向けた身じたくの介護
4. 自立に向けた身じたくの介護(事例)
5. 自立に向けた移動の介護
6. 自立に向けた移動の介護(事例)
7. 自立に向けた食事の介護
8. 自立に向けた食事の介護(事例)
9. 自立に向けた排泄の介護
10. 自立に向けた排泄の介護(事例)
11. 自立に向けた入浴・清潔・整容の介護
12. 自立に向けた入浴・清潔・整容の介護(事例)
13. 休息・睡眠の介護
14. 休息・睡眠の介護(事例)
15. 人生の最終段階における介護
16. 人生の最終段階における介護(事例)
17. 介護過程の展開(事例1)
18. 個別介護計画に基づく介護過程の展開
19. 個別介護計画に基づく介護過程の展開(事例2)
20. 個別介護計画に基づく介護過程の展開
21. 個別介護計画に基づく介護過程の展開(事例3)
22. チームアプローチへの協働の実際
23. チームアプローチへの協働の実際(事例)
24. 緊急時の対応・応急手当・心肺蘇生への対応
25. 緊急時の対応・応急手当・心肺蘇生への対応(事例)
26. まとめ

科目名	生活支援技術Ⅳ(個別介護技術)	後期	2 単位
サブタイトル	個別介護技術	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

実技試験(20%) 筆記試験(60%)レポート(10%)授業への取り組み(10%)の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

- ・実技試験と筆記試験等で評価します。実技試験は講評します。
- ・レポートは添削してフィードバックします。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:実技試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:筆記試験及びレポート

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:実技試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業への取り組み及び実技試験

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:授業への取り組み及び筆記試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み及び実技・筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み及び実技・筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み及び実技・筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:授業への取り組み及び実技・筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業への取り組み及び実技・筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業への取り組み及び実技・筆記試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:授業への取り組み及び実技・筆記試験

[ 教科書(ISBN) ]

最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(既に購入済み) 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会 出版社:中

科目名	生活支援技術Ⅴ(家政)	前期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]  介護福祉士として高齢者や障害者の生活支援、ADLやQOLの維持・向上のために、生活支援技術Ⅴ(家政)授業を通して衣・食・住生活に関する基礎的なことができるようになる。  特に健康面に関連のある食生活を重点に咀嚼・嚥下能力などに応じた食事提供もできるような食生活支援能力を身につけるようになる。</p> <p>[授業概要]  高齢者の多くは、公的年金や生活保護によって生活を営んでいる。そのため、高齢者の生活経営・経済を学んでおく必要がある。  衣生活においては高齢者や障がい者の衣生活に必要な知識を得ることと、手縫いでできる簡単な作業を取り入れることで、裁縫の基礎知識を得るようにする。  住生活では、健康で快適な住環境について講義と現地研修を行い安全な住環境について学ぶ。  食生活では、食生活支援は、人間の尊厳と深く関わる行為であるため、健康状態や個別的ニーズに合った食事提供ができるよう調理支援にひつような知識と調理技術を習得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。  前回の授業内容の復習を行うこと。  実習時のレポートは次回までの授業時間外に仕上げてください。</p> <p>[授業計画]  1.2.生活経営・経済について、自立に向けた家事の介護  3.4.衣生活について①  5.6.衣生活について②(手作りグッズ制作を含む)  7.8.住生活について①  9.10.住生活について②(人と防災未来センターに見学を含む)  11.12.食生活について  13.14.介護食の調理①  15.16.介護食の調理②  17.18.コントロール食の調理①  19.20.コントロール食の調理②  21.22.行事食の調理①  23.24.行事食の調理②  25.26.まとめ・返却レポートの解説  ※ ただし、多少内容に変更が生ずることもあります。</p>			

科目名	生活支援技術Ⅴ(家政)	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(50%)、小テスト(20%)、授業態度(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・レポートは、後日添削を行い返却します。 ・小テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法: レポート、小テスト、実習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート、小テスト、授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 新版 福祉のための家政学 著者名:中川英子 編著 出版社:建帛社(978-4-7679-3379-5)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 生活支援のための調理実習 [第3版] 著者名:田崎裕美・中川英子 編著 出版社:建帛社(978-4-7679-3392-4)</p>			

科目名	精神医学と精神医療 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	酒井 亮		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患の症状を理解し、その分類方法について理解する。</li> <li>・精神疾患の要因を理解し、診断方法と治療方法について理解する。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>精神科医としての臨床経験を有する教員が、その経験を活かして以下の通りに授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学の歴史について学ぶ。</li> <li>2. 精神疾患の症状、要因、診断方法について学ぶ。</li> <li>3. 精神疾患の治療方法について学ぶ。</li> </ol> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神医学の基礎である「脳の働き」について自主学習しておく。</li> </ul> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 精神医学の歴史</li> <li>2, 現在の精神医学の概念</li> <li>3, 精神疾患の症状と状態①</li> <li>4, 精神疾患の症状と状態②</li> <li>5, 精神疾患の身体的要因①</li> <li>6, 精神疾患の身体的要因②</li> <li>7, 精神疾患の心理社会的要因①</li> <li>8, 精神疾患の心理社会的要因②</li> <li>9, 精神疾患の診断方法①</li> <li>10, 精神疾患の診断方法②</li> <li>11, 精神疾患の治療方法①</li> <li>12, 精神疾患の治療方法②</li> <li>13, まとめ</li> </ol>			

科目名	精神医学と精神医療 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	酒井 亮		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート課題(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業の中で課題を提出し、解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	精神医学と精神医療Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		講義	
担当者	酒井 亮		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な精神疾患について、症状、要因、診断について理解する。</li> <li>・代表的な精神疾患について、病理と治療について理解する。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>精神科医としての臨床経験を有する教員が、その経験を活かして以下の通りに授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な精神疾患の症状と診断について学ぶ。</li> <li>2. 代表的な精神疾患の心理学的理解について学ぶ。</li> <li>3. 代表的な精神疾患の治療について学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>代表的な精神疾患である「認知症」、「統合失調症」、「気分障害」について自主学習しておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 認知症①</li> <li>2, 認知症②</li> <li>3, 統合失調症①</li> <li>4, 統合失調症②</li> <li>5, 気分障害①</li> <li>6, 気分障害②</li> <li>7, ストレス関連障害①</li> <li>8, ストレス関連障害②</li> <li>9, 不安障害①</li> <li>10, 不安障害②</li> <li>11, 知的障害, 発達障害①</li> <li>12, 知的障害, 発達障害②</li> <li>13, まとめ</li> </ol>			



科目名	精神医学と精神医療Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	酒井 亮		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート課題(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中に課題を提出し、解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	精神障害リハビリテーション論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	瀧本 優子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[ 到達目標 ]

精神保健福祉における専門的援助技術を学び、精神障害者リハビリテーションの対象者の特性と様々な分野におけるリハビリテーションの理論や実践を事例を通し具体的に理解する力を身につける。

[ 授業概要 ]

1. 精神障害者を対象とした精神障害リハビリテーションを精神保健福祉士の視点で理解させる。
2. 社会生活支援の一環としての精神障害リハビリテーションの様々な支援について理解させる。
3. 精神障害リハビリテーションについて具体的事例に基づき理解させる。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

各回の授業のテーマについて記載のあるテキストの部分を読み、配布資料のまとめの問題をおさらいするために、4時間程度の予習復習をして授業に臨んでください。

[ 授業計画 ]

1. 精神障害リハビリテーションとは
2. 精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク
3. ICFを活用した課題分析
4. 精神障害リハビリテーションの理念・定義・基本原則
5. 精神障害リハビリテーションの構成と展開
6. 精神障害リハビリテーションのプログラムの概要
7. 医学的リハビリテーションプログラム
8. 職業的リハビリテーションプログラム
9. 社会的リハビリテーションプログラム
10. 教育的リハビリテーションプログラム
11. 家族支援プログラム
12. ソーシャルワークとSST(social skills training)
13. 当事者主体のプログラム
14. 多職種連携とチームアプローチの実際
15. まとめ

科目名	精神障害リハビリテーション論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	瀧本 優子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み姿勢(授業態度)20%、試験やレポート80%  成績評価については、必要に合わせた形で各自へのフィードバックを行う。  また疑問点などはメールにて対応を行う。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  遠隔授業になった場合はZoomを用いた授業形態で上記計画を実施します。  授業の課題に関してはmanabaやメールにてフィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  精神障害リハビリテーション論【新・精神保健福祉士シリーズ5】 著者名:古屋龍太・森山拓也 出版社:株式会社弘文堂 (978-4-335-61129-2)</p>			

科目名	精神保健福祉制度論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 精神保健福祉に関連する法制度について理解する。</p> <p>[授業概要] 精神保健福祉法、医療観察法をはじめとし、生活支援に関する制度、経済的支援に関する制度等精神保健福祉に関連する法制度について、その概要と課題の理解を促していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 障害者福祉、精神障害者福祉に関心を持ち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。 前回の講義内容について、テキストや配布資料をもとに復習する。 各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 精神障害者に関する制度・施策の理解(1)</li> <li>3. 精神障害者に関する制度・施策の理解(2)</li> <li>4. 精神障害者の医療に関する制度(1)</li> <li>5. 精神障害者の医療に関する制度(2)</li> <li>6. 精神障害者の医療に関する制度(3)</li> <li>7. 精神障害者の生活支援に関する制度(1)</li> <li>8. 精神障害者の生活支援に関する制度(2)</li> <li>9. 事例検討(1) 学外特別講師</li> <li>10. 事例検討(2)</li> <li>11. 精神障害者の経済的支援</li> <li>12. 精神障害者と生活困窮</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	精神保健福祉制度論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・発表・・・30%  最終試験・・・20%  授業への参加度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  最終試験・・・指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点をおさえてまとめられているか評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  最終試験については、回収後、回答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  最新精神保健福祉士養成講座  精神保健福祉制度論 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 出版社:中央法規出版  (978-4-8058-8255-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  授業中適宜指定する</p>			

科目名	精神保健福祉の原理 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉の基本的枠組みについて理解する。</li> <li>・精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>本授業では、障害者福祉の基本的枠組みについて学ぶとともに、精神障害に係る歴史や法制度等を学ぶなかで、ソーシャルワーク専門職である精神保健福祉士の存在意義やソーシャルワーク専門職としてのものの見方や考え方等について理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>障害者福祉、精神障害者福祉に関心をもち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。前回の講義内容について、テキストや配布資料をもとに復習する。各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 障害の捉え方(1)</li> <li>3. 障害の捉え方(2)</li> <li>4. 障害の捉え方(3)</li> <li>5. 障害者福祉の理念(1)</li> <li>6. 障害者福祉の理念(2)</li> <li>7. 障害者福祉の理念(3)</li> <li>8. 精神保健福祉の歴史的展開(1)</li> <li>9. 精神保健福祉の歴史的展開(2)</li> <li>10. 精神障害と精神障害者の概念(1)</li> <li>11. 精神障害と精神障害者の概念(2)</li> <li>12. 精神障害と精神障害者の概念(3)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	精神保健福祉の原理 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・発表・・・30%  最終試験・・・20%  授業への参加度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  最終試験・・・指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点をおさえてまとめられているか評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  最終試験については、回収後、回答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  最新精神保健福祉士養成講座5  精神保健福祉の原理 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 出版社:中央法規 (978-4-8058-8256-6)</p>			

科目名	精神保健福祉の原理Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉の基本的枠組みについて理解する。</li> <li>・精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>本授業では、障害者福祉の基本的枠組みについて学ぶとともに、精神障害に係る歴史や法制度等を学ぶなかで、ソーシャルワーク専門職である精神保健福祉士の存在意義やソーシャルワーク専門職としてのものの見方や考え方等について理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>障害者福祉、精神障害者福祉に関心をもち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。前回の講義内容について、テキストや配布資料をもとに復習する。各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 障がい者福祉の現状と課題</li> <li>3. 諸外国における排除の歴史とその後の展開</li> <li>4. 日本における排除の歴史と構造(1)</li> <li>5. 日本における排除の歴史と構造(2)</li> <li>6. 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み</li> <li>7. 精神障害者の生活特性(1)</li> <li>8. 精神障害者の生活特性(2)</li> <li>9. 精神保健福祉の原理と理念(1)</li> <li>10. 精神保健福祉の原理と理念(2)</li> <li>11. 精神保健福祉士の役割と機能(1)</li> <li>12. 精神保健福祉士の役割と機能(2)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			



科目名	精神保健福祉の原理Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・発表・・・30%  最終試験・・・20%  授業への参加度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  最終試験・・・指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点をおさえてまとめられているか評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  最終試験については、回収後、回答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション内容、授業参加状況</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  最新精神保健福祉士養成講座5  精神保健福祉の原理 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 出版社:中央法規(978-4-8058-8256-6)</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]  相談援助職(ソーシャルワーカー)に求められる基本的な姿勢(価値観・倫理観・視点・態度)を身につけることを目指す。より具体的には、新聞や専門雑誌の記事及び相談援助事例や現場実践報告などを読み・聞くことを通して、また関心のあるテーマについて研究することを通して、福祉課題を抽出し、ソーシャルワークの視点で考察できるようになることを目標とする。</p> <p>[授業概要]  福祉サービス利用者やその家族に対する、生活支援や相談援助をテーマにする。まず、利用者・家族の心理・行動や社会環境の中にある生活問題を理解し、生活全体をとらえる視点を養う。その上で、利用者や家族が必要とするサービスや支援につなぐ「相談援助活動」(ソーシャルワーク)のあり方について学ぶ。ここでは特に、利用者を「できない人」「弱者」として上から見るのではなく、「対等な市民」として尊重する基本姿勢を大切にす。新聞記事を読んだり、利用者・家族や現場の社会福祉士のお話を直接伺ったり、相談援助事例を読み解いたり、また希望があれば、施設を見学したり、利用者・家族の地域での支援活動や外部の学習会に参加したりできるようにする。利用者・家族が直面するさまざまな生活課題について、またその支援のあり方について、一緒に考えていくゼミにしたいと考えている。障害者分野の生活支援・相談援助を中心とするが、高齢者等の分野も必要に応じて取り上げ、幅広い利用者の相談援助について学ぶ。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、相談援助実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるように授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、社会福祉について幅広い関心を持ち、新聞記事・専門雑誌・学外セミナーやボランティア活動などを通して、様々な福祉課題について主体的に学ぶ姿勢を持つこと。</p> <p>[授業計画]  1. オリエンテーション  2. 図書館の活用法を学ぶ  3. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題①  4. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題②  5. ソーシャルワークにおける人間理解①  6. ソーシャルワークにおける人間理解②  7. ソーシャルワークにおける社会環境の理解①  8. ソーシャルワークにおける社会環境の理解②  9. 事例を通して学ぶ障害者と家族の生活ニーズ  10. 当事者・家族から学ぶ障害者と家族の生活ニーズ(学外特別講師)  11. 事例を通して学ぶ高齢者と家族の生活ニーズ  12. 映像から学ぶ社会福祉  13. まとめ</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク	演習	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ゼミ発表、授業内レポートの評価については、その場で、翌週の授業で、あるいは学科期末の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。授業の中で、プリント等を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業の中で随時紹介します。</p>			

P11001040 [ WWH3-001 ]

[3福]\*前期火2

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を理解し受け入れる(自己覚知)。</li> <li>・他者を理解し受け入れる。</li> <li>・自らが人生の主役として、大人として責任をもった行動ができるようになる。</li> <li>・対人支援の実践者として、自らの実践基盤と支援者としてのあり方の確立を図る。</li> <li>・社会福祉士の倫理綱領を理解し、専門職としての自覚を持つ。</li> <li>・卒業論文を執筆する力を身につける。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>対人支援は価値、知識、技術を身につけたとしても、実践に活かされなければ意味をなさない。相手を理解し、寄り添い支援するにあたり、自らの実践基盤と支援者としてのあり方を追究する。</p> <p>興味関心のあるテーマについて調べ報告するプロセスを通して、自分自身の考えを他者に理解をもらう方法と、他者の意見に傾聴することの重要性を学んでいく。自分と他者との価値観の違いに気づき、一人ひとりの存在を実感する。さらに、フィールドワークとして地域の高齢者のニーズに関連した関わりを持つことにより、支援者としての在り方を追究していく。</p> <p>また、自らが経験した実践を振り返り、深く考察する。4年生でまとめる、卒業論文に向けて文献検索や論文の書き方、調査方法を学ぶ。</p> <p>教員の高齢の知的障がいのある人の入所施設や海外ボランティアの経験や事例を通して、ディスカッションやグループワーク、ロールプレイを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から授業に関する新聞、ニュース等に関心をもつこと。</p> <p>関心領域のセミナー等に参加すること。</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業の進め方、自己紹介</li> <li>2. 多角面からのものの見方や考え方</li> <li>3. 社会福祉の価値や倫理を考える①</li> <li>4. 社会福祉の価値や倫理を考える②</li> <li>5. 社会福祉とは何か</li> <li>6. 文献検索の方法</li> <li>7. ソーシャルワークにおける人間の理解(フィールドワーク)</li> <li>8. ソーシャルワークにおける環境の理解(フィールドワーク)</li> <li>9. 高齢者や障がいのある人の生活とニーズの理解(フィールドワーク)</li> <li>10. 支援者としての視点</li> <li>11. 専門職としての姿勢を学ぶ①(フィールドワーク)</li> <li>12. 専門職としての姿勢を学ぶ②(フィールドワーク)</li> <li>13. 様々な人々の生活について</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える	演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(30%)、課題発表(30%)、授業への取り組み(40%) レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を備えている。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし 授業で紹介する</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業で紹介する</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 自分の研究したいテーマを見つけ卒業論文へとつなぐ。</p> <p>[授業概要] ゼミのテーマ:「発達を支援する一専門家としての力量を高めるために」 人は人らしく生きるために生涯、発達を続けます。子どもを育てる、人を育てるとことは社会の大切なプロジェクトであり、同時にそれぞれが育っていくプロセスでもあります。 地域で他の専門職(保健師・教師・セラピスト等)と共に子どもや家族を支援していくことを学生の皆さんそれぞれ興味関心のある切り口から、学習していきます。長年勤務してきた障害児施設や、現在臨床現場で出会っている多くの子どもたちと家族の方々から学んだ実践の知識とスキルを、そして子どもの成長する力、人の成長し続ける力を信じる大切さを、臨床心理士としての視点も加えて伝えていきたいと考えています。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 社会で起きている様々な事象を知ろうとし、疑問点について皆と考える素材提出ができるよう、各回予習復習合わせて2時間程度準備する。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 文献講読とプレゼンテーション 3. 文献講読とプレゼンテーション 4. 文献講読とプレゼンテーション 5. 文献検索の実際 6. 文献検索の実際 7. 論文講読と発表及びディスカッション 8. 論文講読と発表及びディスカッション 9. 論文講読と発表及びディスカッション 10. 論文講読と発表及びディスカッション 11. 論文講読と発表及びディスカッション 12. 施設現場見学 13. 施設現場見学 14. 対人援助を学ぶワークショップ 15. 対人援助を学ぶワークショップ 16. 論文の書き方 17. 論文の書き方 18. 論文の書き方 19. 研究テーマに基づいた発表会 20. 研究テーマに基づいた発表会 21. 研究テーマに基づいた発表会 22. 研究テーマに基づいた発表会 23. 研究テーマに基づいた発表会 24. 研究テーマに基づいた発表会 25. 卒業論文のテーマを決める 26. 卒業論文のテーマを決める</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 受講態度 (50%)・レポート(50%)を総合して評価する</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日返却してフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える	演習	
担当者	清水 弥生		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

卒業論文執筆の準備段階として、調査、研究、発表の技法を学び、議論する中で、自分の関心のある研究分野、対象を探ることができるようになる。ゼミでの学びの中で社会政策的観点から考えることができるようになること、ソーシャルリフォームの視点を持つことができるようになることが3年次ゼミの目標である。

[授業概要]

私たちが安心して暮らすための、生活を支えるさまざまな社会制度・政策は、実際にどのように行われ、どのような問題があるのだろうか。例えば、高齢者に関わる制度がめまぐるしく変化しているが、それはどのような影響を高齢者の生活に及ぼすのだろうか。様々な問題を、文献講読、新聞記事、NPO等の見学等を通して、深く考え批判考察する技能を身につけていきたい。  
授業では、医療福祉、高齢者福祉、ジェンダー問題、在住外国人、北欧福祉国家の現状等に関するいくつかの社会政策の課題の中から、ゼミ生の関心・テーマに沿っていくつかを選び、勉強していく。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

新聞を毎日読む、ニュースを見る等、社会を理解するための基本的な知識を身につける。その上で社会福祉関連の文献を日常的に読みこなせるよう読書習慣をつけておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 図書館利用と文献検索の方法
3. レジュメ・レポートの書き方
4. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題①
5. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題②
6. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題③
7. 個別のテーマに沿った文献講読と発表①
8. 個別のテーマに沿った文献講読と発表②
9. 個別のテーマに沿った文献講読と発表③
10. 講義に関するディスカッション
11. 社会福祉施設見学準備
12. 施設見学など
13. 見学振り返り・前期のまとめ



科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える	演習	
担当者	清水 弥生		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題への取り組み(40%)、ゼミ発表の内容(30%)、課題レポート(30%)による総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・レポートは授業内、もしくは個別にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業中に指定</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業中に指定</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 子どもをとりまく様々な生活問題、それに対するサービスや支援について学び、考察できるようになる。</p> <p>[授業概要] 近年子どもをとりまく問題は、児童虐待に代表されるように、深刻かつ複雑化しています。子どもは自身のしんどさやつらさに気づき、それを訴え、自ら解決していくことは困難です。支援者として子どもの置かれた状況や子どもの思いに想像力を働かせ、「子どもの最善の利益」を追究する視点が求められます。本演習では、子どもをとりまく様々な問題について、主に文献講読や個別発表を通して、その実情や背景を理解していくとともに、その支援のあり方について考察していきます。授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携のあり方など担当教員の児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 日頃から新聞、雑誌、TVニュース等で授業に関連する出来事に関心をもつようにしてください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 子どもをとりまく問題(映像を通して) 3. 子どもをとりまく問題(新聞記事を通して) 4. レジュメ、レポートの書き方 5. 文献講読と個別発表、ディスカッション 6. 文献講読と個別発表、ディスカッション 7. 文献講読と個別発表、ディスカッション 8. 文献講読と個別発表、ディスカッション 9. 文献講読と個別発表、ディスカッション 10. 文献講読と個別発表、ディスカッション 11. 文献講読と個別発表、ディスカッション 12. 施設見学など 13. まとめ</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援	演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(50%)、授業中の態度・ディスカッション等への参加(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業の中で指示する。</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①高齢者一人ひとりの福祉を追求する意義とそのための支援が理解できる。  ②介護予防・介護負担軽減に向けた支援が理解できる。  ③卒業論文で取り組むテーマの方向性が明確になる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>高齢者の福祉の実現に向けた回想法実戦の経験がある教員が、高齢者の特徴や高齢期の生きがいの特徴について学んだうえで、高齢者の福祉の実現につながる生きがいの再獲得に向けた支援について指導します。そのための支援の1技法を習得するために、グループ回想法の演習を取り入れながら勉強していきます。また、回想法などのアクティビティを通して、介護予防や高齢者のその人らしさを尊重した支援につながるアセスメント能力を育てていきます。そして、介護負担感の軽減にも役立つ、社会福祉専門職としての対人支援能力習得に向けて指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>下記の予習・復習を各回2時間程度  高齢者を取り巻くさまざまな課題について理解するために普段から新聞記事を読む。  授業内容を毎回ノートに整理して復習し、自己の問題意識が明確になるよう自主的に学習する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. グループワーク</li> <li>3. 福祉の概念</li> <li>4. 高齢者の生きがい</li> <li>5. 高齢者を取り巻く課題</li> <li>6. 卒業生との交流</li> <li>7. 回想法とは</li> <li>8. 回想法の技法</li> <li>9. 高齢者と介護職員への回想法の介入効果</li> <li>10. 地域作りに向けた活動</li> <li>11. 文献検索</li> <li>12. 回想法(フィールドワーク)</li> <li>13. 介護予防に向けた支援(フィールドワーク)</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者福祉	演習	
担当者	津田 理恵子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題40%、授業参加度30%、レポート30%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートや課題にはコメントを記入してフィードバックする。個別面談を適宜行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業参加度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で紹介する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜資料を配布する。授業の中で紹介する。</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	今後の社会福祉支援について、文献やネット、現場見学などから検証します。	演習	
担当者	佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1)今日の社会福祉の現状から、課題と臨むべき方向について考察します。  2)ワークライフバランスの視点から検討します。  3)研究テーマに沿って、ディスカッション、レポート作成を行います。  4)前期、後期に社会福祉現場を訪問し、理解を進めます。</p> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉の現状について、専門書やレポート、動画などを活用して、自分の考えをまとめます。卒論に取り組む前段階の考察、洞察する体験となりますので、積極的に意見を表明してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>課題本を、授業前に必ず読み、授業後はその感想をまとめてください。特に、発表の当番の時は、発表用のレジュメ、資料を作成して、配布してください。各回、予習復習合わせて2時間程度してください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2.社会の変化、社会福祉の課題を検証します。</li> <li>3.家族と福祉レジュメ</li> <li>4.新たな政策に課せられた挑戦</li> <li>5.少子高齢化の現実</li> <li>6.ライフスタイルの変化</li> <li>7.国家、市場、各種団体による新たな役割分担</li> <li>8.関連する機関・施設見学</li> <li>9.児童福祉の現状と課題</li> <li>11.新たな挑戦</li> <li>12.増加し続ける障壁-所得不平等の拡大</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	今後の社会福祉支援について、文献やネット、現場見学などから検証します。	演習	
担当者	佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題50%・資料整理30%・授業態度20%などの総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 適時、学んだこと、各自まとめたことを文章化して、提出してもらいます。確認後、各自に直接返却して相互に検証します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:演習の参加、発表内容等で評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 特に指定しません。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉及び介護福祉現場の労働環境について理解する。</li> <li>・働きやすい職場づくりに何が必要か考察し自分の意見を持つことができる。</li> <li>・研究について自分が関心のあるテーマを見つけていく。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>福祉・介護人材が不足する中、「今後仕事で重視すること」(令和2年度 社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士就労状況調査より)には、「職場の雰囲気や人間関係」「心身の健康状態の維持」「給与や賃金の水準」等が挙げられている。職場を離職する理由も同様である。長く働ける職場、やりがいをもって楽しく働ける職場づくりは社会福祉施設及び労働者の大きな課題となっている。授業では、社会福祉及び介護福祉現場の状況を、国の調査や文献、新聞などを読み解き理解する。また、先輩や現場の方々の話を聴いたり、実際に福祉現場を訪問したりし、福祉関連職の現状と課題を把握し理解を深める。そして、働きやすい環境づくりにはどのような要素が必要なのかグループワークやプレゼンテーションを行いながら、私たちができることを考察していく。学習を通し、関心のあるテーマや自分の研究テーマを見つけていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞、雑誌、TVニュース等授業に関する出来事に関心を持っておく。 各回について予習復習合わせて2時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 社会福祉・介護福祉の働く場</li> <li>3. 社会福祉・介護福祉の労働環境</li> <li>4. 社会福祉・介護福祉の労働者を取り巻く状況</li> <li>5. 介護労働実態調査を読み解く①</li> <li>6. 介護労働実態調査を読み解く②</li> <li>7. 社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士就労状況調査を読み解く①</li> <li>8. 社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士就労状況調査を読み解く②</li> <li>9. 介護現場職員の実態</li> <li>10. 福祉施設等の実際(フィールドワーク)</li> <li>11. 個別発表とディスカッション</li> <li>12. 個別発表とディスカッション</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			



科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]  
授業への参加度(50%)、課題・レポート(30%)、発表(20%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートは後日添削して返却します。  
発表・プレゼンテーションについては講師にてフィードバックします。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:授業参加状況および発表

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況および発表

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業参加状況およびレポート課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況および発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

[ 教科書(ISBN) ]  
なし

[ 参考書(ISBN) ]  
なし

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 社会福祉専門職として必要となる姿勢や視点を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 本授業では、学生一人一人が自身の関心ある研究テーマを見つけ、社会福祉や精神保健福祉に関する学びを深めていく。最終的には卒業研究としてまとめていくことになるが、その前段階として、まずは、さまざまな文献を読み進めていく(文献購読)。文献を読むごとに、毎回、どうしてその文献に関心を持ったのか?、文献の内容、どのような考察を行ったか等、授業時に発表を行う。自身の発表や他学生の発表を聴くことにより、社会福祉、精神保健福祉の関心を高めるとともに、自分がどのようなテーマに関心を持っているのかを明確にし、研究テーマを見出していく。 また、文献購読及び発表を行うことにより、文章能力及びプレゼンテーション能力の向上も図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容について復習をおこなうとともに、指示された課題についてしっかりと取り組みましょう。各回について予習復習を2時間程度行ってください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. レポートの作成方法 3. 文献研究とは 4. 関心あるテーマについて考える 5. 関心あるテーマについて考える 6. 文献購読と個別発表、ディスカッション 7. 文献購読と個別発表、ディスカッション 8. 文献購読と個別発表、ディスカッション 9. 文献購読と個別発表、ディスカッション 10. 文献購読と個別発表、ディスカッション 11. 文献購読と個別発表、ディスカッション 12. 文献購読と個別発表、ディスカッション 13. まとめ</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・レポート・・・50%  授業への参加度・・・授業中の積極的参加  課題・・・課題への取り組み、期日内の提出、授業内での課題内容の発表  レポート・・・指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなから、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  授業の中で指示する。</p>			

P11001040I [ WWH3-001 ]

[3福]\*前期火2

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	多文化ソーシャルワーク・マイノリティ研究・当事者研究	演習	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 文献研究、フィールドワーク、ディスカッションを通して、ソーシャルワークに求められる多角的な視点を養い、自分の研究したいテーマを決めていく。</p> <p>[授業概要] 「多文化ソーシャルワーク」、「マイノリティ研究」、「当事者研究」をテーマとして、理論と実践を学ぶ。 具体的には「多文化ソーシャルワーク」はどのような概念・実践なのか、ということや、「マイノリティ」、「当事者」への一方的なラベリングを批判的に考察し、新たな視点による(その人の立場性)について議論する。 上記の理論研究に加え、実践研究にも重きを置く。実践研究については、担当教員がNPO法人の立ち上げや運営、ソーシャルワーク実践に携わっていることを活かして、フィールドワークや事例研究を行う。 理論と実践の円環性への学びを深め、ソーシャルワークに求められることを追求する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習・復習合わせて2時間程度の学修を行う。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 図書館の活用 3. 文献講読 4. 文献講読 5. 文献講読 6. 文献講読 7. 文献講読 8. 文献講読 9. 文献講読 10. 多文化ソーシャルワークの実際(学外特別講師) 11. フィールドワーク 12. まとめ1 13. まとめ2</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	多文化ソーシャルワーク・マイノリティ研究・当事者研究	演習	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題発表 (50%)・授業への積極的態度 (50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容によっては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 授業にて指定</p>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	地域社会を「知ること」と「つくること」	演習	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 地域社会を「知ること」と「つくること」について、ゼミの仲間や地域における多様な主体と協働して、積極的に学びを深めることができる。</p> <p>2. 4年次の卒業論文に向けて、調査・研究および口頭発表・論文執筆の方法を体験的に学ぶとともに、自分の研究テーマを設定することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>8050問題、ひきこもり、ごみ屋敷、ダブルケア、ヤングケアラーなど、私たちがとりまく地域生活課題はますます複雑化・複合化している。このような背景のもと、国は「地域共生社会の実現」を掲げて、これからの社会福祉のあり方を模索している。ここでいう「地域共生社会」とは、地域に暮らす住民や多様な主体が地域生活課題に気づき、ともに解決することに加えて、一人ひとりの暮らしと生きがいおよびその基盤である地域をともにつくっていくことを実現する社会を意味する。ゼミでは、まず身近な地域社会を「知ること」から始め、その上で地域生活課題とストレスをふまえながら、地域共生社会を「つくること」に関する学びを深めていきたい。</p> <p>3年次前期は、地域社会を「知ること」について、身近な地域社会をフィールドに設定し、①既存資料の分析、②地域踏査、③社会福祉調査(質的・量的調査)を理論的・実践的に学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(2時間程度)</p> <p>日頃から国内外の社会状況や社会福祉の動向、身近な地域社会に関心を持ち、基本的な知識を身につけておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 図書館の利用と文献検索の方法</li> <li>3. レジューメ・レポートの書き方</li> <li>4. 地域社会をとりまく現状と課題①</li> <li>5. 地域社会をとりまく現状と課題②</li> <li>6. 個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション①</li> <li>7. 個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション②</li> <li>8. 個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション③</li> <li>9. 地域社会を知る方法①:3つの方法</li> <li>10. 地域社会を知る方法②:フィールドワークの計画・準備</li> <li>11. 地域社会を知る方法③:フィールドワークの実施</li> <li>12. 地域社会を知る方法④:フィールドワークの振り返り</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	2 単位
サブタイトル	地域社会を「知ること」と「つくること」	演習	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における学修状況 (70%)、レポート(30%)により総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 授業内に指示する。</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 授業内に指示する。</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]  相談援助職(ソーシャルワーカー)に求められる基本的な姿勢(価値観・倫理観・視点・態度)を身につけることを目指す。より具体的には、新聞や専門雑誌の記事及び相談援助事例や現場実践報告などを読み・聞くことを通して、また関心のあるテーマについて研究することを通して、福祉課題を抽出し、ソーシャルワークの視点で考察できるようになることを目標とする。</p> <p>[授業概要]  福祉サービス利用者やその家族に対する、生活支援や相談援助をテーマにする。まず、利用者・家族の心理・行動や社会環境の中にある生活問題を理解し、生活全体をとらえる視点を養う。その上で、利用者や家族が必要とするサービスや支援につなぐ「相談援助活動」(ソーシャルワーク)のあり方について学ぶ。ここでは特に、利用者を「できない人」「弱者」として上から見るのではなく、「対等な市民」として尊重する基本姿勢を大切に。新聞記事を読んだり、利用者・家族や現場の社会福祉士のお話を直接伺ったり、相談援助事例を読み解いたり、また希望があれば、施設を見学したり、利用者・家族の地域での支援活動や外部の学習会に参加したりできるようにする。利用者・家族が直面するさまざまな生活課題について、またその支援のあり方について、一緒に考えていくゼミにしたいと考えている。障害者分野の生活支援・相談援助を中心とするが、高齢者等の分野も必要に応じて取り上げ、幅広い利用者の相談援助について学ぶ。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、相談援助実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるように授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、社会福祉について幅広い関心を持ち、新聞記事・専門雑誌・学外セミナーやボランティア活動などを通して、様々な福祉課題について主体的に学ぶ姿勢を持つこと。</p> <p>[授業計画]  1. オリエンテーション  2. 事例を通して学ぶソーシャルワークの視点と価値①  3. 事例を通して学ぶソーシャルワークの視点と価値②  4. 卒業生との交流  5. 統計資料を通して学ぶ社会福祉の課題①  6. 統計資料を通して学ぶ社会福祉の課題②  7. 自由テーマによる個人研究の発表①  8. 自由テーマによる個人研究の発表②  9. DVD学習  10. 先行研究レビューと文献講読の方法を学ぶ  11. 文献講読①  12. 文献講読②  13. まとめ</p>			



科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク	演習	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ゼミ発表、授業内レポートの評価については、その場で、翌週の授業で、あるいは学科期末の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み(25%)、ゼミ発表の内容(25%)、授業内レポート(50%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。授業の中で、プリント等を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業の中で随時紹介します。</p>			

P11001050 [ WWH3-002 ]

[3福]\*後期火2

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える	演習	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を理解し受け入れる(自己覚知)。</li> <li>・他者を理解し受け入れる。</li> <li>・自らが人生の主役として、大人として責任をもった行動ができるようになる。</li> <li>・対人支援の実践者として、自らの実践基盤と支援者としてのあり方の確立を図る。</li> <li>・社会福祉士の倫理綱領を理解し、専門職としての自覚を持つ。</li> <li>・卒業論文を執筆する力を身につける。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>対人支援は価値、知識、技術を身につけたとしても、実践に活かされなければ意味をなさない。相手を理解し、寄り添い支援するにあたり、自らの実践基盤と支援者としてのあり方を追究する。</p> <p>興味関心のあるテーマについて調べ報告するプロセスを通して、自分自身の考えを他者に理解してもらう方法と、他者の意見に傾聴することの重要性を学んでいく。自分と他者との価値観の違いに気づき、一人ひとりの存在を実感する。さらに、フィールドワークとして地域の高齢者のニーズに関連した関わりを持つことにより、支援者としての在り方を追究していく。</p> <p>また、自らが経験した実践を振り返り、深く考察する。4年生でまとめる、卒業論文に向けて文献検索や論文の書き方、調査方法を学ぶ。</p> <p>教員の高齢の知的障がいのある人の入所施設や海外ボランティアの経験や事例を通して、ディスカッションやグループワーク、ロールプレイを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から授業に関する新聞、ニュース等に関心をもつこと。</p> <p>関心領域のセミナー等に参加すること。</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後期授業の進め方・オリエンテーション</li> <li>2. 関心領域の研究を学ぶ①(フィールドワーク)</li> <li>3. 関心領域の研究を学ぶ②(フィールドワーク)</li> <li>4. 関心領域の研究を学ぶ③(ゲストスピーカー)</li> <li>5. 関心領域の研究を学ぶ④(フィールドワーク)</li> <li>6. 関心領域の文献講読と発表・議論①</li> <li>7. 関心領域の文献講読と発表・議論②</li> <li>8. 関心領域の文献講読と発表・議論③</li> <li>9. 論文の執筆について①</li> <li>10. 論文の執筆について②</li> <li>11. 論文の執筆について③</li> <li>12. 卒業論文に向けて①</li> <li>13. 卒業論文に向けて② まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える	演習	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(30%)、課題発表(30%)、授業への取り組み(40%) レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を備えている。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート,課題発表,授業への取り組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業で紹介する</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業で紹介する</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 自分の研究したいテーマを見つけ卒業論文へとつなぐ。</p> <p>[授業概要] ゼミのテーマ:「発達を支援する一専門家としての力量を高めるために」 人は人らしく生きるために生涯、発達を続けます。子どもを育てる、人を育てるとことは社会の大切なプロジェクトであり、同時にそれぞれが育っていくプロセスでもあります。 地域で他の専門職(保健師・教師・セラピスト等)と共に子どもや家族を支援していくことを学生の皆さんそれぞれ興味関心のある切り口から、学習していきます。長年勤務してきた障害児施設や、現在臨床現場で出会っている多くの子どもたちと家族の方々から学んだ実践の知識とスキルを、そして子どもの成長する力、人の成長し続ける力を信じる大切さを、臨床心理士としての視点も加えて伝えていきたいと考えています。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 社会で起きている様々な事象を知ろうとし、疑問点について皆と考える素材提出ができるよう、各回予習復習合わせて2時間程度準備する。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 文献講読とプレゼンテーション 3. 文献講読とプレゼンテーション 4. 文献講読とプレゼンテーション 5. 文献検索の実際 6. 文献検索の実際 7. 論文講読と発表及びディスカッション 8. 論文講読と発表及びディスカッション 9. 論文講読と発表及びディスカッション 10. 論文講読と発表及びディスカッション 11. 論文講読と発表及びディスカッション 12. 施設現場見学 13. 施設現場見学 14. 対人援助を学ぶワークショップ 15. 対人援助を学ぶワークショップ 16. 論文の書き方 17. 論文の書き方 18. 論文の書き方 19. 研究テーマに基づいた発表会 20. 研究テーマに基づいた発表会 21. 研究テーマに基づいた発表会 22. 研究テーマに基づいた発表会 23. 研究テーマに基づいた発表会 24. 研究テーマに基づいた発表会 25. 卒業論文のテーマを決める 26. 卒業論文のテーマを決める</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 受講態度(50%)・レポート(50%)を総合して評価する</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日返却してフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11001050B [ WWH3-002 ]

[3福]\*後期火2

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える	演習	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文執筆の準備段階として、調査、研究、発表の技法を学び、議論する中で、自分の関心のある研究分野、対象を探ることができるようになる。ゼミでの学びの中で社会政策的観点で考えることができるようになること、ソーシャルリフォームの視点を持つことができるようになることが3年次ゼミの目標である。</p> <p>[授業概要] 私たちが安心して暮らすための、生活を支えるさまざまな社会制度・政策は、実際にどのように行われ、どのような問題があるのだろうか。例えば、高齢者に関わる制度がめまぐるしく変化しているが、それはどのような影響を高齢者の生活に及ぼすのだろうか。様々な問題を、文献講読、新聞記事、NPO等の見学等を通して、深く考え批判考察する技能を身につけていきたい。 授業では、医療福祉、高齢者福祉、ジェンダー問題、在住外国人、北欧福祉国家の現状等に関するいくつかの社会政策の課題の中から、ゼミ生の関心・テーマに沿っていくつかを選び、勉強していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 新聞を毎日読む、ニュースを見る等、社会を理解するための基本的な知識を身につける。その上で社会福祉関連の文献を日常的に読みこなせるよう読書習慣をつけておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 各自の研究テーマ選択についてのガイダンス 2. 個別研究発表① 3. 個別研究発表② 4. 個別研究発表③ 5. 個別研究発表④ 6. 個別研究発表⑤ 7. 外部講師による講義 8. 講義の振り返りとディスカッション 9. 福祉現場で働く卒業生との交流 10. 交流の振り返りと4年生・就職への展望 11. 卒業論文作成に向けて 個別指導 12. 卒業論文作成に向けて 来年度の課題 13. まとめ</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える	演習	
担当者	清水 弥生		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題への取り組み(40%)、ゼミ発表の内容(30%)、課題レポート(30%)による総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・レポートは授業内、もしくは個別にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、ゼミ発表の内容、課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業中に指定</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業中に指定</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援	演習	
担当者	曾田 里美		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

子どもをとりまく様々な生活問題、それに対するサービスや支援について学び、その学びの中から卒業論文作成に向けて、各自関心あるテーマを絞ることができる。

[授業概要]

近年、子どもをとりまく問題は、児童虐待に代表されるように、深刻かつ複雑化しています。子どもは自身のしんどさやつらさに気づき、それを訴え、自ら解決していくことは困難です。支援者として子どもの置かれた状況や子どもの思いに想像力を働かせ、「子どもの最善の利益」を追究する視点が求められます。本演習では、子どもをとりまく様々な問題について、各自テーマを決めて調べて、レジュメにまとめて発表します。ゼミメンバーの子どもの取り巻く様々な問題に対する研究発表を通して、その実情や背景を理解していくとともに、その支援のあり方についてディスカッションしながら考察していきます。授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携のあり方など担当教員の児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていきます。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)  
日頃から新聞、雑誌、TVニュース等で授業に関連する出来事に関心をもつようにしてください。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 各自研究テーマを考える
3. 文献検索の方法
4. 自由テーマによる研究、発表
5. 自由テーマによる研究、発表
6. 自由テーマによる研究、発表
7. 自由テーマによる研究、発表
8. 自由テーマによる研究、発表
9. 施設見学・子どもとの交流など
10. 卒業生との交流
11. 卒業論文の作成に向けて
12. 先輩との交流
13. まとめ



科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援	演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(50%)、授業中の態度・ディスカッション等への参加(50%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート課題、ディスカッション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業の中で指示する。</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	高齢者福祉	演習	
担当者	津田 理恵子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

- ①高齢者一人ひとりの福祉を追求する意義とそのための支援が理解できる。
- ②介護予防・介護負担軽減に向けた支援が理解できる。
- ③卒業論文で取り組むテーマの方向性が明確になる。

[授業概要]

高齢者の福祉の実現に向けた回想法実践の経験がある教員が、高齢者の特徴や高齢期の生きがいの特徴について学んだうえで、高齢者の福祉の実現につながる生きがいの再獲得に向けた支援について指導します。そのための支援の1技法を習得するために、グループ回想法の演習を取り入れながら勉強していきます。また、回想法などのアクティビティケアを通して、介護予防や高齢者のその人らしさを尊重した支援につながるアセスメント能力を育てていきます。そして、介護負担感の軽減にも役立つ、社会福祉専門職としての対人支援能力習得に向けて指導します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

下記の予習・復習を各回2時間程度  
 高齢者を取り巻く課題を理解するために普段から新聞記事を読む。  
 授業内容をノートに整理し、自己の問題意識が明確になるよう自主的に学習する。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 夏休みの課題発表
3. 地域づくりへの取り組み(フィールドワーク)
4. グループワークの実践
5. 自分史ノート
6. 個人回想法体験
7. 卒業生との交流
8. グループ回想法体験
9. 先輩から学ぶ
10. 実践現場から学ぶ
11. 研究・自己の問題意識とテーマ・卒業研究への取り組み方
12. 文献ファイルの作成・研究計画書作成・個別面談
13. 各自で問題意識を持ったテーマについて発表・まとめ

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	高齢者福祉	演習	
担当者	津田 理恵子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題40%、授業参加度30%、レポート30%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートや課題にはコメントを記入してフィードバックする。個別面談を適宜行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それを批判的に読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題、授業参加度、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で紹介する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜資料を配布する。授業の中で紹介する。</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	前期に続いて、今後の社会福祉の在り方を考えます。また、卒業論文、国家試験対策にも取り組めます	演習	
担当者	佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1)今日の社会福祉の現状から、課題と臨むべき方向について考察します。  2)女性のワークライフバランスの視点から検討します。  3)研究テーマに沿って、ディスカッション、レポート作成を行います。  4)前期、後期に社会福祉現場を訪問し、理解を進めます。</p> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉の現状について、専門書やレポート、動画などを活用して、自分の考えをまとめます。卒論に取り組む前段階の考察、洞察する体験となりますので、積極的に意見を表明してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>課題本を、授業前に必ず読み、授業後はその感想をまとめてください。特に、発表の当番の時は、発表用のレジュメ、資料を作成して、配布してください。各回、予習復習合わせて2時間程度してください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.各自の意見発表</li> <li>2.各自の意見発表</li> <li>3.論文作成のための準備</li> <li>4.論文作成のための準備</li> <li>5.中間発表、質疑応答</li> <li>6.質疑応答</li> <li>7.社会福祉関連施設見学</li> <li>8.見学した施設に関する意見発表</li> <li>9.全体発表会</li> <li>10.小論文の作成1</li> <li>11.小論文の作成2</li> <li>12.小論文の作成3</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	前期に続いて、今後の社会福祉の在り方を考えます。また、卒業論文、国家試験対策にも取り組めます	演習	
担当者	佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題50%・資料整理30%・授業態度20%などの総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 適時、学んだこと、各自まとめたことを文章化して、提出してもらいます。確認後、各自に直接返却して相互に検証します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 特に指定しません。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11001050G [ WWH3-002 ]

[3福]\*後期火2

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

- ・社会福祉及び介護福祉現場の労働環境について理解を深める。
- ・働きやすい職場づくりに何が必要か考察し自分の意見を持つことができる。
- ・卒業論文で取り組むテーマの方向性を明確化していく。
- ・研究の進め方・論文執筆の基本的な作法を理解する。

[授業概要]

福祉人材不足の中、長く働ける職場、やりがいをもって楽しく働ける職場づくりは社会福祉施設及び労働者の大きな課題となっている。授業では、前期に学んだ、社会福祉及び介護福祉現場の状況を踏まえ、働きやすい福祉労働環境づくりについてさらに理解を深める。データの分析や福祉現場の見学、先輩や専門職の話を聴いたりし情報を収集しながら、ゼミ生でディスカッションを重ね、個々の学生が問題意識をもって福祉現場の課題について考えられるようにする。あわせて、研究の進め方・論文執筆の基本的な作法を学習しながら、卒業論文で取り組むテーマの方向性を明確化していく。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

新聞、雑誌、TVニュース等授業に関する出来事に関心を持っておく。  
各回について予習復習合わせて2時間程度行う。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 社会福祉・介護福祉の労働環境の課題①
3. 社会福祉・介護福祉の労働環境の課題②
4. 社会福祉・介護福祉の労働環境の課題③
5. 研究の進め方① 研究・論文とは
6. 研究の進め方② 先行研究・文献の収集
7. 研究の進め方③ 論文の構成
8. 介護現場職員の実(フィールドワーク)
9. 介護労働環境の実際(フィールドワーク)
10. 個別研究に向けた発表
11. 個別研究に向けた発表
12. 個別研究に向けた発表
13. まとめ

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]  
授業への参加度(50%)、課題・レポート(30%)、発表(20%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
レポートは後日添削して返却します。  
発表・プレゼンテーションについては講評にてフィードバックします。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法:授業参加状況及びレポート等の課題

[ 教科書(ISBN) ]  
なし

[ 参考書(ISBN) ]  
なし

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 社会福祉専門職として必要となる姿勢や視点を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 本授業では、学生一人一人が自身の関心ある研究テーマを見つけ、社会福祉や精神保健福祉に関する学びを深めていく。最終的には卒業研究としてまとめていくことになるが、その前段階として、まずは、さまざまな文献を読み進めていく(文献購読)。文献を読むごとに、毎回、どうしてその文献に関心を持ったのか?、文献の内容、どのような考察を行ったか等、授業時に発表を行う。自身の発表や他学生の発表を聴くことにより、社会福祉、精神保健福祉の関心を高めるとともに、自分がどのようなテーマに関心を持っているのかを明確にし、研究テーマを見出していく。 また、文献購読及び発表を行うことにより、文章能力及びプレゼンテーション能力の向上も図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容について復習をおこなうとともに、指示された課題についてしっかりと取り組みましょう。各回について予習復習を2時間程度行ってください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. レポート及び論文の書きかた 3. テーマの設定 4. テーマの設定 5. 文献研究 6. 文献研究 7. 文献研究 8. 文献研究 9. 文献研究 10. 学習成果発表 11. 学習成果発表 12. 学習成果発表後の振り返り 13. まとめ</p>			



科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・レポート・・・50%  授業への参加度・・・授業中の積極的参加  課題・・・課題への取り組み、期日内の提出、授業内での課題内容の発表  レポート・・・指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなから、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  授業の中で指示する。</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	多文化ソーシャルワーク・マイノリティ研究・当事者研究	演習	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 文献研究、フィールドワーク、ディスカッションを通して、ソーシャルワークに求められる多角的な視点を養い、研究を進め、卒業論文の素地を作成する。</p> <p>[授業概要] 「多文化ソーシャルワーク」、「マイノリティ研究」、「当事者研究」をテーマとして、理論と実践を学ぶ。 具体的には「多文化ソーシャルワーク」はどのような概念・実践なのか、ということや、「マイノリティ」、「当事者」への一方的なラベリングを批判的に考察し、新たな視点による(その人の立場性)について議論する。 上記の理論研究に加え、実践研究にも重きを置く。実践研究については、担当教員がNPO法人の立ち上げや運営、ソーシャルワーク実践に携わっていることを活かして、フィールドワークや事例研究を行う。 理論と実践の円環性への学びを深め、ソーシャルワークに求められることを追求する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習・復習合わせて2時間程度の学修を行う。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 研究発表 3. 研究発表 4. 研究発表 5. 研究発表 6. 研究発表 7. 研究発表 8. 研究発表 9. 研究発表 10. 当事者研究とは(学外特別講師) 11. フィールドワーク 12. まとめ1 13. まとめ2</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	多文化ソーシャルワーク・マイノリティ研究・当事者研究	演習	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題発表(50%)・授業への積極的態度(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容によっては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:課題への取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業における発言・発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業にて指定</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	地域社会を「知ること」と「つくること」	演習	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 地域社会を「知ること」と「つくること」について、ゼミの仲間や地域における多様な主体と協働して、積極的に学びを深めることができる。</p> <p>2. 4年次の卒業論文に向けて、調査・研究および口頭発表・論文執筆の方法を体験的に学ぶとともに、自分の研究テーマを設定することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>8050問題、ひきこもり、ごみ屋敷、ダブルケア、ヤングケアラーなど、私たちをとりまく地域生活課題はますます複雑化・複合化している。このような背景のもと、国は「地域共生社会の実現」を掲げて、これからの社会福祉のあり方を模索している。ここでいう「地域共生社会」とは、地域に暮らす住民や多様な主体が地域生活課題に気づき、ともに解決することに加えて、一人ひとりの暮らしと生きがいおよびその基盤である地域をともにつくっていくことを実現する社会を意味する。ゼミでは、まず身近な地域社会を「知ること」から始め、その上で地域生活課題とストレスをふまえながら、地域共生社会を「つくること」に関する学びを深めていきたい。</p> <p>3年次後期は、地域共生社会を「つくること」について、①「地域共生社会」の概念を理解すること、②地域福祉活動の担い手(住民や専門職)の話を聞くこと、③地域福祉活動に参加することなどを通して、地域共生社会のあり方を考えていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(2時間程度)</p> <p>日頃から国内外の社会状況や社会福祉の動向、身近な地域社会に関心を持ち、基本的な知識を身につけておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 地域共生社会の考え方と展開①</li> <li>3. 地域共生社会の考え方と展開②</li> <li>4. 地域共生社会の考え方と展開③</li> <li>5. 個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション①</li> <li>6. 個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション②</li> <li>7. 個別テーマによる文献購読・発表・ディスカッション③</li> <li>8. 地域共生社会をつくる実践①: 外部講師の講義</li> <li>9. 地域共生社会をつくる実践②: フィールドワークの計画・準備</li> <li>10. 地域共生社会をつくる実践③: フィールドワークの実施</li> <li>11. 地域共生社会をつくる実践④: フィールドワークの振り返り</li> <li>12. 卒業論文の作成に向けて</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	地域社会を「知ること」と「つくること」	演習	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における学修状況 (70%)、レポート(30%)により総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業における発表・ディスカッション・グループワーク、レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 授業内に指示する。</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 授業内に指示する。</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	植戸 貴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する、③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う、④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する、の4点である。          到達目標は、①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力(自己覚知など)を習得する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理が実践的に理解できる、③ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力・基本的な面接技術・グループダイナミクスの活用方法を習得する、④ソーシャルワークの展開過程について理解するとともに、そこで用いられるソーシャルワークの記録やプレゼンテーションの技術などの知識と技術を習得する、とする。</p> <p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ソーシャルワークの記録、⑥グループダイナミクスの活用、⑦プレゼンテーション技術、とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 自己理解・自己覚知と他者理解          3. 基本的なコミュニケーション技術:言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)          4. 基本的なコミュニケーション技術:非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等)          5. 基本的な面接技術:面接の構造化・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)・ソールの活用(電話、e-mail等)          6. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(ケースの発見とインターク)          7. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(アセスメントとプランニング)          8. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の実施とモニタリング)          9. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の終結と事後評価及びアフターケア)          10. ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と管理)          11. グループダイナミクスの活用:グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)とグループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)          12. プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーション          13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワーク演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11001390 [ WWH2-011 ]

[2福]\*前期火1

科目名	ソーシャルワーク演習		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	曾田 里美			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する、③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う、④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する、の4点である。</p> <p>到達目標は、①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力(自己覚知など)を習得する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理が実践的に理解できる、③ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力・基本的な面接技術・グループダイナミクスの活用方法を習得する、④ソーシャルワークの展開過程について理解するとともに、そこで用いられるソーシャルワークの記録やプレゼンテーションの技術などの知識と技術を習得する、とする。</p> <p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ソーシャルワークの記録、⑥グループダイナミクスの活用、⑦プレゼンテーション技術、とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 自己理解・自己覚知と他者理解          3. 基本的なコミュニケーション技術:言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)          4. 基本的なコミュニケーション技術:非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等)          5. 基本的な面接技術:面接の構造化・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)・ソールの活用(電話、e-mail等)          6. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(ケースの発見とインターク)          7. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(アセスメントとプランニング)          8. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の実施とモニタリング)          9. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の終結と事後評価及びアフターケア)          10. ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と管理)          11. グループダイナミクスの活用:グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)とグループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)          12. プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーション          13. まとめ</p>				



科目名	ソーシャルワーク演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	佐々木 勝一			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する、③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う、④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する、の4点である。</p> <p>到達目標は、①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力(自己覚知など)を習得する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理が実践的に理解できる、③ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力・基本的な面接技術・グループダイナミクスの活用方法を習得する、④ソーシャルワークの展開過程について理解するとともに、そこで用いられるソーシャルワークの記録やプレゼンテーションの技術などの知識と技術を習得する、とする。</p> <p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ソーシャルワークの記録、⑥グループダイナミクスの活用、⑦プレゼンテーション技術、とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 自己理解・自己覚知と他者理解          3. 基本的なコミュニケーション技術:言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)          4. 基本的なコミュニケーション技術:非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等)          5. 基本的な面接技術:面接の構造化・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)・ソールの活用(電話、e-mail等)          6. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(ケースの発見とインターク)          7. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(アセスメントとプランニング)          8. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の実施とモニタリング)          9. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の終結と事後評価及びアフターケア)          10. ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と管理)          11. グループダイナミクスの活用:グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)とグループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)          12. プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーション          13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワーク演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	川端 麗子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する、③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う、④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する、の4点である。</p> <p>到達目標は、①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力(自己覚知など)を習得する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理が実践的に理解できる、③ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力・基本的な面接技術・グループダイナミクスの活用方法を習得する、④ソーシャルワークの展開過程について理解するとともに、そこで用いられるソーシャルワークの記録やプレゼンテーションの技術などの知識と技術を習得する、とする。</p> <p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ソーシャルワークの記録、⑥グループダイナミクスの活用、⑦プレゼンテーション技術、とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 自己理解・自己覚知と他者理解          3. 基本的なコミュニケーション技術:言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)          4. 基本的なコミュニケーション技術:非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等)          5. 基本的な面接技術:面接の構造化・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)・ソールの活用(電話、e-mail等)          6. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(ケースの発見とインターク)          7. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(アセスメントとプランニング)          8. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の実施とモニタリング)          9. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の終結と事後評価及びアフターケア)          10. ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と管理)          11. グループダイナミクスの活用:グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)とグループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)          12. プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーション          13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワーク演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点である。到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に習得する、②具体的な場面及び過程について実践的に理解できる、③具体的なソーシャルワークの技法について実践的に理解できる、④地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解できる、⑤ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。

[授業概要]

個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎、②支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、③具体的なソーシャルワークの場面及び過程、④具体的なソーシャルワークの技法(アウトリーチ、チームアプローチ(チームマネジメント)、ネットワークング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション)、実習後には、⑤事例研究・事例検討、⑥スーパービジョン、とする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]

1. オリエンテーションとアイスブレイキング
2. 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
3. 支援を必要とする人が抱える複合的な課題及び総合的かつ包括的な支援の理解
4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 児童虐待
5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者虐待
6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 高齢者虐待
7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: ひきこもり
8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 貧困
9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 認知症
10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 終末期ケア
11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 災害時ソーシャルワーク
12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 危機介入による権利擁護活動
13. ソーシャルワークの場面と過程の理解
14. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: ケースの発見とインテーク
15. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: アセスメント
16. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: プランニング
17. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の実施とモニタリング
18. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の終結と事後評価・アフタケア
19. 具体的なソーシャルワークの技法の理解
20. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: アウトリーチ
21. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: チームアプローチ(チームマネジメント)
22. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ネットワーキング
23. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: コーディネーション
24. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ファシリテーション
25. 事例研究・事例検討とスーパービジョン
26. まとめ

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点である。到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に習得する、②具体的な場面及び過程について実践的に理解できる、③具体的なソーシャルワークの技法について実践的に理解できる、④地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解できる、⑤ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。

[授業概要]

個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎、②支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、③具体的なソーシャルワークの場面及び過程、④具体的なソーシャルワークの技法(アウトリーチ、チームアプローチ(チームマネジメント)、ネットワークング、コーディネート、ネゴシエーション、ファミリーセッション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション)、実習後には、⑤事例研究・事例検討、⑥スーパービジョン、とする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]

1. オリエンテーションとアイスブレイキング
2. 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
3. 支援を必要とする人が抱える複合的な課題及び総合的かつ包括的な支援の理解
4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 児童虐待
5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者虐待
6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 高齢者虐待
7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: ひきこもり
8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 貧困
9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 認知症
10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 終末期ケア
11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 災害時ソーシャルワーク
12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 危機介入による権利擁護活動
13. ソーシャルワークの場面と過程の理解
14. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: ケースの発見とインテーク
15. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: アセスメント
16. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: プランニング
17. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の実施とモニタリング
18. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の終結と事後評価・アフタケア
19. 具体的なソーシャルワークの技法の理解
20. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: アウトリーチ
21. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: チームアプローチ(チームマネジメント)
22. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ネットワーキング
23. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: コーディネーション
24. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ファシリテーション
25. 事例研究・事例検討とスーパービジョン
26. まとめ



科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	下司 実奈			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する、③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う、④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する、の4点である。</p> <p>到達目標は、①社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力(自己覚知など)を習得する、②ソーシャルワークの価値規範と倫理が実践的に理解できる、③ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力・基本的な面接技術・グループダイナミクスの活用方法を習得する、④ソーシャルワークの展開過程について理解するとともに、そこで用いられるソーシャルワークの記録やプレゼンテーションの技術などの知識と技術を習得する、とする。</p> <p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ソーシャルワークの記録、⑥グループダイナミクスの活用、⑦プレゼンテーション技術、とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。また、文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 自己理解・自己覚知と他者理解          3. 基本的なコミュニケーション技術:言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)          4. 基本的なコミュニケーション技術:非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等)          5. 基本的な面接技術:面接の構造化・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)・ソールの活用(電話、e-mail等)          6. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(ケースの発見とインターク)          7. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(アセスメントとプランニング)          8. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の実施とモニタリング)          9. 事例を通して学ぶソーシャルワークの展開過程(支援の終結と事後評価及びアフターケア)          10. ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と管理)          11. グループダイナミクスの活用:グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)とグループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)          12. プレゼンテーション技術:個人プレゼンテーションとグループプレゼンテーション          13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内レポート及び提出課題(50%)、授業参加度(50%)の総合評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていける能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点である。到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に習得する、②具体的な場面及び過程について実践的に理解できる、③具体的なソーシャルワークの技法について実践的に理解できる、④地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解できる、⑤ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。

[授業概要]

個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎、②支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、③具体的なソーシャルワークの場面及び過程、④具体的なソーシャルワークの技法(アウトリーチ、チームアプローチ(チームマネジメント)、ネットワークング、コーディネート、ネゴシエーション、ファミリーセッション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション)、実習後には、⑤事例研究・事例検討、⑥スーパービジョン、とする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業の内容を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]

1. オリエンテーションとアイスブレーキング
2. 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
3. 支援を必要とする人が抱える複合的な課題及び総合的かつ包括的な支援の理解
4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 児童虐待
5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者虐待
6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 高齢者虐待
7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: ひきこもり
8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 貧困
9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 認知症
10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 終末期ケア
11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 災害時ソーシャルワーク
12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 危機介入による権利擁護活動
13. ソーシャルワークの場面と過程の理解
14. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: ケースの発見とインテーク
15. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: アセスメント
16. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: プランニング
17. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の実施とモニタリング
18. 事例を通して学ぶソーシャルワークの場面と過程: 支援の終結と事後評価・アフタケア
19. 具体的なソーシャルワークの技法の理解
20. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: アウトリーチ
21. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: チームアプローチ(チームマネジメント)
22. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ネットワーキング
23. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: コーディネーション
24. 事例を通して学ぶソーシャルワークの技法: ファシリテーション
25. 事例研究・事例検討とスーパービジョン
26. まとめ

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点とする。

到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に理解する、②地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解する、③ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。

[授業概要]

個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、②地域福祉の基盤整備と開発(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価)、実習後には、③事例研究・事例検討、④スーパービジョン、とする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]

1. オリエンテーションとアイスブレイキング
2. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 子育て支援
3. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害児の発達支援と家族支援
4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 社会的養護を必要とする児童と家族への支援
5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 福祉・教育等の連携による児童・家庭支援
6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の親亡き後に向けた支援
7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の生活と就労の一体的支援
8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の地域移行支援
9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 要介護高齢者と家族介護者への支援
10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 地域で孤立する高齢者への支援
11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 成年後見制度の利用に向けた支援
12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 生活困窮者に対する支援
13. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 外国にルーツを持つ人々への支援
14. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 複合的な課題を持つ家族への支援
15. 地域福祉の基盤整備と開発の理解
16. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
17. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの意義と手法
18. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの実際
19. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域福祉の計画及び地域の組織化
20. 地域福祉の基盤整備と開発: 社会資源の活用・調整・開発
21. 地域福祉の基盤整備と開発: サービスの評価
22. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた事例研究・事例検討の意義と方法及び実際
23. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた個別スーパービジョン
24. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたピアスーパービジョン
25. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたグループスーパービジョン
26. まとめ

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点とする。</p> <p>到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に理解する、②地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解する、③ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。</p>			
<p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、②地域福祉の基盤整備と開発(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価)、実習後には、③事例研究・事例検討、④スーパービジョン、とする。</p>			
<p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。</p>			
<p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 子育て支援          3. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害児の発達支援と家族支援          4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 社会的養護を必要とする児童と家族への支援          5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 福祉・教育等の連携による児童・家庭支援          6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の親亡き後に向けた支援          7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の生活と就労の一体的支援          8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の地域移行支援          9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 要介護高齢者と家族介護者への支援          10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 地域で孤立する高齢者への支援          11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 成年後見制度の利用に向けた支援          12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 生活困窮者に対する支援          13. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 外国にルーツを持つ人々への支援          14. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 複合的な課題を持つ家族への支援          15. 地域福祉の基盤整備と開発の理解          16. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握          17. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの意義と手法          18. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの実際          19. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域福祉の計画及び地域の組織化          20. 地域福祉の基盤整備と開発: 社会資源の活用・調整・開発          21. 地域福祉の基盤整備と開発: サービスの評価          22. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた事例研究・事例検討の意義と方法及び実際          23. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた個別スーパービジョン          24. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたピアスーパービジョン          25. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたグループスーパービジョン          26. まとめ</p>			



科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点とする。</p> <p>到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に理解する、②地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解する、③ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。</p>			
<p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレーイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、②地域福祉の基盤整備と開発(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価)、実習後には、③事例研究・事例検討、④スーパービジョン、とする。</p>			
<p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。</p>			
<p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 子育て支援          3. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害児の発達支援と家族支援          4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 社会的養護を必要とする児童と家族への支援          5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 福祉・教育等の連携による児童・家庭支援          6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の親亡き後に向けた支援          7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の生活と就労の一体的支援          8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の地域移行支援          9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 要介護高齢者と家族介護者への支援          10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 地域で孤立する高齢者への支援          11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 成年後見制度の利用に向けた支援          12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 生活困窮者に対する支援          13. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 外国にルーツを持つ人々への支援          14. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 複合的な課題を持つ家族への支援          15. 地域福祉の基盤整備と開発の理解          16. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握          17. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの意義と手法          18. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの実際          19. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域福祉の計画及び地域の組織化          20. 地域福祉の基盤整備と開発: 社会資源の活用・調整・開発          21. 地域福祉の基盤整備と開発: サービスの評価          22. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた事例研究・事例検討の意義と方法及び実際          23. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた個別スーパービジョン          24. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたピアスーパービジョン          25. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたグループスーパービジョン          26. まとめ</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する、②社会福祉士等の福祉専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う、③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する、④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する、⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する、⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する、の7点とする。</p> <p>到達目標は、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援を実践的に理解する、②地域福祉の基盤整備と開発について実践的に理解する、③ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する、とする。</p>			
<p>[授業概要]          個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。具体的な学習内容は、実習前には、①支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援(集団に対する支援事例を含む)、②地域福祉の基盤整備と開発(地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価)、実習後には、③事例研究・事例検討、④スーパービジョン、とする。</p>			
<p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          毎回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業を復習し、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。</p>			
<p>[授業計画]          1. オリエンテーションとアイスブレイキング          2. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 子育て支援          3. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害児の発達支援と家族支援          4. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 社会的養護を必要とする児童と家族への支援          5. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 福祉・教育等の連携による児童・家庭支援          6. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の親亡き後に向けた支援          7. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の生活と就労の一体的支援          8. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 障害者の地域移行支援          9. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 要介護高齢者と家族介護者への支援          10. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 地域で孤立する高齢者への支援          11. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 成年後見制度の利用に向けた支援          12. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 生活困窮者に対する支援          13. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 外国にルーツを持つ人々への支援          14. 事例を通して学ぶ総合的かつ包括的な支援: 複合的な課題を持つ家族への支援          15. 地域福祉の基盤整備と開発の理解          16. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握          17. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの意義と手法          18. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域アセスメントの実際          19. 地域福祉の基盤整備と開発: 地域福祉の計画及び地域の組織化          20. 地域福祉の基盤整備と開発: 社会資源の活用・調整・開発          21. 地域福祉の基盤整備と開発: サービスの評価          22. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた事例研究・事例検討の意義と方法及び実際          23. ソーシャルワーク実習体験を踏まえた個別スーパービジョン          24. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたピアスーパービジョン          25. ソーシャルワーク実習体験を踏まえたグループスーパービジョン          26. まとめ</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術	演習	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における課題への取り組み(20%)、レポート(80%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートの評価は、翌週の授業においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ		後期	2単位
サブタイトル			演習	
担当者	坂本 茉衣子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 精神障害者についての理解を深め、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる</p> <p>[授業概要] 精神保健福祉援助の知識と技術に関する他の講義科目や実習科目との関連性を考慮しながら、精神保健福祉士に求められる相談援助の関する基礎的な知識と技術について実践的に修得する。同時に事例を活用し相談援助を概念化、理論化し体系立てていく能力を滋養する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学習内容に応じて、専門科目、共通科目などに広く関心を持ち、知識を整理しすぐに引き出せるように準備しておくこと。各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 福祉とは何か? 障害とは何か?(グループワーク) 3. 精神保健福祉援助事例(自己覚知) 4. 精神障害当事者について事前学習 5. 精神障害当事者から学ぶ① 6. 精神障害当事者から学ぶ② 7. 事後学習・事前学習 8. 現場の精神保健福祉士から学ぶ 9. 事後学習 10. 精神保健福祉援助事例(演習) 11. 課題別事例から学ぶ① 12. 課題別事例から学ぶ② 13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂本 茉衣子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・レポート・・・50%  授業への参加度・・・授業の出席及び授業中の積極的な姿勢(発言や意見、グループ討議への積極的参加等)により評価します。  課題・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  レポート・・・指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して返却するとともに、試験は実施後に解説を実施します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし。適宜資料を配布する</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし。適宜資料を配布する</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	田中 希世子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標] 精神保健福祉士の業務及び倫理について学びを深めたうえで、事例等を通して実践内容について検討を進める中で、支援に必要となる専門的視点や技術を習得する。</p> <p>[授業概要] ・精神保健福祉士の業務や倫理について学びを深める。 ・事例等を通して精神障がいを抱える人々の生活や生活上の困難について把握し、支援内容等について検討を進める中で、精神保健福祉士として必要となる専門的な視点や技術について学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 精神保健福祉専門科目をはじめ、共通科目他関連科目について何度も復習し、いつでも知識として取り出すことができるように準備しておくこと。各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 精神保健福祉士の業務① 3. 精神保健福祉士の業務② 4. 精神保健福祉士の倫理① 5. 精神保健福祉士の倫理② 6. 支援課題を基盤とした事例検討① 7. 支援課題を基盤とした事例検討② 8. 支援課題を基盤とした事例検討③ 9. 支援課題を基盤とした事例検討④ 10. 精神保健福祉援助の実際① 11. 精神保健福祉援助の実際② 12. ソーシャルワーカーとは 13. まとめ</p>				



科目名	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度…50%  課題・レポート…50%  授業への参加度…授業中の積極的な姿勢(発言や意見、グループ討議への積極的参加等)により評価します。  課題…課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  レポート…指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  グループ指導及び個別面談において、各自の取り組み等の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなが、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし 適宜資料を配布する</p>			

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) V		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	田中 希世子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 精神保健福祉援助実習におけるそれぞれの個別的な体験を、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術として一般化し、実践的な知識・技術として習得する。</p> <p>[授業概要] 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができるよう、精神保健福祉実習における体験を用いて学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 精神保健福祉専門科目をはじめ、共通科目他関連科目について何度も復習し、いつでも知識として取り出すことができるように準備しておくこと。各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 実習における精神保健福祉援助に係る体験報告① 3. 実習における精神保健福祉援助に係る体験報告② 4. 実習における精神保健福祉援助に係る体験報告③ 5. 実習における精神保健福祉援助に係る体験報告④ 6. 支援課題を基盤とした事例検討① 7. 支援課題を基盤とした事例検討② 8. 支援課題を基盤とした事例検討③ 9. 支援課題を基盤とした事例検討④ 10. 精神保健福祉援助の実際① 11. 精神保健福祉援助の実際② 12. 個別指導 13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワーク演習(専門) V	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度…50%  課題・レポート…50%  授業への参加度…授業中の積極的な姿勢(発言や意見、グループ討議への積極的参加等)により評価します。  課題…課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  レポート…指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  グループ指導及び個別面談において、各自の取り組み等の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなが、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度、授業参加状況</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし 適宜資料を配布する</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習 I	前期～後期	4 単位
サブタイトル		実習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。</li> <li>2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。</li> <li>3. 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。</li> <li>4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</li> <li>5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習方法: 指定実習同一施設・事業者・機関・団体・病院等において、180時間(23日間)実施</li> <li>2. 実習時期: 前期は6月に10日間、後期は10月に13日間実施</li> <li>3. 実習先の選定と配属: 実習要件を満たす大学指定の施設・事業者・機関・団体・病院等。但し、実習生から希望分野を聴取するとともに、通勤距離・宿泊(夜勤を含む)・必要経費等を総合的に判断して配属する。</li> <li>4. 実習指導の概要: 実習担当教員は、実習指導者との密接な連携のもとに、実習生が実習指導者から適切な実習指導が受けられるように連絡調整するとともに、巡回訪問指導・電話指導・メール指導・一斉登校日等を通じて実習生の実習状況を把握しながら個別指導を十分行う。</li> </ol> <p>実習施設・機関においては、実習指導者(社会福祉士有資格者でかつ実務経験を経て実習指導者講習を修了した者)が福祉現場での実践経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるよう指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前日までの実習を振り返り、具体的な実習課題を意識しながら、自分の持てる力(相談援助の価値・倫理、知識、技術、及び各領域の専門知識)を最大限に発揮するよう努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</li> <li>2. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成</li> <li>3. 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価</li> <li>4. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価</li> <li>5. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解</li> <li>6. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ</li> <li>7. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解</li> <li>8. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)</li> <li>9. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</li> <li>10. ソーシャルワーク実践に求められるアウトリーチ、ネットワーキング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション等の技術の実践的理解</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワーク実習 I	前期～後期	4 単位
サブタイトル		実習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習日誌等の内容(30%)、実習への取り組み(20%)、実習先評価(50%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] グループ指導及び個別面談において、実習の取り組み状況の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業中に指示する 「ソーシャルワーク実習」ノート 著者名:神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11001450 [ WWH3-020 ]

[3福]\*通年集中

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ		後期	2単位
サブタイトル			実習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。</li> <li>2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。</li> <li>3. 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。</li> <li>4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</li> <li>5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習方法: 指定実習先(施設・事業者・機関・団体・病院等)において、60時間(8日間)実施</li> <li>2. 実習時期: 春期休暇中の2~3月に8日間実施</li> <li>3. 実習先の選定と配属: 実習要件を満たす大学指定の施設・事業者・機関・団体・病院等。但し、実習生から希望分野を聴取するとともに、通勤距離・宿泊(夜勤を含む)、必要経費等を総合的に判断して配属する。なお、ソーシャルワーク実習Ⅰにおいて配属された実習先とは異なるサービスを提供している施設や事業所、異なる対象に対してサービスを提供している施設や事業所、主たる対象が同じであっても提供するサービス内容や地域の中で果たす機能が異なる施設や事業所に配属する。</li> <li>4. 実習指導の概要: 実習担当教員は、実習指導者との密接な連携のもとに、実習生が実習指導者から適切な実習指導が受けられるように連絡調整するとともに、巡回訪問指導・電話指導・メール指導を通じて実習生の実習状況を把握しながら個別指導を十分行う。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前日までの実習を振り返り、具体的な実習課題を意識しながら、自分の持てる力(相談援助の価値・倫理、知識、技術、及び各領域の専門知識)を最大限に発揮するよう努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</li> <li>2. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成</li> <li>3. 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価</li> <li>4. 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価</li> <li>5. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解</li> <li>6. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ</li> <li>7. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解</li> <li>8. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)</li> <li>9. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</li> <li>10. ソーシャルワーク実践に求められるアウトリーチ、ネットワークング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション等の技術の実践的理解</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		実習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習日誌等の内容(30%)、実習への取り組み(20%)、実習先評価(50%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] グループ指導及び個別面談において、実習の取り組み状況の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習日誌等の内容、実習への取り組み、実習先評価</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 授業中に指示する 「ソーシャルワーク実習」ノート 著者名:神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅲ	前期～後期	7 単位
サブタイトル		実習	
担当者	田中 希世子、植戸 貴子、佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する</p> <p>[授業概要] 精神保健福祉援助実習を通して精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職の連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会を修了した教員による巡回指導を実施する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 既習の専門科目、共通科目、関連科目の内容に関して繰り返し学び覚えて、実習先で遭遇するさまざまな機関や機能、人々やできごとが理解できるよう、いつでも利用可能な知識になるよう準備しておくこと</p> <p>[授業計画] 1. 精神科病院等医療機関の実習においては、次の事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける ①入院時または急性期の患者及びその家族への相談援助 ②退院または地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ③治療中の患者及びその家族への相談援助 ④多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 ⑤日常生活や社会生活上の問題に関する患者及びその家族への相談援助</p> <p>2. 地域の障害福祉サービス事業所の実習においては、次の事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者の指導を受ける ①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体、住民やボランティアなどの基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ③利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成 ④利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価 ⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 ⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ⑦施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧施設・機関・事業者・団体の経営やサービスの管理運営の実践 ⑨当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>3. 巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う 帰校日指導については、遠隔授業で行う予定</p>			



科目名	ソーシャルワーク実習Ⅲ	前期～後期	7 単位
サブタイトル		実習	
担当者	田中 希世子、植戸 貴子、佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習機関による評価(50%)、実習記録の内容(20%)、巡回指導、帰校日指導等における指導内容(30%)により総合的に評価する</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 巡回指導及び帰校日指導の内容等をもとに、あらためて相互に検証します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習機関による評価、実習記録の内容、指導内容</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし 適宜資料を配布する</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I	後期	2 単位
サブタイトル	相談援助実習のための事前学習	演習	
担当者	下司 実奈、清水 弥生、植戸 貴子、曾田 里美、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士として求められる知識、技術、倫理について理解する。</li> <li>2. 技術を修得するための相談援助実習の意義について理解する。</li> <li>3. 正しく技術を使うための専門職倫理について実践的に理解する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>相談援助実習を履修するための必須授業である。  低所得者福祉分野、児童福祉分野、障害児・者福祉分野、高齢者福祉分野、医療福祉分野等から学外講師を招聘して、社会福祉現場の実状について講義を聞いたり、実際に社会福祉現場を見学したりして、その役割や機能、利用者の特性やニーズ、またそこで働く職員の職種や仕事内容を理解していく。翌年度に相談援助実習を履修するために、自分に何が求められているのか、必要な知識、技術、倫理を明確に把握し、実習に向けて準備を行うための授業である。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>予習(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。</li> <li>・サービラーニング等に参加し社会福祉現場を理解するための準備をしておく。</li> </ul> <p>復習(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業レポート作成を通して授業内容をまとめておく。</li> <li>・他の講義等で学んだこととの関連性を整理しておく。</li> </ul> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助実習指導の意義</li> <li>2. 実習分野に関する基本的な理解①低所得者福祉分野A-学外講師</li> <li>3. 実習分野に関する基本的な理解②低所得者福祉分野B-学外講師</li> <li>4. 実習分野に関する基本的な理解③児童福祉分野-学外講師</li> <li>5. 実習分野に関する基本的な理解④高齢者福祉分野-学外講師</li> <li>6. 実習分野に関する基本的な理解⑤障害児・者福祉分野-学外講師</li> <li>7. 実習分野に関する基本的な理解⑥医療福祉分野-学外講師</li> <li>8. 社会福祉現場の見学実習-直前オリエンテーション</li> <li>9. 社会福祉現場の見学実習-見学と体験・現場での質疑応答</li> <li>10. 3年生による相談援助実習報告会</li> <li>11. 社会福祉現場の見学実習報告会と体験の共有</li> <li>12. 相談援助実習を希望するにあたって</li> <li>13. 希望調査に対する個別面談・視聴覚学習</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I	後期	2 単位
サブタイトル	相談援助実習のための事前学習	演習	
担当者	下司 実奈、清水 弥生、植戸 貴子、曾田 里美、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  合計10回の授業レポート(各5段階評価)により評価する。  5段階とは、S(90点相当)、A(80点相当)、B(70点相当)、C(60点相当)、D(59点以下相当、書き直し)であり、10回分の平均点を成績とする。ただし、Dが複数回あれば原則として不可となる。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・レポートは、原則として提出した1週間後に添削、評価して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:受講態度・レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  授業中に指示する。</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅰに関わる事前・事中・事後指導	演習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する
2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う
3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する
4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する

[授業概要]

ソーシャルワーク実習を履修するための必須授業として、事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず実習と実習指導の意義(スーパービジョンも含め)を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・地域社会等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先で関わる他の職種の種類や業務に関する基本的な理解および実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解を深め、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等についても学ぶ。さらに、実習記録への記録内容及び記録方法について学習する。実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書を作成し、実習後評価を行う。実習中に実習担当教員は巡回指導を行う。実習後、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートを作成する。

毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験や指導経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるような授業を展開する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。

[授業計画]

1. 実習先で必要とされるソーシャルワークに係る知識と技術に関する理解①
2. 実習先で必要とされるソーシャルワークに係る知識と技術に関する理解②
3. 実習先で必要とされるソーシャルワークに係る知識と技術に関する理解③
4. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務・個人情報保護法等の理解
5. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解①
6. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解②
7. 実習生・実習担当教員による実習計画書案の検討と作成①
8. 実習生・実習担当教員による実習計画書案の検討と作成②
9. 実習先事前訪問(実習計画書案提示と意見聴取)
10. 実習生・実習担当教員による実習計画書の作成
11. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導
12. 巡回訪問指導
13. 前半実習の課題整理

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅰに関わる事前・事中・事後指導	演習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度・課題への取り組み(30%)、授業内の発表内容(30%)、実習計画書等の内容(40%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題への取り組み、発表内容、実習計画書等の評価は、その場で、または学期末の個別面談においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  『学びが深まるソーシャルワーク実習』 著者名:学びが深まるソーシャルワーク実習編集委員会 編 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-09120-1)  『ソーシャルワーク実習』ノート 著者名:神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

P11001430 [ WWH3-018 ]

[3福]\*前期火3

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅰに関する事前・事中・事後指導	演習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する</li> <li>2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う</li> <li>3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する</li> <li>4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>ソーシャルワーク実習を履修するための必須授業として、事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず実習と実習指導の意義(スーパービジョンも含め)を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・地域社会等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先で関わる他の職種の種類や業務に関する基本的な理解および実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解を深め、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等についても学ぶ。さらに、実習記録への記録内容及び記録方法について学習する。実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書を作成し、実習後評価を行う。実習中に実習担当教員は巡回指導を行う。実習後、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートを作成する。また、実習を振り返っての報告会及び評価を行う。最後に実習を振り返っての評価を行い、全体総括会を開く。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験や指導経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解①</li> <li>2. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解②</li> <li>3. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成①</li> <li>4. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成②</li> <li>5. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</li> <li>6. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導</li> <li>7. 巡回訪問指導</li> <li>8. 実習統括報告書作成①</li> <li>9. 実習統括報告書作成②</li> <li>10. 実習評価分野別総括会</li> <li>11. 実習報告会①</li> <li>12. 実習報告会②</li> <li>13. 実習評価全体総括会</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅰに関する事前・事中・事後指導	演習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度・課題への取り組み(30%)、授業内の発表内容(30%)、実習計画書等の内容(30%)、実習報告会のプレゼン・レポート(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題への取り組み、発表内容、実習計画書等の評価は、その場で、または学期末の個別面談においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それを批判的に読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  『学びが深まるソーシャルワーク実習』 著者名:学びが深まるソーシャルワーク実習編集委員会 編 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-09120-1)  『ソーシャルワーク実習』ノート 著者名:神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科 出版社:なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	田中 希世子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]  精神保健福祉援助実習の意義について理解する。  精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。  精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実的に理解する。  精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>[授業概要]  精神保健福祉援助実習は、大学で学んできた精神保健福祉の理論を、実践現場において総合的且つ包括的に理解していく過程です。また、相談援助にかかる専門的な知識や技術についても、具体的且つ実的に理解し、体得することができる機会となります。  本科目では、精神保健福祉援助実習を実施するにあたり、精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに、実習に対する基本的な知識等の習得を図ることを目的とします。  また、精神科医療機関に見学をおこない、現場で働く精神保健福祉士のかたからお話を伺うことにより、精神保健福祉士の役割や支援の意義等に関する理解の深化を図ります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  前回の講義内容について、資料等をもとに復習を行い、疑問等があれば、次回授業時に質問してください。  各回について予習復習を2時間程度行ってください。</p> <p>[授業計画]  1. オリエンテーション  2. 精神保健福祉援助実習について(1)  3. 精神保健福祉援助実習について(2)  4. 精神保健福祉援助実習の意義と目的  5. 実習日誌の書き方  6. 精神保健福祉士の業務  7. ソーシャルワーク支援の実際(1)  8. ソーシャルワーク支援の実際(2)  9. 見学実習施設の理解  10. 見学実習  11. 見学実習後の振り返り  12. ソーシャルワーク支援の実際(3)  13. ソーシャルワーク支援の実際(4)</p>				



科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加度・・・50%  課題・レポート・・・50%  授業への参加度・・・授業中の積極的な姿勢(発言や意見、グループ討議への積極的参加等)により評価する。  課題・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表  レポート・・・指定されたテーマについて、要点をおさえてまとめられているか評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  グループ指導及び個別面談において、各自の取り組み等の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:レポート、授業参加状況</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  授業中に適宜指定する</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	田中 希世子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標] 精神保健福祉援助実習に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。具体的な体験や援助活動を専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>[授業概要] 精神保健福祉援助実習は、大学で学んできた精神保健福祉の理論を、実践現場において総合的且つ包括的に理解していく過程です。また、相談援助にかかる専門的な知識や技術についても、具体的且つ実際に理解し、体得することができる機会となります。 本科目では、精神保健福祉援助実習を実施するにあたり、精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに、実習に対する基本的な知識等の習得を図ることを目的とします。 また、精神保健福祉援助実習中は、巡回指導及び帰校日指導を行います。個別指導及び集団指導を通じて、精神保健福祉援助に必要な知識と技術について具体的且つ実践的に学習します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 精神保健福祉援助実習に必要な知識を得る為の文献や資料の収集等を行うこと。 各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 実習の流れ、学習ポイントの理解・医療機関 3. 実習計画書の作成・医療機関(1) 4. 実習計画書の作成・医療機関(2) 5. 実習施設の理解・医療機関(1) 6. 実習施設の理解・医療機関(2) 7. 実習の流れ、学習ポイントの理解・施設 8. 実習計画書の作成・施設(1) 9. 実習計画書の作成・施設(2) 10. 実習施設の理解・施設(1) 11. 実習施設の理解・施設(2) 12. 実習直前指導(1) 13. 実習直前指導(2)</p>				

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  出席及び授業態度 50%  課題の取り組み・発表 50%  出席及び受講態度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  グループ指導及び個別面談において、実習の取組みについて状況の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション内容・態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、授業参加状況、プレゼンテーション内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業参加状況、プレゼンテーション態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、授業参加状況、プレゼンテーション内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:レポート、授業参加状況、プレゼンテーション内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート、授業参加状況、プレゼンテーション内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート、授業参加状況、プレゼンテーション内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:レポート、授業参加状況、プレゼンテーション内容</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  授業中に適宜指定する</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅵ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	田中 希世子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 精神保健福祉援助実習の経験、実習記録、実習先の実習指導者の指導内容を踏まえて、精神保健福祉援助実践に向けての自分自身の課題を整理し、実習総括をする</p> <p>[授業概要] 精神保健福祉援助実習は、大学で学んできた精神保健福祉の理論を、実践現場において総合的且つ包括的に理解していく過程です。また、相談援助にかかる専門的な知識や技術についても、具体的且つ実際に理解し、体得することができる機会となります。 本科目では、精神保健福祉援助実習を実施するにあたり、精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに、実習に対する基本的な知識等の習得を図ることを目的とします。 また、精神保健福祉援助実習中は、巡回指導及び帰校日指導を行います。個別指導及び集団指導を通じて、精神保健福祉援助に必要な知識と技術について具体的に且つ実践的に学習します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 精神保健福祉援助実習に必要な知識を得る為の文献や資料の収集等を行うこと。 各回について予習復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画] 1. 実習振り返り(1) 2. 実習振り返り(2) 3. 実習報告書の作成(医療機関) 4. 実習報告書の作成(医療機関) 5. 実習報告書の作成(福祉施設) 6. 実習報告書の作成(福祉施設) 7. 実習報告会資料作成(1) 8. 実習報告会資料作成(2) 9. 実習報告会(1) 10. 実習報告会(2) 11. 実習報告会(3) 12. 実習報告会(4) 13. 実習総合まとめ ～ ソーシャルワーカーとは ～</p>				

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅵ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ]  出席及び授業態度 50%  課題の取り組み・発表 50%  出席及び受講態度・・・授業中の積極的な発言や意見、グループ討議への積極的参加等により評価します。  課題・発表・・・課題への取り組み、期日内提出、課題内容の発表</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  グループ指導及び個別面談において、実習の取組みについて状況の評価をフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしなから、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価、報告書内容</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容・態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習内容、実習態度、実習機関による評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容・態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容・態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:実習内容・態度、実習機関による評価、報告書内容、発表内容</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  適宜、指示する。  その他、適宜、資料を配布する。</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅶ	後期	1 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅱに関する事前・事中・事後指導	演習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する</li> <li>2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う</li> <li>3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する</li> <li>4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>ソーシャルワーク実習Ⅱを履修するための必須授業として、事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず実習と実習指導の意義(スーパービジョンも含め)を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・地域社会等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先で関わる他の職種の種類や業務に関する基本的な理解および実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解を深め、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等についても学ぶ。さらに、実習記録への記録内容及び記録方法について学習する。実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書を作成し、実習後評価を行う。実習中に実習担当教員は巡回指導を行う。実習後、実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートを作成する。また、実習を振り返っての報告会及び評価を行う。最後に実習を振り返っての評価を行い、全体総括会を開く。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の福祉現場での実践経験や指導経験を活かして、福祉専門職としての価値と倫理を実践的に理解し、福祉課題の解決に必要な知識や技術をより具体的に修得・活用できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解</li> <li>2. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成</li> <li>3. 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</li> <li>4. 事前訪問オリエンテーションにおけるソーシャルワーク実習Ⅰとの連続性の説明</li> <li>5. 巡回訪問指導</li> <li>6. 実習評価分野別総括会</li> <li>7. 実習報告会</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅶ	後期	1 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク実習Ⅱに関する事前・事中・事後指導	演習	
担当者	曾田 里美、清水 弥生、植戸 貴子、下司 実奈、川端 麗子、佐々木 勝一、渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業態度・課題への取り組み(30%)、授業内の発表内容(30%)、実習計画書等の内容(30%)、実習報告会のプレゼン・レポート(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題への取り組み、発表内容、実習計画書等の評価は、その場で、または個別面談においてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それを批判的に読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業態度・課題への取り組み、授業内の発表内容、実習計画書等の内容、実習報告会のプレゼン・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 『学びが深まるソーシャルワーク実習』 著者名:学びが深まるソーシャルワーク実習編集委員会 編 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-09120-1) 『ソーシャルワーク実習』ノート 著者名:神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科 出版社:なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>学生の要望・質問を授業内容に組み込んだ双方向の授業形態 ○</small>	実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを理解する  ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する  ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>ソーシャルワーカーにとって必要な価値・知識・技術について学ぶ。ソーシャルワークの基盤となる考え方、ソーシャルワークの原理、歴史、倫理綱領等について学ぶことを通して、ソーシャルワークにおける基本的視座を理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回、予習・復習を合わせて2時間程度行うこと。予習では次回の範囲の教科書を読み、復習では配布のレジュメ内容の理解を深めるようにする。授業中に課題を出し、定期的に理解度を確認するため、予復習の習慣を身につけておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ: 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法、社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性</li> <li>ソーシャルワークの概念:ソーシャルワークの定義</li> <li>ソーシャルワークの基盤となる考え方: ソーシャルワークの原理1(社会正義、人権尊重)、 ソーシャルワークの原理2(集団的責任、多様性の尊重)</li> <li>ソーシャルワークの基盤となる考え方: ソーシャルワークの理念1(当事者主権、尊厳の保持) ソーシャルワークの理念2(権利擁護、自立支援)</li> <li>ソーシャルワークの基盤となる考え方: ソーシャルワークの理念3(ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション)</li> <li>事例検討(DVD視聴)</li> <li>ソーシャルワークの形成過程1(慈善組織協会、セツルメント運動)</li> <li>ソーシャルワークの形成過程2(医学モデルから生活モデルへ)</li> <li>ソーシャルワークの形成過程3(ソーシャルワークの統合化)</li> <li>ソーシャルワークの形成過程4(日本におけるソーシャルワークの形成過程)</li> <li>まとめ1</li> <li>まとめ2</li> </ol>			



科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験 (70%)、授業中の課題 (30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中に出した課題は次回授業にてフィードバックし、定期試験は試験終了後に解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座「ソーシャルワークの基盤と専門職」 著者名:ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8241-2)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 「ソーシャルワーカー～『身近』を革命する人たち～」 著者名:井手英策ほか著 出版社:ちくま新書 (978-4480072474)</p>			

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川端 麗子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	学生の質問・質問を授業内容に組み込んだ双方向の授業形態 ○	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。  ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。  ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。  ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>相談援助の全体像を学ぶ中で、ソーシャルワーカーがミクロ・メゾ・マクロ領域で担う役割を学ぶ。それらを踏まえて、ソーシャルワーカーが活躍するさまざまな実践について具体的に学び、自分なりのソーシャルワーカー像を持てるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習・復習を合わせて2時間程度行うこと。予習では次回の範囲の教科書を読み、復習では配布のレジュメ内容の理解を深めるようにする。授業中に課題を出し、定期的に理解度を確認するため、予復習の習慣を身につけておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>ソーシャルワークの倫理: 専門職倫理の概念</li> <li>ソーシャルワークの倫理: 倫理綱領(ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領、精神保健福祉士の倫理綱領)、倫理的ジレンマ</li> <li>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲1: ソーシャルワーク専門職の概念と範囲</li> <li>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲2: 社会福祉士の職域(行政関係、福祉関係、医療関係、教育関係、司法関係、独立型事務所等、社会福祉士の職域拡大) ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲3: 福祉行政等における専門職(福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司等) ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲4: 民間の施設・組織における専門職(施設長、生活相談員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー等)</li> <li>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲5: 諸外国の動向(欧米諸国の動向、その他諸外国における動向)</li> <li>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク (1)ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味・対象 (2)ミクロ・メゾ・マクロレベルへの介入・連関性 (3)ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際</li> <li>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容: ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(多機関による包括的支援体制、フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制、ソーシャルサポートネットワーク)</li> <li>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容: ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(多職種連携及びチームアプローチの意義)</li> <li>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容: ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(機関・団体間の合意形成と相互関係、利用者、家族の参画)</li> <li>実践事例(学外特別講師)</li> <li>まとめ1</li> <li>まとめ2</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川端 麗子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)、授業中の課題(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中に出した課題は次回授業にてフィードバックし、定期試験は試験終了後に解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、授業中の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座「ソーシャルワークの基盤と専門職」 著者名:ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8241-2)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] どうせ社会は変えられないなんてだれが言った? 著者名:井手英策 出版社:小学館 (978-4-09-388819-6)</p>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	相談支援の実際	講義	
担当者	坂本 茉衣子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>精神保健福祉士は従来医療の範疇で遇されてきた精神障害者の社会的復権等が中心的な業務であったが、2010年末の精神保健福祉士法の改正により、業務の範疇をより実践に即した形で広げ、地域での実践に大きくシフトした。これにより地域生活を中心とした支援に法的な根拠が与えられ、精神保健福祉の専門的領域に加えて、地域社会あるいは地域生活を支援するというジェネリックな視点や機能が求められている。よって精神保健福祉士に求められるものは支援力だけではなく人間力、表現力、想像力と多岐にわたる。よって授業では、これまでの精神科医療偏重の制度から地域生活支援へと大きくパラダイムの変換が求められている時代に即応する精神保健福祉士の在り方を学び、その実力を養う。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>精神科病院と地域の指定特定相談支援事業所で現在も実務を行っている精神保健福祉士として、現場の楽しさや、精神保健福祉委領域の課題を現場のリアルな内容を現在学んでいる知識と結びつけるような教育を行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>最低限度教科書を各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期授業のガイダンス</li> <li>2. 精神医療保健福祉の歴史</li> <li>3. 精神医療保健福祉の動向</li> <li>4. 精神障害者支援の理念～地域での支援を中心に～</li> <li>5. 精神障害者の人権と人権擁護</li> <li>6. 精神科リハビリテーションの概念</li> <li>7. 精神科リハビリテーションの理念</li> <li>8. 精神科リハビリテーションの構成</li> <li>9. 精神科リハビリテーションのプロセス～地域におけるリハビリを中心に～</li> <li>10. 地域におけるリハビリテーション活動の実際①～西宮市地域移行推進事業～</li> <li>11. 地域におけるリハビリテーション活動の実際②～当事者主体について～</li> <li>12. コミュニティソーシャルワークにおける多職種連携・協働</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門) I	前期	2 単位
サブタイトル	相談支援の実際	講義	
担当者	坂本 茉衣子		

[ 成績評価方法 ]

授業への取り組み姿勢(授業態度・レポート等)30%、試験70%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポートは添削して返却するとともに、試験は実施後に解説を実施します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]

精神保健福祉の理論と相談援助の展開<1> 第2版(精神保健福祉士シリーズ 5) 単行本 2016/2/16  
古屋 龍太(編集), 福祉臨床シリーズ編集委員会(編集)

[ 参考書(ISBN) ]

授業中に適宜紹介をする

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂本 茉衣子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>精神保健福祉士は従来医療の範疇で遇されてきた精神障害者の社会的復権等が中心的な業務であったが、2010年末の精神保健福祉士法の改正により、業務の範疇をより実践に即した形で広げ、地域での実践に大きくシフトした。これにより地域生活を中心とした支援に法的な根拠が与えられ、精神保健福祉の専門的領域に加えて、地域社会あるいは地域生活を支援するというジェネリックな視点や機能が求められている。よって精神保健福祉士に求められるものは知識はもちろん、想像力、共感力、提言力、人間力とより多くのものが求められる。よって授業では、これまでの精神科医療偏重の制度から地域生活支援へと大きくパラダイムの変換が求められている時代に即応する精神保健福祉士の相談援助活動の在り方を学び、その実力を養う。</p> <p>[授業概要]</p> <p>精神科病院と地域の指定特定相談支援事業所で現在も実務を行っている精神保健福祉士として、現場の実務と学んだことを結びつけながらより深い学びを提供するとともに、精神保健福祉士として備えるべき福祉に対する概念を学生自身によって掘り下げることができる教育を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>最低限度教科書の予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後期授業のガイダンス</li> <li>2. 地域の精神保健福祉士の業務</li> <li>3. 相談支援事業の業務の実際</li> <li>4. 地域移行支援について</li> <li>5. 兵庫県の地域移行支援について</li> <li>6. 地域を基盤としたリハビリテーション</li> <li>7. セルフヘルプ・家族会</li> <li>8. 精神障害者のチームによるケアマネジメント</li> <li>9. 地域を基盤にした支援の具体的展開</li> <li>10. 事例による地域を基盤にした支援の検討</li> <li>11. コミュニティソーシャルワークからみた包括的総合的支援の意義</li> <li>12. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂本 茉衣子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業への取り組み姿勢(授業態度/レポート等)30%、試験70%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは添削して返却するとともに、試験は実施後に解説を実施します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 精神保健福祉の理論と相談援助の展開(1) 第2版(精神保健福祉士シリーズ 5) 単行本 2016/2/16 古屋 龍太(編集), 福祉臨床シリーズ編集委員会(編集)</p>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法 I	前期	2 単位
サブタイトル	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの展開過程	講義	
担当者	徳山 磨貴		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①人と環境の交互作用に関する理論を理解する  ②ソーシャルワーカーとして考え、行動する際の「よりどころ」となる視点が持てるようになる  ③ソーシャルワークの展開過程について理解する</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>ソーシャルワーカーの強みである「人とその環境が交互に作用している状況に焦点を当てる」という視点の根拠となる理論的知識について学ぶ。それらをふまえて、「ケースの発見」「エンゲージメント」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の終結」「結果評価」「アフターケア」というソーシャルワークの展開過程について学ぶ。</p> <p>担当教員の医療ソーシャルワーカーとしての実践経験をふまえ、事例を取り入れながら、援助プロセスに対する理解が深められるよう講義を進めていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回、予習・復習合わせて4時間程度の学修を行うこと。予習は、提示された次回の範囲の教科書を読む。復習は、講義で使用したパワーポイント資料や教科書を見直し、理解を深めた上で、授業内に提示する課題に取り組み、期日までに提出を行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ソーシャルワーカーが学ぶ理論</li> <li>2.システム理論、生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル</li> <li>3.ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの目標</li> <li>4.ソーシャルワークの過程(ケースの発見とエンゲージメント)</li> <li>5.ソーシャルワークの過程(アセスメントⅠ)</li> <li>6.ソーシャルワークの過程(アセスメントⅡ)</li> <li>7.ソーシャルワークの過程(プランニングⅠ)</li> <li>8.ソーシャルワークの過程(プランニングⅡ)</li> <li>9.ソーシャルワークの過程(支援の実施とモニタリング)</li> <li>10.ソーシャルワークの過程(効果測定)</li> <li>11.ソーシャルワークの過程(支援の終結)</li> <li>12.ソーシャルワークの過程(支援の結果評価とアフターケア)</li> <li>13.前期講義のまとめ</li> </ol>			



科目名	ソーシャルワークの理論と方法 I	前期	2 単位
サブタイトル	人と環境の相互作用に関する理論とソーシャルワークの展開過程	講義	
担当者	徳山 磨貴		
<p>[ 成績評価方法 ] 毎回の授業課題(60%)、前期の最終レポート(40%)から総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 毎回の授業課題は、次回授業にてフィードバックし、レポート等についても解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業内課題、最終レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]」 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 出版社:中央法規(9.78E+12)</p>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		後期	2単位
サブタイトル			講義	
担当者	植戸 貴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>本科目の目的・ねらいは、①ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する、②コミュニティワークの概念とその展開について理解する、③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する、の3点である。</p> <p>到達目標は、①ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解できる、②ソーシャルワークの記録の意義・目的・方法・実際に理解できる、③ケアマネジメントの原則・意義・方法について理解できる、④集団を活用した支援の意義・目的・原則・展開過程やセルフヘルプグループの支援について理解できる、⑤コミュニティワークの意義・目的・展開について理解できる、⑥スーパービジョンとコンサルテーションの意義・目的・方法について理解できる、の6点である。</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について学ぶ(ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア)。</li> <li>2. ソーシャルワークの記録の意義・目的・方法・実際に理解できる。</li> <li>3. ケアマネジメントの原則・意義・方法について学ぶ。</li> <li>4. 集団を活用した支援(グループワーク)の意義・目的・原則・展開過程、およびセルフヘルプグループについて学ぶ。</li> <li>5. コミュニティワークの意義・目的・展開について学ぶ。</li> <li>6. スーパービジョン及びコンサルテーションの意義・目的・方法について学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの過程</li> <li>2. ソーシャルワークの実践モデル:治療モデル・ストレングスモデル・生活モデル</li> <li>3. ソーシャルワークのアプローチ:心理社会的アプローチ・機能的アプローチ・問題解決アプローチ・課題中心アプローチ・行動変容アプローチ</li> <li>4. ソーシャルワークのアプローチ:認知アプローチ・危機介入アプローチ・エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチ・解決志向アプローチ・その他のアプローチ</li> <li>5. ソーシャルワークの面接</li> <li>6. ソーシャルワークの記録</li> <li>7. ケア(ケース)マネジメント</li> <li>8. 集団を活用した支援</li> <li>9. コミュニティワーク</li> <li>10. ソーシャルアドミニストレーション</li> <li>11. ソーシャルアクション</li> <li>12. スーパービジョンとコンサルテーション</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業でフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座⑫ソーシャルワークの理論と方法(共通科目) 著者名:日本ソーシャル</p>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	植戸 貴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを踏まえて、ソーシャルワークに関する理論と方法の理解を深めることを目指す。</p> <p>①ソーシャルワークにおける援助関係の形成の意義・概念・形成方法・面接技法・アウトリーチについて理解できる。</p> <p>②ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発およびソーシャルアクションについて理解できる。</p> <p>③ネットワークの形成(ネットワークングとコーディネーション)について理解できる。</p> <p>④ソーシャルワークに関連する方法(ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション)及びケースカンファレンスについて理解できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>1. ソーシャルワークにおける援助関係の形成(援助関係の意義と概念および形成方法、面接技術、アウトリーチ)について学ぶ。</p> <p>2. ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発およびソーシャルアクションについて学ぶ。</p> <p>3. ネットワークの形成(ネットワークングとコーディネーション)について学ぶ。</p> <p>4. ソーシャルワークに関連する方法(ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション)およびケースカンファレンスについて学ぶ。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、ソーシャルワーク実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. 援助関係の意義と概念: ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係</p> <p>2. 援助関係の形成方法: 自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール</p> <p>3. 面接技術: 面接の意義・目的・方法・留意点及び面接の場面・構造と面接の技法</p> <p>4. アウトリーチ: アウトリーチの意義・目的・方法・留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし</p> <p>5. 社会資源の活用・調整・開発: 社会資源の活用・調整・開発の意義、目的、方法、留意点</p> <p>6. 社会資源の活用・調整・開発: ニーズの集約・提言・計画策定・実施・評価</p> <p>7. ソーシャルアクション: ソーシャルアクションの意義・目的・方法・留意点</p> <p>8. ネットワークング: ネットワークングの意義・目的・方法・留意点、セーフティネットの構築とネットワークング及び家族・住民・サービス提供者間のネットワークング</p> <p>9. ネットワークング: 重層的な範囲(ミクロ・メゾ・マクロ)におけるネットワークング、多様な分野の支援機関とのネットワークング</p> <p>10. コーディネーション: コーディネーションの意義・目的・方法・留意点</p> <p>11. ソーシャルワークに関連する方法: ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーションの意義・目的・方法・留意点</p> <p>12. ケースカンファレンス: ケースカンファレンスの意義・目的・留意点・運営と展開</p> <p>13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 最新 社会福祉士養成講座⑥ソーシャルワークの理論と方法(社会専門) 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 出</p>			

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	植戸 貴子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを踏まえて、ソーシャルワークに関する理論と方法の理解を深め、本科目で修得したことを実践的に応用できるようになることを目指す。</p> <p>①事例分析・事例検討・事例研究の意義・目的・方法・留意点が理解できる。</p> <p>②ソーシャルワークにおける総合的包括的な支援の必要性や考え方が理解できる。</p> <p>③ソーシャルワークにおける家族支援や地域支援の実際について理解できる。</p> <p>④ソーシャルワークにおける非常時や災害時支援の必要性や実際について理解できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>1. 事例分析(事例分析、事例検討及び事例研究)について学ぶ。</p> <p>2. ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際(総合的かつ包括的な支援の考え方、家族支援の実際、地域支援の実際、非常時や災害時支援の実際等)について学ぶ。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、ソーシャルワーク実践に求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学習を行うこと。具体的には、前回の授業内容や小テストを復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. 事例分析:事例分析の意義・目的</p> <p>2. 事例検討・事例研究:事例検討及び事例研究の意義・目的・方法・留意点</p> <p>3. 総合的かつ包括的な支援の考え方:多様化、複雑化した生活課題への対応</p> <p>4. 総合的かつ包括的な支援の考え方:今日的な地域福祉課題への対応</p> <p>5. 総合的かつ包括的な支援の考え方:分野、領域を横断する支援</p> <p>6. 家族支援の実際:家族が抱える複合的な生活課題</p> <p>7. 家族支援の実際:家族支援の目的・方法・留意点</p> <p>8. 地域支援の実際:地域が抱える課題</p> <p>9. 地域支援の実際:多機関協働</p> <p>10. 地域支援の実際:地域住民との協働</p> <p>11. 地域支援の実際:地域アセスメント</p> <p>12. 非常時や災害時支援の実際:非常時や災害時の生活課題と支援の目的・方法・留意点</p> <p>13. まとめ</p>				

科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストおよびレポート課題の評価は、翌週の授業において解答解説等によってフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験(70%)、小テストおよびレポート課題(20%)、授業への取り組み(10%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 最新 社会福祉士養成講座⑥ソーシャルワークの理論と方法(社会専門) 著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 出</p>			

P11001260 [ WWH3-009 ]

[4福]\*前期水3

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	自己決定を支えるエンパワメント支援	演習	
担当者	泉 妙子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          専門演習Ⅰ-Ⅱで作成した(A4 4枚以上)問題提起と課題をさらにより深く調べ、考察を発展させ卒業論文を完成させる。</p> <p>[授業概要]          3回生で作成した各自の研究課題に対して評価・見直しを行う。          1) 先行論文・資料を検索し課題を精査する。          2) 研究計画・研究方法について客観的な視点を軸に助言・指導を受ける。          3) 前期、中間発表を通して他者の意見や討論を通してさらに考察を深める。          4) 全体の論文構成の指導を受ける。          5) 卒業論文を完成させる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          1) 研究スケジュールを作成する          2) 日頃から、SNSや新聞・図書館・セミナー等テーマに基づく関連資料を収集する習慣を身に着ける。          3) 収集した文献や資料は、必要な時使用できるように整理しておく。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーション          2. 卒業論文のテーマの確認          3. 論文執筆の規定確認          4. 文献・資料検索の方法と指導①          5. 文献・資料検索の方法と指導②          6. 論文構成について①          7. 論文構成について②          8. 目次の作成          9. 図・表の入れ方          10. 中間発表とディスカッション①          11. 中間発表とディスカッション②          12. 中間発表とディスカッション③          13. 前期のまとめ          14. 研究・論文作成の確認①          15. 研究・論文作成の確認②          16. 卒業論文提出に向けての指導①          17. 卒業論文提出に向けての指導②          18. 卒業論文提出に向けての指導③          19. 卒業論文提出に向けての指導④          20. 卒業論文提出に向けての指導⑤          21. 卒業論文提出に向けての指導⑥          22. 卒業論文提出前最終確認          23. 卒業論文発表会の準備①レジュメ作成          24. 卒業論文発表会の準備②予備練習          25. 卒業論文発表会          26. 1年間のまとめ</p>			



科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	自己決定を支えるエンパワメント支援	演習	
担当者	泉 妙子		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文へ取り組み50%と卒業論文の内容50%の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:論文作成に向けた取り組み及び卒業論文内容と卒業論文発表内容</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 夜と霧 著者名:V.E.フランクル 出版社:みすず書房 (ISBN4-622-00601-4)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] ケアの社会学 著者名:上野千鶴子 出版社:太田出版 (ISBN978-47783-1241-1)</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	ソーシャルワークにおけるエンパワメント	演習	
担当者	植戸 貴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3回生の「専門演習Ⅰ・Ⅱ」において修得した各自の問題意識を卒業論文として完成させる。</li> <li>各自の研究テーマを授業内で分かち合い、意見交換することを通して、他の学生の研究テーマについても問題意識を持ち、知識を深めるとともに、多面的・総合的な考察力を培う。</li> <li>卒業論文作成のための現地調査及び文献研究、資料の分析、執筆の方法などを、グループ指導及び個別指導を通して学ぶ。</li> <li>教員による個別指導を通して、卒業論文のテーマに関する自分の考えを深め、視野を広げる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>教員によるグループ指導及び個別指導とする。</p> <p>毎回の授業では、担当教員の障害者施設や高齢者施設でのソーシャルワーカーとしての実践経験や福祉援助職へのスーパービジョン経験などを活かして、ソーシャルワーカーに求められる価値・倫理、専門的知識、専門的技術について、具体的な事例等を紹介しながら実践的に理解できるような授業を展開する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度の主体的な学修を行うこと。具体的には、社会福祉に関する自分の問題意識を明確に持ち、日常的にそれを探究するための自己学習を行うとともに、読解力・文章構成力の向上に努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>卒業論文のテーマ設定に関する指導</li> <li>卒業論文の作成プロセスに関する指導</li> <li>論文のスタイルに関する指導</li> <li>卒業論文の執筆要領に関する指導</li> <li>文献の探し方に関する指導</li> <li>統計資料の読み方に関する指導</li> <li>アンケート調査に関する指導</li> <li>聞き取り調査に関する指導</li> <li>卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導</li> <li>各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導①</li> <li>各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導②</li> <li>各自の卒業論文作成作業に関する指導</li> </ol> <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>各自の卒業論文作成の指導①</li> <li>各自の卒業論文作成の指導②</li> <li>各自の卒業論文作成の指導③</li> <li>各自の卒業論文作成の指導④</li> <li>各自の卒業論文作成の指導⑤</li> <li>各自の卒業論文作成の指導⑥</li> <li>卒業論文発表会の発表資料作成に関する指導</li> <li>卒業論文発表会の発表資料作成の指導①</li> <li>卒業論文発表会の発表資料作成の指導②</li> <li>卒業論文発表会の準備に関する指導</li> <li>卒業論文発表会①</li> <li>卒業論文発表会②</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	ソーシャルワークにおけるエンパワメント	演習	
担当者	植戸 貴子		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業論文作成に向けた取り組みの評価は、その場で、または翌週の授業でフィードバックする。卒業論文の内容についての評価は、個別指導においてフィードバックする。卒業論文の発表の評価は、卒論発表会の場でフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文作成に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(50%)、卒業論文の発表(20%)で評価。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業の中で資料を配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11001060A [ WWH4-001 ]

[4福]\*通年集中

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 深めたいテーマについて過去の経験と学習した内容を踏まえ、新たな情報収集を行い、分析・考察して4年間の集大成とする。</p> <p>[授業概要] 1. 研究テーマの決定 2. 先行文献検索 3. 調査・観察・記録等資料収集 4. 論文執筆</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各自のテーマに基づいて資料を集め読む。</p> <p>[授業計画] 1. 研究テーマの決定 2. 研究テーマの決定 3. 先行文献検索 4. 先行文献検索 5. 先行文献検索 6. 先行文献検索 7. 調査・観察・記録等資料収集 8. 調査・観察・記録等資料収集 9. 調査・観察・記録等資料収集 10. 論文執筆 11. 論文執筆 12. 論文執筆 13. 論文執筆 14. 論文執筆 15. 考察 16. 考察 17. 考察 18. 考察 19. 考察 20. 振り返り 21. 資料整理 22. 発表会資料作成 23. 発表会資料作成 24. リハーサル 25. 反省 26. まとめ</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	下司 実奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度 (30%)  論文 (70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  個別に面談にてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:卒業論文</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:卒業論文</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>			

P11001060B [ WWH4-001 ]

[4福]\*通年集中

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	自らの社会福祉的関心事について、探求、検証、推測を行い、文章としてまとめあげます	演習	
担当者	佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] これまで学んだこと、実習やボランティアで感じたこと、現代社会で起きている事象に対して、社会福祉的な視点から分析し考察してまとめます。</p> <p>[授業概要] 個別指導を主として、定期的に発表会を行い、研究の成果をゼミのメンバーで確認します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 参考文献やインターネットの活用などから、自分の関心事について資料収集と文章にまとめることを行ってください。また、考えたことを記録することも大切です。で、スマホやメモを活用する習慣もつけてください。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.各自の関心を持っている事象の発表と資料収集方法の確認 3.論文作成のルール説明 4.書き出しの確認 5.第一回中間発表、質疑応答 6.論文作成指導 7.論文作成指導 8.論文作成指導 9.論文作成指導 10.第二回中間発表、質疑応答 11.論文作成指導 12.論文作成指導 13.前期のまとめ 14.後期のスケジュール確認 15.論文作成指導 16.論文作成指導 17.論文作成指導 18.第三回中間発表、質疑応答 19.論文作成指導 20.論文作成指導 21.論文作成指導 22.論文作成指導 23.第四回中間発表、質疑応答 24.論文作成指導 25.論文作成指導 26.最終発表会</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	自らの社会福祉的関心事について、探求、検証、推測を行い、文章としてまとめあげます	演習	
担当者	佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ] 論文作成姿勢50%、論文内容20%、発表状況30%、特に積極的に自らの探求する姿勢を評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 適時、作成している論文をゼミ時に検証し提出します。その後、直接返却して、完成を目指します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:演習の参加、中間発表内容等で評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適時、指示します。</p>			

P11001060C [ WWH4-001 ]

[4福]\*通年集中

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	社会政策と社会福祉	演習	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]          専門演習Ⅱで習得した知識、課題を調べ学習、思考を深める力を発展させ、卒業論文を完成させることができる。          ゼミ生個人の研究内容をゼミで発表し、討論することによって、自分の研究課題を客観的に捉え、幅広い視野をもち科学的論理的に議論する力を身につける。</p> <p>[授業概要]          3年生の社会福祉演習Ⅱで明確化された各自の研究課題について          1. 文献・資料を検索、収集、もしくは調査、分析する中で、いくつかの課題を設定する。          2. 研究計画、研究方法等について助言・指導を受ける。          3. それらの課題について調べ、考察した結果をゼミで発表し、討論していく。          4. 論文構成、論文執筆の方法等について助言・指導を受ける。          5. その結果を卒業論文として完成させる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          日常的な読書習慣をつけておく。前年の社会福祉演習で絞ったテーマについて幅広く文献を読み込み、研究対象について調べておく。各回、2時間程度。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーション          2. 卒業論文のテーマ設定について          3. 論文執筆の方法について          4. 文献・資料検索の方法と指導          5. 定性的調査・定量的調査について          6. 研究計画について指導①          7. 研究計画について指導②          8. 論文構成について①          9. 論文構成について②          10. 中間発表とディスカッション①          11. 中間発表とディスカッション②          12. 中間発表とディスカッション③          13. 前期のまとめ          14. 研究・執筆活動の確認①          15. 研究・執筆活動の確認②          16. 卒業論文提出に向けての指導①          17. 卒業論文提出に向けての指導②          18. 卒業論文提出に向けての指導③          19. 卒業論文提出に向けての指導④          20. 卒業論文提出に向けての指導⑤          21. 卒業論文提出に向けての指導⑥          22. 卒業論文提出前最終確認          23. 卒業論文発表会の準備①レジュメ作成          24. 卒業論文発表会の準備②予備練習          25. 卒業論文発表会          26. 1年間のまとめ</p>			



科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	社会政策と社会福祉	演習	
担当者	清水 弥生		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題への取り組み(50%)、卒業論文(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 論文執筆中は授業内で、完成後は評価して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2 /現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題への取り組み、卒業論文</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾田 里美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 各自のテーマで調査研究し、論文にまとめることができる。作成途中で研究内容について発表することを通してプレゼンテーションできるようになる。</p> <p>[授業概要] 3回生の「社会福祉演習Ⅱ」での学習内容に基づいて、各自が問題意識をもったテーマについて卒業論文を作成します。各自が研究内容についてレジメを作成して発表し、メンバー間でディスカッションを行います。その過程のなかで、お互いのテーマを通して、子どもをとりまくさまざまな問題についてその実情や援助のあり方を一緒に考察します。 授業の中で、子どもやその家族との関わり、関係機関との連携などのあり方など担当教員が児童福祉施設での実践経験から得た知見を伝えていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度) 日頃から授業や自身の研究テーマに関するニュース等に関心を持ち、著書、論文を読み、卒論作成に活かすようにしてください。</p> <p>[授業計画] &lt;前期&gt; 1. 卒業論文を書くために 2. テーマの発表 3. 研究計画書の作成 4. 研究計画書の発表 5. 研究計画書の発表 6. 研究計画書の発表 7. 文献検索、資料収集 8. 文献検索、資料収集 9. 研究活動の報告・発表 10. 研究活動の報告・発表 11. 研究活動の報告・発表 12. 卒業論文の書き方 13. 夏休みの課題の確認 &lt;後期&gt; 14. 論文作成の中間発表 15. 論文作成の中間発表 16. 論文作成の中間発表 17. 各自の論文の考察 18. 各自の論文の考察 19. 各自の論文の考察 20. 各自の論文の考察 21. 論文の要旨作成 22. 論文の要旨作成 23. 卒業論文発表会の準備 24. 卒業論文発表会 25. 卒業論文発表会 26. まとめ</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文への取り組みと姿勢(20%)、卒業論文の内容(60%)、ゼミや発表会でのプレゼンテーション(20%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業論文は1章ごとに提出し、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文 ディスカッション</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

P11001060E [ WWH4-001 ]

[4福]\*通年集中

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 卒業論文作成を通し、社会福祉専門職として必要となるソーシャルワークの価値・知識・技術に対する総合的な理解の深化を図る。</p> <p>[授業概要] ・各自設定した卒論テーマに沿って、卒論作成、完成をめざす。 ・教員によるグループ指導及び個別指導を行う。 ・定期的にグループ討議をおこない、卒業論文作成を通して各学生が得た専門知識等について、情報交換、情報共有の場を設ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容について復習をおこなうとともに、指示された課題についてしっかりと取り組みましょう。各回について予習復習を2時間程度行ってください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 卒業論文作成にあたって 3. 論文作成指導 4. 論文作成指導 5. 論文作成指導 6. 論文作成指導 7. 論文作成指導 8. 論文作成指導 9. 中間発表会(1) 10. 中間発表会(2) 11. 中間発表会(3) 12. 論文内容の振り返り 13. 前期のまとめ 14. 研究活動の報告・発表(1) 15. 研究活動の報告・発表(2) 16. 論文作成指導 17. 論文作成指導 18. 論文作成指導 19. 論文作成指導 20. 論文作成指導 21. 論文作成指導 22. 卒業論文発表会資料作成 23. 卒業論文発表会発表準備 24. 卒業論文発表会発表準備 25. 卒業論文発表会 26. 卒業論文発表会</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	田中 希世子		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文への取り組みと姿勢 50%、卒業論文内容 30%、ゼミや発表会でのプレゼンテーション 20%により総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 適宜、学んだこと、各自でまとめたことを文章化して提出してもらいます。確認後、内容等について検討、相互に検証します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文、ディスカッション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11001060F [ WWH4-001 ]

[4福]\*通年集中

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業研究	演習	
担当者	津田 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          社会福祉演習Ⅱで深めた知識をもとに、各自の深めたいテーマで卒業研究に取り組み、論文にまとめ4年間の集大成として提出期限内に卒業論文を完成させる。卒業論文発表に向けて、プレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>[授業概要]          回想法を活用した研究に取り組み、ケアマネジャーや看護師として病院や介護保険事業所で勤務したことがある教員が、現場での経験を踏まえ、社会福祉全般において学生が興味を抱いたテーマに沿った卒業研究に取り組むことを指導します。          卒業論文に取り組む過程において、ゼミ内で自らの研究課題について発表し、意見交換を通して研究内容を深め、研究テーマに関する文献検索をしポイントを整理し、研究方法(調査・実践・文献など)を決定し、それぞれが決定した方法にそって卒業研究に取り組みます。          その過程において、論文執筆の助言・指導や、卒業論文発表に向けた準備を指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          社会福祉を取り巻く課題に興味を持ち、興味がある文献を読むなど、各回において2時間は卒業研究にむけた予習・復習に取り組むこと。</p> <p>[授業計画]          1. オリエンテーション          2. 卒業論文の進め方          3. 研究方法について          4. 卒業論文テーマの設定          5. 研究計画書の作成          6. 文献検索          7. 資料の検索          8. 文献・資料の整理          9. 研究活動          10. 研究活動・文献リスト作成          11. 研究活動・章立て          12. 研究活動・序論作成          13. 研究活動・グループディスカッション          14. 夏休みの課題の確認          15. 卒業論文作成・本文作成          16. 卒業論文作成・文献リスト          17. 中間発表          18. ディスカッション          19. 卒業論文作成・目次・表紙          20. パワーポイント作成          21. 論文要旨・資料作成          22. 卒業論文発表会の準備          23. 発表抄録・原稿作成          24. 発表練習          25. 卒業論文発表会          26. グループワーク・まとめ</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業研究	演習	
担当者	津田 理恵子		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文の内容(30%)、プレゼンテーション(30%)、授業参加度(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 個別にコメントを返したり、面談を適宜実施する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文の内容、プレゼンテーション、授業参加度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 適宜資料配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜資料配布</p>			

P11001060G [ WWH4-001 ]

[4福]\*通年集中

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門演習Ⅱで習得した知識を基に、課題を調べ学習、思考し卒業論文を完成させる。</li> <li>・各自の研究テーマを授業内で共有し、情報・意見交換することで、社会福祉に対する、知識を深めるとともに、複眼的・総合的な考察力を身につける。</li> <li>・研究内容をゼミで発表し、討論することによって、自分の研究課題を客観的に捉え、科学的論理的に議論する力を身につける。</li> <li>・教員による個別指導を通して、卒業論文のテーマに関する自分の考えを深め、視野を広げる。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門演習Ⅱで明確化された各自の研究課題について分析考察を行い自分の考えを発表する</li> <li>・文献・資料を検索、収集、調査(フィールドワーク)、分析する中で課題を設定する。</li> <li>・研究計画、研究方法等について助言・指導を受ける。</li> <li>・自分の研究課題について追求し、考察した結果をゼミで発表し、討論し視野を広げる。</li> <li>・卒業論文執筆について助言・指導を受ける。</li> <li>・卒業論文として完成させ発表する。</li> </ul> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>専門演習Ⅱで興味を持った探求すべき課題について、先行研究や文献を幅広く読む。 社会福祉に関する自分の問題意識を明確にし、研究内容に関する学修を行うとともに、文章構成等、論文の書き方について学習しておく。 各回、予習復習合わせて2時間程度の学修を行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(前期)</li> <li>2. 卒業論文のテーマ設定について</li> <li>3. 卒業論文執筆の方法について</li> <li>4. 先行研究・文献・資料検索の方法と指導</li> <li>5. 調査方法について(定性的調査・定量的調査)</li> <li>6. 研究計画について指導①</li> <li>7. 研究計画について指導②</li> <li>8. 論文構成について</li> <li>9. 各自、テーマに関する発表に向けての指導①</li> <li>10. 各自、テーマに関する発表に向けての指導②</li> <li>11. 各自、テーマに関する発表に向けての指導③</li> <li>12. 中間発表とディスカッション</li> <li>13. 前期のまとめ</li> <li>14. オリエンテーション(後期)</li> <li>15. 研究・執筆活動の確認</li> <li>16. 卒業論文作成の指導①</li> <li>17. 卒業論文作成の指導②</li> <li>18. 卒業論文作成の指導③</li> <li>19. 卒業論文作成の指導④</li> <li>20. 卒業論文作成の指導⑤</li> <li>21. 卒業論文作成の指導⑥</li> <li>22. 卒業論文最終確認及び指導</li> <li>23. 卒業論文発表会の抄録集作成</li> <li>24. 卒業論文発表会の予行演習</li> <li>25. 卒業論文発表会</li> <li>26. まとめ</li> </ol>			



科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	働きやすい福祉・介護労働環境づくり	演習	
担当者	名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、卒業論文(50%)、発表(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  卒業論文執筆中は授業内もしくは個別指導にてフィードバックする。  卒業論文は発表後講評する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業への取り組み、卒業論文、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	地域福祉と包括的支援体制 I	前期	2 単位
サブタイトル	地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会の変化により多様化・複雑化した地域生活課題について説明できる。</li> <li>2. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の考え方と展開について説明できる。</li> <li>3. 地域福祉ガバナンスの考え方、多職種連携・多機関協働の意義と実際について説明できる。</li> <li>4. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの「複合化・複雑化した福祉課題及び包括的な支援を理解する科目」として、地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題を出発点に、地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制および地域福祉ガバナンスについて理解を深めるとともに、地域福祉の歴史の変遷、地域福祉の概念と理論、地域福祉の推進主体などの地域福祉の基本的な考え方と展開について学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回についての予習・復習(4時間程度)</p> <p>【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。</p> <p>【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会の概念と理論</li> <li>2. 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題</li> <li>3. 地域包括ケアシステムと生活困窮者自立支援制度の考え方</li> <li>4. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制①: 法制度</li> <li>5. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制②: 施策の展開</li> <li>6. 地域福祉ガバナンス</li> <li>7. 多職種連携・多機関協働のしくみ</li> <li>8. 多様な主体との協働</li> <li>9. 地域福祉の歴史</li> <li>10. 地域福祉の概念と理論①: 主要な理論</li> <li>11. 地域福祉の概念と理論②: 新たな展開</li> <li>12. 地域福祉の推進主体①: 地方自治体と民間組織</li> <li>13. 地域福祉の推進主体②: 多様な主体の参画</li> </ol>			

科目名	地域福祉と包括的支援体制 I	前期	2 単位
サブタイトル	地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  地域福祉と包括的支援体制 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 出版社:中央法規出版(978-4-8058-8236-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	地域福祉を推進する制度とソーシャルワーカーの役割	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域を基盤としたソーシャルワークおよびソーシャルワーカーの役割について説明できる。</li> <li>2. 災害時における総合的かつ包括的な支援体制およびソーシャルワーカーの役割について説明できる。</li> <li>3. 地域福祉における主体と対象、住民の主体形成について説明できる。</li> <li>4. 福祉計画の意義・種類・策定・運用およびソーシャルワーカーの役割について説明できる。</li> <li>5. 福祉行財政システムおよびソーシャルワーカーの役割について説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの「複合化・複雑化した福祉課題及び包括的な支援を理解する科目」として、地域を基盤としたソーシャルワークの方法と展開、災害時における総合的かつ包括的な支援体制をもとに地域福祉の推進について実践的理解を深めるとともに、福祉計画、福祉行財政システムなどの地域福祉の制度やしぐみについて学修する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回についての予習・復習(4時間程度)</p> <p>【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。</p> <p>【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域を基盤としたソーシャルワークの方法①:概念と理論</li> <li>2. 地域を基盤としたソーシャルワークの方法②:住民の主体形成</li> <li>3. 地域を基盤としたソーシャルワークの展開(事例検討)</li> <li>4. 災害時における総合的かつ包括的な支援体制①:法制度</li> <li>5. 災害時における総合的かつ包括的な支援体制②:支援の展開</li> <li>6. 地域福祉の実践現場から学ぶ(外部講師)</li> <li>7. 福祉計画の意義・種類・策定・運用①:福祉計画の意義・目的と展開</li> <li>8. 福祉計画の意義・種類・策定・運用②:地域福祉計画</li> <li>9. 福祉計画の意義・種類・策定・運用③:福祉計画の策定・実施・評価</li> <li>10. 福祉行財政システム①:国・都道府県・市町村の役割</li> <li>11. 福祉行財政システム②:福祉行政の組織と専門職の役割</li> <li>12. 福祉行財政システム③:福祉における財源</li> <li>13. 地域福祉推進におけるソーシャルワーカーの役割</li> </ol>			

科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	地域福祉を推進する制度とソーシャルワーカーの役割	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  地域福祉と包括的支援体制 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 出版社:中央法規出版(978-4-8058-8236-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	認知症の理解 I	前期	2 単位
サブタイトル	認知症の人の医学・行動・心理的理解	講義	
担当者	泉 妙子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の認知症を取り巻く状況を理解する。</li> <li>2. 認知症の医学的・心理的側面の基礎知識を学ぶ。</li> <li>3. 当事者や家族が背負う認知症に伴う生活への影響と認知ケアの重要性を理解する。</li> <li>4. 多職種連携・協働の重要性を理解する。</li> <li>5. 個々の家庭における多様性を理解し、認知症の人を支える家族の支援、課題・家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐ。</li> <li>6. 地域で実際に起こっている様々な事例に基づく支援の展開を学ぶ。</li> </ol> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>以下3点を中心に、各回4時間程度予習復習の学習習慣を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞やTVなどで高齢者の認知症に関する現状や課題を確認しておく。</li> <li>2. 高齢社会の人口動態、医療費問題、介護問題に関心を持ち、家族や友人と話し合う場を持つ。</li> <li>3. 授業ノートを整理する。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 認知症を取り巻く状況と推計を理解できる</li> <li>2. 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解する</li> <li>3. 医学的・心理的側面から認知症の原因疾患について 基礎知識 I を学ぶ</li> <li>4. 医学的・心理的側面から認知症の原因疾患について 基礎知識 II を学ぶ</li> <li>5. 認知症の診断方法と基準、認知症になる要因を学ぶ</li> <li>6. 段階に応じた心身の変化や心理症状を理解する</li> <li>7. 中核症状・周辺症状を理解する</li> <li>8. 認知症の心理的理解を深める・心の介護の重要性が理解できる</li> <li>9. 認知症の生活支援を行うための根拠となる知識を理解する</li> <li>10. 当事者ニーズの視点を学ぶ・認知症と環境との関係を理解する</li> <li>11. 認知症の人を中心に据えた認知症ケアの理念と視点を理解する</li> <li>12. 住み慣れた家で暮らすための家族支援と地域力を生かした支援とは</li> <li>13. まとめ 確認テスト</li> </ol>			

科目名	認知症の理解 I	前期	2 単位
サブタイトル	認知症の人の医学・行動・心理的理解	講義	
担当者	泉 妙子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内容確認課題12回 30% 確認テスト70% の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 対面による個別指導及びmanabaを活用する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:終講試験を受講する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びとの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 最新介護福祉士養成講座12 認知症の理解 著者名: 莊村明彦他 出版社: 中央法規出版 (978-4-8058-3770-2)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 介護殺人の予防 著者名: 湯原悦子 出版社: クレス出版 (987-4-87733-956-2C3036)</p>			

P11001890 [ WWH1-013 ]

[1福]\*前期水2

科目名	認知症の理解Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	認知症の人への関わ方について	講義	
担当者	泉 妙子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
[到達目標]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症を取り巻く状況を理解する。</li> <li>2. 認知症の医学的・心理的側面の基礎知識を学ぶ。</li> <li>3. 認知症に伴う生活への影響と認知ケアの重要性を学ぶ。</li> <li>4. 多職種協働・連携の重要性を理解する。</li> <li>5. 認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐ。</li> </ol>			
[授業概要]			
<p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p>			
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人保健施設での実習後、認知症の関わり方について課題を明確にしておく。</li> <li>・パーソンセンタードケアやユマニチュードなど有効な認知症ケアの関わり方を調べておく。</li> </ul>			
[授業計画]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践</li> <li>2. 認知症の人へのかかわり方の基本(特徴的な心理・行動を配慮するためには)</li> <li>3. 気持ちの読み取り方を学ぶⅠ 特性を踏まえたアセスメント</li> <li>4. 気持ちの読み取り方を学ぶⅡ 本人主体の認知症ケア</li> <li>5. 認知症の早期発見・早期治療・早期予防</li> <li>6. 認知症の進行・種類に応じた介護アセスメントⅠ(初期・中期)</li> <li>7. 認知症の進行・種類に応じた介護アセスメントⅡ(後期・重度)</li> <li>8. 認知症の人を地域で支えるサポート体制</li> <li>9. 多職種協働・連携による支援・チームケア</li> <li>10. 権利擁護と成年後見制度、認知症高齢者の権利を保障する</li> <li>11. 家族の力を生かすⅠ 認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりや影響(演習)</li> <li>12. 家族の力を生かすⅡ 認知症の人を支える家族の課題(受容段階・介護力)と支援</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			



科目名	認知症の理解Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	認知症の人への関わ方について	講義	
担当者	泉 妙子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内容確認課題12回 30% 確認テスト70%の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 個別指導及びmanabaを活用する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:終講試験を受講する</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:毎回授業内容と感想を記載した学習ノートを提出する。</p>			

科目名	発達と老化の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の生涯発達の観点から老年期を理解する。</li> <li>2. 加齢に伴う心と身体の変化について理解する。</li> <li>3. 高齢者に多い疾患について基本的な知識を身につける。</li> <li>4. 健康寿命に対する予防的概念を理解する。</li> <li>5. 健康維持や増進を含めた生活をするための基礎的知識を理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために、必要な基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「こころとからだ」「人体の構造と機能」「生活支援技術」などの授業内容を復習しておく。</li> <li>2. 高齢者支援に必要な根拠となる知識の重要性を確認しておく。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 人間の成長と発達の基礎的理解</li> <li>3. 人間の発達段階と発達課題</li> <li>4. ライフサイクルの各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解する</li> <li>5. 老年期の発達課題と高齢者の心理</li> <li>6. 高齢者の定義・高齢者の生きがい・健康寿命について</li> <li>7. 老化に伴うこころとからだの変化と生活・身体機能・知的機能の変化</li> <li>8. 高齢者の疾患の特徴・高齢者に対するアセスメント・高齢者に多い疾患・生活習慣病</li> <li>9. 脳・神経の疾患・感覚器の疾患・歯・口腔内の疾患</li> <li>10. 骨・運動器系の疾患・消化器系の疾患・呼吸器の疾患</li> <li>11. 腎・泌尿器の疾患・代謝・内分泌系の疾患</li> <li>12. 循環器系・皮膚系疾患・感染症・先天性疾患</li> <li>13. 発達と老化の理解のまとめ</li> </ol>			

科目名	発達と老化の理解	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	名定 慎也		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験(70%)・レポート(10%)・発表(10%)・授業への取り組み(10%)の総合評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中、質問や意見に随時フィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:課題発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:グループワーク及び発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:筆記試験・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p>			

科目名	貧困に対する支援	後期	2 単位
サブタイトル	生活保護の出番～格差社会の セーフティネット	講義	
担当者	佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①増加し続ける低所得者層の暮らしの実態を把握し、それを生み出す現代社会との関連を明らかにし、福祉需要に応えるセーフティネットを考えます。</p> <p>②セーフティネットとして重要な役割を果たしている生活保護制度を始めとした関連諸施策・法制度について理解し、改革すべき課題を考えます。</p> <p>③生活困窮者に対する相談支援活動、並びに関係機関との連携のあり方を考えるとともに、自立支援のための「自立支援プログラム」の意義と実際について理解します</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>非正規雇用の増加、失業、低所得、離婚、家庭崩壊、ホームレス、多重債務、このような語句が日常に反乱するようになってきました。特に、コロナ禍で、生活保護受給者は年々新記録を更新しています。社会福祉士として、多くの対象者の支援に関わり、年金や医療保険、雇用対策を充実させ、生活が困難になった人々への支援をきめ細かくしなければならぬが、現実には厳しく他の社会保障・社会福祉諸制度では十分な対応が困難な現状を提示します。</p> <p>社会保障・社会福祉の「セーフティネット」と言われている生活保護制度の役割について正しく理解します。また、低所得者支援、生活保護制度の制度や課題を理解し、社会福祉士に求められる役割について理解します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の社会状況と貧困について関心を持っておいてください。</li> <li>・生活保護制度と憲法、その他の制度との関連について理解してください。</li> </ul> <p>各回、予習復習合わせて1時間程度必要です。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における貧困問題、貧困・低所得者問題</li> <li>2. 生活保護法の概要(目的と原理、原則)</li> <li>3. 保護の基準と種類・内容</li> <li>4. 法の実施体制～国と地方</li> <li>5. 生活保護の決定・実施過程</li> <li>6. 被保護層の動向と課題</li> <li>7. 保護施設、関連施設</li> <li>8. 最低生活保障と自立助長</li> <li>9. 自立支援プログラムの意義と実際</li> <li>10. 低所得者対策と生活困窮者支援法</li> <li>11. 生活保護制度と裁判、政治</li> <li>12. 公的扶助をめぐる日本と諸外国の状況</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	貧困に対する支援	後期	2 単位
サブタイトル	生活保護の出番～格差社会の セーフティネット	講義	
担当者	佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加姿勢 (30%)、毎回のmanabaレポート(30%)、最終試験(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎回の授業で、manabaレポート提出を求めます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  最新 社会福祉士養成講座 貧困に対する支援 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8247-4 C3036)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  授業時に紹介する。</p>			

科目名	福祉サービスの組織と経営		前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉サービス供給組織の仕組と課題について		講義	
担当者	佐々木 勝一			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[ 到達目標 ]  福祉サービス供給組織の仕組に関して、①福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)、②福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論、③福祉サービスの経営と管理運営について理解することを目標とします。</p> <p>[ 授業概要 ]  社会福祉士、施設運営責任者として、福祉サービスにおける組織・経営の意義、社会福祉法人を中心とする法人の意味、社会福祉サービス事業の戦略・計画と組織について講義します。さらに社会福祉サービス管理運営の基礎理論を概説し、サービス管理、人事管理・労務管理、会計管理・財務管理、情報管理についても言及します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持ち、自分の感想を持つことが大切です。  各回、予習復習合わせて1時間程度行ってください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・福祉サービスの理念</li> <li>2. 福祉サービスにおける組織・経営・制度</li> <li>3. 法人、特に社会福祉法人</li> <li>4. 特定非営利活動法人、医療法人・営利法人・公益法人・協同組合等</li> <li>5. 福祉サービスの戦略</li> <li>6. 福祉サービス事業の計画と組織、ミッション</li> <li>7. 福祉サービス管理運営の基礎理論、社会福祉事業の特殊性</li> <li>8. 福祉サービス管理運営の方法①ー社会福祉サービス管理、</li> <li>9. 福祉サービス管理運営の方法②ー社会福祉施設の人事管理・労務管理</li> <li>10. 福祉サービス管理運営の方法③ー社会福祉施設の会計管理・財務管理</li> <li>11. 福祉サービス管理運営の方法④ー情報管理の必要性和意義</li> <li>12. 今後の社会福祉事業の展望と課題</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	福祉サービスの組織と経営	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉サービス供給組織の仕組と課題について	講義	
担当者	佐々木 勝一		

[ 成績評価方法 ]

授業への取り組み姿勢30%、毎回のmanabaレポート20%、最終試験50パーセントの配分で評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

講義期間内に、数回のレポート提出を行います。内容の確認後に、直接返却します。また、試験終了後解説を行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

[ 教科書(ISBN) ]

最新 社会福祉士養成講座 福祉サービスの組織と経営 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8244-3 C3036)

[ 参考書(ISBN) ]

『福祉サービスの組織と経営』 著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5431-0)

科目名	福祉と人権	前期	1 単位
サブタイトル	人権・欠けがえのないもの	講義	
担当者	佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における「人間」の理解を基礎とした人権の意義を知る。</li> <li>2. 社会福祉援助における人権の擁護の大切さを理解する。</li> <li>3. 様々な人権事例の検討を通して、自らの人権についても考える。</li> <li>4. 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について学ぶ。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>高齢者、障害者、児童など様々なハンディキャップを抱えた人々の暮らしに関わる中で、「人権」とは何か、どのような援助が必要なのかを検討した内容を提示する。事例や事件を素材として、「人権」について考える。今後の専門科目を学ぶ視点を確立することを目標とする。また、今日の新たな「人権」についても、知る事も重要である。オープン科目として開講する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日々、世界で取り上げられる人権問題に関する講義を行います。普段から、社会事象について人権擁護の視点から考察することを忘れないでください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権の歴史</li> <li>2. 政治・国際社会と人権</li> <li>3. 児童・高齢者の人権</li> <li>4. 障害者・マイノリティー・女性の人権</li> <li>5. 今後の社会の動向</li> <li>6. 人権擁護活動と課題</li> <li>7. まとめ、最終レポート作成</li> </ol>			



科目名	福祉と人権	前期	1 単位
サブタイトル	人権・欠けがえのないもの	講義	
担当者	佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への参加姿勢 (20%)、毎回のmanabaレポート(30%)、最終記述試験 (50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎回の授業でmanabaレポートの作成(15分程度)と提出を求めます。  また、最終授業時に試験を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  特に指定しません。必要に応じて、manabaに提示します。</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>			

科目名	保健医療と福祉	前期	2 単位
サブタイトル	医療保険と社会保障、医療ソーシャルワーク、対人援助と自己理解	講義	
担当者	阿江 善春		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          保険医療分野での相談援助業務に必要な知識の習得。          関係職種との連携・協働についての理解。</p> <p>[ 授業概要 ]          本講義は社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験における共通科目であるが、医療保険をはじめとする関係諸制度の理解と保健医療制度を構成している機関や職種、それとのチームワークやネットワークについて理解を深め将来の専門職としての自己形成に資してほしいと考えている。また身体(からだ)・社会(くらし)・精神(こころ)の全体像を理解できる力をつけること、対人援助職として自身の健康保持にも留意し授業をすすめる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          WHO(世界保健機関)の「健康に関する定義」で示されている身体・精神・社会の3本の柱の理解の為に、事前学習として国家試験科目の内、医学・医療系と心理系の授業内容を復習しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(WHOの健康定義から)</li> <li>2. 対人援助業務の基本について</li> <li>3. 相談援助と社会(医療)保障</li> <li>4. 保険医療分野の政策(歴史と現状)</li> <li>5. 保険医療分野の政策(今後の方向)</li> <li>6. 保健医療領域の構成要素</li> <li>7. 保健医療に関わる制度(3福祉と公的扶助)</li> <li>8. 保健医療に関わる制度(5保険)</li> <li>9. 保険医療分野における連携(チームワーク)</li> <li>10. 保健医療分野における連携(ネットワーク)</li> <li>11. 医療SW業務指針、支援の実際</li> <li>12. 再びWHOの健康定義について</li> <li>13. 全体の振り返りと国試対策</li> </ol>			

科目名	保健医療と福祉	前期	2 単位
サブタイトル	医療保険と社会保障、医療ソーシャルワーク、対人援助と自己理解	講義	
担当者	阿江 善春		
<p>[ 成績評価方法 ] 毎回のレポートを兼ねた授業感想文(40%) 試験(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:授業レポート(40%) 試験(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業レポート(40%) 試験(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業レポート(40%) 試験(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業レポート(40%) 試験(60%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート(40%) 試験(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート(40%) 試験(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業レポート(40%) 試験(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業レポート(40%) 試験(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業レポート(40%) 試験(60%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 最新 社会福祉士養成講座⑤保健医療と福祉 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 出版社:中央法規出版(4-8058-8248-1)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 医療ソーシャルワーク 著者名:杉本敏夫 出版社:久美出版(4-907757-24-7)</p>			

科目名	ボランティア活動論	後期	2 単位
サブタイトル	ボランティア活動の理論と実際	講義	
担当者	木村 あい		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民社会の一員としての市民活動・ボランティア活動の役割が重要視されるなかで、ボランティアの理念と歴史と社会的意義について考えることができる。</li> <li>・ボランティア活動の形態や分野等の基礎的知識を習得できる。</li> <li>・ボランティアの実践方法と活動上の留意点が理解できる。</li> <li>・自らのボランティア活動の導入・実践に結びつけることができる。</li> </ul> <p>青年海外協力隊に参加経験のある教員が、海外でのボランティア経験を活かして、様々なボランティア活動の実際を説明する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ボランティア活動の理念や歴史等その基本的知識を学ぶとともに、ボランティア活動の形態・分野・活動方法・活動上の留意点などを実践的に学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしてくること。 予習・復習を含めて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション グループワーク</li> <li>2. ボランティアの理念、歴史</li> <li>3. ボランティア活動の形態と支援、ボランティア活動の留意点</li> <li>4. ボランティア活動の実際①(家庭におけるボランティア)</li> <li>5. ボランティア活動の実際②(地域におけるボランティア)グループワーク</li> <li>6. ボランティア活動の実際③(福祉施設におけるボランティア)</li> <li>7. ボランティア活動の実際④(災害支援におけるボランティア①)</li> <li>8. ボランティア活動の実際⑤(災害支援におけるボランティア②)</li> <li>9. ボランティア活動の実際⑥(海外支援におけるボランティア)</li> <li>10. 青年海外協力隊の活動①</li> <li>11. 青年海外協力隊の活動②</li> <li>12. ボランティア活動の実際⑦(その他ボランティア)グループワーク</li> <li>13. ボランティア活動の課題と展望およびまとめ</li> </ol>			

科目名	ボランティア活動論	後期	2 単位
サブタイトル	ボランティア活動の理論と実際	講義	
担当者	木村 あい		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業に対する取り組み(30%) レポート(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 提出課題に関しては、添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-1/家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-2/現代社会における人びとのダイバーシティ(多様性)を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業に対する取り組み レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 配布プリントなど</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	リスクマネジメント	後期	1 単位
サブタイトル	安全の確保と感染予防	演習	
担当者	名定 慎也		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]          転倒・転落などの事故、傷害など介護サービス上のトラブル、自然災害や火災、感染症の発生など多岐にわたるリスクに対する安全の確保や予防について、考え実践することができる。</p> <p>[ 授業概要 ]          介護施設、また在宅で障害者や高齢者の生活には、転倒・転落などの事故、傷害など介護サービス上のトラブル、自然災害や火災、感染症の発生などのリスクが多くある。生活支援者は、それら事故などの発生を常に念頭において、あらゆる事故を想定してリスクマネジメントをしなければならない。そのためには具体的にそれらの1つひとつについて、予防や安全管理体制を学び、実践力を養う必要がある。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          日常生活の中で、事故防止や安全対策・感染対策に関するニュース等に関心を持って聞いたり、新聞の切抜きを心がけ、介護現場におけるリスクマネジメントに興味を持つこと。          各回予習・復習を合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護における安全の確保とリスクマネジメント(安全な生活の確保)</li> <li>2. 介護事故・アクシデント・インシデント</li> <li>3. 介護事故とリスク(事故防止と安全対策)</li> <li>4. 介護現場における危険と改善方法</li> <li>5. ヒヤリハット、報告書</li> <li>6. 高齢者の虐待、障害者の虐待</li> <li>7. 感染予防 感染症の知識と予防 手洗いやガウンテクニックの実際</li> <li>8. 清潔、不潔、汚染の区別</li> <li>9. 日常生活の安全</li> <li>10. 災害介護・リスクマネジメント</li> <li>11. 災害時の対応や避難訓練</li> <li>12. 介護従事者としての健康と安全</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	リスクマネジメント	後期	1 単位
サブタイトル	安全の確保と感染予防	演習	
担当者	名定 慎也		

[ 成績評価方法 ]

筆記試験(70%)・レポート(10%)・発表(10%)・授業への取り組み(10%)の総合評価

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

課題に関しては、授業内でコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。

成績評価方法:筆記試験

学科DP番号/DP内容:福祉2-2/多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。

成績評価方法:レポート

学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。

成績評価方法:グループワーク及び発表

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:グループワーク及び発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:プレゼンテーション

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:レポート

[ 教科書(ISBN) ]

最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版 1年次購入済み 著者名:介護福祉士養成講座編集委員会編  
出版社:中央法規出版(978-4-8058-8393-8)

[ 参考書(ISBN) ]

適宜紹介

科目名	リハビリテーション	後期	1 単位
サブタイトル	リハビリテーションの諸領域	演習	
担当者	鈴木 利明		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  リハビリテーションと障害に関する基本的な考え方、サービス体系のあり方、さらに、それぞれの障害に対するリハビリテーションの実際のあり方などを学び、理解し体験する。</p> <p>[ 授業概要 ]  1. リハビリテーションの理念と基本原則について理解する。  2. 社会的リハビリテーションの実施と社会資源について理解する。  3. リハビリテーションの実際と関わるスタッフについて理解する。  4. 寝たきり老人、認知老人のリハビリテーションについて理解し体験する。  5. 各種障害に対するリハビリテーションについて理解し体験する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  前回の授業内容を復習し、理解して、次回以降の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。  各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. リハビリテーション概論  1) リハビリテーション(医学): 総論  2) 医学的リハビリテーションと物理医学  3) リハビリテーションとQOL  2. リハビリテーション各論  4) 国際生活機能分類(ICF)とリハビリテーションアプローチ  5) 活動(Activity)と参加  3. リハビリテーションの実際と関わるスタッフ  6) 理学療法/作業療法/看護とチーム医療  4. 寝たきり老人、認知症老人のリハビリテーション  7) 高齢化による機能障害と廃用症候群  8) ロコモティブシンドロームとフレイル  9) ADLの自立性の獲得と維持  5. 各種障害に対するリハビリテーション  10) 脳卒中のリハビリテーション  11) 骨・関節疾患/脊髄損傷のリハビリテーション  12) 神経・筋疾患のリハビリテーション  13) まとめ</p>			



科目名	リハビリテーション	後期	1 単位
サブタイトル	リハビリテーションの諸領域	演習	
担当者	鈴木 利明		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(95%) 授業参加度(5%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-1/多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉1-2/多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉2-3/福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-1/家庭・地域社会・職場において一市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>学科DP番号/DP内容:福祉3-3/誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びとも対等かつ民主的な関係性(パートナーシップ)を形成し、協働していく力を有している。 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験と授業参加度の両方</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] リハビリテーション論 ～レジュメ集～ 著者名:鈴木 利明 出版社:自主出版</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

健康福祉学部

健康スポーツ栄養学科

(授業科目名 五十音順)

科目名	運動生理学 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>ヒトが健康を維持・増進するために、運動が必要であることを生理学的に理解できるようになること、および運動を行ったときに生じる生理学的な急性の変化と、繰り返しによる適応的な変化について理解できるようになること、そして、運動生理学の基礎的な知識やエビデンスに基づいた運動・スポーツの実践ならびに指導できるようになることを到達目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>一般的な運動トレーニングやトップアスリートに起こる身体の変化を、筋骨格系、呼吸系、循環系、体液・体温調節系、代謝系などを通して理解できるように講義する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康・体力づくりの意義と運動の効用 (健康・体力の定義、栄養・運動・休養の概念)</li> <li>運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能、オリンピック等で活躍するトップアスリートの肉体の神秘①</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化① (運動の発現、筋繊維タイプ、筋収縮のメカニズム)</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化② (筋の収縮様式と筋力、筋収縮のスピード、神経系・反射系)</li> <li>まとめ①、オリンピック等で活躍するトップアスリートの肉体の神秘②</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化③ (呼吸器系、酸素負債、呼吸交換比)</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化④ (循環器系、心拍出量)</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑤ (血液・体液調節、熱中症)</li> <li>まとめ②、オリンピック等で活躍するトップアスリートの肉体の神秘③</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑥ (血液・体液調節、体温調節、水分補給)</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑦ (内分泌系)</li> <li>運動とエネルギー代謝</li> <li>まとめ③、オリンピック等で活躍するトップアスリートの肉体の神秘④</li> </ol>			

科目名	運動生理学 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ] 3回の試験(30%×3)と課題(10%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 3回の試験については、後日の授業及びmanabaを用いて解答を解説します。 授業中の課題は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] Nブック 運動生理・栄養学 著者名: 高松薫(編者)奥野直他(共著) 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0547-1) プリント配布等</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	運動生理学 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>ヒトが健康を維持・増進するために、運動が必要であることを生理学的に理解できるようになること、および運動を行ったときに生じる生理学的な急性の変化と、繰り返しによる適応的な変化について理解できるようになること、そして、運動生理学の基礎的な知識やエビデンスに基づいた運動・スポーツの実践ならびに指導できるようになることを到達目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>一般的な運動トレーニングやトップアスリートに起こる身体の変化を、筋骨格系、呼吸系、循環系、体液・体温調節系、代謝系などを通して理解できるように講義する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康・体力づくりの意義と運動の効用 (健康・体力の定義、栄養・運動・休養の概念)</li> <li>運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能、オリンピック等で活躍するトップアスリートの肉体の神秘①</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化① (運動の発現、筋繊維タイプ、筋収縮のメカニズム)</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化② (筋の収縮様式と筋力、筋収縮のスピード、神経系・反射系)</li> <li>まとめ①、オリンピック等で活躍するトップアスリートの肉体の神秘②</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化③ (呼吸器系、酸素負債、呼吸交換比)</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化④ (循環器系、心拍出量)</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑤ (血液・体液調節、熱中症)</li> <li>まとめ②、オリンピック等で活躍するトップアスリートの肉体の神秘③</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑥ (血液・体液調節、体温調節、水分補給)</li> <li>運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑦ (内分泌系)</li> <li>運動とエネルギー代謝</li> <li>まとめ③、オリンピック等で活躍するトップアスリートの肉体の神秘④</li> </ol>			

科目名	運動生理学 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ] 3回の試験(30%×3)と課題(10%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 3回の試験については、後日の授業及びmanabaを用いて解答を解説します。 授業中の課題は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験と課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] Nブック 運動生理・栄養学 著者名: 高松薫(編者)奥野直他(共著) 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0547-1) プリント配布等</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	運動生理学Ⅱ（環境生理学を含む）	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  運動生理学Ⅰを基に、健康増進や競技スポーツの現場において、理論的に系統づけられた運動やトレーニングの内容を理解し、指導や評価ができるようにする。  そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[ 授業概要 ]  競技成績にこだわるトップアスリートのみならず健康の維持を目的とする一般人においても、個々のトレーニング方法を誤ると期待できる成果を得ることはできない。そこで、日常の健康づくりから競技スポーツに必要な体力やスキルを高めることを目的とした科学的なトレーニング方法と指導のポイントについて解説する。また、競技スポーツの現場では、予想もできない環境条件の中でも運動を行わなければならない、特定条件下で安全に運動を行う方法についても解説を加える。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 運動と疲労回復、運動能力はどこまでのびるのか、各種動作のスキル(速く走る、重いものを持ち上げる、遠くへ跳ぶ)、トップアスリートの筋肉の使い方  2. 筋肉の科学①理論編1  3. 筋肉の科学②理論編2  4. 筋肉の科学③筋肥大、メカニカルストレス、筋肥大と栄養  5. まとめ①、トップアスリートのマラソン走法  6. マラソントレーニングと生理学的応答①  7. マラソントレーニングと生理学的応答②  8. マラソントレーニングと生理学的応答③  9. まとめ②、トップアスリートの反応速度  10. 運動と呼吸、レジスタンス運動、体幹トレーニング  11. デイトレーニング、スポーツビジョントレーニング、心拍数トレーニング  12. 暑熱・寒冷環境下での運動に対する生体反応、サルコペニア  13. まとめ③</p>			

科目名	運動生理学Ⅱ（環境生理学を含む）	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ] 3回の試験(30%×3)と課題(10%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 3回の試験については、後日の授業及びmanabaを用いて解答を解説します。 授業中の課題は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験と課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験と課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験と課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:試験と課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験と課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験と課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験と課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] Nブック 運動生理・栄養学 著者名:高松薫(編者)奥野直他(共著) 出版社:建帛社 (978-4-7679-0547-1) プリント配布等</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	運動生理学実習		前期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	奥野 直			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		

[ 到達目標 ]

健康づくりや体力・運動能力の維持・向上を目的として、運動を生活に取り入れるときや運動トレーニングに応用する場合に必要な基礎知識、測定方法、評価手法を理解し、様々なスポーツに応用することができるようにする。測定結果を考察し、まとめる過程を通して創造的な研究を行う能力を養う。

そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。

[ 授業概要 ]

運動生理学実習では、健康づくりや運動トレーニングにおいてエビデンスに基づいた実践や指導ができるようにするために、種々の運動能力や体力についての測定を実施する。そして、運動によってからだに生じる生理学的な急性の変化と繰り返しによる適応的な変化を理解をさせる。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

実習内容の予習復習(4時間程度)を通して、先行研究の分析とともに健康づくり、運動トレーニングに欠かすことができない内容を追求する態度を学修する。

[ 授業計画 ]

8班に分かれて、2～9の8項目の実験をローテーションで実施する。また、10～12について各班で健康づくりや運動トレーニングに応用できる課題を設定して、実験を行い、その分析結果をプレゼンテーションする。

1. 運動生理学実習のガイダンス 運動生理学を理解するのに必要な測定と評価の方法
2. 最大心拍数と最大酸素摂取量の測定 (トレッドミル)、体脂肪率・筋肉量の測定
3. 持久力の簡易評価と水分補給の影響(自転車エルゴメーター)、運動時の体表温度の測定
4. 骨密度の測定、ヘモグロビン濃度の測定、筋硬度の測定、関節可動域の測定、体力診断バッテリーテスト、重心動揺の測定、全身反応時間の測定
5. スラックライン、ストレッチ、体幹トレーニング、体の歪みと姿勢バランスのチェック
6. SAQ(ラダー)トレーニング、脚筋力の測定、ロコモ度テスト、敏捷性テスト
7. バランス評価トレーニングシステム(ASKPROJ.)を用いた身体機能の評価、
8. アクティマーカーを用いた身体活動量、運動量、歩行数の測定、FitBitによる生活・睡眠測定、10m歩行テスト、SST(3分間シャトルスタミナテスト)
9. ヨガ、トランポリンエクササイズ
10. 自由課題の計画
11. 自由課題の測定
12. 分析結果の文章および口頭でのプレゼンテーション
13. まとめ

科目名	運動生理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ] 8項目のレポート(90%)、自由課題(10%)で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ノート(レポート・自由課題)は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p>			

科目名	運動プログラム論		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	奥野 直			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <p>栄養士と健康運動実践指導者の立場から、健康状態に応じた適切な食事摂取と効果的な運動のプログラムが作成できるようにする。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>成人から中高齢者までの健康づくりと生活習慣病予防のための安全かつ効果的な運動プログラム(運動処方)作成の基礎およびエアロビック運動の理論を理解する。また、メディカルチェックや体力・運動能力測定、および栄養・エネルギーバランスを基にした適切な運動プログラムの作成方法を理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動不足の悪影響、運動処方の概説、健康診断、メディカルチェックの目的と実際</li> <li>2. 体力測定・運動能力測定、日常身体活動量測定、運動負荷実験の実際と評価方法</li> <li>3. 健康づくりと運動プログラムの基礎(プログラムの構成内容と日常生活に及ぼす効果、メタボリックシンドローム解消のための運動)</li> <li>4. 健康づくりのための運動(トレーニングの原則、ウォーミングアップとクーリングダウン、エアロビック運動の基礎)</li> <li>5. 運動プログラム作成の原則と実際① (運動強度の設定法:仕事率、METS、酸素摂取量、%HRmax、RPE及び運動時間と頻度)</li> <li>6. 運動プログラム作成の原則と実際② (運動量とエネルギー消費との関係、エネルギー摂取量とエネルギー消費量との関係)</li> <li>7. エアロビック運動とエネルギー供給源の関係</li> <li>8. 有酸素性作業能力の評価指標としての最大酸素摂取量と無酸素性作業閾値の意義と測定方法</li> <li>9. マラソントレーニングプログラムの作成(基礎理論と有酸素性作業能力)</li> <li>10. レジスタンスエクササイズの基本理論(運動強度、安全性の確認)</li> <li>11. 生活習慣病に対する食事と運動療法(肥満、高血圧、糖尿病など)</li> <li>12. 運動機能障害に対する運動療法、運動実践指導者取得のための運動プログラム論の解説</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	運動プログラム論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(100%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「Nブック 運動生理・栄養学」 著者名:高松薫(編者)奥野直他(共著) 出版社:建帛社 (978-4-7679-0547-1) プリント配布</p>			

P11100431 [ WHI3-027 ]

[2栄]\*後期水2

科目名	栄養学実験		前期	1 単位
サブタイトル			実験	
担当者	松本 衣代			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ] 食生活が生体成分に及ぼす影響について調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ] 栄養学を学ぶにあたって、ヒトの個体レベルでの栄養現象は、食品中の栄養成分の生体構成成分への代謝変換、さらに臓器間連携による体内での相互変換という一連の栄養代謝の全体として把握することが必要である。本実験では主としてラットを用いた栄養実験により、食事調整が体成分(肥満や痩せ)に及ぼす影響とそのメカニズムなどについて調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 前回の授業内容、実験結果を考察してレポートにまとめる。 次回の内容、実験プロトコルを予習しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(実験目的と内容の概要)</li> <li>2. 動物実験と飼育の基礎</li> <li>3. 実験動物飼育計画、動物飼育について(動物室利用者講習会)</li> <li>4. ラットの解剖—ビデオ又はデモンストレーション</li> </ol> <p>I. 異なる摂食パターンが体組成、食事効率に及ぼす影響について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. ラットの解剖—臓器重量の測定及びサンプリング</li> <li>6. まとめとディスカッション</li> </ol> <p>II. 異なる摂食パターンでのラットの生体成分の変化について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 脂質代謝に及ぼす影響について①血清中のトリグリセリド、総コレステロールの定量</li> <li>8. 脂質代謝に及ぼす影響について②肝臓総脂質抽出</li> <li>9. 脂質代謝に及ぼす影響について③肝臓中のトリグリセリド、コレステロールの定量</li> <li>10. たんぱく代謝に及ぼす影響について 肝臓及び血清中のタンパクの定量</li> <li>11. 糖質代謝に及ぼす影響について①血糖値の測定、肝臓中のグリコーゲンの定量</li> <li>12. 糖質代謝に及ぼす影響について②肝臓酵素グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定</li> <li>13. 実験のまとめ・ディスカッション</li> </ol>				

科目名	栄養学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(80%)、小テスト(20%)の総合点で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却します。小テストは、採点后解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 配布資料</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	栄養学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 食生活が生体成分に及ぼす影響について調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ] 栄養学を学ぶにあたって、ヒトの個体レベルでの栄養現象は、食品中の栄養成分の生体構成成分への代謝変換、さらに臓器間連携による体内での相互変換という一連の栄養代謝の全体として把握することが必要である。本実験では主としてラットを用いた栄養実験により、食事調整が体成分(肥満や痩せ)に及ぼす影響とそのメカニズムなどについて調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 前回の授業内容、実験結果を考察してレポートにまとめる。 次回の内容、実験プロトコルを予習しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(実験目的と内容の概要)</li> <li>2. 動物実験と飼育の基礎</li> <li>3. 実験動物飼育計画、動物飼育について(動物室利用者講習会)</li> <li>4. ラットの解剖—ビデオ又はデモンストレーション</li> </ol> <p>I. 異なる摂食パターンが体組成、食事効率に及ぼす影響について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. ラットの解剖—臓器重量の測定及びサンプリング</li> <li>6. まとめとディスカッション</li> </ol> <p>II. 異なる摂食パターンでのラットの生体成分の変化について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 脂質代謝に及ぼす影響について①血清中のトリグリセリド、総コレステロールの定量</li> <li>8. 脂質代謝に及ぼす影響について②肝臓総脂質抽出</li> <li>9. 脂質代謝に及ぼす影響について③肝臓中のトリグリセリド、コレステロールの定量</li> <li>10. たんぱく代謝に及ぼす影響について 肝臓及び血清中のタンパクの定量</li> <li>11. 糖質代謝に及ぼす影響について①血糖値の測定、肝臓中のグリコーゲンの定量</li> <li>12. 糖質代謝に及ぼす影響について②肝臓酵素グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定</li> <li>13. 実験のまとめ・ディスカッション</li> </ol>			

科目名	栄養学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(80%)、小テスト(20%)の総合点で評価。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却します。小テストは、採点后解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 配布資料</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能	講義	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          栄養素の基本概念と、体内での役割、代謝過程が統括的に理解できるよう学習する</p> <p>[ 授業概要 ]          摂取した食品の栄養素が体の構成成分となる経路、エネルギーへの変換にいたる代謝の過程を学び、ヒトの総体レベルで栄養現象を理解する。エネルギー代謝および栄養素の中間代謝経路では栄養素の体内相互変換について理解し、一連の代謝像を体系的に捉える。栄養学の基本理念と意義の理解により、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を解説する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          各回、予習で2時間程度次回の教科書を予習し、ノートをまとめておく。復習で2時間程度前回のノート・教科書を見直す。</p> <p>[ 授業計画 ]          1. 栄養の定義、食事摂取基準          2. 食物の摂取:空腹感/満腹感/日内リズム          3. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の栄養と代謝          4. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の消化と吸収          5. 栄養素の構造と機能:糖質の栄養と代謝          6. 栄養素の構造と機能:糖質の消化と吸収          7. 栄養素の構造と機能:脂質の栄養と代謝          8. 栄養素の構造と機能:脂質の消化と吸収          9. 栄養素の構造と機能:水溶性ビタミン          10. 栄養素の構造と機能:脂溶性ビタミン          11. 栄養素の構造と機能:ミネラル          12. エネルギー代謝          13. 試験・解説</p>			

科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] 小テスト(40%)試験(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験実施後、解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学 著者名:鈴木和春他 出版社:第一出版(978-4-8041-2)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて随時紹介します</p>			

科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能	講義	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          栄養素の基本概念と、体内での役割、代謝過程が統括的に理解できるよう学習する</p> <p>[ 授業概要 ]          摂取した食品の栄養素が体の構成成分となる経路、エネルギーへの変換にいたる代謝の過程を学び、ヒトの総体レベルで栄養現象を理解する。エネルギー代謝および栄養素の中間代謝経路では栄養素の体内相互変換について理解し、一連の代謝像を体系的に捉える。栄養学の基本理念と意義の理解により、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を解説する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          各回、予習で2時間程度次回の教科書を予習し、ノートをまとめておく。復習で2時間程度前回のノート・教科書を見直す。</p> <p>[ 授業計画 ]          1. 栄養の定義、食事摂取基準          2. 食物の摂取:空腹感/満腹感/日内リズム          3. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の栄養と代謝          4. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の消化と吸収          5. 栄養素の構造と機能:糖質の栄養と代謝          6. 栄養素の構造と機能:糖質の消化と吸収          7. 栄養素の構造と機能:脂質の栄養と代謝          8. 栄養素の構造と機能:脂質の消化と吸収          9. 栄養素の構造と機能:水溶性ビタミン          10. 栄養素の構造と機能:脂溶性ビタミン          11. 栄養素の構造と機能:ミネラル          12. エネルギー代謝          13. 試験・解説</p>			

科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] 小テスト(40%)試験(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験実施後、解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学 著者名:鈴木和春他 出版社:第一出版(978-4-8041-2)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて随時紹介します</p>			

科目名	栄養機能食品論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	坂元 美子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[ 到達目標 ]  近年増加の一途をたどる栄養機能食品について、正しい知識を身につけ、氾濫する情報に惑わされることなく、栄養士として正しい情報を発信できるように学習する。</p> <p>[ 授業概要 ]  ヒトが生命活動を営むために体外から摂取しなければならない必須物質を栄養素といい、一般には三回の食事により通常の食品から摂取している。これらの食品は基本的に安全でなくてはならないが、食の安全については近年多数の問題が生じているのが現状である。ヒトが普段口にしている食品とはどういうものなのか、安全性、有効性、医薬品との違い、関連する法律について学習し、近年開発が進んでいる機能性食品について正しい知識を持つ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習含めて4時間程度栄養学総論、臨床栄養学、応用栄養学、公衆栄養学を復習しておく</p> <p>[ 授業計画 ]  1.授業オリエンテーション・栄養機能食品とは  2.身体活動と栄養・スポーツとサプリメント・ドーピング  3.基礎の生理学  4.基礎の生化学  5.人間栄養学  6.生活習慣病・臨床栄養と臨床検査  7.食品安全衛生学  8.健康食品と機能性食品  9.臨床薬理学  10.食品機能の科学的根拠  11.国内外の関連法規  12.最近注目のサプリメントとその成分  13.まとめ</p>				

科目名	栄養機能食品論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂元 美子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 解答用紙回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/ 国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/ 地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 責任感/ 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 多様性理解/ 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 表現力/ 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験 (60%)、プレゼンテーション (40%)</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] NR・サプリメントアドバイザー必携 著者名: 一般社団法人日本臨床栄養協会編 出版社: 第一出版 (8-4-8041-1356-2)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 必要に応じて随時紹介します</p>			

科目名	栄養教育・指導論Ⅱ(カウンセリング論含む)	前期	2単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養カウンセリングやティーチングの技術、栄養アセスメント手法を修得する</li> <li>2. 対象者の状況やライフステージに応じ、栄養カウンセリングを実践する能力を身に付ける</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりQOLの向上をめざすものです。この講義では、生活習慣病外来で栄養指導を担当している教員が、エビデンスに基づく基準に照らして、ライフスタイルに応じた健康行動を促すためのカウンセリング手法や動機付けの手法について具体的な例を提示しながら講義を進めます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>栄養相談に必要な、カウンセリング技法を学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動科学の理論とモデル、行動カウンセリング技法 復習</li> <li>2. 栄養教育マネジメント① プリシード・プロシードモデル</li> <li>3. 栄養教育マネジメント② ソーシャルマーケティング、生態学的モデル等</li> <li>4. 栄養アセスメントの種類と方法① アセスメントの種類</li> <li>5. 栄養アセスメントの種類と方法② 食事調査について</li> <li>6. 栄養教育の目標設定</li> <li>7. 栄養教育計画立案、栄養教育の評価</li> <li>8. ライフステージ別の栄養教育の展開① 妊娠・授乳期</li> <li>9. ライフステージ別の栄養教育の展開② 乳幼児期</li> <li>10. ライフステージ別の栄養教育の展開③ 学童期・思春期</li> <li>11. ライフステージ別の栄養教育の展開④ 成人期</li> <li>12. ライフステージ別の栄養教育の展開⑤ 高齢期</li> <li>13. 日本人の食事摂取基準、食生活指針について</li> <li>14. 試験</li> </ol>			

科目名	栄養教育・指導論Ⅱ(カウンセリング論含む)	前期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験は、採点后解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク(ルーブリックで評価)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 栄養教育・指導論Ⅰと同じ教科書を使います。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	栄養教育・指導論Ⅱ(カウンセリング論含む)	前期	2単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養カウンセリングやティーチングの技術、栄養アセスメント手法を修得する</li> <li>2. 対象者の状況やライフステージに応じ、栄養カウンセリングを実践する能力を身に付ける</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりQOLの向上をめざすものです。この講義では、生活習慣病外来で栄養指導を担当している教員が、エビデンスに基づく基準に照らして、ライフスタイルに応じた健康行動を促すためのカウンセリング手法や動機付けの手法について具体的な例を提示しながら講義を進めます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>栄養相談に必要な、カウンセリング技法を学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動科学の理論とモデル、行動カウンセリング技法 復習</li> <li>2. 栄養教育マネジメント① プリシード・プロシードモデル</li> <li>3. 栄養教育マネジメント② ソーシャルマーケティング、生態学的モデル等</li> <li>4. 栄養アセスメントの種類と方法① アセスメントの種類</li> <li>5. 栄養アセスメントの種類と方法② 食事調査について</li> <li>6. 栄養教育の目標設定</li> <li>7. 栄養教育計画立案、栄養教育の評価</li> <li>8. ライフステージ別の栄養教育の展開① 妊娠・授乳期</li> <li>9. ライフステージ別の栄養教育の展開② 乳幼児期</li> <li>10. ライフステージ別の栄養教育の展開③ 学童期・思春期</li> <li>11. ライフステージ別の栄養教育の展開④ 成人期</li> <li>12. ライフステージ別の栄養教育の展開⑤ 高齢期</li> <li>13. 日本人の食事摂取基準、食生活指針について</li> <li>14. 試験</li> </ol>			

科目名	栄養教育・指導論Ⅱ(カウンセリング論含む)	前期	2単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験は、採点后解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク(ルーブリックで評価)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 栄養教育・指導論Ⅰと同じ教科書を使います。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門	実習	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
[到達目標]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者を適切にアセスメントする事ができる</li> <li>2. 対象者に合った準備(媒体作成等)を、理論的に段取りよく進めることができる</li> <li>3. 対象者に合った栄養教育を実施し、その効果を評価する事ができる</li> </ol>			
[授業概要]			
<p>グループ学習を中心とします。本実習では、幼児や学童を対象とした集団に対する栄養教育と成人や高齢者を対象とした個人栄養教育を演習します。診療所で非常勤管理栄養士として勤務する管理栄養士が授業を担当します。</p> <p>実際に栄養教育の場を設定し、ロールプレイング法での演習を実施します。演習を通して、栄養教育実践力のみならず、コミュニケーション能力、カウンセリングスキルの向上を目指します。</p> <p>幼児や学童を対象とした集団栄養指導では、保育園や小学校で勤務する栄養教諭を特別学外講師として招き(第5回授業)、受講者が計画、実施した栄養教育プログラムについて評価、助言を得て、より効果の高いプログラムへ改善します。</p>			
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]			
<p>栄養教育の実践の為に、資料の準備や、授業時間外でのグループワーク等も必要になります。期限までに仕上げる事ができるよう、計画的に事前準備に取り組んでください。</p> <p>各回、予習復習を合わせ2時間程度。</p>			
[授業計画]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション、演習1 集団指導:幼児期、学童期 アセスメント、課題抽出</li> <li>2.演習1 集団指導:幼児期、学童期 計画立案① 目的</li> <li>3.演習1 集団指導:幼児期、学童期 計画立案② 計画</li> <li>4.演習1 集団指導:幼児期、学童期 教育媒体の作成①</li> <li>5.演習1 集団指導:幼児期、学童期 教育媒体の作成②</li> <li>6.演習1 集団指導:幼児期、学童期 実施と効果の評価(特別学外講師)</li> <li>7.演習2 個人指導:成人期、高齢期 アセスメント、課題抽出</li> <li>8.演習2 個人指導:成人期、高齢期 計画立案① 目標</li> <li>9.演習2 個人指導:成人期、高齢期 計画立案② 計画</li> <li>10.演習2 個人指導:成人期、高齢期 教育媒体の作成① 計画</li> <li>11.演習2 個人指導:成人期、高齢期 教育媒体の作成② 作成</li> <li>12.演習2 個人指導:成人期、高齢期 実施と効果の評価①</li> <li>13.演習2 個人指導:成人期、高齢期 実施と効果の評価② まとめ</li> </ol>			

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門	実習	
担当者	松本 衣代		

[ 成績評価方法 ]  
指導媒体等の成果物(30%)、レポート(20%)プレゼンテーション(50%)。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
成果物、レポートについては、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  
成績評価方法:成果物・プレゼンテーション(ルブリック)

学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  
成績評価方法:成果物・プレゼンテーション(ルブリック)

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:プレゼンテーション(ルブリック)

[ 教科書(ISBN) ]  
栄養教育・指導論の教科書を使用します。

[ 参考書(ISBN) ]  
糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 著者名:日本糖尿病学会 出版社:文光堂(4830660465)

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門	実習	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
[到達目標]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者を適切にアセスメントする事ができる</li> <li>2. 対象者に合った準備(媒体作成等)を、理論的に段取りよく進めることができる</li> <li>3. 対象者に合った栄養教育を実施し、その効果を評価する事ができる</li> </ol>			
[授業概要]			
<p>グループ学習を中心とします。本実習では、幼児や学童を対象とした集団に対する栄養教育と成人や高齢者を対象とした個人栄養教育を演習します。診療所で非常勤管理栄養士として勤務する管理栄養士が授業を担当します。</p> <p>実際に栄養教育の場を設定し、ロールプレイング法での演習を実施します。演習を通して、栄養教育実践力のみならず、コミュニケーション能力、カウンセリングスキルの向上を目指します。</p> <p>幼児や学童を対象とした集団栄養指導では、保育園や小学校で勤務する栄養教諭を特別学外講師として招き(第5回授業)、受講者が計画、実施した栄養教育プログラムについて評価、助言を得て、より効果の高いプログラムへ改善します。</p>			
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]			
<p>栄養教育の実践の為に、資料の準備や、授業時間外でのグループワーク等も必要になります。期限までに仕上げる事ができるよう、計画的に事前準備に取り組んでください。</p> <p>各回、予習復習を合わせ2時間程度。</p>			
[授業計画]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション、演習1 集団指導:幼児期、学童期 アセスメント、課題抽出</li> <li>2.演習1 集団指導:幼児期、学童期 計画立案① 目的</li> <li>3.演習1 集団指導:幼児期、学童期 計画立案② 計画</li> <li>4.演習1 集団指導:幼児期、学童期 教育媒体の作成①</li> <li>5.演習1 集団指導:幼児期、学童期 教育媒体の作成②</li> <li>6.演習1 集団指導:幼児期、学童期 実施と効果の評価(特別学外講師)</li> <li>7.演習2 個人指導:成人期、高齢期 アセスメント、課題抽出</li> <li>8.演習2 個人指導:成人期、高齢期 計画立案① 目標</li> <li>9.演習2 個人指導:成人期、高齢期 計画立案② 計画</li> <li>10.演習2 個人指導:成人期、高齢期 教育媒体の作成① 計画</li> <li>11.演習2 個人指導:成人期、高齢期 教育媒体の作成② 作成</li> <li>12.演習2 個人指導:成人期、高齢期 実施と効果の評価①</li> <li>13.演習2 個人指導:成人期、高齢期 実施と効果の評価② まとめ</li> </ol>			

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門	実習	
担当者	松本 衣代		

[ 成績評価方法 ]  
指導媒体等の成果物(30%)、レポート(20%)プレゼンテーション(50%)。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
成果物、レポートについては、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  
成績評価方法:成果物・プレゼンテーション(ルブリック)

学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  
成績評価方法:成果物・プレゼンテーション(ルブリック)

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:プレゼンテーション(ルブリック)

[ 教科書(ISBN) ]  
栄養教育・指導論の教科書を使用します。

[ 参考書(ISBN) ]  
糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 著者名:日本糖尿病学会 出版社:文光堂(4830660465)

科目名	栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内・外のヘルスプロモーションについて学び、健康づくり戦略について理解する。</li> <li>2. 行動科学の理論とモデルを理解する。</li> <li>3. 栄養カウンセリングやティーチングの技術、栄養アセスメント手法を修得する</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>栄養教育は、被指導者の行動変容を促し、その実行により健康の維持増進や、疾病の予防・改善を促す事を目的としている。この講義では、生活習慣病外来で栄養指導を担当している教員により、食行動を行動科学の側面から捉えた行動変容技法について学び、ライフスタイルに応じた健康行動を促すためのカウンセリングや動機付けの手法について、具体的な例を提示しながら講義を進める。</p> <p>また、国内・外の健康施策について学び、地域住民の健康向上につながるヘルスプロモーションの方法について理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>専門用語を多く学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養教育の意義とその目的、健康施策について</li> <li>2. 行動科学の理論とモデル① ヘルスビリーフモデル、トランスセオレティカルモデル等</li> <li>3. 行動科学の理論とモデル② 計画的行動理論、刺激－反応理論等</li> <li>4. 栄養カウンセリング① 行動カウンセリング、カウンセリングの基礎的技法</li> <li>5. 栄養カウンセリング② 認知行動療法</li> <li>6. 行動変容技法と概念① 行動置換、オペラント強化、認知再構成、刺激統制法等</li> <li>7. 行動変容技法と概念② 自己効力感、セルフモニタリング、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ等</li> <li>8. 栄養教育計画と理論と実施に関する理論と概念 プリシード・プロシードモデル、ソーシャルマーケティング等</li> <li>9. 栄養アセスメントの種類と方法 アセスメントの種類、食事調査について</li> <li>10. 栄養教育の目標設定、計画立案、効果の評価について</li> <li>11. ライフステージ別の栄養教育の展開① 妊娠・授乳期、乳幼児期</li> <li>12. ライフステージ別の栄養教育の展開② 学童期・思春期・成人期</li> <li>13. ライフステージ別の栄養教育の展開③ 高齢期</li> <li>14. 試験</li> </ol>			

科目名	栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験は、採点后解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク(ルーブリックで評価)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 人間の行動変容に関する基本 効果的な栄養教育のための理論とモデル 著者名:武見ゆかり、赤松利恵 出版社:医歯薬出版株式会社 (9.78E+12) 栄養教育論 著者名:赤松利恵、木村典代 出版社:医歯薬出版株式会社 (9.78E+12)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内・外のヘルスプロモーションについて学び、健康づくり戦略について理解する。</li> <li>2. 行動科学の理論とモデルを理解する。</li> <li>3. 栄養カウンセリングやティーチングの技術、栄養アセスメント手法を修得する</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>栄養教育は、被指導者の行動変容を促し、その実行により健康の維持増進や、疾病の予防・改善を促す事を目的としている。この講義では、生活習慣病外来で栄養指導を担当している教員により、食行動を行動科学の側面から捉えた行動変容技法について学び、ライフスタイルに応じた健康行動を促すためのカウンセリングや動機付けの手法について、具体的な例を提示しながら講義を進める。</p> <p>また、国内・外の健康施策について学び、地域住民の健康向上につながるヘルスプロモーションの方法について理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>専門用語を多く学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養教育の意義とその目的、健康施策について</li> <li>2. 行動科学の理論とモデル① ヘルスビリーフモデル、トランスセオレティカルモデル等</li> <li>3. 行動科学の理論とモデル② 計画的行動理論、刺激－反応理論等</li> <li>4. 栄養カウンセリング① 行動カウンセリング、カウンセリングの基礎的技法</li> <li>5. 栄養カウンセリング② 認知行動療法</li> <li>6. 行動変容技法と概念① 行動置換、オペラント強化、認知再構成、刺激統制法等</li> <li>7. 行動変容技法と概念② 自己効力感、セルフモニタリング、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ等</li> <li>8. 栄養教育計画と理論と実施に関する理論と概念 プリシード・プロシードモデル、ソーシャルマーケティング等</li> <li>9. 栄養アセスメントの種類と方法 アセスメントの種類、食事調査について</li> <li>10. 栄養教育の目標設定、計画立案、効果の評価について</li> <li>11. ライフステージ別の栄養教育の展開① 妊娠・授乳期、乳幼児期</li> <li>12. ライフステージ別の栄養教育の展開② 学童期・思春期・成人期</li> <li>13. ライフステージ別の栄養教育の展開③ 高齢期</li> <li>14. 試験</li> </ol>			

科目名	栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験は、採点后解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク(ルーブリックで評価)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 人間の行動変容に関する基本 効果的な栄養教育のための理論とモデル 著者名:武見ゆかり、赤松利恵 出版社:医歯薬出版株式会社 (9.78E+12) 栄養教育論 著者名:赤松利恵、木村典代 出版社:医歯薬出版株式会社 (9.78E+12)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 病気やケガにより人が突然に意識障害や心肺停止になったときや、大出血により生命の危機に陥ったときの救命手当の方法、また、誤嚥/気道異物による気道閉塞、けいれん、熱中症、傷、骨折、熱傷や水の事故などにおける応急手当について、その基本を理解し、実際に実施できるようになる。</p> <p>[授業概要] 日常的に必要とされる可能性のある応急手当[搬送方法、心肺蘇生法、自動体外式除細動器の使用、気道異物除去、止血、傷の手当、包帯の巻き方やテーピングなど]について、医師免許を有する教員が、実習形式で教授するとともに、応急手当を行うのに必須の基礎的知識を講義形式で教授する。一次救命処置、スポーツ現場での応急処置、創傷処置、テーピングなど、実践に結びつく実習指導が必要な項目については、学外特別講師の招聘を予定している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予め、学習する内容などが示されるので、学生は、予習学習して講義に臨み、実習にしっかりと取り組むこと。各回、予習・復習を合わせて2時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 生とは死とは 突然死とは 一次救命処置と救命の連鎖 10/3(木)2限 2. 心臓の構造と働き、肺の構造と働き 10/10(木)2限 3. スポーツ現場での応急処置総論(軟部組織損傷と組織修復 その対応)10/17(木)2限 (学外特別講師・斎藤) 4. 体位、傷病者の運び方、救急車の呼び方、創傷処置、アイシングなど 10/24(木)1限 (学外特別講師・斎藤) 5. 体位、傷病者の運び方、救急車の呼び方、創傷処置、アイシングなど 10/24(木)2限 (学外特別講師・斎藤) 6. 突然死・突然の心停止を起こす主な疾病・事故 11/7(木)2限 7. 一次救命処置① 心肺蘇生法と自動体外式除細動器の使用 11/14(木)1限 (学外特別講師・斎藤) 8. 一次救命処置② 心肺蘇生法と自動体外式除細動器の使用 11/14(木)2限 (学外特別講師・斎藤) 9. 一次救命処置③ 気道異物の除去法 回復体位の取り方 呼吸・意識・脈拍のみかた 心音・呼吸音聴取、血圧測定など 11/28(木)2限 10. ファーストエイドが必要な外傷・疾病 12/5(木)2限 11. 包帯の巻き方・テーピングの方法① 12/12(木)1限 (学外特別講師・斎藤) 12. 包帯の巻き方・テーピングの方法② 12/12(木)1限 (学外特別講師・斎藤) 13. 三角巾の使い方 一次救命処置の実際 試験 1/13(木)2限 (4&amp;5、7&amp;8、11&amp;12は、木曜日1、2限に連続で行う予定です。なお、学外特別講師の予定によって、また、授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)</p>			

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ]  実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)により評価する。  再試験は、原則、行わない。  再試験を行う場合には、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  予習内容について、講義中に設問を出したり、発表を促したりしながら、講義中に解説する。  確認問題、復習問題を課した場合は、次回の講義中に解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編※  ※ (<a href="https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/iryuu/iryuujouhou/aed_d/fil/004.pdf">https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/iryuu/iryuujouhou/aed_d/fil/004.pdf</a>からもダウンロードできるようです。) 著者名: 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会(監修) 出版社: へるす出版</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  スポーツ医学  著者名: 編/藤本繁夫・大久保衛 出版社: 嵯峨野書院 (978-4-7823-0597-3)  スポーツ救急医学  【令和版】基礎から学ぶ! 著者名: 奥水 健治 出版社: ベースボール・マガジン社 (978-4583112794)</p>			

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 病気やケガにより人が突然に意識障害や心肺停止になったときや、大出血により生命の危機に陥ったときの救命手当の方法、また、誤嚥/気道異物による気道閉塞、けいれん、熱中症、傷、骨折、熱傷や水の事故などにおける応急手当について、その基本を理解し、実際に実施できるようになる。</p> <p>[授業概要] 日常的に必要とされる可能性のある応急手当[搬送方法、心肺蘇生法、自動体外式除細動器の使用、気道異物除去、止血、傷の手当、包帯の巻き方やテーピングなど]について、医師免許を有する教員が、実習形式で教授するとともに、応急手当を行うのに必須の基礎的知識を講義形式で教授する。一次救命処置、スポーツ現場での応急処置、創傷処置、テーピングなど、実践に結びつく実習指導が必要な項目については、学外特別講師の招聘を予定している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予め、学習する内容などが示されるので、学生は、予習学習して講義に臨み、実習にしっかりと取り組むこと。各回、予習・復習を合わせて2時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 生とは死とは 突然死とは 一次救命処置と救命の連鎖 10/3(木)3限 2. 心臓の構造と働き、肺の構造と働き 10/10(木)3限 3. スポーツ現場での応急処置総論(軟部組織損傷と組織修復 その対応)10/17(木)3限 (学外特別講師・斎藤) 4. 体位、傷病者の運び方、救急車の呼び方、創傷処置、アイシングなど 10/31(木)3限 (学外特別講師・斎藤) 5. 体位、傷病者の運び方、救急車の呼び方、創傷処置、アイシングなど 10/31(木)4限 (学外特別講師・斎藤) 6. 突然死・突然の心停止を起こす主な疾病・事故 11/7(木)3限 7. 一次救命処置① 心肺蘇生法と自動体外式除細動器の使用 11/21(木)3限 (学外特別講師・斎藤) 8. 一次救命処置② 心肺蘇生法と自動体外式除細動器の使用 11/21(木)4限 (学外特別講師・斎藤) 9. 一次救命処置③ 気道異物の除去法 回復体位の取り方 呼吸・意識・脈拍のみかた 心音・呼吸音聴取、血圧測定など 11/28(木)3限 10. ファーストエイドが必要な外傷・疾病 12/5(木)3限 11. 包帯の巻き方・テーピングの方法① 12/19(木)3限 (学外特別講師・斎藤) 12. 包帯の巻き方・テーピングの方法② 12/19(木)4限 (学外特別講師・斎藤) 13. 三角巾の使い方 一次救命処置の実際 試験 1/13(木)3限 (4&amp;5、7&amp;8、11&amp;12は、木曜日1、2限に連続で行う予定です。なお、学外特別講師の予定によって、また、授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)</p>			

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ]  実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)により評価する。  再試験は、原則、行わない。  再試験を行う場合には、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  予習内容について、講義中に設問を出したり、発表を促したりしながら、講義中に解説する。  確認問題、復習問題を課した場合は、次回の講義中に解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編※  ※(https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/iryuu/iryuujouhou/aed_d/fil/004.pdfからもダウンロードできるようです。) 著者名: 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会(監修) 出版社: へるす出版</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  スポーツ医学  著者名: 編/藤本繁夫・大久保衛 出版社: 嵯峨野書院 (978-4-7823-0597-3)  スポーツ救急医学  【令和版】基礎から学ぶ! 著者名: 奥水 健治 出版社: ベースボール・マガジン社 (978-4583112794)</p>			

科目名	応用栄養学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          成長・発達・加齢における生理的特徴を理解できるようになる。          栄養管理事例報告書が作成できるように、各ライフステージにおける栄養アセスメント、ケアの理解ができるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]          成長期、成人期、高齢期ならびに妊産婦、障害者や特殊業務従事者等の身体的・精神的な機能を理解し、基礎栄養学を基本に各ライフステージ・ライフスタイルに応じて、必要とされる栄養素の適切な摂取を理解する。また、生活習慣病の予防など健康づくりの視点で、栄養上の問題点や改善点を学び、効果的かつ合理的な栄養摂取方法を実践できる知識を身につける。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          各回の授業について予習復習合わせて4時間程度。          前回の授業内容を復習して、よく理解をしておいてください。          理解できなかったことをまとめ、次回に質問してください。          次回の授業の予習を行うこと。          日常的に自らの健康や食生活、家族、友人等の食事内容を観察し、メモを取るようになってください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養管理の考え方・進め方</li> <li>2. 栄養環境への適応と成長・発達・加齢</li> <li>3. 日本人の食事摂取基準の基礎的理解</li> <li>4. 母性栄養</li> <li>5. 乳児期の栄養</li> <li>6. 幼児期の栄養</li> <li>7. 学童期・思春期の栄養</li> <li>8. 成人期の栄養</li> <li>9. 高齢期の栄養</li> <li>10. 生活習慣病と食生活(原因と予防)</li> <li>11. 日常的な運動におけるエネルギー消費量と必要な栄養素</li> <li>12. 環境と栄養(温度・気圧・重力・ストレス)、災害時の栄養</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	応用栄養学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 理解度確認試験(70%)、小テスト(20%)、提出物(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・試験の答案用紙を回収後、解答の解説をします。 ・小テストは、後日添削して返却します。 ・レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 応用栄養学(栄養科学シリーズNEXT) 第6版 著者名: 木戸康弘・小倉嘉夫・眞鍋祐之編 出版社: 講談社サイエントイフイク (978-4-06-518044-0)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	応用栄養学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          成長・発達・加齢における生理的特徴を理解できるようになる。          栄養管理事例報告書が作成できるように、各ライフステージにおける栄養アセスメント、ケアの理解ができるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]          成長期、成人期、高齢期ならびに妊産婦、障害者や特殊業務従事者等の身体的・精神的な機能を理解し、基礎栄養学を基本に各ライフステージ・ライフスタイルに応じて、必要とされる栄養素の適切な摂取を理解する。また、生活習慣病の予防など健康づくりの視点で、栄養上の問題点や改善点を学び、効果的かつ合理的な栄養摂取方法を実践できる知識を身につける。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          各回の授業について予習復習合わせて4時間程度。          前回の授業内容を復習して、よく理解をしておいてください。          理解できなかったことをまとめ、次回に質問してください。          次回の授業の予習を行うこと。          日常的に自らの健康や食生活、家族、友人等の食事内容を観察し、メモを取るようになってください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養管理の考え方・進め方</li> <li>2. 栄養環境への適応と成長・発達・加齢</li> <li>3. 日本人の食事摂取基準の基礎的理解</li> <li>4. 母性栄養</li> <li>5. 乳児期の栄養</li> <li>6. 幼児期の栄養</li> <li>7. 学童期・思春期の栄養</li> <li>8. 成人期の栄養</li> <li>9. 高齢期の栄養</li> <li>10. 生活習慣病と食生活(原因と予防)</li> <li>11. 日常的な運動におけるエネルギー消費量と必要な栄養素</li> <li>12. 環境と栄養(温度・気圧・重力・ストレス)、災害時の栄養</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	応用栄養学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 理解度確認試験(70%)、小テスト(20%)、提出物(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・試験は、答案用紙を回収後、解答を解説します。 ・小テストは、後日添削をして返却します。 ・レポートは、後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 応用栄養学(栄養科学シリーズNEXT) 第6版 著者名:木戸康弘・小倉嘉夫・眞鍋祐之編 出版社:講談社サイエントフィク (978-4-06-518044-0)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] ライフステージ別の栄養ケアを考え、対象者に合わせた栄養マネジメントを行うために必要な献立を作成できるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ] ライフステージ別に必要とされる栄養素の適切な摂取量を決定するための科学的根拠を理解し、栄養マネジメントについて、計画、実施、評価等の過程を実習する。そのためには、献立を作成し、それぞれに適した食品を利用し、調理を実践することで知識・技術を習得する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 前期の応用栄養学の授業内容をしっかり復習しておいてください。 前回の実習レポートを仕上げてください。 献立作成ができるように、栄養計算、廃棄率などの復習を行うこと。 次回の実習内容の予習を行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 1. 授業概要および献立作成に関する説明と軟食の栄養マネジメント 2. 乳児期、幼児期、学童期の栄養マネジメントと献立作成 3. 軟食、乳児期(離乳食)の実習 4. 幼児期(幼児食)の実習 5. 思春期、妊娠期・授乳期の栄養マネジメントと献立作成 6. 学童期、思春期(学校給食・弁当)の実習 7. 妊娠・授乳期の実習 8. 成人期・高齢期の栄養マネジメントと献立作成 9. 成人期の実習 10. 高齢期の実習 11. ライフスタイルと栄養マネジメントと献立作成 12. スポーツ栄養の実習 13. まとめ・質問についての解説</p>			

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 提出物(60%)、小テスト(20%)、授業態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・レポート・献立は、後日添削を行い返却します。 ・試験は、答案用紙回収後、解答の解説をします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 新編応用栄養学実習 著者名:編集 宮澤 節子 長浜幸子執筆 伊澤正利 他 出版社:学建書院 (978-4-7624-1883-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  ライフステージ別の栄養ケアを考え、対象者に合わせた栄養マネジメントを行うために必要な献立を作成ができるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]  ライフステージ別に必要とされる栄養素の適切な摂取量を決定するための科学的根拠を理解し、栄養マネジメントについて、計画、実施、評価等の過程を実習する。そのためには、献立を作成し、それぞれに適した食品を利用し、調理を実践することで知識・技術を習得する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。  前期の応用栄養学の授業内容をしっかり復習しておくこと。  前回の実習レポートを仕上げてください。  献立作成ができるように、栄養計算、廃棄率などの復習を行うこと。  次回の実習内容の予習を行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 授業概要および献立作成に関する説明と軟食の栄養マネジメント  2. 乳児期、幼児期、学童期の栄養マネジメントと献立作成  3. 軟食、乳児期(離乳食)の実習  4. 幼児期(幼児食)の実習  5. 思春期、妊娠期・授乳期の栄養マネジメントと献立作成  6. 学童期・思春期(学校給食・弁当)の実習  7. 妊産期・授乳期の実習  8. 成人期・高齢期の栄養マネジメントと献立作成  9. 成人期の実習  10. 高齢期の実習  11. ライフスタイルと栄養マネジメントと献立作成  12. スポーツ栄養の実習  13. まとめ</p>			

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 提出物(60%)、小テスト(20%)、授業態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・レポート・献立は、後日添削を行い返却します。 ・試験は、答案を回収後、解答を解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 提出物、小テスト、授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 新編応用栄養学実習 著者名:編集 宮澤 節子 長浜幸子執筆 伊澤正利 他 出版社:学建書院 (978-4-7624-1883-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	応用調理学実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  これまでで学んだ調理理論に関する知識と技術を活かし、衛生面に常に留意しながら、時間内に調理し、再現できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  基礎調理学実習で習得した基本的調理操作と知識をもとに、応用的な調理操作と技術を盛り込んだ日本料理、西洋料理、中国料理を実習することで、より高度な調理技術の向上と調理理論の習得を図る。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。  事前に配布プリントを熟読し、調理手順を組み立て、計画しておく。  衛生面について十分な準備をして実習に臨む。  事後は課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 第3、4、5回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)</li> <li>3. 日本料理①</li> <li>4. 西洋料理①</li> <li>5. 日本料理②</li> <li>6. 第7、8、9回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)</li> <li>7. 中国料理①</li> <li>8. 日本料理③</li> <li>9. 中国料理②</li> <li>10. 第11、12回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)</li> <li>11. 日本料理④</li> <li>12. 西洋料理②</li> <li>13. 講義 まとめ</li> </ol>			

科目名	応用調理学実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			



科目名	応用調理学実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  これまでで学んだ調理理論に関する知識と技術を活かし、衛生面に常に留意しながら、時間内に調理し、再現できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  基礎調理学実習で習得した基本的調理操作と知識をもとに、応用的な調理操作と技術を盛り込んだ日本料理、西洋料理、中国料理を実習することで、より高度な調理技術の向上と調理理論の習得を図る。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。  事前に配布プリントを熟読し、調理手順を組み立て、計画しておく。  衛生面について十分な準備をして実習に臨む。  事後は課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 第3、4、5回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)</li> <li>3. 日本料理①</li> <li>4. 西洋料理①</li> <li>5. 日本料理②</li> <li>6. 第7、8、9回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)</li> <li>7. 中国料理①</li> <li>8. 日本料理③</li> <li>9. 中国料理②</li> <li>10. 第11、12回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)</li> <li>11. 日本料理④</li> <li>12. 西洋料理②</li> <li>13. 講義 まとめ</li> </ol>			

科目名	応用調理学実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①調理に関する知識や基礎技術にもとづき、専門性の高い調理技術を修得している。</p> <p>②テーマに合わせて、盛り付け等を含む総合的な献立の立案力および実践力を有している。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>応用調理学実習Ⅰの内容に応用的な調理方法を加えた日本料理、西洋料理、中国料理などを実習し、調理理論の修得と調理技術の向上を図ります。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>配布プリントを予習し、具体的な手順をシュミレーションして実習に臨んでください。 実習前の衛生面等についても十分な準備をしてください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、グループ献立1の計画</li> <li>2. 西洋料理:お魚のナゲットほか</li> <li>3. 日本料理:蒸し寿司ほか</li> <li>4. 日本料理:ふくさ卵ほか</li> <li>5. グループ献立1:調理実習</li> <li>6. 中国料理:中華ちまきほか</li> <li>7. 西洋料理:ミートローフほか</li> <li>8. グループ献立2,3:計画</li> <li>9. グループ献立2:調理実習</li> <li>10. 日本料理:松風焼きほか</li> <li>11. グループ献立3:調理実習</li> <li>12. 日本料理:煮しめほか</li> <li>13. 西洋料理:チャウダーほか</li> </ol>			

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート40%、成果物20%、授業への取組40%  * 成果物には調理技術および出来上がり料理を含みます</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは必要に応じて授業の際に全体へのコメント等でフィードバックします。  成果物に対しては、そのつどグループまたは全体に対してコメントします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業への取組</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業への取組、成果物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①調理に関する知識や基礎技術にもとづき、専門性の高い調理技術を修得している。</p> <p>②テーマに合わせて、盛り付け等を含む総合的な献立の立案力および実践力を有している。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>応用調理学実習Ⅰの内容に応用的な調理方法を加えた日本料理、西洋料理、中国料理などを実習し、調理理論の修得と調理技術の向上を図ります。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>配布プリントを予習し、具体的な手順をシュミレーションして実習に臨んでください。 実習前の衛生面等についても十分な準備をしてください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、グループ献立1の計画</li> <li>2. 西洋料理:お魚のナゲットほか</li> <li>3. 日本料理:蒸し寿司ほか</li> <li>4. 日本料理:ふくさ卵ほか</li> <li>5. グループ献立1:調理実習</li> <li>6. 中国料理:中華ちまぎほか</li> <li>7. 西洋料理:ミートローフほか</li> <li>8. グループ献立2,3:計画</li> <li>9. グループ献立2:調理実習</li> <li>10. 日本料理:松風焼きほか</li> <li>11. グループ献立3:調理実習</li> <li>12. 日本料理:煮しめほか</li> <li>13. 西洋料理:チャウダーほか</li> </ol>			

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート40%、成果物20%、授業への取組40%  * 成果物には調理技術および出来上がり料理を含みます</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは必要に応じて授業の際に全体へのコメント等でフィードバックします。  成果物に対しては、そのつどグループまたは全体に対してコメントします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業への取組</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業への取組、成果物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだの仕組みと働き	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>全員参加型=通常の反転授業+説明解答型+ディスカッションorグループワーク</small>	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          栄養・運動を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、基盤となる「からだの仕組みと働き」について基礎的知識を身につけることを目標とし、消化器系、循環器系、呼吸器系、血液・リンパ・凝固系、免疫系、腎・尿路系、内分泌系、生殖器系、神経系・感覚器系、骨格系・筋肉系などの各器官・組織のしくみとはたらきについて説明できるようになる。</p> <p>[授業概要]          人体の解剖・人体の生理に関連する基礎的知識について、医師免許を有する教員が講義を行う。講義の進め方としては、予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、まず教科書を読み、予習学習して講義に臨むものとする。学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された設問に取り組み、講義を聞いて、正解を見つけるなどする。講義中には、適時、ディスカッションしたり、質問したりする機会が与えられ、全員参加型で授業を進める。このようにして、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          ・基盤となる「健康医学入門」の知識を確認しておくこと。          ・予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、教科書をよく読んで予習して授業に臨み、出された設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。          ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。</p> <p>[授業計画]          01. はじめに 消化器 10/2          02. 消化器(消化管・肝臓・胆嚢・膵臓)10/9          03. 消化器と栄養 10/16          04. 血液と循環器 10/23          05. 血液と呼吸器 10/30          06. 血液・リンパ・凝固系と免疫系 11/6          07. 腎・尿路系(泌尿器系)11/13          08. 内分泌器 11/20          09. 生殖器 11/27          10. 神経系(中枢神経系・末梢神経系)12/4          11. 神経系(伝導路)と感覚器 12/11          12. 運動器(骨格・筋肉系と運動機能)12/18          13. 補足とまとめ 1/8          (授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりすることがあります。)</p>			

科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだの仕組みと働き	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[ 成績評価方法 ]

試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)  
再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。

課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[ 教科書(ISBN) ]

なるほどなっとく解剖生理学

(参考書2と入れ替えの可能性あり) 著者名:多久和典子・多久和陽 出版社:南山堂 (978-4-525-12163-1)

[ 参考書(ISBN) ]

はじめの一步は絵で学ぶ

解剖生理学

体の構造と働きがひと目でわかる

著者名:監修/林洋 出版社:じほう (978-4-8407-4588-8 )

Visual 栄養学テキスト

人体の構造と機能および疾病の成り立ち

解剖生理学

(教科書と入れ替え検討中)

著者名:編/福島光夫 出版社:中山書店 (978-4-521-74284-7)

栄養科学イラストレイテッド

解剖生理学



科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだの仕組みと働き	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>全員参加型=通常の反転授業+説明解答型+ディスカッションorグループワーク</small>	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

栄養・運動を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、基盤となる「からだの仕組みと働き」について基礎的知識を身につけることを目標とし、消化器系、循環器系、呼吸器系、血液・リンパ・凝固系、免疫系、腎・尿路系、内分泌系、生殖器系、神経系・感覚器系、骨格系・筋肉系などの各器官・組織のしくみとはたらきについて説明できるようになる。

[授業概要]

人体の解剖・人体の生理に関連する基礎的知識について、医師免許を有する教員が講義を行う。講義の進め方としては、予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、まず教科書を読み、予習学習して講義に臨むものとする。学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された設問に取り組み、講義を聞いて、正解を見つけるなどする。講義中には、適時、ディスカッションしたり、質問したりする機会が与えられ、全員参加型で授業を進める。このようにして、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学修する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- ・基盤となる「健康医学入門」の知識を確認しておくこと。
- ・予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、教科書をよく読んで予習して授業に臨み、出された設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。
- ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。

[授業計画]

01. はじめに 消化器 10/2
02. 消化器(消化管・肝臓・胆嚢・膵臓)10/9
03. 消化器と栄養 10/16
04. 血液と循環器 10/23
05. 血液と呼吸器 10/30
06. 血液・リンパ・凝固系と免疫系 11/6
07. 腎・尿路系(泌尿器系)11/13
08. 内分泌器 11/20
09. 生殖器 11/27
10. 神経系(中枢神経系・末梢神経系)12/4
11. 神経系(伝導路)と感覚器 12/11
12. 運動器(骨格・筋肉系と運動機能)12/18
13. 補足とまとめ 1/8

(授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりすることがあります。)

科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだの仕組みと働き	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[ 成績評価方法 ]

試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)  
再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。

課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[ 教科書(ISBN) ]

なるほどなっとく解剖生理学

(参考書2と入れ替えの可能性あり) 著者名:多久和典子・多久和陽 出版社:南山堂 (978-4-525-12163-1)

[ 参考書(ISBN) ]

はじめの一步は絵で学ぶ

解剖生理学

体の構造と働きがひと目でわかる

著者名:監修/林洋 出版社:じほう (978-4-8407-4588-8 )

Visual 栄養学テキスト

人体の構造と機能および疾病の成り立ち

解剖生理学

(教科書と入れ替え検討中)

著者名:編/福島光夫 出版社:中山書店 (978-4-521-74284-7)

栄養科学イラストレイテッド

解剖生理学

科目名	解剖生理学実験		前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る		実験	
担当者	奥野 直			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>栄養士として将来、臨床や給食、スポーツに関係する施設で栄養指導等を行うとき、対象となる人に合わせて適切な指導を行わなければならない。その人の身体状況を的確に把握するための最低限の検査・測定の意味、実施方法ならびに正常、異常を判断できる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>人体の「しくみとはたらき」をより良く理解するために、身体を構成する細胞組織から、各種器官臓器の成り立ち、およびそれらの機能を把握することが必要である。本科目では、実際の自分自身の身体から、種々の計測・測定ならびに観察等の機器を用いてデータを取得する方法およびその分析、評価方法を学び、より客観的にヒトのからだの「しくみとはたらき」を理解することを目的とする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>実習内容の予習復習(4時間程度)を通して、先行研究の分析とともに健康づくりに欠かすことができない内容を追求する態度を学修する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>8班に分かれて、2～9の8項目の実験をローテーションで実施する。また、10～12について各班で健康づくりに応用できる課題を設定して、実験を行い、その分析結果をプレゼンテーションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験のガイダンス</li> <li>2. 赤血球数、ヘモグロビン濃度の測定</li> <li>3. 白血球の分類</li> <li>4. 味覚検査、皮膚の2点間閾値の測定、体温・平均皮膚温の測定、WBGTの測定、重量感覚の測定</li> <li>5. 視野の測定、涙液検査、フリッカー値検査、重心動揺の測定</li> <li>6. 尿の緩衝作用、尿検査</li> <li>7. 肺活量の測定、最大酸素摂取量の測定、運動時の心拍数の測定、10m歩行テスト</li> <li>8. 心電図検査、血圧の測定、体力診断バッテリーテスト、形態測定</li> <li>9. エネルギー出納(1日の栄養摂取量と消費量、身体活動量)の計算</li> <li>10. 自由課題の計画</li> <li>11. 自由課題の測定</li> <li>12. 分析結果の文章および口頭でのプレゼンテーション</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	解剖生理学実験	前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る	実験	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ] 8項目のレポート(90%)、自由課題(10%)で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ノート(レポート・自由課題)は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポートと自由課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポートと自由課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポートと自由課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポートと自由課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 新訂 解剖生理学実験 著者名:川村一男編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-0216-6) プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	解剖生理学実験	前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る	実験	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

栄養士として将来、臨床や給食、スポーツに関係する施設で栄養指導等を行うとき、対象となる人に合わせて適切な指導を行わなければならない。その人の身体状況を的確に把握するための最低限の検査・測定の意義、実施方法ならびに正常、異常を判断できる能力を身につけることを目標とする。

そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。

[ 授業概要 ]

人体の「しくみとはたらき」をより良く理解するために、身体を構成する細胞組織から、各種器官臓器の成り立ち、およびそれらの機能を把握することが必要である。本科目では、実際の自分自身の身体から、種々の計測・測定ならびに観察等の機器を用いてデータを取得する方法およびその分析、評価方法を学び、より客観的にヒトのからだの「しくみとはたらき」を理解することを目的とする。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

実習内容の予習復習(4時間程度)を通して、先行研究の分析とともに健康づくりに欠かすことができない内容を追求する態度を学修する。

[ 授業計画 ]

8班に分かれて、2～9の8項目の実験をローテーションで実施する。また、10～12について各班で健康づくりに応用できる課題を設定して、実験を行い、その分析結果をプレゼンテーションする。

1. 実験のガイダンス
2. 赤血球数、ヘモグロビン濃度の測定
3. 白血球の分類
4. 味覚検査、皮膚の2点間閾値の測定、体温・平均皮膚温の測定、WBGTの測定、重量感覚の測定
5. 視野の測定、涙液検査、フリッカー値検査、重心動揺の測定
6. 尿の緩衝作用、尿検査
7. 肺活量の測定、最大酸素摂取量の測定、運動時の心拍数の測定、10m歩行テスト
8. 心電図検査、血圧の測定、体力診断バッテリーテスト、形態測定
9. エネルギー出納(1日の栄養摂取量と消費量、身体活動量)の計算
10. 自由課題の計画
11. 自由課題の測定
12. 分析結果の文章および口頭でのプレゼンテーション
13. まとめ

科目名	解剖生理学実験	前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る	実験	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ] 8項目のレポート(90%)、自由課題(10%)で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ノート(レポート・自由課題)は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポートと自由課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 新訂 解剖生理学実験 著者名: 川村一男編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0216-6) プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	学校栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教諭の職務と果たすべき役割を学ぶ	講義	
担当者	本田 まり、阿部 亜紀子、黒田 久恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①栄養教諭の役割を理解し、それに関わる法規等や国が示す食に関する指導の考え方を理解している。  ②学校給食を活用した食に関する指導および各教科等との関連性をふまえた食に関する指導を立案し、実践できる。  ③児童・生徒を取り巻く状況を理解し、個別的な相談指導に必要な知識を身に付けている。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>この科目は、小学校、中学校栄養教諭免許取得のためのものであり、実務経験を有する教員がオムニバス形式で担当します。食育の推進に関わる法規等や学校における食に関する指導の進め方について学び、栄養教諭が果たすべき役割を学びます。また、生きた教材としての学校給食の教育的意義、管理、運営方法について学び、給食の時間における食に関する指導の実践を学びます。さらに、学習指導要領をふまえて各教科等と関連した食に関する指導について理解を深め、指導案の作成と指導の実践を学びます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各授業で課題が出題されます。関連するニュース等に関心を持ち、授業前後の予習復習は4時間程度を目安に行ってください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養教諭の制度と役割、食育基本法、食育推進基本計画(本田)</li> <li>2. 学習指導要領の意義と食育のあり方、「食に関する指導」の全体計画(本田)</li> <li>3. 教科等における食に関する指導:学習指導要領に基づく計画1(黒田)</li> <li>4. 教科等における食に関する指導:学習指導要領に基づく計画2(黒田) 教科等における食に関する指導:指導案作成</li> <li>5. 教科等における食に関する指導:授業の発表と評価1(黒田)</li> <li>6. 教科等における食に関する指導:授業の発表と評価2(黒田)</li> <li>7. 学校給食の歴史、学校給食法、学校組織と栄養教諭ほか(阿部)</li> <li>8. 給食の時間における食に関する指導:指導案作成(阿部)</li> <li>9. 給食の時間における食に関する指導:発表と評価1(阿部)</li> <li>10. 給食の時間における食に関する指導:発表と評価2(阿部)</li> <li>11. 子どもの発達と食生活:体位、体力、食生活の現状と課題(本田) 個別栄養相談指導:指導法、肥満、痩せ</li> <li>12. 個別栄養相談指導:食物アレルギー(本田)</li> <li>13. 学校給食と食育がもたらすもの:教科、家庭・地域との連携(本田)</li> </ol>			

科目名	学校栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教諭の職務と果たすべき役割を学ぶ	講義	
担当者	本田 まり、阿部 亜紀子、黒田 久恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題・発表60%、質疑応答・取組み40%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題は授業の際に全体または個別に口頭等でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:課題・発表、質疑応答</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:課題・発表、質疑応答</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:課題・発表、質疑応答</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:課題、取組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:取組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「四訂 栄養教諭論 理論と実際」第2版 著者名:金田雅代 編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-2116-7) 「中学校 学習指導要領」著者名:文部科学省 (MEXT 1-0804) 「小学校 学習指導要領」著者名:文部科学省 (MEXT1-0803)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	学校保健	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[ 到達目標 ]

学校保健の目的・意義を理解し、学校における保健管理の特性と現代の児童生徒の健康課題から保健教育の必要性がわかる。また、それらの知識を生かし、総合的な学校保健活動について具体的に考えることができる。

[ 授業概要 ]

児童生徒の心身の健康は、教育の基本的な到達目標として位置づけられており、学校保健は学校教育の一環として明確に制度化されている教育活動である。このような認識のもと、学校現場における保健活動の意義と特殊性について理解するため、授業の前半では学校保健の制度と歴史等を概観し、続いて児童生徒を取り巻く健康や環境に関する課題を取り上げ、グループワーク等を通して学生自ら課題について探求し、学びを共有する。また、健康診断、環境衛生、救急処置など、子供達の健康の保持増進を目的とする活動および、保健指導や保健学習といった、健康についての認識や実践力を養う活動について、その特性や実態を把握し、総合的な学校保健活動が展開できる知識や態度を養う。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

授業内容に関連する箇所の予習および前回の授業の復習を心がける。  
各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

1. 学校保健の歴史と意義、および学校保健組織について学ぶ(4月9日火曜日)1限
2. 学校でよく見られる感染症とその対応、疾病管理の概要を学ぶ(4月16日火曜日)1限
3. 学校における疾病管理と、慢性疾患など特別な配慮の必要な子供と家族の現状を理解し、医療的ケアを含む支援のあり方を学ぶ(4月23日火曜日)1限
4. 子供の虐待の背景や現状を知り、学校での支援について考える(5月7日火曜日)1限
5. 喫煙、飲酒、薬物乱用について現状を把握し、防止教育について考える(5月14日火曜日)1限
6. 学校における性教育について、性感染症の予防、いのちの教育の観点から考える(5月21日火曜日)1限
7. インターネット、メディアと子どもの健康について考える(5月28日火曜日)1限
8. 学校保健計画・学校安全計画と健康管理・学校安全について学ぶ(6月4日火曜日)1限
9. 環境衛生検査と施設設備の衛生管理について概要を学ぶ(6月6日木曜日)3限
10. 健康診断について、法的根拠と健康診断の種類及び実施について学ぶ(6月11日火曜日)1限
11. 子供の発育・発達と、心の健康・いじめや不登校など行動上の課題について学校での支援の概要を学ぶ(6月18日火曜日)1限
12. 学校における健康教育と具体的な展開方法を学ぶ(6月20日木曜日)3限
13. 学校で行われている救急処置活動の実際、学校給食と食育、食物アレルギー対応について学ぶ(6月25日火曜日)1限
14. 試験(6月27日木曜日)4限

科目名	学校保健	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中の小テスト、授業後のミニレポート、課題レポート等の提出物、授業への取り組み姿勢 60%  定期試験 40%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  次の授業の冒頭で、レポートの講評を行う。  後日、manabaにて試験の講評、解説を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法:小テスト、ミニレポート、課題レポート、授業への取り組み姿勢等、定期試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:小テスト、ミニレポート、課題レポート、授業への取り組み姿勢等、定期試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法:小テスト、ミニレポート、課題レポート、授業への取り組み姿勢等、定期試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  学校保健ハンドブック第7次改訂 著者名:教員養成系大学保健協議会 出版社:ぎょうせい (978-4-324-10577-1C3037)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	基礎演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直、糸井 亜弥、佐藤 誓子、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	KJ法	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]          本学科のコンセプトを多角的・総合的に理解し、自分の目標を立てていく。また、学士課程教育で求められる具体的な方法を理解し、大学としての学習スタイルを身に付ける。          そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]          基礎演習は前期Ⅰ・後期Ⅱとして開講し、前後期一体型のプログラムです。基礎演習Ⅰは健康スポーツ栄養学科で学ぶ専門科目の概要を理解してもらうための基礎編で、入門ゼミという位置付けです。本学科は栄養士養成を柱として健康栄養とスポーツ栄養のカテゴリーに分かれますので、自分の目標を達成するために、4年間でのような学習をしなければならないかをこの基礎演習を通して理解してもらいたいと思っています。また、大学は高校までと違う学士課程教育といわれる学習形態もっています。学士課程教育において求められる内容は、学ぶ技術や学問的知識の習得、書く・読む・話す・聴くことからのコミュニケーション力や数理的分析力や情報発信力、さまざまな思考法を用いての課題解決力、自らを向上させ続ける力などであり、大学4年間の学習をスムーズに進めるために必要な「大学での学び方」についても学習していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          授業の課題やまとめ方について予習し、復習する(2時間程度)。</p> <p>[授業計画]          1回目は全員で実施方法についての説明とレポート執筆の基礎を学びます。(吉川・木村)          2回目以降は、各クラスを4グループに分けて、各クラス4名(計8名)の教員がゼミ形式で同じグループを3週間連続で担当します。</p> <p>各教員の主な内容は、          奥野 「大学に求められる教育」の解説、マインドマップの作成、「本当は健康寿命が短い日本人の体質」等の要約と発表          佐藤 グループ討議によって課題解決の方法を考える          坂元 スポーツ栄養の現場から、求められる能力を考える          松本 国際栄養の概要と食を通して学ぶプレゼンテーションの手法          吉川 プレゼンテーションのスキルを学ぶ          本田 情報を整理して伝える方法と、積極的な意見交換の実践          木村 リーダーシップとは何かを考える          糸井 書籍・文献検索の手法を学ぶ</p>			

科目名	基礎演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直、糸井 亜弥、佐藤 誓子、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業参加姿勢(20%)と授業中の課題・レポート等(80%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中の課題・レポート等は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 必要に応じてプリント配布等</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 必要に応じてプリント配布等</p>			

P11100700 [ WHI1-009 ]

[1栄]\*前期木3

科目名	基礎演習Ⅱ		後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	奥野 直、糸井 亜弥、佐藤 誓子、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他	KJ法	実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]          本学科のコンセプトを多角的・総合的に理解し、自分の目標を立てていく。また、学士課程教育で求められる具体的な方法を理解し、大学としての学習スタイルを身に付ける。          そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]          基礎演習は前期Ⅰ・後期Ⅱとして開講し、前後期一体型のプログラムです。基礎演習Ⅰは健康スポーツ栄養学科で学ぶ専門科目の概要を理解してもらうための基礎編で、入門ゼミという位置付けです。本学科は栄養士養成を柱として健康栄養とスポーツ栄養のカテゴリーに分かれますので、自分の目標を達成するために、4年間でのような学習をしなければならないかをこの基礎演習を通して理解してもらいたいと思っています。また、大学は高校までと違う学士課程教育といわれる学習形態もっています。学士課程教育において求められる内容は、学ぶ技術や学問的知識の習得、書く・読む・話す・聴くことからのコミュニケーション力や数理的分析力や情報発信力、さまざまな思考法を用いての課題解決力、自らを向上させ続ける力などであり、大学4年間の学習をスムーズに進めるために必要な「大学での学び方」についても学習していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          授業の課題やまとめ方について予習し、復習する(2時間程度)。</p> <p>[授業計画]          1回目は全員で実施方法についての説明とレポート執筆の基礎を学びます。(吉川・木村)          2回目以降は、各クラスを4グループに分けて、各クラス4名(計8名)の教員がゼミ形式で同じグループを3週間連続で担当します。</p> <p>各教員の主な内容は、          奥野 「大学に求められる教育」の解説、マインドマップの作成、「本当は健康寿命が短い日本人の体質」等の要約と発表          佐藤 グループ討議によって課題解決の方法を考える          坂元 スポーツ栄養の現場から、求められる能力を考える          松本 国際栄養の概要と食を通して学ぶプレゼンテーションの手法          吉川 プレゼンテーションのスキルを学ぶ          本田 情報を整理して伝える方法と、積極的な意見交換の実践          木村 リーダーシップとは何かを考える          糸井 書籍・文献検索の手法を学ぶ</p>				

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直、糸井 亜弥、佐藤 誓子、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業参加姿勢(20%)と授業中の課題・レポート等(80%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中の課題・レポート等は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題やプレゼンテーション等</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 必要に応じてプリント配布等</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 必要に応じてプリント配布等</p>			

P11100710 [ WHI1-010 ]

[1栄]\*後期末3

科目名	基礎化学演習		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	吉川 豊			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ] 食品・栄養関連の物質、現象を科学的に考察できるように、化学の基礎知識を習得することを目的とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 化学の基礎を学ぶことは食品・栄養関連の物質・現象などを理解する上で重要である。そこで、本授業では、物質の最小単位である原子・分子の構造、物質の状態・変化、分子の性質・運動、溶液の性質、酸化・還元などについて解説する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度実施すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 物質の構成</li> <li>3. 物質の構成の問題演習</li> <li>4. 物質の構成粒子—原子・分子・イオン・周期表</li> <li>5. 物質の構成粒子の問題演習</li> <li>6. 物質と濃度計算と演習①</li> <li>7. 物質と濃度計算と演習②</li> <li>8. 物質と濃度計算の問題演習</li> <li>9. 酸化と還元</li> <li>10. 酸化と還元の問題演習</li> <li>11. 酸と塩基</li> <li>12. 酸と塩基の問題演習</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	基礎化学演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 解答例をmanabaなどから配布する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] これでわかる化学 著者名: 矢野潤 他 出版社: 三共出版 (978-4-7827-0574-2)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 基礎無機化学 著者名: 安井裕之・吉川豊 著 出版社: 京都廣川書店</p>			

P11100920 [ WHS1-003 ]

[1栄]\*前期金2



科目名	基礎生物学演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  生物を構成する代表的な器官や組織を理解する。生命維持に必要な活動エネルギーの源である栄養素およびそれを獲得するためのシステムを理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]  生物学の基礎的な知識を身につけ、我々の体内の生理機能を理解する。高校の生物の内容を復習すると共に、最新的话题を追加し、本学科で学ぶ専門科目への基礎知識を身につける。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  毎回授業始めに確認小テストを行います。復習と予習をして講義に臨むこと。必要に応じて高校の教科書・参考書も利用し、十分に理解すること。理解できない部分はオフィスアワーを有効利用すること。(計2時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、基礎問題演習・解説</li> <li>2. 細胞</li> <li>3. 生物を構成する物質①</li> <li>4. 生物を構成する物質②</li> <li>5. 復習・問題演習・解説</li> <li>6. 栄養と消化</li> <li>7. 酵素と補酵素</li> <li>8. 栄養と代謝</li> <li>9. 復習・問題演習・解説</li> <li>10. 組織</li> <li>11. 血液の凝固と織溶</li> <li>12. 筋収縮</li> <li>13. 復習・問題演習・解説</li> </ol>			

科目名	基礎生物学演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] 講義中に行う試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験後解答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 医療・看護系のための生物学(改訂版) 著者名:田村 隆明 著 出版社:裳華房 (978-4-7853-5233-2)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 包丁の扱い方、食品の扱い方など基本的調理操作と技術を習得し、実際に行うことができる。 食品成分表を用いて正しく栄養価計算ができる。</p> <p>[ 授業概要 ] 食品の調理特性を理解し、再現性のある良好な調理が行えることを目的とする。栄養価を考慮した日常食の献立を調理することにより、献立計画立案の基礎知識を修得する。また、試食によって盛り付けや配膳、基本的な食事作法を学ぶ。喫食者の嗜好なども含めた献立の評価を行う。(佐藤担当/7.5回・糸井担当/7.5回)</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。 前回の授業の復習をする。 次回実習する献立について予習する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(衛生管理、調理室の使い方、実習上の諸注意、調理の基本操作など) (佐藤誓子・糸井亜弥)</li> <li>2. 食品成分表を用いた演習及び課題の説明(佐藤誓子)</li> <li>3. 手法別調理の実際(炊飯、汁物、和え物)(佐藤誓子)</li> <li>4. 手法別調理の実際(炒め物、蒸し物)、選択献立に関する説明(佐藤誓子)</li> <li>5. 手法別調理の実際(煮物、揚げ物、寄せ物)(佐藤誓子)</li> <li>6. 第8、9回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)(糸井亜弥)</li> <li>7. 第10回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)、食事マナーDVD視聴 (糸井亜弥)</li> <li>8. 献立別調理の実際(日本料理)(糸井亜弥)</li> <li>9. 献立別調理の実際(西洋料理)(糸井亜弥)</li> <li>10. 献立別調理の実際(中国料理)(糸井亜弥)</li> <li>11. 選択献立の調理(佐藤誓子)</li> <li>12. 講義 まとめ(糸井亜弥)</li> <li>13. テーブルマナー講座(学外での講座:外部講師)(佐藤誓子)</li> </ol>			

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(60%)、レポート提出状況と内容(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  基礎から学ぶ調理実習 著者名:新調理研究会編 出版社:オーム社(978-4-274-06998-7)  日本食品成分表2023 八訂 著者名:医歯薬出版編 出版社:医歯薬出版(978-4-263-70840-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  NEW調理と理論(第2版) 著者名:山崎清子 他 出版社:同文書院(978-4-8103-1507-3)  めざせ! 栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション(第4版) 著者名:小野章史 他 出版社:第一出版(978-4-804-11459-0)</p>			

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 包丁の扱い方、食品の扱い方など基本的調理操作と技術を習得し、実際に行うことができる。 食品成分表を用いて正しく栄養価計算ができる。</p> <p>[授業概要] 食品の調理特性を理解し、再現性のある良好な調理が行えることを目的とする。栄養価を考慮した日常食の献立を調理することにより、献立計画立案の基礎知識を修得する。また、試食によって盛り付けや配膳、基本的な食事作法を学ぶ。喫食者の嗜好なども含めた献立の評価を行う。(佐藤担当/7.5回・糸井担当/7.5回)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。 前回の授業の復習をする。 次回実習する献立について予習する。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション(衛生管理、調理室の使い方、実習上の諸注意、調理の基本操作など) (佐藤誓子・糸井亜弥) 2. 食品成分表を用いた演習及び課題の説明(佐藤誓子) 3. 手法別調理の実際(炊飯、汁物、和え物)(佐藤誓子) 4. 手法別調理の実際(炒め物、蒸し物)、選択献立に関する説明(佐藤誓子) 5. 手法別調理の実際(煮物、揚げ物、寄せ物)(佐藤誓子) 6. 第8、9回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)(糸井亜弥) 7. 第10回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)、食事マナーDVD視聴 (糸井亜弥) 8. 献立別調理の実際(日本料理)(糸井亜弥) 9. 献立別調理の実際(西洋料理)(糸井亜弥) 10. 献立別調理の実際(中国料理)(糸井亜弥) 11. 選択献立の調理(佐藤誓子) 12. 講義まとめ(糸井亜弥) 13. テーブルマナー講座(学外での講座:外部講師)(佐藤誓子)</p>			

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(60%)、レポート提出状況と内容(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  基礎から学ぶ調理実習 著者名:新調理研究会編 出版社:オーム社(978-4-274-06998-7)  日本食品成分表2023 八訂 著者名:医歯薬出版編 出版社:医歯薬出版(978-4-263-70840-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  NEW調理と理論(第2版) 著者名:山崎清子 他 出版社:同文書院(978-4-8103-1507-3)  めざせ! 栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション(第4版) 著者名:小野章史 他 出版社:第一出版(978-4-804-11459-0)</p>			

科目名	機能運動論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>身体の動きを理解し、運動に関連する神経、筋、関節について学び、トレーニング効果や機能障害等を理解する。また運動機能の評価法を学習するとともに日常生活動作と生活関連動作を理解する。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>スポーツのみならず、日常生活動作について、運動の機構およびそのコントロールを理解し、運動機能の評価と傷害に対する対策を学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>機能解剖とバイオメカニクスの概要,肩甲骨の動きと運動</li> <li>運動単位、紡錘筋と羽状筋、PNFストレッチ、運動パフォーマンスの向上</li> <li>骨・筋肉・関節の名称と動き1(上肢)</li> <li>骨・筋肉・関節の名称と動き2(上肢の関節と動き)</li> <li>骨・筋肉・関節の名称と動き3(下肢)</li> <li>骨・筋肉・関節の名称と動き4(下肢の関節と動き)</li> <li>骨・筋肉・関節の名称と動き5(体幹と脊柱)</li> <li>バイオメカニクス1(筋肉の収縮様式、筋の弾性要素・弾性エネルギー)</li> <li>バイオメカニクス2(スポーツ力学の基本)</li> <li>バイオメカニクス3(重心、運動量と力積)</li> <li>バイオメカニクス4(パワーの発揮とエネルギーの伝達)</li> <li>バイオメカニクス5(慣性モーメント、運動と流体力)</li> <li>まとめ</li> </ol>			

科目名	機能運動論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(100%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 理学療養士・作業療養士・言語療養士のための解剖学 著者名: 渡辺正仁 出版社: 廣川書店 (4-567-51774-1 C3047)</p>			



科目名	給食運営管理実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	佐藤 誓子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 給食現場では、栄養管理・経営管理・衛生管理・品質管理などに係る諸問題を総合的に判断し、解決する能力が求められる。実際の給食提供を想定して計画から評価を行える能力を取得することを目標とする。</p> <p>[授業概要] 給食計画実務論で学んだ知識と、給食運営管理技術の統合を図るため、実際に大量調理を行い、給食現場における種々のマネージメントを修得することに重点をおいている。 与えられた課題のみを解決するのではなく、自らが課題を発展的に展開する能力を養うことも重要であり、このような観点からも学修を行う。 なお、衛生管理のために検便を数回行う。この結果により調理作業を許可しているため、日常の健康管理にも注意を払う必要がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 給食計画・実務論の内容を復習し、次回の実習担当部分の予習をしておくこと (各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 献立作成演習 3. 作業管理、衛生管理、安全管理に係る事前教育 4. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(1) 5. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(2) 6. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(3) 7. 試作、予定献立の作成 8. 発注計画、作業工程表の作成 9. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(1) 10. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(2) 11. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(3) 12. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(4) 13. 全体を通しての評価、反省、まとめ</p>				

科目名	給食運営管理実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習中の態度60%、試験20%、レポートの進捗状況20%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・試験は回収後に解説をする ・レポートは添削後に返却する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 実習中の態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 日本栄養士会「給食経営管理論」 著者名: 全国栄養士養成施設協会 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1347-0 C3377)</p>			

P11100290A [ WHI2-013 ]

[2栄A]\*後期水3・4

科目名	給食運営管理実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	佐藤 誓子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 給食現場では、栄養管理・経営管理・衛生管理・品質管理などに係る諸問題を総合的に判断し、解決する能力が求められる。実際の給食提供を想定して計画から評価を行える能力を取得することを目標とする。</p> <p>[授業概要] 給食計画実務論で学んだ知識と、給食運営管理技術の統合を図るため、実際に大量調理を行い、給食現場における種々のマネージメントを修得することに重点をおいている。 与えられた課題のみを解決するのではなく、自らが課題を発展的に展開する能力を養うことも重要であり、このような観点からも学修を行う。 なお、衛生管理のために検便を数回行う。この結果により調理作業を許可しているため、日常の健康管理にも注意を払う必要がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 給食計画・実務論の内容を復習し、次回の実習担当部分の予習をしておくこと (各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 献立作成演習 3. 作業管理、衛生管理、安全管理に係る事前教育 4. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(1) 5. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(2) 6. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(3) 7. 試作、予定献立の作成 8. 発注計画、作業工程表の作成 9. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(1) 10. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(2) 11. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(3) 12. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(4) 13. 全体を通しての評価、反省、まとめ</p>				

科目名	給食運営管理実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習中の態度60%、試験20%、レポートの進捗状況20%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・試験は回収後に解説をする ・レポートは添削後に返却する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 実習中の態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 日本栄養士会「給食経営管理論」 著者名: 全国栄養士養成施設協会 出版社: 第一出版 (978-4-8041-1347-0 C3377)</p>			

P11100290B [ WHI2-013 ]

[2栄B]\*後期金3・4

科目名	給食管理実習 I (校外)	前期～後期	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際	実習	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          事業所・小学校・福祉施設などの特定給食施設において、各施設の組織の概要を理解して各施設での給食に係る組織と運営・業務内容の実態を把握し、給食運営管理のあり方を修得する。          なお、実習時間のうち40時間を校外にて行い、5時間を事前事後教育として学内にて行う。</p> <p>[ 授業概要 ]          給食経営の資源となる、「人」「物」「金」「情報」について、それぞれの施設での運営状況を学ぶ。単なる見学ではなく、実践活動の場での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          給食計画実務論、給食運営管理実習、調理科学、基礎調理学実習、応用調理学実習 I の内容を復習しておくこと(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(学内)</li> <li>2. 各特定給食施設の特徴の把握と、自己課題作成演習(学内)</li> <li>3. 大量調理実習・主として調理(校外)</li> <li>4. 大量調理実習・主として調理(校外)</li> <li>5. 大量調理・衛生管理(校外)</li> <li>6. 大量調理・衛生管理(校外)</li> <li>7. 施設の対象者に応じた食事計画演習(校外)</li> <li>8. 作業工程作成演習(校外)</li> <li>9. 発注計画表作成演習(校外)</li> <li>10. 献立・栄養評価演習(校外)</li> <li>11. 各施設での管理栄養士・栄養士の役割に関する授業(校外)</li> <li>12. 実習先での反省会(校外)</li> <li>13. 反省会・まとめ(学内)</li> </ol>			

P11100340 [ WHI3-011 ]

[3栄]\*前期又は後期集中

科目名	給食管理実習 I (校外)	前期～後期	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際	実習	
担当者	佐藤 誓子		

[ 成績評価方法 ]

事前事後教育中の態度10%、校外での授業態度90%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

事後教育にて講評を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: 校外での授業態度

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。

成績評価方法: 校外での授業態度

学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。

成績評価方法: 校外での授業態度

学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/ 国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。

成績評価方法: 校外での授業態度

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 責任感/ 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 表現力/ 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 事前事後教育中の態度

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 校外での授業態度

[ 教科書(ISBN) ]

なし

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	給食管理実習 I (校外)	前期	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際	実習	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  事業所・小学校・福祉施設などの特定給食施設において、各施設の組織の概要を理解して各施設での給食に係る組織と運営・業務内容の実態を把握し、給食運営管理のあり方を修得する。  なお、実習時間のうち40時間を校外にて行い、5時間を事前事後教育として学内にて行う。</p> <p>[ 授業概要 ]  給食経営の資源となる、「人」「物」「金」「情報」について、それぞれの施設での運営状況を学ぶ。単なる見学ではなく、実践活動の場での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  給食計画実務論、給食運営管理実習、調理科学、基礎調理学実習、応用調理学実習 I の内容を復習しておくこと(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(学内)</li> <li>2. 各特定給食施設の特徴の把握と、自己課題作成演習(学内)</li> <li>3. 大量調理実習・主として調理(校外)</li> <li>4. 大量調理実習・主として調理(校外)</li> <li>5. 大量調理・衛生管理(校外)</li> <li>6. 大量調理・衛生管理(校外)</li> <li>7. 施設の対象者に応じた食事計画演習(校外)</li> <li>8. 作業工程作成演習(校外)</li> <li>9. 発注計画表作成演習(校外)</li> <li>10. 献立・栄養評価演習(校外)</li> <li>11. 各施設での管理栄養士・栄養士の役割に関する授業(校外)</li> <li>12. 実習先での反省会(校外)</li> <li>13. 反省会・まとめ(学内)</li> </ol>			

科目名	給食管理実習 I (校外)	前期	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際	実習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ] 事前事後教育中の態度10%、校外での授業態度90%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 事後教育にて講評を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 校外での授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 校外での授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 校外での授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 校外での授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 校外での授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 校外での授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 事前事後教育中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 校外での授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 校外での授業態度</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			



科目名	給食計画・実務論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 給食運営のための基礎知識を学ぶ。栄養・衛生・生産・品質・原価管理など多岐に亘る栄養士・管理栄養士業務を把握し、次期の学内実習及び校外実習に活かせる学修を目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 1. 給食の定義を理解する。 2. 栄養士法に示される栄養士・管理栄養士業務のうち、給食運営に関わる内容を理解する。 3. 給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営面などのマネジメントを行う能力を養う。 4. 給食の対象となる人や集団を把握した上で、個々の対象者への対応に必要な技能について学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 調理学の知識を復習して授業に臨むこと。 次回の授業内容を、教科書によって予習しておくこと。 (各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ] 1. オリエンテーション, 給食の概念 2. 給食における栄養・食事管理(1) 3. 給食における経営管理 4. 給食における栄養・食事管理(2) 5. 給食における栄養・食事管理(3) 6. 給食の組織・人事管理 7. 前半のまとめ 8. 給食の生産(調理)管理 9. 給食の品質管理 10. 給食の会計・原価管理 11. 給食の衛生管理 12. 給食の情報処理管理, 事故・災害時対策 13. 保健・医療・福祉・介護における給食の位置づけ 14. 試験</p>			

科目名	給食計画・実務論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度10%, レポート30%, 試験60%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・レポートは講評の上、返却する  ・試験は回収後、解説する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  給食経営管理論 サクセス管理栄養士講座 著者名:全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修 出版社:第一出版 (978-4-8041-1456-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  管理栄養士・栄養士必携 著者名:日本栄養士会 編 出版社:第一出版 (978-4-8041-1357-9)</p>			

科目名	給食計画・実務論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 給食運営のための基礎知識を学ぶ。栄養・衛生・生産・品質・原価管理など多岐に亘る栄養士・管理栄養士業務を把握し、次期の学内実習及び校外実習に活かせる学修を目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 1. 給食の定義を理解する。 2. 栄養士法に示される栄養士・管理栄養士業務のうち、給食運営に関わる内容を理解する。 3. 給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営面などのマネジメントを行う能力を養う。 4. 給食の対象となる人や集団を把握した上で、個々の対象者への対応に必要な技能について学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 調理学の知識を復習して授業に臨むこと。 次回の授業内容を、教科書によって予習しておくこと。 (各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ] 1. オリエンテーション, 給食の概念 2. 給食における栄養・食事管理(1) 3. 給食における経営管理 4. 給食における栄養・食事管理(2) 5. 給食における栄養・食事管理(3) 6. 給食の組織・人事管理 7. 前半のまとめ 8. 給食の生産(調理)管理 9. 給食の品質管理 10. 給食の会計・原価管理 11. 給食の衛生管理 12. 給食の情報処理管理, 事故・災害時対策 13. 保健・医療・福祉・介護における給食の位置づけ 14. 試験</p>			

科目名	給食計画・実務論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度10%, レポート30%, 試験60%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・レポートは講評の上、返却する  ・試験は回収後、解説する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  給食経営管理論 サクセス管理栄養士講座 著者名:全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修 出版社:第一出版 (978-4-8041-1456-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  管理栄養士・栄養士必携 著者名:日本栄養士会 編 出版社:第一出版 (978-4-8041-1357-9)</p>			

科目名	グローバル・ヘルスプロモーション	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          各国の健康事情について、歴史・文化・地理的環境・食生活を通して生活様式を理解し、国際的知見を習得する。</p> <p>[ 授業概要 ]          様々な国の歴史・文化・地理的環境に触れながら、疾病や健康における問題点や日本との相違点について比較検討する。また、地域特有の食生活や医療・健康法についても学び、健康促進について考える。また担当教員が訪れた国での体験談について、スライド等を用いて紹介することで、それらの国々を身近に感じてもらう。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          授業内容に関して情報(新聞・TV・インターネットなど)検索して復習し、理解を深めておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスプロモーションについて</li> <li>2. 疾病① 感染症①</li> <li>3. 疾病② 感染症②</li> <li>4. 生活環境① 上下水</li> <li>5. 生活環境② 大気・地理的環境</li> <li>6. 建築・通信・教育</li> <li>7. まとめ・ディスカッション①</li> <li>8. 食生活と健康①</li> <li>9. 食生活と健康②</li> <li>10. 健康法</li> <li>11. 医療事情</li> <li>12. 人口 出生率・寿命</li> <li>13. まとめ・ディスカッション②</li> </ol> <p>順序は変更になる場合があります。</p>			

科目名	グローバル・ヘルスプロモーション	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題(60%)、試験(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題について添削して返却・議論する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験 課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし(資料を配布します)</p>			

P11100890 [ WHI3-015 ]

[3栄]\*前期金5

科目名	健康医学入門	前期	2 単位
サブタイトル	生命と健康	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	全員参加型=通常の反転授業+設問解答型+ディスカッションorグループワーク	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>「生物・生命と生物・生命を育む環境」、「健康と病気」への深い理解を基盤として、栄養と運動を通して、健康管理、すなわち、病気の予防と健康の維持・増進ができるようになるために、生物・生命、生物・生命を育む環境、健康と病気についての基礎的知識を身につけることを目標とする。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生物・生命と生物・生命を育む環境」に関して、この世および生物を構成する物質、圧力と電気と身体、細胞の構造と働き、環境と栄養、遺伝のしくみ、人体の階層構造、ホメオスタシスの維持機構、成長と老化について理解し、説明できるようになる。</li> <li>・「健康・病気」に関して、健康の定義を説明し、病気(病的な状態)の成り立ちを説明できるようになる。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>生物・生命と生物・生命を育む環境、健康と病気への深い理解を基盤として、運動・栄養指導を通じた健康管理ができるようになるために、生物・生命と生物・生命を育む環境、健康と病気の基礎的知識について、医師免許を有する教員が講義を行う。講義の進め方としては、予め、学習する範囲などが示されるので、学生は、教科書または資料などを読み、予習学習して講義に臨むものとする。学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された設問に取り組む、講義を聞いて、正解を見つけるなどとする。講義中には、適時、ディスカッションしたり、質問したりする機会が与えられ、全員参加型で授業を進める。このようにして、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予め、学習する範囲などが示されるので、学生は、科書または資料などを読んで予習して授業に臨み、出された設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。</li> <li>・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。</li> </ul> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>01. はじめに 健康・病気とは そして 生物・生命とは 4/8(月)2限</li> <li>02. この世を構成する物質 生物を構成する物質 4/15(月)2限</li> <li>03. 環境と身体 圧力と電気 4/22(月)2限</li> <li>04. 細胞の構造と働き 5/6(月)2限</li> <li>05. 環境と栄養:食物連鎖と生態系 5/13(月)2限</li> <li>06. 栄養:消化と吸収 5/20(月)2限</li> <li>07. 栄養:分解代謝(エネルギー産生の仕組み)5/27(月)2限</li> <li>08. 遺伝の仕組み DNAとタンパク質 6/3(月)2限</li> <li>09. 遺伝の仕組み 細胞分裂 6/10(月)2限</li> <li>10. 人体の階層構造 6/17(月)2限</li> <li>11. ホメオスタシスの維持機構 6/24(月)2限</li> <li>12. 成長と老化 7/1(月)2限</li> <li>13. 病気/疾病の成り立ち 病気/疾病の種類 もう一度健康とは 7/8(月)2限</li> </ol> <p>(授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)</p>			

科目名	健康医学入門	前期	2 単位
サブタイトル	生命と健康	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[ 成績評価方法 ]

試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)  
再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。  
課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[ 教科書(ISBN) ]

楽しくわかる生物・化学・物理 著者名: 岡田隆夫 出版社: 羊土社 (978-4-7581-2073-9)

[ 参考書(ISBN) ]

解剖生理学 著者名: 多久和典子・多久和陽

出版社: 南山堂 (978-4-525-12163-1)

はじめの一步は絵で学ぶ

解剖生理学

体の構造と働きがひと目でわかる 著者名: 監修/林洋 出版社: じほう (978-4-8407-4588-8)

栄養科学イラストレイテッド

解剖生理学

人体の構造と機能 著者名: 編/志村藤二三夫他 出版社: 羊土社 (978-4-758-11362-5)

Visual 栄養学テキスト

人体の構造と機能および疾病の成り立ち

解剖生理学 著者名: 編/福島光夫 出版社: 中山書店 (978-4-521-74284-7)



科目名	健康食育論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①日本における食育推進に関連した法規や施策などの基本的枠組みを理解している。  ②食生活をめぐる問題を理解し、家庭、学校・保育所等、地域における望ましい食育推進のあり方を理解している。  ③地球環境に対して、食育の観点から取り組むべき役割を理解している。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>なぜ食育が必要なのか、乳幼児から高齢期までの全ライフステージにおける食育の意義を理解し、国の施策や家庭、学校・保育所等、地域における取り組みについて具体的に学びます。  また、地球環境に対する食育の重要性についても学び、食育の意義を深め、実践に役立つ知識を身に付けます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>食環境や家庭環境、地球環境、食文化などに関するニュースに目を向け、授業との関連性を深めながら知識を吸収してください。各回の授業前後の自己学習として4時間程度を目安にしてください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食育基本法、第4次食育推進基本計画</li> <li>2. 食育推進施策をめぐる状況、食育推進運動の展開</li> <li>3. 家庭における食育の推進</li> <li>4. 学校における食育の推進</li> <li>5. 就学前の子どもにおける食育の推進</li> <li>6. 地域における食育の推進</li> <li>7. 食品関連事業者等による食育の推進</li> <li>8. ボランティア活動による食育の推進</li> <li>9. 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等と食育</li> <li>10. 地産地消、食の循環や環境に配慮した食育の推進</li> <li>11. 食文化継承のための食育の推進</li> <li>12. 食の安全性等に関する情報と食育活動</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	健康食育論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	本田 まり		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業毎のレポート60%、小テスト40%で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは、授業の際に口頭でフィードバックします。 小テストは、実施後に解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 食育白書 令和五年版 著者名:農林水産省 出版社:日経印刷</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	健康スポーツ指導法 I (体づくり運動)	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、運動を行ったり健康を保持したりするための行い方を学ぶため、以下の到達目標を設定する。</li> <li>①授業にて「何を学んでいるか」を意識し、その学びを自らの実生活に生かすことができる。</li> <li>②自ら体づくり運動や体ほぐし運動を実践するだけでなく、他者に提供できるよう授業づくりができる。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領にある「体づくり運動」の趣旨を踏まえ、仲間と関わり合い楽しむ運動を通し、心と体の関係に気づき、心や体の状態に応じて調子を整える。</li> <li>・授業で体験した内容をもとに、「体づくり運動」における「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の授業づくりの考え方を理解し展開を考えながら、授業づくりができるよう実践する。</li> </ul> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導用ノートを作成し、実技授業内での学習事項をまとめ、得られた気づきを記録すること。</li> <li>・授業で得られたアイデアをもとに、オリジナリティあふれる指導計画を立案すること。</li> </ul> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>第1回:オリエンテーション  第2回:からだを使って遊ぶ①  第3回:体づくり運動① 体ほぐし  第4回:からだを使って遊ぶ②  第5回:体づくり運動② 体ほぐし  第6回:からだを使って遊ぶ③  第7回:からだを使って遊ぶ④ 授業づくり  第8回:体づくり運動③ 道具を使う運動  第9回:からだを使って遊ぶ⑤  第10回:体づくり運動④生活と運動  第11回:体づくり運動⑤対象にあわせた運動  第12回:体づくり運動⑥授業づくり  第13回:まとめ(実技テスト)</p> <p>* 履修者の理解度、技能に応じて内容等変更する場合がある</p>			

科目名	健康スポーツ指導法 I (体づくり運動)	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ]          授講態度(50%)、模擬授業づくり・発表(40%)、個人スキル(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          授業等で説明・解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。          成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。          成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。          成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢          成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力          成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年7月 告示 著者名: 文部科学省 出版社: 東山書房 (4827815607)          高等学校学習指導要領解説保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社: 東山書房 (4827815682)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          授業中に指示する。</p>			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅱ(武道)	後期	1単位
サブタイトル		実習	
担当者	賀屋 光晴		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]          柔道を通して礼節や思いやりの心について理解できる          受身、投技(手技・腰技・足技)、固め技(抑え方・逃げ方)が身につく          学修内容を当該の中学・高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求することができる</p> <p>[授業概要]          柔道の起源と変遷および柔道の特性を理解し、柔道の基本動作や対人的技能を習得する。また柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          授業前:参考図書やWeb動画などで、実施予定の内容や動作についての予備知識や動作イメージを身に付ける。          学習指導要領の武道の項を確認する。          授業後:実施内容について、上手くできた点や修正が必要と思われた点について思い出し、まとめておく。          怪我の防止や柔軟性の向上のため1日5分程度のストレッチを毎日行なう。</p> <p>[授業計画]          第1回:柔道の歴史について、道衣の着方、基本的な動作について          第2回:基本動作の習得1(礼法、受身、姿勢、基本動作)          第3回:基本動作の習得2(礼法、受身、姿勢、組み方、歩き方、体捌き、崩し)          第4回:基本動作の習得3(礼法、受身、体捌き、崩し)、対人的技能の習得1:投技(膝車、支釣込足)          第5回:対人的技能の習得2:投技(大腰)          第6回:対人的技能の習得3:投技(体落)          第7回:対人的技能の習得4:投技(背負投、一本背負投)          第8回:対人的技能の習得5:投技(送足払、出足払)          第9回:対人的技能の習得6:投技(大外刈、大内刈、小内刈)、連絡技          第10回:対人的技能の習得7:投技(大外刈、大内刈、小内刈)          第11回:対人的技能の習得8:固技(抑え技:袈裟固)          第12回:対人的技能の習得9:固技(様々な抑え技)          第13回:対人的技能の習得10:固技(寝技での攻防)、連絡技(投技から固技)</p>			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅱ(武道)	後期	1単位
サブタイトル		実習	
担当者	賀屋 光晴		
<p>[ 成績評価方法 ] 技術の理解度と上達度(50%)、参加態度(30%)、課題レポート(20%)を合わせて、総合的に評価する</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 必要に応じて次回以降の授業時などにてフィードバックを行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 「女子のための柔道の教科書」 著者名:木村昌彦ほか 出版社:土屋書店 (978-4806912828) 「ジュニアのための考える柔道(改訂新版)」 著者名:向井 幹博、山口 香 出版社:東京書店 (978-4885746369) 「心・技・体を強くする!柔道 基本と練習メニュー」 著者名:井上 康生 出版社:池田書店 (978-4262163826) 武道をたずねて-武道教育への活用- 著者名:出口 達也、金 炫勇、瀬川 洋 出版社:大学教育出版 (978-4864294812) 発達が気になる子が輝く柔道&amp;スポーツの指導法 著者名:西村健一、長野敏秀、浦井重信、酒井重義 出版社:特定非営利活動法人judo3.0 (978-4991128004)</p>			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅲ(陸上)	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 走・跳・投の陸上競技の実施種目について、①特性を理解すること、②技術を習得すること、③目標記録に到達することを目標とし、陸上競技に関する知識および技能を身に付けるとともに、他者へ陸上競技の指導を行なうことが出来る能力を身に付けることで、「確かな知識を持ちながら、課題解決のために行動できる実践力」を身に付ける。</p> <p>[授業概要] 陸上競技は走・跳・投・歩から構成される運動であり、あらゆる運動・スポーツ活動の基本となる身体能力を用いる種目である。本授業は、①前半と後半にて走・跳・投の測定を実施し、最終的な目標記録を設定する、②自身の課題に応じた技能習得方法について考える、③グループワークにて技能取得や審判の方法を共有することで学習効果を高めるといった学習展開である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 本授業では、混成競技(7種競技)およびリレーを取り扱うため、実施種目特性について事前に調べてくるとともに、授業後では技能ポイントについてまとめること(2時間)。</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション 第2回 混成競技(前半)測定 第3回 混成競技(後半種目)測定 第4回 短距離種目の特性理解および技術の理解・習得 第5回 リレー種目の特性理解および技術の理解・習得 第6回 長距離種目の特性理解および技術の理解・習得 第7回 ハードル種目の特性理解および技術の理解・習得 第8回 走幅跳の特性理解および技術の理解・習得 第9回 走高跳の特性理解および技術の理解・習得□ 第10回 砲丸投・やり投げの特性理解および技術の理解・習得 第11回 混成競技(前半)測定 第12回 混成競技(後半種目)測定 第13回 まとめ(レポート作成、授業ノート提出)</p> <p>* 王子公園陸上競技場でも2コマ実施のため、別途、詳細は連絡する。 * 天候や学生の運動技能のレベルにより変更することがある。</p>			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅲ(陸上)	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ] 技能(40%)、レポート(40%)、受講態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内等で連絡します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実技試験とレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11101030 [ WHI3-035 ]

[3栄]\*後期金3



科目名	健康スポーツ指導法Ⅳ(器械運動)	後期	1 単位
サブタイトル	器械運動の特性 指導法	実習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]  技のできる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力など理解するとともに、技がよりよくできるよう指導する。</p> <p>[授業概要]  器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わわせることを学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]  1.器械運動についての説明と器機の説明、授業計画作成の説明  2.マット運動回転系接転「前転(開脚・伸膝前転等)、後転(開脚・伸膝好転等)」  3.マット運動回転系ほん転「倒立回転」、巧技立ち「片足平均立ち」、連続技  4.マット運動の指導法と授業計画作成  5.鉄棒運動支持系前方支持回転「前転、前方足掛け回転」  6.鉄棒運動支持系後方支持回転「後転、後方足掛け回転」  7.鉄棒運動の指導法と授業計画作成  8.平均台運動体操系「歩走・跳躍」  9.平均台運動バランス系「ポーズ・ターン」  10.平均台運動指導法と授業計画作成  11.跳び箱運動繰り返し系「開脚跳び・かかえ込み跳び」  12.跳び箱運動回転系「回転跳び」  13.跳び箱運動も指導法と授業計画作成</p>			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅳ(器械運動)	後期	1 単位
サブタイトル	器械運動の特性 指導法	実習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ] 技能(50%)、受講態度(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内で知らせる</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 中学校学習指導要領解説 保健体育編 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名:文部科学省 体育科教育入門 3訂版 著者名:岡出美則、友添秀則 出版社:大修館書店</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業でお知らせします</p>			

科目名	健康体力評価論(含実習)		前期	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価		実習	
担当者	小田 慶喜			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他	<small>各自の考えを積極的に表現し、社会に関わける 手前を身につける</small>	実務経験のある教員による授業		

[ 到達目標 ]

健康・体力づくりの指導者として、健康・体力づくりの基礎的な知識を理解した上で、体力テストを実施し、結果を評価する方法を理解する。また、それらを健康・体力づくりやトレーニングに安全かつ効果的に活用する力を養う。

[ 授業概要 ]

有酸素性、無酸素性作業能力を表す指標や身体組成の測定原理とそれらの測定方法について実習を通して理解する。また、新体力テストの各項目と体力要素の関連を理解し、実習を通して体力テストの結果を評価する方法と健康・体力づくりやトレーニングなどへの活用方法を理解する。また、体力測定は、個人や集団の体力の実態を要因別、総合的に評価し健康づくり策の重要性であることを理解する。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

健康運動実践指導者には、現場で対応するための多くの実践的知識の活用が必要とされます。すでに学んでいる知識を実践的に活用できるように、教科書を事前に読んで知識の整理をしておいてください。

[ 授業計画 ]

1. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について①
2. 体力の概念と構成要素、体力測定の目的や対象について
3. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について②
4. 身体組成の測定方法について①
5. 身体組成の測定方法について②
6. 新体力テストと測定方法
7. 体力測定①
8. 測定結果の評価①
9. 測定結果の評価②
10. 測定結果からのトレーニング方法実践①
11. 測定結果からのトレーニング方法実践②
12. 体力測定②
13. 測定結果の評価③、発表、まとめ

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価	実習	
担当者	小田 慶喜		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(25%)、発表(25%)、個人スキル(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  健康運動実践指導者試験問題を中心に解説を実施します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名:不明 出版社:(財)健康・体力づくり事業財団</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価	実習	
担当者	小田 慶喜		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他	各自の考えを積極的に表現し、社会に関わける 手前を身につける	実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

健康・体力づくりの指導者として、健康・体力づくりの基礎的な知識を理解した上で、体力テストを実施し、結果を評価する方法を理解する。また、それらを健康・体力づくりやトレーニングに安全かつ効果的に活用する力を養う。

[ 授業概要 ]

有酸素性、無酸素性作業能力を表す指標や身体組成の測定原理とそれらの測定方法について実習を通して理解する。また、新体力テストの各項目と体力要素の関連を理解し、実習を通して体力テストの結果を評価する方法と健康・体力づくりやトレーニングなどへの活用方法を理解する。また、体力測定は、個人や集団の体力の実態を要因別、総合的に評価し健康づくり策の重要性であることを理解する。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

健康運動実践指導者には、現場で対応するための多くの実践的知識の活用が必要とされます。すでに学んでいる知識を実践的に活用できるように、教科書を事前に読んで知識の整理をしておいてください。

[ 授業計画 ]

1. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について①
2. 体力の概念と構成要素、体力測定の目的や対象について
3. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について②
4. 身体組成の測定方法について①
5. 身体組成の測定方法について②
6. 新体力テストと測定方法
7. 体力測定①
8. 測定結果の評価①
9. 測定結果の評価②
10. 測定結果からのトレーニング方法実践①
11. 測定結果からのトレーニング方法実践②
12. 体力測定②
13. 測定結果の評価③、発表、まとめ

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価	実習	
担当者	小田 慶喜		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(25%)、発表(25%)、個人スキル(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  健康運動実践指導者試験問題を中心に解説を実施します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業におけるレポートと試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名:不明 出版社:(財)健康・体力づくり事業財団</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	健康福祉論(ライフサイクルとQOLを含む)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  人々が心身ともに健やかな状態で、障がいをもつ・もたないにかかわらず、子どもから高齢者まで、誰もがいきいきと生きることのできる健康的な暮らしのあり方を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]  誰もが心身ともに健康で、いきいきと生きることのできる健康的な暮らしのあり方を考え、健康寿命の延伸と健康に関する生活の質(QOL)の向上をめざし、一人一人が自己の選択に基づいて健康を増進する。そして個人の活動を社会全体が支援していくことの健康日本21基本理念を理解し、子どもから高齢者に至るまで、健康を支えるための知識と実践力を身につける。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  復習合わせて2時間程度取り組むこと  予習:各回授業終了時に提示するテーマについて調べてくること  復習:講義内容を振り返り、まとめること</p> <p>[ 授業計画 ]  第1回 健康の概念  第2回 現代社会と健康  第3回 生活習慣病  第4回 運動疫学の基礎  第5回 健康づくり施策  第6回 健康づくり運動の基礎  第7回 成長(幼年・児童)期の健康づくり運動  第8回 青年期の健康づくり運動  第9回 中高年期の健康づくり運動  第10回 健康づくり運動の実際  第11回 運動と生体リズム・運動とメンタルヘルス  第12回 運動習慣の形成・障害者と運動・スポーツ  第13回 まとめ(健康科学の概説)</p>			

科目名	健康福祉論(ライフサイクルとQOLを含む)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ] 各回課題テストおよびレポート(65%)、試験(35%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 後日添削して返却します</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポートと試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:レポートと試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポートと試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポートと試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 特にありません</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	公衆衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康	講義	
担当者	木村 大輔		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

公衆衛生学は、人の健康の保持・増進を考える学問である。各種統計を理解し、社会環境と健康問題、国および地方公共団体により行われている施策、WHO等の国際機関の活動について学ぶ。

[ 授業概要 ]

公衆衛生とは、地域社会の組織的努力によって人間集団の健康保持・増進のための施策が展開されるものである。様々な施策を推進する上での基盤となるのが統計であり、公衆衛生学では、健康・疾病・行動に関する統計の概念を理解する必要がある。さらに、現行の公衆衛生活動ならびに生活環境により引き起こされる健康障害について学び、栄養士としての活動の基盤を形成する。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

授業内容を復習して十分に理解し(特に教科書のデータについて)、日常の報道(新聞・TVなど)から、関連する最新の話題も常に注目すること(計2時間程度)。

[ 授業計画 ]

- 1.公衆衛生の基本・予防医学
- 2.人口統計
- 3.母子保健・学校保健・障害者保健・歯科保健
- 4.生活習慣の現状
- 5.地域保健・高齢者保健・精神保健
- 6.前半のまとめ
- 7.保険と医療と福祉の連携
- 8.環境と健康
- 9.感染症・難病
- 10.疫学概念・疫学研究・スクリーニング
- 11.疫学研究における情報の活用・倫理
- 12.保健統計の基礎
- 13.後半のまとめ

科目名	公衆衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康	講義	
担当者	木村 大輔		

[ 成績評価方法 ]  
試験を実施する(100%)。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
試験後解答の解説を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  
成績評価方法:試験  
授業を通じて

学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  
成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  
成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  
成績評価方法:試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:試験

[ 教科書(ISBN) ]  
国民衛生の動向 2023/2024  
著者名:厚生労働統計協会  
出版社:財団法人 厚生統計協会

[ 参考書(ISBN) ]  
なし

科目名	公衆衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康	講義	
担当者	木村 大輔		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

公衆衛生学は、人の健康の保持・増進を考える学問である。各種統計を理解し、社会環境と健康問題、国および地方公共団体により行われている施策、WHO等の国際機関の活動について学ぶ。

[ 授業概要 ]

公衆衛生とは、地域社会の組織的努力によって人間集団の健康保持・増進のための施策が展開されるものである。様々な施策を推進する上での基盤となるのが統計であり、公衆衛生学では、健康・疾病・行動に関する統計の概念を理解する必要がある。さらに、現行の公衆衛生活動ならびに生活環境により引き起こされる健康障害について学び、栄養士としての活動の基盤を形成する。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

授業内容を復習して十分に理解し(特に教科書のデータについて)、日常の報道(新聞・TVなど)から、関連する最新の話題も常に注目すること(計2時間程度)。

[ 授業計画 ]

- 1.公衆衛生の基本・予防医学
- 2.人口統計
- 3.母子保健・学校保健・障害者保健・歯科保健
- 4.生活習慣の現状
- 5.地域保健・高齢者保健・精神保健
- 6.前半のまとめ
- 7.保険と医療と福祉の連携
- 8.環境と健康
- 9.感染症・難病
- 10.疫学概念・疫学研究・スクリーニング
- 11.疫学研究における情報の活用・倫理
- 12.保健統計の基礎
- 13.後半のまとめ

科目名	公衆衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康	講義	
担当者	木村 大輔		

[ 成績評価方法 ]  
試験を実施する(100%)。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
試験後解答の解説を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  
成績評価方法:試験  
授業を通じて

学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  
成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  
成績評価方法:試験

学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  
成績評価方法:試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:試験

[ 教科書(ISBN) ]  
国民衛生の動向 2023/2024  
著者名:厚生労働統計協会  
出版社:財団法人 厚生統計協会

[ 参考書(ISBN) ]  
なし

科目名	公衆栄養学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松田 依果		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>公衆栄養学が社会に果たす役割を理解できるようになる。  公衆栄養活動の理念を理解できるようになる。  科学的根拠に基づく公衆栄養活動の重要性が理解できるようになる。  わが国および諸外国において実施されている公衆栄養活動に共通する展開の手法を理解できるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラム(計画・実施・モニタリング・評価・フィードバック)をマネジメントするための理論を学習します。さらに、わが国及び諸外国においてどのような健康・栄養問題が存在し、その課題を解決するために展開されている栄養政策について学習します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>この科目は、社会と密接な関係がある内容を学習します。日ごろから、報道等に接し、健康・栄養問題にかかわる社会情勢を積極的に見聞しておいてください。  各回、予習復習合わせて4時間程度の学修をしましょう。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆栄養学の概念(公衆栄養学が目指すもの、公衆栄養活動)</li> <li>2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題(少子高齢化問題を含む)</li> <li>3. わが国の食事・食生活・食環境の変化</li> <li>4. わが国の栄養政策①(公衆栄養活動の歴史、法規、管理栄養士・栄養士制度、日本人の食事摂取基準)</li> <li>5. わが国の栄養政策②(国民健康・栄養調査、特別用途食品・保健機能食品プログラム、栄養成分表示プログラム)</li> <li>6. わが国の栄養政策③(健康づくりのためのツール、健康日本21、特定健診・特定保健指導他)</li> <li>7. 栄養疫学①(疫学の概要)</li> <li>8. 栄養疫学②(食事調査方法の種類と特徴)</li> <li>9. 公衆栄養マネジメント①(理論と代表的モデル)</li> <li>10. 公衆栄養マネジメント②(PDCA)</li> <li>11. 諸外国における健康・栄養問題の現状・課題と対策</li> <li>12. 食料安全保障と公衆栄養の役割</li> <li>13. これからの公衆栄養学の展望と課題</li> <li>14. 試験</li> </ol>			

科目名	公衆栄養学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松田 依果		
<p>[ 成績評価方法 ]  ①毎回の小課題レポート(60%)、②指定する課題についての試験(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  フィードバックは、①については採点後の授業時に全体的なコメントを、②については採点後に採点結果の全体的なコメントを掲示することによって行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:毎回実施する小課題への取組および全授業終了後に実施する試験で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法:毎回実施する小課題への取組および全授業終了後に実施する試験で評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:毎回実施する小課題への取組で評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」改訂最新版 著者名:吉池信男他編 出版社:南江堂(978-4-524-22527-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  日本人の食事摂取基準(2020年版) 著者名:厚生労働省 出版社:第一出版(978-4-8041-1408-8)</p>			

科目名	公衆栄養学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	林 宏一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

公衆栄養学が社会に果たす役割を理解できるようになる。  
公衆栄養活動の理念を理解できるようになる。  
科学的根拠に基づく公衆栄養活動の重要性が理解できるようになる。  
わが国および諸外国において実施されている公衆栄養活動に共通する展開の手法を理解できるようになる。

[授業概要]

保健所等での栄養指導経験を有した教員より、集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラム(計画・実施・モニタリング・評価・フィードバック)をマネジメントするための理論を学習します。さらに、わが国及び諸外国においてどのような健康・栄養問題が存在し、その課題を解決するために展開されている栄養政策について学習します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

この科目は、社会と密接な関係がある内容を学習します。日ごろから、報道等に接し、健康・栄養問題にかかわる社会情勢を積極的に見聞しておいてください。  
各回、予習復習合わせて4時間程度の学修をしましょう。

[授業計画]

1. 公衆栄養学の概念(公衆栄養学が目指すもの、公衆栄養活動)
2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題(少子高齢化問題を含む)
3. わが国の食事・食生活・食環境の変化
4. わが国の栄養政策①(公衆栄養活動の歴史、法規、管理栄養士・栄養士制度、日本人の食事摂取基準)
5. わが国の栄養政策②(国民健康・栄養調査、特別用途食品・保健機能食品プログラム、栄養成分表示プログラム)
6. わが国の栄養政策③(健康づくりのためのツール、健康日本21、特定健診・特定保健指導他)
7. 栄養疫学①(疫学の概要)
8. 栄養疫学②(食事調査方法の種類と特徴)
9. 公衆栄養マネジメント①(理論と代表的モデル)
10. 公衆栄養マネジメント②(PDCA)
11. 諸外国における健康・栄養問題の現状・課題と対策
12. 食料安全保障と公衆栄養の役割
13. これからの公衆栄養学の展望と課題
14. 試験

科目名	公衆栄養学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	林 宏一		
<p>[ 成績評価方法 ]  ①毎回の小課題レポート(60%)、②指定する課題についての試験(40%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  フィードバックは、①については採点後の授業時に全体的なコメントを、②については採点後に採点結果の全体的なコメントを掲示することによって行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:毎回実施する小課題への取組および全授業終了後に実施する試験で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法:毎回実施する小課題への取組および全授業終了後に実施する試験で評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:毎回実施する小課題への取組で評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」改訂最新版 著者名:吉池信男他編 出版社:南江堂(978-4-524-22527-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  日本人の食事摂取基準(2020年版) 著者名:厚生労働省 出版社:第一出版(978-4-8041-1408-8)</p>			



科目名	公衆栄養学実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	糸井 亜弥			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ]  対象者の健康への知識や意識の向上および予防的な生活習慣に向けた行動変容を目指し、集団に対してプレゼンテーションツールを用いて健康教育が行うことができる。</p> <p>[ 授業概要 ]  人々の生活の質の向上を目指すには、地域住民や特定集団を対象とした栄養上の問題点を把握し、改善方法について考え、プランニングすることが必要である。対象となる地域住民や特定集団の食生活に関する健康問題を解決するため、人々が自らの健康をコントロールし、改善できるように方策を考え、実施・展開する方法を学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  事前にプレゼンテーションツールのエクセル(図表作成)およびパワーポイントの基本的操作を習得しておく。課題に沿って期限までにグループワークによるスライドと発表原稿を作成し、提出する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント①</li> <li>3. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント②</li> <li>4. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント③</li> <li>5. 疾病予防を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション</li> <li>6. 食事調査と栄養素摂取量および食品群別摂取量の算出 食に関わる因子についての質問紙の作成および調査</li> <li>7. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析①</li> <li>8. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析②</li> <li>9. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析③</li> <li>10. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析についてのプレゼンテーション</li> <li>11. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント①</li> <li>12. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント②</li> <li>13. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション</li> </ol>				

科目名	公衆栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表内容(50%)、スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シートの提出状況(30%)、授業態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] プレゼンテーションのスライドと原稿は発表練習時にコメントする。 発表内容を学生同士で評価してもらう。その結果を集計して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	公衆栄養学実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	糸井 亜弥			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ]  対象者の健康への知識や意識の向上および予防的な生活習慣に向けた行動変容を目指し、集団に対してプレゼンテーションツールを用いて健康教育が行うことができる。</p> <p>[ 授業概要 ]  人々の生活の質の向上を目指すには、地域住民や特定集団を対象とした栄養上の問題点を把握し、改善方法について考え、プランニングすることが必要である。対象となる地域住民や特定集団の食生活に関する健康問題を解決するため、人々が自らの健康をコントロールし、改善できるように方策を考え、実施・展開する方法を学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  事前にプレゼンテーションツールのエクセル(図表作成)およびパワーポイントの基本的操作を習得しておく。課題に沿って期限までにグループワークによるスライドと発表原稿を作成し、提出する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント①</li> <li>3. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント②</li> <li>4. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント③</li> <li>5. 疾病予防を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション</li> <li>6. 食事調査と栄養素摂取量および食品群別摂取量の算出 食に関わる因子についての質問紙の作成および調査</li> <li>7. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析①</li> <li>8. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析②</li> <li>9. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析③</li> <li>10. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析についてのプレゼンテーション</li> <li>11. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント①</li> <li>12. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント②</li> <li>13. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション</li> </ol>				

科目名	公衆栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表内容(50%)、スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シートの提出状況(30%)、授業態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] プレゼンテーションのスライドと原稿は発表練習時にコメントする。 発表内容を学生同士で評価してもらう。その結果を集計して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	コーチング論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

中学・高等学校教諭免許状(保健体育)を取得するために必要な、コーチングの目的や行動、それにまつわる哲学と倫理、スタイルについて専門的知識を理解し、適切に実践できるようにする。  
グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。

[ 授業概要 ]

コーチが行う思考・行動およびそこで必要とされる能力を提示し、これからのスポーツ界を担う優れたコーチを養成するための基本内容を解説する。そして、コーチングの目的や行動、スタイル等について、その理論や実際及び研究から種々のスポーツ種目別のコーチングを実践できようとし、自らのコーチ像について考察する。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。

[ 授業計画 ]

1. コーチングにおける目的と行動
2. コーチング哲学と倫理
3. コーチングスタイル
4. プロフェッショナルコーチとクラフトマンコーチによるコーチング
5. コーチングにおける指導行動とトレーニングサイクル
6. コーチングにおける育成行動
7. 女性・男性別コーチング、個人種目・集団種目別コーチング
8. ジュニアコーチング・ユースコーチング・ミドルレンジコーチング
9. トップアスリートコーチング・チームビルディング
10. シニアコーチング・ハンディキャップコーチング
11. スポーツ種目別コーチング① バレーボール・バスケットボール・テニス・バドミントン・卓球
12. スポーツ種目別コーチング② 陸上競技・競泳競技・体操競技・ダンス・新体操
13. スポーツ種目別コーチング③ サッカー・ラグビー・ハンドボール・柔道・剣道

科目名	コーチング論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ]  プレゼンテーション(60%)とレポート(40%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポート課題については、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	国際健康栄養論		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	木村 大輔、松本 衣代			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ]  国際的知見を入手し、各国の健康事情について、歴史・文化・地理的環境・食生活を通して生活様式を分析・理解し、国境を越えたグローバルな視点から物事を捉え考える力を習得する。</p> <p>[ 授業概要 ]  バラエティに富んだ各国の歴史・文化・地理的環境に触れながら、疾病や健康における問題点や日本との相違点について比較検討する。また、地域特有の食生活や医療・健康法についても学び、健康促進について考える。また担当教員が訪れた国での体験談について、スライド等を用いて紹介することで、それらの国々を身近に感じてもらう。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  授業内容に関して情報(新聞・TV・インターネットなど)検索して復習し、理解を深めておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際健康栄養論とは (木村 大輔・松本 衣代)</li> <li>2. 食生活と健康① ヨーロッパ、アメリカ、西太平洋地域の食と健康 (松本 衣代)</li> <li>3. 食生活と健康② アフリカ、東南アジア、東地中海地域の食と健康 (松本 衣代)</li> <li>4. 食生活と健康③ NCDs(特別学外講師) (松本 衣代)</li> <li>5. 食生活と健康④ Double Burden of Malnutrition (松本 衣代)</li> <li>6. 食生活と健康⑤ 地球環境と食の未来 (松本 衣代)</li> <li>7. まとめ・ディスカッション① (松本 衣代)</li> <li>8. 感染症① (木村 大輔)</li> <li>9. 感染症② (木村 大輔)</li> <li>10. 生活環境(上下水・大気・地理的環境) (木村 大輔)</li> <li>11. 食生活と疾病① (木村 大輔)</li> <li>12. 食生活と疾病② (木村 大輔)</li> <li>13. まとめ・ディスカッション② (木村 大輔)</li> </ol> <p>順序は変更になる場合があります。</p>				

科目名	国際健康栄養論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	木村 大輔、松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題(60%)、試験(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題について添削して返却・議論する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:試験 課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験 課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし(資料を配布します)</p>			

P11101130 [ WHI2-015 ]

[2栄]\*後期金5



科目名	国際健康福祉プログラム I	前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program	演習	
担当者	松本 衣代、木村 あい、野口 和美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  インドネシア・バリ島での大学病院や地域保健所等での研修や実習を通して、世界の健康・医療の問題に目を向け、運動、栄養、社会福祉と健康との関わりについて世界の現状を知り、国際感覚を身に付けて世界の舞台で活躍できる栄養や福祉の人材育成に資するきっかけを提供する。</p> <p>[ 授業概要 ]  インドネシア共和国立バリ州(バリ島)にあるインドネシア国立ウダヤナ大学と神戸女子大学の提携によって企画された健康福祉プログラムで、急激な発展途上にありdouble burden of nutrition に直面するインドネシア・バリ島において、過剰と不足と言う健康問題の二極化を地域の保健所、病院、各福祉施設等の見学を通して実際に触れながら理解を深める。また、ウダヤナ大学医学部在学学生との交流を通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと、相手国の歴史、社会情勢に関心を持ち自ら学習するために本などを読む。英会話の勉強を日頃よりしておく。  各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(健康スポーツ栄養学科・松本衣代)</li> <li>2. インドネシアにおける共同研究と健康・栄養調査(健康スポーツ栄養学科・松本衣代)</li> <li>3. 国際協働について(神戸国際教養学科・野口和美)</li> <li>4. インドネシアの福祉事情(社会福祉学科・木村あい)</li> <li>5. ウダヤナ大学における研修—インドネシア・バリ島の健康栄養問題講義(ウダヤナ大学医学部教員)</li> <li>6. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学① 公立病院(ウダヤナ大学医学部教員)</li> <li>7. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学② 大学附属病院(ウダヤナ大学医学部教員)</li> <li>8. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学③ 保健所(都市部・農村部)(ウダヤナ大学医学部教員)</li> <li>9. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学⑤介護老人施設等(ウダヤナ大学医学部教員)</li> <li>10. ウダヤナ大学における研修—東南アジアの生活習慣病について(ウダヤナ大学医学部教員)</li> <li>11. ウダヤナ大学における研修—ウダヤナ大学医学部学生とのディスカッション</li> <li>12. 総合討論・まとめ(修了式)(ウダヤナ大学医学部教員)</li> <li>13. 神戸女子大学での研修報告会(健康スポーツ栄養学科松本)</li> </ol>			

科目名	国際健康福祉プログラム I	前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program	演習	
担当者	松本 衣代、木村 あい、野口 和美		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(研修・活動報告書を含む)50%、プレゼンテーション(50%)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-3/国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: ルーブリック(相互評価)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: レポート、プレゼンテーション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: ルーブリック(相互評価)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 必要に応じて文献、プリント等配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 旅の指さし会話帳(2)インドネシアーインドネシア語(ここ以外のどこかへ) 著者名: 武部洋子 出版社: 情報センター出版局 (4795845034)</p>			

科目名	国際健康福祉プログラムⅡ	前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program	演習	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] ドイツのリハビリテーション病院での臨床栄養・健康福祉研修等の実習を通して、世界の健康・医療の問題に目を向け、運動、栄養、社会福祉と健康との関わりについて世界の現状を知り、国際感覚を身に付けて世界の舞台で活躍できる栄養や福祉の人材育成に資するきっかけを提供する。</p> <p>[ 授業概要 ] 世界的超高齢化社会を迎えた21世紀において、肥満、糖尿病等の生活習慣病の問題はドイツをはじめとしてEU諸国においても深刻である。その対応策として治療に食事療法・運動療法を効果的に取り入れ、且つ、健康・医療を社会福祉理念に基づき運営されるドイツのリハビリテーション病院(ホーエン・フロイデンシュタット病院他)における研修を行い、実学としての海外における臨床栄養、医療・社会福祉の現場を学び、また、現地の医療スタッフや患者さんたちとの交流を通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと、相手国の歴史、社会情勢に関心を持ち自ら学習するために本などを読む。又、英会話の勉強を日頃よりしておく。 各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ] 1. オリエンテーション・ドイツの食文化について (松本) 2. 生活習慣病を中心とした臨床栄養概論 (松本) 3. ドイツの健康問題について①課題抽出(グループワーク) (松本) 4. ドイツの健康問題について②発表(グループワーク) (松本) 5. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修① 糖尿病・肥満の栄養療法について 6. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修② 高血圧症の栄養療法について 7. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修③ 水浴療法について 8. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修④ 森林療法について 9. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修⑤ 運動療法について(ジム) 10. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修⑥ 運動療法について(プール) 11. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修⑦ ドイツでの慢性疾患治療について 12. 総合討論・まとめ(修了式) * 5-12の担当はホーエン・フロイデンシュタット病院スタッフと松本とする 13. 研修報告会</p> <p>なお、履修登録は説明会開催後に行います。履修希望者は必ず説明会に参加してください。 説明会の日時は、掲示板で告知します。</p>			

科目名	国際健康福祉プログラムⅡ	前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program	演習	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ]  実習レポート(報告書)50%、報告会でのプレゼンテーション(50%)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは、評価後返却します。プレゼンテーションは、ルブリックを基に評価します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート・プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  必要に応じて文献等プリント配布</p>			

科目名	コメディカル領域の化学演習		後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	吉川 豊			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ]  食品・栄養関連の問題に科学的に対処できるように有機化学の基礎知識、臨床現場における必要な統計学、化学分析手法を習得することを目的とする。</p> <p>[ 授業概要 ]  有機化学は栄養士を目指す上で避けては通れない内容でありその知識は、食品学、栄養学、生物化学などと関連し、それらを学ぶ上で必要不可欠である。また、臨床現場で行われている検査なども全て化学反応である。そこで、本授業では、基礎的な内容の有機化合物の性質について解説する。さらに、臨床現場で用いられている化学反応の原理や化学反応で得られた数値を理解できるように解説する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。予習復習合わせて2時間程度実施すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 有機化学の基礎①</li> <li>3. 有機化学の基礎②</li> <li>4. 有機化学の基礎③</li> <li>5. 2. ～4. の課題演習</li> <li>6. コメディカルの化学①－検査値の読み方</li> <li>7. コメディカルの化学②－装置・器具の扱い方、統計的手法の考え方</li> <li>8. コメディカルの化学③－臨床サンプルの扱い方</li> <li>9. コメディカルの化学④－精度管理の方法</li> <li>10. 2. ～7. の課題演習</li> <li>11. コメディカルの化学⑤－酵素分析・イムノアッセイの原理</li> <li>12. コメディカルの化学⑥－ドライケミストリー・センサーの原理</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	コメディカル領域の化学演習	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] manabaから解答例を公表</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 臨床分析学のサブノート 著者名: 安井裕之・吉川豊 著 出版社: 京都廣川書店 (978-4-909197-33-7)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11100930 [ WS1-003 ]

[ 転学科生・編入生用 ] \*後期集中

科目名	コメディカル領域の科学演習		後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	吉川 豊、木村 大輔			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ]  コメディカルの現場における問題に科学的に対処できるように、臨床サンプルの基本、臨床現場における必要な統計学、バイオハザード、化学分析手法を習得することを目的とする。</p> <p>[ 授業概要 ]  臨床現場で行われている内容は、検査なども含めすべて科学的知識に基づいた話で説明する事ができる。そこで、本授業では、臨床現場で用いられている化学反応や生物学的原理を理解できるように解説する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  毎回講義冒頭に前回の復習問題をする予定です。復習をしてから講義に臨むこと。  必要に応じて高校の教科書・参考書も利用し、十分に理解すること。  理解できない部分はオフィスアワーを有効利用すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(木村・吉川)</li> <li>2. 臨床サンプルの扱い方①(木村)</li> <li>3. 臨床サンプルの扱い方②(木村)</li> <li>4. 無菌操作・滅菌処理(バイオハザードについて)(木村)</li> <li>5. 遺伝子解析①(木村)</li> <li>6. 遺伝子解析②(木村)</li> <li>7. 2～6のまとめ(木村)</li> <li>8. 検査値の読み方(吉川)</li> <li>9. 実験装置・器具の扱い方、統計的手法の考え方(吉川)</li> <li>10. 精度管理の方法(吉川)</li> <li>11. 酵素分析・免疫アッセイの原理(吉川)</li> <li>12. ドライケミストリー・センサーの原理(吉川)</li> <li>13. 8～13のまとめ(吉川)</li> </ol>				

科目名	コメディカル領域の科学演習	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊、木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 解答例を公表</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 臨床分析学のサブノート 著者名: 安井裕之、吉川豊 出版社: 京都廣川書店</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	コメディカル領域の生物学演習		後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	木村 大輔			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>生体は、内外の環境変化から如何にして個を保つのか、恒常性について複雑な維持機構について理解する。さらに、生体および生物の多様性、ならびに、微生物と我々の生活の関わりについて理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>生体を常に一定の状態に維持するためのしくみはどのようなものであるのか。さらには、地球上には多種多様な生物が存在し、それぞれが独特の行動様式で生活を営んでいるが、ヒトを含めた生物が我々の社会にとってどういう意味を持ち、どういう位置づけなのかも含め、多角的に生物学を理解する。高校生物の内容もおりまぜながら、大学人の教養としての生物学を学び、コメディカル(栄養士など)の観点から学べるように講義を進める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>復習をして講義に臨むこと。必要に応じて高校の教科書・参考書も利用し、十分に理解すること。理解できない部分はオフィスアワーを有効利用すること。(計2時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 器官①</li> <li>2. 器官②</li> <li>3. 恒常性(ホルモン)①</li> <li>4. 恒常性(ホルモン)②</li> <li>5. 恒常性(神経伝達)①</li> <li>6. 恒常性(神経伝達)②</li> <li>7. 課題演習</li> <li>8. グループワーク・プレゼンテーション</li> <li>9. 免疫①</li> <li>10. 食物アレルギー</li> <li>12. 課題演習</li> <li>13. グループワーク・プレゼンテーション</li> </ol>				

科目名	コメディカル領域の生物学演習	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] 講義中に行う試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験後解答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、次の分野において活躍が期待できること。小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画力・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 医療・看護系のための生物学(改訂版) 著者名: 田村 隆明 著 出版社: 裳華房 (978-4-7853-5233-2)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11100910 [ WB1-004 ]

[ 転学科生・編入生用 ] \*後期集中

科目名	災害時の食事・栄養管理実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	松浦 紀美恵			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  地震・風水害等の災害時の非常時に栄養士としての役割を遂行できる知識と技術を身に付けるようになる。  家族や近所の人、自らの生命を守るために咄嗟の判断力を養い、危険を回避できる知識と技術を身に付けるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]  近年、日本で発生している災害についての基礎知識を持ち、過去に発生した災害時の食事状況を把握して、ライフラインの停止時、ライフラインの復旧後など段階別での食品の仕分けや調理方法を考え実施する。また、防災センターの見学や実際に街を歩き、避難所までの避難経路に危険がないかなどを確認し、グループワークを行い知識と判断力を取得する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。  自然災害に関連する新聞や資料を読み、良く理解をしておいてください。  コンビニやスーパーの食品売り場で保存性が高く、調理が簡単にできる食品を探しておくなど、災害時に関する予習を行っておいてください。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. オリエンテーション  2. 災害についての基本的知識①  3. 災害についての基本的知識②  4. 災害についての基本的知識③  5. 防災センター見学  6. 災害時の「食」「生活」の対処方法①  7. 災害時の「食」「生活」の対処方法②  8. 災害時の「食」「生活」の対処方法③  9. 災害時の「食」「生活」の対処方法④  10. 災害時の「食」「生活」の対処方法⑤  11. 災害時の「支援」について①  12. 災害時の「支援」について②  13. まとめ  ※ 順序が入れ替わる場合があります。</p>				

科目名	災害時の食事・栄養管理実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート・献立作成(40%)、発表・実技(40%)、授業態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート・献立は、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技、授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技、授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技、授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート・献立作成、発表・実技、授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	社会福祉援助技術		前期	1 単位
サブタイトル	社会福祉援助の理解と実践		演習	
担当者	曾田 里美			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ] 社会福祉援助に係る知識、技術を実践的に修得する。また、それらの技術が対人関係において活用できるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ] 演習を通して、自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学びます。また、具体的な社会福祉援助事例の検討を通して、援助に係る価値、知識、技術を理解します。これらを通して社会福祉援助の特徴を修得していきます。 授業では、担当教員の児童福祉施設での実践経験やそこで得た知見を伝え、社会福祉援助の実際を感じ取る授業を展開します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。 前回の授業内容を復習し理解しておくとともに、日頃から授業に関係するニュース等に関心をもつようにする。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 自己理解</li> <li>3. 他者理解</li> <li>4. 自己理解と他者理解の関係</li> <li>5. 人権</li> <li>6. 差別・偏見</li> <li>7. 社会的排除と社会的包摂. 自立支援</li> <li>9. クライエントの利益の最優先</li> <li>10. 個別化</li> <li>11. 受容と非審判的態度</li> <li>12. 自己決定</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	社会福祉援助技術	前期	1 単位
サブタイトル	社会福祉援助の理解と実践	演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業の参加・態度(20点)と毎回の授業の振り返り(30点)レポート試験(50点)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  毎回の授業の振り返りはコメントをつけて返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法:授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業でのディスカッション、振り返り、レポート試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  使用しない。プリントを配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  社会や環境と健康との関係、社会福祉の基本的知識(価値・知識・技術)をふまえて、これからの栄養士に求められる役割について説明できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  栄養士養成カリキュラムの「社会生活と健康」として、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的を出発点に、社会福祉の歴史、思想・哲学・理論、対象、専門的援助方法・技術、法律・制度などの基本的知識を理解するとともに、公的扶助、高齢者福祉、児童家庭福祉、障害者福祉、地域福祉の各分野における社会福祉のしくみと栄養士の役割について学修する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回についての予習・復習(4時間程度)  【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。  【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活を支える「食」と「社会福祉」(第1章)</li> <li>2. 社会福祉の意味と対象①:歴史(第2章)</li> <li>3. 社会福祉の意味と対象②:思想・哲学・理論(第2章)</li> <li>4. 社会福祉の意味と対象③:対象とニーズ(第2章)</li> <li>5. 社会福祉における援助の方法(第10章)</li> <li>6. 私たちの生活と社会保障(第3章)</li> <li>7. 社会福祉実践の場と専門職(第11・12章)</li> <li>8. 公的扶助(第4章)</li> <li>9. 高齢者福祉(第5章)</li> <li>10. 児童家庭福祉(第6章)</li> <li>11. 障害者福祉(第7章)</li> <li>12. 地域福祉(第8章)</li> <li>13. 社会福祉の分野で働く栄養士(第13章)</li> </ol>			

科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]  学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]  教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 自己理解/ 自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法: コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 多様性理解/ 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法: コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉(六訂) 著者名: 岩松珠美・三谷嘉明編 出版社: みらい (978-4-86015-505-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			



科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  社会や環境と健康との関係、社会福祉の基本的知識(価値・知識・技術)をふまえて、これからの栄養士に求められる役割について説明できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  栄養士養成カリキュラムの「社会生活と健康」として、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的を出発点に、社会福祉の歴史、思想・哲学・理論、対象、専門的援助方法・技術、法律・制度などの基本的知識を理解するとともに、公的扶助、高齢者福祉、児童家庭福祉、障害者福祉、地域福祉の各分野における社会福祉のしくみと栄養士の役割について学修する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回についての予習・復習(4時間程度)  【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。  【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活を支える「食」と「社会福祉」(第1章)</li> <li>2. 社会福祉の意味と対象①:歴史(第2章)</li> <li>3. 社会福祉の意味と対象②:思想・哲学・理論(第2章)</li> <li>4. 社会福祉の意味と対象③:対象とニーズ(第2章)</li> <li>5. 社会福祉における援助の方法(第10章)</li> <li>6. 私たちの生活と社会保障(第3章)</li> <li>7. 社会福祉実践の場と専門職(第11・12章)</li> <li>8. 公的扶助(第4章)</li> <li>9. 高齢者福祉(第5章)</li> <li>10. 児童家庭福祉(第6章)</li> <li>11. 障害者福祉(第7章)</li> <li>12. 地域福祉(第8章)</li> <li>13. 社会福祉の分野で働く栄養士(第13章)</li> </ol>			

科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[ 成績評価方法 ]  コミュニケーションカード(30%)、レポート(20%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉(六訂) 著者名:岩松珠美・三谷嘉明編 出版社:みらい (978-4-86015-505-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	障害者とスポーツ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直、植戸 貴子、賀屋 光晴、佐々木 勝一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>障害を抱えた人にとって、ともすると弱くなりがちな筋肉を鍛えて残存機能を高めることは、二次的疾患等を考えると、ときには生命にもかかわる重大事である。現代社会における障害の概念、実態、障害者福祉の社会的背景、理念、目的、意義について理解し、その中で障害者に必要とされる身体活動やスポーツのあり方、スポーツの現状について考えられるようにする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>4人の担当でオムニバス形式で展開し、一部、学外特別講師による授業を行う。健康スポーツ栄養学科の教員により、障害者の運動時の生理学的な身体機能とスポーツの在り方と現状について教授し、課題についてのさまざまな解を得る姿勢を高める。また、社会福祉学科の教員により、現代社会における障害の概念、実態、障害者福祉の社会的背景、理念、目的、意義についての講義を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるように授業内容を整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>担当者と講義回数 奥野(1~3)、賀屋(4~7)、植戸(8~10)、佐々木(11~13)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンスと障害者アスリート(ミラクルボディ) (奥野)</li> <li>2. パラリンピック記録(WHO I AM)①、障害者の体力と運動能力の獲得(奥野)</li> <li>3. パラリンピック記録(WHO I AM)②、障害者の身体的調節と適応(奥野)</li> <li>4. 障害者の競技種目1(賀屋)</li> <li>5. 障害者の競技種目2(賀屋)</li> <li>6. 障害者の競技種目3(賀屋)</li> <li>7. 障害者の競技種目4(賀屋)</li> <li>8. 障害って何だろう? 誰の問題?(植戸)</li> <li>9. 障害者福祉の歴史と理念(植戸)</li> <li>10. 障害者のニーズとスポーツにおける支援(植戸)</li> <li>11. 福祉施設・団体の役割と障害者スポーツ (視覚障害者施設の訪問と指導者による障害者の特徴や問題点、課題の聴取)(佐々木)</li> <li>12. 障害者がスポーツを行うために必要な社会資源についての理解とスポーツへの参加支援方法 (障害者スポーツ協会へのインタビュー等による情報収集と分析)(佐々木)</li> <li>13. 障害者のスポーツに参加と生活変化 (講師の経験、各種文献の検討を通して意義の整理をはかる)(佐々木)</li> </ol>			

科目名	障害者とスポーツ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直、植戸 貴子、賀屋 光晴、佐々木 勝一		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題やレポート(25%×4名)等により評価する(4人の担当者がそれぞれ25点満点のレポート等を出し、総合点で評価する)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題やレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 必要に応じてプリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	生涯スポーツ科学(スポーツ心理学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>子どもから高齢者にわたる発育発達および健康維持を目的とする生涯スポーツに必要なとされる基本的動作や身体能力および運動がもたらす生理的効果について解説できるようにする。また、心理的、社会的効果についても理解を深め、ライフデザインに応用できるようにする。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>生涯にわたる発育・発達過程と基本的動作や運動能力、発達に影響する先天的・後天的要因および老化と体力の関係について理解する。また、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解し、運動がもたらす生理、心理、社会的な効果と関連づけながら、運動習慣の確立のための適切な動機づけについて理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年齢に応じた体力づくり(健康・体力の現状と課題)</li> <li>2. 発育発達に影響する要因(遺伝・環境・ライフサイクルと運動実践の有無等)</li> <li>3. 身体機能の発達(呼吸・循環器系、神経系、代謝)、体重の管理、応急処置</li> <li>4. 成長期における体力(筋力・持久的能力)、高齢者のスポーツ</li> <li>5. 1～4のまとめ、筋の動きとウォーキング</li> <li>6. 年齢に応じた体力と運動能力(基本的動作スキル)の発達、老化と運動</li> <li>7. 姿勢とバランス能力、障害者のアダプテッド・スポーツ</li> <li>8. 行動変容と運動習慣動機づけ(行動パターンと生活習慣病、動機づけの過程)、運動習慣の確立 (生理・心理・社会的効果と運動継続の促進方法)</li> <li>9. 5～8のまとめ、バランストレーニング、スポーツと心</li> <li>10. スポーツ心理学①(目標設定、自己決定感および自己効力感、ピークパフォーマンス)</li> <li>11. スポーツ心理学②(メンタルトレーニング、イメージトレーニング、リラクゼーショントレーニング)</li> <li>12. スポーツ心理学③(リーダーシップ、スポーツ集団の心理、競技の心理、精神力と自信)</li> <li>13. 9～12のまとめ、キラーストレスとマインドフルネス</li> </ol>			

科目名	生涯スポーツ科学(スポーツ心理学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ] 3回の試験(30%×3)、課題10%により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験については、後日学内システムmanabaを用いて解答を解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験と課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験と課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:試験と課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験と課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験と課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験と課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	食生活論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>『食』を核として食の営みを学ぶことを目的としている。  食生活を理解するためには、栄養学・食品学・食品衛生学などに関する幅広い自然科学的な知識を基礎として、食生活の歴史や食の文化、食環境、現代の食生活事情といった食に関する人文・社会科学側面から捉えることが必要である。我々の食生活について、現状と課題を20分程度で説明できようになることを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>本講義では、到達目標で述べたような講義内容に加え、各種の新聞が取り上げている食に関わる記事に対する感想や意見をレポートにまとめたり、食文化についてグループ討議した内容を発表するなどの機会を設ける。  この講義を通して、人間が生きていく上で最も重要とされる『食』について、豊かな発想で考えてみて欲しい。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業の復習を心がけること。  食に関する新聞記事などに関心を持つこと。  (各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食生活の概念、食生活と健康</li> <li>2. 食文化と食育</li> <li>3. 食の安全と食生活の展望</li> <li>4. 日本冷凍食品協会による冷凍食品に関する講義【外部講師】</li> <li>5. グループ討議① 食生活に関する課題の提議</li> <li>6. グループ討議② 課題に関する科学的根拠の検索</li> <li>7. グループ討議③ 課題に関する他者からの意見聞き取り</li> <li>8. グループ討議④ 発表会のための資料作成</li> <li>9. 発表会①</li> <li>10. 発表会②</li> <li>11. 発表会③</li> <li>12. 発表会④</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	食生活論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度15%, グループ討議及び発表評価50%, レポート35%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・グループ討議及び発表は講評を行う  ・レポートは基本的にmanaba への提出とし、総評する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: レポートによる評価</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法: 授業態度、グループ討議による評価</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/ 国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法: 授業態度、発表による評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: グループ討議</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 表現力/ 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: レポート、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			



科目名	食品衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理	講義	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>人間を取り巻く諸条件は全て健康にかかわりを持つが、特に食品は何にも増して生命と健康の維持に直接かかわりを持つことから、食品を本来の姿に保ち、飲食物による危害を防止し健康の維持増進を図るための知識・技術を習得し、加えて自然科学を超えた社会道徳的概念を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>食品の生育・栽培、生産・製造から加工・調理を経て、最終的にヒトに摂取されるまでの間のあらゆる段階において、その安全性、健全性および変質防止を確保する手段について、その公衆衛生学的重要性の認識と科学的根拠に基づく食品の衛生管理法について学ぶ。即ち、微生物学、公衆衛生学、疫学、感染症学、食品加工学、生化学など多くの基礎科学を基盤として成り立つ食品衛生学を人の健康を守るための実学として学んでゆく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業内容を復習して十分に理解し、次回の授業の予習をしておくこと(計4時間程度)。日頃から授業に係るニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品衛生とは:食品衛生の目的、食品衛生管理の概要</li> <li>2. 消毒と殺菌</li> <li>3. 食品の変質とその防止</li> <li>4. 食中毒(1)発生状況</li> <li>5. 食中毒(2)細菌性食中毒</li> <li>6. 食中毒(3)細菌性食中毒・ウイルス性食中毒他</li> <li>7. 食中毒(4)自然毒</li> <li>8. 前半のまとめ・グループディスカッション</li> <li>9. 腐敗・変敗・酸敗</li> <li>10. 食品の安全性:食品添加物、輸入食品、遺伝子組み換え食品など</li> <li>11. 食品の表示・容器包装</li> <li>12. 食品衛生行政と関係法規</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	食品衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理	講義	
担当者	木村 大輔		

[ 成績評価方法 ]  
筆記試験(100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
試験終了後、問題の解説を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  
成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  
成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。  
成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  
成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  
成績評価方法: 試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法: 授業を通じて

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法: 試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法: 試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  
成績評価方法: 試験

[ 教科書(ISBN) ]

資料配布  
新訂 食品衛生学 著者名: 伊藤武  
古賀信幸  
金井美恵子 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0646-1)

[ 参考書(ISBN) ]

食べ物と健康・食品と衛生  
新食品衛生学要説  
著者名: 廣末トシ子  
安達修一 出版社: 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70812-5 C3047)

科目名	食品衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理	講義	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>人間を取り巻く諸条件は全て健康にかかわりを持つが、特に食品は何にも増して生命と健康の維持に直接かかわりを持つことから、食品を本来の姿に保ち、飲食物による危害を防止し健康の維持増進を図るための知識・技術を習得し、加えて自然科学を超えた社会道徳的概念を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>食品の生育・栽培、生産・製造から加工・調理を経て、最終的にヒトに摂取されるまでの間のあらゆる段階において、その安全性、健全性および変質防止を確保する手段について、その公衆衛生学的重要性の認識と科学的根拠に基づく食品の衛生管理法について学ぶ。即ち、微生物学、公衆衛生学、疫学、感染症学、食品加工学、生化学など多くの基礎科学を基盤として成り立つ食品衛生学を人の健康を守るための実学として学んでゆく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業内容を復習して十分に理解し、次回の授業の予習をしておくこと(計4時間程度)。日頃から授業に係るニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品衛生とは:食品衛生の目的、食品衛生管理の概要</li> <li>2. 消毒と殺菌</li> <li>3. 食品の変質とその防止</li> <li>4. 食中毒(1)発生状況</li> <li>5. 食中毒(2)細菌性食中毒</li> <li>6. 食中毒(3)細菌性食中毒・ウイルス性食中毒他</li> <li>7. 食中毒(4)自然毒</li> <li>8. 前半のまとめ・グループディスカッション</li> <li>9. 腐敗・変敗・酸敗</li> <li>10. 食品の安全性:食品添加物、輸入食品、遺伝子組み換え食品など</li> <li>11. 食品の表示・容器包装</li> <li>12. 食品衛生行政と関係法規</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	食品衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理	講義	
担当者	木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後、問題の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業を通じて</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 資料配布 新訂 食品衛生学 著者名:伊藤武 古賀信幸 金井美恵子 出版社:建帛社 (978-4-7679-0646-1)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 食べ物と健康・食品と衛生 新食品衛生学要説 著者名:廣末トシ子 安達修一 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70812-5 C3047)</p>			

P11100140B [ WHI1-003 ]

[2栄B]\*前期水3

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>食品衛生に興味と関心を持ち、食の安全性を通して健康を考える。 また、食品中の微生物や化学物質について理解し、それらの検査のための基本的な知識と技術の習得を目的とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>基本的な微生物取り扱い操作法、培地作成法や標本観察法等を習得した後、各種培養法や染色法、代表的な細菌の分離・同定法や食品中の生菌数測定法等の実験を通して、微生物の性質を理解する。 また、食品中の添加物や飲料水の成分の検査方法を習得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>2年前期「食品衛生学」の講義内容を、必要に応じて復習すること。実験は複数週に亘って行われる回もあるため、実験前日には前回の内容を復習しておくこと。また、新聞や雑誌などの食品衛生や食中毒に関する記事に関心を持ち、できれば保存しておくこと。(計2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション(実験をするに当たっての諸注意、説明) 基本操作・基本技術、滅菌と消毒</li> <li>培地作成法、各種培養法</li> <li>手指の衛生実験、ブドウ球菌の分離培養・同定法</li> <li>腸内細菌科(大腸菌など)の分離培養・同定法</li> <li>食品の細菌学的検査(1前半)、調理器具の衛生試験(前半)</li> <li>食品の細菌学的検査(1後半)、調理器具の衛生試験(後半)、食品の細菌学的検査(2前半)</li> <li>食品の細菌学的検査(2後半)</li> <li>食品からの寄生虫検出</li> <li>飲料水の水質検査および細菌学的検査</li> <li>理化学的検査のオリエンテーション、試薬調製、合成着色料の検査(1)</li> <li>合成着色料の検査(2)</li> <li>発色剤の検査(1)</li> <li>発色剤の検査(2)</li> </ol>			

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(80%)、取組み姿勢(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度 レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度 レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし、実験資料、プリント等を配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 新しい食品衛生実験 著者名: 西島基弘 出版社: 三共出版 (978-4-7827-0753-1)</p>			

P11100150A [ WHI2-002 ]

[2栄A]\*後期金3・4

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

食品衛生に興味と関心を持ち、食の安全性を通して健康を考える。  
また、食品中の微生物や化学物質について理解し、それらの検査のための基本的な知識と技術の習得を目的とする。

[授業概要]

基本的な微生物取り扱い操作法、培地作成法や標本観察法等を習得した後、各種培養法や染色法、代表的な細菌の分離・同定法や食品中の生菌数測定法等の実験を通して、微生物の性質を理解する。  
また、食品中の添加物や飲料水の成分の検査方法を習得する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

2年前期「食品衛生学」の講義内容を、必要に応じて復習すること。実験は複数週に亘って行われる回もあるため、実験前日には前回の内容を復習しておくこと。また、新聞や雑誌などの食品衛生や食中毒に関する記事に関心を持ち、できれば保存しておくこと。(計2時間程度)

[授業計画]

1. オリエンテーション(実験をするに当たっての諸注意、説明)  
基本操作・基本技術、滅菌と消毒
2. 培地作成法、各種培養法
3. 手指の衛生実験、ブドウ球菌の分離培養・同定法
4. 腸内細菌科(大腸菌など)の分離培養・同定法
5. 食品の細菌学的検査(1前半)、調理器具の衛生試験(前半)
6. 食品の細菌学的検査(1後半)、調理器具の衛生試験(後半)、食品の細菌学的検査(2前半)
7. 食品の細菌学的検査(2後半)
8. 食品からの寄生虫検出
9. 飲料水の水質検査および細菌学的検査
10. 理化学的検査のオリエンテーション、試薬調製、合成着色料の検査(1)
11. 合成着色料の検査(2)
12. 発色剤の検査(1)
13. 発色剤の検査(2)

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(80%)、取組み姿勢(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度 レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度 レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし、実験資料、プリント等を配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 新しい食品衛生実験 著者名: 西島基弘 出版社: 三共出版 (978-4-7827-0753-1)</p>			



科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  実験を行う上での基本である、緩衝液、検量線を学ぶ。  食品に関する実験で、食品を構成する主要成分などの特性を理解し、基本的な器具の取扱い、試薬の調製法など食品分析に必要な知識を習得し、得られた結果をまとめて考察する力をつける。</p> <p>[ 授業概要 ]  食品成分の分離、定量分析、成分変化試験などを行って得られた知見により食品の特性を考察する。この実験で得られた食品に関する科学的な知識・技術は健康な食生活に生かすことができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコルのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験の一般的注意、実験器具の取り扱い方、レポートの書き方、実験に必要な計算方法の習得</li> <li>2. 緩衝液と検量線のガイダンス、マイクロピペットの使い方</li> <li>3. 緩衝液の作成</li> <li>4. 検量線の作成と未知化合物の定量</li> <li>5. 6. ~9. の実験のガイダンス</li> <li>6. 食品中の有機酸の定量</li> <li>7. 食品中のカルシウムの定量</li> <li>8. 食品中のビタミンCの定量</li> <li>9. 食品中のポリフェノールの定量</li> <li>10. 11. ~13. の実験のガイダンス</li> <li>11. 脂質の変敗試験</li> <li>12. 食品の非酵素的褐変</li> <li>13. 食品の酵素的褐変</li> </ol> <p>* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。</p>			

科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート・試験</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは添削して後日返却</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 新版 だれも教えなかった レポート・論文書き分け術 著者名:大竹 秀一 著 出版社:エスシーシー (9.78E+12) 学生のレポート・論文作成トレーニング 著者名:桑田てるみ 編 出版社:実教出版 (9.78E+12)</p>			

科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  実験を行う上での基本である、緩衝液、検量線を学ぶ。  食品に関する実験で、食品を構成する主要成分などの特性を理解し、基本的な器具の取扱い、試薬の調製法など食品分析に必要な知識を習得し、得られた結果をまとめて考察する力をつける。</p> <p>[ 授業概要 ]  食品成分の分離、定量分析、成分変化試験などを行って得られた知見により食品の特性を考察する。この実験で得られた食品に関する科学的な知識・技術は健康な食生活に生かすことができる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコルのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験の一般的注意、実験器具の取り扱い方、レポートの書き方、実験に必要な計算方法の習得</li> <li>2. 緩衝液と検量線のガイダンス、マイクロピペットの使い方</li> <li>3. 緩衝液の作成</li> <li>4. 検量線の作成と未知化合物の定量</li> <li>5. 6. ~9. の実験のガイダンス</li> <li>6. 食品中の有機酸の定量</li> <li>7. 食品中のカルシウムの定量</li> <li>8. 食品中のビタミンCの定量</li> <li>9. 食品中のポリフェノールの定量</li> <li>10. 11. ~13. の実験のガイダンス</li> <li>11. 脂質の変敗試験</li> <li>12. 食品の非酵素的褐変</li> <li>13. 食品の酵素的褐変</li> </ol> <p>* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。</p>			

科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート・試験</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは添削して後日返却</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 新版 だれも教えなかった レポート・論文書き分け術 著者名:大竹 秀一 著 出版社:SCC (9.78E+12) 学生のレポート・論文作成トレーニング 著者名:桑田てるみ 編 出版社:実教出版 (9.78E+12)</p>			

科目名	食品学総論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	吉川 豊			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]          栄養士として必要な食品に関する正確な知識を得、食品を科学的に理解することを目的とする。</p> <p>[授業概要]          人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。そこで、本授業では食品を構成する成分、微量成分および特殊成分(味、香、色の成分)の特性を科学的に解説する。合わせて、調理、加工、保蔵中における食品成分の変化、食品の物性、および機能性などについて総合的に解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。</p> <p>[授業計画]          1. 人間と食品          2. 水分          3. ビタミンとミネラル          4. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分①          5. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分②          6. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分③          7. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分④          8. 食品の栄養価と機能性          9. 食品成分の変化①          10. 食品成分の変化②          11. 食品の物性①          12. 食品の物性②          13. まとめ</p>				

科目名	食品学総論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%)  試験は解答を示し、小テストは解説を行う。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  期末試験や小テストなどはmanabaなどから回答を掲示。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  食べ物と健康II 食品の機能 著者名:中河原俊治 出版社:三共出版</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	食品学総論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          栄養士として必要な食品に関する正確な知識を得、食品を科学的に理解することを目的とする。</p> <p>[ 授業概要 ]          人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。そこで、本授業では食品を構成する成分、微量成分および特殊成分(味、香、色の成分)の特性を科学的に解説する。合わせて、調理、加工、保蔵中における食品成分の変化、食品の物性、および機能性などについて総合的に解説する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間と食品</li> <li>2. 水分</li> <li>3. ビタミンとミネラル</li> <li>4. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分①</li> <li>5. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分②</li> <li>6. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分③</li> <li>7. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分④</li> <li>8. 食品の栄養価と機能性</li> <li>9. 食品成分の変化①</li> <li>10. 食品成分の変化②</li> <li>11. 食品の物性①</li> <li>12. 食品の物性②</li> <li>13. 試験</li> </ol>			

科目名	食品学総論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%)  試験は解答を示し、小テストは解説を行う。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  期末試験や小テストなどはmanabaなどから回答を掲示。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  食べ物と健康II 食品の機能 著者名:中河原俊治 出版社:三共出版</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			



科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  食品加工学は栄養士免許必修科目であり、管理栄養士国家試験で頻出している分野である。栄養士に留まらず、管理栄養士に求められる知識の習得を目指し、食品加工学全般について理解し、説明できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、加工食品についての正しい知識の習得が必要である。本講義では、管理栄養士国家試験出題基準に準拠した教科書に沿って、食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。  事前に授業のテキストを熟読する。  事後は授業内容を復習し、理解を深める。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加工食品と食生活、食品の保蔵</li> <li>2. 食品加工の操作</li> <li>3. 食品の包装、食品加工の技術</li> <li>4. 食品加工と成分変化、食品添加物と加工食品の安全性確保</li> <li>5. 保健機能食品と特別用途食品</li> <li>6. 食品の表示と規格</li> <li>7. 農産加工</li> <li>8. 畜産加工</li> <li>9. 水産加工</li> <li>10. 発酵食品</li> <li>11. 調味料・嗜好食品</li> <li>12. インスタント食品、食用油脂、コピー食品</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 練習問題集を配布する。manabaに掲示する解答を確認し、答え合わせをする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] Nブックス 五訂 食品加工学 著者名:北尾悟・鍋谷浩志 他 出版社:建帛社 (978-4-7679-0719-2)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  食品加工学は栄養士免許必修科目であり、管理栄養士国家試験で頻出している分野である。栄養士に留まらず、管理栄養士に求められる知識の習得を目指し、食品加工学全般について理解し、説明できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、加工食品についての正しい知識の習得が必要である。本講義では、管理栄養士国家試験出題基準に準拠した教科書に沿って、食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。  事前に授業のテキストを熟読する。  事後は授業内容を復習し、理解を深める。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加工食品と食生活、食品の保蔵</li> <li>2. 食品加工の操作</li> <li>3. 食品の包装、食品加工の技術</li> <li>4. 食品加工と成分変化、食品添加物と加工食品の安全性確保</li> <li>5. 保健機能食品と特別用途食品</li> <li>6. 食品の表示と規格</li> <li>7. 農産加工</li> <li>8. 畜産加工</li> <li>9. 水産加工</li> <li>10. 発酵食品</li> <li>11. 調味料・嗜好食品</li> <li>12. インスタント食品、食用油脂、コピー食品</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 練習問題集を配布する。manabaに掲示する解答を確認し、答え合わせをする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] Nブックス 五訂 食品加工学 著者名:北尾悟・鍋谷浩志 他 出版社:建帛社 (978-4-7679-0719-2)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  食品加工学の講義で学んだ知識に加え、実際に加工食品を製造することによって、加工食品がもっている長所と短所について理解し、判別できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、加工食品についての正しい知識の習得が必要である。本実習では、代表的な加工食品を原材料から作り、製造原理、基本的な加工技術、食の安全性について理解を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  事前の実習書(配布プリント)を熟読し、製造工程の手順について理解しておく。  実習に関連する食品加工学の講義内容を参考に予習しておく。  衛生面について十分な準備をして実習に臨む。  事後は課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 小麦粉の加工:うどん</li> <li>3. 小麦粉の加工:パン</li> <li>4. 小麦粉の加工:ケーキ</li> <li>5. 果物の加工:ジャム</li> <li>6. 果物の加工:みかんのシロップ漬け</li> <li>7. 大豆の加工:豆腐</li> <li>8. 食肉の加工:ウインナーソーセージ</li> <li>9. 乳類の加工:合成酸乳飲料</li> <li>10. 乳類の加工:キャラメル・チーズ・バター</li> <li>11. 小豆の加工:和菓子</li> <li>12. いもの加工:こんにゃく  チョコレート加工:ガナッシュ(生チョコレート)</li> <li>13. 講義 まとめ</li> </ol>			

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  Nブックス 五訂 食品加工学 著者名:北尾悟・鍋谷浩志 他 出版社:建帛社 (978-4-7679-0719-2)</p>			

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          食品加工学の講義で学んだ知識に加え、実際に加工食品を製造することによって、加工食品がもっている長所と短所について理解し、判別できる。</p> <p>[ 授業概要 ]          現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、加工食品についての正しい知識の習得が必要である。本実習では、代表的な加工食品を原材料から作り、製造原理、基本的な加工技術、食の安全性について理解を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          事前に実習書(配布プリント)を熟読し、製造工程の手順について理解しておく。          実習に関連する食品加工学の講義内容を参考に予習しておく。          衛生面について十分な準備をして実習に臨む。          事後は課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 小麦粉の加工:うどん</li> <li>3. 小麦粉の加工:パン</li> <li>4. 小麦粉の加工:ケーキ</li> <li>5. 果物の加工:ジャム</li> <li>6. 果物の加工:みかんのシロップ漬け</li> <li>7. 大豆の加工:豆腐</li> <li>8. 食肉の加工:ウインナーソーセージ</li> <li>9. 乳類の加工:合成酸乳飲料</li> <li>10. 乳類の加工:キャラメル・チーズ・バター</li> <li>11. 小豆の加工:和菓子</li> <li>12. いもの加工:こんにゃく              チョコレートの加工:ガナッシュ(生チョコレート)</li> <li>13. 講義 まとめ</li> </ol>			

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  Nブックス 五訂 食品加工学 著者名:北尾悟・鍋谷浩志 他 出版社:建帛社 (978-4-7679-0719-2)</p>			



科目名	身体運動実習 I (ダンス)		前期	1 単位
サブタイトル	ダンスを踊る、創る、見る、そして教える		実習	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動(エアロビックダンス)について、その特徴や運動内容を理解する。また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。</p> <p>②創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスにおける実践と指導力を養う。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>①エアロビックダンスの基礎的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。</p> <p>②性・年齢・体力に応じた運動強度の水準の違いを理解した上で目的に応じたプログラムの内容を作成し実践する。</p> <p>③創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの技能を高め、指導法を学ぶ。</p> <p>④既存の動きにとらわれない、オリジナルの動き方を見つける。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃から音楽、映画、絵画、造形物などの芸術作品に触れ、自分が感じたこと(感性)を豊かにすること。また、日常生活の中で感じたことを動きや表情で具体化できるようにすること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(エアロビックダンスをはじめとするダンスの種類について)</li> <li>2. エアロビックダンスの特性、健康効果について</li> <li>3. エアロビックダンスの運動強度やエネルギー消費量について</li> <li>4. エアロビックダンスの指導者の役割、見本の見せ方、良い立位姿勢などについて</li> <li>5. 安全に行うための運動プログラムの構成、実践場所、服装などについて</li> <li>6. キューイング、アイコンタクト、段階指導および運動前・中・後の安全性に配慮した指導</li> <li>7. 現代的なリズムのダンス・フォークダンス</li> <li>8. 創作ダンス</li> <li>9. パフォーマンスのためのプログラム作成(ウォーミングアップとクールダウンを含む)</li> <li>10. 作品づくり(1)</li> <li>11. 作品づくり(2)</li> <li>12. 作品づくり(3)</li> <li>13. エアロビックダンス・ダンス発表会</li> </ol>				

科目名	身体運動実習 I (ダンス)	前期	1 単位
サブタイトル	ダンスを踊る、創る、見る、そして教える	実習	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(50%)、実技テスト・課題レポート(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポート等は授業内や後日に返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度、実技</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業態度、技能</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  『健康運動実践指導者養成用テキスト』 出版社:公益財団健康・体力づくり事業財団</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  授業中に指示する。</p>			

科目名	身体運動実習Ⅱ(ジョギング)	前期	1単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング	実習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 健康保持・増進としたウォーキングやジョギングを目的とし、その特徴や運動内容を理解する。</p> <p>[授業概要] ジョギング・ウォーキングについて基礎的な知識を理解した上で、安全で効果的な動きができる技術能力を養う。性・年齢・体力の違いによって速度や生体反応が異なることを理解する。また、ストレッチングの理論を理解し、各部位のストレッチング方法を実践する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ジョギングやランニングに関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。また、ジョギングやランニングで興味や関心または問題点をあらかじめ見つけておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウォーキングとジョギングの特性を理解し両者について説明できる。</li> <li>2. ウォーキングとジョギングにより期待される健康効果について説明できる。</li> <li>3. 健康づくりに必要なウォーキングとジョギングの目標時間、頻度について説明できる。</li> <li>4. ウォーキングやジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。</li> <li>5. 基本的なフォームを習得し、個人に合った正しいフォームが実践できるようサポートができる。</li> <li>6. 安全に行うための運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項(水分補給)について喚起できる。</li> <li>7. 至敵運動強度の指標として脈拍の正しい測り方やRPEの利用について実践と指導ができる。</li> <li>8. 起こりうる傷害を理解し、シューズや服装選択のアドバイスができる。</li> <li>9. ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導する。</li> <li>10. 安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。</li> <li>11. ウォーキングのプログラム作成</li> <li>12. ジョギングのプログラム作成</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	身体運動実習Ⅱ(ジョギング)	前期	1単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング	実習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(60%)、個人スキル(10%)、運動プログラム作成(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  運動プログラム作成は添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名:  出版社:(財)健康・体力づくり事業財団</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	身体運動実習Ⅱ(ジョギング)	前期	1 単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング	実習	
担当者	西山 清子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 健康保持・増進としたウォーキングやジョギングを目的とし、その特徴や運動内容を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ] ジョギング・ウォーキングについて基礎的な知識を理解した上で、安全で効果的な動きができる技術能力を養う。性・年齢・体力の違いによって速度や生体反応が異なることを理解する。また、ストレッチングの理論を理解し、各部位のストレッチング方法を実践する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] ジョギングやランニングに関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。また、ジョギングやランニングで興味や関心または問題点をあらかじめ見つけておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウォーキングとジョギングの特性を理解し両者について説明できる。</li> <li>2. ウォーキングとジョギングにより期待される健康効果について説明できる。</li> <li>3. 健康づくりに必要なウォーキングとジョギングの目標時間、頻度について説明できる。</li> <li>4. ウォーキングやジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。</li> <li>5. 基本的なフォームを習得し、個人に合った正しいフォームが実践できるようサポートができる。</li> <li>6. 安全に行うための運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項(水分補給)について喚起できる。</li> <li>7. 至敵運動強度の指標として脈拍の正しい測り方やRPEの利用について実践と指導ができる。</li> <li>8. 起こりうる傷害を理解し、シューズや服装選択のアドバイスができる。</li> <li>9. ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導する。</li> <li>10. 安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。</li> <li>11. ウォーキングのプログラム作成</li> <li>12. ジョギングのプログラム作成</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	身体運動実習Ⅱ(ジョギング)	前期	1単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング	実習	
担当者	西山 清子		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(60%)、個人スキル(10%)、運動プログラム作成(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  運動プログラム作成は添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: レポートおよび実技試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名:  出版社: (財)健康・体力づくり事業財団</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	身体運動実習Ⅲ(水泳)		前期	1 単位
サブタイトル	水泳・エクササイズ		実習	
担当者	大沼 勇人、西山 清子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ] 健康・体力づくりを目的とした水泳・水中運動(ウォーターエクササイズ)について、その特徴や運動内容を理解する。また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。</p> <p>[ 授業概要 ] 水泳・水中運動の基本的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。また、各種泳法と水中エアロビクスを構成する各種運動・動作の実践力を養い、運動プログラムを作成し、指導上の注意点および安全対策を理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 水泳と水中歩行そして水中運動について、映像や体験を通して関心をたかめておく。また、興味と関心または問題点について調べておく。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 水中運動と陸上運動の違い</li> <li>2. 水泳・水中運動の特性と効果</li> <li>3. 水泳・水中運動の利点と問題点</li> <li>4. 水泳運動(浮き身、ストリームライン)</li> <li>5. 水泳運動(腕・脚の動かし方、呼吸の練習)</li> <li>6. 水泳運動のプログラム作成と指導上の注意点</li> <li>7. 水中運動(立ち方、脚・腕を動かし抵抗感を知る)、運動強度のコントロール</li> <li>8. 水中運動(歩く・走るの速さの変化)、心拍数と運動強度の関係</li> <li>9. 水中運動のプログラム作成と指導上の注意点(健康人、腰痛者、妊婦などを対象)</li> <li>10. 水中エアロビクス(1)</li> <li>11. 水中エアロビクス(2)</li> <li>12. 水中エアロビクス(3)</li> <li>13. 発表・まとめ</li> </ol> <p>2024年度日程および内容 実施場所:ポートアイランド・スポーツセンター(P) YMCAファミリーウエルネスセンター(Y)</p> <p>7月18日(木)3・4・5限 水泳(Y) 7月19日(金)1・2限 水泳(P) 7月30日(火)1・2限 講義・体育館 7月31日(水)3・4限 水泳(P) 8月1日(水)1・2・3・4限 水泳(Y)</p> <p>* 場所・集合時間などの詳細はmanabaに記載するため要確認すること。</p>				

科目名	身体運動実習Ⅲ(水泳)	前期	1 単位
サブタイトル	水泳・エクササイズ	実習	
担当者	大沼 勇人、西山 清子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業の取り組み姿勢(50%)、発表(40%)、個人スキル(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内でお知らせします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名:(財)健康・体力づくり事業財団 出版社:(財)健康・体力づくり事業財団</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	スポーツ医学	前期	2 単位
サブタイトル	スポーツの身体への影響	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

現在では、アスリート/スポーツ選手だけでなく多くの人々が体力の向上のために、また、高齢者は活動レベルの維持や向上のために、スポーツ/運動を行っている。スポーツでは選手どうしの接触、衝突による外傷や過度の練習などによるオーバーユースによる整形外科的障害が起こりうる。また、既存の内科的疾患に影響を与えたり、内科的疾患を誘発したりすることもあり得る。さらには、スポーツによる体力維持のための栄養学的問題など、多くの医学に関わる問題がある。したがって、スポーツ医学では、医師(スポーツドクター)のみならず、理学療法士、保健師、看護師、栄養士、マッサージ師、トレーナー、コーチ等多くの職種の専門家がチームとして参画することが多い。このような状況の下、「スポーツ医学」では、スポーツ/運動と栄養を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、スポーツ/運動に関係する人体の解剖・生理等について学びを深め、スポーツ/運動による健康増進効果とスポーツ/運動によって起こる外傷や整形外科的内科的障害を理解し、スポーツ/運動を行う上で必要な健康管理についてわかりやすく説明できるようになることを到達目標としている。

[授業概要]

スポーツ/運動に関係する人体の解剖・生理、スポーツによって起こる、外傷や整形外科的内科的障害、スポーツ/運動による体力維持のための栄養学的問題などについて、医師免許を有する教員が講義を行う。経験的、実践的な部分については、学外特別講師による講義を予定している。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

・「健康医学入門」「解剖生理学」「臨床医学概論」「応急手当実習」の知識が基本となる。特に「解剖生理学」「応急手当実習」の知識を確認しておくこと。  
 ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度必要とする。

[授業計画]

1. オリエンテーション

スポーツ医学とは 運動器の仕組みと働き(骨・関節)4/10(水)2限

2. 運動器の仕組みと働き(筋肉)4/17(水)2限

3. 運動器の仕組みと働き(神経)4/24(水)2限

4. 運動器の仕組みと働き(神経伝導路・神経反射)5/8(水)2限

5. エネルギー供給の仕組みとスポーツ 5/15(水)2限

6. アスリートの外科・整形外科的外傷・障害と対策①(学外特別講師・斎藤)5/22(水)2限

7. アスリートの外科・整形外科的外傷・障害と対策②(学外特別講師・斎藤)5/29(水)2限

8. 呼吸器・循環器とスポーツ 6/5(水)2限

9. 血液&体液・内分泌とスポーツ 6/12(水)2限

10. コンディショニング&トレーニングの基礎と実際(学外特別講師・斎藤)6/19(水)2限

11. 子供とスポーツ 女性とスポーツ(学外特別講師・斎藤)6/26(水)2限

12. メディカル&アスレチックリハビリテーション(学外特別講師・斎藤)7/3(水)2限

13. アスリートの健康管理(コンディション・メディカルチェックの実際)

ドーピング 補足とまとめ 7/10(水)2限

(学外特別講師の予定によって、また、授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)

科目名	スポーツ医学	前期	2 単位
サブタイトル	スポーツの身体への影響	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%（履修学生に周知の上、配分を変える場合がある）  再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]  授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。  レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。</p> <p>[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>[ 教科書（ISBN） ]  新スポーツ医学 著者名: 編/藤本繁夫・大久保衛 出版社: 嵯峨野書院 （978-4-7823-0597-3）</p> <p>[ 参考書（ISBN） ]  1から学ぶスポーツ生理学  著者名: 中里 浩一 他 出版社: ナップ（978-4905168706）  スポーツ救急医学  【令和版】基礎から学ぶ! 著者名: 奥水 健治 出版社: ベースボール・マガジン社（978-4583112794）</p>			

P11100060A [ WHB3-002 ]

[3栄A]\*前期水2

科目名	スポーツ医学	前期	2 単位
サブタイトル	スポーツの身体への影響	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

現在では、アスリート/スポーツ選手だけでなく多くの人々が体力の向上のために、また、高齢者は活動レベルの維持や向上のために、スポーツ/運動を行っている。スポーツでは選手どうしの接触、衝突による外傷や過度の練習などによるオーバーユースによる整形外科的障害が起こりうる。また、既存の内科的疾患に影響を与えたり、内科的疾患を誘発したりすることもあり得る。さらには、スポーツによる体力維持のための栄養学的問題など、多くの医学に関わる問題がある。したがって、スポーツ医学では、医師(スポーツドクター)のみならず、理学療法士、保健師、看護師、栄養士、マッサージ師、トレーナー、コーチ等多くの職種の専門家がチームとして参画することが多い。このような状況の下、「スポーツ医学」では、スポーツ/運動と栄養を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、スポーツ/運動に関係する人体の解剖・生理等について学びを深め、スポーツ/運動による健康増進効果とスポーツ/運動によって起こる外傷や整形外科的内科的障害を理解し、スポーツ/運動を行う上で必要な健康管理についてわかりやすく説明できるようになることを到達目標としている。

[授業概要]

スポーツ/運動に関係する人体の解剖・生理、スポーツによって起こる、外傷や整形外科的内科的障害、スポーツ/運動による体力維持のための栄養学的問題などについて、医師免許を有する教員が講義を行う。経験的、実践的な部分については、学外特別講師による講義を予定している。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

・「健康医学入門」「解剖生理学」「臨床医学概論」「応急手当実習」の知識が基本となる。特に「解剖生理学」「応急手当実習」の知識を確認しておくこと。  
 ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度必要とする。

[授業計画]

1. オリエンテーション

スポーツ医学とは 運動器の仕組みと働き(骨・関節)4/10(水)1限

2. 運動器の仕組みと働き(筋肉)4/17(水)1限

3. 運動器の仕組みと働き(神経)4/24(水)1限

4. 運動器の仕組みと働き(神経伝導路・神経反射)5/8(水)1限

5. エネルギー供給の仕組みとスポーツ 5/15(水)1限

6. アスリートの外科・整形外科的外傷・障害と対策①(学外特別講師・斎藤)5/22(水)1限

7. アスリートの外科・整形外科的外傷・障害と対策②(学外特別講師・斎藤)5/29(水)1限

8. 呼吸器・循環器とスポーツ 6/5(水)1限

9. 血液&体液・内分泌とスポーツ 6/12(水)1限

10. コンディショニング&トレーニングの基礎と実際(学外特別講師・斎藤)6/19(水)1限

11. 子供とスポーツ 女性とスポーツ(学外特別講師・斎藤)6/26(水)1限

12. メディカル&アスレチックリハビリテーション(学外特別講師・斎藤)7/3(水)1限

13. アスリートの健康管理(コンディション・メディカルチェックの実際)

ドーピング 補足とまとめ 7/10(水)1限

(学外特別講師の予定によって、また、授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)

科目名	スポーツ医学	前期	2 単位
サブタイトル	スポーツの身体への影響	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%（履修学生に周知の上、配分を変える場合がある）  再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]  授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。  レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。</p> <p>[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 試験90%  復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>[ 教科書（ISBN） ]  新スポーツ医学 著者名: 編/藤本繁夫・大久保衛 出版社: 嵯峨野書院 （978-4-7823-0597-3）</p> <p>[ 参考書（ISBN） ]  1から学ぶスポーツ生理学  著者名: 中里 浩一 他 出版社: ナップ（978-4905168706）  スポーツ救急医学  【令和版】基礎から学ぶ! 著者名: 奥水 健治 出版社: ベースボール・マガジン社（978-4583112794）</p>			

科目名	スポーツ栄養学 I	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養	講義	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]          栄養の基本概念をスポーツの現場にあてはめて考え、体や健康を維持するための栄養と、アスリートが体力を維持し、競技成績を向上させるための栄養の違いを理解する。また、栄養・健康づくりの指導者としての栄養的知識と指導方法を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ]          各種スポーツチーム(野球、バレー、サッカー等)での栄養指導経験を有した教員が担当します。          運動・栄養・休養は健康づくりの3要素であると同時に、アスリートの体力向上・競技力向上には欠かせない要素である。各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、アスリートに必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          各回予復習として2時間程度栄養学総論の授業を、予習として教科書を2時間程度確認しておく。</p> <p>[ 授業計画 ]          1.アスリートの食事摂取の基本          2.スポーツにおける五大栄養素の役割と主要食品の栄養成分          3.食品・栄養素の消化・吸収の過程          4.トレーニングとエネルギー消費量          (食事摂取基準と一日の総エネルギー消費量の構成、生活習慣病の予防のための栄養と運動)          5.運動強度と栄養素の機能・代謝の関係          (糖質・脂質の機能と代謝)          6.からだづくりのための栄養素(たんぱく質の機能と代謝)          7.コンディショニングのための栄養素(ミネラル・ビタミン)          8.アスリートの栄養(試合期の食事)          9.アスリートの栄養(ライフスタイル別の食事のとり方)          10.アスリートの栄養(水分補給と熱中症予防)          11.アスリートの栄養(アスリートに起こりやすい障害と栄養)          12.スポーツとサプリメント・アスリートとしてのコンディショニングの実際(外部特別講師・坂元)          13.まとめ</p>			

科目名	スポーツ栄養学 I	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養	講義	
担当者	坂元 美子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験の答案用紙回収後、解答を解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/ アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/ 地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 多様性理解/ 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] スポーツ・健康栄養学〈はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 6〉 著者名: 坂元美子編著 出版社: 化学同人 (978-4-7598-1709-6)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 中高生のお母さんを応援するにじ色式部活レシピ 著者名: アテナプロジェクト編 出版社: 西日本出版社 (978-4-90108-37-5)</p>			

科目名	スポーツ栄養学 I	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養	講義	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]          栄養の基本概念をスポーツの現場にあてはめて考え、体や健康を維持するための栄養と、アスリートが体力を維持し、競技成績を向上させるための栄養の違いを理解する。また、栄養・健康づくりの指導者としての栄養的知識と指導方法を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ]          各種スポーツチーム(野球、バレー、サッカー等)での栄養指導経験を有した教員が担当します。          運動・栄養・休養は健康づくりの3要素であると同時に、アスリートの体力向上・競技力向上には欠かせない要素である。各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、アスリートに必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          各回予復習として2時間程度栄養学総論の授業を、予習として教科書を2時間程度確認しておく。</p> <p>[ 授業計画 ]          1.アスリートの食事摂取の基本          2.スポーツにおける五大栄養素の役割と主要食品の栄養成分          3.食品・栄養素の消化・吸収の過程          4.トレーニングとエネルギー消費量          (食事摂取基準と一日の総エネルギー消費量の構成、生活習慣病の予防のための栄養と運動)          5.運動強度と栄養素の機能・代謝の関係          (糖質・脂質の機能と代謝)          6.からだづくりのための栄養素(たんぱく質の機能と代謝)          7.コンディショニングのための栄養素(ミネラル・ビタミン)          8.アスリートの栄養(試合期の食事)          9.アスリートの栄養(ライフスタイル別の食事のとり方)          10.アスリートの栄養(水分補給と熱中症予防)          11.アスリートの栄養(アスリートに起こりやすい障害と栄養)          12.スポーツとサプリメント・アスリートとしてのコンディショニングの実際(外部特別講師・坂元)          13.まとめ</p>			

科目名	スポーツ栄養学 I	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養	講義	
担当者	坂元 美子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験の答案用紙回収後、解答を解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/ アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/ 地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 多様性理解/ 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] スポーツ・健康栄養学〈はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 6〉 著者名: 坂元美子編著 出版社: 化学同人 (978-4-7598-1709-6)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 中高生のお母さんを応援するにじ色式部活レシピ 著者名: アテナプロジェクト編 出版社: 西日本出版社 (978-4-90108-37-5)</p>			



科目名	スポーツ栄養学Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]  スポーツ栄養学Ⅰで習得した知識をさらに深め、スポーツの現場で即実践できる知識と技術を習得する</p> <p>[授業概要]  各種スポーツチーム(野球、バレー、サッカー等)での栄養指導経験を有した教員が担当します。  ジュニアからアスリートのためのスポーツ、高齢者の体力維持のための運動、生活習慣病予防のための運動など、それぞれの目的に応じたスポーツ・運動の現場で適切に栄養指導が行えるよう、スポーツ種目、ライフステージ別の栄養について学ぶ。また、栄養指導に必要な食事調査、栄養計算の方法についても実践的に学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  各回、予習復習として4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、栄養学総論を復習しておく</p> <p>[授業計画]  1.授業オリエンテーション  2.健康の維持・増進・生活習慣病予防のための運動と栄養  3.栄養指導例、発表テーマ決定、発表順決定  4.発表準備  5.発表準備  6.発表準備  7.発表①  8.発表②  9.発表③  10.スポーツ現場で求められているスポーツ栄養とは(外部特別講師)(坂元)  11.発表④  12.発表⑤  13.発表⑥</p>			

科目名	スポーツ栄養学Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂元 美子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中のプレゼンテーション(50%)  授業中のレポート課題(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題提出後フィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:授業中のプレゼンテーション(50%)  授業中のレポート課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法:授業中のプレゼンテーション(50%)  授業中のレポート課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:授業中のプレゼンテーション(50%)  授業中のレポート課題(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業中のプレゼンテーション(50%)  授業中のレポート課題(50%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業中のプレゼンテーション(50%)  授業中のレポート課題(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業中のプレゼンテーション(50%)  授業中のレポート課題(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業中のプレゼンテーション(50%)  授業中のレポート課題(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業中のプレゼンテーション(50%)  授業中のレポート課題(50%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  応用栄養学 栄養マネジメント演習・実習 第4版 著者名:竹中優・土江節子編 出版社:医歯薬出版株式会社  (978-4-263-70635-0)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  中高生のお母さんを応援するにじ色式部活レシピ 著者名:アテナプロジェクト編 出版社:西日本出版社 (978-</p>			

科目名	スポーツ栄養クッキング		前期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	坂元 美子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ]  スポーツ選手に適した献立の作成と調理技術を身につける</p> <p>[ 授業概要 ]  スポーツ栄養学で学んだ知識を献立作成に取り入れ、作成した献立を調理する。スポーツの現場では、食事の摂取や、食材の調達が難しい場合もあり、様々な状況でも調理ができるようなスキルを身につけ、選手が必要な栄養素を摂取できるような献立を考える。さらに、アスリートの給食現場で食事の提供を実践する。専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方はこの授業を受けることが望ましい。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習合わせて4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 授業オリエンテーション  2. 献立作成①  3. 献立作成②  4. 献立作成③  5. 献立作成④  6. プレゼンテーション準備  7. 献立プレゼンテーション(外部特別講師)(坂元)  8. 調理実習①  9. 調理実習②  10. 調理自習③  11. 学外実習  12. 学外実習  13. まとめ</p>				

科目名	スポーツ栄養クッキング	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	坂元 美子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート確認、修正後返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 応用栄養学 栄養マネジメント演習・実習 第4版(スポーツ栄養学Ⅱで購入済み) 著者名:竹中優・土江節子編 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70635-0)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 随時必要に応じて紹介します。</p>			

科目名	スポーツ栄養指導実習		前期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	坂元 美子、奥野 直			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]  スポーツ栄養学・運動生理学で学んだ内容を現場で体験し、スポーツ選手のデータ収集と解析を行う。  そこから得た知識を選手にフィードバックできるよう、指導スキルを身につける。</p> <p>[授業概要]  スポーツ栄養指導に必要なデータ収集と解析の方法を学び、学外のスポーツ関連施設及び、スポーツチームでの現場実習を行う。学外実習で収集したデータを授業内で解析し、スポーツ選手への指導方法を学ぶ。  専門演習と卒業論文で奥野・坂元研究室を希望する方はこの授業を必ず受けてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  各回予習復習合わせて4時間程度、運動生理学、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく</p> <p>[授業計画]  1.授業オリエンテーション(奥野)  2.スポーツ栄養指導のデータ収集の方法(奥野)  3.スポーツ栄養指導における課題探究型学習について(奥野)  4.栄養指導プレゼンテーション①(奥野)  5.栄養指導プレゼンテーション②(奥野)  6.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション①(坂元)  7.プレゼンテーションの実践指導(学外特別講師)(奥野・坂元)  8.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション②(坂元)  9.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション③(坂元)  10.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション④(坂元)  11.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション⑤(坂元)  12.栄養指導発表(学外実習)  13.まとめ(坂元)</p>				

科目名	スポーツ栄養指導実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	坂元 美子、奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内の練習発表に対してその都度変更必要箇所を伝える。  学外実習の評価については実習先の担当指導者からの評価内容を担当者の負担にならないように配慮して学生にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%)  2. 結果の発表及びレポートの作成(30%)  3. プレゼンテーションの内容(40%)</p>			

科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子、松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  スポーツ選手の食事内容のデータ収集と解析ができることを目指す</p> <p>[ 授業概要 ]  様々な年齢、スポーツ種目の選手の食事調査をもとに食事内容を解析し、その結果からスポーツ選手に理想的な食事を考察する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回予習復習合わせて4時間程度学科の授業を確認しておいてください。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.小学生スポーツ選手の食事解析①(坂元美子)  2.小学生スポーツ選手の食事解析②(坂元美子)  3.女子スポーツ選手の食事解析①(坂元美子)  4.女子スポーツ選手の食事解析②(坂元美子)  5.アスリートの食事解析①(坂元美子)  6.アスリートの食事解析②(坂元美子)  7.統計学の基本(データの種類, 平均値, 標準偏差)(松本衣代)  8.異なるグループを比較する(帰無仮説)(松本衣代)  9.統計的推定(区間推定)(松本衣代)  10.比較・独立性の検定(クロス集計票, <math>\chi</math> 二乗検定)(松本衣代)  11.2群の比較(2群の母平均の差の検定)(松本衣代)  12.多群の比較(1元配置分散分析)(松本衣代)  13.多群の比較(2元配置分散分析)(松本衣代)</p>			

科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子、松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート確認後、模範解答を解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] スポーツ・健康栄養学(はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 6)(1年生時に購入済み) 著者名:坂元 美子 編著 出版社:化学同人 (978-4-7598-1709-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 随時必要に応じて紹介します</p>			



科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子、松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  スポーツ選手の食事内容のデータ収集と解析ができることを目指す</p> <p>[ 授業概要 ]  様々な年齢、スポーツ種目の選手の食事調査をもとに食事内容を解析し、その結果からスポーツ選手に理想的な食事を考察する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回予習復習合わせて4時間程度学科の授業を確認しておいてください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.小学生スポーツ選手の食事解析①(坂元美子)</li> <li>2.小学生スポーツ選手の食事解析②(坂元美子)</li> <li>3.女子スポーツ選手の食事解析①(坂元美子)</li> <li>4.女子スポーツ選手の食事解析②(坂元美子)</li> <li>5.アスリートの食事解析①(坂元美子)</li> <li>6.アスリートの食事解析②(坂元美子)</li> <li>7.統計学の基本(データの種類, 平均値, 標準偏差)(松本衣代)</li> <li>8.異なるグループを比較する(帰無仮説)(松本衣代)</li> <li>9.統計的推定(区間推定)(松本衣代)</li> <li>10.比較・独立性の検定(クロス集計票, <math>\chi</math> 二乗検定)(松本衣代)</li> <li>11.2群の比較(2群の母平均の差の検定)(松本衣代)</li> <li>12.多群の比較(1元配置分散分析)(松本衣代)</li> <li>13.多群の比較(2元配置分散分析)(松本衣代)</li> </ol>			

科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子、松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート確認後、模範解答を解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート(100%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] スポーツ・健康栄養学(はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 6)(1年生時に購入済み) 著者名:坂元 美子 編著 出版社:化学同人 (978-4-7598-1709-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 随時必要に応じて紹介します</p>			

科目名	スポーツ経営学		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	大沼 勇人			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] スポーツ経営の仕組みを理解するとともに、スポーツサービスを企画したり計画したりできる技能の養成を目指す。</p> <p>[授業概要] スポーツ経営学とは、「スポーツ経済の運営」「スポーツ組織の運営」「スポーツの運営」「スポーツのマネジメント」をはじめとした、スポーツの価値の運営を扱う学問です。スポーツの社会的発展過程において、スポーツをめぐる経営現象やマネジメント現象を理論化しようと取り組みがなされていますが、その考え方も多様化しています。本講義では、そのスポーツ経営について蓄積された基礎的な知見を学習します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 復習合わせて2時間程度取り組むこと 予習:各回授業終了時に提示するテーマについて調べてくること 復習:講義内容を振り返り、まとめること</p> <p>[授業計画] 第1回 スポーツ経営学とは 第2回 スポーツ組織の経営戦略 第3回 スポーツマーケティング 第4回 スポーツ組織論(組織構造) 第5回 スポーツ組織論(モチベーション) 第6回 スポーツ経営におけるリーダーシップ 第7回 スポーツ経営におけるキャリア・マネジメント 第8回 スポーツ経営における国際化(国際経営) 第9回 スポーツ経営における多角化 第10回 スポーツ経営における企業家精神とイノベーション 第11回 スポーツNPOとスポーツイベントのマネジメント 第12回 プロ野球とJリーグのマネジメント 第13回 まとめ(スポーツ経営学の概説)</p>				

科目名	スポーツ経営学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ]  各回課題テストおよびレポート(65%)、試験(35%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・各回課題は授業内でフィードバックします。  ・レポートは添削後に返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  テキスト 体育・スポーツ経営学 著者名: 柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏 出版社: 大修館書店 (978-4469268317)  スポーツ経営学入門 著者名: 大野 貴司 出版社: 三恵社 (978-4866930015)</p>			

科目名	スポーツマネジメント論	後期	2 単位
サブタイトル	スポーツとマネージメント(経営)	講義	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  スポーツマネジメントの仕組みを理解するとともに、さまざまな視点からのスポーツに関わる管理できる技能の養成を目指す。</p> <p>[ 授業概要 ]  スポーツマネジメントは、「経営」「サービス」「チームマネジメント」といった意味合いで使われ、それらは広義的にはスポーツにおける「管理」を指しています。スポーツマネジメントに関する基礎的な知見を学習します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  復習合わせて2時間程度取り組むこと  予習:各回授業終了時に提示するテーマについて調べてくること  復習:講義内容を振り返り、まとめること</p> <p>[ 授業計画 ]  第1回 学校体育・スポーツのマネジメント  第2回 地域スポーツのマネジメント  第3回 商業(民間営利)スポーツ施設のマネジメント  第4回 スポーツイベントのマネジメント  第5回 プロスポーツのマネジメント  第6回 メディアスポーツのマネジメント  第7回 子どもスポーツのマネジメント  第8回 健康スポーツのマネジメント  第9回 障がい者スポーツのマネジメント  第10回 スポーツ法制度とスポーツマネジメント  第11回 スポーツ団体のマネジメント  第12回 スポーツマネジメントと倫理・社会的責任  第13回 まとめ(スポーツマネジメントの概説)</p>			

科目名	スポーツマネジメント論	後期	2 単位
サブタイトル	スポーツとマネージメント(経営)	講義	
担当者	大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ] 各回課題テストおよびレポート(65%)、試験(35%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・各回課題は授業内でフィードバックします。 ・レポートは添削後に返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験とレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] よくわかるスポーツマネジメント 著者名: 柳沢 和雄・清水 紀宏・中西 純司 出版社: ミネルヴァ書房 (9.78E+12) 図解スポーツマネジメント 著者名: 山下秋二・原田宗彦・中西純司・松岡宏高・富田幸博・金山千広 出版社: 大修館書店 (9.78E+12)</p>			

科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 脂質・糖質・タンパク質の機能、構造、代謝について理解でき、生体内で引き起こされる反応(疾患を含む)に関して、生化学的な根拠に基づいて説明できる事を目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] ヒトが日常過ごしていく上で、必ず食事を取らなければならない。その食べた食事が体内でどのように変化し、どのような役割を演じ、そして最終的にどのように排泄されていくのか?という内容を化学的に説明する学問が生化学である。特に、医学・薬学・栄養学を学ぶ上では最も重要な基礎的な学問の一つといっても過言ではない。本講義では、三大栄養素である「脂質・糖質・タンパク質」に焦点をあて、これらの構造と働き、ならびに生体内での代謝について、生化学的に概説する。さらに、疾患と人体生化学的事項との関係も適宜講義の中に取り入れ、応用できる内容も多く織り込んでいく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素の消化と吸収</li> <li>2. タンパク質1;構造と働き</li> <li>3. タンパク質2;代謝</li> <li>4. 糖質1;構造と働き</li> <li>5. 糖質2;代謝</li> <li>6. 脂質1;構造と働き</li> <li>7. 脂質2;代謝</li> <li>8. 酵素の働き</li> <li>9. 酵素の速度論</li> <li>10. 生体の恒常性とエネルギー代謝</li> <li>11. 免疫と生体防御</li> <li>12. ホルモン</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%)  試験は解答を示し、小テストは解説を行う。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  期末試験や小テストなどはmanabaなどから回答を掲示。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]  学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]  教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  コンパクト生化学 著者名: 大久保岩男 他 出版社: 南江堂 (978-4-524-25946-5)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  休み時間の生化学 著者名: 大西正健 著 出版社: 講談社</p>			



科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 脂質・糖質・タンパク質の機能、構造、代謝について理解でき、生体内で引き起こされる反応(疾患を含む)に関して、生化学的な根拠に基づいて説明できる事を目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] ヒトが日常過ごしていく上で、必ず食事を取らなければならない。その食べた食事が体内でどのように変化し、どのような役割を演じ、そして最終的にどのように排泄されていくのか?という内容を化学的に説明する学問が生化学である。特に、医学・薬学・栄養学を学ぶ上では最も重要な基礎的な学問の一つといっても過言ではない。本講義では、三大栄養素である「脂質・糖質・タンパク質」に焦点をあて、これらの構造と働き、ならびに生体内での代謝について、生化学的に概説する。さらに、疾患と人体生化学的事項との関係も適宜講義の中に取り入れ、応用できる内容も多く織り込んでいく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素の消化と吸収</li> <li>2. タンパク質1;構造と働き</li> <li>3. タンパク質2;代謝</li> <li>4. 糖質1;構造と働き</li> <li>5. 糖質2;代謝</li> <li>6. 脂質1;構造と働き</li> <li>7. 脂質2;代謝</li> <li>8. 酵素の働き</li> <li>9. 酵素の速度論</li> <li>10. 生体の恒常性とエネルギー代謝</li> <li>11. 免疫と生体防御</li> <li>12. ホルモン</li> <li>13. 1-12の復習</li> <li>14. まとめ</li> </ol>			

科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%)  試験は解答を示し、小テストは解説を行う。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  期末試験や小テストなどはmanabaなどから回答を掲示。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]  学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]  教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  コンパクト生化学 著者名:大久保岩男他 出版社:南江堂 (978-4-524-25946-5)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  休み時間の生化学 著者名:大西正健 著 出版社:講談社</p>			

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  生体の構成成分を知る。  また、酵素学的実験ならびに分子生物学的実験を通じて、タンパク質の性質、定量性についても学ぶ。</p> <p>[ 授業概要 ]  実験は本質的に楽しいものである。ヒトは手を使う(動かす)ことによって頭脳が発達したということは良く知られている。百聞は一見に如かず。これらのことは正に実験授業の真骨頂を示すものである。  ある目的を持って計画し、自ら手を動かし、目で観察し、感動し、その結果の意義を知識と想像(創造)を持って考察し、文章、図表にまとめて表現する。このことは、少なからず学生諸君にとっては一つの発見なのである。本実験においては、生体構成成分の定性、定量実験を実施し、酵素反応、遺伝子の抽出を体験する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコルのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 2. ~5. の実験のガイダンス  2. ビューレット法によるタンパク質の定量  3. 抗酸化活性の測定  4. 遊離脂肪酸の定量  5. 高分子化合物の分離実験  6. 7. ~13. の実験のガイダンス  7. 酵素反応の実験①  8. 酵素反応の実験②  9. 酵素反応の実験③  10. 酵素反応の実験④  11. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験①  12. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験②  13. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験③</p> <p>* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。</p>			

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート・試験</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは添削して後日返却</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布 臨床分析学のサブノート(1年時に購入済) 著者名:安井裕之・吉川豊 著 出版社:京都廣川書店</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] はじめてみよう生化学実験 著者名:山本克博 著 出版社:三共出版</p>			

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  生体の構成成分を知る。  また、酵素学的実験ならびに分子生物学的実験を通じて、タンパク質の性質、定量性についても学ぶ。</p> <p>[ 授業概要 ]  実験は本質的に楽しいものである。ヒトは手を使う(動かす)ことによって頭脳が発達したということは良く知られている。百聞は一見に如かず。これらのことは正に実験授業の真骨頂を示すものである。  ある目的を持って計画し、自ら手を動かし、目で観察し、感動し、その結果の意義を知識と想像(創造)を持って考察し、文章、図表にまとめて表現する。このことは、少なからず学生諸君にとっては一つの発見なのである。本実験においては、生体構成成分の定性、定量実験を実施し、酵素反応、遺伝子の抽出を体験する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコールのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 2. ~5. の実験のガイダンス  2. ビューレット法によるタンパク質の定量  3. 抗酸化活性の測定  4. 遊離脂肪酸の定量  5. 高分子化合物の分離実験  6. 7. ~13. の実験のガイダンス  7. 酵素反応の実験①  8. 酵素反応の実験②  9. 酵素反応の実験③  10. 酵素反応の実験④  11. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験①  12. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験②  13. 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験③</p> <p>* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。</p>			

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート・試験</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは添削して後日返却</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布 臨床分析学のサブノート(1年時に購入済) 著者名:安井裕之・吉川豊 著 出版社:京都廣川書店</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] はじめてみよう生化学実験 著者名:山本克博 著 出版社:三共出版</p>			

科目名	生活習慣病と食生活	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 生活習慣病の病因について理解し、生活習慣病を引き起こす日常生活、特に、食生活をどのように見直せば、生活習慣病を予防できるか、理解し、説明できるようになる。</p> <p>[授業概要] 該当項目について、各学生はあらかじめ参考書や参考文献をよく読んで学習し、内容を理解するように努め、理解した内容をまとめて発表する。理解できなかった部分について、グループで、又はグループ間でディスカッションし足り、教員に質問したりしながら、理解を深めていくという方式で、授業を進めていく予定である。ただし、必要な場合には、通常講義の形式で、各項目について、解説を行うことがある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画] 01. オリエンテーション     肥満と肥満症① 02. 肥満と肥満症② 03. 耐糖能異常と糖尿病と① 04. 耐糖能異常と糖尿病と② 05. 耐糖能異常と糖尿病と③ 06. 脂質異常症① 07. 脂質異常症② 08. 食中毒は(食)生活習慣病?① 09. 食中毒は(食)生活習慣病?② 10. 食中毒は(食)生活習慣病?③ 11. 骨粗しょう症 くる病・骨軟化症① 12. 骨粗しょう症 くる病・骨軟化症① 13. 総括と試験 (授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、学生の興味によって取り上げる疾患(生活習慣病)が変更される場合があります。)</p> <p>★必要に応じて教科書を指定する場合があります。</p>			

科目名	生活習慣病と食生活	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	齋藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%（履修学生に周知の上、配分を変える場合がある）  再試験は、原則、行わない。  再試験を行う場合には、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]  授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。  レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする</p> <p>[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]</p> <p>学科DP番号／DP内容：栄養2-1-1／小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法：試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>学科DP番号／DP内容：栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力（思考力・自立心）・周囲と情報を交換し共有する能力（コミュニケーション力・対話力）・問題を適切な方向に解決していく能力（問題解決力・創造性）を身に付けている。  成績評価方法：試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>学科DP番号／DP内容：栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法：試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>学科DP番号／DP内容：栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  成績評価方法：試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法：試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法：試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法：試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法：試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法：試験75%  予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>[ 教科書（ISBN） ]  なし</p> <p>[ 参考書（ISBN） ]  新セミナー 生活習慣病 著者名：田中 逸 出版社：日本医事新報社（978-4-7849-5398-1）  初めの第一歩の病態・疾患学 著者名：林 洋 出版社：羊土社（978-4-7581-2085-2）  栄養科学イラストレイテッド</p>			

P11100570 [ WHB3-003 ]

[4栄]\*後期火5



科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>ゼミでは、大学生として必要な研究全般についての考え方や調査・測定を行う上での心構え、実施方法などを習得する。</p> <p>研究成果を研究会や学会、学術論文等で発表するためのまとめ方、プレゼンテーション方法、文章の書き方、ディスカッションの能力を習得する。</p> <p>卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。</p> <p>そして、ゼミの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>運動生理学の基礎と応用知識の習得に努め、最新情報の整理を行う。 論文作成の方法やプレゼンテーションの技術を修得する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。 課題に対して予習・復習を2時間程度行う。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミ活動についてのガイダンス</li> <li>2. 文献検索の方法、図書館の利用方法</li> <li>3. 運動生理学の基礎・応用知識の習得①、論文購読①</li> <li>4. 運動生理学の基礎・応用知識の習得②、論文購読②</li> <li>5. 運動生理学の基礎・応用知識の習得③、論文購読③</li> <li>6. 運動生理学の基礎・応用知識の習得④、論文購読④</li> <li>7. 基本的な身体の構造と機能</li> <li>8. 姿勢の改善、柔軟性やバランス能力、体幹トレーニング</li> <li>9. 動く身体の作り方</li> <li>10. 筋力トレーニング</li> <li>11. 持久性トレーニング</li> <li>12. エビデンスベースのトレーニングを考える①</li> <li>13. エビデンスベースのトレーニングを考える②</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>1. ゼミへの積極的な参加姿勢(20%)  2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容(40%)  3. 課題への取り組み(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題等については、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:課題やプレゼンテーション等</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:課題やプレゼンテーション等</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:課題やプレゼンテーション等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:課題やプレゼンテーション等</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布等</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>スポーツ選手の食事摂取状況、身体状況などから選手にとっての理想的な食事を考察できるようにする。また、理想的な食事を提供できるようにするためにはどうすればよいかを検討する。主体的に考え、行動できる力を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。スポーツ選手と直接かかわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を把握する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度、スポーツ栄養学 I、II を復習しておく</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2.文献検索、発表①</li> <li>3.文献検索、発表②</li> <li>4.学外実習(スポーツ選手の食事調査)</li> <li>5.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定)</li> <li>6.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握)</li> <li>7.食事調査解析①</li> <li>8.食事調査解析②</li> <li>9.体力測定、身体測定解析①</li> <li>10.体力測定、身体測定解析②</li> <li>11.選手へのフィードバック①</li> <li>12.選手へのフィードバック②</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート確認後、内容について解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 適宜資料配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて随時紹介します</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  4回生で履修する卒業論文作成を目標とし、研究テーマに沿った論文検索や、検索した論文内容を他者へ説明する能力を養うことを目的とする。</p> <p>[ 授業概要 ]  「給食」をテーマに研究する。演習又は実習を行う。  研究テーマの例は以下の通り。  1. 保育所や幼稚園における食物アレルギー児への給食の栄養量と他の児童への給食の栄養量とに差があるのかについて献立を分析  2. 食物アレルギー児を対象とした給食のおやつについての検討  3. 高齢者福祉施設で提供されている実施献立の栄養量の分析  4. 高齢者福祉施設での行事食についての検討  これらのテーマを例として各自で研究計画を作成し、卒業論文作成の準備を進める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  特定給食施設における給食運営について復習しておくとともに、これらに関する新聞記事などに関心を持つこと  (各回, 予習復習合わせて2時間程度程度)</p> <p>[ 授業計画 ]  1. オリエンテーション  2. 研究テーマの検討  3. 研究テーマの決定  4. 研究計画書作成①  5. 研究計画書作成②  6. 参考文献検索  7. 研究計画書作成①  8. 研究計画書完成②  9. 中間発表会(1)  10. テーマごとの演習又は実習①  11. テーマごとの演習又は実習②  12. 中間発表会(2)  13. まとめ</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業態度70%、レポート20%、中間発表成績10%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 個別指導を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポートにより評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:授業態度により評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:中間発表により評価する</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響について学ぶ	演習	
担当者	斎藤 あつ子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

- ・微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響について、基礎的知識を有し、説明できるようになる。
- ・卒業論文のテーマを決定するために必要な基礎的知識を修得する。
- ・本演習(ゼミ)活動を通して、「情報を収集し分析する力」「情報を整理しまとめる力」「整理しまとめられた情報＝知識を口頭または文章で発表するプレゼンテーション力」を身につけ、習得する。
- ・学び方を学び、修得する。

[授業概要]

食中毒・消化管感染症を引き起こす微生物のように、ヒトの体に侵入して病気を引き起こす病原微生物もいるが、常在微生物として例えばヒトの消化管を住処にしてヒトの共生し、健康の維持に重要な役割を果たす微生物、さらには積極的に摂取される微生物もいる。本演習では、まず、担当教員がこのテーマに関係して興味深いと感じている事項を紹介する。さらに、感染症治療食という教員のアイデアを紹介する。その上で、教員とともに、これら微生物が食や健康に及ぼす影響ならびに食が微生物・感染症に及ぼす影響について、教科書や文献などを抄読し、情報を収集、分析、整理して、まとめ、発表などする。必要・要望があれば、実習/実験を行い、情報の確認や検討などを行う可能性がある。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

日頃より研究テーマに関係する専門書や文献を読むなどして、知識を広げ、修得すること。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。

[授業計画]

1. オリエンテーション 自己紹介等によるコミュニケーションの実践
2. 本テーマに関する興味深い事例の紹介(教員より)①
3. 本テーマに関する興味深い事例の紹介(教員より)②
4. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表①
5. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表②
6. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表③
7. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表④
8. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑤
9. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑥
10. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑦
11. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑧
12. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑨
13. 全体のまとめ・発表

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響 について学ぶ	演習	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ]          プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          レポートに関しては、講義内で、または後ほど、添削などして返却する。          プレゼンテーション、ディスカッションについては、講義内で、または後ほど、アドバイス・コメント・評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          適宜、参考になる文献・資料等を提示する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          なし</p>			



科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>非常食や保存食の必要性について理解できるようになる。 論文の書き方を過去の論文を参考にし、研究テーマの選び方を考えられるようになる。 調理技術を向上させ自らが作成した献立を実施できるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>①子供から高齢者のライフステージに応じた食生活をテーマにアレルギーや栄養コントロール等現代社会の食の問題を考慮できる食生活のあり方についての知識を深める。また、日本の良き食文化を学び、郷土料理や行事食についての知識を習得し、伝承方法等を見出し、食について学習を行う。</p> <p>②非常時の食についても研究を重ね、非常時のための「必要な備え」について研究を行う。アレルギー対応食や郷土料理、災害食が一人で作れるようになるための実技も行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の課題・次回の課題の予習復習合わせて2時間程度。 課題論文をよく読み、内容をまとめておいてください。 次回の発表に備え、レポートやパワーポイントを作成し、プレゼンの練習をしておいてください。 課題調理の実習予習をしておいてください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 基礎調理を行う</li> <li>3. 災害時に関する文献を読む</li> <li>4. 災害の備えについて考える</li> <li>5. 災害時の食事を作る①</li> <li>6. 災害時の食事を作る②</li> <li>7. アレルギー食品について学ぶ</li> <li>8. アレルギー食品を除去した食事を考える</li> <li>9. 提案した献立を実施する</li> <li>10. 郷土料理について学ぶ</li> <li>11. 郷土料理を作る①</li> <li>12. 郷土料理を作る②</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ]  課題についての提出物(50%)、パワーポイントの作成(30%)、発表(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  提出物は、後日添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 課題についての提出物、パワーポイント作成、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法: 課題についての提出物、パワーポイント作成、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法: 課題についての提出物、パワーポイント作成、発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 課題についての提出物、パワーポイント作成、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 課題についてのレポート、パワーポイント作成、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 課題についてのレポート、パワーポイント作成、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: 課題についての提出物、パワーポイント作成、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 健康・栄養上の問題点を食事調査結果から抽出する手法を学ぶ。地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。</p> <p>[ 授業概要 ] 明治時代の医学者高木兼寛は、和食から洋食に変更する事で当時結核と並んで2大国民病であった脚気の発症が予防できる事を発見しました。この様に、ひとつの食品、食事形態により疾病を予防する方法が明らかになる事もあります。 この演習では、世界で起こっている健康問題と、食と栄養に関わる種々の因子との関わりについて疑問を持ち、解決するための手法を身に付ける事を目的とします。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 1, 2回生で学んだ栄養学の基礎を復習するようにしてください。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ] 1. オリエンテーション、授業の進め方 2. 栄養疫学調査について①文献研究・発表 3. 栄養疫学調査について②文献研究・発表 4. 栄養疫学調査について③研究デザインの概要、倫理的配慮 5. 栄養疫学調査について④食事調査法の概要 6. 栄養疫学調査について⑤サンプリング法 7. 栄養調査に必要なスキル①調査紙の作成(1) 8. 栄養調査に必要なスキル②調査紙の作成(2)ポーションサイズの決定 9. 栄養調査に必要なスキル③身体測定法 10. 栄養調査に必要なスキル④生体試料の分析 11. 栄養調査に必要なスキル⑤データの入力と分析 12. 調査計画立案 13. 調査計画発表(プレゼンテーション)、ディスカッション</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(10%)、ゼミ中の課題(30%)、プレゼンテーション(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは後日添削して返却します。課題は、ディスカッション後、返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート・プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート・プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート・プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント資料</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 随時紹介します</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 4回生で行う卒業論文作成のための基礎トレーニング実験、ならびに文献検索の方法を学ぶ。</p> <p>[ 授業概要 ] 研究を行う上では、多くの器具や装置を使用する。それらは使用方法を誤ると、研究データが誤ったものになるだけでなく、大事故につながることもある。これらを正確かつ安全に使用できるように、また、4回生で行う卒業研究をイメージできるように基礎トレーニングを行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、課題に取り組むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 研究テーマを考える①</li> <li>3. 研究テーマを考える②</li> <li>4. 文献検索の方法①</li> <li>5. 文献検索の方法②</li> <li>6. ガラス器具の使い方</li> <li>7. 検量線の作成方法</li> <li>8. データーの取り扱い方法①</li> <li>9. データーの取り扱い方法②</li> <li>10. データーの取り扱い方法③</li> <li>11. 実験報告書の作成方法①</li> <li>12. 実験報告書の作成方法②</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート レポートは添削して後日返却。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 個別にフィードバックを面談形式で実施する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 4年次の卒業論文作成に向けて研究デザインを考え、ヒトを対象とする調査の方法を学び、自らの力で調査することができる。</p> <p>[ 授業概要 ] 年齢・地域が異なる様々なヒトを対象に、身体活動量、身体組成(体脂肪量・筋肉量・骨量)、ヘモグロビン濃度、体力の測定ならびに生活活動記録、食事記録、食物摂取頻度調査票、質問紙などを用いて調査を行い、生活習慣に関わる健康問題について検討する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 研究テーマに関するニュース・書籍・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集に努める。 課題に沿ってレポートを作成し、提出する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 参考文献の収集方法</li> <li>3. 研究テーマの検討</li> <li>4. 研究デザインの検討①</li> <li>5. 研究デザインの検討②</li> <li>6. 調査の準備①</li> <li>7. 調査の準備②</li> <li>8. 調査の実施①</li> <li>9. 調査の実施②</li> <li>10. データの収集と集計①</li> <li>11. データの収集と集計②</li> <li>12. データの収集と集計③</li> <li>13. データの収集と集計④</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート提出状況と内容(80%)、授業態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①研究の意義・目的を理解し、主体的に必要な情報収集を行っている。  ②研究の意義・目的を理解し、協働性をもちながら、意欲的に計画・実行に関わっている。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>研究では、調査データの解析や結果の解釈が多数ありますが、健康や疾病等に関する専門知識を生かしながら、文献的考察も十分に行い、結果にどのような意味があるのかを考えていきます。これらの取組みを通して、食生活習慣の重要性を再確認しながら健康づくりや食育等への関心を高めます。また、物事を丁寧に正確に行うこと等の基礎的な能力や、主体的に取り組む姿勢の向上をめざし、種々のソーシャルスキル(コミュニケーションスキル、問題解決スキル、リーダーシップスキル等)も高めて、社会に貢献する基盤を養います。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>何事にも積極的に丁寧に取り組んでください。食や健康関連科目の復習を十分にし、得た知識や研究の進行状況等をノートにまとめるようにしてください。各回の予習復習の目安時間は約2時間です。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 研究計画①</li> <li>3. 研究計画②</li> <li>4. 研究計画③</li> <li>5. 研究計画④</li> <li>6. 文献発表①</li> <li>7. 文献発表②</li> <li>8. 文献発表③</li> <li>9. 文献発表④</li> <li>10. 文献発表⑤</li> <li>11. データ集計①</li> <li>12. データ集計②</li> <li>13. データ集計③</li> </ol>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題60%、研究活動への取組(質疑応答含む)40%で評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題はゼミ生全員で共有し、ゼミ授業内にフィードバックします</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:取組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:課題、取組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:取組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          自らが興味関心があるテーマについて、研究活動における基礎的な調査および分析などの研究に必要なスキルを高める。</p> <p>[ 授業概要 ]          スポーツパフォーマンスにおける「身体運動」に関して、バイオメカニクス・運動生理学・トレーニング科学についての文献調査、基礎的なデータ分析法を学習することより、スポーツパフォーマンスを構成する身体運動について考察します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          下記について予習・復習を2時間程度行う。          ・興味のあるテーマに関する専門書や学術論文を読むこと          ・講義内で取り扱った内容について、まとめること</p> <p>[ 授業計画 ]          第1回 オリエンテーション          第2回 文献検索の方法・論文の読み方          第3回 論文抄読および討論(共通)          第4回 論文抄読および討論(共通)          第5回 プレゼンテーションの方法          第6回 論文抄読および発表(個別)          第7回 論文抄読および発表(個別)          第8回 基礎データ測定          第9回 データ分析(基礎統計量)          第10回 データ分析(条件間の比較)          第11回 データ分析(変数間の関係)          第12回 グループディスカッション          第13回 まとめ</p> <p>*進捗状況によって内容を変更する可能性があります。</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(50%)、授業内課題(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

実験の基本操作や論理的思考を習得する。  
卒業論文のテーマを決定する。

[ 授業概要 ]

興味のある分野の学術論文を読む。そのための論文検索方法や、研究アプローチについてディスカッションを行い、それぞれの研究テーマを決定する。また、各テーマを実施するための基礎知識・技術についてトレーニングを行い、専門演習IIIに備える。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

研究ノートを作成し、実験前には十分な情報収集およびイメージトレーニングをすること。  
必要に応じて、教員と議論すること。  
各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション
2. 文献検索
3. ディスカッション(個別)・文献検索
4. ディスカッション(全体)・文献検索①
5. ディスカッション(全体)・文献検索②
6. ディスカッション(全体)・文献検索③
7. ミーティング
8. 基礎実験体験・練習①
9. 基礎実験体験・練習②
10. データ解析・練習
11. 実験・調査・解析①
12. 実験・調査・解析②
13. まとめ(発表会)

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ]  プレゼンテーション(50%)、課題(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  全体での議論、個別指導を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:課題  プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:課題  プレゼンテーション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:課題  プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  随時紹介</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	アカデミック・スキルを習得する	演習	
担当者	小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 運動による健康教育支援が出来るよう、それぞれの種目に応じた科学的な調査方法ならびに測定方法を検討することができる。</p> <p>[授業概要] 1. 運動・スポーツに関するテーマを見つけ、テーマに見合った研究方法を検討する。 2. ゼミメンバーの調査方法ならびに実験について、互いに協力できる資質を身に付ける。 3. 図書館、電子ジャーナルより、関連する文献を検索し、自分の言葉でまとめる。 4. 基礎的な統計の学習(自らデータ収集を行い、統計分析ができる)。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 主体的に計画性をもって、勉学に取り組めること。また、研究テーマに関するニュース・論文などに日頃から関心をもち、情報収集に努めること。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 参考文献の収集方法① 4. 研究テーマの検討① 5. 研究テーマの検討② 6. 研究テーマの検討③ 7. 研究デザインの検討① 8. 研究デザインの検討② 9. 研究デザインの検討③ 10. 調査の準備① 11. 調査の準備② 12. 調査の実施① 13. まとめ</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	アカデミック・スキルを習得する	演習	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(65%)、課題発表(35%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業等で説明・解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:レポート、プレゼンテーション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			



科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>ゼミでは、大学生として必要な研究全般についての考え方や調査・測定を行う上での心構え、実施方法などを習得する。</p> <p>研究成果を研究会や学会、学術論文等で発表するためのまとめ方、プレゼンテーション方法、文章の書き方、ディスカッションの能力を習得する。</p> <p>卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。</p> <p>そして、ゼミの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>健康づくりのために生活習慣病などの危険因子をどのように減らすか、運動機能や体力を維持・向上させるためにはどのようなことを行っていかねばならないか、運動生理学の知識をベースに研究する。</p> <p>研究テーマに関する専門書、論文を多読・精読し、その内容を整理して、必要な知識の習得に努める。</p> <p>研究内容については、各自のテーマに応じて教員の指導の下で調査や測定を進める。</p> <p>定期的に研究の進捗状況を報告し、課題と問題解決の具体的方法や健全な批判的思考法をゼミ生全体で検討する。</p> <p>各自の卒業論文のテーマを決定する。</p> <p>大学生として、あるいは社会人になるまでに身につけておかなければならない学士力や社会人基礎力の向上を目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。</p> <p>各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め①</li> <li>2. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め②</li> <li>3. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め③</li> <li>4. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め④</li> <li>5. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑤</li> <li>6. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑥</li> <li>7. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑦</li> <li>8. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑧</li> <li>9. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑨</li> <li>10. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑩</li> <li>11. 卒論テーマの選定①</li> <li>12. 卒論テーマの選定②</li> <li>13. 卒論テーマの選定③</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>1. ゼミへの積極的な参加度(20%) 2. 課題(80%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題等については、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 随時紹介します</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  スポーツ選手の食事摂取状況、身体状況などから選手にとっての理想的な食事を考察できるようにする。また、理想的な食事を提供できるようにするためにはどうすればよいかを検討する。主体的に考え、行動できる力を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ]  文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。スポーツ選手と直接かかわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を把握する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習合わせて2時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく</p> <p>[ 授業計画 ]  1.オリエンテーション  2.文献検索、発表①  3.文献検索、発表②  4.学外実習(スポーツ選手の食事調査)  5.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定)  6.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握)  7.食事調査解析①  8.食事調査解析②  9.体力測定、身体測定解析①  10.体力測定、身体測定解析②  11.選手へのフィードバック①  12.選手へのフィードバック②  13.まとめ</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート確認後、内容について解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 適宜資料配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて随時紹介します</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 4回生で履修する卒業論文作成を目標とし、自ら課題を発見し解決する能力を養うことを目的とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 専門演習Ⅰで立案した研究計画を基に、引き続き演習又は実習を行う。 自らの課題に対して、しかるべき根拠を示すために十分な検証を行う。 期間中、数回に亘り発表会を設け、研究経過を第三者に示す経験を積む予定である。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 特定給食施設における給食の栄養管理について復習し、これについての新聞記事などに関心を持つこと(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門演習Ⅰでの経過説明</li> <li>2. 今後の研究計画の発表会</li> <li>3. テーマごとの演習又は実習(1)</li> <li>4. テーマごとの演習又は実習(2)</li> <li>5. 中間発表会</li> <li>6. 論文作成準備(1)</li> <li>7. 論文作成準備(2)</li> <li>8. 研究内容の見直し</li> <li>9. 追加演習又は実習(1)</li> <li>10. 追加演習又は実習(2)</li> <li>11. 専門演習Ⅰ、Ⅱを通じての最終発表会</li> <li>12. 次年度、卒業論文のための準備</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業態度90%、中間発表・最終発表成績10%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 個別指導を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 中間発表・最終発表で評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度で評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 中間発表・最終発表で評価する</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 最終発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響 について探査する	演習	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響について、その中でも興味のあるテーマを見出す。</li> <li>・興味ある課題を選び、その課題について、最新の専門的知識を修得し、説明できるようになる。</li> <li>・本演習(ゼミ)活動を通して、「自ら興味ある課題を見つける力」「情報を収集し分析する力」「情報を整理しまとめる力」「整理しまとめられた情報＝知識を口頭または文章で発表するプレゼンテーション力」を身につけ、修得する。</li> <li>・発展的な学び方を学び、修得する。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>専門演習I(または専門演習Ⅱの前半)で獲得した知識をもとに、微生物の食や健康に及ぼす影響、食の微生物・感染症に及ぼす影響について、興味のある課題を選び、関連する文献などを抄読し、情報を収集、分析、整理して、まとめ、発表などする。必要・要望があれば、実習/実験を行い、情報の確認や検討などを行う可能性がある。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃より研究テーマに関係する専門書や文献を読むなどして、知識を広げ、修得すること。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書または文献抄読から興味ある課題の選択と今後の方針の決定①</li> <li>2. 教科書または文献抄読から興味ある課題の選択と今後の方針の決定②</li> <li>3. 教科書または文献抄読から興味ある課題の選択と今後の方針の決定③</li> <li>4. 教科書または文献抄読から興味ある課題の選択と今後の方針の決定④</li> <li>5. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表①</li> <li>6. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表②</li> <li>7. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表③</li> <li>8. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表④</li> <li>9. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑤</li> <li>10. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑥</li> <li>11. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑦</li> <li>12. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑧</li> <li>13. 全体のまとめ・発表</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響について探究する	演習	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ]          プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          レポートに関しては、講義内で、または後ほど、添削などして返却する。          プレゼンテーション、ディスカッションについては、講義内で、または後ほど、アドバイス・コメント・評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力          成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70%          授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          適宜、参考になる文献・資料等を提示する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          なし</p>			



科目名	専門演習Ⅱ	後期	1単位
サブタイトル		演習	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>4回生で行う卒業研究のテーマを決定し、実行案を作成できるようになる。 調理技術を向上させ、どのような課題にも対応できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>大規模災害が多発する中で、緊急時でも子供から高齢者のライフステージに応じた食生活を維持できるように取り組み、アレルギーや栄養コントロール等現代社会の問題についても考慮できる食生活のあり方についての知識を深める。また、日本の良き食文化を学び、郷土料理や行事食についての知識を習得し、実際に調理を行い伝承方法等を見出し、食について学習を行う。また、緊急時の備えとして、災害食を発案し、試作を行いレシピを作成し、防災冊子を制作する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 前回の内容をよく復習し、次回の発表に備え、レポートを作成しておいてください。 普段から新聞や関連資料をよく読んでまとめておいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 文献検索①</li> <li>3. 文献検索②</li> <li>4. 文献検索③</li> <li>5. 文献検索④</li> <li>6. 資料作成、試作①</li> <li>7. 資料作成、試作②</li> <li>8. 資料作成、試作③</li> <li>9. 資料作成、試作④</li> <li>10. 資料作成、試作⑤</li> <li>11. 資料作成、試作⑥</li> <li>12. 資料作成、試作⑦</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題についての提出物(50%)、実技・発表(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題についての提出物、発表、実技</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題についての提出物、発表、実技</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題についての提出物、発表、実技</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題についての提出物、発表、実技</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題についての提出物、発表、実技</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題についての提出物、発表、実技</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題についての提出物、発表、実技</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 食事調査結果や実験から抽出した因子を分析する力を身に着ける</p> <p>[ 授業概要 ] 1880年代、オランダ人医師クリスティアーン・エイクマンはインドネシアで脚気の原因を調査中、偶然白米で飼われていたニワトリが脚気と同様の症状を示すことを見出しました。それに反し、玄米で飼育したニワトリには脚気の症状が見られない事から、精米時に取り除かれる糠に脚気を予防する成分が含まれる事を明らかにし、その成分の抽出に成功しました。それが、現在ビタミンB1(チアミン)と呼ばれる物質です。この演習では、専門演習Ⅰで学んだ栄養学的アプローチにより抽出した健康状態に与える因子を適切な実験により明らかにする手法を学びます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] これまでの講義で学んだ栄養学の基礎について復習しておくこと。 普段から身近な健康問題と食との関わりについて疑問を持ち、文献などに目を通しておくこと。 各回、2時間程度は予習、復習に費やす事。</p> <p>[ 授業計画 ] 1. オリエンテーション, 授業の進め方 2. 栄養学研究について①文献検索 3. 栄養学研究について②文献調査・発表 グループ① 4. 栄養学研究について③文献調査・発表 グループ② 5. 栄養学研究について④文献調査・発表・ディスカッション グループ① 6. 栄養学研究について⑤文献調査・発表・ディスカッション グループ② 7. 栄養学研究について⑥研究計画立案 8. 栄養学研究について⑦研究計画立案・発表 9. 栄養学研究について⑧研究計画立案・ディスカッション 10. 栄養学研究について⑨ディスカッション グループ① 11. 栄養学研究について⑩ディスカッション グループ② 12. 研究計画発表会 13. まとめ 今後の進め方について</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(30%)、プレゼンテーション(40%)、ディスカッション(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは、後日添削して返却します。プレゼンテーションは、ディスカッションは、ルーブリックで評価します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション(ルーブリック)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: プレゼンテーション(ルーブリック)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: プレゼンテーション(ルーブリック) レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: プレゼンテーション(ルーブリック) レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: プレゼンテーション(ルーブリック)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント資料</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 随時紹介します</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

専門演習Iで学習したことをスキルアップさせる。

[ 授業概要 ]

専門演習Iで学んだ内容を基に、実際の研究を遂行する。

研究素材として、ミネラルや食物成分を用い、生活習慣病の予防を目指した基礎的研究を行う。また、生活習慣病とミネラルとの間にどのような関係があるのかを、動物の臓器や血液ならびに種々の装置を利用して解明を行う。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、課題に取り組むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。

[ 授業計画 ]

1. ガイダンス
2. pHメーターの使い方
3. プレートリーダーの使い方
4. 原子吸光光度計の使い方
5. 骨破断機の使い方
6. 遠心機の使い方
7. 紫外可視吸光光度計の使い方
8. 実験動物の取り扱い法／解剖の方法
9. リパーゼ活性の測定
10.  $\alpha$  グルコシダーゼ活性の測定
11. アミラーゼ活性の測定
12. ACE活性の測定
13. まとめ

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート レポートは添削して後日返却。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 個別にフィードバックを面談形式で実施する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

専門演習Ⅰに引き続き、ヒトを対象とする調査の方法を学び、自らの力で調査することができる。収集したデータを用いて統計処理ができる。

[ 授業概要 ]

年齢・地域が異なる様々なヒトを対象に、身体活動量、身体組成(体脂肪量・筋肉量・骨量)、ヘモグロビン濃度、体力の測定ならびに生活活動記録、食事記録、食物摂取頻度調査票、質問紙などを用いて調査を行い、生活習慣に関わる健康問題について検討する。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

課題に沿ってレポートを作成し、提出する。

研究テーマに関するニュース・書籍・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集に努める。

[ 授業計画 ]

1. 調査の準備①
2. 調査の準備②
3. 調査の実施①
4. 調査の実施②
5. データの収集と集計①
6. データの収集と集計②
7. データの収集と集計③
8. データの収集と集計④
9. 問題抽出①
10. 問題抽出②
11. 統計処理①
12. 統計処理②
13. 卒業論文テーマ決定に向けての検討

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート提出状況と内容(80%)、授業態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

- ①研究の意義・目的を理解し、主体的に必要な情報収集を行っている。  
 ②研究の意義・目的を理解し、協働性をもちながら、意欲的に計画・実行に関わっている。

[ 授業概要 ]

健康や疾病に関する専門知識を実践に活かし、文献的考察をふまえてデータを分析、評価、考察するといった卒業研究の一連の流れとして行います。  
 専門演習Ⅱでは、各種のアンケート調査のデータを整理し、分析に必要なデータベース作りを行い、統計学的な分析を行います。分析を行うには丁寧なデータベース作りが必須です。またデータ分析のためには、研究内容を十分に理解しておく必要があります。文献の読み直しも十分に行いましょう。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

何事にも積極的に丁寧に取り組んでください。食や健康関連科目の復習を十分にし、得た知識や研究の進行状況等をノートにまとめるようにしてください。各回の予習復習の目安時間は約2時間です。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション
2. アンケート調査等のデータ入力、データベース作り①
3. アンケート調査等のデータ入力、データベース作り②
4. アンケート調査等のデータ入力、データベース作り③
5. アンケート調査等のデータ入力、データベース作り④
6. データ分析とディスカッション①
7. データ分析とディスカッション②
8. データ分析とディスカッション③
9. データ分析とディスカッション④
10. 図表作成①
11. 図表作成②
12. 図表作成③
13. 図表作成④

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題60%、ゼミ活動への取組40%(質疑応答を含む)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題は随時添削して返却します。頻繁にやり取りがあります。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:取組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:取組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:取組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:取組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]          自らが興味関心があるテーマについて、研究活動における専門的な調査および分析などの研究に必要なスキルを高める。</p> <p>[ 授業概要 ]          スポーツパフォーマンスにおける「身体運動」に関して、バイオメカニクス・運動生理学・トレーニング科学についての専門的なデータ測定・分析法を学習することより、スポーツパフォーマンスを構成する身体運動について考察します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          下記について予習・復習を2時間程度行う。          ・興味のあるテーマに関する専門書や学術論文を読むこと          ・講義内で取り扱った内容について、まとめること</p> <p>[ 授業計画 ]          第1回 オリエンテーション          第2回 身体組成の測定と評価①(肢長・周囲長)          第3回 身体組成の測定と評価②(筋厚・皮脂厚)          第4回 筋力測定と評価          第5回 心拍数と血中乳酸濃度の測定と評価          第6回 血中および筋酸素動態の測定と評価          第7回 筋電図の測定と評価          第8回 フィールドテストの測定と評価          第9回 動作解析の測定          第10回 動作解析の分析          第11回 個人課題 調査と分析          第12回 個人課題 発表          第13回 まとめ</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業態度(50%)、授業内課題(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:プレゼンテーションとレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  専門演習Ⅱで検討した内容をベースに、卒業論文作成に向けてデータを蓄積する。</p> <p>[ 授業概要 ]  専門演習Ⅱで決定したテーマについて、どこまでを明らかにするのか道筋を描き十分な議論を行う。得られた結果について、道筋に逸れることなく多方面から解析・思考出来るよう、全体でのミーティング、トレーニングを行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  研究ノートを作成し、実験前には十分な情報収集およびイメージトレーニングをすること。  ゼミ仲間とも確認・協力・議論すること。必要に応じて、教員と議論すること。  各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験・調査・解析①</li> <li>2. 実験・調査・解析②</li> <li>3. 実験・調査・解析③</li> <li>4. 中間報告発表会</li> <li>5. 実験・調査・解析④</li> <li>6. 実験・調査・解析⑤</li> <li>7. 実験・調査・解析⑥</li> <li>8. 中間報告発表会</li> <li>9. 実験・調査・解析⑦</li> <li>10. 実験・調査・解析⑧</li> <li>11. 実験・調査・解析⑨</li> <li>12. 実験・調査・解析⑩</li> <li>13. まとめ(発表会)</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ]  プレゼンテーション(50%)、課題(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  都度、議論・指導する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:ゼミ活動を通じて</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:ゼミ活動を通じて</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:ゼミ活動を通じて</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  随時紹介</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	卒業研究論文の作成にむけて	演習	
担当者	小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.他者に論理立てて、「問題→解決方法→結果→考察」のプロセスを経て課題について、説明または発表することができる。</p> <p>2.他者の発表に対し、批判的思考力をもって質疑応答することができる。</p> <p>3.卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>研究テーマに関するニュース・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集・整理を行う。論文作成の方法やプレゼンテーションの技術を修得する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃から研究テーマに関する図書や論文を読み、得られた知識をノートに整理すること。課題に対して予習・復習を2時間程度行う。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. コーチング学の基礎・応用知識の習得①、論文講読①</li> <li>3. コーチング学の基礎・応用知識の習得②、論文講読②</li> <li>4. スポーツ心理学等の基礎・応用知識の習得①、論文講読①</li> <li>5. スポーツ心理学等の基礎・応用知識の習得②、論文講読②</li> <li>6. 論文作成の進め方①、テーマづくり</li> <li>7. 論文作成の進め方②、データ収集、実験方法</li> <li>8. 論文作成の進め方③、データ分析</li> <li>9. 論文作成の進め方④、統計解析</li> <li>10. 論文作成の進め方⑤、考察の作り方</li> <li>11. プレゼンテーションの方法① 図、表の作り方</li> <li>12. プレゼンテーションの方法② 話し方、質問の仕方</li> <li>13. プレゼンテーションの方法③ まとめ</li> </ol>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	卒業研究論文の作成にむけて	演習	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>1. 実験参加姿勢(65%) 2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容(35%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] フィードバックは授業中に都度行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:グループワーク、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布等</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>卒業論文を作成するために必要な基本的なスキルや知識、専門的技能を身につける。特に、運動生理学に関する課題に対しての問題解決能力や論理的思考力、コミュニケーションスキルを習得する。 そして、4年間の集大成として創造性に富んだ卒業論文を完成させる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>各自が設定した研究テーマにしたがって実験や調査を行い、卒業論文を作成する。各ゼミ生は定期的に研究経過を報告し、多くのディスカッションを通して、研究内容を深めるようにする。論文作成と同時に発表形式にもまとめ、適切なプレゼンテーションができるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。 各課題についての理解度を高めるために5時間程度の時間を確保してください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業論文作成の進め方とテーマの検討①</li> <li>2. テーマの検討②</li> <li>3. 研究計画書の作成</li> <li>4. 文献資料の収集と整理①</li> <li>5. 文献資料の収集と整理②</li> <li>6. 文献資料の収集と整理③</li> <li>7. テーマの再検討・修正①</li> <li>8. テーマの再検討・修正②</li> <li>9. 実験・調査の実施、データ解析①</li> <li>10. 実験・調査の実施、データ解析②</li> <li>11. 実験・調査の実施、データ解析③</li> <li>12. 実験・調査の実施、データ解析④</li> <li>13. 実験・調査の実施、データ解析⑤</li> </ol> <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. 論文作成①</li> <li>15. 論文作成②</li> <li>16. 論文作成③</li> <li>17. 論文作成④</li> <li>18. 論文作成⑤</li> <li>19. 論文作成⑥</li> <li>20. 論文作成⑦</li> <li>21. 論文作成⑧</li> <li>22. 論文作成⑨</li> <li>23. 論文作成⑩</li> <li>24. プレゼンテーションpp作成、発表練習①</li> <li>25. プレゼンテーションpp作成、発表練習②</li> <li>26. プレゼンテーションpp作成、発表</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ]  学科の卒業論文評価基準(ルーブリック)により評価する(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ルーブリックによる評価内容を解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 卒論評価基準</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法: 卒論評価基準</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法: 卒論評価基準</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 卒論評価基準</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 卒論評価基準</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 卒論評価基準</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: 卒論評価基準</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布等</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

P11100740 [ WHI4-001 ]

[4栄]\*通年木4

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  3回生の専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて解析・分析した資料をもとに、文献検索、文章の書き方などを学び、卒業論文を完成させる。研究課題について調べたことをまとめて発表し、プレゼンテーションの方法についても深く学ぶ。</p> <p>[ 授業概要 ]  文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。スポーツ選手と直接かかわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を導き出したうえで、身体状況との関連を考察する</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習合わせて4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱ、スポーツ栄養情報処理演習、スポーツ栄養クッキングを復習しておく</p> <p>[ 授業計画 ]  1.オリエンテーション  2.論文の書き方  3.卒業論文のテーマ設定  4.文献検索、発表①  5.文献検索、発表②  6.学外実習(スポーツ選手の食事調査①)  7.学外実習(スポーツ選手の食事調査②)  8.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定①)  9.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定②)  10.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握①)  11.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握②)  12.食事調査解析①  13.食事調査解析②  14.体力測定、身体測定解析①  15.体力測定、身体測定解析②  16.卒業論文の研究計画①  17.卒業論文の研究計画②  18.卒業論文の中間発表・ディスカッション①  19.卒業論文の中間発表・ディスカッション②  20.卒業論文の中間発表・ディスカッション③  21.卒業論文の中間発表・ディスカッション④  22.卒業論文の仕上げ①  23.卒業論文の仕上げ②  24.卒業論文プレゼンテーション準備  25.卒業論文プレゼンテーション  26.まとめ</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート確認後、内容について解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 表現力/ 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 適宜資料配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて随時紹介します</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 各自の研究テーマに添った卒業論文作成を目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 専門演習Ⅰ・Ⅱで立案した研究計画を基に十分な検証を行い、論文を作成する。 期間中、数回に亘り発表会を設け、研究経過を第三者に示す経験を積む予定である。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 特定給食施設における栄養管理に常に関心を持ち、新聞記事などから新しい知見を修得するよう心がけること (各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門演習Ⅱでの経過説明(1)</li> <li>2. 専門演習Ⅱでの経過説明(2)</li> <li>3. 研究計画発表会準備</li> <li>4. 研究計画発表会</li> <li>5. データ分析演習(1)</li> <li>6. データ分析演習(2)</li> <li>7. データの再検証(1)</li> <li>8. データの再検証(2)</li> <li>9. データの再検証(3)</li> <li>10. 調理演習(1)</li> <li>11. 調理演習(2)</li> <li>12. 調理演習(3)</li> <li>13. 研究結果まとめ(1)</li> <li>14. 研究結果まとめ(2)</li> <li>15. 研究結果まとめ(3)</li> <li>16. 中間発表(1)</li> <li>17. 中間発表(2)</li> <li>18. 考察の検討(1)</li> <li>19. 考察の検討(2)</li> <li>20. 考察の検討(3)</li> <li>21. 論文完成に向けてまとめ(1)</li> <li>22. 論文完成に向けてまとめ(2)</li> <li>23. 論文修正</li> <li>24. 最終発表会に向けた準備</li> <li>25. 最終発表会</li> <li>26. まとめ</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[ 成績評価方法 ] 論文作成過程90%、中間発表・最終発表成績10%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 個別指導を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:論文作成過程90%、中間発表・最終発表成績10%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:論文作成過程90%、中間発表・最終発表成績10%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:論文作成過程90%、中間発表・最終発表成績10%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:最終発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:論文作成過程</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:論文作成過程</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:論文作成過程</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で選択したテーマで情報を調査・収集し、解析してまとめ、考察を加えて卒業論文を完成する。</li> <li>・文献検索の方法、発表の仕方、論文の書き方が身につく。</li> <li>・選択したテーマについて、問題点の発見と解決方法の立案、仮説の設定と証明方法の立案ができるようになる。</li> <li>・論理的思考力が身につく。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>これまでの専門演習I, IIでの学びを基盤にして、担当教員と相談し、各自でテーマを選択し、選択したテーマについて情報を調査・収集し、解析してまとめ、考察を加えて卒業論文を完成する。必要・要望があれば、発見した問題点を解決につながるまたは仮説の証明につながる実験を行う可能性がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃より研究テーマに関係する専門書や文献を読むなどして、知識を広げ、修得すること。  各回、予習復習を合わせて2時間程度必要とする。  一般社会におけるマナー・ルールをわかまえること。  各回、予習復習を合わせて5時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画]</p> <p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業論文のテーマの選定と論文作成の進め方①</li> <li>2. 卒業論文のテーマの選定と論文作成の進め方②</li> <li>3. 卒業論文のテーマの選定と論文作成の進め方③ 計画書の作成</li> <li>4. 資料収集と論文作成①</li> <li>5. 資料収集と論文作成②</li> <li>6. 資料収集と論文作成③</li> <li>7. 資料収集と論文作成④</li> <li>8. 前期中間発表</li> <li>9. 資料収集と論文作成⑤</li> <li>10. 資料収集と論文作成⑥</li> <li>11. 資料収集と論文作成⑦</li> <li>12. 資料収集と論文作成⑧</li> <li>13. 前期まとめ発表</li> </ol> <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. 論文作成(個別指導)①</li> <li>15. 論文作成(個別指導)②</li> <li>16. 論文作成(個別指導)③</li> <li>17. 論文作成(個別指導)④</li> <li>18. 論文作成(個別指導)⑤</li> <li>19. 後期中間発表</li> <li>20. 論文作成(個別指導)⑥</li> <li>21. 論文作成(個別指導)⑦</li> <li>22. 論文作成(個別指導)⑧</li> <li>23. 論文作成(個別指導)⑨</li> <li>24. 論文作成(個別指導)⑩</li> <li>25. 論文作成(個別及び全体指導)</li> <li>26. 卒業論文最終発表 (論文作成の進み具合によって、発表日などを変更する場合があります。)</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ] 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒論発表会において、講評を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11100740E [ WHI4-001 ]

[4栄]\*通年木4



科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>各自のテーマに取り組み、卒業論文を完成させることができる。          パワーポイントを作成し、卒業論文発表ができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>① 緊急時の「食」をテーマに対象者の年齢やアレルギー対策などにも対応できる災害・保存食を研究する。          ② 料理と食材の変遷から、日本人の食生活の変化を研究する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。          各自の研究テーマに合わせ、資料収集、データ整理を行っておいください。          次回に前回からの進行状況を必ずまとめ、報告が行えるようにしておいてください。          次回までに仕上がった文章を提出できるようにしておいてください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 卒業論文の進め方</li> <li>3. 研究のテーマ決定①</li> <li>4. テーマの文献・資料の探し方</li> <li>5. テーマの文献・資料の収集①</li> <li>6. テーマの文献・資料の収集②</li> <li>7. 進行状況の発表</li> <li>8. 目次の作成①</li> <li>9. 目次の作成②</li> <li>10. 進行状況の発表</li> <li>11. 論文作成①</li> <li>12. 論文作成②</li> <li>13. 進行状況の発表</li> </ol> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中間発表の準備①</li> <li>2. 中間発表の準備②</li> <li>3. 中間発表①</li> <li>4. 中間発表②</li> <li>5. 内容検討</li> <li>6. 論文作成①</li> <li>7. 論文作成②</li> <li>8. 論文作成③</li> <li>9. 論文発表の準備①</li> <li>10. 論文発表の準備②</li> <li>11. 論文発表の準備③</li> <li>12. 論文発表</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文制作(90%)、発表(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・卒業論文は、部分ごとに提出された文章を添削して返却を行います。 ・発表用のパワーポイントも添削し返却を行います。 ・発表の練習でのアドバイスをを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文制作、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文制作、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文制作、発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文制作、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文制作、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文制作、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文作成、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

P11100740F [ WHI4-001 ]

[4栄]\*通年木4

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 実験や調査で得たデータの現状把握と分析、効率的な情報検索、データの正確な処理、データの解析と考察する能力を養う事を目指す。</p> <p>[授業概要] 1. 栄養調査:フィールドワーク調査を行い、そのデータを基にした栄養教育プログラムの構築を目指す。 2. 栄養学的実験:様々な病態モデル動物(食事誘因、自然発症)を用いて、食餌、運動が実験動物の生理機能に及ぼす影響について検討する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ手法を基に、自らが疑問に思い、研究したいと思う内容について、最新の論文等を検索し、知識を得ておく。各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 科学論文の検索法 3. 科学論文の読み方 4. 抄読会 5. 研究テーマの立案 6. 研究テーマの検討 7. 研究テーマの決定 8. 実験計画の立案 9. 実験手技① 10. 実験手技② 11. 実験手技③ 12. 実験手技④ 13. 実験手技⑤ 14. 予備実験 15. 予備実験結果の解析, 発表 16. 実験計画の再立案 17. 実験① 18. 実験② 19. 実験③ 20. 実験④ 21. データ解析 22. 参考文献の記載方法 23. 研究のまとめ方① 24. 研究のまとめ方② 25. プレゼンテーション方法 26. 卒業論文発表会</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文内容(50%)、プレゼンテーション(50%)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業論文は、添削後返却します。プレゼンテーションはルブリックに基づき評価します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文・プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文・プレゼンテーション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 随時プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 随時紹介します</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 研究テーマの実験計画を立て、実験を行い、結果を考察して論文を作成する。 講義の空き時間には、研究室で積極的に卒業研究課題に取り組むことが必須である。</p> <p>[授業概要] 専門演習ⅠとⅡでイメージした内容をもとに、研究を進める。 (1)生活習慣病の予防・治療を目的とした、新規ミネラル含有成分や食物成分の探索研究を行う。具体的には、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症をターゲットに、化学試薬、酵素、動物組織を用いたin vitro実験や疾患モデル動物を用いたin vivo実験を行う。 (2)生活習慣病で生体内のミネラルレベルに変化が生じるのか？この疑問を解明するために、種々の疾患モデル動物から臓器や血液を採取し、ミネラル濃度の定量研究を行う。併せて生化学パラメータの測定も行い、ミネラルの変動と生活習慣病の網羅的解析を行う。 (3)ミネラルを用いた生活習慣病予防や治療の最先端はどのようなものか？文献情報を検索してまとめ、新たな生活習慣病予防の方策を提案する事を課題とする。 (4)サプリメントや栄養補助食品として市販されている物品を用い、生体への影響を評価する。 など</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、卒業論文の課題に取り組むこと。</p> <p>[授業計画] 研究テーマに沿って学生自身が実験計画を立て、実験を行い、得られた結果を考察するが、これらを必要に応じて個別指導する。また、これをまとめて期限内に論文を作成できるように指導する。</p> <p><b>【前期】</b> 1. 研究テーマ関連文献の検索(1) 2. 研究テーマ関連文献の検索(2) 3. 研究テーマ関連文献の検索(3) 4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1) 5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2) 6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3) 7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4) 8. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5) 9. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6) 10. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7) 11. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(8) 12. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(9) 13. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(10)</p> <p><b>【後期】</b> 1. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1) 2. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2) 3. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3) 4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4) 5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5) 6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6) 7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7) 8. 論文作成(1) 9. 論文作成(2) 10. 論文作成(3) 11. 論文作成(4) 12. 論文作成(5) 13. 卒業論文発表会</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] グループワーク(40%)ならびに卒業論文(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 個別にフィードバックを面談形式で実施する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識のもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート・討論</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート・討論</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート・討論</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート・討論</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・討論</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・討論</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート・討論</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文を完成させる。 卒業論文の内容を要約してプレゼンテーションツールを使って規定時間内に発表できる。</p> <p>[授業概要] 卒業論文の書き方について解説し、テーマに沿った個別指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 卒業論文テーマに関連するニュース・書籍・論文などに日頃から関心を持ち、参考文献等の収集に努める。 計画に沿って卒業論文を作成し、提出する。</p> <p>[授業計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業論文テーマの決定</li> <li>2. 参考文献の収集①</li> <li>3. 参考文献の収集②</li> <li>4. 参考文献の収集③</li> <li>5. 論文作成①</li> <li>6. 論文作成②</li> <li>7. 論文作成③</li> <li>8. 論文作成④</li> <li>9. 論文作成⑤</li> <li>10. 論文作成⑥</li> <li>11. 論文作成⑦</li> <li>12. 論文作成⑧</li> <li>13. 論文中間提出</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別指導①</li> <li>2. 個別指導②</li> <li>3. 個別指導③</li> <li>4. 個別指導④</li> <li>5. 個別指導⑤</li> <li>6. 個別指導⑥</li> <li>7. 個別指導⑦</li> <li>8. 個別指導⑧</li> <li>9. 卒業論文最終提出</li> <li>10. 卒業論文発表会スライド作成①</li> <li>11. 卒業論文発表会スライド作成②</li> <li>12. 卒業論文発表会発表練習①</li> <li>13. 卒業論文発表会発表練習②</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文提出状況と内容(90%)、卒業論文発表会プレゼンテーション(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業論文は添削して後日返却する。 プレゼンテーションのスライドは発表練習時にコメントする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・卒業論文発表会プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①卒業論文の作成および発表のための準備を計画的に進めることができる。  ②得られた結果について、統一した書式でわかりやすく図表にまとめることができる。  ③得られた結果について、専門知識等を統合して理論的に考察することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>研究活動で得た種々のデータを分析します。結果の考察では、これまで学んだ専門知識等を統合し、文献を交えながら考察します。研究の目的、方法、結果、考察、結論のそれぞれをよく考え、論述できる力を養い、論文の完成をめざします。また、卒業論文発表会のプレゼンテーションでわかりやすく第三者に伝える力を養います。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>文献等の情報収集は自己で進め、得た知識や進行状況をノートにまとめる等、自主的、計画的に進めてください。各回の自己学習は4時間程度、終盤はそれ以上が必要です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文作成: 序論 研究背景①</li> <li>2. 論文作成: 序論 研究背景②</li> <li>3. 論文作成: 序論 研究背景③</li> <li>4. 論文作成: 序論 研究背景④</li> <li>5. 論文作成: 研究方法まで①</li> <li>6. 論文作成: 研究方法まで②</li> <li>7. 論文作成: 研究方法まで③</li> <li>8. プレゼンテーション図表作成①</li> <li>9. プレゼンテーション図表作成②</li> <li>10. プレゼンテーション図表作成③</li> <li>11. プレゼンテーション図表作成④</li> <li>12. プレゼンテーション原稿作成①</li> <li>13. プレゼンテーション原稿作成②</li> <li>14. プレゼンテーション原稿作成③</li> <li>15. プレゼンテーション原稿作成、考察④</li> <li>16. プレゼンテーション原稿作成、考察⑤</li> <li>17. プレゼンテーション原稿作成、考察⑥</li> <li>18. 論文作成: 結果①</li> <li>19. 論文作成: 結果②</li> <li>20. 論文作成: 結果③</li> <li>21. 論文作成: 考察①</li> <li>22. 論文作成: 考察②</li> <li>23. 論文作成: 考察③</li> <li>24. 論文作成: 考察④</li> <li>25. 論文作成: 仕上げ①</li> <li>26. 論文作成: 仕上げ②</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
<p>[ 成績評価方法 ] 卒業論文作成60%、卒論発表プレゼン資料作成40%(それぞれ成果物だけでなく取組みも含む)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 随時添削して返却します。頻繁にやり取りがあります。マナバを使用し全員が閲覧できるように共有します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文作成</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文作成</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 自身の研究テーマに関連する文献を多数精読し、既知の事柄から新たな仮説を導くことが出来るようになる。また、その仮説を検証するためにはどのような研究を行えば良いか論理的に計画・実行できるようになる。</p> <p>[授業概要] 綿密な計画と入念な議論を行い、立てた仮説を検証するべく研究を実施する。文献、参考書、試薬・機器メーカーへの問い合わせ等、自身でトラブルシューティングを行いながら、目標目指して研究を行い、得られた結果について解析・考察を行う。最終的には卒業論文としてまとめる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 必要な情報を文献より収集し、事前に計画・イメージトレーニングを行っておく。試薬・機器類の扱い方についても事前に修練し、実験当日は滞りなく遂行できるようにする。</p> <p>[授業計画]</p> <p>前期:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマ関連文献の収集・精読①</li> <li>2. 研究テーマ関連文献の収集・精読②、議論</li> <li>3. 研究テーマ関連文献の収集・精読③、議論、実験準備</li> <li>4. 実験準備、議論</li> <li>5. 実験および議論①</li> <li>6. 実験および議論②</li> <li>7. 実験および議論③</li> <li>8. 実験および議論④</li> <li>9. 実験および議論⑤</li> <li>10. 実験および議論⑥</li> <li>11. 実験および議論⑦</li> <li>12. 実験および議論⑧</li> <li>13. 実験および議論⑨</li> </ol> <p>後期:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験および議論、論文作成①</li> <li>2. 実験および議論、論文作成②</li> <li>3. 実験および議論、論文作成③</li> <li>4. 実験および議論、論文作成④</li> <li>5. 実験および議論、論文作成⑤</li> <li>6. 実験および議論、論文作成⑥</li> <li>7. 実験および議論、論文作成⑦</li> <li>8. 実験および議論、論文作成⑧</li> <li>9. 実験および議論、論文作成⑨</li> <li>10. 実験および議論、論文作成⑩</li> <li>11. 実験および議論、論文作成⑪</li> <li>12. 論文仕上げ</li> <li>13. 卒業論文発表会</li> </ol>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
<p>[ 成績評価方法 ] 研究室内発表(30%)、卒業論文(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題について個別に面談形式で議論し、解決する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 研究活動</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 研究活動</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 研究活動</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 研究活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 研究活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 研究活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 研究活動</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

研究テーマの実験計画を立て、実験を行い、結果を考察して論文を作成する。  
講義の空き時間には、研究室で積極的に卒業研究課題に取り組むことが必須である。

[授業概要]

自分で設定したテーマについて、科学的手法を用いて論文を作成する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

初歩的な統計処理ができる。  
各自で設定した課題について先行研究を行い、学問的問いを立てることができる。

[授業計画]

研究テーマに沿って学生自身が実験計画を立て、実験を行い、得られた結果を考察するが、これらを必要に応じて個別指導する。また、これをまとめて期限内に論文を作成できるように指導する。

【前期】

1. 研究テーマ関連文献の検索(1)
2. 研究テーマ関連文献の検索(2)
3. 研究テーマ関連文献の検索(3)
4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1)
5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2)
6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3)
7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4)
8. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5)
9. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6)
10. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7)
11. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(8)
12. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(9)
13. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(10)

【後期】

1. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1)
2. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2)
3. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3)
4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4)
5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5)
6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6)
7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7)
8. 論文作成(1)
9. 論文作成(2)
10. 論文作成(3)
11. 論文作成(4)
12. 論文作成(5)
13. 卒業論文発表会

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度40%、卒業論文60%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業等で説明・解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	卒業論文	前期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  3回生の専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて解析・分析した資料をもとに、文献検索、文章の書き方などを学び、卒業論文を完成させる。研究課題について調べたことをまとめて発表し、プレゼンテーションの方法についても深く学ぶ。</p> <p>[ 授業概要 ]  文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。スポーツ選手と直接かかわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を導き出したうえで、身体状況との関連を考察する</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習合わせて4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱ、スポーツ栄養情報処理演習、スポーツ栄養クッキングを復習しておく</p> <p>[ 授業計画 ]  1.文献検索、発表①  2.文献検索、発表②  3.食事調査解析①  4.食事調査解析②  5.体力測定、身体測定解析①  6.体力測定、身体測定解析②  7.卒業論文の中間発表・ディスカッション①  8.卒業論文の中間発表・ディスカッション②  9.卒業論文の中間発表・ディスカッション③  10.卒業論文の仕上げ①  11.卒業論文の仕上げ②  12.卒業論文の仕上げ③  13.卒業論文プレゼンテーション</p>			

科目名	卒業論文	前期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート確認後、内容について解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 適宜資料配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて随時紹介します</p>			



科目名	体育原理		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界や日本のスポーツ動向および教育情勢を理解できる。</li> <li>・体育の役割および体育理念の変遷について説明できる。</li> <li>・体育における技術指導、人格教育について、具体的な指導法を理解できる。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>近年、教科の枠を超えて機能する資質・能力の育成を目指した教育への転換が図られている。このような動向を踏まえ、新学習指導要領では、①「知識・技能」の習得、②「思考力・判断力・表現力等」の育成、③「学びに向かう力・人間性等」の涵養が示された。本授業では、体育授業での指導場面を想定にしながら、「体育の役割は何か」、「体育は何を教える教科か」などの根源的な問題を解明していく。加えて、技術指導、人格教育など具体的な指導法についても講義する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業前にテキストを必ず読んできてください。予習・復習に4時間程度必要とします。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>第1回: ガイダンス: 体育原理で何を学ぶのか  第2回: 体育の理念はどのように変わってきたのか  第3回: 体育とスポーツは何が違うのか  第4回: 体育における人間形成、フェアプレイ  第5回: 体育で競争をどのように位置づけるか  第6回: 体育と指導者——体育教師とコーチ、何が違うのか  第7回: 運動部活動の意義と課題  第8回: スポーツとグローバリゼーション  第9回: スポーツと環境問題  第10回: スポーツとメディア、  第11回: スポーツとオリンピック、ドーピング  第12回: スポーツとジェンダー  第13回: まとめ</p> <p>* 受講生の理解度に応じて授業内容の順番を変更する場合がある。</p>				

科目名	体育原理	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(50%)、課題提出(10%)、筆記試験(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業等で説明・解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]  学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]  教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 授業態度、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  授業で用いる資料をmanabaに掲示する。予習で用いるため必ずダウンロード・印刷してくること。予習してきた内容を授業内で毎回、確認を行う。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  教養としての体育原理  著者名: 友添秀則・岡出美則編 出版社: 大修館書店、2016</p>			

科目名	体育心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

体育・スポーツ心理学における理論をもとに、体育・スポーツ指導場面においてやる気を引き出す動機付けのしかた、学習効果を高める助言のしかた、有能感を高める指導ができることを目指す。

[ 授業概要 ]

体育・スポーツならびに健康づくりにおける心理学的知見を学習する。講義で学び得た知見をもとに、自らの経験と照らし合わせ省察することで理解度をより高めていく。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

これまでの経験した体育・スポーツ場面を振り返り、そのエピソードを記録できるようにすること。

[ 授業計画 ]

1. 体育・スポーツ心理学とはどのような学問か
2. 心理的スキル、やる気、動機付け
3. 集中力、自信、自尊感情
4. 学習効果を高める集団マネジメント
5. 技術獲得と運動学習
6. 運動・スポーツに伴う感情変化①
7. 運動・スポーツに伴う感情変化②
8. スポーツとポジティブ心理学
9. スポーツ活動とストレス、バーンアウト
10. スポーツと心の健康づくり
11. 運動・スポーツとメンタルヘルス
12. 運動・スポーツとライフスキル
13. まとめ

\* 学習者の理解度等によって内容順を変更することがあります。

科目名	体育心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度・プレゼンテーション(50%)、課題・筆記試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内に連絡します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/ 健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 責任感/ 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法: 授業態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: 授業態度、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  これからの体育・スポーツ心理学 著者名: 國部雅大ほか(編・著) 出版社: 講談社(4065311691)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  適宜資料を配布する。</p>			

科目名	調理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  美味しさをどのように判断するのか理解できるようになる。  調理操作と調理機器の関係を理解できるようになる。  食品素材が調理方法によって変化する状況を理解する以上の項目から調理の仕組みを理解することで、実際の調理にその知識が生かせるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]  『人間と環境にやさしい調理を行うために』調理学では、如何においしく食するためには、食品の素材を知り調理方法を理解する必要がある。そのために、様々な知識を修得し、実際の調理に結びつける裏付けを理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習合わせて4時間程度。  小テストを行うので授業内容の復習を行うこと。  理解できなかったことをまとめ、質問表を作成し、理解できるまで質問を行ってください。  次回の授業の予習を行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 調理学の概要1  2. 調理学の概要2  3. おいしさの科学とその評価1  4. おいしさの科学とその評価2  5. おいしさの科学とその評価3  6. 調理操作と調理機器1  7. 調理操作と調理機器2  8. 食品の調理特性1  9. 食品の調理特性2  10. 食品の調理特性3  11. 食品の調理特性4  12. 食品の調理特性5  13. まとめ・質問についての解説</p>			

科目名	調理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 理解度確認試験(70%)、小テスト(20%)、提出物(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・試験は、答案用紙を回収後、解答の解説をします。 ・小テストは、後日添削をして返却します。 ・レポートは、後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] Nブックス 新版 調理学〔第3版〕 著者名:鈴野弘子他編著 出版社:建帛社 (978-4-7679-0645-4)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	調理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松浦 紀美恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  美味しさをどのように判断するのか理解できるようになる。  調理操作と調理機器の関係を理解できるようになる。  食品素材が調理方法によって変化する状況を理解する以上の項目から調理の仕組みを理解することで、実際の調理にその知識が生かせるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]  『人間と環境にやさしい調理を行うために』調理学では、如何においしく食するためには、食品の素材を知り調理方法を理解する必要がある。そのために、様々な知識を修得し、実際の調理に結びつける裏付けを理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習合わせて4時間程度。  小テストを行うので授業内容の復習を行うこと。  理解できなかったことをまとめ、質問表を作成し、理解できるまで質問を行ってください。  次回の授業の予習を行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 調理学の概要1  2. 調理学の概要2  3. おいしさの科学とその評価1  4. おいしさの科学とその評価2  5. おいしさの科学とその評価3  6. 調理操作と調理機器1  7. 調理操作と調理機器2  8. 食品の調理特性1  9. 食品の調理特性2  10. 食品の調理特性3  11. 食品の調理特性4  12. 食品の調理特性5  13. まとめ・質問についての解説</p>			

科目名	調理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松浦 紀美恵		
<p>[ 成績評価方法 ] 理解度確認試験(70%)、小テスト(20%)、提出物(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・試験は、答案用紙回収後、解答の解説をします。 ・小テストは、後日添削をして返却します。 ・レポートは、後日添削をして返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 理解度確認試験、小テスト、提出物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] Nブックス 新版 調理学〔第3版〕 著者名: 鈴野弘子他編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0645-4)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	トレーニング実践演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング	演習	
担当者	奥野 直、坂元 美子、小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムトレーニングをはじめとするフィットネスおよび食生活の栄養のあり方について、実践を通して学ぶ。</li> <li>学外でのパフォーマンスにむけてトレーニングを行い、本番で最大限に発揮できるコンディショニング方法を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>それぞれの専門分野における体力づくりに応じた長い期間のトレーニングと食事管理を両立させるために栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃からの健康状態を良好に保つ 各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ダンスパフォーマンス、大会参加 全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸、参加発表部門)に関する説明 (小島理永) 4/11 5限 C409 予定</li> <li>筋力・柔軟性向上にむけたトレーニングプログラムの作成(奥野直) * 別途連絡</li> <li>体組成測定および基礎体力調査: 栄養指導(坂元美子) * 別途連絡</li> <li>リズムトレーニングの実際①: 下半身の動きを中心に 作品のテーマ決め(小島理永)4/20 2限</li> <li>リズムトレーニングの実際②: 上半身の動きを中心に 個人のモチーフ創作、音楽探し(小島理永)5/18 2限</li> <li>リズムトレーニングの実際③: コンビネーション 集団でのモチーフ創作(小島理永)6/15 2限</li> <li>作品の組み立て(小島理永)6/29 2限</li> <li>作品完成(小島理永)7/13 1, 2限</li> <li>通し稽古(小島理永)7/20 2限</li> <li>通し稽古: 衣装付き(小島理永)7/27 2限</li> <li>11-12. 通し稽古: 衣装付き(小島理永)8/3 1, 2限</li> <li>場当たり: ゲネプロ 8月7日または8日予定(小島理永) 作品発表: 本番 8月9日(金) 予定(小島理永)</li> </ol> <p>学内行事などによって予定の変更があります。 また、必要に応じて授業時間外の自主練習が入ることもあります。 詳細はmanabaで連絡します。必ず確認してください。</p> <p>参考URL 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) <a href="https://www.ajdf.jp/">https://www.ajdf.jp/</a></p> <p>Sia 『アライヴ feat. 土屋太鳳 / Alive feat. Tao Tsuchiya』 <a href="https://youtu.be/Q6pTQd24iLs?si=yFEztbxlvqj9hd0">https://youtu.be/Q6pTQd24iLs?si=yFEztbxlvqj9hd0</a></p> <p>コンテンポラリーダンス作品「The departure」 contemporary dance <a href="https://youtu.be/3Uasgae19k?si=ZjV9tgSikY0QKMqu">https://youtu.be/3Uasgae19k?si=ZjV9tgSikY0QKMqu</a></p> <p>Oxygen - Breakin Convention London Sadler's Wells 2022 <a href="https://youtu.be/QLykINP4_Mo?si=8Ho984RhhE_AtIH7">https://youtu.be/QLykINP4_Mo?si=8Ho984RhhE_AtIH7</a></p>			

P11100871 [ WHI3-039 ]

【不開講】[1栄]\*前期集中

科目名	トレーニング実践演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング	演習	
担当者	奥野 直、坂元 美子、小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>トレーニング記録およびレポート(70%) パフォーマンス評価(10%) トレーニング理論・スポーツ栄養学に関するレポート(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 随時紹介する。</p>			

P111100871 [ WHI3-039 ]

【不開講】[1栄]\*前期集中

科目名	トレーニング実践演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング	演習	
担当者	奥野 直、坂元 美子、大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方を研究し、その効果をまとめ、エンデュランス・ランニングを実践する。</li> <li>・トレーニング実践演習Ⅰで身につけた能力を、本講義においても最大限に発揮する方法を理解する。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>スポーツ栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を通じて、それぞれの専門分野における長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方について学び、長距離走の実践を行なう。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃からの健康状態を良好に保つ 各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 長距離走に向けた体力とは:生理的見地から/ 持久力・筋力とトレーニングプログラム作成(奥野直)</li> <li>2. 基礎体力及び体組成測定、栄養指導(坂元美子)</li> <li>3. 長距離走におけるパフォーマンス決定要因(大沼勇人)</li> <li>4. パフォーマンス測定:タイムトライアル(大沼勇人)</li> <li>5. トレーニング実践Ⅰ:ロングスロージョグ(大沼勇人)</li> <li>6. トレーニング実践Ⅱ:ビルドアップ走(大沼勇人)</li> <li>7. トレーニング実践Ⅲ:ペース走(大沼勇人)</li> <li>8. トレーニング実践Ⅳ:インターバル走(大沼勇人)</li> <li>9. トレーニング実践Ⅴ:シティラン(大沼勇人)</li> <li>10. ロードレース大会参加(大沼勇人)</li> <li>11. ロードレース大会参加(大沼勇人)</li> <li>12. 駅伝大会参加(大沼勇人)</li> <li>13. 駅伝大会参加(大沼勇人)</li> </ol> <p>2024年度 開講予定</p> <p>1~3回 10月27日(日)1~3限 4~5回 11月03日(日)1~2限 6~7回 11月10日(日)1~2限 8~9回 11月17日(日)1~2限 10~11回 12月8日(日)1~2限 12~13回 12月14日(土)1~2限</p> <p>学年暦および外部大会スケジュール次第によって変更の可能性があります。 連絡についてはmanabaで確認すること。 4回目以降は学外で実施予定です。</p>			

科目名	トレーニング実践演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング	演習	
担当者	奥野 直、坂元 美子、大沼 勇人		
<p>[ 成績評価方法 ]  トレーニングおよびコンディションに関するレポートおよび能力評価(80%)  レポート:トレーニング理論、スポーツ栄養学理論(20%)  レポートは後日返却する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:身体能力評価、受講態度、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  随時紹介する。</p>			

科目名	トレーニング論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>中学・高等学校教諭免許状(保健体育)を取得するために必要なとして、学校体育や課外活動等において安全かつ効果的なトレーニング指導の実践に必要な理論と技能を身につけるものである。グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>競技成績にこだわるトップアスリートのみならず健康の維持を目的とする一般人においても、個々のトレーニング方法を誤ると期待できる成果を得ることはできない。そこで、専門スポーツ種目に必要な戦術、技術、体力やメンタルを高めることを目的とした科学的なトレーニングの手段や方法と指導のポイントについて解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツパフォーマンスの向上に向けての課題</li> <li>2. 年齢別、性別、専門スポーツ種目における試合への戦略、戦術</li> <li>3. 年齢別、性別、専門スポーツ種目における試合への技術、体力、メンタル</li> <li>4. トレーニングの目標設定、問題形成、原因分析、課題の提示と優先順位、</li> <li>5. トレーニング計画の構築、トレーニングアセスメント 測定、評価、診断</li> <li>6. トレーニングの手段及び方法と実践① 筋力・パワー、ジャンプ力・瞬発力</li> <li>7. トレーニングの手段及び方法と実践② 平衡バランス、柔軟性</li> <li>8. トレーニングの手段及び方法と実践③ 持久力・コーディネーション、メンタル</li> <li>9. スポーツ種目別トレーニング① バレーボール・バスケットボール</li> <li>10. スポーツ種目別トレーニング② テニス・バドミントン・卓球</li> <li>11. スポーツ種目別トレーニング③ 陸上競技・競泳競技・体操競技</li> <li>12. スポーツ種目別トレーニング③ 柔道・剣道・ダンス・新体操</li> <li>13. スポーツ種目別トレーニング④ サッカー・ラグビー・ハンドボール</li> </ol>			

科目名	トレーニング論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[ 成績評価方法 ]  プレゼンテーション(60%)とレポート(40%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポート課題については、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/ アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/ 国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: プレゼンテーションとレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	パソコン操作とスポーツ栄養学のデータ処理の基礎技術	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	浅木森 和夫		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>授業を通して、次のことを目標とします。</p> <p>① Windows パソコンのカスタマイズができる</p> <p>② フリーソフトを適切に利用できる</p> <p>③ 健康やスポーツに関するデータをパソコンを使って処理できる</p> <p>④ プログラミングを通してパソコンを利用できる</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>学生の多くはスマートフォンやタブレットの操作にはたけているが、パソコンを道具として創造的な仕事をするには消極的である。当該学科は、健康や栄養、運動に関係するデータを科学的に分析することによりさまざまな課題の解決を目指している。</p> <p>授業では、必携としているWindowsパソコンを用いて、パソコンの基礎技術からはじめて、フリーソフトを利用したプログラミング、簡単な統計処理、栄養計算などの学びを通して、パソコンを当該学科が目指す創造的な学習に利用できるようにする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業では、LMS(学習管理システム Moodle)を利用します。テキストや練習問題、宿題などの学習資源はLMS上に公開します。LMSに公開される資料を予習や復習に利用し学習に取り組んでください。また、要所・要所でコンピュータを利用して実施する小テストをクリアできるようポイントまとめましょう。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業ガイダンス、LMSのコース登録</li> <li>2.必携パソコンの学内LANへの接続、学内資源の利用</li> <li>3.Windowsパソコンの基礎</li> <li>4.パソコン利用環境の整備(ファイルシステム、ショートカット)</li> <li>5.ソフトウェアのインストール</li> <li>6. Excelの復習(データの入力、表のレイアウト)</li> <li>7.Excel の進んだ利用(関数の利用、データの可視化)</li> <li>8. 栄養計算の実際</li> <li>9.統計ソフトR のインストールとプログラミング</li> <li>10.R を使った簡単な計算</li> <li>11. Rを使った記述統計</li> <li>12. Rを使ったデータの可視化</li> <li>13.学習目標達成度確認・解説</li> </ol>			

科目名	パソコン操作とスポーツ栄養学のデータ処理の基礎技術	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	浅木森 和夫		
<p>[ 成績評価方法 ] 成績は、学習への振り返り(15%)、グループワーク(10%)、小テスト(10%)、課題(30%)、到達度確認試験(35%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 学習への振り返りや質問や疑問などについては、毎回授業のはじめにフィードバックします。小テストや課題については終了後、解答、ポイントをフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:グループワーク 課題 試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	保健体育科指導法 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>本科目では体育授業づくりに必要な基本的な理論を理解し、学習成果の見込めるよい体育授業を立案するための教材解釈力を身に付けることをねらいとし、以下をその到達目標として設定する。</p> <p>①体育の目標と各領域の内容構成について、その特性を踏まえて説明できる。</p> <p>②体育理論領域の指導内容を学習指導要領から読み取り、記述できる。</p> <p>③保健体育科の学習評価の方法について、具体例を用いながら説明できる。</p> <p>④目標、学習者の様相に適した指導内容を設定し、学習成果の見込める教材を作成できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>中学・高等学校の保健体育科教員に必要とされる体育授業に関する理論について理解する。特に、学習成果の見込めるよい体育授業の設計に必要な教材解釈力の育成を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習・復習に2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回:オリエンテーション(授業の進め方、評価方法、レディネス調査) 保健体育科の教科としての役割期待(生涯スポーツ、体力の向上、健康の保持増進)</p> <p>第2回:保健体育科の目標と内容(目標・内容の系統性、保健と体育を関連付けた指導)</p> <p>第3回:体育と学習者(プレイ論、子どもの運動欲求と体力)</p> <p>第4回:今日までの体育授業の課題と今後の体育授業の在り方、学習形態と指導スタイル、教材・教具、単元教材・下位教材の捉え方</p> <p>第5回:体づくり運動の意義と授業構成、指導案(体づくり運動の目標と授業づくりの視点)</p> <p>第6回:器械運動・水泳の特性と授業構成、指導案(アナログ型、スモールステップ)</p> <p>第7回:陸上競技の特性と授業構成、指導案(個人的運動の集団化)</p> <p>第8回:球技(ゴール型、ベースボール型)の特性と授業構成、指導案(ボール・用具の操作、ボールを持たない時の動き、戦術学習)</p> <p>第9回:球技(ネット型)の特性と授業構成、指導案(連携プレイタイプ・攻守一体タイプの種目特性)</p> <p>第10回:武道・ダンスの特性と授業構成、指導案(武道・ダンスの本質的な楽しさと安全面の確保の重視)</p> <p>第11回:体育理論の内容と授業構成、指導案(体育理論の意義、学習指導要領から指導内容を読み取る方法、様々な授業スタイル)</p> <p>第12回:保健体育科の学習評価、学習成果の見込める教材づくり(指導内容の明確化・教材化)</p> <p>第13回:体育授業のリフレクションの視点と方法、まとめ</p> <p>* 受講生の理解度により授業計画が変更される場合もある。</p>				

科目名	保健体育科指導法 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度 (50%)、プレゼンテーション (30%)、筆記試験 (20%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ]  授業等で説明・解説します。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養1-1 / 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養2-1-1 / 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養3-1 / 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ (知識・技術の向上および最新情報の収集を行う) 能力を有している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 課題、プレゼンテーション</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  体育科教育学入門 著者名: 岡出美則 編 出版社: 大修館書店 (4469269115)  高等学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社: 東山書房 (4827815682)  中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年7月 告示 著者名: 文部科学省 出版社: 東山書房 (4827815607)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  manabaにて資料を適宜掲示する。各自でプリントアウトをしておくこと。</p>			

科目名	保健体育科指導法Ⅱ		後期	2単位
サブタイトル			講義	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]          本科目では保健科教育についての基本的な事項を理解し、学習成果の見込めるよい保健授業を設計・実践・省察するための実践的な指導力を身に付けることをねらいとし、以下をその到達目標として設定する。          ①中学校・高等学校の保健科教育の位置づけ、学習指導要領に示された目標や内容とそれらの系統性について理解し、説明できる。          ②保健の目標・内容に沿った系統性のある授業計画の立て方について理解し、単元計画ならびに単位時間計画に反映させることができる。          ③授業づくりの工夫や評価の方法等について理解し、単元計画ならびに単位時間計画に反映させることができる。</p> <p>[授業概要]          中学・高等学校の保健科教育(中学の保健分野および高等学校の科目「保健」)に関する基本的な事項ならびに保健授業づくりの理論について理解を深めるとともに、保健授業の指導における実践的な教科指導力を身に付ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          予習・復習で2時間程度</p> <p>[授業計画]          第1回:オリエンテーション(授業の進め方、評価方法、レディネス調査)、学校保健活動(保健教育・保健管理)の枠組みと全体像、学校教育における保健科教育の位置づけ          第2回:これまでの保健授業の在り方とその問題点、よい保健授業の条件          第3回:学習指導要領に示された小学校の保健領域、中学の保健分野、高等学校の科目保健の目標・内容の概要とそれらの系統性の理解          第4回:観点別評価の方法、授業計画(単元計画、単位時間計画)の作成方法          第5回:保健の目標と内容1(中学1年)          第6回:保健の目標と内容2(中学2年)          第7回:保健の目標と内容3(中学3年)          第8回:保健の目標と内容4(高校入学年次)          第9回:保健の目標と内容5(高校入学年次以降)          第10回:保健学習の授業スタイルの工夫(主体的・対話的で深い学び、ICT機器の活用、ディスカッション、実習、ロールプレイング、課題解決学習、実験、学習資料の活用、机間指導)          第11回ICT教材の作成①          第12回ICT教材の作成②          第13回:保健授業のリフレクションの視点と方法、まとめ</p> <p>*学生の理解度に応じて、順番を変更することがあります。</p>				

科目名	保健体育科指導法Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(50%)、プレゼンテーション(30%)、試験(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  manabaまたは授業時等で対応します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-3/国際貢献ができる能力を持つ。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  成績評価方法:上記、評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業態度、ディスカッション、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度、ディスカッション、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション、プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度、ディスカッション、</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  資料はmanabaに掲載、または授業時に資料を配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  中学校学習指導要領 著者名:文部科学省 出版社:東山書房  高等学校学習指導要領 著者名:文部科学省 出版社:東山書房  保健科教育法入門 著者名:森 良一 出版社:東洋館出版社(4491039674)</p>			

科目名	保健体育科指導法Ⅲ		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>学習成果の見込めるよい保健体育授業を立案するための教材解釈力を身に付けることをねらいとし、以下をその到達目標として設定する。</p> <p>①「よい保健体育授業とは何か」を構造的に理解することができることができる。</p> <p>②理論をもとに実践場面で効果的に授業立案および実践ができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>「よい保健体育授業とは何か」をキーワードとし、講義を中心にアクティブラーニングを取り入れ授業を展開していく。主として保健体育授業実践に直結する体育科教育学・保健科教育学の理論を中心に学び、それらの理論を実践の場面で効果的に発揮できる力(授業の立案、実践)の習得を目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>予習・復習に2時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーション、よい体育保健授業とは</p> <p>第2回:保健体育の学習指導論①(授業づくり、教材・教具づくり、四大教師行動)</p> <p>第3回:保健の指導方略と指導技術②(ICTを活用した体育授業)</p> <p>第4回:単元計画作成および評価のポイント</p> <p>第5回:指導案作成および評価基準・規準</p> <p>第6回:本時計画の作成および評価のポイント</p> <p>第7回:保健の授業づくり①(板書計画)</p> <p>第8回:保健の授業づくり②(発問の仕方)</p> <p>第9回:保健の授業づくり③(ICTを活用した教材づくり①)</p> <p>第10回:保健の授業づくり④(ICTを活用した教材づくり②)</p> <p>第11回:保健の授業づくり⑤(ICTを活用した教材づくり③)</p> <p>第12回:保健の授業づくり⑥(本時計画の作成および評価のポイント)</p> <p>第13回:まとめ</p> <p>* 受講生の理解度により授業計画が変更される場合もある。</p>				

科目名	保健体育科指導法Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度・プレゼンテーション(60%)、課題(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業等で説明・解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 課題、授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  体育科教育学入門 著者名: 岡出美則 編 出版社: 大修館書店 (4469269115)  高等学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社: 東山書房 (4827815682)  中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年7月 告示 著者名: 文部科学省 出版社: 東山書房 (4827815607)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  manabaにて資料を適宜掲示する。各自でプリントアウトしておくこと。</p>			

科目名	保健体育科指導法Ⅳ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>本科目では模擬授業を設計・指導案作成・実践・省察する活動を通し、保健体育教師として求められる実践的指導力を身に付けることを到達目標とする。</p> <p>①学習指導要領に基づく保健体育科の目標と内容および学習者の発達段階を踏まえた授業立案ができる。</p> <p>②教師行動として、最低限必要とされる態度、発問、学習者との相互作用行動が模擬授業中に発揮できる。</p> <p>③組織的観察法の意義と方法を理解し、客観的に保健体育科授業を省察することができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>中学校・高等学校での保健科教育・体育科教育に関する理論(保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容)を理解した上で、保健授業・体育授業の設計、模擬授業の実践、授業省察等の主体的な学習活動を通して、保健体育科教師に求められる実践的な教科指導力の向上を図る。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>予習・復習に2時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>第1回:オリエンテーション、保健体育科指導法Ⅰ～Ⅲの復習、模擬授業のグループ編成決め</p> <p>第2回:模擬授業の行い方の説明、担当領域の指導内容に関する知識の習得および整理</p> <p>第3回:単元作成について、単位時間計画(学習指導案)の作成</p> <p>第4回:学習資料(スライド、学習カードなど)の作成</p> <p>第5回:体育実技の模擬授業①(体づくり運動(体ほぐしの運動)、)</p> <p>第6回:体育実技の模擬授業②(陸上競技、水泳(水泳の事故防止に関する心得等)</p> <p>第7回:体育実技の模擬授業③(球技:ゴール型、ベースボール型)</p> <p>第8回:体育実技の模擬授業④(球技:ネット型)</p> <p>第9回:体育実技の模擬授業⑤(器械運動)</p> <p>第10回:体育実技の模擬授業⑥(ダンス)</p> <p>第11回:体育実技の模擬授業⑦(武道)</p> <p>第12回:座学授業の模擬授業(体育原理)</p> <p>第13回:模擬授業全体の省察、教育実習に向けた課題の抽出、まとめ</p> <p>* 受講生の理解度により授業計画が変更される場合もある。</p>				

科目名	保健体育科指導法Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度・プレゼンテーション(60%)、課題(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業等で説明・解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 上記、評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  体育科教育学入門 著者名: 岡出美則 編 出版社: 大修館書店 (4469269115)  高等学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社: 東山書房 (4827815682)  中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年7月 告示 著者名: 文部科学省 出版社: 東山書房 (4827815607)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  manabaにて資料を適宜掲示する。各自でプリントアウトしておくこと。</p>			



科目名	理学療法論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	斎藤 あつ子、川口 浩太郎、坂口 顕、玉木 彰、日高 正巳、永井 宏達、森 明子、松沢 良太、曾田 幸一朗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  理学療法(リハビリテーション)について理解し、様々な疾病や傷害に対する評価方法・アプローチ方法・リスク管理等について修得する。</p> <p>[ 授業概要 ]  1～12回の授業は、学外の理学療法士または作業療法士の免許を有する教員に、オムニバス形式で、各教員の専門分野を中心に、教授していただく。1～12回の授業の授業は理学療法全体をバランスよくできるだけカバーしており、本科目を履修することにより、理学療法の全体像が理解できるようになっている。13回目の授業は、本学の医師免許を有する教員が、科目責任者として、授業全体を総括し、試験を行う。  各回の授業では、その回で学んだことのまとめまたは感想をレポートとして提出することが求められるので、レポート作成を通じて、教授内容の理解を深め、知識の定着が促される。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  ・解剖生理学・臨床医学概論・スポーツ医学において学んだ事柄の確認や、運動生理学など運動に関する基本的な分野を復習しておくこと。  ・スポーツに関するニュースやトピックスなどの情報収集を行うこと。  ・各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. リハビリテーション(学外特別講師山崎・斎藤)4/11  2. 理学療法総論(川口)4/18  3. スポーツ理学療法(川口)4/25  4. 運動器疾患の理学療法(川口)5/9  5. 地域における生涯スポーツと理学療法(坂口)5/16  6. 物理療法(坂口)5/23  7. 神経系疾患の理学療法(日高)5/30  8. 心疾患の理学療法(松沢)6/6  9. 呼吸器疾患の理学療法(玉木)6/13  10. Women's health(森)6/20  11. フレイル・サルコペニアの予防理学療法(永井)6/27  12. がんの理学療法(曾田)7/4  13. まとめと試験(斎藤)7/11  ・授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。  ・本講義は原則木曜日3限目に開講予定ですが、第8,12回目講義は木曜日5限目または別の日時に変更される可能性があります。</p>			

科目名	理学療法論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	斎藤 あつ子、川口 浩太郎、坂口 顕、玉木 彰、日高 正巳、永井 宏達、森 明子、松沢 良太、曾田 幸一朗		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート内容25%  試験75%  再試験は、原則、行わない。  再試験を行う場合には、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートは原則返却しないが、必要に応じて、全体に対して、授業中に解説などする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:レポート内容25%  試験75%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:レポート内容25%  試験75%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-3/国際貢献ができる能力を持つ。  成績評価方法:レポート内容25%  試験75%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法:レポート内容25%  試験75%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。  成績評価方法:レポート内容25%  試験75%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート内容25%  試験75%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:レポート内容25%  試験75%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート内容25%  試験75%</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

P11100500 [ WHB3-004 ]

[4栄]\*前期木3

科目名	臨床医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾病の成り立ち	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>全員参加型=通常の反転授業+説明解答型+ディスカッション/グループワーク</small>	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

栄養・運動を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、基盤となる「ヒトの体に起こる病気の成  
因・病態および治療・予防」について基礎的知識を身につけることを目標とする。具体的には、主な疾患を列挙し、  
各疾患の成因・病態、治療・予防法について説明することができるようになる。

[授業概要]

ヒトの体に起こる病気の成因・病態および治療・予防に関連する基礎的知識について、医師免許を有する教員が  
講義を行う。講義の進め方としては、予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、まず教科書を読  
み、予習学習して講義に臨むものとする。学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された  
設問に取り組む、講義を聞いて、正解を見つけるなどする。講義中には、適時、ディスカッションしたり、質問したり  
する機会が与えられ、全員参加型で授業を進める。このようにして、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学  
修する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- ・基盤となる「健康医学入門」「解剖生理学」の知識を確認しておくこと。
- ・予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、教科書をよく読んで予習して授業に臨み、出された  
設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。
- ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。

[授業計画]

01. 消化器系(消化管)の病気 4/9(火)4限
02. 消化器系(肝臓・胆嚢・膵臓)の病気 4/16(火)4限
03. 循環器系の病気①心血管障害 4/23(火)4限
04. 循環器系の病気②脳血管障害 5/7(火)4限
05. 呼吸器系の病気 5/14(火)4限
06. 血液の病気 5/21(火)4限
07. 腎臓・尿路系の病気 5/28(火)4限
08. 内分泌系の病気 6/4(火)4限
09. 女性生殖器・男性生殖器の病気 6/11(火)4限
10. 代謝性疾患 6/18(火)4限
11. 神経系の病気 6/25(火)4限
12. 運動器の病気 7/2(火)4限
13. 免疫系の病気 感染症 補足とまとめ 7/9(火)4限

(授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりす  
る場合があります。)

科目名	臨床医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾病の成り立ち	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)  再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。  課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-3/国際貢献ができる能力を持つ。  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  Visual 栄養学テキスト  人体の構造と機能および疾病の成り立ちIII  疾病の足りたち  著者名:編/田中清 出版社:中山書店 (978-4-521-74286-1)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  栄養科学イラストレイテッド  臨床医学 疾病の成り立ち 著者名:編/田中明・藤岡由夫 出版社:羊土社 (978-4-758-11367-0)  体と病気のしくみ 著者名:田中文彦 出版社:マイナビ (978-4-8399-6552-5)</p>			

P11100070A [ WHB2-002 ]

[2栄A]\*前期火4

科目名	臨床医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾病の成り立ち	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>全員参加型=通常の反転授業+説明解答型+ディスカッション/グループワーク</small>	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

栄養・運動を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、基盤となる「ヒトの体に起こる病気の成  
因・病態および治療・予防」について基礎的知識を身につけることを目標とする。具体的には、主な疾患を列挙し、  
各疾患の成因・病態、治療・予防法について説明することができるようになる。

[授業概要]

ヒトの体に起こる病気の成因・病態および治療・予防に関連する基礎的知識について、医師免許を有する教員が  
講義を行う。講義の進め方としては、予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、まず教科書を読  
み、予習学習して講義に臨むものとする。学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された  
設問に取り組む、講義を聞いて、正解を見つけるなどする。講義中には、適時、ディスカッションしたり、質問したり  
する機会が与えられ、全員参加型で授業を進める。このようにして、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学  
修する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- ・基盤となる「健康医学入門」「解剖生理学」の知識を確認しておくこと。
- ・予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、教科書をよく読んで予習して授業に臨み、出された  
設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。
- ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。

[授業計画]

01. 消化器系(消化管)の病気 4/10(水)4限
02. 消化器系(肝臓・胆嚢・膵臓)の病気 4/17(水)4限
03. 循環器系の病気①心血管障害 4/24(水)4限
04. 循環器系の病気②脳血管障害 5/8(水)4限
05. 呼吸器系の病気 5/15(水)4限
06. 血液の病気 5/22(水)4限
07. 腎臓・尿路系の病気 5/29(水)4限
08. 内分泌系の病気 6/5(水)4限
09. 女性生殖器・男性生殖器の病気 6/12(水)4限
10. 代謝性疾患 6/19(水)4限
11. 神経系の病気 6/26(水)4限
12. 運動器の病気 7/3(水)4限
13. 免疫系の病気 感染症 補足とまとめ 7/10(水)4限

(授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりす  
る場合があります。)

科目名	臨床医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾病の成り立ち	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)  再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。  課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-3/国際貢献ができる能力を持つ。  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:試験70%  授業中の設問などへの取り組み30%</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  Visual 栄養学テキスト  人体の構造と機能および疾病の成り立ちIII  疾病の足りたち  著者名:編/田中清 出版社:中山書店 (978-4-521-74286-1)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  栄養科学イラストレイテッド  臨床医学 疾病の成り立ち 著者名:編/田中明・藤岡由夫 出版社:羊土社 (978-4-758-11367-0)  体と病気のしくみ 著者名:田中文彦 出版社:マイナビ (978-4-8399-6552-5)</p>			

P11100070B [ WHB2-002 ]

[2栄B]\*前期水4

科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養	講義	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各疾患の主な病態を理解している。</li> <li>2. 各疾患の病態に応じた栄養アセスメントができる。</li> <li>3. 各疾患の栄養アセスメントに基づき、適切な栄養食事療法を提示することができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>病院・診療所で栄養食事療法の実践経験を有する教員が担当します。傷病者の療養に関して必要な疾患・病態別の栄養食事療法を学びます。栄養補給法の基礎をはじめ、疾患・病態別の学びでは、どのような病気をよく理解し、栄養アセスメントとしてどのように評価するのか、それらを総合的に考えてどのような栄養食事療法が適切であるかを考えていきます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>基礎栄養学や応用栄養学、生物等の知識も大変重要になります。授業は限られた時間であるため、各回、予習復習を合わせて4時間程度の積極的な自己学習で学びを深めてください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床栄養学の概念(医療制度ほか)</li> <li>2. 栄養補給法(経口栄養、非経口栄養)</li> <li>3. 経口栄養補給法(一般治療食、特別治療食)、経腸栄養補給法</li> <li>4. 静脈栄養法、栄養アセスメント</li> <li>5. 代謝・内分泌系疾患(るい瘦、肥満、メタボリック' S、糖尿病、脂質異常症)</li> <li>6. 代謝・内分泌系疾患(高尿酸血症・痛風) 消化器疾患(胃、炎症性腸疾患)</li> <li>7. 消化器疾患(肝・胆道系疾患、膵疾患、下痢・便秘)</li> <li>8. 循環器疾患(高血圧、動脈硬化症、虚血性心疾患、心不全)</li> <li>9. 腎疾患(慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群)</li> <li>10. 腎疾患(糖尿病腎症、腎不全、透析療法)</li> <li>11. 血液疾患、呼吸器疾患、甲状腺疾患、周術期</li> <li>12. 骨疾患、免疫・アレルギー疾患、摂食・嚥下障害</li> <li>13. サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイル、先天性代謝疾患</li> <li>14. 試験</li> </ol>			

科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養	講義	
担当者	本田 まり		

[ 成績評価方法 ]

試験90%、マナバのドリルまたは小テスト等10%で評価します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

マナバのドリルまたは小テストで難易度が高い問題には解説を付けています。授業中に提示する例題問題では、解答と解説を行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/ 健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。

成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/ アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。

成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

[ 教科書(ISBN) ]

ブックス臨床栄養学概論 著者名: 渡邊早苗・本間和宏・佐藤智英 編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0691-1)

[ 参考書(ISBN) ]

なし



科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養	講義	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各疾患の主な病態を理解している。</li> <li>2. 各疾患の病態に応じた栄養アセスメントができる。</li> <li>3. 各疾患の栄養アセスメントに基づき、適切な栄養食事療法を提示することができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>病院・診療所で栄養食事療法の実践経験を有する教員が担当します。傷病者の療養に関して必要な疾患・病態別の栄養食事療法を学びます。栄養補給法の基礎をはじめ、疾患・病態別の学びでは、どのような病気をよく理解し、栄養アセスメントとしてどのように評価するのか、それらを総合的に考えてどのような栄養食事療法が適切であるかを考えていきます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>基礎栄養学や応用栄養学、生物等の知識も大変重要になります。授業は限られた時間であるため、各回、予習復習を合わせて4時間程度の積極的な自己学習で学びを深めてください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床栄養学の概念(医療制度ほか)</li> <li>2. 栄養補給法(経口栄養、非経口栄養)</li> <li>3. 経口栄養補給法(一般治療食、特別治療食)、経腸栄養補給法</li> <li>4. 静脈栄養法、栄養アセスメント</li> <li>5. 代謝・内分泌系疾患(るい瘦、肥満、メタボリック' S、糖尿病、脂質異常症)</li> <li>6. 代謝・内分泌系疾患(高尿酸血症・痛風) 消化器疾患(胃、炎症性腸疾患)</li> <li>7. 消化器疾患(肝・胆道系疾患、膵疾患、下痢・便秘)</li> <li>8. 循環器疾患(高血圧、動脈硬化症、虚血性心疾患、心不全)</li> <li>9. 腎疾患(慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群)</li> <li>10. 腎疾患(糖尿病腎症、腎不全、透析療法)</li> <li>11. 血液疾患、呼吸器疾患、甲状腺疾患、周術期</li> <li>12. 骨疾患、免疫・アレルギー疾患、摂食・嚥下障害</li> <li>13. サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイル、先天性代謝疾患</li> <li>14. 試験</li> </ol>			

科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養	講義	
担当者	本田 まり		

[ 成績評価方法 ]

試験90%、マナバのドリルまたは小テスト等10%で評価します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

マナバのドリルまたは小テストで難易度が高い問題には解説を付けています。授業中に提示する例題問題では、解答と解説を行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/ 健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。

成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/ アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。

成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 試験、マナバの小テスト

[ 教科書(ISBN) ]

ブックス臨床栄養学概論 著者名: 渡邊早苗・本間和宏・佐藤智英 編著 出版社: 建帛社 (978-4-7679-0691-1)

[ 参考書(ISBN) ]

なし

科目名	臨床栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①疾患・病態に応じた食事計画(主として献立作成)を、盛付等にも配慮して立案できる。  ②疾患・病態に応じた食事を、限られた時間内に、適切かつ安全に調理することが出来る。  ③調理した結果に基づき、的確な反省・評価ができ、改善策を考えることが出来る。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>病院での栄養食事療法の経験を有する教員が担当します。講義で学んだ栄養食事療法の基本を確認し、専門性の高い献立作成や調理法を学びます。食事は、治療だけでなくQOLに大きく影響することをふまえて、美味しく作業効率も考えた治療食作りができる実践力を養います。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>調理の基礎知識や技術が必要なのは言うまでもなく、臨床栄養学、応用栄養学とその実習など関連科目の復習を十分にしてください。実習前後に自己学習を必要とすることが多数あります。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画1</li> <li>たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画2</li> <li>たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画3</li> <li>たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 調理実習および評価・発表</li> <li>摂食・嚥下調整食 説明と計画1</li> <li>摂食・嚥下調整食 説明と計画2</li> <li>摂食・嚥下調整食 調理実習</li> <li>摂食・嚥下調整食 評価・発表</li> <li>食物アレルギー対応食 説明と計画1</li> <li>食物アレルギー対応食 説明と計画2</li> <li>食物アレルギー対応食 調理実習</li> <li>食物アレルギー対応食 評価・発表 エネルギー・塩分コントロール食 演習1 糖尿病食品交換表</li> <li>エネルギー・塩分コントロール食 演習2 展開食作成など</li> <li>まとめ：一般食、特別治療食、栄養報告書など</li> </ol>			

科目名	臨床栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート50%、成果物20%、授業への取組30%  * 成果物は主として作成した献立および料理</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートはチェックして返却します。必要性に応じて口頭で全体にフィードバックします。  作成した献立や料理に対しては、随時確認し、各班または全体に口頭でコメントします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業への取組</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p>			

科目名	臨床栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①疾患・病態に応じた食事計画(主として献立作成)を、盛付等にも配慮して立案できる。  ②疾患・病態に応じた食事を、限られた時間内に、適切かつ安全に調理することが出来る。  ③調理した結果に基づき、的確な反省・評価ができ、改善策を考えることが出来る。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>病院での栄養食事療法の経験を有する教員が担当します。講義で学んだ栄養食事療法の基本を確認し、専門性の高い献立作成や調理法を学びます。食事は、治療だけでなくQOLに大きく影響することをふまえて、美味しく作業効率も考えた治療食作りができる実践力を養います。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>調理の基礎知識や技術が必要なのは言うまでもなく、臨床栄養学、応用栄養学とその実習など関連科目の復習を十分にしてください。実習前後に自己学習を必要とすることが多数あります。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画1</li> <li>たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画2</li> <li>たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画3</li> <li>たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 調理実習および評価・発表</li> <li>摂食・嚥下調整食 説明と計画1</li> <li>摂食・嚥下調整食 説明と計画2</li> <li>摂食・嚥下調整食 調理実習</li> <li>摂食・嚥下調整食 評価・発表</li> <li>食物アレルギー対応食 説明と計画1</li> <li>食物アレルギー対応食 説明と計画2</li> <li>食物アレルギー対応食 調理実習</li> <li>食物アレルギー対応食 評価・発表 エネルギー・塩分コントロール食 演習1 糖尿病食品交換表</li> <li>エネルギー・塩分コントロール食 演習2 展開食作成など</li> <li>まとめ：一般食、特別治療食、栄養報告書など</li> </ol>			

科目名	臨床栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート50%、成果物20%、授業への取組30%  * 成果物は主として作成した献立および料理</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートはチェックして返却します。必要性に応じて口頭で全体にフィードバックします。  作成した献立や料理に対しては、随時確認し、各班または全体に口頭でコメントします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。  成績評価方法:授業への取組</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:レポート、成果物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p>			

看護学部

看護学科

(授業科目名 五十音順)

科目名	医療英語	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	前田 葵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] Acquisition of the fundamental communication skills between nurses and patients in English</p> <p>[ 授業概要 ] As globalization continues, more foreigners have been entering Japan than ever before. Even in the medical field, the demand for the ability to communicate in English between nurses and patients, is increasing. Therefore, we live in an age where English education for doctors, nurses and caretakers is a necessity. In this course, through emphasis on communication between nurses and patients, students acquire the ability to understand patients and make them feel secure. To accomplish this goal we will focus on speaking and listening skills through the following materials. Furthermore we develop reading abilities in order to understand medical records written in English by doctors. グローバル化が進む中、日本でも多くの外国人の入国がみられる現在となった。医療の現場でも看護師と患者との間における英語コミュニケーション能力の需要が高まっている。それゆえ医師、看護師、介護士の特別な英語教育はもはや避けて通れない時代となった。この授業では特に看護師と患者のコミュニケーションを重視して患者の立場を十分理解して安心できる対応がとれるようコミュニケーションの能力を身につける。そのためにはスピーキング、リスニングを中心に授業を進行し、さらに医者が英語で書いたカルテも理解できるようにリーディング力も養っていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] Read the textbook well before class and memorize the medical terms we learn in the previous class.</p> <p>[ 授業計画 ] 1. Classroom activities (based on textbook lesson 1~3) 2. Classroom activities (based on textbook lesson 4~6) 3. Classroom activities (based on textbook lesson 7~8) 4. Classroom activities (based on textbook lesson 9~11) 5. Classroom activities (based on textbook lesson 12~14) 6. Classroom activities (Review) 7. Classroom activities (Review)</p>			



科目名	医療英語	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	前田 葵		
<p>[ 成績評価方法 ] class participation 40%, assignment 20%, mini exam 40%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 遠隔授業の場合はmanabaを通じてフィードバックするが、対面授業の時は翌週に行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] Talking with your patients 著者名:Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai 出版社: SEIBIDO (978-4-7919-7193)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	医療看護実習 I		前期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	玉木 敦子、藤原 由子、高橋 秋絵、横内 光子、奥井 早月、坂口 めぐみ、西原 詩子、関尾 裕子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、大久保 和実、岸野 真由美、小枝 美由紀、原口 梨那、小野 聖子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.病院が個人や地域に対して担う役割について説明することができる。</li> <li>2.看護師の実践と役割について実習体験をもとに説明することができる。</li> <li>3.入院患者の生活や病気の体験について自分の言葉で表現することができる。</li> <li>4.実習を通して今後の自分の課題を見出すことができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>医療看護実習 I では、病院オリエンテーション、看護業務・看護実践の見学を通して、病院や看護師の役割について学ぶ。また、患者とのコミュニケーションを通して入院生活や病気の体験を知ることが目的とする。この実習を通して学生自身がこれから学んでいくべき課題を見出すことをねらいとしている。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院実習にふさわしい身だしなみ、マナーを身につけ、心身の健康を整えて実習に臨む。</li> <li>・病院実習の学びを深めるために、実習前に学内で行われるオリエンテーションや事前演習に必ず参加し、事前課題に取り組む。</li> </ul> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.事前演習が始まる前に、各自で「実習ガイダンス資料」「医療看護実習 I 実習要項」を熟読する。</li> <li>2.実習前に学内で行われるオリエンテーションや事前演習に必ず出席する(日時と場所は別途伝える)。</li> <li>3.充実した実習を行うために計画的に事前課題に取り組み、健康管理に気をつける。</li> <li>4.病院実習初日に、実習病院の看護部門より病院の理念、組織、役割、設備、看護体制などについてオリエンテーションを受け、施設見学を行う。</li> <li>5.病院実習では、看護師に同行して看護実践の場面や業務を見学する。また看護師から紹介を受け、患者とのコミュニケーションを通して入院生活や病気の体験を知る。</li> <li>6.病院実習終了時には毎日デイリーカンファレンスを行う。看護師長または実習指導者に参加を依頼し、学生が主体的に行うデイリーカンファレンスでは、実習で感じたこと、気づいたこと、疑問などをメンバーとディスカッションする。</li> <li>7.病院実習最終日のカンファレンスには看護部長または看護部の教育担当者、看護師長、実習指導者等に参加を依頼し、学生は3日間の病院実習から得た学びを報告する。</li> <li>8.実習最終日は学内でカンファレンスを行う。実習を通して学んだことを学生同士で共有し、自らの成長や学習課題について考えを深める。</li> </ol>				

科目名	医療看護実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	玉木 敦子、藤原 由子、高橋 秋絵、横内 光子、奥井 早月、坂口 めぐみ、西原 詩子、関尾 裕子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、大久保 和実、岸野 真由美、小枝 美由紀、原口 梨那、小野 聖子		
<p>[ 成績評価方法 ]  目標到達度(課題レポートを含む)80%、実習への参加態度(20%)を総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  * 学内最終日にカンファレンスや個人面談を通してフィードバックを行う  * 課題レポートは、教員が添削して返却する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:目標到達度(課題レポートを含む)、実習への参加態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	医療看護実習Ⅱ(急性期)		前期～後期	3 単位
サブタイトル			実習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、渡邊 紀子、岸野 真由美、小野 聖子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他	学内ではシミュレーション演習、臨地では実践演習	実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある患者、急性発症の状況にある患者の身体・精神・社会的な特徴について理解できる。</li> <li>2. 急激に変化する患者の全身状態に応じて提供される看護の内容とその意図を理解し、指導を受けながら看護を実践することができる。</li> <li>3. 患者が手術や侵襲的治療を受けるにあたり、利用できる医療資源や社会資源、短期的および長期的な支援を行う医療連携体制について考えることができる。</li> <li>4. 急性期にある患者とその家族に関わる姿勢や、急性期看護に必要な態度を身に付けることができる。</li> <li>5. 看護実践の体験を通して感じたことや考えたことを学生同士で話し合い、急性期にある患者の特徴と看護について考えることができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>成人期から老年期にある患者を対象とし、何らかの病気または傷害により、手術をはじめとする身体的負担の大きい治療を受ける急性期にある患者の身体・精神・社会的な特徴を理解する。患者およびその家族にとって、生命や健康が危機的状態におかれる体験の意味を理解し、回復に影響を及ぼす患者とその家族の特性をアセスメントすることで、苦痛を緩和し、患者とその家族のもつ回復力を最大限に引き出すための看護を学ぶ。</p> <p>科学的根拠に基づいた専門的知識と技能を総合的に活用し、手術や治療の侵襲による心身の反応をとらえながら、症状や苦痛を緩和し、予防的ケアを行う経験を通して急性期看護の特徴を理解する。急性期にある患者との関わりを通して、これまでに学習した知識や技能、および倫理的・道徳的態度を統合し、実践する力を養う。</p> <p>実習では、急性期の実務経験のある教員と臨地における実習指導者が、急性期看護の実践ができる過程をサポートする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>急性期看護論を含めた既習の関連科目の復習を行うこと。特に人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅱ、感染免疫学、栄養代謝学、薬理学などの医学的基礎知識についても十分に復習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>病院にて、以下の通り3週間の実習を行う予定にしているが、社会的な感染症の蔓延状況によっては臨地に行く期日や時間が短縮される場合がある。また見学や参加等できない項目がある場合は、学内実習等で補うことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として、1～2名の周手術期患者あるいは急性疾患の患者を受け持ち、看護過程を展開しながらアセスメントと援助の実際を学ぶ。</li> <li>2. 原則として、受け持ち患者の検査や手術、血管内治療等を見学し、検査中、手術中あるいは治療中の看護を学ぶ。</li> <li>3. 手術前は、術前検査、術前訓練などを、手術後は、手術後の観察、手術後清潔の援助、離床の援助、退院指導などについて、指導を受けながら実施する。</li> <li>4. 実習内容は、一定の様式の実習記録に記載する。</li> <li>5. 日々のカンファレンスにおいて、情報や学びを共有し、学習上の問題解決を図る。</li> <li>6. 中間カンファレンスと最終カンファレンスにおいて、実習を通じて得た具体的な学びから、周手術期あるいは急性期にある患者・家族の特徴と看護の特徴について考察する。</li> </ol>				

科目名	医療看護実習Ⅱ(急性期)	前期～後期	3 単位
サブタイトル		実習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、渡邊 紀子、岸野 真由美、小野 聖子		
<p>[ 成績評価方法 ] 目標達成度(80%)、実習およびカンファレンスへの参加態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 実習記録に関しては、随時教員から学生に指導を含めたフィードバックを行う。実習の目標達成度においては、臨地における最終日において学生、実習指導者、教員の三者で面談を行う。自己評価表および最終レポートへについては教員からのコメントを記載したうえで、臨地の実習指導者から紙面上で助言が得られた場合はそれぞれ合わせて学生へ年度末に返すこととする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:実習記録・最終レポート 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:実習記録・最終レポート 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習記録・最終レポート 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:実習記録・最終レポート 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していく。 成績評価方法:実習記録・最終レポート 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していく。 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習記録 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習記録・最終レポート 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習記録 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習記録・最終レポート 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] ナーシング・グラフィカ 成人看護学④周術期看護 著者名:中島恵美子・山崎智子・竹内佐智恵編 出版社:メディカ出版 (987-8404-7539-6)</p>			

P11201490 [ NNB3-018 ]

[3看]\*前期又は後期集中

科目名	医療看護実習Ⅱ(精神)	後期	2単位
サブタイトル		実習	
担当者	玉木 敦子、高橋 秋絵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. 精神障がいをもつ人の価値観や人権を尊重しながら関わり、人間関係構築のプロセスを体験しながら、自己洞察、他者理解を深めることができる。
2. 精神障がいをもつ人の体験に寄り添い、生活援助やプログラムへの参加を通して、心身の健康状態や心理・社会的要因が生活や対人関係に及ぼす影響を説明することができる。
3. 精神障がいをもつ人のセルフケアの維持・向上、自立や自己実現に向けた看護援助について考察することができる。
4. 精神科病院や地域で行われているさまざまな治療的アプローチや支援を学び、チーム医療における看護職の役割や他職種との連携、精神障がいをもつ人が利用できる社会資源について説明できる。

[授業概要]

精神障がいをもつ人と人間関係を構築するプロセスの中で、自己洞察、他者理解を深める。また対象者の体験に寄り添い、生活援助を実践しながら、心身の健康状態や心理・社会的要因が生活や対人関係に及ぼす影響を理解し、セルフケアの維持・向上、自立や自己実現に向けた看護援助について考察する。さらに、精神科病院や地域で行われているさまざまな治療的アプローチや支援、チーム医療における看護職の役割や他職種との連携、精神障がいをもつ人が利用できる社会資源について学ぶ。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- ・実習に臨む前に、各自で「実習ガイダンス資料」、「医療看護実習Ⅱ(精神)実習要項」、配布された実習施設関連資料を熟読する。
- ・オリエンテーションに必ず参加する。
- ・「精神看護論」、「疾病と治療Ⅳ」、「精神看護支援技術演習」で学習した内容を復習して実習に臨む。

[授業計画]

- ・学内オリエンテーション・学外オリエンテーション・直前オリエンテーションに必ず参加する。

[病棟実習]

- ・実習期間のうち4日間は病棟実習を行う。患者1名を受け持ち、原則として看護師とともに生活援助を行う。
- ・実習中は受け持ち患者と活動とともにし、作業療法や心理教育などの治療的アプローチに積極的に参加する。
- ・実習指導者や教員の指導を受けながら、受け持ち患者と積極的にコミュニケーションをとる。
- ・実習指導者や教員の指導を受けながら、受け持ち患者のセルフケアに関する情報収集、アセスメントを行う。
- ・実習中は毎日カンファレンスを行う。それぞれの学生の体験や実習上の課題を共有し、学びを深めるためにディスカッションする。
- ・病棟実習最終日のカンファレンスは、4日間の病棟実習を通して学んだことを発表し、共有する。

[デイケア実習]

- ・実習期間のうち1日は、精神科デイケアにて実習を行う。実習担当者に指示や指導を受けながら、利用者とともにプログラムに参加する。

[地域の精神保健福祉施設実習]

- ・実習期間のうち3日間は、地域の精神保健福祉施設にて実習を行う。実習担当者や事業所職員に指示や指導を受けながら、利用者とともにプログラムや活動等に参加する。

[学内実習]

- ・1週目の学内実習日は、実習中に記載したプロセスレコードを用いたグループワークと、1週目に行った実習のまとめを行う。
- ・2週目の学内実習日は、2週目に行った実習のまとめと、全員で振り返りを行う全体カンファレンスを行う。
- ・全体カンファレンスでは、実習を通して学んだことを学生同士で共有し、自らの成長や学習課題について考えを深める。

科目名	医療看護実習Ⅱ(精神)	後期	2単位
サブタイトル		実習	
担当者	玉木 敦子、高橋 秋絵		
<p>[ 成績評価方法 ]          目標到達度(70%)、課題レポート(10%)、実習への参加態度(20%)          ※実習最終日にカンファレンスや個別面談を通してフィードバックを行う。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          * 学内日にはカンファレンスや個人面談を通してフィードバックを行う。          * 課題レポートは教員が添削して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力          成績評価方法:目標到達度、課題レポート、実習への参加態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          精神看護学第3版—学生-患者のストーリーで綴る実習展開 著者名:田中美恵子 編著 出版社:医歯薬出版株式会社(978-4-263-71070-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          なし</p>			

P11201480 [ NNB2-016 ]

[2看]\*後期集中

科目名	医療看護実習Ⅱ(慢性期)	前期～後期	3単位
サブタイトル		実習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、関尾 裕子、高呂 節子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.人はセルフケアを行う力を潜在的に持っているという視点に立ち、病気や障害に対処している慢性病患者を、一人の人として深く理解することができる。</li> <li>2.慢性病患者が健康を維持できるように必要な看護を考え、実践することができる。</li> <li>3.慢性病患者の療養を支えるチーム医療や継続看護について知ることができる。</li> <li>4.看護を実践することを通して、倫理的・道徳的態度を身につけることができる。</li> <li>5.看護の体験を通して感じたことや考えたことを学生同士で話し合い、慢性病患者の特徴や慢性病患者への看護について考えることができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>成人期から老年期にある慢性病患者を受け持ち、長期にわたり病気や障害に対処してきた患者の病みの軌跡や治療の特徴をとらえる。ライフサイクルや社会的役割など、患者が置かれた状況を病気の体験と関連づけて理解する。症状や心身の苦痛緩和、病気の急性増悪や合併症の予防、病みの軌跡を予測し療養方法を調整するなど患者のセルフケアを支え、患者が健康を維持できるように必要な看護を実践する。</p> <p>看護の体験を学生同士で共有し、科学的根拠に基づいた専門的な知識や技能と自らの能力や倫理的・道徳的態度をどのように統合すればよいか、患者の療養を支える医療ケアシステムにはどのようなものがあるか、看護師は慢性病患者の健康回復にどのようなかかわりができるかについて討議し、考えを深める。本実習では、慢性病患者へのケア経験のある教員と臨床にいる実習指導者が、慢性病患者の体験を理解し、その理解から支援を組み立て、実践する過程を、サポートする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習初日までに、「実習ガイダンス資料」と「医療看護実習Ⅱ(慢性期)実習要項」を熟読する。</li> <li>・健康管理を徹底する。実習開始の2週間前から健康チェックを実施し、所定のフォームに記録する。</li> </ul> <p>[授業計画]</p> <p>病院にて、以下のとおり3週間の実習を行う予定にしているが、感染症の蔓延など社会的な状況によっては、臨地に行く日や時間が短縮される場合がある。臨地で見学あるいは実践できない項目がある場合は、学内実習等で補う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.原則として1名の慢性病患者を受け持つ。実習1週目は、患者を深く理解して、患者と援助的関係を結び、情報を集めて患者のセルフケアに関するアセスメントができるよう行動する。</li> <li>2.病院実習2週目は、患者のセルフケア不足に対する看護課題を明らかにする。優先度の高い看護課題から順に看護目標を設定し、看護計画の立案ができることを目指す。</li> <li>3.病院実習3週目は看護を実践し、看護目標の到達度を評価、あるいは次の看護につなげることができるよう行動する。</li> <li>4.実習内容は、所定の様式の実習記録に記載する。</li> <li>5.日々のカンファレンスにおいて、実習で感じたこと、気付いたこと、疑問などについてテーマを決め、グループで討議する。</li> <li>6.中間カンファレンスでは、受け持った患者のアセスメントできたセルフケア不足と看護課題を発表し、どのような方向で看護ケアをおこなっていかを考える。</li> <li>7.中間カンファレンスの翌日に学内日を設ける。中間カンファレンスでの意見を踏まえて学生は、各自に必要な資料や文献を調べ、看護計画を完成させる。</li> <li>8.病院実習最終日には病院最終カンファレンスを、実習最終日には、学内にて合同カンファレンスを行う。受け持った患者へ実践した看護や、実習で得られた学びを、実習指導者や異なる医療施設で実習を行った学生と共有し、慢性病患者の特徴や慢性病患者への看護について考察する。</li> </ol>			



科目名	医療看護実習Ⅱ(慢性期)	前期～後期	3 単位
サブタイトル		実習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、関尾 裕子、高呂 節子		
<p>[ 成績評価方法 ] 目標到達度 (80%)、実習およびカンファレンスへの参加態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 実習記録に関しては、随時教員から学生に指導を含めたフィードバックを行う。 実習の目標到達度については、臨地で学生、実習指導者、教員の三者で面談を行う。学生は、実習で成長できた点や今後の課題などについて、個別にフィードバックを受ける。 自己評価表および課題レポートについては、教員からのコメントを記載、実習指導者から助言が得られた場合はそれも合わせて学生へ年度末に返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していく。 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していく。 成績評価方法:・記録 ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:・記録 ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:・記録や課題レポート ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:・記録 ・実習およびカンファレンスへの参加態度</p>			

科目名	医療ケアシステム論	前期	1 単位
サブタイトル	看護マネジメント論	講義	
担当者	洪 愛子、岸野 真由美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.保健・医療ケアシステムの基本的なしくみ(医療保険制度、医療政策)と、その中で看護の果たす役割を理解できる。</li> <li>2.病院等組織における看護の組織と体制、看護の機能について説明できる。</li> <li>3.組織での役割分担の在り方と多様な医療関連専門職との連携・協働によるチーム医療の実践方法を知り、チーム医療における看護職としてのリーダーシップ、メンバーシップの在り方を考えることができる。</li> <li>4.医療や看護におけるリスクマネジメントについて理解し、安全に医療・看護を提供するために必要な行動を身に付ける。</li> <li>5.医療・看護の質保証の観点から、看護管理の視点を持つ意義を理解し、看護専門職としての役割を理解できる。</li> <li>6.職業感染対策や放射線からの防護について理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>個人と家族、ならびに人々が暮らす社会の健康を支える保健・医療システムのしくみと、実際に保健・医療サービスがどのように人々に提供されているかを理解する。また、医療に携わる多種多様な専門職のはたらきを知り、より良い医療を提供するためのチーム医療の重要性と実践方法を学ぶ。看護管理の視点を基盤に、看護専門職として、自立した個人としての自己のキャリアを主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。さらに、保健・医療システムとその活動を支える医療保険制度と、保健・医療の方向性を決める国の保健医療政策の概要を理解し、広い視点から看護の果たす役割について考えを深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日ごろから、医療に関連するニュースに関心を持って情報を得る習慣をつけておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療や看護が提供される多様な場について理解し、説明できる。(病院・診療所の機能と国や自治体の役割を理解する。)[洪]4/10(水)1限</li> <li>2. 看護サービス提供のためのしくみ:患者中心の看護サービスの特徴と看護の質評価・看護制度・政策について学び、看護マネジメントに関する知識を理解する。【洪】4/10(水)2限</li> <li>3. 命と健康をまもる:看護の質保証と看護管理について学ぶ。(薬害エイズ事件や輸血療法における医療事故)[洪]4/17(水)1限</li> <li>4. チーム医療の鍵となる連携と協働:医療安全の概念と実際、情報共有とリーダーシップ・メンバーシップの在り方と実際について学ぶ。【洪】4/17(水)2限</li> <li>5. 安全に医療を提供するしくみ:災害時医療・看護や放射線防護等を理解し、患者だけでなく医療者等の安全を守る方法を理解する。【岸野】4/18(木)2限</li> <li>6. 医療にかかる費用と支払いのしくみ:わが国の医療保険制度の概要を理解し、看護管理の視点を基盤に看護専門職として、医療・看護の質保証に貢献するための役割を学ぶ。【洪】4/24(水)1限</li> <li>7. 組織を超えたチーム活動:臓器移植コーディネーターがつなぐ「いのちとひと」 【洪・(学外特別講師)】4/24(水)2限</li> </ol> <p>指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容  別表1:「保健医療福祉行政論」  別表3:「基礎看護学」「看護の統合と実践」</p>			

科目名	医療ケアシステム論	前期	1 単位
サブタイトル	看護マネジメント論	講義	
担当者	洪 愛子、岸野 真由美		
<p>[ 成績評価方法 ] 小テスト(6回)(80%)、課題レポート(20%) ・授業中およびmanabaでフィードバック</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テストの内容については、授業中に解説を行う。レポートについては、採点后返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] ナーシング・グラフィカ:看護の統合と実践①看護管理 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-6135-1) ナーシング・グラフィカ:看護の統合と実践②医療安全 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-7212-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	医療と法	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	七野 敏光		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 医療を担う者として相応しい法的知識を身につける</p> <p>[授業概要] この授業では医療関係諸法規の概略を示した上で、医療と法とをめぐると具体的な問題を論じていく。いわゆる守秘義務やインフォームド・コンセントの重要性は知ってのとおりだが、プライバシー権、自己決定権にかかわるものとして、より深く考えてみたい。安楽死・尊厳死といった問題も医療を担う者であれば一度は考えてみることであろう。こうした問題のもつ法的側面を授業では示す。代理出産や性同一性障害といった、あるいは一見突拍子もなく思える話題についても論じる。医療と生命倫理と法とが絡み合った問題がそこにはあるからである。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 話題となっている医療関係の報道に留意する。毎授業ごとの授業準備と復習に4時間程度の時間をかけてください。</p> <p>[授業計画] 1. はじめに (9月27日(金)4限) 2. 医療関係法規の概略 (10月4日(金)4限) 3. 医療と人権1(守秘義務、インフォームド・コンセントなど) (10月11日(金)4限) 4. 医療と人権2(安楽死・尊厳死、脳死判定など) (10月18日(金)4限) 5. 医療と生命倫理と法1(人工授精、代理出産など) (10月25日(金)4限) 6. 医療と生命倫理と法2(人工妊娠中絶、性同一性障害など) (11月1日(金)4限) 7. 医療と現代社会(医療過誤、高齢化社会と医療など) (11月15日(金)4限) 8. 試験 (11月22日(金)4限)</p>			

科目名	医療と法	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	七野 敏光		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験実施後、解答を提示し説明します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験(100%)で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験(100%)で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験(100%)で評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験(100%)で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験(100%)で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(100%)で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験(100%)で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験(100%)で評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験(100%)で評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 『新時代の法学・憲法』 著者名:山田勉・笹田哲男編 出版社:建帛社 (978-4-7679-4346-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜指示する</p>			

科目名	栄養代謝学	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	高橋 玲比古、中岡 亜希子、西原 詩子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	学生ないし教員からの疑問点や課題等をグループワークでディスカッションし、学生が結果を発表する。!	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]          栄養の基礎知識を看護の視点の踏まえて学び、栄養と健康や疾病について理解を深める。特に療養生活と栄養について対象の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な看護援助が理解できる。</p> <p>[授業概要]          人間は食物を身体に取り込み、それを物理・化学的に処理(消化、吸収、代謝)して生命維持に役立っている。人々が生きるうえでの代謝・栄養との関連を理解し、臨床看護実践における技術につながる健康の維持や増進、および療養生活や疾病予防について代謝・栄養の役割を理解し、援助につなげることができる知識を学ぶ。具体的には、栄養素の基礎知識、消化と吸収、エネルギー代謝、疾病時の栄養などを学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          あらかじめ授業計画に示された内容について、教科書を熟読し、manabaにUpする補助資料にも目を通し、疑問点を整理して授業に臨む。「人体のしくみと機能I、II」で関連する領域があるので参考にする。          予復習は講義時は合わせて4時間程度、演習時は合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]          1. 栄養代謝学を学ぶための基礎知識(講義)生化学を学ぶための基礎知識/代謝の基礎と酵素・補酵素(教科書1 pp.4-48)(高橋玲比古)(9月30日月曜日)3限          2. 糖質代謝(講義)糖質の構造と機能/糖質代謝(教科書1 pp.49-96)(高橋玲比古)(10月7日月曜日)3限          3. 脂質代謝(講義)脂質の構造と機能/脂質代謝(教科書1 pp.97-128)(高橋玲比古)(10月14日月曜日)3限          4. タンパク質代謝(講義)タンパク質の構造と機能/タンパク質代謝(教科書1 pp.129-154)(高橋玲比古)(10月21日月曜日)3限          5. 遺伝情報(講義)遺伝子と核酸/遺伝子の複製・修復・組換え/転写/翻訳と翻訳後修飾(教科書1 pp.169-244)(高橋玲比古)(10月28日月曜日)3限          6. 1)健康と栄養(講義)健康と栄養評価/日常生活と栄養/スポーツと栄養 2)食物と栄養(講義)栄養素とその働き/食物の摂取と消化・吸収/ライフステージと健康教育(教科書2 pp.1-157)(高橋玲比古)(11月11日月曜日)3限          7. 疾患と栄養(講義)疾患別食事指導の実際、経管栄養と中心静脈栄養(教科書2 pp.159-274)(高橋玲比古)(11月25日月曜日)3限          (8)試験(高橋玲比古、西原詩子、黒住智子)(11月27日水曜日)4限          9 ヘルスアセスメント(講義)(中岡亜希子)(11月28日木曜日)3限          10.11.体格のアセスメント 1)(演習)Aクラス Bクラス          栄養のアセスメント 1)(演習)Aクラス Bクラス(中岡亜希子、西原詩子、黒住智子)(12月5日木曜日)3、4限 F 417・419・311          12.13. 体格のアセスメント 2)(講義・演習)栄養のアセスメント 2)(講義・演習)(中岡亜希子、西原詩子、黒住智子)(12月12日木曜日)3、4限          14. 健康の維持増進のための栄養・代謝による患者教育(講義)(中岡亜希子、西原詩子、黒住智子)(12月19日木曜日)3限</p>			

科目名	栄養代謝学	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	高橋 玲比古、中岡 亜希子、西原 詩子		
<p>[ 成績評価方法 ] 講義・演習の授業態度、課題(50%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題レポートはコメントして返却。manaba等を利用。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 系統看護学講座 生化学 人体の構造と機能(2)(デジタル) 著者名:畠山鎮次 出版社:医学書院(978-4-260-03556-9) わかりやすい 栄養学 第5版 著者名:中村美知子・長谷川恭子 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ(978-4-86174-076-3) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 著者名:日本糖尿病学会 編・著 出版社:日本糖尿病協会・文光堂(978-4-8306-6046-7)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 新版 生活健康科学 (東教授の授業「生活概論」で購入済み) 著者名:小田切陽一・飯島純夫・小山勝弘・石原逸子 共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3) オールガイド食品成分表2020 著者名:実教出版編修部 出版社:実教出版(978-4-407-34850-7)</p>			

科目名	疫学	前期	2 単位
サブタイトル	Epidemiology	講義	
担当者	加藤 憲司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学の基本となる概念・用語・指標を説明できる。</li> <li>2. 疫学的研究方法を説明することができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>疫学とは、人間集団や地域集団を対象とし、そこに発生する疾病の流行動態を明らかにするとともに、原因を探求・特定し、疾病予防を目指す学問である。この科目では、疫学的研究方法、保健指標の理解と考察、疫学の効用と限界などについて学んだうえで、看護職として科学的根拠に基づく実践(Evidence Based Practice: EBP)を実行し得る能力を涵養することを目的とする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。</li> <li>2. 日頃から授業に関係するニュース等に関心を持ち学んでおくこと。</li> <li>3. 各回、予習復習あわせて4時間程度。</li> </ol> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学とは (4月 8日 月曜日)3限</li> <li>2. 疾病罹患の要素 (4月15日 月曜日)3限</li> <li>3. 疫学研究① &lt;小テスト&gt;(4月22日 月曜日)3限</li> <li>4. 疫学研究② &lt;小テスト&gt;(5月 6日 月曜日)4限</li> <li>5. 記述疫学と分析疫学 &lt;小テスト&gt;(5月13日 月曜日)4限</li> <li>6. リスクとその比較 &lt;小テスト&gt;(5月20日 月曜日)3限</li> <li>7. バイアス・交絡 &lt;小テスト&gt;(5月27日 月曜日)3限</li> <li>8. 反実仮想モデル &lt;小テスト&gt;(6月 3日 月曜日)3限</li> <li>9. スクリーニング &lt;小テスト&gt;(6月10日 月曜日)3限</li> <li>10. 因果関係 &lt;小テスト&gt;(6月17日 月曜日)3限</li> <li>11. 臨床疫学 &lt;小テスト&gt;(6月24日 月曜日)3限</li> <li>12. 疫学倫理 &lt;小テスト&gt;(7月 1日 月曜日)3限</li> <li>13. まとめ (7月 8日 月曜日)3限</li> </ol>			



科目名	疫学	前期	2 単位
サブタイトル	Epidemiology	講義	
担当者	加藤 憲司		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業後に実施する計10回の課題(保健師国家試験に準ずる形式)の合計 80% 授業態度 20%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  各回の小テストの解説を次回講義時に実施する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  保健統計・疫学 改訂7版 著者名:福富和夫  橋本修二  (2023) 出版社:南山堂 (978-4525053376)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  担当教員から適宜指示する。</p>			

科目名	家族看護論		前期	1 単位
サブタイトル			講義	
担当者	内 正子、藤田 冬子、横内 光子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.看護の対象としての家族を理解することができる。  2.様々な状況にある家族をアセスメントすることができる。  3.様々な状況にある家族への援助を考えることができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護の対象として、家族をユニットとして理解し、家族の定義、家族看護の成り立ちを学ぶ。  家族を理解するための諸理論(家族システム、家族発達、家族機能、家族エンパワーメント等)を学習し、援助方法について学ぶ。  さらに、様々な状況にある人(疾患をもつ子ども、急性期の健康状態にある患者、高齢者)の家族アセスメントと家族支援について学習する。  家族看護の経験がある教員が、その経験を活かして、家族看護の概要および様々な状況にある人の家族看護を教授する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>既習の実習において、対象者の家族に目を向けておくこと。  各自、自分にとっての家族の意味を考えておくこと。  各回の授業についての予習・復習2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.家族や家族看護の定義について学び、家族看護の成り立ちについて概観する。(内正子)4月18日木曜日2限  2.家族を理解するための理論について学び、システムとしての家族、家族の形態と機能を理解する。(内正子)4月25日木曜日2限  3.家族のアセスメント、介入の方法について理解し、看護の役割と基本姿勢を理解する。(内正子)5月9日木曜日2限  4.疾患をもつ子どもの家族を理解し、家族への援助を学ぶ。(内正子)5月30日木曜日2限  5.急性期の健康状態にある患者の家族を理解し、家族への援助を学ぶ。(横内光子)6月6日木曜日2限  6.高齢者の家族や在宅で介護をしている家族を理解し、家族への援助を学ぶ。(藤田冬子)6月13日木曜日2限  7.家族介入の方法について事例を通して学ぶ。まとめ(内正子)6月20日木曜日2限</p>				

科目名	家族看護論	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	内 正子、藤田 冬子、横内 光子		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題レポート(70%) 授業中の課題(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] manabaシステムを活用してフィードバックする</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート、授業中の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「家族看護学 理論と実践 第5版」 著者名:鈴木和子編著 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-2208-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	課題探究	前期～後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	東 ますみ、藤原 由子、藤田 冬子、玉木 敦子、内 正子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、奥井 早月、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、中岡 亜希子、西原 詩子、関尾 裕子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、大久保 和実、岸野 真由美、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門的知識や技能、最新の研究結果を用いた看護の一連のプロセスを展開することができる。</li> <li>2. 臨地の看護課題に探索的に取り組み、その成果をまとめることができる。</li> <li>3. 看護の総合的な能力を高め、看護専門職としての姿勢・倫理的態度を身につけることができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の概要が理解できるように演習・実習を行う。  臨床における看護課題を焦点化していく演習とその課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるための実習を組み合わせることで、実践への深い関心と看護への探求心を育成する。</p> <p>(演習2単位:60時間)  学生個々が捉えた臨床における看護課題を焦点化し、その課題を探索していくための方法とプロセスについて演習を行う。</p> <p>(実習2単位:80時間)  学生個々の看護課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるためのフィールドワークや情報収集のための実習を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前に実習する施設の利用者の特徴を調べ、利用者の看護を行うための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 合同講義:看護研究とは、リサーチクエストをたてる、研究における倫理的配慮(服部律子)(4月11日木曜日)3限</li> <li>2. 合同講義:情報の検索と吟味、文献レビューとその方法(内正子)(4月11日木曜日)4限</li> <li>3. 合同講義:研究デザイン、研究の設計と方法の選択(東ますみ)(4月18日木曜日)3限</li> <li>4. 合同講義:データの収集(玉木敦子)(4月18日木曜日)4限</li> <li>5. 合同講義:データ分析(横内光子)(4月22日月曜日)1限</li> <li>6. 合同講義:研究計画書の作成(加藤憲司)(4月25日木曜日)2限</li> <li>7. 合同講義:研究を伝える(藤田冬子)(4月25日木曜日)3限</li> <li>8. 合同講義:ケースレポート、事例研究の進め方(中岡亜希子)(4月25日木曜日)4限</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 地域や在宅での患者の在り方の実際を知った経験から、学生個々が関心のある臨地における看護課題について、意見交換を行う。</li> <li>10. 臨地における看護課題を探索していくために、その課題に関連する国内外の研究を検索する。</li> <li>11. 探し出した研究を持ち寄り、学生個々の看護課題との関連について意見交換を行う。</li> <li>12. 新たに必要となったエビデンスを持ち寄り、看護課題を明確にしていけるために意見交換を行い、テーマを焦点化する。</li> <li>13. 看護課題を探索していくための計画を立案・発表し、意見交換を行う。</li> </ol> <p>実習(10日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習オリエンテーション</li> <li>・フィールドワークなどの計画について施設へ説明</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・情報収集(インタビュー、参加観察など)</li> <li>・フィールドワーク終了についてのまとめ</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. 情報の分析①</li> <li>15. 情報の分析②</li> <li>16. 個別指導①</li> <li>17. 個別指導②</li> <li>18. 個別指導③</li> <li>19. 情報の分析③</li> <li>20. 結果をまとめる①</li> <li>21. 結果をまとめる②</li> <li>22. 結果について看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討しまとめる。</li> <li>23. グループ内で発表し、意見交換を行う。</li> <li>24. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する①</li> <li>25. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する②</li> <li>26. 課題探究の成果をポスターにまとめて発表する。(12月21日土曜日)3・4限</li> </ol> <p>教室 合同講義:F301 合同講義・発表会以外:指導教員の指示に従うこと</p>			

科目名	課題探究	前期～後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	東 ますみ、藤原 由子、藤田 冬子、玉木 敦子、内 正子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、奥井 早月、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、中岡 亜希子、西原 詩子、関尾 裕子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、大久保 和実、岸野 真由美、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>目標到達度(40%)、実習態度(20%)、討議への参加度(20%)、課題レポートの内容(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>課題レポートは、適宜添削して指導する。 個別面接時に助言する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していきける。 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していきける。 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言内容、課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護研究(第2版) 著者名:坂下玲子他 出版社:医学書院 (978-4-260-04995-5) 実習要項、プリントは別途配布する</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p> <p>適宜授業内で紹介する</p>			

P11200860 [ NNB4-001 ]

[4看]\*通年集中&一部前期木3・4

科目名	課題探究	前期～後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	加藤 憲司、小路 浩子、小坂 素子、小枝 美由紀		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護の専門的知識や技能、最新の研究結果を用いた看護の一連のプロセスを展開することができる。</li> <li>2. 臨地の健康課題に探索的に取り組み、その成果をまとめることができる。</li> <li>3. 看護の総合的な能力を高め、看護専門職としての姿勢・倫理的態度を身につけることができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>保健師免許・看護師免許を持つ教員が、以下の概要が理解できるように演習・実習を行う。  臨地における健康課題を焦点化していく演習とその課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるための実習を組み合わせることで、実践への深い関心と看護への探求心を育成する。</p> <p>(演習2単位:60時間)  学生個々が捉えた臨地における健康課題を焦点化し、その課題を探索していくための方法とプロセスについて演習を行う。</p> <p>(実習2単位:80時間)  実習では、学生個々が捉えた地域における個人・家族・集団・組織、地域の健康課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるために、地域看護の場(行政保健・産業保健・在宅看護)でフィールドワークや情報収集を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前に実習する地域及び集団・組織の特徴を調べ、地域看護を展開するための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。各回、予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 合同講義:看護研究とは、リサーチクエストをたてる、研究における倫理的配慮(服部律子)(4月11日木曜日)3限</li> <li>2. 合同講義:情報の検索と吟味、文献レビューとその方法(内正子)(4月11日木曜日)4限</li> <li>3. 合同講義:研究デザイン、研究の設計と方法の選択(東ますみ)(4月18日木曜日)3限</li> <li>4. 合同講義:データの収集(玉木敦子)(4月18日木曜日)4限</li> <li>5. 合同講義:データ分析(横内光子)(4月22日月曜日)1限</li> <li>6. 合同講義:研究計画書の作成(加藤憲司)(4月25日木曜日)2限</li> <li>7. 合同講義:研究を伝える(藤田冬子)(4月25日木曜日)3限</li> <li>8. 合同講義:ケースレポート、事例研究の進め方(中岡亜希子)(4月25日木曜日)4限</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 地域や在宅での人々の在り方の実際を知った経験から、学生個々が関心のある臨地における健康課題について、意見交換を行う。</li> <li>10. 臨地における健康課題を探究していくために、その課題に関連する研究を検索する。</li> <li>11. 探し出した研究を持ち寄り、学生個々が捉えた臨地における健康課題との関連について意見交換を行う。</li> <li>12. 新たに必要となったエビデンスを持ち寄り、臨地における健康課題を明確にしていくために意見交換を行い、テーマを焦点化する。</li> <li>13. 看護課題を探究していくための計画を立案・発表し、意見交換を行う。</li> </ol> <p>実習(10日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習オリエンテーション</li> <li>・フィールドワークなどの計画について施設へ説明</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・情報収集(インタビュー、参加観察など)</li> <li>・フィールドワーク終了についてのまとめ</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. 情報の分析①</li> <li>15. 情報の分析②</li> <li>16. 個別指導①</li> <li>17. 個別指導②</li> <li>18. 個別指導③</li> <li>19. 情報の分析③</li> <li>20. 情報の分析④</li> <li>21. 結果をまとめる①</li> <li>22. 結果をまとめる②</li> <li>23. 結果について、地域看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる①</li> <li>24. 結果について、地域看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる②</li> <li>25. グループ内で発表し、意見交換を行う①</li> <li>26. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する①</li> <li>27. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する②</li> <li>28. 課題探究の成果をポスターにまとめて発表する。(12月21日土曜日3・4限)</li> </ol> <p>教室 合同講義:F301 合同講義以外:指導教員の指導に従うこと</p>			

P11200860A [ NNB4-001 ]

[4看]\*通年集中&一部前期木3・4

科目名	課題探究	前期～後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	加藤 憲司、小路 浩子、小坂 素子、小枝 美由紀		
<p>[ 成績評価方法 ] 目標到達度(40%)、実習態度(20%)、討議への参加度(20%)、課題レポートの内容(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・学生との個別面接時に助言する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習記録、実習中の取り組みやカンファレンス・ゼミでの発言内容、課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 系統看護学講座別巻 看護研究 第2版 著者名:坂下玲子他 出版社:医学書院 (978-4-260-04995-5) 実習要項、プリントは別途配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜授業内で紹介する</p>			

P11200860A [ NNB4-001 ]

[4看]\*通年集中&一部前期木3・4

科目名	課題探究	前期～後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	服部 律子、牛越 幸子、小西 真千子、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護学や助産学の専門的知識や技能、最新の研究結果を用いた看護の一連のプロセスを展開することができる。</li> <li>2. 臨床の看護課題に探索的に取り組み、その成果をまとめることができる。</li> <li>3. 看護の総合的な能力を高め、看護専門職としての姿勢・倫理的態度を身につけることができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>助産師免許を持つ教員が、以下の概要が理解できるように演習・実習を行う。 臨床における看護課題を焦点化していく演習とその課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるための実習を組み合わせることで、実践への深い関心と看護への探求心を育成する。</p> <p>(演習2単位:60時間) 学生個々が捉えた臨床における看護課題を焦点化し、その課題を探究していくための方法とプロセスについて演習を行う。</p> <p>(実習2単位:80時間) 助産選択の学生は、助産学実習との連動において課題探究に関する実習を行う。学生個々の看護課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるためのフィールドワークや情報収集のための実習を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習の準備:母性看護論、助産学概論、助産診断技術論の内容を復習し、教科書や授業資料を読み、理解しておく。母子保健に関する社会資源や実習する施設の利用者の特徴を調べる。(各演習1時間程度)、復習:ノート、資料を整理する。(各演習後の1時間程度)</li> </ul> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 合同講義:看護研究とは、リサーチクエスチョンをたてる、研究における倫理的配慮(服部律子)4/11(木)Ⅲ限</li> <li>2. 合同講義:情報の検索と吟味、文献レビューとその方法(内正子)4/11(木)Ⅳ限</li> <li>3. 合同講義:研究デザイン、研究の設計と方法の選択(東ますみ)4/18(木)Ⅲ限</li> <li>4. 合同講義:データの収集(玉木敦子)4/18(木)Ⅳ限</li> <li>5. 合同講義:データ分析(横内光子)4/22(月)Ⅰ限</li> <li>6. 合同講義:研究計画書の作成(加藤憲司)4/25(木)Ⅱ限</li> <li>7. 合同講義:研究を伝える(藤田冬子)4/25(木)Ⅲ限</li> <li>8. 合同講義:ケースレポート、事例研究の進め方(中岡亜希子)4/25(木)Ⅳ限</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 地域において女性や妊産婦がどのように生活しているのかを知った経験から、関心のあるテーマ、看護課題を選択し、意見交換を行う。</li> <li>10. 臨地における看護課題を探究していくために、その課題に関連する研究を検索する。</li> <li>11. 臨地での課題に対して、問題意識をもって選択し、テーマを焦点化する。</li> <li>12. 看護課題を探究していくための計画を立てる。</li> <li>13. 計画を発表し、意見交換を行う。</li> </ol> <p>実習(実習施設により、臨地実習もしくは学内実習、遠隔実習を組み合わせ、10日間の実習を行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習オリエンテーション</li> <li>・フィールドワークなどの計画について施設へ説明</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・情報収集(インタビュー、参加観察など)</li> <li>・フィールドワーク終了についてのまとめ</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. 情報の分析①</li> <li>15. 個別指導①</li> <li>16. 個別指導②</li> <li>17. 情報の分析②</li> <li>18. 情報の分析③</li> <li>19. 結果をまとめる①</li> <li>20. 結果をまとめる②</li> <li>21. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる①</li> <li>22. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる②</li> <li>23. グループ内で発表し、意見交換を行う。</li> <li>24. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する①</li> <li>25. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する②</li> <li>26. 課題探究の成果をポスターにまとめて発表する。12/14(土)Ⅲ・Ⅳ限</li> </ol>			

P11200860B [ NNB4-001 ]

[4看]\*通年集中&一部前期木3・4



科目名	課題探究	前期～後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	服部 律子、牛越 幸子、小西 真千子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]  目標到達度(40%)、実習態度(20%)、討議への参加度(20%)、課題レポートの内容(20%)  学生との個別面接時に助言する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題レポートは、適宜添削して指導する。  学生との個別面接時に助言する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していきける。  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していきける。  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:実習記録、実習時のカンファレンスやゼミ等での発言、課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  系統看護学講座 別巻 看護研究(第1版) 著者名:坂下玲子他 出版社:医学書院 (978-4-260-04995-5)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  適宜授業内で紹介する</p>			

P11200860B [ NNB4-001 ]

[4看]\*通年集中&一部前期木3・4

科目名	学校保健 I	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 学校保健の目的・意義を理解し、学校における保健管理の特性と現代の児童生徒の健康課題から保健教育の必要性がわかる。また、それらの知識を生かし、総合的な学校保健活動について具体的に考えることができる。</p> <p>[授業概要] 文部科学省は、「学校保健とは、児童生徒の健康の保持増進を図ること、集団教育としての学校保健活動に必要な健康や安全への配慮を行うこと、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することなど学校における保健管理と保健教育である」と述べている。 児童生徒の心身の健康は、教育の基本的な到達目標として位置づけられており、学校保健は学校教育の一環として明確に制度化されている教育活動である。このような認識のもと、学校現場における保健活動の意義と特殊性について理解するため、授業の前半では学校保健の制度と歴史、疾病管理等を概観する。 続いて後半5・8回目までの授業は毎回課題レポートを課し、児童生徒を取り巻く健康や環境に関する課題を取り上げ、各自で調べたことをまとめ、グループで発表するなどのグループワークを通して、学生自ら課題について探求し、学びを共有する。 本科目は学校現場での養護教諭経験がある者が、その経験を活かして実際の学校現場の現状に即した学びが得られるように指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内容に関連する箇所の予習および、前回の授業の復習を心がける。 各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画] 1.学校保健の歴史と意義、および学校保健組織について学ぶ (4月9日火曜日)1限 2.学校によく見られる感染症とその対応、疾病管理の概要を学ぶ (4月16日火曜日)1限 3.学校における疾病管理と、慢性疾患など特別な配慮の必要な子供と家族の現状を理解し、医療的ケアを含む支援のあり方を学ぶ (4月23日火曜日)1限 4.子供の虐待の背景や現状を知り、学校での支援について考える (5月7日火曜日)1限 5.喫煙、飲酒、薬物乱用について現状を把握し、防止教育について考える (5月14日火曜日)1限 6.学校における性教育について、性感染症の予防、いのちの教育の観点から考える (5月21日火曜日)1限 7.インターネット、メディアと子どもの健康について考える (5月28日火曜日)1限</p>			

科目名	学校保健 I	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の小テスト、ミニレポート、授業への取り組み姿勢等 40%、課題レポート60%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 次の授業の冒頭で、レポートの講評を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:ミニレポート、授業への取り組み姿勢等、課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 学校保健ハンドブック第7次改訂 著者名:教員養成系大学保健協議会 出版社:ぎょうせい (978-4-324-10577-1C3037)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	学校保健Ⅱ	前期	1単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>学校における保健管理や保健教育の特性を理解し、実態が把握できる。  学校教育の基礎となる児童生徒の保健管理と保健教育について基本的知識が習得できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>学校保健Ⅱでは、学校保健Ⅰの内容をふまえ、学校保健活動を展開するに当たって基礎となる児童生徒の保健管理と保健教育の理論と実際を学ぶ。  具体的には、「保健管理」の一環である、健康診断、環境衛生、救急処置など、子供達の健康の保持増進を目的とする活動および、「保健教育」の一環である、保健指導や教科の保健教育といった、健康についての認識や実践力を養う活動について、特性や実態を把握し、総合的な学校保健活動が展開できる知識や態度を養う。  また、心身の健康・発達・行動上の課題を有する子供と家族への支援のあり方にも触れ、保護者・地域・専門機関も視野に入れた学校保健のあり方について考察したい。  本科目は学校現場での養護教諭経験がある者が、その経験を活かして実際の学校現場の現状に即した学びが得られるように指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業内容に関連する箇所の予習および前回の授業の復習を心がける。  各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校保健計画・学校安全計画と健康管理・学校安全について学ぶ (6月4日火曜日)1限口</li> <li>2. 環境衛生検査と施設設備の衛生管理について概要を学ぶ (6月6日木曜日)3限</li> <li>3. 健康診断について、法的根拠と健康診断の種類及び実施について学ぶ (6月11日火曜日)1限</li> <li>4. 子供の発育・発達と、心の健康・いじめや不登校など行動上の課題について学校での支援の概要を学ぶ (6月18日火曜日)1限</li> <li>5. 学校における健康教育と具体的な展開方法を学ぶ (6月20日木曜日)3限</li> <li>6. 学校で行われている救急処置活動の実際、学校給食と食育、食物アレルギー対応について学ぶ (6月25日火曜日)1限</li> <li>7. 発達障害のある子供と家族の現状を知り、学校での支援の在り方を考える (6月27日木曜日)3限</li> <li>8. 試験 (6月27日木曜日)4限</li> </ol>			

科目名	学校保健Ⅱ	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢等 50%、定期試験 50%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 次の授業の冒頭で、レポートの講評を行う。 後日、manabaにて試験の講評、解説を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:授業中の小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢等、定期試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢等</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探求していきける。 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢等</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢等</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢等、定期試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢等、定期試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート、授業への取り組み姿勢等、定期試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 学校保健ハンドブック第7次改訂 著者名:教員養成系大学保健協議会 出版社:ぎょうせい (978-4-324-10577-1C3037)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜指示する</p>			

科目名	看護学概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中岡 亜希子、洪 愛子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の基本について理解する。</li> <li>2. 看護の対象となる人を理解する。</li> <li>3. 看護職は何をする人なのか探究する。</li> <li>4. チーム医療の中の看護の役割について理解する。</li> <li>5. 看護専門職者としての視野を広げ、自律した学習者となるための基盤を養う。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>看護の成り立ちと発展の歴史を学び、看護とは何か、看護を専門職としていくとはどういうことかについて理論や指針、基準より学ぶ。看護の対象となる人、家族、集団、地域、社会の健康課題について検討し、看護の重要な使命である健康の増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和について考察を深める。それらの考察をもとに、人が健康に生きること、病気を生きること、死ぬということを取り上げ、よりよく生きることの可能性について探求し、それを支える看護専門者の役割を探究していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習と合わせて4時間程度が必要でです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の身の回りの人々はどのように生活しているのか、問いをもって参加観察をし、自身の感性を磨く。</li> <li>2. 患者体験の本を読み、想像力を持つ。</li> <li>3. 厚生労働省や日本看護協会のホームページに入り、看護に関連する政策を調査する。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国における保健・医療・福祉と看護の発展の歴史を概観する(中岡亜希子)(4月10日水曜日)4限</li> <li>2. 看護の定義と看護の主要概念から看護理論の発展を学ぶ1(中岡亜希子)(4月17日水曜日)4限</li> <li>3. 看護の定義と看護の主要概念から看護理論の発展を学ぶ2(中岡亜希子)(4月24日水曜日)4限</li> <li>4. 看護の定義と看護の主要概念から看護理論の発展を学ぶ3(中岡亜希子)(5月8日水曜日)4限</li> <li>5. 保助看法を中心に、看護の倫理的実践と法の遵守の基本を学び、看護専門職の役割と機能について、看護専門職の実際の活動および日本看護協会の活動をもとに学ぶ(洪愛子)(5月15日水曜日)4限</li> <li>6. 国際看護協会および国内外における国際看護活動の実際を知り、グローバルな視点で看護について学ぶ(洪愛子・JOCA)(5月22日水曜日)4限</li> <li>7. 看護の対象である人間を生命体・生活者として捉え、人間の健康状態を理解する(中岡亜希子)(5月29日水曜日)4限</li> <li>8. 人が病気になることや死ぬこと、ウエルビーイングに生きることを理解する(中岡亜希子)(6月5日水曜日)4限</li> <li>9. 当事者のストーリーを聴き病气からくる苦悩や苦痛と共に生きる看護の対象を理解し、人を支えることについて学ぶ(学外特別講師・中岡亜希子)(6月12日水曜日)4限</li> <li>10. 人が生きることを意味を考え、看護の対象を理解する(中岡亜希子)(6月19日水曜日)4限</li> <li>11. ケアの本質を考え、看護実践の役割を理解する(中岡亜希子)(6月26日水曜日)4限</li> <li>12. チーム医療の中の看護師の役割と責任、および他職種との機能・役割について学ぶ(洪愛子)(7月3日水曜日)4限</li> <li>13. 看護実践のプロセス(看護過程)と看護を実践するために必要な批判的思考を学ぶ(中岡亜希子)(7月10日水曜日)4限</li> </ol>			

科目名	看護学概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中岡 亜希子、洪 愛子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング(70%)、課題レポート(20%)、授業への取り組み(グループ討議など)(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] manabaでフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業に伴う事前・事後レポート・ノートテイキング、課題レポート、授業への取り組み(グループ討議など)</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 「看護学概論」第5版(デジタル) 著者名:ライダー・島崎玲子他 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-23758-8) 看護覚え書 著者名:フロレンス・ナイチンゲール(湯積・小玉訳) 出版社:現代社 (978-4-87474-142-9) 看護の基本となるもの 著者名:ヴァージニア・ヘンダーソン 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1226-4)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 別途指示する</p>			

P11201070 [ NNB1-004 ]

[1看]\*前期水4

科目名	看護情報学	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	東 ますみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データと情報と知識の関係を理解し、看護実践への情報活用について考えることができる。</li> <li>2. 医療で取り扱う個人情報について理解できる。</li> <li>3. 遠隔看護の現状や実用化に向けた課題について理解し、発展させるための方略を考えることができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。 安全で質の高い看護を実践するため、また、チーム医療において情報は必要不可欠である。看護情報学は、1980年に初めて定義された新しい学問であり、医療機関における電子カルテの導入や、地域医療連携における患者情報のネットワーク化、遠隔医療・遠隔看護の推進など、看護を取り巻く情報システムの変化は著しい。本講義では、看護情報学の定義の変遷、看護の臨床現場における情報活用の概要、情報倫理と医療で取り扱う個人情報の特徴、医療情報システムの種類と役割、遠隔医療や遠隔看護の国内外における実践例、看護用語の標準化への取り組みについて学ぶことで、看護の質や効率、安全性を高めるための看護情報学について理解を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>これまで講義や実習で学んできた看護に、情報がどのように活用されていたか復習しておくこと。また、情報通信技術の医療への活用について、日頃からニュースに関心を持つこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護情報学の専門性を理解し、看護実践への情報の活用について概要を知る。(12月10日火曜日)3限</li> <li>2. 看護情報学を取り扱うために必要となる、コンピュータリテラシーや情報リテラシーを習得するための基礎的知識や考え方を理解する。(12月10日火曜日)4限</li> <li>3. データと情報と知識の関係を知り、看護で取り扱う情報の特徴や活用について理解する。(12月13日金曜日)3限</li> <li>4. 情報倫理の概念を理解し、医療で取り扱う個人情報の特徴や個人情報保護法の要点と関連するガイドライン、倫理指針について理解する。(12月13日金曜日)4限</li> <li>5. 海外における看護への情報通信技術の導入と活用の可能性を学び、遠隔医療・遠隔看護の現状や実用化に向けた課題について理解する。(12月17日火曜日)3限</li> <li>6. 医療情報システムの種類と役割を理解する。また、看護用語の標準化の取り組みとして、NANDA、ICNPの概要を知り、分類体系の目的と利用方法について理解する。(12月17日火曜日)4限</li> <li>7. 看護の質と効率、安全性を高めるための、看護情報学の発展について検討する。(12月18日水曜日)2限</li> <li>8. 試験(12月20日金曜日)1限</li> </ol> <p>教室 F210</p>			



科目名	看護情報学	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	東 ますみ		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>試験(80%)、レポート課題(10%)、授業への取組(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験後に解答の解説を行う。レポートは後日総評を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験、レポート課題、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探求していける。 成績評価方法:試験、レポート課題、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート課題、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、レポート課題、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、レポート課題、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「エッセンシャル 看護情報学 2024年版」 著者名:太田勝正・前田樹海編著 出版社:医歯薬出版株式会社(978-4-263-71067-8) 適宜プリントを配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて適宜紹介する。</p>			

科目名	看護倫理	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	洪 愛子、藤田 冬子、玉木 敦子、菅野 由美子、服部 律子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理原則について理解する。</li> <li>2. 倫理的な看護実践の展開について思考を深めることが出来る。</li> <li>3. 実習で担当した事例を倫理的実践の観点から検討し、学習の展開が出来る。</li> <li>4. 医療者の倫理について思考を深めることが出来る。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>倫理の原則(善行と無害、正義、自律、誠実、忠誠)をもとに、看護実践上の重要な倫理的概念(アドボカシー・責務と責任、協力、ケアリングなど)を学ぶ。その上で、看護師の倫理的責任について看護師の機能と役割の観点から探求する。さらに、看護倫理の実践への応用について老人看護・精神看護・母性看護・小児看護領域の臨床事例を元に検討し、看護の実践そのものが安全性、公正性、透明性が求められることを深く理解する。そのため、看護ケアを実践するとき、協力・協働するコミュニティの育成や学習の発展の必要性を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業までに、倫理原則や倫理的概念、老年、精神、母性、小児のそれぞれの分野の倫理的課題やテーマとなる内容について教科書を読み学習する。(2時間程度)</li> <li>・各授業で行った小テストの内容や、倫理・権利を守る法制度について復習する。(2時間程度)</li> </ul> <p>[授業計画]</p> <p>第1回(11/12 3限) 倫理原則をもとに看護の倫理的実践に伴う重要な概念を理解し、看護師の倫理的責任について看護師の機能と役割の観点から探求する(洪愛子)</p> <p>第2回(11/19 3限) 老年看護分野における倫理の実践とアドボカシーについて臨床事例を展開する(藤田冬子)</p> <p>第3回(11/26 3限) 精神看護分野における倫理の実践と尊厳について臨床事例を展開する(玉木敦子)</p> <p>第4回(12/3 3限) 母性看護分野における倫理の実践と生命倫理について臨床事例を展開する(服部律子)</p> <p>第5回(12/10 3限) 小児看護分野における倫理的看護とケアリングについて臨床事例を展開する(菅野由美子)</p> <p>第6回(12/11 3限) 看護実践の倫理的課題について討議する(洪愛子)</p> <p>第7回(12/17 3限) 薬害被害をうけられた当事者から医療者の倫理について学ぶ(外部特別講師、洪愛子)</p>			

科目名	看護倫理	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	洪 愛子、藤田 冬子、玉木 敦子、菅野 由美子、服部 律子		
<p>[ 成績評価方法 ] 小テスト(6回)(60%)、最終課題レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中およびmanabaでフィードバック</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポートで評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 看護倫理—よい看護・よい看護師への道しるべ— 改定版第3版 著者名:中西恵美子 出版社:南江堂 (978-4-524-</p>			

P11200250 [ NNI3-005 ]

[4看]\*後期火3

科目名	感染免疫学	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	洪 愛子、笠井 正志、山本 剛		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病原微生物の種類と特徴を説明できる。</li> <li>2. 感染成立における人体の持つ免疫機構と微生物の病原性との関係を理解できる。</li> <li>3. 身近な微生物を通して、患者さんと医療従事者との繋がりについて学び、私たちの社会生活を営んでいく上で共存している薬剤耐性菌との関わりについても理解できる。</li> <li>4. 感染免疫学の知識を看護に結び付けることができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>本授業科目では、感染(症)の原因となる微生物の種類とそれらの特徴、宿主側の生体防御機構と疾病の成り立ち、検査法や、感染予防法等を学ぶことによって、感染とこれを防ぐ宿主の免疫応答などの相互関係を理解する。これらに加えて本授業科目では、新興・再興感染症、さらには感染症法などといった今日的諸問題や保健医療福祉施策についても学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.臨床微生物学のススメ、微生物の基礎知識(ウイルス、細菌の違い)【笠井1】10/1火曜火曜Ⅲ限</li> <li>2.感染症の現状と歴史・発見と予防管理の歴史、新興・再興感染症、感染症法、それらと保健医療福祉行政とのつながり【洪1】10/8火曜Ⅱ限</li> <li>3.微生物事情と感染症(感染症発症年齢、臓器システム)、届け出疾患【笠井2】10/8火曜Ⅲ限</li> <li>4.感染と免疫(1)感染症の成立過程と防御機構(物理的バリア)【洪2】10/10木曜Ⅲ限</li> <li>5.感染と免疫(2)自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫【洪3】10/14月曜Ⅲ限</li> <li>6.感染と免疫(3)病院や施設で問題となる感染症(分離菌)と標準予防策【洪4】10/15火曜Ⅲ限</li> <li>7.微生物の殺滅と患者治療(抗微生物薬、薬剤耐性菌)【笠井3】10/17木曜Ⅲ限</li> <li>8.細菌学演習(1)・臨床微生物学(身近な微生物とその特性)顕微鏡の取り扱い、グラム染色、一般細菌培養検査【山本・洪】10/21月曜Ⅰ限 A</li> <li>9.細菌学演習(2)・黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌(コロニー観察、薬剤感受性検査)【山本・洪】10/21月曜Ⅱ限 A</li> <li>10.細菌学演習(3)・感染症の検査法と検査等に伴う援助技術、簡易迅速検査、培養結果の判定とまとめ【山本・洪】10/22火曜Ⅲ限 A</li> <li>11.感染と免疫(4)感染経路別予防策(N95マスクの装着法)と部位別感染予防、滅菌・消毒・洗浄の理論と実際【洪5】10/24木曜Ⅲ限</li> <li>12.細菌学演習(1)・臨床微生物学(身近な微生物とその特性)顕微鏡の取り扱い、グラム染色、一般細菌培養検査【山本・洪】10/28月曜Ⅰ限 B</li> <li>13.細菌学演習(2)・黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌(コロニー観察、薬剤感受性検査)【山本・洪】10/28月曜Ⅱ限 B</li> <li>14.細菌学演習(3)・感染症の検査法と検査等に伴う援助技術、簡易迅速検査、培養結果の判定とまとめ【山本・洪】10/29火曜Ⅱ限 B</li> <li>15.微生物から人を守る(予防接種)【笠井4】10/29火曜Ⅲ限</li> <li>16.微生物から人を守る(子どものミカタ)【笠井5】10/31木曜Ⅲ限</li> </ol> <p>試験(1回から10回は各回小テスト実施、8回から10回、12回から14回はレポート提出)</p> <p>指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容  別表1:「保健医療福祉行政論」  別表3:「疾病の成り立ちと回復の促進」</p>			

P11201380 [ NNB2-011 ]

[2看]\*後期木3&一部月1・2・火1・2

科目名	感染免疫学	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	洪 愛子、笠井 正志、山本 剛		
<p>[ 成績評価方法 ] 成績の評価は毎回の小テストの結果(70%)と細菌学演習課題レポート(30%)に基づいて行う。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中およびmanabaでフィードバック</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、演習レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:授業への参加度、小テスト、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:授業への参加度、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していきける。 成績評価方法:授業への参加度、レポートで評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していきける。 成績評価方法:授業への参加度、レポートで評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加度、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への参加度、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への参加度、レポートで評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業への参加度、レポートで評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち(3):臨床微生物・医動物 第5版 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-8156-4) ウォームアップ微生物学 著者名:中込治 出版社:医学書院 (978-4-260-04929-0)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 看護師のための感染対策 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8285-6)</p>			

P11201380 [ NNB2-011 ]

[2看]\*後期木3&一部月1・2・火1・2

科目名	急性期看護論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	横内 光子、奥井 早月、岸野 真由美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1.手術を受ける患者の身体面、精神面、社会面の特徴を理解できる。  2.麻酔と手術操作によって発生する手術中・手術後の合併症、苦痛、セルフケアの障害とその援助方法について理解できる。  3.様々な手術の部位や手術方法によって生じる看護上の問題とその援助方法について理解できる。  4.個人にとって、病気の経過や療養生活の中で手術を受けるという体験の意味を考え、長期的視点になって手術を受ける患者の看護について考えることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>地域社会で生活を送る個々人が、何らかの病気になり、手術をはじめとする身体に負担の大きい治療を受ける際の、身体・精神・社会的な特徴を理解する。また、個人や家族にとって、生命・健康が危機状態におかれる体験の意味を理解し、そのような患者と家族に必要な看護援助について学ぶ。手術など身体に大きな負担をかける治療によって、人の身体や心はどのように反応しながら回復するのかを、これまでに学習した身体のおしきと機能、病態などの知識を活用して理解する。この理解に基づいて、患者の回復状態を綿密に評価しながら、順調な回復と患者の望む社会復帰に向けた援助の方法を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回に関連する教科書を熟読し、人体のおしきと機能(解剖と生理)、疾病と治療について、1-2年次に学習した教科書や資料ならびに、事前に指示された動画や資料を確認し、授業のグループワークで十分にディスカッションができるよう準備学修を行うこと・各回、予習復習合わせて4時間程度の自己学習を行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.オリエンテーション、急性期にある患者・家族の特徴と看護の役割:(横内光子) (4月12日 金曜日)3限</p> <p>2.手術中の看護:手術・麻酔中の安全・安楽を維持する看護:(横内光子) (4月19日 金曜日)3限</p> <p>3.手術後の看護1)侵襲・生体反応と術後合併症に対する看護:(横内光子) (4月26日 金曜日)3限</p> <p>4.手術後の看護2)生命維持、苦痛の緩和と合併症予防、セルフケア回復のための看護・退院に向けた看護:(横内光子) (5月8日 水曜日)1限</p> <p>5.手術前の看護:術前アセスメントと準備状態を整える看護:(横内光子) (5月8日 水曜日)2限</p> <p>6.消化管(食道・胃・腸)の手術を受ける患者の特徴と看護:(横内光子) (5月10日 金曜日)3限</p> <p>7.消化器(胆嚢・肝臓・膵臓)の手術を受ける患者の特徴と看護:(横内光子) (5月17日 金曜日)3限</p> <p>8.肺、乳腺、甲状腺の手術を受ける患者の特徴と看護:(横内光子) (5月24日 金曜日)3限</p> <p>9.運動器(関節・脊椎)の手術を受ける患者の特徴と看護:(横内光子) (5月31日 金曜日)3限</p> <p>10.頭頸部の手術を受ける患者の特徴と看護:(横内光子) (6月7日 金曜日)3限</p> <p>11.脳神経系の手術を受ける患者の特徴と看護:(横内光子) (6月14日 金曜日)3限</p> <p>12.心臓・血管の手術を受ける患者の特徴と看護:(奥井早月) (6月21日 金曜日)3限</p> <p>13.泌尿器、生殖器の手術を受ける患者の特徴と看護:(岸野由美子) (6月26日 水曜日)1限</p> <p>14.試験: (6月26日 水曜日)2限</p>			

科目名	急性期看護論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	横内 光子、奥井 早月、岸野 真由美		
<p>[ 成績評価方法 ] グループワーク・事例課題の評価点 : 50% 試験の得点 : 50%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題と試験結果はmanabaにてフィードバックを行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を實踐することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:グループワーク・事例課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:事例課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:グループワーク・事例課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:グループワーク・事例課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:グループワーク・事例課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:グループワーク・事例課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:グループワーク・事例課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:グループワーク・事例課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:グループワーク・事例課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 成人看護学④周術期看護 著者名:中島恵美子, 山崎智子, 竹内佐智恵 編集 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-7539-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(第11版) 著者名:北島政樹、江川幸二編集 出版社:医学書院 (978-4-260-02769-4) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(第9版) 著者名:矢永勝彦、小路美喜子編集 出版社:医学書院 (978-4-260-02765-6)</p>			

科目名	健康相談活動	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]          養護教諭の職務の特性や保健室の機能を生かした健康相談活動について理解し、健康相談活動の基礎的な実践能力を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ]          近年の社会環境や生活様式の急激な変化の中で、子供達の心身両面にわたる健康問題が複雑化、深刻化している。養護教諭はこのような子供達の健康問題にいち早く気づくことのできる立場であり、養護教諭が実施する健康相談活動は重要な役割を担っている。          ここでは、養護教諭の行う健康相談活動の基礎・基本を学び、具体的な事例を挙げながら、ロールプレイやグループワーク等を取り入れて、要因の把握や解決のための支援のあり方、関係者との連携等について学んでいく。学校現場での養護教諭経験がある教員が、実際の学校現場の現状に即した健康相談活動を実施できる力を身につけられるように、具体例を挙げながら指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]          授業内容に関連する箇所の予習および、前回の授業の復習を心がける。          各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]          1.健康相談活動とは何か、意義・目的と概要を学ぶ(11月12日火曜日)1限          2.養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談活動のあり方を学ぶ(11月12日火曜日)2限          3.児童生徒の心身の発達について理解し、健康問題の現状と背景、予防教育について学ぶ(11月19日火曜日)1限          4.健康相談の基礎、対象理解、問題理解、相談方法の理解について学ぶ(11月19日火曜日)2限          5.健康相談活動に必要なカウンセリング技法について学ぶ(11月26日火曜日)1限          6.健康相談活動の実際、相談活動の進め方について学ぶ(11月26日火曜日)2限          7.不定愁訴、心身症について理解し、適切な対応のあり方を学ぶ(12月3日火曜日)1限          8.いじめ、虐待について理解し、適切な対応のあり方を学ぶ(12月3日火曜日)2限          9.保健室登校について、背景や現状を理解し適切な対応のあり方を学ぶ(12月10日火曜日)1限          10.薬物乱用、飲酒・喫煙行動、性的問題行動について理解し、適切な対応のあり方を学ぶ(12月10日火曜日)2限          11.ライフスキル教育とアンガーマネジメントについて学ぶ(12月17日火曜日)1限          12.慢性疾患を持つ児童生徒の理解と適切な対応のあり方を学ぶ(12月17日火曜日)2限          13.健康相談活動の記録と評価、まとめ(12月19日木曜日)3限</p>			



科目名	健康相談活動	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み姿勢(提出物、授業態度等)70%、レポート30%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートの評価は希望者に開示する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していきける。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p>			

科目名	公衆衛生学	前期	1 単位
サブタイトル	Public Health	講義	
担当者	加藤 憲司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護・医療の中での公衆衛生学の位置付けが説明できる。</li> <li>2. 公衆衛生活動の実際や行政組織・法制度等について説明できる。</li> <li>3. 対象となる集団の健康上の諸問題や生活環境について理解・説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>公衆衛生学は、全ての国民が生来の権利としての健康と長寿を可能にすべく、その理論と技術を組織化・体系化した学問である。この科目では、公衆衛生学とわが国の公衆衛生の現状を踏まえて、健康支援や社会保障制度、対象者別の保健医療の現状、環境保健等、幅広いトピックスを取り扱う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。</li> <li>2. 日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。</li> <li>3. 各回、予習復習あわせて2時間程度。</li> </ol> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.公衆衛生学概論 (4月11日木曜日)2限</li> <li>2.衛生行政の体系 〈小テスト〉(4月18日木曜日)2限</li> <li>3.衛生の主要指標① 〈小テスト〉(4月25日木曜日)2限</li> <li>4.衛生の主要指標② 〈小テスト〉(5月9日木曜日)2限</li> <li>5.衛生の主要指標③ 〈小テスト〉(5月16日木曜日)2限</li> <li>6.保健と医療の動向 〈小テスト〉(5月23日木曜日)2限</li> <li>7.まとめ (5月30日木曜日)2限</li> </ol>			

科目名	公衆衛生学	前期	1 単位
サブタイトル	Public Health	講義	
担当者	加藤 憲司		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業後に実施する計4回の課題(看護師国家試験に準ずる形式)の合計 80% 授業態度 20%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  各回の小テストの解説を次回講義時に実施する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業後に実施する小テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  国民衛生の動向2023/2024(デジタル) 著者名:一般財団法人 厚生労働統計協会 出版社:一般財団法人 厚生労働統計協会</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  担当教員から適宜指示する。</p>			

科目名	公衆衛生看護演習		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	小坂 素子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
[到達目標]				
1. 地域社会で暮らす様々なライフステージ・健康レベルの個人・集団に対する援助方法を習得する。				
2. 個別保健指導と集団保健指導の違いや特徴を理解し、援助技術を習得する。				
[授業概要]				
地域社会の中で生活および健康課題を解決するために、公衆衛生看護活動における保健指導技術を習得する。地域で生活している人々の健康の保持・増進のために、ヘルスプロモーションおよびセルフケアの考え方にに基づき、地域住民が自ら健康に関する課題を解決できる力を身につけられるような保健指導の方法を学ぶ。地域看護活動の対象となる様々なライフステージ・健康レベルの個人や家族、集団、組織の支援をするために、家庭訪問・健康相談といった個別保健指導技術と健康教育・グループ学習といった集団保健指導技術を習得し、実践できるように演習を行う。市町村での保健師活動経験のある教員が自身の活動経験を踏まえ、行政機関で実際に使用している媒体等を使用して実践的な演習を行う。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]				
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。				
各回、予習復習を合わせて2時間程度行うこと。				
[授業計画]				
1. 保健師活動の支援方法と技術、家庭訪問の実際と技術(4月9日火曜日1限)				
2. 個人・家族への保健指導技術①:家庭訪問の演習(4月9日火曜日2限)				
3. 個人・家族への保健指導技術②:家庭訪問の演習(4月9日火曜日3限)				
4. 個人・家族への保健指導技術③:乳幼児健康診査の実際と保健指導技術(4月9日火曜日4限)				
5. 個人・家族への保健指導技術④:乳幼児健康診査の演習(問診・保健指導)(4月11日木曜日1限)				
6. 個人・家族への保健指導技術⑤:様々な健康相談・保健指導の場面と技術(4月11日木曜日2限)				
7. 個人・家族への保健指導技術⑥:健康相談・保健指導の演習(4月15日月曜日1限)				
8. 個人・家族への保健指導技術⑦:健康相談・保健指導の演習(4月15日月曜日2限)				
9. グループ・集団に対する保健指導技術①:健康教育の企画・計画・実施・評価の流れと技術(4月16日火曜日1限)				
10. グループ・集団に対する保健指導技術②:健康教育演習(企画・計画)(4月16日火曜日2限)				
11. グループ・集団に対する保健指導技術③:健康教育演習(企画・計画)(4月19日金曜日3限)				
12. グループ・集団に対する保健指導技術④:健康教育演習(実施)(4月19日金曜日3限)				
13. グループ・集団に対する保健指導技術⑤:健康教育演習(実施・評価)(4月22日月曜日2限)				
14. 試験(4月25日木曜日1限)				
使用教室:F202演習室				

P11200370 [ NNB3-006 ]

[4看]\*前期月1・2&一部火1・2・木1

科目名	公衆衛生看護演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小坂 素子		
<p>[ 成績評価方法 ]  筆記試験(60%)、受講態度(40%):グループワークへの参加態度、ワークシート記載内容により評価  * 20分以上の遅刻は欠席として取り扱う</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ワークシートは毎回の授業終了後回収し、確認後、次回の授業時間に返却。記載内容へのコメントは授業時間内に行います。  試験へのフィードバックは、原則としてmanabaまたはメールを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を實踐することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:試験 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:試験 受講態度</p>			

P11200370 [ NNB3-006 ]

[4看]\*前期月1・2&一部火1・2・木1

科目名	公衆衛生看護学概論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小路 浩子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護・公衆衛生看護の理念、歴史、役割、公衆衛生看護学活動の対象を理解する。</li> <li>2. 公衆衛生看護の動向と公衆衛生看護学活動の展開を理解する。</li> <li>3. 公衆衛生看護学の理論的背景を理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>地域看護・公衆衛生看護の理念、歴史および公衆衛生看護学に重要な概念や理論を学ぶ。公衆衛生看護活動の特性および場と対象、日本の健康政策の変遷と社会的背景、集団の健康を支える保健師活動、関係法規・施策、行政のしくみを理解する。また、地域で生活している人々を、個・家族・集団・地域社会という多重構造で捉え、生活者としての視点で考えることができる。さらに、より身近に地域社会とそこに生活している人々の健康課題を考えてもらうために、自分の生まれ育った地域の情報収集やフィールドワークを取り入れた学習を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習あわせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス・公衆衛生看護の歴史と諸外国の公衆衛生看護活動：公衆衛生看護活動の歴史や諸外国の公衆衛生看護活動を学ぶことによって、公衆衛生看護活動の原点を知り、地域住民を支える保健師の機能や役割を理解する。(4月8日 月曜日)1限</li> <li>2. 公衆衛生の基本理念と公衆衛生看護の特徴：地域看護学および公衆衛生看護学を学ぶにあたっての基本概念である公衆衛生、健康の概念、公衆衛生看護の理念、公衆衛生看護学および公衆衛生看護活動の特徴について理解する。(4月15日 月曜日)1限</li> <li>3. 地域看護・公衆衛生看護の場：地域看護・公衆衛生看護活動の活動分野(行政保健、学校保健、産業保健、在宅看護)と看護職の役割、法的根拠や社会保障制度、保健・医療・福祉関係者の連携について理解する。(4月22日 月曜日)1限</li> <li>4. 社会環境の変化と健康課題：各健康指標や社会背景、ライフスタイル、さまざまな価値観について学び、地域の人々の健康との関連を考えることができる。(5月6日 月曜日)1限</li> <li>5. 公衆衛生看護活動の基盤となる理論(地区診断の方法)：公衆衛生看護活動の基盤となる理論を理解することによって、公衆衛生看護活動に活用することを考えることができる。(5月6日 月曜日)3限</li> <li>6. 地域住民の健康課題：住民の健康課題を理解するために、自分の生まれ育った地域のフィールドワークを行い、健康課題を考察する。(5月13日 月曜日)1限</li> <li>7. 公衆衛生看護活動の実際①：行政における保健師活動の実際を学ぶ。(学外特別講師)主担当も同席。(5月13日 月曜日)3限</li> <li>8. 公衆衛生看護活動の展開：公衆衛生看護の特性・機能・役割、さまざまなライフステージ、健康レベルに応じた公衆衛生看護活動の対象、活動方法、関係法令や制度・システムづくりについて理解する。(5月20日 月曜日)1限</li> <li>9. 公衆衛生看護活動の実際②：職域における保健師活動(産業保健師)の実際を学ぶ(学外特別講師)主担当も同席。(5月20日 月曜日)3限</li> <li>10. 公衆衛生看護活動の展開方法①：個人・家族の捉え方と援助について事例を用いて考察する。(5月27日 月曜日)1限</li> <li>11. 公衆衛生看護活動の展開方法②：集団の捉え方と援助について事例を用いて考察する。(5月27日 月曜日)3限</li> <li>12. 公衆衛生看護活動の展開方法③：公衆衛生看護活動の計画・実践・評価、計画策定と施策化：地域全体を対象とした援助について事例を用いて考察する。地域保健計画の概要、策定意義や必要な要素を学び、社会資源の開発やシステム作りを推進する公衆衛生看護活動を理解し、公衆衛生看護活動における保健師の役割を理解する。(6月3日 月曜日)1限</li> <li>13. 自分の住んでいる地域の健康課題(フィールドワーク発表・ディスカッション)：フィールドワークでまとめた自分の地域の健康課題について発表し、ディスカッションを通じて学びを深める。(6月3日 月曜日)3限</li> <li>14. 試験(6月10日 月曜日)1限</li> </ol>				

科目名	公衆衛生看護学概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小路 浩子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験 (50%)、小テスト(20%)、課題レポート:フィールドワークと地区診断(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・小テストは、試験答案回収後に解説する。 ・課題レポートは必要に応じてコメントを入れて返却する。 ・試験は試験後、manabaを通じて解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、小テスト、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、小テスト、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験、小テスト、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していきける。 成績評価方法:試験、小テスト、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していきける。 成績評価方法:試験、小テスト、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験、小テスト、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、小テスト、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、小テスト、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、小テスト、課題レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 第6版 著者名:標美奈子他 出版社:医学書院 (978-4-260-04707-4) 公衆衛生がみえる2024-2025(第6版) 著者名:安藤雄一他 出版社:メディックメディア (978-4-89632-779-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 健康と社会・生活(第5版) 著者名:平野かよ子他 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-7835-9)</p>			

P11201210 [ NNB3-004 ]

[3看]\*前期月1 & 一部月3

科目名	公衆衛生看護活動論 I		後期	1 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小路 浩子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.地域組織活動の特徴を捉え、地域の中の様々な住民組織があることを理解する。  2.セルフヘルプグループの特徴と支援方法を理解する。  3.地域ケアシステムの構築と展開における看護職の役割を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>地域の健康課題を理解し、健康の保持・増進に向けて組織的に解決する活動方法を学ぶ。母子保健ネットワークやフォロー体制、障害者(児)対策や社会での支援システム、介護予防施策など、地域で展開されている集団や組織における看護職の役割・機能、地域看護活動の実践を学び、地域看護過程の展開方法について理解する。さらに、地域ヘルスケアシステムの構築、地区組織活動の具体的方法と地域ネットワークづくり、支援体制づくり、地域で展開されている保健活動と実践技術を理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.地域におけるグループ支援・組織化と地域ケアシステム、地域組織活動の歴史と社会背景、特徴(1月7日 火曜日)3限  2.地域組織活動にかかわる概念、地域組織活動で活用できる理論・方法論(1月7日 火曜日)4限  3.グループ・組織の特性、グループの成長過程・組織化とその支援(1月10日 金曜日)3限  4.当事者組織とその支援、住民の自立支援と地域組織活動の実際(1月15日 水曜日)3限  5.地域ケアシステムの構築:地域ケアシステム概念、地域ケアシステム構築に必要な基本概念、構造的転換(1月15日 水曜日)4限  6.ネットワーク化と調整活動:ソーシャルネットワークとは、地域ケアの調整活動、社会資源の活用、地域保健医療福祉ネットワーク形成と看護職の役割(1月24日 金曜日)3限  7.地域ケアシステム構築の実際と看護職の役割:地域包括支援センターの地区活動の実践から学ぶ(特別外部講師) * 主担当教員も同席(1月24日 金曜日)4限  8.試験(1月31日 金曜日)2限</p>				



科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小路 浩子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験70%、課題レポート30%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・試験は試験答案回収後、manabaにて解説する。 ・課題レポートは、必要に応じてコメントを入れて返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 標準保健師講座② 公衆衛生看護技術 第5版 著者名:中村裕美子他 出版社:医学書院 (978-4-260-05002-9)</p>			

P11201250 [ NNB3-007 ]

[3看]\*後期金3

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小坂 素子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]          保健師活動を展開するのに必要な知識と技術を理解する。          1.ライフステージや健康レベルをふまえ、それぞれの対象の特性や場に応じた知識と技術を理解する。          2.健康障害を持つ人々および健康危機状態の人々の特性や対象の置かれている状況を理解し、それぞれの対象の特性や場に応じた知識と技術を理解する。</p> <p>[授業概要]          保健師活動を展開するための具体的方法論について学ぶ、様々な分野で展開される保健師活動について、一次・二次・三次予防の視点およびヘルスプロモーションの考え方に基いた公衆衛生看護活動について学ぶ。生活習慣病発症・重症化予防、虐待問題、健康危機管理、高齢者問題など複雑多様化している健康課題に対し、地域で活動する看護職に期待されている内容について理解・実践できるように、事例を用いた学習、グループワークをとおして実践的思考を養い、保健師活動に必要な知識・技術を学ぶ。行政保健師の活動経験を持つ教員により、その活動体験・実務を踏まえ、具体的な個別支援事例展開及び事業企画立案について学ぶ。また、行政保健師として高い実績を有する外部講師より、対象に寄り添い、地域に根差した保健師活動の実際を学ぶ。国際保健活動では、海外での保健活動経験のある学外講師により、国内外における外国人への支援について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          母子保健等の各分野における法制度や国の施策について、前期の「地域看護活動論」の授業資料等より授業内容を復習しておくこと。前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習しておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習を合わせて4時間程度行うこと。</p> <p>[授業計画]          1. 保健師活動を展開するための知識と技術とは(1月8日水曜日1限)          2. 母子保健活動を展開するための知識と技術①(1月8日水曜日2限)          3. 母子保健活動を展開するための知識と技術②(1月10日金曜日1限)          4. 母子保健活動を展開するための知識と技術③(1月10日金曜日2限)          5. 成人保健活動を展開するための知識と技術①(1月15日水曜日1限)          6. 成人保健活動を展開するための知識と技術②(1月15日水曜日2限)          7. 成人保健活動を展開するための知識と技術③(1月22日水曜日1限)          8. 難病保健活動を展開するための知識と技術(1月22日水曜日2限)          9. 感染症保健活動を展開するための知識と技術①(1月24日金曜日1限)          10. 感染症保健活動を展開するための知識と技術②(1月24日金曜日2限)          11. 地域での取り組みを展開するための知識と技術①(1月29日水曜日1限)          12. 地域での取り組みを展開するための知識と技術②(1月29日水曜日2限)          13. 国際保健活動を展開するための知識と技術(学外特別講師)(1月29日水曜日3限)          14. 試験(1月31日金曜日3限)</p> <p>使用教室 F210</p>				

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小坂 素子		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験 (60%)、授業態度 (40%) 授業態度は、授業中に作成するワークシート・課題の記載内容及びグループ討議への参加状況を評価する。 * 20分以上の遅刻は欠席として取り扱う</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 筆記試験は原則として、採点后、manabaに解説を掲示し、フィードバックを行う。 ワークシートは、授業内において解説・補足を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身につけている。 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身につけている。 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身につけている。 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身につけている。 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身につけている。 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していきける。 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していきける。 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:筆記試験、受講態度</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 公衆衛生看護活動論 技術演習第3版 著者名:岩本里織他 出版社:クオリティケア (978-4-904363-67-6) 標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動 第4版 著者名:松田正己 出版社:医学書院 (978-4-260-03187-5) 「国民衛生の動向2024/2025」*最新版 出版社:厚生労働統計協会 標準保健師講座② 公衆衛生看護技術 第5版 著者名:中村裕美子他 出版社:医学書院 (978-4-260-05002-9)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 公衆衛生看護学 第3版 著者名:上野昌江他 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-8388-4)</p>			

P11201260 [ NNB3-008 ]

[3看]\*後期金1・2&一部水2

科目名	公衆衛生看護活動論実習		前期	2 単位
サブタイトル			実習	
担当者	小路 浩子、坂口 めぐみ、小坂 素子、小枝 美由紀			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活している人々の実態に触れ、様々な健康レベル・ライフステージにある人々の健康課題を把握し、地域全体の課題としてとらえることができる。</li> <li>2. 地域で展開される保健師活動の実際をとおして、個人・家族・集団(組織)、地域全体を対象とする支援方法、支援技術を学び、保健師の機能や役割を理解することができる。</li> <li>3. 地域における社会資源とその活用について理解し、保健師による社会資源の開発について理解することができる。</li> <li>4. 地域の健康課題の解決に向けた保健師と他(多)職種・他(多)機関との連携との連携について理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象(個人・家族・集団・組織・地域)の特性に合わせて展開される地域保健活動の実際に触れ、地域で生活する人々の実態や健康課題を把握するとともに、地域の人々の健康の保持増進に向けた取り組みや保健指導等の技術の基本を学び、公衆衛生看護活動に必要な実践能力を養う。また、個人・家族・集団(組織)のセルフケア能力を高める保健指導技術、他機関・他職種との連携、ケアマネジメント等の公衆衛生看護活動における保健師の機能と役割を理解する。保健師活動経験のある教員が臨地における実習指導担当保健師と協力・連携しながら、実習指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>実習に関連する授業内容を復習し理解して、事前学習を十分にしておいて実習に臨むこと。実習目的を明らかにし、記録は提出期限を守ること。日頃から住民生活に関係するニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習効果を上げるために、公衆衛生看護管理論実習と合わせて行う。</li> <li>2. 保健所およびその管轄する市町村または区からひとつの市町村あるいは区を担当し、実習する。</li> <li>3. 保健所が管轄する地域での組織や集団等、地域の多様な場で行う。</li> <li>4. 担当する保健所および管轄する地域において展開されている様々な健康レベル、ライフステージの保健・福祉事業に参加し、実習する。</li> <li>5. 保健所が管轄する地域で実施されている保健・福祉事業に関するオリエンテーションを受ける。</li> <li>6. 健康教育、家庭訪問、健康診査、健康相談などの事業を見学実習する。</li> <li>7. 地域で展開されている地域組織活動の場や自主グループなど地域の多様な場での実習を行う。</li> <li>8. 学生間で話し合った実習のまとめを実習地に提出、保健師からの助言を受け、学びを深める。</li> <li>9. 実習終了時のカンファレンスで、保健師の役割や関連職種との連携、地域ケアシステム等について学びを共有し、自己の課題を探索、レポートにまとめる。</li> </ol>				

科目名	公衆衛生看護活動論実習	前期	2 単位
サブタイトル		実習	
担当者	小路 浩子、坂口 めぐみ、小坂 素子、小枝 美由紀		
<p>[ 成績評価方法 ] 受講態度(10%)、実習評価(70%)、レポート(20%)により総合評価する</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 実習記録や課題へのフィードバックは、実習中の臨地または学内にて随時行う。課題レポートは、実習最終日に発表・共有の場を設け、教員からコメントする形でフィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していく。 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していく。 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 国民衛生の動向2023/2024 著者名:厚生労働統計協会 出版社:厚生労働統計協会 「公衆衛生看護学概論」「地域看護活動論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護演習」において使用した教科書 実習要項、資料は別途配布する</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜紹介する</p>			

P11200430 [ NNB3-011 ]

[4看]\*前期集中

科目名	公衆衛生看護管理論		前期	1 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小路 浩子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護活動における地域アセスメントの目的と展開方法を理解する。</li> <li>2. 地域アセスメントに必要な理論と知識を理解し、具体的な技術を習得する。</li> <li>3. 公衆衛生看護管理の目的およびその機能、施策化を理解する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>行政における保健活動を展開するために必要な公衆衛生看護管理の概念や理論、公衆衛生看護活動の展開技術の具体的な方法について学ぶ。実際の地域を事例に用いて、既存データの分析や地区踏査により地域アセスメントを行い、健康課題を抽出する技法を習得する。さらに、地域アセスメントによって把握、分析した情報から、課題解決のための地域保健活動計画を立案、評価・改善するプロセスを学び、PDCAサイクルを理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回の授業についての予習・復習4時間程度。      前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。行政のしくみについて理解しておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.地域全体を視野に入れた公衆衛生看護活動：公衆衛生看護管理と地域アセスメントの概念と理論、展開方法、PDCAサイクル(4月8日 月曜日)3限</li> <li>2.地域アセスメントの展開技術①【地域の現状を把握する－1】：既存資料から情報を収集する(4月8日 月曜日)4限</li> <li>3.地域アセスメントの展開技術②【地域の現状を把握する－2】：地区踏査・地区視診(4月15日 月曜日)3限</li> <li>4.地域アセスメントの展開技術③【情報を整理する】：既存資料、地区踏査・地区視診の整理(4月15日 月曜日)4限</li> <li>5.地域アセスメントの展開技術④【情報の分析】：収集した情報からのアセスメント(4月22日月曜日)3限</li> <li>6.地域アセスメントの展開技術⑤【健康課題の推測と目標設定】：アセスメントから健康課題を考え、事業目標を設定する(4月22日 月曜日)4限</li> <li>7.地域アセスメント・健康課題・事業目標の発表、地域における公衆衛生看護管理活動の展開(4月23日 火曜日)2限</li> </ol>				

科目名	公衆衛生看護管理論	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小路 浩子		
<p>[ 成績評価方法 ]  学習態度・グループワーク参加態度(50%) 課題レポート・ワークシート(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・グループワークでは、その都度助言をします。  ・課題レポート、ワークシートは後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:課題レポート、ワークシート、グループワークへの取り組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  地域看護アセスメントガイド第2版 著者名:佐伯和子 出版社:医歯薬出版 (978-4-263-23710-6)  標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 第6</p>			

P11200400 [ NNB3-009 ]

[4看]\*前期月3・4&一部木2

科目名	公衆衛生看護管理論実習		前期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	小路 浩子、坂口 めぐみ、小坂 素子、小枝 美由紀			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健師活動の基本となるPDCAサイクルの実際について理解し、説明できる。</li> <li>2. 既存の地域ケアシステムにおける保健師の機能や役割を理解し、地域ケアシステムの構築や施策化に向けた公衆衛生看護活動について理解し、説明できる。</li> <li>3. 実習地の地域診断を行い、健康課題を抽出し、必要な対策を考えることができる。</li> <li>4. 地域の健康危機管理について理解し、説明できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>保健所や市町村保健センター等の行政機関での実習をとおして、保健所等の保健行政機関の役割と機能、行政機関における看護職の役割について学ぶ。また、地域の健康課題把握のための地域診断、課題改善に向けた計画立案や事業開発、保健医療福祉の連携・協力体制の構築などの公衆衛生看護管理技術を学ぶとともに、公衆衛生看護管理に不可欠なPDCAサイクルの展開方法や地域ケアシステムづくり、危機管理体制について理解する。保健師活動経験のある教員が臨地における実習指導担当保健師と協力・連携しながら、実習指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>実習に関連する授業内容を復習し理解して、事前学習を十分にしておいて実習に臨むこと。実習目的を明らかにし、記録は提出期限を守る。日頃から住民生活に関係するニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習効果をあげるために、公衆衛生看護活動論実習とあわせて行う。</li> <li>2. 保健所等の行政機関において実習を行う。</li> <li>3. 保健所とその管轄する市町村または区からひとつの市町村あるいは区を担当し、実習を行う。</li> <li>4. 保健所において、保健所の機能と役割、地域特性と健康課題、保健師活動の概要等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>5. 担当する市町村あるいは区の資料やデータに基づいて事前学習し、レポートにまとめ、地域特性と健康課題、保健師活動の概要等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>6. PDCAサイクルに基づいて実習する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健所の管轄するひとつの市町村あるいは区を担当し、学内での事前学習・演習での情報収集、実習地の地区踏査、事業への参加、実習地でのオリエンテーション等を踏まえ、地域診断を行う。</li> <li>2) 担当した市町村あるいは区の地域診断結果から、健康課題を抽出し、課題解決に向けた対策を考え、実施に向けた方策や評価方法を検討する。</li> <li>3) 地域診断結果及び診断に基づいた健康課題、対策を「地区のすがた・健康課題」をまとめる。</li> <li>4) まとめに対して実習指導保健師や管理職等からの助言を受け、学びを深めるとともに、助言を踏まえ、地区診断の見直しを行い、精度を高めていく。</li> <li>5) 担当した保健所及び市町村の地域ケアシステムや保健医療計画等についても学習し、地区診断結果に反映するとともに実習指導保健師や地区担当保健師からの助言を受け、学びを深める。</li> <li>6) 実習最終日において、実習地での助言・指導を踏まえ、追加・修正を行った地区診断の成果を学生間で討議し、学びを深める。</li> </ol> </li> <li>7. 実習地でおこなわれている様々な健康危機対策について、保健師および関係者からオリエンテーションを受ける。</li> </ol>				



科目名	公衆衛生看護管理論実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	小路 浩子、坂口 めぐみ、小坂 素子、小枝 美由紀		
<p>[ 成績評価方法 ]  受講態度(10%)、実習評価(70%)、レポート(20%)により総合評価する</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  実習記録や課題へのフィードバックは、実習中の臨地または学内にて随時行う。実習内で行った地域診断の成果は臨地において発表し、実習指導担当保健師等から助言・指導を受け、追記・修正を行う。修正後の地域診断結果は、実習最終日に学内にて学生間で共有、意見交換を行い、教員がコメントする形でフィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:受講態度、実習評価、レポート</p>			

科目名	高齢者看護実践方法論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	笹谷 真由美、藤田 冬子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. 老年期に起こりやすい加齢変化・フレイル、慢性疾患に関する健康問題、またそれらが日常生活に及ぼす影響を理解できる。
2. 高齢者個人々人による違いやこれまでの生活背景や人生観・価値観など全体像を含めたアセスメント、看護計画立案の知識を得て、高齢者への援助技術が習得できる。

[授業概要]

健康を障害された高齢者の状態を総合的にアセスメントできる能力を養うために、高齢者が陥りがちな健康障害に応じた看護援助を展開するための方法を学ぶ。授業では老年期に起こりがちな健康障害である脳血管障害、認知症、心疾患、呼吸器系の疾患、パーキンソン病、骨・関節疾患等のケアを行うためのアセスメントと看護について、また、健康障害を悪化させやすい症状である脱水・栄養障害、せん妄、褥瘡等のアセスメントや予防・看護援助について学ぶ。さらに地域で自立して暮らす高齢者、あるいは介護を受けながら暮らす高齢者においても、健やかに老いを迎えられるための支援、終末期を迎える高齢者についての理解も深める。さらに老年看護での看護過程展開の特徴や方法について学ぶ。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

今回の授業についての予習・復習は4時間程度である。

疾病と治療 I で学んだ疾患について、知識として身につくように復習しておくこと。また、1年次に学んだ人体のしくみと機能 I・IIについても復習しておくこと。高齢者に関する時事問題等に関心を広げておくこと。

[授業計画]

1. 加齢の影響および高齢者の健康状態の特徴を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(4月9日火曜日)2限 (笹谷真由美)
2. 呼吸器の機能低下やこれらの疾患をもつ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(4月16日火曜日)2限 (藤田冬子)
3. 循環器の機能低下やこれらの疾患をもつ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(4月23日火曜日)2限 (藤田冬子)
4. 運動機能に障害を持つ高齢者へのアセスメント及び日常生活援助の方法を学ぶ(5月7日火曜日)2限 (藤田冬子)
5. 摂食嚥下機能に障害を持つ高齢者へのアセスメントと日常生活援助の方法を学ぶ(5月14日火曜日)2限 (藤田冬子)
6. 排泄機能に障害を持つ高齢者へのアセスメントと日常生活援助の方法を学ぶ(5月21日火曜日)2限 (藤田冬子)
7. 認知症・精神疾患等を持つ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(5月28日火曜日)2限 (笹谷真由美)
8. 老いと死、高齢者の終末期の特徴、死にかかわる権利、死を看取る場所、および終末期の看護について学ぶ(6月4日火曜日)2限 (藤田冬子)
9. 高齢者の地域での生活を支えるケアスタッフ、保健・医療・福祉等の他職種との連携との協働・マネジメントについて調べる(6月11日火曜日)2限 (笹谷真由美)
10. 高齢者の地域での生活を支えるケアスタッフ、保健・医療・福祉等の他職種との連携との協働・マネジメントについてまとめる(6月18日火曜日)2限 (笹谷真由美)
11. 健康障害がある高齢者の看護過程を展開するために必要な情報収集及びアセスメントの方法、アセスメントの活用と援助計画の立案について学ぶ(6月25日火曜日)2限(笹谷真由美)
12. 健康障害がある高齢者の事例を用いて、情報収集・アセスメント・看護計画を立案する(7月2日火曜日)2限 (笹谷真由美)
13. 健康障害がある高齢者の事例で立案した看護計画の内容について検討する(7月9日火曜日)2限 (笹谷真由美)

科目名	高齢者看護実践方法論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	笹谷 真由美、藤田 冬子		
<p>[ 成績評価方法 ] 1. 授業中の課題(20%) 2. 小テスト(80%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・課題は後日添削して返却します。 ・試験後、解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:小テスト50%、レポート課題50%</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:小テスト50%、レポート課題50%</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:小テスト50%、レポート課題50%</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:小テスト50%、レポート課題50%</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:小テスト50%、レポート課題50%</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:小テスト50%、レポート課題50%</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト50%、レポート課題50%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト50%、レポート課題50%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題 100%</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践」(デジタル) 著者名:堀内ふき 他 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-7841-0) 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 著者名:秋葉 公子(著)、玉木 ミヨ子(著)、村中 陽子(著)、江崎 フサ子(著) 出版社:ヌーベルヒロカワ (ISBN-10: 4861740568)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 「生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図」第3版 著者名:山田律子 他 出版社:医学書院 (978-4-260-02836-3)</p>			

P11201150 [ NNB2-004 ]

[2看]\*前期火2

科目名	高齢者看護論	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	藤田 冬子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢による人間の反応を理解できる</li> <li>2. 老年期を生きる人々と看護の役割を理解できる</li> <li>3. 高齢者を取り巻く社会制度と課題について理解できる</li> <li>4. 高齢者にかかわる倫理的課題について理解できる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、看護実践経験を基に以下の内容を講義する。  加齢のプロセスや老年期の特徴、加齢と健康の関連及び発生する健康障害と疾病予防について理解する。高齢者が健やかに老いるために求められる看護の役割や機能、高齢者を支える保健・医療・福祉や社会制度の変遷、高齢者が持つ価値観、高齢者が生きてきた時代とこれからの人生、高齢者ケアにまつわる倫理的問題についても学ぶ。これらを統合し健康障害がある高齢者を理解できるように学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業内容について教科書の該当するところを、熟読し理解を深めておくこと。  授業前には身近な高齢者の生活やニュース、新聞記事などに関心を持つこと。  前回の授業内容を復習しておくこと。各回、上記内容を予習復習合わせて4時間程度おこなう。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期の体験と人々を支える高齢者看護(藤田冬子)(10月3日木曜日)3限</li> <li>2. 加齢によるライフサイクルの変化の理解、老年期における健康と危機、発達課題加齢による心身の変化と生活への影響、高齢者に必要となる援助の視点、高齢者を支える社会制度を概観する(藤田冬子)(10月10日木曜日) 3限</li> <li>3. 高齢者のQOLと加齢による心身の変化に対する日常生活での対処及び工夫、必要な援助の視点を学ぶ(藤田冬子)(10月17日木曜日) 3限</li> <li>4. 健康障害を持つ高齢者の基本的欲求、高齢者のコミュニケーション、高齢者の看護を実践するためのアセスメントを学ぶ(藤田冬子)(10月24日木曜日) 3限</li> <li>5. 高齢者看護における倫理、倫理的課題と対応、長期療養施設・在宅看護、エンドオブライフケア、ACPを学ぶ(藤田冬子)(10月31日木曜日) 3限</li> <li>6. 高齢者の生きてきた時代と価値観を学び、高齢者の人生の考え方を学ぶ(学外特別講師・藤田冬子)(10月31日木曜日) 4限</li> <li>7. 高齢者の暮らしを支える保健・医療・福祉等の他職種との協働・マネジメント、チームアプローチ、世界の高齢化、日本の高齢者ケアの課題及び地域包括ケアシステムを学ぶ(藤田冬子)(11月7日木曜日) 3限</li> </ol>			

科目名	高齢者看護論	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	藤田 冬子		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>1. 授業中の小テストによる評価 (50%)  2. 授業内容の学びを問うアンケートによる評価 (50%)  上記1-2項目にて総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>1. 小テスト後、授業で解説する。  2. アンケート結果について授業で解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:授業内容についての学びを問うアンケート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身に付いている。  成績評価方法:1. 授業中の小テストによる評価  2. 授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身に付いている。  成績評価方法:1. 授業中の小テストによる評価  2. 授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身に付いている。  成績評価方法:1. 授業中の小テストによる評価  2. 授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身に付いている。  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身に付いている。  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業内容の学びを問うアンケートによる評価</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>電子教科書  「ナーシング・グラフィカ 老年看護学①:高齢者の健康と障害」第7版 著者名:佐久大学学長 堀内 ふき 編集  千葉大学大学院看護学研究院院長 諏訪 さゆり 編集  九州看護福祉大学看護学科教授 山本 恵子 編集 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-7840-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p> <p>なし</p>			

P11201140 [ NNB1-007 ]

[1看]\*後期木3

科目名	国際保健	前期	1 単位
サブタイトル	Global Health	講義	
担当者	加藤 憲司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  グローバルなレベルでの人々の健康課題を理解し、その課題に対応するための社会資源とその役割を学ぶ。多様な文化的背景を持つ人々への看護に関連する概念や理論、文化的特性について具体的に知識を得て、文化的配慮のある看護ケアについての理解を深める。</p> <p>[ 授業概要 ]  わが国では近年、在日外国人および訪日外国人数が急増し、医療機関での外国人対応の必要性が高まっている。また、経済連携協定(EPA)などにより、日本で看護師として働くことを目指してアジア諸国から看護師候補者が入国し、日本の看護師が外国人看護師と協働する機会も増えている。本科目は、このような時代変化を反映し、異文化理解・多文化共生に対する深い見識を有する看護職者を養成する。したがって本科目の授業では、A4用紙10ページ程度の英文文献を毎回抄読し、ディスカッションを実施する。学術的な英文文献を読むことに支障がなく、さらに国際保健学の理解度を向上させたい学生をターゲットとして想定しているので、英語が苦手な学生にはかなり難易度が高い内容であることに注意を要する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  1.各回の授業で用いる課題文献を事前に読んでおくこと。  2.課題文献の内容を読解・整理し、ディスカッションのための準備を行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. Health-care disparities for foreign residents in Japan. (4月10日水曜日)3限  2. Health-care disparities for foreign residents in Japan. (4月10日水曜日)4限  3. A cross-sectional survey of material deprivation and suicide-related ideation among Vietnamese technical interns in Japan. (4月17日水曜日)3限  4. Depression and anxiety symptoms among Vietnamese migrants in Japan during the COVID-19 pandemic. (4月17日水曜日)4限  5. Longitudinal Study of Symptom Changes in Clinical Depression and Anxiety Disorder among Vietnamese Migrants in Japan During the COVID-19 Pandemic. (4月18日木曜日)1限  6. Relationship between Depression and Anxiety Disorder and Loneliness among Vietnamese Migrants in Japan: A Cross-Sectional Study in 2022. (4月24日水曜日)3限  7. 総合ディスカッション (4月24日水曜日)4限</p>			

科目名	国際保健	前期	1 単位
サブタイトル	Global Health	講義	
担当者	加藤 憲司		
<p>[ 成績評価方法 ]  課題文献に関するディスカッションの状況 80% 授業態度 20%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業中のディスカッションを通じてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:課題文献に関するディスカッションの状況に基づき評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。  成績評価方法:課題文献に関するディスカッションの状況に基づき評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。  成績評価方法:課題文献に関するディスカッションの状況に基づき評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:課題文献に関するディスカッションの状況に基づき評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:課題文献に関するディスカッションの状況に基づき評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  指定しない。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  担当教員から適宜指示する。( )</p>			

科目名	こころの健康増進と看護	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	玉木 敦子、高橋 秋絵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	ロールプレイ	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1.現代社会におけるストレスと精神的諸問題について論述できる。  2.身体疾患をもつ患者のこころの健康問題とこころのケアについて述べるができる。  3.周産期の女性のメンタルヘルスとこころのケアについて述べるができる。  4.看護職のストレスとストレスマネジメントについて説明できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>人間は日々生活する中でさまざまなストレスを体験し、人生を生きる中でさまざまな危機に遭遇する。この授業では、精神看護実践の経験を有する教員が、自分自身の体験や実習での体験をもとに、さまざまな場や状況で人間が体験するストレスや危機、起こりうる精神的諸問題を理解し、その中でどのようにこころの健康を維持・増進するかを理解する。さらにそこでの看護職の役割を考察する。  主なテーマは、現代社会におけるストレスとこころの健康、身体疾患により療養生活を送る患者のこころの健康と看護、周産期の女性のこころの健康と看護、看護職のこころの健康とストレスマネジメントである。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、4時間以上かけて授業内容の復習と、次回の予習をすること。事前に指定された課題について、自分自身の体験や実習での体験をもとに取り組んだうえで、授業に臨むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.現代社会のさまざまな場(家庭、学校、職場など)におけるストレスと精神健康問題を概観する(玉木敦子)(12月9日月曜日)1限  2.ストレスに関する理論を学び、看護学生や看護職が体験するストレスを概観する(玉木敦子)(12月9日月曜日)2限  3.周産期にみられる精神健康問題やそれに対する治療的アプローチについて概観する(玉木敦子)(12月10日火曜日)1限  4.産後うつ病のスクリーニングと産後うつ状態にある女性への看護援助について学ぶ(高橋秋絵)(12月10日火曜日)2限  5.視聴覚教材を通して身体疾患をもつ患者の体験を理解し、危機理論に基づいてこころの危機を理解する(玉木敦子)(12月16日月曜日)1限  6.理論に基づいたストレスマネジメントの実際を体験的に学ぶ(高橋秋絵)(12月16日月曜日)2限  7.現代社会でトピックとなっている精神健康問題を取り上げ、その背景要因を理解し、看護の役割と課題を検討する(玉木敦子、高橋秋絵)(12月17日火曜日)2限  8.試験(12月24日火曜日)2限</p>			



科目名	こころの健康増進と看護	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	玉木 敦子、高橋 秋絵		
<p>[ 成績評価方法 ]  試験(70%)、レポート(30%)  レポートのテーマ及び提出日は下記の通り。詳細はmanaba等にて通知する。  ・テーマ「最近の精神保健に関する問題について」(A4 2枚 3000字程度)  ・レポート提出日:12月17日(火)2限目開始時(期限厳守)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  * 試験は、採点后に採点結果の全体的なコメントを示すことにより行う。  * レポートは、後日添削して返却する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:試験、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:試験、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:試験、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:試験、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。  成績評価方法:試験、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  精神看護学Ⅰ—精神保健学—[第6版] 著者名:吉松 和哉  小泉 典章  川野 雅資 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-064-0 )</p>			

P11201450 [ NNB3-017 ]

[3看]\*後期火2&一部火1

科目名	コミュニケーション論(表現学)		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  対人コミュニケーションについて理論的な枠組みを理解し、伝達表現能力を養い、社会に出てから必要なコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ]  人と人が社会の中でどのように言葉を使っているかについて、様々なテーマを取り上げ、重要な点を整理・考察する。授業での実践的演習を通して 円滑なコミュニケーションを図る手段や、多様化するコミュニケーションの現状を解説したうえで、問題点などを考察する。更に面談等のコミュニケーション実習を体験することで、医療現場で役立つ、コミュニケーション表現能力を養う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  日常から会話に興味を持ち、どうすれば自己の考え方が人に伝わるかのを考察し、家族や友人と話しをする際も様々な工夫を試す。テレビ番組を観たり音楽を聴いたり情報に触れた際に独自に感想、意見を考えてみる。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入:コミュニケーションについて(笹原)9月27日(金)5限目</li> <li>2. コミュニケーション表現の基礎について (北川)10月4日(金)5限目</li> <li>3. 円滑なコミュニケーション1(自己紹介とは) (北川)10月11日(金)5限目</li> <li>4. 円滑なコミュニケーション2(他者紹介とは) (笹原)10月18日(金)5限目</li> <li>5. CMなどにおけるコミュニケーション表現について(北川)10月25日(金)5限目</li> <li>6. 社会におけるコミュニケーション表現について(笹原)11月1日(金)5限目</li> <li>7. コミュニケーション表現力を高める(笹原)11月15日(金)5限目</li> <li>8. コミュニケーション・マネジメントについて(北川)11月22日(金)5限目</li> <li>9. 日本語の特性と非言語(ノンバーバル)の重要性 (笹原)11月29日(金)5限目</li> <li>10. 業務コミュニケーション (北川)12月6日(金)5限目</li> <li>11. 実社会(医療現場)でコミュニケーション表現を活かすテクニック (北川)12月13日(金)5限目</li> <li>12. グループ演習 (北川)12月20日(金)5限目</li> <li>13. 実演 面談 (笹原)1月10日(金)5限目</li> </ol>				

科目名	コミュニケーション論(表現学)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の演習体験 発表50%・レポート50%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 講評及びレポートでフィードバック</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート、グループディスカッション、スピーチ</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:レポート、グループディスカッション、スピーチ</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	コミュニティ看護実習 I		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	東 ますみ、小路 浩子、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、中岡 亜希子、西原 詩子、小坂 素子、吉原 文子、柴田 明日香、大久保和実、小枝 美由紀			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設や在宅で生活(療養)する高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。</li> <li>2. 施設や訪問看護ステーションの利用目的に応じた、高齢者のニーズと生活の実際が理解できる。</li> <li>3. 高齢者の生活を支える看護について考察することができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の概要について実習を行う。何らかの健康障害あるいは生活障害を持ちながらコミュニティの中で生活(療養)する高齢者やその家族に対する多様な看護援助を、訪問看護やリハビリテーション場面での見学を通して理解を深め、高齢者の生活を支える看護について学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習にふさわしい身だしなみ、マナーを身につけ、健康状態を整えうえて実習に臨むこと。</li> <li>・実習の学びを深めるために、実習前に学内で行われるガイダンスや事前演習に必ず参加し、事前課題に取り組むこと。</li> <li>・各回、予習復習合わせて2時間程度。</li> </ul> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習に臨む前に「実習ガイダンス資料」「コミュニティ看護実習 I 実習要項」を熟読する。</li> <li>2. 実習前に学内で行われるガイダンスや事前演習に必ず出席する。事前演習では、施設ごとのオリエンテーションを実施する。</li> <li>3. 訪問看護ステーション及び介護老人保健施設において実習を行い、高齢者の生活について理解を深め、必要な看護を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先でのオリエンテーション</li> <li>・介護老人保健施設における入所部門や通所サービス部門の見学</li> <li>・訪問看護ステーション実習における訪問看護師との同行訪問</li> <li>・高齢者への看護、リハビリテーション・レクリエーション場面の見学</li> <li>・高齢者とコミュニケーションをとる</li> </ul> </li> <li>4. 実習中は適宜デイリーカンファレンスを行い、実習で感じたこと、気づいたこと、疑問などをディスカッションし、メンバーと共に学びを深める。</li> <li>5. 実習最終日は、学内でカンファレンスを行い、高齢者の生活を支える看護と自らの課題について考えを深める。</li> </ol>				

科目名	コミュニティ看護実習 I	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	東 ますみ、小路 浩子、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、中岡 亜希子、西原 詩子、小坂 素子、吉原 文子、柴田 明日香、大久保 和美、小枝 美由紀		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>実習の目標に関する到達度(80%)、レポート・記録物の提出(20%)を総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>学生との個別面接時に助言する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習の目標に関する到達度やレポート・記録物から総合的に評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>別途実習要項とプリント配布。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p> <p>電子テキスト 「ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害」第7版 著者名:堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子 出</p>			

P11201190 [ NNB1-009 ]

[1看]\*後期集中

科目名	コミュニティ看護実習Ⅱ(高齢者)	後期	2単位
サブタイトル		実習	
担当者	笹谷 真由美、柴田 明日香、大久保 和実		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. 老年期にある患者の加齢に伴う変化、疾病について理解し、高齢者の全体像を理解することができる。
2. 老年期にある患者の療養の場、治療・ケアが与える影響について理解し、その場で実践される老年看護についての考え方を学ぶことができる。
3. 高齢者と家族、高齢者をとりまく多職種の間わり、医療・介護制度について学びを深めることができる。
4. 主体的に学び、受け持ち患者に関わる責任を自覚し、真摯に取り組むことができる。

[授業概要]

施設(病院、高齢者施設等)において治療を受ける老年期の患者を受け持ち、発達段階、加齢による身体機能への影響、健康障害、生活障害および心理・社会的側面を受けている影響を理解する。また、高齢者がケアを受ける中でもつ健康上の課題をアセスメントする能力を養う。また老いに直面する高齢者の意思を尊重し、高齢者の全体像を理解する。これらをつまえた情報およびアセスメントをもとに必要な看護の方向性を明らかにする。さらに、1年次の「コミュニティ看護実習Ⅰ」で学んだことを基に、地域、介護施設に住む高齢者と比較、介護施設で実施している看護・介護ケアと医療施設での看護ケアの相違点、保険制度の違いによる医療、福祉に関わる体制、サービス等の違いについて、基本的な内容を理解する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

実習オリエンテーションに必ず出席すること。既習の関連科目(高齢者看護論、高齢者看護実践方法論、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅰ、コミュニティケアシステム論、コミュニティヘルスケア技術演習Ⅰ・Ⅱ)を必ず復習をしておくこと。高齢者の主な疾患と看護に関する事前課題に取り組むこと。

[授業計画]

病院において、以下のとおり1週間の実習を行う。

1. 実習オリエンテーションに出席し、事前課題にて高齢者の特徴、高齢者ケアの理解を深める。
2. 原則として、1～2名の高齢患者を受け持ち、個別性を尊重した情報収集・アセスメント等をおこない、実習記録を活用しながら、高齢者の状況をアセスメントし、全体像を捉える。
3. 受け持ち患者と援助的関係を築く
4. 日常生活援助を見学・実施するにあたり患者に説明し同意を得て、指導のもとで実施する
5. 実習に必要な事前課題および実習内容は一定の様式の実習記録に記載する
6. 日々のカンファレンスにおいて、情報や学びを共有し、学習上の問題解決を図る
7. 最終カンファレンスにおいて、実習で得た具体的な学びと健康障害を持つ高齢者および高齢者へのケアの特徴について考察する

介護老人保健施設において、以下のとおり1週間の実習を行う。

1. 実習オリエンテーションに出席し、介護老人保健施設の位置付けと、期待される機能・役割について理解を深める。
2. 原則として、1～2名の利用者を受け持ち、個別性を尊重した情報収集・アセスメント等をおこない、実習記録を活用しながら、高齢者の状況をアセスメントし、全体像を捉える。
3. 受け持ち利用者との援助的関係を築く
4. 日常生活援助を見学・実施するにあたり患者に説明し同意を得て、指導のもとで実施する
5. 実習に必要な事前課題および実習内容は一定の様式の実習記録に記載する
6. アクティビティケアを見学し、高齢者の社会参加の意義を考える
7. 日々のカンファレンスにおいて、情報や学びを共有し、学習上の問題解決を図る
8. 最終カンファレンスにおいて、実習で得た具体的な学びと施設に入所している高齢者および高齢者へのケアの特徴について考察する

科目名	コミュニティ看護実習Ⅱ(高齢者)	後期	2単位
サブタイトル		実習	
担当者	笹谷 真由美、柴田 明日香、大久保 和実		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>1.事前課題・レポート課題(30%) 2.実習内容(高齢者の理解、アセスメント、実習記録、コミュニケーション、カンファレンス、積極性、体調管理、連絡、報告、課題提出期限の厳守など)(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>事前課題、実習記録に対するフィードバックは、実習開始後に個別に行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:レポート課題、実習記録</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:事前課題、実習記録</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:レポート課題、実習記録</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート課題、事前課題、実習記録</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習記録</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していく。 成績評価方法:実習記録</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していく。 成績評価方法:実習記録</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、事前課題、実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート課題、実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、事前課題、実習記録</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>ナーシング・グラフィカ―老年看護学(1) 高齢者の健康と障害 著者名:堀内 ふき,諏訪 さゆり, 山本 恵子 他 出版社:株式会社メディカ出版 (978-4-8404-7208-1) ナーシング・グラフィカ―老年看護学(2) 高齢者看護の実践 著者名:堀内 ふき,大淵 律子, 諏訪 さゆり 他 出版社:株式会社メディカ出版 (978-4-8404-7841-0)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p> <p>バーフェクト臨床実習ガイド 老年看護&lt;第2版&gt; 著者名:正木治恵 出版社:照林社 (978-4-7965-2409-4) 看護過程を使ったベンダーソン看護論の実践 著者名:秋葉公子,江崎フサ子, 玉木ミヨ子, 村中陽子 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-056-5)</p>			

P11201200 [ NNB2-006 ]

[2看]\*後期集中

科目名	コミュニティケアシステム論		後期	1 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小枝 美由紀			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.コミュニティケアとは何かを理解できる  2.個人・家族と地域という重層的な関係と支援方法について理解できる  3.対象に応じたコミュニティケアの構築と展開について理解できる</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>コミュニティで暮らす人々が抱える健康課題や、それらをコミュニティで支えあい問題解決していけるための方法、保健・医療・福祉に関する社会システム、看護が担うべき役割や機能について学ぶ。また、住民主体・住民参加について理解するとともに、協働活動を推進する支援方法を理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>政治や地域の社会的問題、社会保障に関するマスコミ報道などを把握し、主体的に情報を集め、積極的に授業に参加すること。  各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>第1回 コミュニティケアの概念、コミュニティケアの対象(11月29日金曜日 3限)  第2回 妊娠出産、子どもを対象とするコミュニティケアシステム(12月2日月曜日 2限)  第3回 成人期のコミュニティケアシステム(12月6日金曜日 3限)  第4回 地域包括ケアシステムと地域共生社会(12月9日月曜日 2限)  第5回 健康障害を予防する老年期のコミュニティケアシステム(12月13日金曜日 3限)  第6回 在宅療養者を対象とするコミュニティケアシステム(12月16日月曜日 2限)  第7回 コミュニティケアシステムにおける看護の役割を考える(12月20日金曜日 3限)</p>				



科目名	コミュニティケアシステム論	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小枝 美由紀		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題レポート(70%)、授業中のワークシート(15%)、授業後の課題(15%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは添削して後日返却</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:課題レポート、授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:課題レポート、授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:課題レポート、授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探求していける。 成績評価方法:課題レポート、授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:課題レポート、授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート、授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート、授業中のワークシート、授業後の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p>			

P11201220 [ NNB1-010 ]

[1看]\*後期月2

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	中岡 亜希子、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、西原 詩子、吉原 文子、柴田 明日香、大久保 和実、小枝 美由紀			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>すべての看護技術に各々の原理・原則があることを知り、その根拠を考えることができる。</li> <li>看護技術を人に適用する際には、患者と看護者の安全・安楽・自立なを考慮しなければならないことを理解する。</li> <li>上記のことを踏まえた上で、病床環境で実践する基本的な看護技術を実践することができる。</li> <li>療養者・看護師体験を通じて、看護職として必要な基本的な態度及び看護技術を習得するための学習態度を身につけることができる。</li> <li>基本的な看護技術の提供に必要な環境を考え、道具の取り扱い方及びそれらを管理するルールを学ぶことができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>医療施設、在宅の場で病にあり人への生活援助に必要な基本的知識を使い、援助を実践していく過程を学習する。看護者側だけでなく、療養者の立場で援助を受ける体験をし、援助を受ける意味を考え、振り返り、評価することを行う。基本的看護技術のうち、病床環境を整えること、基本的活動、対象とのコミュニケーション、バイタルサインの測定に関する知識、技術を身につける。</p> <p>教員は全員が看護師免許を有し、病院や在宅、保健所等で、看護師または保健師などの看護専門職として勤務していた経験を生かして、看護技術の指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習と合わせて2時間程度が必要です。</p> <p>演習時は、「身だしなみチェックリスト」の基準に沿ったヘアスタイル、服装等で授業に参加する。時間内で有効に演習ができるよう、必要な知識や手順は理解した上で授業に臨む。授業中の疑問点を解決できるよう、事後学習を行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>日常生活を行う上での看護の機能と役割・環境整備(ベッドの説明)(中岡 亜希子、西原 詩子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、大久保 和実、遠山 紗織、黒住 智子)(4月12日金曜日)Aクラス:1限 Bクラス:2限【F417・F419・F529】</li> <li>演習室オリエンテーション・身だしなみ・手指衛生・リネン類の説明(中岡 亜希子、西原 詩子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、大久保 和実、遠山 紗織、黒住 智子)(4月12日金曜日)Aクラス:2限 Bクラス:1限【F417・F419・F529】</li> <li>リネン交換(中岡 亜希子、西原 詩子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、遠山 紗織、黒住 智子)(4月19日金曜日)Aクラス:1限 Bクラス:2限【F417・F529】</li> <li>基本的活動の援助(笹谷 真由美、大久保 和実)(4月19日金曜日)Aクラス:2限 Bクラス:1限【F310】</li> <li>体位変換1(中岡 亜希子、西原 詩子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、大久保 和実、遠山 紗織、黒住 智子)(4月26日金曜日)1限【F417・F529】</li> <li>体位変換2(中岡 亜希子、西原 詩子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、大久保 和実、遠山 紗織、黒住 智子)(4月26日金曜日)2限【F417・F529】</li> <li>対象の身体を観察すること(中岡 亜希子)(5月17日金曜日)2限【F310】</li> <li>臥床患者のシーツ交換(中岡 亜希子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、大久保 和実、遠山 紗織、黒住 智子)(5月24日金曜日)1限【F417・F529】</li> <li>臥床患者のシーツ交換(中岡 亜希子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、大久保 和実、遠山 紗織、黒住 智子)(5月24日金曜日)2限【F417・F529】</li> <li>バイタルサインの測定1(中岡 亜希子、笹谷 真由美、西原 詩子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、大久保 和実、遠山 紗織、黒住 智子)Aクラス(5月31日金曜日)1限、Bクラス(6月7日金曜日)1限【F417・F529】</li> <li>バイタルサインの測定2(中岡 亜希子、笹谷 真由美、西原 詩子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、大久保 和実、遠山 紗織、黒住 智子)Aクラス(5月31日金曜日)2限、Bクラス(6月7日金曜日)2限【F417・F529】</li> <li>スタンダードプリコーション(中岡 亜希子、笹谷 真由美、西原 詩子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、大久保 和実、黒住 智子)(6月14日金曜日)2限【F417・F529】</li> <li>技術確認(中岡 亜希子、笹谷 真由美、西原 詩子、小枝 美由紀、吉原 文子、柴田 明日香、坂口 めぐみ、大久保 和実、遠山 紗織、黒住 智子)(7月5日金曜日)Aクラス1限、Bクラス2限【F417・F529】</li> </ol> <p>記述試験(6月21日金曜日)1限【F310】</p> <p>※使用する教室は別途指示をする。</p>				

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	中岡 亜希子、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、西原 詩子、吉原 文子、柴田 明日香、大久保 和実、小枝 美由紀		

[ 成績評価方法 ]

授業への取組み(10%)、試験(40%)、事前・事後レポート(50%)  
 評価については別途お知らせします。  
 決められた身だしなみで演習に臨まない場合は、出席とみなさない場合があります。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
 manaba等でフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]

学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  
 成績評価方法:授業への取組み、試験、事前・事後レポート

学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  
 成績評価方法:授業への取組み、試験、事前・事後レポート

学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。  
 成績評価方法:授業への取組み、試験、事前・事後レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
 成績評価方法:授業への取組み、試験、事前・事後レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
 成績評価方法:授業への取組み、試験、事前・事後レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
 成績評価方法:授業への取組み、試験、事前・事後レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
 成績評価方法:授業への取組み、試験、事前・事後レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
 成績評価方法:授業への取組み、試験、事前・事後レポート

[ 教科書 (ISBN) ]

「<<系統看護学講座 専門分野 I >>基礎看護学[2] 基礎看護技術 I」(第19版(デジタル) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-01999-6)  
 「<<系統看護学講座 専門分野 I >>基礎看護学[3] 基礎看護技術 II」(第18版(デジタル) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1)  
 「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32511-9)  
 「看護技術がみえるvol.3 フィンカルアセスメント」著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32459-4)

[ 参考書 (ISBN) ]

病院・施設・地域で使える 看護師のための感染対策 著者名:洪愛子(編集) 出版社:中央法規出版 (978-4805882856)  
 「新版 生活健康科学」第2版 著者名:小田切陽一・飯島純夫・小山勝弘・石原逸子共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3)  
 適宜指示、および適宜プリントを配布する

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ		後期	2単位
サブタイトル			演習	
担当者	笹谷 真由美、藤田 冬子、坂口 めぐみ、西原 詩子、吉原 文子、柴田 明日香、大久保 和実、小枝 美由紀			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <p>1. 療養者の生活上に必要な健康上の課題に関する知識と技術を習得する。  2. 事例設定において必要な知識・援助を考えながら援助のプロセスを考えることができる。  3. 対象者の生活行動への援助を対象者の状態と場面に合わせて実践できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>何らかの要因により、健康レベルの低下によってもたらされる療養者の生活上の健康課題に対し、対象者の状況に応じた援助を行うことができるように、必要な知識と援助方法を学習する。人の身体観察方法を身につけ、フィジカルアセスメントを病室の環境を設定したスペースだけでなく、在宅や施設などでの生活の場を設定したスペースで実践し、それぞれの対象者の生活場面への援助技術に応用していく。成人期・老年期にある患者の援助に必要な知識と方法をもとに、具体的にその人に見合った援助方法を検討し、実践する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前学修: 病態、治療、予後など疾患について、手順書の作成、模擬事例のアセスメント、援助計画の立案  事後学修: 演習体験の振り返り、援助計画の評価、修正  各回、予習復習合わせて3時間程度。計画的に学修を進めること。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1回 【老年・在宅】講義/演習① オリエンテーション/健康障害をもつ高齢者の看護過程・アセスメント(笹谷・大久保・柴田・小枝・坂口・吉原)(9月25日水曜日1限)F310  2回 【老年・在宅】講義/演習② 健康障害をもつ高齢者の看護過程・看護課題の抽出(笹谷・大久保・柴田・小枝・坂口・吉原)(9月25日水曜日2限)F310  3回 【在宅】言語的コミュニケーションが困難な高齢者とのコミュニケーション 演習:療養の場での観察・バイタル測定(小枝・坂口・柴田)(9月27日金曜日3限)  4回 【在宅】言語的コミュニケーションが困難な高齢者とのコミュニケーション 演習:療養の場での観察・バイタル測定(小枝・坂口・大久保)(9月27日金曜日4限)  5回 【老年】運動機能に障害をもつ高齢者の移動/移送(藤田・柴田)(9月30日月曜日3限)  6回 【老年】自力での体位変換等が困難な高齢者の褥瘡予防・ポジショニング(藤田・柴田)(9月30日月曜日4限)  7回 【在宅】療養者の輸液管理 演習:療養者の輸液管理(西原・小枝・坂口・吉原)(10月4日金曜日3限)  8回 【在宅】療養者の輸液管理 演習:療養者の輸液管理(西原・小枝・坂口・柴田)(10月4日金曜日4限)  9回 【在宅】療養の場での清潔ケア・入浴介助・物品の工夫(小枝・坂口・大久保)(10月4日金曜日5限)  10回 【老年】運動機能に障害をもつ高齢者への関節可動域訓練(藤田・大久保)(10月7日月曜日3限)  11回 【在宅】点滴中の臥床療養者の更衣、シーツ交換 演習:点滴中の臥床療養者の更衣、シーツ交換(小枝・坂口・吉原)(10月7日月曜日4限)  12回 【在宅】点滴中の臥床療養者の更衣、シーツ交換 演習:点滴中の臥床療養者の更衣、シーツ交換(小枝・坂口・柴田)(10月7日月曜日5限)  13回 【老年】演習:自力での体位変換等が困難な高齢者の褥瘡予防・ポジショニング(笹谷・大久保・柴田・吉原・坂口)(10月11日金曜日3限)  14回 【老年】高齢者の生活と活動(笹谷・大久保・柴田・吉原・坂口)(10月11日金曜日4限)  15回 【老年】演習:高齢者施設でのアクティビティケアの方法(笹谷・大久保・柴田・吉原・坂口)(10月11日金曜日5限)  16回 【在宅】排便が困難な療養者への排泄看護技術 演習:洗腸・排便(小枝・坂口・吉原)(10月18日金曜日3限)  17回 【在宅】排便が困難な療養者への排泄看護技術 演習:洗腸・排便(小枝・坂口・柴田)(10月18日金曜日4限)  18回 【在宅】療養の場での清潔ケア・入浴介助・物品の工夫(小枝・坂口・大久保)(10月18日金曜日5限)  19回 【老年】高齢者への口腔ケアの必要性(藤田・柴田)(10月21日月曜日3限)  20回 【老年】麻痺や嚥下障害のある高齢者の栄養・食事援助技術(藤田・柴田)(10月21日月曜日4限)  21回 【老年】演習:麻痺や嚥下障害のある高齢者の食事介助(笹谷・大久保・柴田・吉原)(10月25日金曜日3限)  22回 【老年】演習:高齢者の義歯の管理、口腔ケア(笹谷・大久保・柴田・吉原)(10月25日金曜日4限)  23回 【老年】演習:車いす・ストレッチャーへの移動、移送(笹谷・大久保・柴田・吉原)(10月28日月曜日3限)  24回 【老年】演習:運動機能に障害をもつ高齢者への関節可動域訓練(笹谷・大久保・柴田・吉原)(10月28日月曜日4限)  25回 【在宅】経口摂取が困難な療養者の食事援助/経鼻経管栄養法・PEG 演習:経鼻経管栄養法(小枝・坂口・大久保)(11月1日金曜日3限)  26回 【在宅】経口摂取が困難な療養者の食事援助/経鼻経管栄養法・PEG 演習:経鼻経管栄養法(小枝・坂口・吉原)(11月1日金曜日4限)</p> <p>※演習はF417・419、F202・529演習室、講義はF304で行う  詳細はオリエンテーションで提示</p>				

P11201180 [ NNB2-005 ]

[2看]\*後期月3・4金3・4

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	笹谷 真由美、藤田 冬子、坂口 めぐみ、西原 詩子、吉原 文子、柴田 明日香、大久保 和実、小枝 美由紀		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業への取組み、課題(50%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題、演習記録は後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:授業への取組み、課題、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:授業への取組み、課題、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:授業への取組み、課題、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:授業への取組み、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:授業への取組み、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究している。 成績評価方法:授業への取組み、課題、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動している。 成績評価方法:授業への取組み、課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取組み、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取組み、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取組み、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への取組み、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業への取組み、課題、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業への取組み、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業への取組み、課題、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業への取組み、課題、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業への取組み、課題</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 老年看護技術第4版(デジタル) 著者名:泉キヨ子 小山幸代 他 出版社:メヂカルフレンド社 (978-4-8392-1692-4) ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術(デジタル) 著者名:臺有桂 他 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-7544-0)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 「&lt;&lt;系統看護学講座 専門分野Ⅰ&gt;&gt;基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(第16版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-01999-6) 「&lt;&lt;系統看護学講座 専門分野Ⅰ&gt;&gt;基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(第17版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1) 「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32511-9) 「看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術」著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32459-4)</p>			

P11201180 [ NNB2-005 ]

[2看]\*後期月3・4金3・4

科目名	災害看護	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	東 ますみ、内 正子、横内 光子、小路 浩子、岸野 真由美、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害時要援護者の看護の特徴や災害サイクルに応じた看護について理解できる。</li> <li>2. 災害への備えや災害と情報について学ぶことで、人々の生命と生活を守る災害看護の基礎的知識と技術が理解できる。</li> <li>3. 健康危機管理における保健所の役割について理解できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。 健康危機発生時の未然防止、健康危機発生時に備えた準備、健康危機への対応、健康危機による被害の回復の4つ側面を踏まえた上で、災害の定義と分類、災害時の社会制度を理解し、災害時要援護者である高齢者、障害者、妊産褥婦、子どもや慢性疾患患者等に対する看護の特徴と、災害サイクルに応じた活動現場別の看護について学ぶ。また、災害被災者や救護者のこころと身体の健康に及ぼす影響を理解し、その支援方法について学ぶ。さらに、災害と情報について理解し、情報の利点を減災に活かす重要性について学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃から、災害や災害医療に関連する報道に関心を持ち、被災者や被災地の医療者、ボランティア活動を行った医療者の声から災害時における医療や看護に求められているものを模索しておいて欲しい。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の定義や分類、災害に関わる各種社会制度を学ぶ。また、防災計画や災害への備えの具体策を知り、災害と情報に関する最近の動向を学ぶ。さらに、災害看護の歴史的変遷や世界の災害と看護について理解する。(東ますみ)(11月6日水曜日)2限</li> <li>2. 健康危機管理の定義や保健所の役割、健康危機管理の4つの側面について理解する。(小路浩子)(11月13日水曜日)2限</li> <li>3. 災害フェーズごとの保健医療活動、挫滅症候群や津波肺など災害時特有の疾病と治療の概要、ならびにトリアージなど災害直後の被災者への医療と看護について理解する。(横内光子)(11月20日水曜日)2限</li> <li>4. 災害時の女性、妊産褥婦や胎児・乳幼児にみられた反応を学び、ジェンダーの視点と対象者の特性を考慮にいたれた看護ケアについて理解する。(服部律子)(11月27日水曜日)2限</li> <li>5. 成長発達の途上である子どもが被災したことへの理解深め、中・長期的な看護ケアの必要性について学ぶ。(内正子)(12月4日水曜日)3限</li> <li>6. 心的外傷とストレス反応について学び、被災者と救護者への精神的な看護ケアを理解する。精神障害者に対する援助の要点を学ぶ。(岸野真由美)(12月11日水曜日)1限</li> <li>7. 避難所や仮設住宅における高齢者や慢性疾患患者の心身の状態把握や、看護ケアについて理解する。(岸野真由美)(12月11日水曜日)2限</li> <li>8. 試験 (12月18日水曜日)2限</li> </ol> <p>教室 F301</p>			

科目名	災害看護	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	東 ますみ、内 正子、横内 光子、小路 浩子、岸野 真由美、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>試験・授業中の小テスト・授業後のレポート等(91%)、授業への取り組み(9%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 小テスト及びレポートは解説を行う。 試験後、解答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、レポート、グループワーク等の際の発言内容や取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験、レポート、グループワーク等の際の発言内容や取り組み態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート、グループワーク等の際の発言内容や取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験、レポート、グループワーク等の際の発言内容や取り組み態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「災害看護 看護の専門知識を統合して実践につなげる 改訂第4版」 著者名:酒井明子・菊池志津子編集 出版社:南江堂 (978-4-524-23165-2) 適宜プリントを配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 「ナース発 東日本大震災レポート」 著者名:日本看護協会出版会編集部編 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1611-8) 「大槌町 保健師による全戸家庭訪問と被災地復興」 著者名:村嶋幸代・鈴木るり子・岡本玲子編集 出版社:明石書店 (978-4-7503-3556-8) 必要に応じて適宜紹介する。</p>			

科目名	在宅看護論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小枝 美由紀			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護が必要とされている背景と在宅看護の概念について説明できる。</li> <li>2. 在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴について説明できる。</li> <li>3. 在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源について説明できる。</li> <li>4. 在宅看護における多職種連携や協働、ケアマネジメントについて説明できる。</li> <li>5. 在宅看護の事例を通して在宅療養者とその家族に対する看護を考えることができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>在宅看護の基本的な考え方と援助方法を学修する。在宅看護の倫理や在宅看護が必要とされる社会的な背景をふまえ、在宅看護の概念と対象・活動の場・活動方法の特徴、および在宅看護の役割と課題について理解を深める。また、在宅看護の事例を通して、在宅療養者とその家族の意思を尊重した在宅看護の展開について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>政治や地域の社会的問題、在宅医療の必要な療養者の生活などの新聞ニュースを、自ら積極的に取り込んで、主体的に学習すること。</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回 在宅看護が必要とされる社会的背景 (4月9日火曜日 4限)  第2回 在宅看護の基盤、倫理 (4月16日火曜日 4限)  第3回 在宅看護の対象者 (4月16日火曜日 5限)  第4回 地域包括ケアシステムと地域共生社会(4月18日木曜日 3限)  第5回 在宅看護に関する制度 (4月23日火曜日 5限)  第6回 訪問看護の制度と機能 (5月7日火曜日 4限)  第7回 在宅看護における家族支援 (5月14日火曜日 4限)  第8回 在宅看護過程 (5月21日火曜日 4限)  第9回 療養移行支援(特別外部講師)* 主担当教員も同席 (5月28日火曜日 4限)  第10回 症例別在宅看護過程の検討(グループワーク) (6月4日火曜日 4限)  第11回 症例別在宅看護過程の検討(グループワーク) (6月4日火曜日 5限)  第12回 症例別在宅看護過程の発表(グループワークの発表とフィードバック) (6月11日火曜日 4限)  第13回 症例別在宅看護過程の発表(グループワークの発表とフィードバック) (6月11日火曜日 5限)  試験 (6月18日火曜日 4限)</p>				



科目名	在宅看護論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小枝 美由紀		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(授業中のワークシート)15%  グループワークの取り組み(グループワークのワークシート、発表内容) 15%  試験 70%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  試験は試験答案回収後、manabaにて解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を實踐することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:試験、授業中のワークシート、グループワークのワークシート・発表内容</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  地域・在宅看護論 出版社:メヂカルフレンド社 (978-4-8392-3383-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

P11201160 [ NNB3-003 ]

[3看]\*前期火4&一部火5

科目名	実践看護論		前期	1 単位
サブタイトル			講義	
担当者	中岡 亜希子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重要な看護理論を学び、看護理論の実践への活用について理解する。</li> <li>2. 看護の本質について、深く考える。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>看護学を構成している概念(人間・健康・環境(状況)・看護実践)と看護理論の構造から看護学の特徴について学び、実践に役立つ看護理論をわかりやすく解説する。ドロセア・オレムのセルフケア不足看護理論を中心に看護実践への適用のために開発された看護理論の基礎的な考えや実践を展開するための考え方を学ぶ。その上で、実際の臨床事例をもとに、実践においてどのように看護が展開されるのか、看護過程について学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習と合わせて4時間程度が必要です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一年次のテキスト「看護学概論」、ナイチンゲール「看護覚え書」、バージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読み返し、看護の構成概念について復習する。</li> <li>2. テキスト:「セルフケア不足看護理論へのアプローチ」をよく読んで事前課題を実施する。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘンダーソンの看護理論から人間の基本的欲求を学び、看護の対象理解と看護を展開する思考過程について理解する(中岡亜希子)(4月10日水曜日)2限</li> <li>2. オレムのセルフケア不足看護理論の概観から人間のもつ能力とセルフケアという概念について理解する(中岡亜希子)(4月17日水曜日)2限</li> <li>3. オレムのセルフケア不足看護理論において治療的セルフケア・デマンドとセルフケア・エージェンシーという概念を学び、看護を必要とする人間について理解する(中岡亜希子)(4月24日水曜日)2限</li> <li>4. オレムのセルフケア不足看護理論の理論において看護エージェンシーという概念を学び、看護専門職者と看護の受け手との関係で成り立つ看護システムについて理解する(中岡亜希子)(5月15日水曜日)2限</li> <li>5. オレムのセルフケア不足看護理論に基づいて臨床看護事例から看護の展開を学ぶ(1)患者のセルフケア不足を見出すための情報収集・アセスメントの重要性を理解する(中岡亜希子)(5月29日水曜日)2限</li> <li>6. オレムのセルフケア不足看護理論に基づいて臨床看護事例から看護の展開を学ぶ(2)事例患者の看護課題について、根拠に基づいて優先順位をつけて診断し、看護計画を立案する(中岡亜希子)(6月12日水曜日)2限</li> <li>7. オレムのセルフケア不足看護理論に基づいて臨床看護事例から看護の展開を学ぶ(3)看護実践のための看護計画及び評価をについて学ぶ(中岡亜希子)(6月26日水曜日)2限</li> </ol>				

科目名	実践看護論	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中岡 亜希子		
<p>[ 成績評価方法 ] 事前・事後レポート課題(80%)小テスト(10%)グループワーク参加度(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] manabaでフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:事前・事後レポート課題・小テスト・グループワーク参加度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「オレム看護論入門 セルフケア不足看護理論へのアプローチ」 著者名:コニー・M・デニス(小野寺杜紀監訳) 出版社:医学書院 (978-4-260-34388-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 別途提示する</p>			

科目名	疾病と治療 I	前期	1 単位
サブタイトル	老年学	講義	
担当者	安田 尚史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  超高齢社会を迎えたわが国の現状を把握し高齢者に対する医療の重要性を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]  超高齢社会を迎えたわが国の現状を把握し高齢者に対する医療の重要性を理解することを達成目標として、高齢者および高齢者に特徴的な症候や疾病およびその病態などについて概説することで十分な理解に努める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回の授業についての予習・復習4時間程度。  前回の授業内容を復習して理解して、次回の授業の予習をしておくこと。教科書の学習とともに、わが国の現状を踏まえた関連分野のニュース等に日頃から関心を持ち、積極的な自己学習を期待する。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 超高齢社会と高齢者の特徴およびCGA(4/11(木)2限目予定)  2. 各論:循環器疾患(6/6(木)2限目予定)  3. 各論:脳血管障害と呼吸器疾患(6/20(木)2限目予定)  4. 各論:メタボリック症候群(6/27(木)2限目予定)  5. 各論:糖尿病・代謝疾患(7/4(木)2限目予定)  6. 各論:骨・運動器疾患(7/11(木)2限目予定)  7. 各論:消化器疾患(7/18(木)2限目予定)  予備日:7/25(木)2限目  試験日:7/29(月)4限目予定</p> <p>指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容  別表3:「人体の構造と機能」</p>			

科目名	疾病と治療 I	前期	1 単位
サブタイトル	老年学	講義	
担当者	安田 尚史		

[ 成績評価方法 ]

成績評価は試験の成績が主(80%)となるが、授業への取り組む姿勢(20%)も考慮して行う。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

小テストなどを実施し、授業内やmanabaにて解答例を提示、解説する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。

成績評価方法:試験、授業への取り組み姿勢

学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。

成績評価方法:試験、授業への取り組み姿勢

学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。

成績評価方法:試験、授業への取り組み姿勢

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:試験、授業への取り組み姿勢

[ 教科書(ISBN) ]

老年医学 系統講義テキスト(電子テキスト) 著者名:日本老年医学会 出版社:西村書店

[ 参考書(ISBN) ]

プリント配布等。

科目名	疾病と治療Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	外科学	講義	
担当者	佐古 辰夫、高橋 玲比古、眞庭 謙昌、田中 優子、吉田 泰久、水野 敏行		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 手術や治療というストレスが生体に与える影響、その回復過程を知り、24時間患者と接する看護師としてその知識を生かし看護ケアに生かすことを到達目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 疾患に対する手術的治療が対象となる外科的疾患について学ぶ。外科的疾患とは脳神経外科、胸部外科、消化器外科、整形外科など多岐にわたる。外科学がことで看護に必要な外科学的知識を修得できることを目的とする。外科的疾患全般に関わる病態・臨床動態を学び、各種疾患の原因、症状、治療について基礎と実際の臨床現場の実践方法を学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 「人体のしくみ機能Ⅰ」「人体のしくみと機能Ⅱ」を既習したものととして講義を進めるため、復習をしたうえで臨むこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 1. 外傷・腫瘍総論:手術侵襲と生体の反応、炎症、腫瘍、外傷とショック(佐古辰夫)(4月16日火曜日)1限 2. 消化器疾患(1)食道の疾患、胃・十二指腸の疾患(佐古辰夫)(4月23日火曜日)1限 3. 消化器疾患(2)腸・腹膜の疾患(佐古辰夫)(5月7日火曜日)1限 4. 消化器疾患(3)肝臓および肝外胆道系の疾患、膵臓の疾患、門脈の疾患、副腎の疾患(佐古辰夫)(5月14日火曜日)1限 5. 呼吸器疾患、胸壁疾患:肺構造と働き、気胸およびその治療、肺がんおよびその治療(眞庭謙昌)(5月21日火曜日)5限 6. 脳神経外科疾患(1)脳の疾患(吉田泰久)(5月28日火曜日)5限 7. 脳神経外科疾患(2)脊髄の疾患(吉田泰久)(6月4日火曜日)5限 8. 脳神経外科疾患(3)末梢神経の疾患、脳神経疾患の看護(吉田泰久)(6月11日火曜日)5限 9. 心臓疾患、血管疾患(1)心臓の構造と機能(高橋玲比古)(6月17日月曜日)5限 10. 心臓疾患、血管疾患(2)心臓の構造と機能、先天性心疾患(高橋玲比古)(6月24日月曜日)5限 11. 乳腺疾患、内分泌疾患:乳腺の疾患、甲状腺の疾患・副腎の疾患(田中優子)(6月28日金曜日)4限 12. 整形外科疾患(1)骨の構造と病態生理、関節の構造と病態生理(水野敏行)(7月19日金曜日)1限 13. 整形外科疾患(2)運動器疾患への治療と処置(水野敏行)(7月26日金曜日)1限</p> <p>試験 7月29日(月)3限</p>			

科目名	疾病と治療Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	外科学	講義	
担当者	佐古 辰夫、高橋 玲比古、眞庭 謙昌、田中 優子、吉田 泰久、水野 敏行		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度10%、試験90%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  manabaいただいた意見や質問に対して、次の授業やmanabaでフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:授業態度・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。  成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(第11版)電子教科書使用 著者名:北島政樹、江川幸二編集 出版社:医学書院 (978-4-260-02769-4)  系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(第9版)  電子教科書使用 著者名:矢永勝彦、小路美喜子編集 出版社:医学書院 (978-4-260-02765-6)  整形外科疾患ビジュアルブック 第2版  電子教科書使用 著者名:落合慈之ら著 出版社:学研メディカル秀潤者 (978-4-780-912388)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  適宜紹介する。</p>			

科目名	疾病と治療Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	内科学	講義	
担当者	高橋 玲比古		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	学生ないし教員からの疑問点や課題等をグループワークでディスカッションし、学生が発表を奨励する。	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]  正常な心身の状態からの逸脱やその原因を理解し、ケアの実践につなぐために、正確な臨床内科学の知識を身につけることができる。</p> <p>[授業概要]  内科の代表的な疾患について、病態、臨床症状、検査所見、治療、ケアの方法について系統的に講義し、罹患している患者の理解、把握につなげる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  既習の「人体のしくみと機能Ⅰ、Ⅱ」「栄養代謝学」を復習し、各講義範囲の前提となる基礎的知識を整理したうえで受講する。受講後は疑問点があれば自己学習、質問等でその都度解決しておく。予復習は合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画]  1. 呼吸器疾患(1) 1) 呼吸器感染症 2) アレルギー・免疫疾患 3) 慢性閉塞性肺疾患(教科書1 pp.2-48)(4月8日月曜日)2限  2. 呼吸器疾患(2) 4) 間質性肺疾患 5) 気道系疾患 6) 肺腫瘍 7) 肺循環疾患 8) 換気異常 9) 呼吸不全 10) 胸膜疾患 11) 縦隔疾患(教科書1 pp.49-70)(4月15日月曜日)2限  3. 循環器疾患(1) 1) 心不全 2) 不整脈(教科書1 pp.72-109)(4月22日月曜日)2 限  4. 循環器疾患(2) 3) 虚血性心疾患 4) 心筋疾患 5) 高血圧症 6) 動脈疾患 7) 静脈疾患(教科書1 pp.109-150)(5月6日月曜日)2限  5. 消化器疾患(1) 1) 食道の疾患 2) 胃・十二指腸疾患 3) 腸(小腸、大腸)の疾患 4) 肛門の疾患(教科書1 pp.151-210)(5月13日月曜日)2限  6. 消化器疾患(2) 1) 肝臓疾患 2) 胆道疾患 3) 膵疾患(教科書1 pp.212-267)(5月20日月曜日)2限  7. 代謝/栄養疾患 1) 糖尿病 2) 脂質異常症 3) 骨粗鬆症(教科書1 pp.272-307)(5月27日月曜日)2限  8. 内分泌疾患 1) 視床下部・下垂体疾患 2) 甲状腺疾患 3) 副甲状腺疾患 4) 副腎疾患(教科書1 pp.310-346)(6月3日月曜日)2限  9. 腎/泌尿器疾患 1) 慢性腎臓病 2) 糸球体腎炎 3) 続発性腎疾患 4) 腎泌尿器感染症 5) 泌尿器科疾患 6) 腎不全(教科書1 pp.349-416)(6月10日月曜日)2限  10. 脳/神経系疾患(1) 1) 脳血管障害 2) 神経変性疾患(教科書1 pp.417-465)(6月17日月曜日)2限  11. 脳/神経系疾患(2) 1) 脱髄性疾患 2) 末梢神経疾患 3) 神経・筋接合部疾患 4) 筋疾患 5) 神経系の感染症 6) 機能的疾患 7) 脳腫瘍(教科書1 pp.466-484)(6月24日月曜日)2限  12. 血液疾患 1) 赤血球と白血球の疾患 2) 出血性疾患(教科書1 pp.485-527)(7月1日月曜日)2限  13. 免疫・アレルギー疾患 1) 膠原病 2) 全身性炎症性疾患 3) 膠原病関連疾患 4) アレルギー性疾患(教科書1 pp.529-576)(7月8日月曜日)2限</p> <p>試験 (7月29日月曜日)2限</p>			



科目名	疾病と治療Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	内科学	講義	
担当者	高橋 玲比古		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加姿勢(30%)、期末試験(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  全体的にはマナバ、個別的にはオフィスアワー等</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:受講態度、試験、Manabaを介したレポート提出で総合的に評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:受講態度、試験、Manabaを介したレポート提出で総合的に評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:受講態度、試験、Manabaを介したレポート提出で総合的に評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。  成績評価方法:受講態度、試験、Manabaを介したレポート提出で総合的に評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:受講態度、試験、Manabaを介したレポート提出で総合的に評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:受講態度、試験、Manabaを介したレポート提出で総合的に評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  看護のための臨床病態学 第4版 著者名:浅野嘉延 吉山直樹 編集 出版社:南山堂 (978-4-525-50514-1)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  適宜指示する。</p>			

科目名	疾病と治療Ⅳ	前期	1 単位
サブタイトル	精神医学	講義	
担当者	関口 典子、持田 啓、玉岡 文子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学領域の疾病について基本的知識を習得し、その成り立ちについて理解する。</li> <li>2. 精神科領域の症候について、理解し説明できる。</li> <li>3. 精神科領域の検査について、基本的知識を習得する。</li> <li>4. 精神医学領域の疾病に対する治療について説明できる。</li> <li>5. 精神科医学領域で用いる薬物の効果、副作用について説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>精神医学史と精神医療の現状、精神科症候学、診断学・疾病分類、精神科面接法、精神科検査学、精神科治療学、ならびに共同体及び地域のメンタルヘルスに関する基礎的な知識を授業から習得する。代表的な精神疾患については、疫学、病因、症状、鑑別診断、経過、治療、予後を学び、将来の看護臨床に役立つレベルまで知識を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回の授業について予習・復習を4時間程度行うこと。  学生は、教科書・参考書として提示された教本を読み、授業に積極的に参加し授業内容を深く理解できるよう準備する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学総論、何を学ぶか-統合失調症を例に(関口典子)(4月9日火曜日)1限</li> <li>2. 身体因性精神障害・薬物関連障害(持田啓)(4月19日金曜日)2限</li> <li>3. 気分障害(持田啓)(4月26日金曜日)2限</li> <li>4. 統合失調症(玉岡文子)(5月6日月曜日)3限</li> <li>5. 神経症性障害・パーソナリティーディスオーダー・心理的発達の障害(玉岡文子)(5月13日月曜日)3限</li> <li>6. 精神科面接法・検査学・治療学・精神科救急(関口典子)(5月21日火曜日)1限</li> <li>7. 日本の精神科医療史、精神保健福祉の現状と課題、精神障害リハビリテーション(関口典子)(5月28日火曜日)1限</li> <li>8. 試験(6月11日火曜日)1限</li> </ol>			

科目名	疾病と治療Ⅳ	前期	1 単位
サブタイトル	精神医学	講義	
担当者	関口 典子、持田 啓、玉岡 文子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験 (100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 学生へのフィードバックは、試験採点后に採点結果の全体的なコメントを示すことにより行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 精神看護学Ⅰー精神保健学ー[第6版] 著者名:吉松 和哉 小泉 典章 川野 雅資 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-064-0) 精神看護学Ⅱー精神臨床看護学ー[第6版] 著者名:川野 雅資 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-065-7)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 「看護のための精神医学 第2版」 著者名:中井久夫[ほか]著 出版社:医学書院 (978-4260333252) 「精神医学テキスト 改訂第4版」:精神障害の理解と治療のために 著者名:上島国利[ほか]編集 出版社:南江堂 (978-4-524-25942-7) 「ICD-10精神および行動の障害 新訂版」2005 著者名:World Health Organization[編] 融道男ほか監訳 出版社:医学書院 (978-4-260-00133-5) DSM-5-TR 精神疾患の分類と診断の手引 著者名:原著:American Psychiatric Association 日本語版用語監修:日本精神神経学会 監訳:高橋 三郎/大野 裕 出版社:医学書院 (978-4-260-05218-4) *なお、上記参考書に加えて、授業内容に関連した一般書、映画、DVD等を紹介する。</p>			

科目名	疾病と治療Ⅴ	後期	1 単位
サブタイトル	産科学・婦人科学・周産期医学	講義	
担当者	山崎 峰夫		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  女性性の機能性を司る臓器の器質的障害、各ライフステージ特有の生理機能の障害、あるいは妊娠分娩産褥に伴って生ずるさまざまな病態について概説し、それらに罹患した女性に対する看護実践に必要な知識を得ることを到達目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ]  次の内容について概説する。①妊娠・分娩・産褥の各過程における母体の生理機能の変化とそれらに伴う各種病態、②不妊や不育など妊孕能そのものの異常、③妊孕現象と密接に関連する女性生殖機能調節機構の異常や女性生殖器の器質的疾患、④女性のライフステージという概念と身体生理機能の変調との関連。臨床での実事例の画像等を用いて授業を行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  講義終了後、教科書の講義内容該当項目に関する復習・予習を4時間程度行い、理解を深めて下さい。講義内容について疑問点があれば、直接またはメールにて積極的に質問してください。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 月経周期、無月経、排卵障害、月経の異常、不妊症、不育症、女性生殖器の炎症性疾患・性感染症 (10月1日火曜日) I 限  2. 子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮頸癌、子宮体癌、卵管・卵巣の疾患(10月1日火曜日) II 限  3. 子宮内膜症、多嚢胞性卵巣症候群、卵巣腫瘍、絨毛性疾患(10月8日火曜日) I 限  4. 中高年女性の疾患、子宮奇形・先天異常、避妊法、産科診断学(10月15日火曜日) I 限  5. 切迫流産・流産、子宮外妊娠、切迫早産・早産、多胎、合併症妊娠、母子感染(10月15日火曜日) II 限  6. 前置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群、過期産、胎児管理・胎児機能不全(10月22日火曜日) I 限  7. 分娩の異常、産科手術、産科出血、産褥期の異常(10月22日火曜日) II 限  8. 試験(10月29日火曜日) I 限</p>			

科目名	疾病と治療Ⅴ	後期	1 単位
サブタイトル	産科学・婦人科学・周産期医学	講義	
担当者	山崎 峰夫		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験問題の返却にてフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「病気がみえるvol.9婦人科・乳腺外科 第4版」平成30年3月発行 著者名:医療情報科学研究所 出版社:MEDIC MEDIA (978-4-89632-712-0) 「病気がみえるvol.10産科 第4版」平成30年10月発行 著者名:医療情報科学研究所 出版社:MEDIC MEDIA (978-4-89632-713-7) 毎回の講義で使用するパワーポイントファイル内容のプリントも配布します</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 「標準産科婦人科学 第4版」平成23年5月発行 著者名:岡井崇・綾部琢哉編 出版社:医学書院 (978-4-260-01127-3)</p>			

科目名	疾病と治療Ⅵ	後期	1 単位
サブタイトル	小児学	講義	
担当者	西尾 久英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. 小児の成長発達、症候、疾患について基本的な見方、考え方を身につけ、概説できるようにする。
2. 提示された実際の症例に関して、患者の問題点や治療法、看護の在り方について議論ができるようにする。

[授業概要]

学生が小児の成長発達、症状、疾患に関する基本概念を理解できるように、授業計画として、成長発達の評価、症候に基づく疾患鑑別、新生児の生理、新生児疾患、染色体・遺伝子異常、遺伝カウンセリング、先天代謝異常スクリーニング、小児の代謝・内分泌疾患の診断・治療、小児の免疫・アレルギー疾患の診断・治療、小児期感染症、呼吸器疾患、消化器疾患の診断・治療、小児期循環器疾患、血液・腫瘍疾患の診断・治療、小児神経・筋疾患の診断・治療の内容を講義する。  
この道40年、いまなお現役の小児科医が小児医療の現場での経験を踏まえ、看護師が身につけるべき小児の特徴や疾患について講義する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

学生は、講義の前に、予習をしておくことが望ましい。講義では、一生懸命にノートを取ることを。講義の後の復習は、さらに大事である。教科書、ノートを見直し、重要事項を暗記するように努力すること。各回、予習復習あわせて4時間程度。

[授業計画]

1. 成長発達と新生児疾患 (9月27日金曜日) 1限  
(小児の成長発達の概念と評価方法、および小児の整理全般を概説でき、さらに新生児の呼吸・栄養管理についても概説できるようにする。)
2. 染色体異常、遺伝性疾患 (10月4日金曜日) 1限  
(染色体異常、遺伝性疾患、遺伝カウンセリングについて概説できるようにする。)
3. 代謝疾患、内分泌疾患 (10月11日金曜日) 1限  
(先天代謝異常症とその新生児マススクリーニングを概説し、内分泌疾患「クレチン症、副腎性器症候群等」の診断・治療についても概説できるようにする。)
4. 感染症、免疫疾患 (10月18日金曜日) 1限  
(小児期の代表的な感染症「麻疹、風疹等」、免疫疾患「気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシー等」の診断・治療を概説できるようにする。)
5. 循環器疾患、消化器疾患 (10月25日金曜日) 1限  
(小児期の代表的な循環器疾患「ファロー4徴、川崎病等」、消化器疾患「食道閉鎖、胆道閉鎖等」の診断・治療を概説できるようにする。)
6. 腎臓、血液、腫瘍疾患 (11月1日金曜日) 1限  
(小児期の代表的な腎臓疾患「ネフローズ、糸球体腎炎等」、血液・腫瘍疾患「白血病等」の診断・治療を概説できるようにする。)
7. 神経疾患、筋疾患 (11月8日金曜日) 1限  
(小児期の代表的な神経疾患「熱性けいれん、てんかん等」、筋疾患「筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症」の診断・治療を概説できるようにする。)
8. 試験 (12月16日月曜日) 3限

科目名	疾病と治療Ⅵ	後期	1 単位
サブタイトル	小児学	講義	
担当者	西尾 久英		

[ 成績評価方法 ]

授業コメント、小テスト、参加態度:40%、試験:60%で評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

授業時間および、manaba、メール等で適宜対応する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。

成績評価方法:授業コメント、参加態度

学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。

成績評価方法:授業コメント、小テスト、試験

学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。

成績評価方法:授業コメント、小テスト、参加態度、試験

学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。

成績評価方法:授業コメント、小テスト、参加態度、試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業コメント、小テスト、参加態度、試験

[ 教科書(ISBN) ]

ナースの小児科学(改訂6版) 著者名:佐地 勉、竹内義博、原 寿郎編著 出版社:中外医学社(978-4-498-07579-5)

[ 参考書(ISBN) ]

なし

科目名	社会福祉・社会活動論		前期	1 単位
サブタイトル	医療と福祉の連携の大切さを理解する。		講義	
担当者	佐々木 勝一			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
[到達目標] さまざまな生活問題に取り組める保健・医療・福祉専門職をめざす				
[授業概要] 看護師として必要な社会福祉に関する基本的な制度と現状についての理解を深めます。少子高齢社会のなかで貧困や介護保障が困難になる高齢者が増え続けている。また、児童においても虐待や貧困格差、障害者の生活保障など、あらゆる世代にわたる生活問題が深刻化し、医療や福祉の在り方が問われている。看護師として地域における保健・医療・福祉計画等にもとづく包括的なケアシステムに関わった内容について提示する。これらのサービスを必要としている人々の生活問題について、事例の検討を通して、問題の把握の仕方と問題点の整理、問題解決・改善を図るための支援方法と社会福祉や教育、行政の専門職の役割、対象者に関わる機関や専門職の連携のあり方などについて学び、政策的課題を考える。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] マスコミ報道等で福祉・医療に関心を持っておいてください。 各回、予習復習合わせて1時間程度はノート、資料を参考にしてください。				
[授業計画] 1、生活問題への支援方法…生きていくうえでの様々な生活上のトラブルの実際を明らかにして、苦しみや悩みなどの困難を改善する方法や支援について考え、保健・医療・福祉計画のあり方を検討する。(6/14(金),3限) 2、児童の発達保障…児童虐待事例を通して児童の貧困の現状を明らかにし、親と子どもが地域の中で生き生きと暮らしている課題について考える。(6/17(月),4限) 3、妊婦にかかわる問題と専門的支援…飛び込み出産の事例等を紹介し、母と子が直面する課題の解決を通して「子育て支援とは」について学ぶ。(6/21(金),3限) 4、医療と経済問題…病気になっても医療が受けられないという人々は少なくない。生活が健康に及ぼす影響を明らかにし、地域で安心して治療が受けられるための課題を考える。(6/24(月),4限) 5、障がい者の医療・介護・福祉…障害の治療を通して障がい者として生きていくための支援を考える。(6/28(金),3限) 6、高齢者の生活問題…増加し続ける高齢者が直面している生活問題について様々な事例を通して明らかにし、専門職としてどのように包括的な支援をするのかを考える。(7/1(月),4限) 7、ターミナルケアにおける保健・医療・福祉専門職の役割…死に直面している人々の問題を明らかにして、「生きる」ための支援について考える。(7/5(金),3限) 8、まとめ…各講義について振り返り、これまでの学習の到達点と課題を明らかにする。最終試験(7/8(月),4限)				
* 指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容 別表1:「保健医療行政論」 別表2:「地域母子保健」 別表3:「健康支援と社会保障制度」				



科目名	社会福祉・社会活動論	前期	1 単位
サブタイトル	医療と福祉の連携の大切さを理解する。	講義	
担当者	佐々木 勝一		

[ 成績評価方法 ]

中間レポート(50%)、最終レポート(50%)により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

講義期間中に3回程度、講義内容に関するレポート提出を求めます。主として、看護専門職として社会福祉・社会活動に対する意識をまとめるものです。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  
成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:提出レポート内容、出席状況で評価します。

[ 教科書(ISBN) ]

毎回、manabaに提示しますので、確認してください。

[ 参考書(ISBN) ]

授業時に紹介する。

科目名	社会福祉・社会保障論	後期	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしのセーフティネット	講義	
担当者	清水 弥生		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 社会福祉・社会保障の諸制度の概要を理解し、実生活と関連づけることができる。</p> <p>[ 授業概要 ] 少子高齢社会のなかで、寝たきりや認知症などで生き続けていくことが困難になる高齢者が増え続けている。そして、児童虐待やDV、若者の雇用不安など、あらゆる世代にわたる問題が深刻化し、医療や福祉のあり方を見直さなければならなくなった。保健・医療・福祉計画等にもとづく包括的なケアシステムが行われており、このシステムの役割・意義を理解し、社会福祉・社会保障の諸制度の現状や課題を考える。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 毎回講義を復習してアンケートの記入をしてください。社会福祉・社会保障に関する新聞記事や報道、ホームページ等を見て、授業と結びつけて考えておいてください。 各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ] 1. 社会福祉・社会保障の諸制度…社会福祉・社会保障制度の概要、保健・医療・福祉計画等を学ぶことを通して、住民のいのちと暮らしを守る意義や現状を理解する。【9月30日(月)2限】 2. 生活保護…健康で文化的な最低限度の生活を営む権利について考える。【10月7日(月)2限】 3. 年金制度①生活上の事故に対する所得保障としての年金制度について理解し、高齢や障害、遺族となった時でも安心した生活を送れるための課題を考える。【10月14日(月)2限】 4. 年金制度②【10月21日(月)2限】 5. 医療保険制度①国民の生活問題が健康に及ぼす影響を考え、医療保険制度を活用して必要な治療が受けられるようにするための課題を考える。【10月28日(月)2限】 6. 医療保険制度②【11月11日(月)2限】 7. 介護保険…介護を必要とする高齢者が増加しているが、介護保険制度の理解を通してどのように介護や高齢者医療を支えるべきかを考える。【11月18日(月)2限】 8. 試験【11月25日(月)2限】</p>			

科目名	社会福祉・社会保障論	後期	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしのセーフティネット	講義	
担当者	清水 弥生		

[ 成績評価方法 ]

授業後の振り返り用紙の提出(manabaのアンケート)(30%)、試験(70%)により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

試験終了後解説を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。

成績評価方法:授業中の課題・レポート

学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探索していける。

成績評価方法:授業中の課題・レポート

学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。

成績評価方法:授業中の課題・レポート

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業中の課題・レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業中の課題・レポート

[ 教科書(ISBN) ]

「はじめての社会保障一福祉を学ぶ人へ」 著者名:椋野美智子、田中耕太郎 出版社:有斐閣

[ 参考書(ISBN) ]

なし

出版社:

科目名	小児看護論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	内 正子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成長・発達の原理を理解することができる。</li> <li>2. 小児期における各発達段階の特徴と健康増進・疾病予防への支援を理解することができる。</li> <li>3. 子どもの入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、援助を考えることができる。</li> <li>4. 子どもに起こりやすい症状とその看護を理解することができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>人が成長する、発達するということはどういうことか、その原理について学ぶ。子どもとはどのような存在か。社会における子どもの権利について学ぶ。小児期における各発達段階(乳児期、幼児期、学童期、思春期)の身体的、社会的、認知的特徴を理解し、その育ちに影響する環境について学習する。そして、子どもが健康に生活するための支援について学ぶ。</p> <p>昨今の子どもを取り巻く社会、子どもが育つ段階での教育、医療と福祉との関係などについて学習する。</p> <p>子どもに起こりやすい症状とその看護、子どもにとっての入院の意味を学習する。</p> <p>少子化である今日、子どもと関わる機会が少ない。そのため、講義では視聴覚教材を多く用い、子どもの行動や子どもとのコミュニケーションについて学ぶことができるようにする。</p> <p>小児看護の経験がある教員が、その経験を活かして具体例を用いながら教授を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業内容について教科書の該当する項目は、授業前に読んでおくこと。</p> <p>日頃から、子どもに関するニュース、新聞報道等に関心をもっておくこと。</p> <p>各回の授業についての予習復習は2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.小児看護が対象とする子どもの存在について概観し、小児看護の歴史、子どもの権利について理解する。(10月2日水曜日 1限)</li> <li>2.成長と発達の定義を学び、それらに影響する要因を理解する。(10月2日水曜日 2限)</li> <li>3.小児看護に関連する理論(発達、セルフケアなど)について理解する。(10月9日水曜日 1限)</li> <li>4.乳児期の子どもの特徴(愛着、母子関係など)と生活援助について学び、個々の対象者に沿った保健指導ができるよう、健康課題への支援を計画・立案することを理解する。(10月9日水曜日 2限)</li> <li>5.幼児期の子どもの特徴(基本的な生活習慣・言語・社会性の獲得、遊びなど)と生活援助(予防接種や健診のシステムを含む)を理解する。(10月16日水曜日 1限)</li> <li>6.学童期の子どもの特徴と健康課題を理解し、健康の維持・増進、疾病予防についての援助を理解する。(10月16日水曜日 2限)</li> <li>7.思春期の子どもの特徴と健康課題を理解し、成人期に移行する援助を理解する。(10月16日水曜日 5限)</li> <li>8.各発達段階にある子どもとのコミュニケーションの特徴と援助関係を築く方法について検討する。小児に関連する社会統計を学び、小児保健、母子保健を理解する。子どもを取り巻く社会について学ぶ。(10月23日水曜日 1限)</li> <li>9.子どもの成長発達に適した生活環境(家族を含む)、地域における子育て支援(母性・父性の育成を含む)を学び、今後の課題を検討する。子どもを取り巻く医療・福祉・教育の在り方を学ぶ。他職種との連携・調整を通して、看護の役割を理解する。(10月23日水曜日 2限)</li> <li>10.子どもの入院が子どもに及ぼす影響について学び、必要となる援助の視点を理解する。(10月30日水曜日 1限)</li> <li>11.子どもの入院が家族(同胞を含む)に及ぼす影響について学び、必要となる援助の視点を理解する。(10月30日水曜日 2限)</li> <li>12.子どもに起こりやすい症状(発熱、脱水、下痢、嘔吐)とその看護について理解する。(11月6日水曜日 1限)F305・308使用</li> <li>13.子どもに起こりやすい症状(咳嗽、呼吸困難、けいれん)とその看護について理解する。(11月6日水曜日 2限)F305・308使用</li> <li>14.試験(12月16日月曜日 4限)</li> </ol> <p>* 12、13回以外はF304を使用</p>			

P11201530 [ NNB2-019 ]

[2看]\*後期水1・2

科目名	小児看護論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	内 正子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(80%)、課題レポート(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] manabaシステムを活用してフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験および課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験および課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験および課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験および課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験および課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験および課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験および課題レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 小児看護学Ⅰ 改訂第4版 (電子版) 著者名:二宮啓子編著 出版社:南江堂 (978-4-524-22756-3) 小児看護学Ⅱ 改訂第4版 (電子版) 著者名:今野美紀編集 出版社:南江堂 (978-4-524-22757-0)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	小児療養看護論		前期	1 単位
サブタイトル			講義	
担当者	菅野 由美子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1. 小児期の特徴的な疾患と疾患から生じる症状、疾患をもつ子どもと家族の特徴を理解することができる。  2. 検査・処置を受ける子どもが主体的に取り組める援助について理解し、考察することができる。  3. さまざまな疾患や障がいをもつ子どもと家族の抱える問題を理解し、必要な看護について考察することができる。  4. さまざまな疾患や障がいをもつ子どもと家族がコミュニティで生活する上で、長期的に必要な看護について理解することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>さまざまな疾患や障がいを持って生活する子どもを理解し、子どもと家族への看護援助を学ぶ。  健康逸脱することにより、子どもは診療を受けたり、検査や処置、治療を受けたりすることになる。それぞれの子どもと家族にとっての体験の意味を理解し、子どもが主体的に取り組むことができるような援助方法を学ぶ。  子どもに多く見られる急性期の状況の理解とともに、それに対するの援助、慢性期疾患を持つ子どもと家族に対するセルフケア獲得に向けての援助方法を学ぶ。  さらに、医療施設内での看護のみならず、コミュニティで療養生活を過ごす子どもと家族への看護を学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>1. 事前課題に取り組み、提示された教科書の該当ページを熟読しておく(取り組んだ事前課題をもとに授業を展開します)。2時間程度  2. 毎回の授業内容から、それぞれの発達段階に必要な援助について、復習をする。1時間程度  3. 事前課題に記載された教員のコメントを確認し、事例について振り返る。1時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回 4月12日(金)4限 到来における子どもと家族の援助  第2回 4月19日(金)4限 検査や処置を受ける子どもと家族への援助  第3回 4月26日(金)4限 急性期にある乳児期の子どもと家族への援助  第4回 5月 9日(木)3限 手術を受ける幼児期の子どもと家族への援助  第5回 5月16日(木)3限 慢性疾患をもつ学童期にある子どもと家族への援助①  第6回 5月23日(木)3限 慢性疾患をもつ学童期にある子どもと家族への援助②  第7回 5月30日(木)4限 先天性疾患(障害)をもつ子どもと家族への援助  試験 6月14日(金)4限(30分)  再試験 6月21日(金)4限(60分)</p>				

科目名	小児療養看護論	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	菅野 由美子		
<p>[ 成績評価方法 ]  本試験80点満点、事前課題20点満点  ・事前課題(6回分)は毎回の授業後に、授業内容や授業中の話し合いを基に、事前課題に追記修正を加えたものを提出する。その後、採点し翌週の授業で事前課題にコメントを入れて全員へ返却する。  ・本試験については、希望者にはいつでも開示し、個別に質問に応じる。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・授業時に提出された事前課題は、コメントを記載し、翌週授業で返却する。  ・授業内容や事前課題、課題へのコメントの内容など質問にはいつでも応じる。  ・本試験については、希望者にはいつでも開示し、個別に質問に応じる。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。  成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。  成績評価方法:課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。  成績評価方法:課題・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:課題・試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  看護学テキストNICE 小児看護学Ⅱ 改訂第4版  小児看護支援論 子どもと家族の主体性を支える 著者名:今野美紀 二宮啓子 出版社:南江堂 (978-4-524-22757-0)  看護学テキストNICE 小児看護学Ⅰ 改訂版4版  小児看護学概論・小児看護技術  子どもと家族を理解し力を引き出す  著者名:二宮啓子 今野美紀 出版社:南江堂 (978-4-524-22756-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>			

P11201540 [ NNB3-020 ]

[3看]\*前期金4&一部木3

科目名	食品学総論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大串 美沙		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①食品に関する正確な知識を身に付ける。 ②食品を科学的視点から理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>人間を生物学的に理解する中で、食べ物と健康の関係は重要な要素である。そこで、本講では食品を構成する成分の特性や食品成分の変化、食品の物性、機能性などについて総合的に解説する。</p> <p>遅刻、欠席が多いと授業についていけなくなりますので注意してください。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業前に教科書を読んでおき、授業後は教科書や配布資料等を活用し、講義内容の復習確認をしておくことと理解度が上昇しやすくなります(各回、予習・復習 2時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間と食品 9月30日(月)4限</li> <li>2. 炭水化物 10月7日(月)4限</li> <li>3. 脂質 10月14日(月)4限</li> <li>4. たんぱく質 10月21日(月)4限</li> <li>5. 微量栄養素(ビタミン、ミネラル) 10月28日(月)4限</li> <li>6. 微量栄養素(ビタミン、ミネラル) 11月11日(月)4限</li> <li>7. 嗜好成分・有害物質①(水分、色素、呈味、香気、有害成分など) 11月18日(月)4限</li> <li>8. 嗜好成分・有害物質②(水分、色素、呈味、香気、有害成分など) 11月25日(月)4限</li> <li>9. 嗜好成分・有害物質③(水分、色素、呈味、香気、有害成分など) 12月2日(月)4限</li> <li>10. 食品成分の変化① 12月9日(月)4限</li> <li>11. 食品成分の変化②、食品の物性 12月16日(月)4限</li> <li>12. 食品表示と機能性① 12月23日(月)4限</li> <li>13. 食品表示と機能性②、まとめ 1月6日(月)4限</li> <li>14. 理解度確認テスト 1月20日(月)4限</li> </ol> <p>順序は変更する場合があります。 また、不定期に小テストを実施します</p>			



科目名	食品学総論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大串 美沙		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(70%)、不定期に行う小テスト(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ①試験は後日解説します。 ②小テストはmanabaで実施し、解説を掲示します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身につけている。 成績評価方法:理解度確認テスト、小テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:理解度確認テスト、小テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 栄養科学イラストレイテッド 食品学 I 改訂第2版 (食べ物と健康－食品の成分と機能を学ぶ) 電子 著者名:水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎 編 出版社:羊土社 (978-4-7581-0879-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	助産学概論		前期	1 単位
サブタイトル			講義	
担当者	服部 律子、玉木 敦子、小西 真千子、峰 博子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産学の基礎となる概念、理論、トピックスについて述べるができる。</li> <li>2. 国内外の状況を広く視野に入れながら、助産師として女性の健康と人権や倫理的課題について話し合うことができる。</li> <li>3. 助産師として、女性と新しく生まれてくるいのち、およびその家族を中心としたケアを考察することができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>助産とは何か、助産師の役割や対象となる人々、助産ケアを提供する際に拠り所となる理論や考え方について学び、理解を深める。また、重要なトピックスとして、リプロダクティブ・ヘルス/ライツや生命倫理上の課題、国内外の子育て支援と母子保健医療施策の動向と課題、周産期のメンタルヘルス等について学び、自らの考えを他者とコミュニケーションしながら深めてゆく。くわえて、女性と新しく生まれてくるいのち、およびその家族を中心としたケアについて、助産師の実践活動から、生む力を支える助産師のケアとは何かについて話し合い、検討する。これらを通して、助産師としての視座を養い、多様な角度から課題を客観的・批判的に考察し、助産実践の基礎を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>疾病と治療Ⅴ(周産期学)、母性看護論、社会福祉・社会保障論、小児看護論、女性の健康増進と看護の理解が基盤になるため、十分に復習すること。各回、予習・復習合わせて4時間程度の自己学習を行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産師とは:助産師の定義、助産師の業務、助産師の教育、助産師と研究、出産と助産に関する歴史の変遷(4/9・火Ⅱ限 服部)</li> <li>2. 助産師が行うケアの理念:女性の意思決定への支援、助産実践の倫理:生殖医療と倫理的課題(4/16・火Ⅱ限 服部)</li> <li>3. 不妊症治療と看護:不妊症の治療の実際 不妊女性への支援 不妊治療後の妊婦への支援 不妊治療と倫理的課題(4/23・火Ⅱ限 小西)</li> <li>4. 助産師の仕事:地域で活躍する助産師から学ぶ(5/7 火Ⅱ限 学外特別講師:永原郁子)</li> <li>5. 周産期のメンタルヘルス : 周産期の女性と家族のメンタルヘルスの課題と支援(5/14 火Ⅱ限 玉木 )</li> <li>6. 外国人の母子保健:在日外国人の母子と家族が抱える課題とそれへの助産ケア(5/21・火Ⅱ限:峰)</li> <li>7. 子育て支援を中心とした母子保健医療福祉施策の現状と課題:日本と諸外国の母子保健の動向と課題を学ぶ。国・地域・民間における母子を支える制度や社会資源について学び、助産師の役割を考察する。(5/28・火Ⅱ限 服部)</li> <li>8. まとめ(試験と解説)(6/4・Ⅱ限 服部)</li> </ol>				

科目名	助産学概論	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	服部 律子、玉木 敦子、小西 真千子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験 (60%) 課題レポート (40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題レポートと試験結果は、授業やmanabaにてフィードバックを行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験 課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、課題レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 特になし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 「助産師基礎教育テキスト2023年版 第2巻 ウイメンズヘルスケア」著者名:吉澤豊予子 編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-2292-8) 「助産師基礎教育テキスト2023年版 第3巻 周産期における医療の質と安全」著者名:成田伸 編集 出版社:日</p>			

科目名	助産学実習	前期	8 単位
サブタイトル		実習	
担当者	服部 律子、牛越 幸子、小西 真千子、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  妊産婦と胎児・新生児の心身の経過を判断し、ニーズや健康課題・問題をアセスメントし、必要な援助を計画・実践・評価する能力を養う。安全・安楽・満足を配慮した分娩期の援助技術を習得する。異常経過の予測と判断および適切な対処に関する能力を養う。対象者がより正常な経過をたどれるよう、対象者のセルフケア能力を高め、必要な保健指導が行える能力を養成する。</p> <p>[ 授業概要 ]  妊産婦と胎児・新生児の心身の経過を判断し、ニーズや健康課題・問題をアセスメントし、必要な援助を計画・実践・評価する能力を養う。特に、10例程度の産婦への直接分娩介助を含む分娩期の援助を通して、正常分娩を中心とした助産援助を安全・安楽・満足を考慮して実践するために必要な基礎的能力(知識・技術・態度)を習得し、発展させる。母子および家族の妊娠期から子育て期まで受け持ち、継続看護を展開する。正常な経過に加えて、異常の予測と判断ができ、適切な対応や援助ができる能力を習得する。  保健指導見学や受け持ち妊産婦への関わりを通して、妊産婦・新生児へ必要な保健指導を実践できる能力を養う。これらを通して、対象のセルフケア能力に働きかけ、経過をより正常へと導くための援助能力を養成する。また、チーム医療、多職種との連携を理解し、助産師としての責務についても学びを深め、助産師の役割について考察を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  疾病と治療Ⅴ、母性看護学、助産学に関する科目を復習し、十分理解して実習に臨むこと。健康自己管理を十分に行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  実習期間中に下記を実施する。  ・正常分娩の直接分娩介助、間接介助および出生直後の新生児ケアの実施  ・直接分娩介助を行った母子の産褥期・新生児期のケアおよび保健指導  ・妊娠期から出産後を通して継続的に母子を受け持ち、助産過程を展開する。  ・実習施設の病棟および外来で提供されている妊婦の健康診査、1か月健診、保健指導、子育て支援活動の見学</p>			

科目名	助産学実習	前期	8 単位
サブタイトル		実習	
担当者	服部 律子、牛越 幸子、小西 真千子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習への取り組み(20%)、実習目標の達成度(80%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 振り返りを行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習への取り組み、記録</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、記録</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、記録</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習への取り組み、記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習への取り組み、記録</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 周産期学、母性看護学、助産学に関する科目で使用されたすべての教科書</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] ・適宜提示する</p>			

科目名	助産管理	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	服部 律子、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  助産業務及び運営に関する法的制度を理解し、周産期における医療の質と安全を考慮した業務の運営、調整及び評価ができるための基本的知識を習得し、管理的視点を養う。</p> <p>[ 授業概要 ]  助産業務及び運営に関する法的制度を理解し、業務の運営、効果的な助産業務遂行のための管理の原則と方法、調整及び評価ができる能力を養う。加えて、産科領域における医療事故の特徴を理解し、助産に関わる安全確保と医療事故への対応、危機管理について学ぶ。  助産師外来や院内助産所における助産業務管理、病院及び助産所の運営と管理の相違、助産業務の評価を学び、現状と課題を学ぶことを通して、助産業務に関する管理的視点を養う。  助産師の実務経験のある教員が助産管理の授業を担当する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  ・授業準備としては、教科書の該当ページを読み学習する。(2時間程度)  ・復習として、各授業で配布した資料を読み、授業内容を整理・確認する。(2時間程度)  授業の予習を行い、疑問点を明確にした上で授業に参加すること</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 助産管理の基本概念: 管理とマネジメントの定義、概念(質、顧客・要求、製品・サービス、マネジメントサイクルなど)、助産管理の定義、組織化(業務基準、質評価) 医療保険制度と助産業務、助産業務の診療報酬、分娩費用(服部 4/8・月 3限)  2. 日本における周産期医療システム: 出産の「安全性」と「快適性」に関する医療改革の歴史、医療の質とその評価、周産期医療の現状と課題、周産期医療連携、周産期医療機関の機能と役割、周産期医療対策整備事業、オープンシステム (服部 4/8・月 4限)  3. 助産と関連法規: 医療法、保健師助産師看護師法、医師法、母子保健法、母体保護法、薬事法、児童福祉法、地域福祉法、戸籍法、刑法、民法、労働法、助産と法的責任: 応召、証明書交付、助産録の記載、届出、守秘義務(服部 4/15・月 3限)  4. 周産期におけるリスクマネジメント: 医療事故と医療過誤、医療法による安全管理体制、医療安全のための情報公開とインフォームドコンセント、リスクマネジメント(病院、助産所、職能団体)、感染におけるマネジメント、災害におけるマネジメント(峰 4/15・月 4限)  5. 地域における助産サービス管理: 地域における助産サービスの目的と特徴、関連する母子保健行政、地域での助産サービスの実際 (4/22・月 3限)(学外特別講師: 住岡まどか先生)  6. 病院・診療所における助産サービス管理: 病産院における助産サービスの現状と課題(混合病棟における現状と課題)、周産期医療システム、母体搬送に伴う他職種との連携、院内助産・助産外来の運営と実際(4/22・月 4限)(学外特別講師: 井田久留美先生)  7. 助産所における助産業務管理: 助産師の開業、開業の多様な機能と役割、助産所における妊産婦管理の実際、助産所の経営とスタッフ管理、サービス管理、構造と設備、監督(服部 5/10・金1限)  8. 試験とまとめ(5/13・月 3限)</p>			

科目名	助産管理	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	服部 律子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題と試験結果は授業もしくはmanabaにてフィードバックを行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「助産管理」助産学講座10 著者名:我部山キヨ子編集 出版社:医学書院 (978-4-260-02175-3 C3347)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	助産診断技術論 I		前期	1 単位
サブタイトル			講義	
担当者	服部 律子、山崎 峰夫、芳本 誠司			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.助産診断とケアに必要な性機能・生殖機能の生理と異常ついて理解する。  2.周産期、新生児・乳児期の正常からの逸脱時の助産診断とケアに必要な知識を習得する。  3.性科学と性の多様性を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>助産実践の基礎的・科学的基盤となる知識を体系的に概説する。①性機能、生殖機能の生理と異常、②周産期の正常な経過からの逸脱や産科合併症と治療、③新生児・乳児期の生理と正常な経過からの逸脱と治療、④性科学と性の多様性</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>疾病と治療Ⅴ、疾病と治療Ⅵ、母性看護論、女性の健康増進と看護について復習し、理解しておくこと。特に人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ(性周期、内分泌)に関する知識の復習を十分に行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.女性性器の解剖・生理について、Ⅸ産実践に必要な骨・筋肉・神経系、および、生殖生理に関する内分泌、母子の免疫学(山崎 峰夫)(4/23 火Ⅲ)  2.妊娠期の異常(山崎 峰夫)(4/23 火Ⅳ)  3.分娩期・産褥期の異常(山崎 峰夫)(5/9 木Ⅳ)  4.不妊・不育症、生殖医療、周産期の薬物療法(山崎 峰夫)(5/9 木Ⅴ)  5.新生児の異常(芳本 誠司)(5/16 木Ⅱ)  6.乳児期の異常(芳本 誠司)(5/23 木Ⅱ)  7.性科学と性の多様性(服部)(6/13 木Ⅳ)  8.試験とまとめ(6/18 火Ⅲ限)</p>				



科目名	助産診断技術論 I	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	服部 律子、山崎 峰夫、芳本 誠司		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験80% 授業レポート 20%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業後のレポートへの返答 試験後の解説</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、 授業レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験 授業レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験 授業レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験 授業レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していきける。 成績評価方法:試験 授業レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験 授業レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験 授業レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 特になし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 今までの母性・小児看護学教科書</p>			

科目名	助産診断技術論Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	助産診断の理解	講義	
担当者	牛越 幸子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  妊婦、産婦、褥婦、新生児とその家族の健康状態および正常性を診断するための知識を習得する。助産診断を記述するために必要な根拠や理論に関する知識を習得し助産過程を理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]  マタニティサイクルにある妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族の健康状態や正常経過を判断する根拠や理論について学ぶ。妊娠期から産褥期まで継続した助産診断プロセスを理解するための講義や学生によるプレゼンテーションを行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  母性看護論、疾病と治療Ⅴ、助産診断技術論Ⅰの講義内容を復習して授業に参加する。各回、予習復習を合わせて4時間程度の学習を行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 助産診断と助産実践の過程、妊娠期の診断プロセスと必要な情報 (1月8日/水)3限  2. 妊娠の生理と確定診断に必要な情報(1月8日/水)4限  3. 妊娠経過の診断に必要な情報の正常値とその意味 (1月10日/金)1限  4. 分娩期の診断プロセスと必要な情報 (1月10日/金)2限  5. 分娩の進行状態と産婦・胎児の健康状態の診断 (1月14日/火)3限  6. 新生児の胎外生活への適応の診断(1月14日/火)4限  7. 産褥経過に伴う生理的变化の診断 まとめ(1月16日/木)1限</p>			

科目名	助産診断技術論Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	助産診断の理解	講義	
担当者	牛越 幸子		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題レポート(80%)授業への取り組み(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 適宜指示します</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜指示します</p>			

科目名	助産診断技術論Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	助産過程と基礎知識	講義	
担当者	峰 博子、小西 真千子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  妊婦、産婦、褥婦、新生児とその家族の健康状態および正常性とその逸脱のリスクをアセスメントする知識を習得する。さらに、助産診断に基づいた助産計画や保健指導案を作成し、助産ケアを行うための基礎的な知識が習得できる。</p> <p>[ 授業概要 ]  マタニティサイクルにある妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族の健康状態や正常経過のアセスメント、正常から逸脱するリスクをアセスメントし予防的ケアを習得する。妊娠・分娩・産褥・新生児期における助産ケアを行うために臨床で遭遇するような事例を用いて必要な知識が習得できるように講義を中心とした授業を行う。  特に、妊娠期では具体的な事例に対する保健指導の企画や指導案の作成、分娩期では、分娩進行に伴う助産ケアや出産直後のケアについて学び、産褥期では、母児の健康状態に対する助産ケアと育児技術支援やセルフケア能力を高める助産ケアについて学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  周産期に関係する科目となる、女性の健康増進と看護、母性看護論、家族看護論、疾病と治療Ⅴ、小児看護論の講義内容を復習して授業に参加する。各回、予習復習を合わせて4時間程度の学習を行うこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の健康生活診断と経過診断に必要な情報とアセスメント (1月16日/木)2限(峰)</li> <li>2. 妊婦の健康状態から分娩・産褥期に向けた助産計画(1月20日/月)3限(峰)</li> <li>3. 妊婦とその家族に対するセルフケアを促す支援(1月20日/月)4限(峰)</li> <li>4. 妊婦とその家族に対する親準備・出産準備にむけた保健指導(1月21日/火)1限(峰)</li> <li>5. 分娩期の健康生活診断と経過診断に必要な情報とアセスメント(1月21日/火)2限(小西)</li> <li>6. 分娩進行に伴う産婦と家族に対する助産計画(分娩第1期の助産計画と助産ケア) (1月22日/水)3限(小西)</li> <li>7. 分娩進行に伴う産婦と家族に対する助産計画(分娩第2期の助産計画と助産ケア) (1月22日/水)4限(小西)</li> <li>8. 分娩進行に伴う産婦と家族に対する助産計画(分娩第3・4期の助産計画と助産ケア) (1月24日/金)1限(小西)</li> <li>9. 出生直後の児のケア・早期母児接触・愛着形成を促す支援(1月24日/金)2限(小西)</li> <li>10. 産褥期の健康生活診断と経過診断に必要な情報とアセスメント(1月29日/水)3限(峰)</li> <li>11. 入院中の母子に対する助産計画と助産ケア(パースレビューの意義とセルフケア能力を高める支援)(1月29日/水)4限(峰)</li> <li>12. 育児に必要な基本的知識を提供する支援(1月30日/木)1限(峰)</li> <li>13. 1か月健診までの母子に対するアセスメントと助産ケア(1月30日/木)2限(峰)</li> <li>14. 試験 (1月31日/金)3限</li> </ol>			

科目名	助産診断技術論Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	助産過程と基礎知識	講義	
担当者	峰 博子、小西 真千子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験回収後に解説を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア」 著者名:森恵美編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1464-0) 「助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア」 著者名:町浦美智子編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1465-7) 「助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」 著者名:横尾京子編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1466-4)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 「今日の助産」改訂第3版 著者名:北山真理子 内山和美編 出版社:南江堂 (978-4-524-26377-6) マタニティ診断ガイドブック 著者名:日本助産診断・実践研究会 出版社:医学書院 (978-4-260-02445-7) 病気が見えるVol10 産科 著者名:井上裕美他 出版社:メディック・メディア (978-4-89632-713-7)</p>			

科目名	助産診断技術論演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	牛越 幸子、小西 真千子、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

妊産褥婦と胎児・新生児の健康水準を診断できる能力を養い、助産過程の展開に必要なアセスメントおよび援助技術を習得し、実践能力を養う。

[授業概要]

妊産褥婦と胎児・新生児の健康水準を診断できる能力を養い、助産過程の展開に必要なアセスメントおよび援助技術の具体的な方法を学ぶ。アセスメントでは主に妊娠・分娩期を中心とした事例学習により、関連情報の統合と理解、経過とリスクの予測、必要な看護支援やリスク対応に関する計画立案を学び、実習に向けた臨床判断能力を獲得する。援助技術演習では、分娩介助に必要な環境や物品準備、分娩介助技術、出生直後の新生児ケア、保健指導技術などを含む。加えて、女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する相談・教育・保健指導、受胎調節指導に必要な知識と援助技術の具体的な方法を学ぶ。いずれも小グループでディスカッションや発表を中心として学習を進める。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

周産期学、母性看護論、女性の健康増進と看護、助産学概論、助産診断技術論の復習を行い、十分理解して授業に臨むこと。各回、予習復習をあわせて2時間程度行うこと。特に、分娩介助技術に関する演習は自己練習の復習を行うこと。

[授業計画]

牛越幸子、峰 博子、小西真千子、西尾梨那、平川真梨

1. 分娩期における基礎的技術の習得(紙上事例①)  
入院時の観察、レオポルド触診法、CTG装着(4月8日/月)1限
2. 初期診断に向けた情報収集とアセスメントの視点(紙上事例①)(4月8日/月)2限
3. 分娩第1期の助産診断—初期診断の記述(紙上事例①)(4月9日/火)3限
4. 分娩第1期の助産診断—初期診断の(紙上事例②)(4月9日/火)4限
5. 分娩介助に伴う援助技術の習得(ガウンテクニック、内診技術)(4月11日/木)1限
6. 分娩介助に伴う援助技術の習得(直接介助者の役割と準備、分娩セット展開 (4月11日/木)2限
7. 分娩介助技術の実践(肛門保護、会陰保護、児頭娩出、臍帯切断、胎盤娩出) (4月12日/金)3限
8. 分娩介助技術の実践(異常時の対応)(4月12日/金)4限
9. ハイリスク事例に対する分娩第1期のアセスメントと助産診断(リスク事例①) (4月15日/月)1限
10. ハイリスク事例に対する分娩第1期のアセスメントと助産診断(リスク事例①) (4月15日/月)2限
11. ハイリスク事例に対する分娩第1期～2期のアセスメントと助産診断(リスク事例②) (4月16日/火)3限
12. ハイリスク事例に対する分娩第1期～2期のアセスメントと助産診断(リスク事例②) (4月16日/火)4限
13. ハイリスク事例に対する分娩第1期～2期のアセスメントと助産診断(リスク事例③) (4月19日/金)3限
14. ハイリスク事例に対する分娩第1期～2期のアセスメントと助産診断(リスク事例③) (4月19日/金)4限
15. 分娩第1～4期の助産診断と援助技術(リスク事例④)(4月23日/火)3限
16. 分娩第1～4期の助産診断と援助技術(リスク事例④)(4月23日/火)4限
17. 分娩第1～4期の助産診断と援助技術(リスク事例④)(4月26日/金)4限
18. 分娩第1～4期の助産診断と援助技術(リスク事例④)(4月26日/金)5限
19. 分娩期～産褥期の助産過程(胎盤観察、出生直後の児のケアと観察)  
(5月7日/火)3限
20. 分娩介助技術の習得(分娩介助技術チェック)(5月7日/火)4限
21. 産褥・新生児への助産診断と援助技術(5月10日/金)3限
22. 産褥・新生児への助産診断と援助技術(5月10日/金)4限
23. 分娩第2期の助産過程の実施(分娩介助技術チェック)(5月13日/月)1限
24. 分娩第2期の助産過程の実施(分娩介助技術チェックと会陰縫合技術) (5月13日/月)2限
25. OSCE (5月15日/水)2限
26. OSCE (5月15日/水)3限
27. 試験(5月15日/水)4限

科目名	助産診断技術論演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	牛越 幸子、小西 真千子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業への取り組み・課題 (50%)、技術試験 (50%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後に振り返りを行う</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 看護1-2 / (科学的根拠に基づいた課題対応能力) 人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身につけている。 成績評価方法: 技術試験</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 看護2-3 / (倫理実践と道徳的態度) 看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身につけている。 成績評価方法: 授業への取り組みと課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取り組みと課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 責任感 / 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取り組みと課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取り組みと課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 表現力 / 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取り組みと課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 技術試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 技術試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 「助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア」(3年後期「助産診断技術論Ⅲ」と同じ) 「助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア」(3年後期「助産診断技術論Ⅲ」と同じ) 「助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」(3年後期「助産診断技術論Ⅲ」と同じ)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 授業中に適宜提示する。</p>			

科目名	女性の健康増進と看護	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	服部 律子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 女性と母性の健康に関する特性と影響要因、成長発達や加齢に伴う変化を理解する。さらに、性と生殖にかかわる健康と人権についての理解を深め、それらを考慮にいれた健康増進への効果的な支援が行える能力を養う。</p> <p>[授業概要] 女性と母性の健康を考える上で必要な概念、ならびに女性および母性の健康に影響する社会・環境要因、ライフサイクルに伴う健康課題を理解し、女性が自らの能力を生かしてより健康に過ごすために必要な看護を学ぶ。女性の健康について、生涯を通した一連の発達の変化を、生物学的側面のみならず心理・社会・文化的側面からも理解を深める。また、性と生殖における健康と人権について現状と課題を理解し、健康増進への支援を学び看護援助ができる能力を養う。看護師・助産師の実務経験のある教員が授業を担当する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 生殖関連の解剖学・生理学(生殖機能、性周期、内分泌等)に関する知識の確認学習を行うこと。 各授業の前後にはテーマに該当する教科書、参考文献、配布資料を読み整理する。前後各2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.母性看護学と女性の健康支援 母性看護学、助産学とは、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重と看護(9/27 金 3限) 2.セクシュアリティの理解と支援、女性のライフサイクル各期の身体・心理・社会的特徴(10/4 金 3限) 3.母性看護を取り巻く社会の現状と課題、保健衛生統計からみる母性看護の課題、母性看護に関わる法律、少子化対策と母性看護(10/11・金 3限) 4.思春期の健康課題と看護、若年妊娠の現状と課題、青少年と薬物(飲酒・喫煙含む)に関する健康課題、性教育の現状と課題(10/18 金 3限) 5.成熟期の健康課題 性感染症と予防 性暴力と性被害、DV 不妊(10/25 金 3限) 6. 母子関係と愛着に関する支援 母性・父性を育てる看護ケア 母子相互作用と愛着 妊娠の受容とは 育児をめぐる社会の課題 子ども虐待と予防活動(11/1・金 3限) 7.働く女性への母性保護と育児支援 更年期・老年期の健康課題 更年期女性への支援 老年期女性に特徴的な健康課題(11/15・金 3限) 8.試験とまとめ(11/22・金 3限)</p>			



科目名	女性の健康増進と看護	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	服部 律子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業後課題レポート(40%)、試験(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題と試験結果は授業もしくはmanabaにてフィードバックを行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業後課題レポート、試験</p>			

科目名	人体のしくみと機能 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	高橋 玲比古		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>学生ないし教員からの疑問点や課題等をグループワークでディスカッションし、学生が結果を発表する。</small>	実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1) ケアに必須の正常な人体のしくみと機能について理解・修得できる。  2) 生命や生きることについて考察できる。  3) 機能と構造が異常となるメカニズムを推測でき、今後学ぶ疾病と治療につながる考察ができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護学を学ぶ上で基本となる正常な人体のしくみと機能について系統的に講義する。人体のしくみと機能 I では、主に消化器、呼吸器、造血管、循環器について系統的に学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>1) 高校で学習した理科学目(生物・化学・物理学)を整理・復習しておく。  2) 講義予定のレジュメと教科書範囲を熟読し、あらかじめ疑問点を整理して授業に臨む。  3) 講義で学んだ内容を復習し、専門用語などの語彙は必ず確認して未消化のままにしない。  予復習は合わせて4時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1) 形からみた人体/素材からみた人体 2) 機能からみた人体(教科書 pp.1-62) (4月10日水曜日)1限  2. 栄養の消化と吸収(1) 口・咽頭・食道の構造と機能(教科書pp.63-76) (4月17日水曜日)1限  3. 栄養の消化と吸収(2) 腹部消化管の構造と機能(教科書pp.76-95) (4月24日水曜日)1限  4. 栄養の消化と吸収(3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能/腹膜(教科書pp.96-106) (5月8日水曜日)1限  5. 呼吸のはたらき(1) 呼吸器の構造(教科書pp.107-120) (5月22日水曜日)1限  6. 呼吸のはたらき(2) 内呼吸と外呼吸/呼吸器と呼吸運動/呼吸気量/ガス交換とガスの運搬(教科書pp.120-133) (5月29日水曜日)1限  7. 呼吸のはたらき(3) 肺の循環と血流/呼吸運動の調節/呼吸器系の病態生理(教科書pp.133-141) (6月5日水曜日)1限  8. 血液のはたらき(1) 血液の組成と機能/赤血球/白血球(教科書pp.141-155) (6月12日水曜日)1限  9. 血液のはたらき(2) 血小板/血漿タンパク質/血液の凝固と線維素溶解/血液型(教科書pp.155-165) (6月19日水曜日)1限  10. 血液の循環とその調節(1) 心臓の構造/心臓の拍出機能/心電図/心臓の収縮(教科書pp.167-193) (6月26日水曜日)1限  11. 血液の循環とその調節(2) 末梢循環系の構造/血管の構造/肺循環の血管/体循環の血管(教科書pp.193-206) (7月3日水曜日)1限  12. 血液の循環とその調節(3) 血液の循環調節/血圧/血液の循環/血圧・血流量の調節(教科書pp.206-219) (7月10日水曜日)1限  13. 血液の循環とその調節(4) 血液の循環調節/微小循環/循環器系の病態生理/リンパとリンパ管(教科書 pp.220-229) (7月17日水曜日)1限</p> <p>試験(7月24日水曜日)1限</p>			

科目名	人体のしくみと機能 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	高橋 玲比古		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業参加姿勢(30%)、期末 試験 (70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 全体的にはマナバ、個別的にはオフィスアワー等</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:学科テスト・受講態度を基礎に、manabaを通じた授業ののまとめ提出内容を加味して総合的に評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:専門的知識の習得は本講座の大きな目的の一つです。学科テスト・受講態度を基礎に、manabaを通じた授業ののまとめ提出内容を加味して総合的に評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:人が病むことへの関心と理解は、医療職を目指す学習者にとって必須です。テスト・受講態度・manabaによるレポートの提出状況で総合的に評価を行います。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能(1)(デジタル) 著者名:坂井建雄 岡田隆夫 出版社:医学書院 (978-4-260-03171-4)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜紹介する。</p>			

科目名	人体のしくみと機能Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	高橋 玲比古		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	学生ないし教員からの疑問点や課題等をグループワークでディスカッションし、学生が結果を発表する。	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1) ケアに必須の正常な人体のしくみと機能について理解・修得できる。  2) 生命や生きることについて考察できる。  3) 構造と機能が異常となるメカニズムを推測でき、今後学ぶ疾病と治療につながる考察ができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>看護学を学ぶ上で基本となる正常な人体のしくみと機能について系統的に講義する。人体のしくみと機能Ⅱでは、主に腎・泌尿器、内分泌、骨格・運動器、脳・神経機能、生殖器について系統的に学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>1) 高校で学習した理科学目(生物・化学・物理学)を整理・復習しておく。  2) 講義予定の教科書範囲を熟読し、あらかじめ疑問点を整理して授業に臨む。  3) 講義で学んだ内容を復習し、専門用語などの語彙を含めて未消化のままにしない。  予復習は合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. 体液の調節と尿の生成(1) 腎臓の構造と機能/糸球体の構造と機能/尿細管の構造と機能/傍糸球体装置/クリアランスと糸球体濾過量/腎臓から分泌される生理活性物質(教科書 pp.231-248)(10月2日水曜日)2限  2. 体液の調節と尿の生成(2) 排尿路/体液の調節(教科書 pp.248-260)(10月9日水曜日)2限  3. 内臓機能の調節(1) 自律神経による調節/自律神経の機能/自律神経の構造/自律神経の神経伝達物質と受容体/内分泌系による調節/内分泌とホルモン/ホルモンの化学構造と作用機序(教科書 pp.261-277)(10月16日水曜日)2限  4. 内臓機能の調節(2) 全身の内分泌腺と内分泌細胞/視床下部一下垂体系/甲状腺と副甲状腺/膵臓(教科書 pp.277-290)(10月23日水曜日)2限  5. 内臓機能の調節(3) 内分泌細胞/副腎/性腺 ホルモン分泌の調節(教科書 pp.290-306)(10月30日水曜日)2限  6. 身体の支持と運動(1) 骨格/骨の連結/骨格筋(教科書 pp.307-323)(11月6日水曜日)2限  7. 身体の支持と運動(2) 体幹の骨格と筋/上肢の骨格と筋/下肢の骨格と筋(教科書 pp.324-361)(11月13日水曜日)2限  8. 身体の支持と運動(3) 頭頸部の骨格と筋/筋の収縮(教科書 pp.361-382)(11月20日水曜日)2限  9. 情報の受容と処理(1) 神経系の構造と機能/脊髄と脳/脊髄神経と脳神経(教科書 pp.383-418)(11月27日水曜日)2限  10. 情報の受容と処理(2) 脳の高次機能/運動機能と下行伝導路/感覚機能と上行伝導路(教科書 pp.418-435)(12月4日水曜日)2限  11. 情報の受容と処理(3) 眼の構造と視覚/耳の構造と聴覚・平衡覚/味覚と嗅覚/疼痛(教科書 pp.435-460)(12月11日水曜日)2限  12. 外部環境からの防御 皮膚の構造と機能/生体の防御機構/非特異的防御機構/免疫/代謝と運動/体温とその調節(教科書 pp.461-491)(12月18日水曜日)2限  13. 生殖・発生のしくみ 1) 男性生殖器/女性生殖器 2) 受精と胎児の発生(教科書 pp.493-526)(1月8日水曜日)2限  試験 (1月15日水曜日)2限</p>			

科目名	人体のしくみと機能Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	高橋 玲比古		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業態度(30%)、期末試験(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 全体的にはマナバ、個別的にはオフィスアワー等</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:講義・演習の授業態度、課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能(1) (デジタル) 著者名:坂井建雄 岡田隆夫 出版社:医学書院 (978-4-260-04687-9)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜紹介する。</p>			

科目名	成育看護技術演習 I		後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	内 正子、牛越 幸子、菅野 由美子、服部 律子、小西 真千子、原口 梨那、峰 博子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>1.療養生活を送る子どもの状況に応じた援助技術を理解し、実践する能力を修得する。  2.周産期にある母子の健康状態のアセスメントや新生児の日常生活に関する援助技術を理解し、実践する能力を習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>成育看護分野における基盤的な看護技術を学ぶ。  小児看護では、子どもの成長・発達のアセスメントや療養生活を支援するために必要な技術として、身体計測、バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント、清拭、輸液管理について演習を行う。学生は事前に各演習項目の概要(目的、必要物品、手順、留意点など)についてレポートを作成する。演習では小グループに分かれて、モデル人形もしくは学生同士で技術を学ぶ。  母性看護では、周産期における母子の健康状態を理解するために必要な技術として、妊婦のヘルスアセスメント(レオポルド触診法、胎児心音の聴取)、褥婦のヘルスアセスメント(退行性変化の観察、授乳ケア)、新生児のヘルスアセスメントやケア(衣類の着脱、おむつ交換、沐浴など)について演習を行う。演習は小グループに分かれて行う。  小児看護および母性看護の経験がある教員が、その経験を活かして、技術演習指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>「小児看護論」の内容を復習し、理解しておくこと。演習の前の事前レポートを作成し、演習で実施する各技術の概要を理解しておくこと。  「母性看護論」の内容を復習し、理解しておくこと。事前課題に基づき演習の予習を行い、演習で実施する核技術の概要を理解しておくこと。  各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>オリエンテーション:9月27日金曜日 5限</p> <p>●小児看護における看護技術:  1. 身体計測と発育評価:各発達段階(乳児、幼児、学童)の事例における身体計測を実施し、その発育評価を行い、子ども・家族に対する支援を考える。  (Aクラス:12月10日火曜日 1限、2限 Bクラス:12月20日金曜日 1、2限)  2. バイタルサイン測定:各発達段階の事例について、モデル人形を用いてバイタルサイン測定を実施する。子どもへの適切な実施方法を学ぶ。  (Aクラス:1月15日水曜日 3限 Bクラス:1月29日水曜日 3限)  3. フィジカルアセスメント:ロールプレイおよび事例のモデル人形を用いて、小児のフィジカルアセスメントを行う。  (Aクラス:1月15日水曜日 4限 Bクラス:1月29日水曜日 4限)  4. モデル人形を用いて全身清拭を実施する。  (Aクラス:1月16日木曜日 3限 Bクラス:1月30日木曜日 3限)  5. 持続点滴中の看護について理解し、輸液管理の技術を学ぶ。  (Aクラス:1月16日木曜日 3限 Bクラス:1月30日木曜日 3限)  6. 事例を用いたフィジカルイグザミネーションを通してアセスメントを行う。  (Aクラス:1月16日木曜日 4限 Bクラス:1月30日木曜日 4限)</p> <p>●母性看護における看護技術  7・8.妊婦のヘルスアセスメント技術:妊婦モデルを用いてレオポルド触診法、NST判読などを行い、アセスメントについて学ぶ。  (Bクラス:12月12日木曜日1・2限、Aクラス:12月13日金曜日1・2限)  9・10.褥婦のヘルスアセスメント技術:腹部触診モデルなどを用いて退行性変化や進行性変化の観察、褥婦に対する授乳支援について学ぶ。  (B1クラス:12月16日月曜日1・2限、A1クラス:12月17日火曜日1・2限)  (B2クラス:12月18日水曜日1・2限、A2クラス:12月19日木曜日1・2限)  11・12.新生児のヘルスアセスメント技術:新生児モデルを用いて沐浴やおむつ交換、おむつ交換や観察(バイタルサイン測定、全身の観察)などを学ぶ。  (B2クラス:12月16日月曜日1・2限、A2クラス:12月17日火曜日1・2限)  (B1クラス:12月18日水曜日1・2限、A1クラス:12月19日木曜日1・2限)  13.産婦のケア技術:ロールプレイをもとに分娩期の支援について学ぶ。  (Bクラス:12月24日火曜日1限、Aクラス:12月24日火曜日2限)</p> <p>* 演習は2クラスに分かれて行う。クラスによって、日程が異なるので、初日のオリエンテーションで確認すること。  * 演習はF202、F209、F304使用 (9月27日のオリエンテーション F304)</p>				

科目名	成育看護技術演習Ⅰ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	内 正子、牛越 幸子、菅野 由美子、服部 律子、小西 真千子、原口 梨那、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]  小児(50%): 事前課題(20%)、演習レポートおよび演習への取り組み(30%)  母性(50%): 事前課題(20%)、演習レポート(事後課題)および演習への取り組み(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  課題についてはコメントして返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法: 課題レポートおよび演習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法: 課題レポートおよび演習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法: 課題レポートおよび演習レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 課題レポートおよび演習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: 課題レポートおよび演習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 課題レポートおよび演習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 課題レポートおよび演習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 課題レポートおよび演習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法: 課題レポートおよび演習レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術 (電子版) 著者名:二宮啓子編著 出版社:南江堂 (978-4-524-22756-3)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	成育看護技術演習Ⅱ	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	服部 律子、内 正子、牛越 幸子、菅野 由美子、小西 真千子、原口 梨那、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1.周産期における母子とその家族の看護ニーズを明らかにし、必要な看護援助を展開するための能力を習得する。 2.療養生活を送る子どもの看護ニーズを導き、子どもとその家族の状況に応じた看護計画を立案する能力を修得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>成育看護分野における看護過程を学ぶ。 母性看護では、出産後早期にある母子とその家族の事例を用いて、褥婦・新生児・家族について健康状態、母子や家族の関係性、親役割取得の視点から情報の整理、解釈・分析、看護計画立案、実施評価を行う。これらは教員の助言を受けながら個人ワークとグループワークで展開する。この一連の過程を通し、母性看護の特徴であるウェルネスの視点について学ぶ。 小児看護では、各発達段階とさまざまな状況(急性期や慢性期)に沿った看護を修得するために、多様な子どもの事例を通してグループワークを行う。小児看護における看護過程の概要を学んだ後に、事例を活用して情報収集、分析、看護目標・看護計画の立案、実施のプロセスについてグループワークを行う。情報収集や実施などは学生同士や教員とのロールプレイを通して行っていく。 看護師の実務経験を持つ教員が授業を担当する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>小児看護論および母性看護論を復習し、理解しておくこと。 演習の予習として、事前課題、該当するテキスト、資料を読み、疑問点を確認しておく(各1時間程度) 復習として、授業で指示された課題を行う(各2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <p>母性看護における看護過程(服部律子、牛越幸子、峰博子、小西真千子、西尾梨那)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義・演習オリエンテーション:母性領域におけるウェルネス看護診断 4月12日(金)1限、</li> <li>2. 事例による情報収集と情報の関連づけと整理 4月19日(金)1限、</li> <li>3. 母子の健康状態や家族発達・ウェルネスの視点から情報を分析 4月19日(金)2限、</li> <li>4. 看護目標・看護計画の書き方・看護計画の立案 4月26日(金)2限、</li> <li>5. 看護計画の立案・発表 5月10日(金)2限</li> <li>6. 経過記録について・問題解決型とウェルネス志向型の用い方 5月17日(金)2限</li> </ol> <p>小児看護における看護過程(内正子、菅野由美子、橋本涼加、原口梨那)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. グループワーク:情報の整理、アセスメント。4月12日(金)2限、</li> <li>8. グループワーク:全体像の作成、看護計画の立案。4月26日(金)1限</li> <li>9. グループワーク:看護計画の立案。発表準備。 5月17日(金)1限</li> <li>10. 乳児の事例の全体像と看護計画、ロールプレイの発表 6月7日(金)1限</li> <li>11. 幼児の事例の全体像と看護計画、ロールプレイの発表 6月7日(金)2限</li> <li>12. 学童の事例の全体像と看護計画、ロールプレイの発表 6月14日(金)1限</li> <li>13. 思春期の事例の全体像と看護計画、ロールプレイの発表 6月14日(金)2限</li> </ol>			



科目名	成育看護技術演習Ⅱ	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	服部 律子、内 正子、牛越 幸子、菅野 由美子、小西 真千子、原口 梨那、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]  小児50点:グループ課題(40%)、発表(プレゼンテーション)(10%)、個人課題(50%)  母性50点:個人課題(80%)、授業参加態度(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業での課題については、その都度質問は可能です。  わからないことがあれば担当教員にメールして下さい</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を實踐することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:個人課題、グループ課題、授業参加態度、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  資料を配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  適時資料配布</p>			

科目名	成育看護実習 I	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	内 正子、牛越 幸子、菅野 由美子、服部 律子、小西 真千子、細川 愛美、原口 梨那、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て支援施設の利用者である親子と関わることにより地域での生活の実際を理解できる。</li> <li>2. 子育て家庭の育児の状況から子育て支援施設の必要性と意義を理解できる。</li> <li>3. 地域における子育て支援施設の現状を理解し、支援の方法が理解できる。</li> <li>4. 地域の子育て支援体制を理解し、看護職との連携や協働を考察できる。</li> <li>5. 乳幼児との関わりを通して、援助することを意識したコミュニケーションをとることができる。</li> <li>6. 乳幼児の生活を知ることにより、成長・発達を理解できる。</li> <li>7. 園での過ごし方を通して、健康な乳幼児の生活について理解できる。</li> <li>8. 乳幼児の健康な生活のために必要な支援について考察できる。</li> <li>9. 援助者としての態度、学習姿勢が習得できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>既習の生活援助についての知識や技術を地域で生活する子どもや養育者への看護実践に適用し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を学ぶ。</p> <p>具体的には、地域にある施設において実習を行い、乳幼児とのコミュニケーションを体験し、発達段階における成長・発達、健康な生活のあり方を理解し、その支援について学ぶ。</p> <p>また、地域で子育てしている養育者の状況を理解し、子育て支援施設の必要性と意義を学ぶ。</p> <p>施設において対象者への支援を見学し、援助者としての態度を養う。</p> <p>乳幼児への支援および子育て支援の経験がある教員が、その経験を活かして、実習目標が達成できるよう実習指導を行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>実習施設の概要やその地域の特性を調べておくこと。</p> <p>効果的な学習が深まるよう事前課題を各自学習しておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>事前にオリエンテーションを受けて、実習の進め方、留意事項など理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場は神戸市内の保育所・幼稚園および子育て支援施設とする。</li> <li>2. 臨地でオリエンテーションを受け、各施設の設備や環境について理解する。</li> <li>3. 乳幼児の生活を見学し、それぞれの年齢に沿った成長発達について理解する。</li> <li>4. 乳幼児に対する支援者の活動を理解する。</li> <li>5. 子育て支援施設で実施されている支援の様子を見学する。</li> <li>6. 対象者と援助的コミュニケーションを図る。</li> <li>7. 各施設で行われている活動について指導を受けながら参加する。</li> <li>8. 実習での学びを振り返り、深めるためにカンファレンスを行う。</li> <li>9. 看護職としての援助的態度を探索する。</li> <li>10. 全体カンファレンスを行い、学びを共有し学びを深める。(5日目)</li> <li>11. 実習目標の達成度を確認、今後の学習の課題を明らかにする。(5日目)</li> </ol>			

科目名	成育看護実習 I	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	内 正子、牛越 幸子、菅野 由美子、服部 律子、小西 真千子、細川 愛美、原口 梨那、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]  実習達成度(70%)、課題レポート(20%)、実習態度(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  実習達成度については、面談を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  実習要領 著者名:成育看護領域 出版社:小野高速印刷</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  適宜配布</p>			

科目名	成育看護実習Ⅱ(小児)	前期～後期	2 単位
サブタイトル		実習	
担当者	内 正子、菅野 由美子、原口 梨那		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.子どもを全人的に理解することができる。</li> <li>2.健康逸脱や療養生活が子どもとその家族におよぼす影響を理解することができる。</li> <li>3.子どもが体験している療養生活について理解し、援助できる。</li> <li>4.子どもとその家族に対して看護過程を展開することができる。</li> <li>5.小児医療の中での看護師の役割が理解できる。</li> <li>6.子どもやその家族と援助的人間関係を築くことができる。</li> <li>7.看護職として倫理的に判断・行動するための基本的能力を習得することができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>小児看護に関する既習の知識・技術を用いて、看護の理論と実践を結び付けて理解できる能力を養う。看護実践の場で、様々な成長発達段階にある子どもの理解、様々な健康状態にある子どもへの看護を学ぶ。</p> <p>具体的には、子どもが入院している施設で2週間の実習を行い、原則1人の子どもを受け持つ。そして、医療施設で療養する子どもを身体的、心理的、社会的側面から全人的に理解する。子どもとその家族との援助的人間関係を築き、関わりを通して、必要な看護を判断し、安全かつ安心できる看護実践能力の基礎を習得する。</p> <p>また、子どもと家族がよりよい療養生活を送るための、社会資源や多職種連携のあり方について学び、それらを通して看護師の役割について理解する。小児看護の経験がある教員が、その経験を活かして、到達目標を達成できるよう実習指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>実習先の医療施設の概要について調べておくこと。 実習に必要な知識、技術の復習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>事前にオリエンテーションを受けて、実習の進め方、留意事項など理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.実習の場は子どもが入院している施設とする。</li> <li>2.病棟の管理者からオリエンテーションを受け、子どもが療養する場としての施設の環境について理解する。(1日目)</li> <li>3.原則として1人の子どもを受け持つ。</li> <li>4.受け持ちとの援助関係を築き、それを発展させる。(1～9日目)</li> <li>5.受け持ちを通して、看護過程を展開する。       <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとその家族から情報を収集し、アセスメントを行う。(1～9日目)</li> <li>・看護目標、看護計画を立案し、看護実践を行う。(2～9日目)</li> <li>・子どもや家族の反応をとらえて、評価を行う。(2～9日目)</li> <li>・実習内容の記録を行う。(1～9日目)</li> </ul> </li> <li>6.チームの一員としての報告・連絡・相談をする。(1～9日目)</li> <li>7.受け持ち以外でも、子どもの看護について、可能な限り見学や、体験をし、看護師の役割を理解する。(6～9日目)</li> <li>8.看護師が多職種と協働している場面に参加する。(6～9日目)</li> <li>9.実習期間中、1日は外来での実習を行い、継続看護、在宅支援などを理解する。</li> <li>10.日々の学びを共有するとともに、次の日の課題とそれを解決するための方策をグループで話し合う。(1～8日目)</li> <li>11.学びの共有と実践の振り返りのため、全体カンファレンスを行う。(10日目)</li> <li>12.実習目標の達成度を確認、今後の学習の課題を明らかにする。(10日目)</li> </ol>			

科目名	成育看護実習Ⅱ(小児)	前期～後期	2 単位
サブタイトル		実習	
担当者	内 正子、菅野 由美子、原口 梨那		
<p>[ 成績評価方法 ]  実習到達度(70%)、レポート(20%)、実習態度(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  実習達成度に関して、面談を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探索していく。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していく。  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:実習目標の達成度、実習レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  実習要項 小児看護関連の既習科目の教科書 著者名:小児看護分野 出版社:小野高速印刷</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  適宜配布</p>			

P11201620 [ NNB3-023 ]

[3看]\*前期又は後期集中

科目名	成育看護実習Ⅱ(母性)	前期～後期	2単位
サブタイトル		実習	
担当者	服部 律子、牛越 幸子、小西 真千子、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期における母子とその家族の特徴を理解する。</li> <li>2. 対象者の個性性を考慮した計画立案の必要性を理解する。</li> <li>3. 看護計画に基づいた看護の実践を理解する。</li> <li>4. 学修者としての自覚と責任感を習得できる。</li> <li>5. これらの目標を通して周産期における対象者の特徴と看護について考察できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>周産期における母子とその家族を対象とし、身体・心理・社会的側面から対象者の特徴を理解する。対象者との関わりを通して、セルフケアの維持・向上に向けた健康ニーズを考え、対象者にとって必要な看護を学ぶ。また、既習の知識や技能、および倫理的態度などを統合し、より良い看護を提供するための基礎的な能力を養う。さらに、この実習を通して周産期における対象者の特徴と看護について考察する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>疾病と治療Ⅴ、Ⅵ(周産期学、新生児)、母性看護論、成育看護技術演習Ⅰ、成育看護技術演習Ⅱ、女性の健康増進と看護について復習し、十分理解した上で実習に臨むこと。母性看護技術は自主的練習を行うこと</p> <p>[授業計画]</p> <p>実習施設により臨地実習、もしくは学内実習、遠隔実習を組み合わせ、以下の通り2週間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産科病棟、もしくは事例を用い産後の母子を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2. 妊婦体験、出産経験者の体験を聞き、妊娠期における心身の経過や適応、出産準備、退院後の子育て期における心身の経過や適応、授乳や育児の実際について理解する。</li> <li>3. 妊産婦、褥婦への保健指導、育児支援活動を資料・映像から学ぶ。</li> <li>4. 日々のカンファレンスでは、その日の実習を通して得た学びを学生間で共有する。加えて、テーマを決めて討議することにより、疑問や困難の解決や自己の学びの明確化を図り、実習課題の達成に向けた学習を行う。</li> </ol>			

科目名	成育看護実習Ⅱ(母性)	前期～後期	2 単位
サブタイトル		実習	
担当者	服部 律子、牛越 幸子、小西 真千子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ] 実習への取り組み(20%)、実習記録(60%)、課題レポート(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 日々、実習記録は教員から口頭での助言や実習記録へのコメントを通してフィードバックを行う。実習最終日に担当教員と面談し、実習全体を振り返り、フィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探索していく。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していく。 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習への取り組み、実習記録、課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜、提示する</p>			

P11201630 [ NNB3-024 ]

[3看]\*前期又は後期集中

科目名	生活援助論	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西原 詩子、坂口 めぐみ、吉原 文子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. 看護技術の特徴と適切な援助を実施するための留意点を理解できる。
2. 日常生活援助における看護の役割について述べることができる。
3. 看護の基本技術と生活援助技術に関する原理・原則を理解できる。
4. 対象の基本的ニーズの充足を目的として、看護の基本技術と生活援助技術を、根拠に基づいて実践できる。
5. 演習での看護師・患者体験を通して、看護専門職として援助技術を行う上での基本的な態度を身に付けることができる。

[授業概要]

対象の基本的ニーズを充足する日常生活援助として、清潔の保持、排泄の援助、安楽を促進する援助のための知識と技術を学ぶ。看護専門職としての基本的な態度とともに、根拠に基づいた実践方法を修得する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

必要な知識や手順を理解し、技術実施のイメージがもてる状態となるまで、各回予習復習を合わせて2時間程度事前学習を行う。技術自主練習の時間を設けるので計画的に参加すること。

[授業計画]

1. コースオリエンテーション、生活援助技術とは、清潔を保つための生活援助技術  
F310 (西原詩子)(10月16日)3限
  2. 排泄に対する生活援助技術、安楽を促進する生活援助技術  
F310 (西原詩子・吉原文子)(10月16日)4限
  3. 足浴・口腔ケア:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(10月23日)3限
  4. 足浴・口腔ケア:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(10月23日)4限
  5. 洗髪・寝衣交換:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(10月30日)3限
  6. 洗髪・寝衣交換:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(10月30日)4限
  7. 洗髪・寝衣交換:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(11月6日)3限
  8. 洗髪・寝衣交換:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(11月6日)4限
  9. 清拭・陰部洗浄・床上排泄:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(11月13日)3限
  10. 清拭・陰部洗浄・床上排泄:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(11月13日)4限
  11. 清拭・陰部洗浄・床上排泄:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(11月20日)3限
  12. 清拭・陰部洗浄・床上排泄:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ、黒住智子、遠山沙織)(11月20日)4限
  13. 電法:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自、患者・看護師役となり、技術を実施する。  
「患者にとって、安全安楽な看護技術とは」を考える。  
F417・419・310(西原詩子、吉原文子、坂口めぐみ)11月27日3限
- \*筆記試験 F310 12月4日3限  
\*技術確認 F417・419 12月11日3・4限、12月18日3・4限



科目名	生活援助論	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西原 詩子、坂口 めぐみ、吉原 文子		

[ 成績評価方法 ]

- ①授業への取り組み(援助計画書の作成・演習中の技術チェック:40%、最終課題:10%)  
 \*身だしなみが整っているかどうかを授業への取り組みの評価に含む。  
 ②試験 12/4(40%)  
 \*試験は60点以下で再試験とする  
 ③技術確認 12/11・12/18(清拭:10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

課題は確認し、後日返却する。  
 筆記試験結果については、後日講評する。  
 技術確認の結果はその場で講評する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  
 成績評価方法:試験、演習、グループワーク等での発言内容や取り組み態度

学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  
 成績評価方法:試験、演習、グループワーク等での発言内容や取り組み態度

学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  
 成績評価方法:試験、演習、グループワーク等での発言内容や取り組み態度

学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。  
 成績評価方法:試験、演習、グループワーク等での発言内容や取り組み態度

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:試験、演習、グループワーク等での発言内容や取り組み態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:試験、演習、グループワーク等での発言内容や取り組み態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:試験、演習、グループワーク等での発言内容や取り組み態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:試験、演習、グループワーク等での発言内容や取り組み態度

[ 教科書(ISBN) ]

- 「<<系統看護学講座 専門分野 I >>基礎看護学[2] 基礎看護技術 I」(第16版)(デジタル) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (ISBN:978-4-260-01999-6)  
 「<<系統看護学講座 専門分野 I >>基礎看護学[3] 基礎看護技術 II」(第17版)(デジタル) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1)  
 「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32511-9)  
 「看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32459-4)  
 「フィジカルアセスメントがみえる」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32566-9)

[ 参考書(ISBN) ]

- 「新版 生活健康科学」 著者名:小田切陽一・飯島純夫・小山勝弘・石原逸子共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3 )  
 看護覚え書—看護であること 看護でないこと— フローレンス・ナイチンゲール 著者名:薄井担子・小玉香津子訳 出版社:現代社 (978-4-87474-142-9)  
 看護の基本となるもの 著者名:ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1996-6)  
 適宜指示、および適宜プリントを配布する。

科目名	生活概論	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	東 ますみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1. 看護の対象である人間を、豊かな感情を持ち、相互関係の中で育まれ、社会生活を営む生活者として捉えることができる。</p> <p>2. 生活を構成するさまざまな要素と健康の関係について述べるができる。</p> <p>3. 健康レベルの低下した生活者に対する看護援助について理解することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。  看護の対象となる人間を生活者の視点で捉え、生活の概念規定や生活と健康との関係について学び、健康レベルの低下した生活者に対する看護援助の必要性を理解する。また、自己の生活体験を見つめ、身近な人と比較することで日常生活行動の個別性を知り、生活者に対する理解を深める。さらに、生活者を個人・家族・集団・地域の視点で捉え、健康増進や改善を目指す教育方法について理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分自身の日常生活を振り返るとともに、家族や友人の日常生活と比較して、問題点や改善点を見つけておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. 世界保健機関(WHO)の健康の定義を理解したうえで、日常生活が健康に及ぼす影響について、自身や身近な人の体験から考察する。(4月12日(金)4限)</p> <p>2. 人々を取り巻く生活環境(公共交通機関、上下水道、買物、働く場所等)、生活(食、運動)の観点から健康の関わりを学び、健康を支えるという基本を理解する。(4月19日(金)4限)</p> <p>3. 住環境や療養環境が健康に及ぼす影響について、参加観察の手法を用いて考察する。(4月26日(金)4限)</p> <p>4. 「働くこと」が健康を支えることであり、また「働くこと」で不健康になることの意味について深く学ぶ。(5月10日(金)4限)</p> <p>5. 看護職は対象者を生活の側面から支援する専門家であることを理解し、生活及び生活者の概念について学ぶ。(5月17日(金)4限)</p> <p>6. 教科書「看護の基本となるもの」をもとに、人の基本的欲求について学ぶ。(5月24日(金)4限)</p> <p>7. 社会システムの中で、個人・家族・集団・地域の健康増進や改善のための具体的な方法について学ぶ。(5月31日(金)4限)</p> <p>8. 試験</p> <p>教室 F310</p>			

科目名	生活概論	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	東 ますみ		

[ 成績評価方法 ]

試験(80%)、事前学習レポートを含む授業中の課題(20%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

試験後に解答の解説を行う。事前レポートは、次の授業で解説を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  
成績評価方法:試験、事前学習レポート、グループワークでの発言内容や取り組み態度

学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  
成績評価方法:試験、事前学習レポート、グループワークでの発言内容や取り組み態度

学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  
成績評価方法:試験、事前学習レポート、グループワークでの発言内容や取り組み態度

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:試験、事前学習レポート、グループワークでの発言内容や取り組み態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:試験、事前学習レポート、グループワークでの発言内容や取り組み態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:試験、事前学習レポート、グループワークでの発言内容や取り組み態度

[ 教科書(ISBN) ]

「新版 生活健康科学 第2版」著者名:小田切陽一 編 出版社:三共出版(978-4-7827-0811-8)

「国民衛生の動向 2023/2024年版」(デジタル) 出版社:一般財団法人厚生労働省統計協会

「看護の基本となるもの」著者名:ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳、出版社:日本看護協会出版会(978-4-8180-1996-6)

適宜プリントを配布する。

[ 参考書(ISBN) ]

必要に応じて適宜紹介する。

科目名	生活と身体	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中岡 亜希子、玉木 敦子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、笹谷 真由美、西原 詩子、大久保 和実、小枝 美由紀、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  人間が生命体として生きるための身体の働きについて、内部環境と外部環境の視点から理解する。その上で、ひとが生活を営む中で、食べ、排泄し、活動・休息し、コミュニケーションをとるなど、人間らしく生きていくことを支える身体の仕組みと働きに対する理解を深め、看護援助につなげる視点を養う。</p> <p>[ 授業概要 ]  看護の対象となる人間が生活を営むなかで、身体はどのように動き、働いているのかについて、人体としくみの機能と生活概論など既習の知識を活用しながら学ぶ。食事や排泄、活動と休息などの日常生活行動について、解剖学・生理学の知識に基づき身体の働きという観点から理解を深める。また、日常生活を営むための身体の働きに影響を及ぼす様々な要因を知る。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、看護学概論、生活概論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、生活援助論などの関連科目の復習と予習を行い、これらの科目の学習内容と関連付けて授業に取り組めるよう準備する。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.生命を維持する1:環境の変化の中で生きるための身体の働き(呼吸、循環、体液)(中岡 亜希子)(9月27日金曜日)2限目  2.生命を維持する2:バイタルサインでとらえる恒常性の維持(中岡 亜希子)(10月4日金曜日)2限  3.清潔を維持する:生活を営む中で清潔を維持するための身体の働き(西原 詩子)(10月11日金曜日)2限  4.身だしなみを整える(更衣と整容):体温調節と身だしなみを整えるために必要な身体の働き(西原 詩子)(10月18日金曜日)2限  5.食べる(食物摂取)1:食事をするための身体の働き(脳の働き、食べる行動に必要な運動機能と咀嚼・嚥下)(大久保 和実)(10月25日金曜日)2限  6.食べる(消化・吸収と身体機能)2:取り込んだ食物を生活に活かすための身体の働き(消化・分解・吸収)(服部 律子)(11月1日金曜日)2限  7.排泄する:排泄(排尿・排便)行動を可能にする脳神経系と泌尿器・消化器の働き(西原 詩子)(11月15日金曜日)2限  8.休息する:人が健康な生活を営むための睡眠の機能と役割(睡眠の種類、サーカディアンリズム、睡眠時の生体変化、睡眠環境)(菅野 由美子)(11月29日金曜日)2限  9.姿勢の保持と移動:生活行動に伴う姿勢の変化と保持、移動動作に必要な運動器の働き、姿勢の違いや歩行による呼吸・循環・体温の変化(笹谷 真由美)(12月2日月曜日)3限  10.日常生活を調整する:生活の中での食事・運動・休息の関係、バランスが崩れることによる身体への影響(小枝 美由紀)(12月6日金曜日)2限  11.ストレスに対処する:ストレスによる身体の反応と免疫への影響(高橋 秋絵)(12月13日金曜日)2限  12.その人らしく生活する:その人らしく生活することを支える脳のはたらき(感情、記憶、思考、意欲など)(玉木 敦子)(12月20日金曜日)2限  13.コミュニケーションをとる:コミュニケーションに必要な身体の働き(感覚器、脳、発声、構音、ジェスチャー)(横内 光子)(1月10日金曜日)2限</p>			

P11200890 [ NNB1-001 ]

[1看]\*後期金2

科目名	生活と身体	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中岡 亜希子、玉木 敦子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、笹谷 真由美、西原 詩子、大久保 和実、小枝 美由紀、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ] 各回で課せられる課題(事前課題、小テスト、事後課題など)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内やmanabaを利用してフィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:事前課題、小テスト、事後課題など</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:事前課題、小テスト、事後課題など</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:事前課題、小テスト、事後課題など</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:事前課題、小テスト、事後課題など</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:事前課題、小テスト、事後課題など</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 看護形態機能学第4版:生活行動からみるからだ(デジタル) 著者名:菱沼典子 出版社:日本看護協会出版会(978-4818020610 )</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業内でお伝えします。</p>			

科目名	精神看護支援技術演習		後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	高橋 秋絵			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他	ロールプレイ		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科領域における治療的アプローチと看護の役割について説明できる。</li> <li>2. さまざまな精神障がいのある病態、症状、治療などが生活や対人関係に及ぼす影響と、精神障がいをもつ人の体験について説明できる。</li> <li>3. 精神健康状態のアセスメント技術を身につけることができる。</li> <li>4. 精神障がいをもつ人への看護実践について、セルフケアモデルに沿ったアセスメントと看護援助方法を身につけることができる。</li> <li>5. ロールプレイやプロセスレコードを用いて、他者理解、自己洞察、相互作用の理解を深めながら、人間関係を構築するための態度とコミュニケーション技術を習得する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>さまざまな精神障がいのある病態、症状、治療などが生活や対人関係に及ぼす影響と、精神障がいをもつ人の体験を理解する。また精神障がいをもつ人への看護実践について、精神健康状態のアセスメント技術、セルフケアモデルに沿ったアセスメントと看護援助方法を学ぶ。さらにロールプレイやプロセスレコードを用いて、他者理解、自己洞察、相互作用の理解を深めながら、人間関係を構築するための態度とコミュニケーション技術を習得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の演習についての予習・復習を2時間程度行うこと。 前期授業終了時まで、ワークシート課題を提示する。また各ワークシート内に提出期限を示してあるので期限までに取り組むこと。 また、精神障がいをもつ人の体験について、手記やドキュメンタリー・映画を積極的に視聴し理解に努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神状態をアセスメントする方法を学ぶ(高橋秋絵)(9月25日水曜日)3限</li> <li>2. 精神科領域における治療的アプローチと看護援助を概観する(高橋秋絵)学外特別講師(9月25日水曜日)4限</li> <li>3. 急性期・慢性期の統合失調症患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(高橋秋絵)(10月2日水曜日)3限</li> <li>4. 患者-看護師関係と治療的コミュニケーションについて、ロールプレイを通して体験的に学ぶ(高橋秋絵)(10月2日水曜日)4限</li> <li>5. プロセスレコードを用いたコミュニケーション演習を行い、治療的コミュニケーションについて学ぶ(高橋秋絵)(10月9日水曜日)3限</li> <li>6. 気分症をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(高橋秋絵)(10月9日水曜日)4限</li> <li>7. 不安症をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(高橋秋絵)(10月10日木曜日)5限</li> <li>8. 神経発達症をもつ患者について、障害特性が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(高橋秋絵)(10月16日水曜日)3限</li> <li>9. パーソナリティ症をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(高橋秋絵)(10月16日水曜日)4限</li> <li>10. 依存症をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ(高橋秋絵)(10月17日木曜日)5限</li> <li>11. 試験(10月23日水曜日)3限</li> <li>12. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う(①患者情報をセルフケアモデルに基づいて整理する)(高橋秋絵)(10月23日水曜日)4限</li> <li>13. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う(②セルフケアモデルに基づいたアセスメントを行う)(高橋秋絵)(10月30日水曜日)5限</li> <li>14. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う(③アセスメントに基づいて看護援助を考察する)(高橋秋絵)(10月31日木曜日)5限</li> </ol>				

科目名	精神看護支援技術演習	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	高橋 秋絵		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(80%)、レポート(10%)、授業への取り組み(10%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験やレポートの学生へのフィードバックは、採点后に全体的なコメントを示すことにより行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身につけている。 成績評価方法:試験、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身につけている。 成績評価方法:試験、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身につけている。 成績評価方法:試験、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身につけている。 成績評価方法:試験、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身につけている。 成績評価方法:試験、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート、授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート、授業への取り組み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート、授業への取り組み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 精神看護学Ⅰ－精神保健－[第6版] 著者名:吉松 和哉 小泉 典章 川野 雅資 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-064-0) 精神看護学Ⅱ－精神臨床看護学－[第6版] 著者名:川野 雅資 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-065-7)</p>			

科目名	精神看護論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	玉木 敦子、高橋 秋絵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.精神看護学の定義、目標について説明できる。</li> <li>2.精神看護学の基盤となる理論や知識(心に関する諸理論、対人関係理論、セルフケア理論、リカバリーモデルなど)、倫理的態度について説明できる。</li> <li>3.精神医療保健福祉に関する法制度、現状と課題について述べる事ができる。</li> <li>4.精神医療保健福祉におけるチームアプローチと他職種との連携、看護の役割について述べる事ができる。</li> <li>5.精神科病院、地域精神保健、リエゾン精神看護などさまざまな場における精神看護の役割と機能について述べる事ができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>精神看護学の定義と目標、精神看護実践の基盤となる理論や知識、倫理的態度について学ぶ。また精神医療保健福祉に関する法制度、精神医療におけるチームアプローチと他職種との連携について学ぶ。さらに精神障がい者と家族を取り巻く現状、サポートシステムを学び、課題を検討する。精神科病院、地域精神保健、リエゾン精神看護などさまざまな場における精神看護の役割と機能について考察を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の授業について予習・復習を4時間程度行うこと。自分自身や家族の心の健康、また精神状態と生活との関連に関心を持って授業内容の理解に努めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.精神看護学の定義と目標を学び、精神看護に必要とされる知識と技術を概観する(玉木敦子)(4月12日金曜日)2限</li> <li>2.精神力動論に基づいてこころの働きを心理学的側面から理解する(玉木敦子)(4月15日月曜日)4限</li> <li>3.視覚教材を用いて、脳科学的視点からこころの働きを理解する(玉木敦子)(4月22日月曜日)4限</li> <li>4.患者-看護師関係と治療的コミュニケーションに関する理論を理解し、それに基づいた精神看護の実践を学ぶ(玉木敦子)(5月10日金曜日)2限</li> <li>5.セルフケア理論を理解し、それに基づいた精神看護の実践を学ぶ(玉木敦子)(5月17日金曜日)2限</li> <li>6.リカバリーモデルを理解し、それに基づいた精神看護の実践を学ぶ(玉木敦子)(5月24日金曜日)2限</li> <li>7.精神医療保健福祉に携わる多職種の役割やチームアプローチについて学ぶ(高橋秋絵)(5月31日金曜日)2限</li> <li>8.ウイメンズ・メンタルヘルスについて学ぶ(玉木敦子)(6月7日金曜日)2限</li> <li>9.精神障害のある児童・思春期の患者への看護について学ぶ(玉木敦子)(6月14日金曜日)2限</li> <li>10.身体疾患をもつ人のメンタルヘルスについて学ぶ(玉木敦子)(6月21日金曜日)2限</li> <li>11.精神医療保健福祉の国内外の現状を概観し、課題と看護の役割について検討する(玉木敦子)(6月28日金曜日)2限</li> <li>12.精神看護におけるリスクマネジメントと人権擁護について学ぶ(玉木敦子)(7月5日金曜日)2限</li> <li>13.精神障がいをもつ患者の看護援助の実際について、当事者の体験から理解する(高橋秋絵)学外特別講師(7月12日金曜日)2限</li> <li>14.試験(7月19日金曜日)2限</li> </ol>			

P11201440 [ NNB2-014 ]

[2看]\*前期金2&一部月4



科目名	精神看護論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	玉木 敦子、高橋 秋絵		
<p>[ 成績評価方法 ]  テスト(80%) : 小テスト15%、期末テスト65%  レポート(20%)  * 20分以上の遅刻は欠席として取り扱う</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  * レポートや試験の学生へのフィードバックは、採点后に全体的なコメントを示すことによる。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:テスト、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:テスト、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:テスト、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:テスト、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:テスト、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。  成績評価方法:テスト、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していく。  成績評価方法:テスト、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していく。  成績評価方法:テスト、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  精神看護学Ⅰ―精神保健学―[第6版]  著者名:吉松 和哉  小泉 典章  川野 雅資 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-064-0)  精神看護学Ⅱ―精神臨床看護学―[第6版]  著者名:川野 雅資 編集 出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-065-7)  精神看護学第3版―学生-患者のストーリーで綴る実習展開 著者名:田中美恵子 編著 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-71070-8)  僕らのことばをばけつとに 著者名:こころの絵本プロジェクト実行委員会 特定非営利法人すまみらい</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

P11201440 [ NNB2-014 ]

[2看]\*前期金2&一部月4

科目名	生命倫理	後期	2 単位
サブタイトル	生命の本質を人間学的な医療の観点から問い直す	講義	
担当者	丸橋 裕		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

生と死の諸問題について対話を通じて考える姿勢を身につける

[ 授業概要 ]

ここで私たちが問題とするのは、生まれ、老い、病み、死にゆく生命、自然的・社会的関係の中でより善く生きようとする生命の充実です。このとき不可欠の前提となる対話的思惟の哲学的な基礎を、まずは科学や宗教との関連において学びます。そして、「生命」の本質に関する多様な考え方を、西洋・東洋の倫理思想の流れのなかで概観します。その上で、現代の医療実践の現場において日々生じてくる生命倫理の諸問題、とりわけ「誕生」と「死」に関わる具体的な諸問題について対話を通じて考えます。最終的には、病む人の現象学的な現実可能なかぎりより添いながら、「生命」そのものの本質を人間学的な医療の観点から問い直すことを試みます。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

プレゼンテーションの準備やミニ・レポートの課題を果たすためだけでなく、次回の講義やグループ対話・討論のテーマについて自分自身の考えをまとめておくためにも、参考資料や参考文献を読むことに必要かつ十分な時間(4時間程度)をかけること。

[ 授業計画 ]

序章 なぜいま「生命倫理」が問題となるのか (第1回10月3日)

- 1 「病む人」の抑圧と現代
- 2 「生命」に関する「倫理」の誕生と現実
- 3 医療倫理・臨床倫理・研究倫理

第Ⅰ部 「生命」をめぐる対話的思惟の哲学的な基礎 (第2回10月10日)

- 1 哲学とは何か
- 2 科学と哲学
- 3 宗教と哲学

第Ⅱ部 「生命」の本質に関する多様な考え方 (第3回10月17日)

- 1 西洋の死生観——古代ギリシアとキリスト教
- 2 東洋の死生観——インドと中国
- 3 近・現代の自然科学的医学における生と死の捉え方

第Ⅲ部 現代の医療実践の現場において日々生じてくる「生命倫理」の諸問題

- A 患者の権利とインフォームド・コンセント (第4回10月24日)
- B 周産期医療と生命倫理 (第5回10月31日)
- C 人工妊娠中絶——「生命の尊厳」と「女性の自己決定権」(第6回11月7日)
- D 生殖補助技術——AIDと代理出産 (第7回11月14日)
- E 妊娠葛藤相談——出生前検査、選別出産、ベビーボックス (第8回11月21日)
- F 死とは何か——脳死と臓器移植 (第9回11月28日)
- G 善き死は可能か——安楽死と尊厳死 (第10回12月5日)
- H 生と死のケア——ターミナルケアと死の臨床 (第11回12月12日)

終章 「生命」そのものの本質を人間学的な医療の観点から問い直す

- 医学的人間学と人間学的医療への道
- A 方法的な姿勢の二元論——存在的とパトスの (第12回12月19日)
- B 生活史法——窮境の理解 (第13回1月9日)

科目名	生命倫理	後期	2 単位
サブタイトル	生命の本質を人間学的な医療の観点から問い直す	講義	
担当者	丸橋 裕		

[ 成績評価方法 ]

プレゼンテーション(20%)、グループ対話における意見の発表(20%)、ミニ・レポート(30%)と、最終レポート・試験(30%)によって総合評価します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

毎回のミニ・レポート(アンケートへの回答)には講義内でコメントし、その内容についての履修者どうしの対話・討論を深めたい。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を實踐することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。

成績評価方法:プレゼンテーションやレポートにより総合評価する。

学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。

成績評価方法:プレゼンテーションやレポートにより総合評価する。

学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。

成績評価方法:プレゼンテーションやレポートにより総合評価する。

学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。

成績評価方法:プレゼンテーションやレポートにより総合評価する。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:プレゼンテーションやレポートにより総合評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:プレゼンテーションやレポートにより総合評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:プレゼンテーションやレポートにより総合評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:プレゼンテーションやレポートにより総合評価する。

[ 教科書(ISBN) ]

『生命倫理への招待』改訂6版 著者名:塩野寛・清水恵子 出版社:南山堂 (9.78E+12)

[ 参考書(ISBN) ]

『周産期医療と生命倫理入門』著者名:窪田昭男・齋藤滋・和田和子 出版社:メディカ出版 (9.98E+13)

科目名	総合実習(地域・在宅)	前期	4 単位
サブタイトル		実習	
担当者	小坂 素子、藤原 由子、東 ますみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、中間 亜希子、西原 詩子、関尾 裕子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 憲司、大久保 和実、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>対象者を全人的に理解し、健康課題と生活との関連性を考えることができる</li> <li>対象の特性に応じた計画的な看護を実践しながら、地域・在宅における看護の継続性を考えることができる</li> <li>対象者の生活背景に応じた援助、社会資源の活用、多職種や多施設との連携・調整を学ぶことができる</li> <li>実習での体験や学びとこれまで学んだ知識や技術を統合し、看護専門職としての役割を考察することで、自己の課題を明らかにすることができる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>地域で生活しているさまざまな健康レベルの対象者を全人的に理解し、その特性に応じた計画的な看護を実践する能力を養うとともに、地域・在宅における看護の継続性を学ぶ。保健医療福祉施設における入退院調整や地域・在宅での看護活動の場面にできるだけ参加し、生活背景に応じた援助、社会資源の活用、多職種や多施設との連携・調整などさまざまな看護活動を学び、担当する対象者への看護に統合していく。また、看護専門職としてさまざまな健康レベルの対象者やその人を取り巻く保健・医療・福祉システムにおける課題を見出し、よりよい看護を実践するための視点と態度を養う。さらに、実習での体験や学びとこれまでに学んだ知識や技術を統合し、看護専門職としての役割を考察することで、自己の課題を明らかにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前に実習する施設の利用者の特徴を調べ、利用者の看護を行うための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原則として、複数の対象者を受持ち、個別的な看護過程を展開する。</li> <li>地域・在宅における看護の継続性を視野に入れながら看護過程を学ぶ。</li> <li>学生は対象者の支援チームや多職種とのコミュニケーションをとり、チームカンファレンスやミーティングに参加できるよう調整する。</li> <li>学生の受け持つケースへのカンファレンスに可能な限り参加し、看護援助の検討、調整について学ぶ。</li> <li>地域・在宅における看護の継続性について理解できるよう、地域連携の場面や専門外来の見学などに可能な限り同席する。</li> <li>患者教育、健康教育、保健指導などの場面に可能な限り参加し、それらの実際や主体的な健康の維持・増進を促すための取り組みについて学ぶ。</li> <li>保健医療施設における退院調整や地域・在宅での看護活動の場面などに可能な限り同行し、地域で人がどのように療養し、どのような援助が必要であるかを学ぶ。</li> </ul>			

科目名	総合実習(地域・在宅)	前期	4 単位
サブタイトル		実習	
担当者	小坂 素子、藤原 由子、東 ますみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、笹谷 真由美、中間 亜希子、西原 詩子、関尾 裕子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 憲司、大久保 和実、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]  実習のねらいに関する到達度(80%)レポート・記録物の提出(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポート・記録物は後日添削したものを開示します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探索していきける。  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していきける。  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:受講態度、実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:実習のねらいに関する到達度、レポート・記録物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  各教員から適宜提示する。実習要項、プリントは別途配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  適宜指導教員が紹介する。</p>			

P11200870 [ NNB3-033 ]

[4看]\*前期集中

科目名	地域看護活動論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小坂 素子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1.地域看護および公衆衛生看護活動における看護の基本と展開方法を理解する。  2.各ライフステージ、発達課題、健康レベル、場の特性に応じた保健活動を理解する。  3.対象別保健活動の法的根拠や制度、関係機関との連携、社会資源の活用について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>わが国における健康課題と地域特性・対象特性との関連を理解すると共に、課題解決にむけた地域看護活動を学ぶ。地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象の特性にあわせて展開されている看護活動を学ぶ。さらにグローバルな視点を持つために、国際・災害看護についても学ぶ。母子保健・成人保健・高齢者保健・精神保健・障害者(児)保健・難病保健・感染症対策・国際看護・健康危機管理(災害看護含む)・産業保健・学校保健・歯科保健におけるヘルスケアシステムや施策、関係法規、社会資源等と保健活動を学ぶ。行政保健師の経験を持つ教員が実際に行っていた保健師活動や行政機関での実務経験を踏まえ、具体的な個別事例や健康事業の事例等も提示しながら、様々な人々を対象とした地域看護活動について具体的に講義を行う。国際保健については海外での保健活動経験のある外部講師から発展途上国における保健活動の体験を踏まえた講義を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。教科書は毎回、次回の授業内容に関係する箇所を読んでおくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習を合わせて4時間程度行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. 地域看護の考え方と位置づけ:各ライフステージにおける発達課題と看護、ライフステージにおける保健・医療・福祉の構造、法律・制度について理解する。(4月10日水曜日3限)</p> <p>2. 母子保健活動①:母子保健における発達課題、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ(主としてポピュレーションアプローチについて学ぶ)。(4月10日水曜日4限)</p> <p>3. 母子保健活動②:支援のニーズが高い親子の健康課題と支援について学ぶ(ハイリスクアプローチについて学ぶ)。(4月17日水曜日3限)</p> <p>4. 成人保健活動:成人保健における発達課題、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ。(4月17日水曜日4限)</p> <p>5. 高齢者保健活動:高齢者保健における発達課題、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ。(4月24日水曜日3限)</p> <p>6. 障害児・者保健活動:障害児・者保健における障害の定義、主要な概念、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ。(4月24日水曜日4限)</p> <p>7. 難病保健活動:難病保健における難病の定義、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ。(5月8日水曜日3限)</p> <p>8. 精神保健活動:精神保健福祉活動における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ。(5月8日水曜日4限)</p> <p>9. 感染症保健活動:感染症保健における社会背景、法律、制度、感染症対策の展開を学ぶ。(5月15日水曜日3限)</p> <p>10. 健康危機管理(災害保健)活動:健康危機管理における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ。(5月15日水曜日4限)</p> <p>11. 産業保健活動:産業保健における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ。(5月22日水曜日3限)</p> <p>12. 学校保健活動:学校保健における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ。(5月22日水曜日4限)</p> <p>13. 国際看護(保健)活動:国際看護(保健)における社会背景、法律、制度、保健活動について学ぶ。(学外特別講師)(5月29日水曜日3限)</p> <p>14. 試験:筆記試験(6月5日水曜日3限)</p> <p>使用教室 F210</p>				

P11201230 [ NNB3-005 ]

[3看]\*前期水3&一部水4

科目名	地域看護活動論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小坂 素子		
<p>[ 成績評価方法 ] 筆記試験(70%)、受講参加状況・課題レポートの記載内容(30%)により行う。 *20分以上の遅刻は欠席として取り扱う</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験は原則として採点后、manabaに解説を掲示する。課題レポートはmanabaに評価等を掲示する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探索していける。 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:筆記試験、小テスト、受講態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 「標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動」第5版 著者名:松田正己 出版社:医学書院 (978-4-260-05303-7) 「国民衛生の動向2021/2022」厚生統計協会</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 随時、紹介</p>			

P11201230 [ NNB3-005 ]

[3看]\*前期水3&一部水4

科目名	地域における助産支援		前期	1 単位
サブタイトル			講義	
担当者	服部 律子、峰 博子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.わが国の地域母子保健の変遷と女性、母子、家族の健康の現状と動向を理解する。</li> <li>2.産後4か月までの母子の健康状態をアセスメントする視点を学ぶ。</li> <li>3.地域で生活する女性、母子および家族の課題や支援の実際について理解する。</li> <li>4.地域で生活する女性、母子および家族を支援する助産師の役割、地域で活動する多職種や組織との連携・協働、関連制度について理解する。</li> <li>5.周産期における家庭訪問や産後健診の目的、意義を理解し、家庭訪問に必要な知識技術などを学ぶ。</li> <li>6.これからの母子保健における助産師の役割と活動について考察できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>地域社会で生活する女性、母親、新生児から4か月程度までの子ども、父親や家族への健康支援に必要な知識や理論、技術を学び、地域における助産師の支援について理解を深める。また、母子保健医療福祉活動における多職種や組織との連携・協働について学び、助産師の役割や活動について理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>社会福祉・社会保障論、社会福祉・社会活動論、母性看護論、女性の健康増進と看護、小児看護論、家族看護論の内容を復習して授業に参加すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国における母子保健医療福祉制度の変遷および現状と課題。生涯を通じた女性の健康支援と助産師の役割。子育て支援における切れ目のない支援を目指した助産師の役割 (4/9 火Ⅲ)(服部)</li> <li>2. 産後4か月までの母子の健康状態の理解と育児支援(4/16 火Ⅲ)(服部) 乳幼児の成長発達と育児支援</li> <li>3. ハイリスク妊産婦と家族への支援の実際、多胎児を生み育てる家族への支援、 低出生体重児の育児支援 (5/7 火Ⅲ)(服部)</li> <li>4. 妊娠期からの母乳育児支援 母乳育児の現状と支援の方法、地域における母乳育児支援の実(5/14 火Ⅲ)(服部)</li> <li>5. 地域助産師の妊産婦と家族への家庭訪問などの実際(5/21 火Ⅲ 谷川裕子 学外特別講師)</li> <li>6. 地域における多職種と連携・協働して行う周産期の母子と家族への健康支援の実際(5/28 火Ⅲ)(峰)</li> <li>7. 先天性の疾病や障がいをもつ児の誕生や周産期の喪失への看護(6/4 火Ⅲ)(服部)</li> <li>8. 試験とまとめ (6/6 木Ⅲ)</li> </ol>				



科目名	地域における助産支援	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	服部 律子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] メールで直接質問してください。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していきける。 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していきける。 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験(60%) 課題レポート(40%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 助産概論(2023年版) 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 著者名:工藤美子 責任編集</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜提示する</p>			

P11201650 [ NNB3-026 ]

[3看]\*前期火3

科目名	治療看護論	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥井 早月、関尾 裕子、渡邊 紀子、高呂 節子、岸野 真由美、小野 聖子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1.看護の対象となる人に関心を持つことができる。  2.看護ヘルスアセスメントの目的と意義がわかる。  3.看護ヘルスアセスメントを計画・実施し、看護の対象となる人の反応をとらえることができる。  4.薬物療法を中心とする治療支援技術(薬物療法や効果判断に関する検査、治療選択における自己決定、病気をとらえていくうえでの情報管理など)を学び、看護の役割について考えることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>「人体のしくみと機能」「疾病と治療」などで学んだ知識を活用し、看護の対象となる人の反応をとらえる方法を学ぶ。具体的には、フィジカルアセスメントや看護ヘルスアセスメントを学生同士で計画・実践したり、薬物療法を中心とする治療支援技術について考えたりすることを通して、人の健康回復を支援するために必要な知識と技術を習得することを目的とする。  本科目は、看護実践の経験を持つ教員が、看護の対象となる人の反応をとらえるアセスメント技術の習得を支援する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>・各回、2時間程度の予習と復習が必要である。事前課題や事後課題の内容については、第1回目に伝える。  ・既習科目の「人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ」「看護学概論」「生活概論」「生活援助論」、また同学期に学ぶ「疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「薬理学」で学んだことを復習し、演習で学ぶこととの関連について考えておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.看護ヘルスアセスメントの目的と意義(4/10・3限・F304/F529)  2.酸素を取り込む機能のアセスメント(4/10・4限・F417/F419/F529)脳が得た情報を元に指令を出して呼吸筋が収縮すると、空気が気管を通って肺へ入る。肺胞で、二酸化炭素と交換で取り込まれた酸素は、血液を介して全身を巡るといった人が酸素をとり込む機能のアセスメントする方法を学ぶ。  3.酸素を取り込む機能のアセスメントする技術の実践(4/17・3限・F417/F419/F529)呼吸状態の観察(視診)と聴診技術を実践する。  4.循環機能のアセスメント(4/17・4限・F417/F419/F529)酸素や栄養など、とり込んだものを循環・流通する機能のアセスメントする技術を学ぶ。  5.循環機能のアセスメントする技術の実践(4/24・3限・F417/F419/F529)血圧測定、動脈を触知する技術、心音を聴診する技術を実践する。  6.栄養を摂り込み、不要なものを排泄する機能のアセスメント(5/29・3限・F417/F419/F529)食べ物を咀嚼して飲み込み、消化・吸収して蓄えるといった、人が生きていく上で欠かせない栄養供給の機能のアセスメントする技術を学ぶ。  7.栄養を摂り込む機能のアセスメントする技術の実践(6/5・3限・F417/F419/F529)腹部の視診、聴診、打診技術を実践する。  8.脳神経機能のアセスメント(6/5・4限・F417/F419/F529)末梢にある感覚器と中枢神経の間で情報がやり取りされ、身体が反応を表現するといった脳神経機能のアセスメントする技術を学ぶ。  9.脳神経機能のアセスメントする技術の実践(6/12・3限・F417/F419/F529)瞳孔の観察、対光反射、表情の観察、MMTの測定、麻痺スクリーニング法を実践する。  10.身体を守る機能のアセスメント(6/12・4限・F417/F419/F529)身体は皮膚によって区別され、身体の内側は維持されている。また皮膚は、外側から侵入する異物から身体を守っている。これらの機能のアセスメントする技術(乳房の視診と触診、リンパ節の触知、皮膚の観察、浮腫の観察)を学ぶ。  11.身体を守る機能のアセスメントする技術の実践(6/19・3限・F417/F419/F529)皮膚を観察する問診技術を学生同士で実践しながら、問診に含むべき要素や問診技術のポイントを学ぶ。さらに、問診で明らかになったことからケアを導き出す過程を学ぶ。  12.生活の質(Quality of Life:QOL)を維持する技術(6/19・4限・F304/F529)薬物を投与することにより、病気の原因を除去したり、症状の緩和を図ったりして対象者のQOLを促進する方法が薬物療法である。薬物療法にかかわる看護師の役割について考察する。  13.生命を維持する技術(Aクラス:6/26・3限・F417/F419、Bクラス:6/26・4限・F417/F419)急に倒れた人に対して、その場に居合わせた人が救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当のことを一次救命処置(Basic Life Support:BLS)という。成人および子どもを対象としたBLSに必要な知識と技術を学ぶ。</p>			

科目名	治療看護論	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥井 早月、関尾 裕子、渡邊 紀子、高呂 節子、岸野 真由美、小野 聖子		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識を問うための小テストや課題レポート(50%)</li> <li>・技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)(50%)</li> </ul> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <p>課題レポートおよび、事前課題や事後課題については、教員が添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:・学習した知識を問うための小テスト ・技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:・課題レポート ・技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:・課題レポート ・技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:・課題レポート ・技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:・課題レポート ・技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:・課題レポート ・技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:・小テスト ・課題レポート ・技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:・小テスト ・技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:技術学習に向かう態度(事前課題や事後課題、演習への参加度)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>日常生活行動からみるヘルスアセスメント -看護形態機能学の枠組みを用いて- 著者名:大久保暢子 出版社:日本看護協会出版会 (978-4818019850) 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4896327816)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p> <p>実践基礎看護学 著者名:中西睦子監修 出版社:建帛社 (978-4818019850)</p>			

P11201420 [ NNB2-013 ]

[2看]\*前期水3&一部水4

科目名	治療療養支援技術演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、関尾 裕子、渡邊 紀子、高呂 節子、岸野 真由美、小野 聖子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1.看護技術の対象となる人の身体機能や生活に合わせた看護技術の展開を、考えることができる。  2.演習で学んだ看護技術を、練習用モデル人形に正確に実施することができる。  3.看護技術の根拠を追求する姿勢や、仲間と協力して学ぶ態度を身につけることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本科目では、医療機関で治療を受ける人の健康回復に必要な看護技術(静脈内注射、筋肉注射、酸素療法、吸入と気管内吸引、導尿)と、健康状態をモニタリングするために必要な看護技術(静脈採血、心電図)の習得を目指す。  看護実践の経験を持つ教員が、看護技術の対象となる人の身体機能や生活に合わせた看護技術の展開方法や、看護技術の根拠を追求する姿勢・態度について教授する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各回、予習と復習をあわせて2時間程度。事前課題の内容については、事前にmanabaで伝える。</li> <li>既習科目のなかでも特に、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、看護学概論、疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学を復習しておくこと。</li> </ul> <p>[授業計画]</p> <p>1.静脈採血に関する知識(Aクラス:4/10・1限・F419)(Bクラス:4/10・2限・F419)医療機関で静脈採血が必要とされる状況を知り、静脈採血を安全に行うために必要な知識を学ぶ。また採血や注射に使用する道具の選び方、針を穿刺する部位や刺入角度など静脈採血技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。  2.静脈内注射(Aクラス:4/10・2限・F205)(Bクラス:4/10・1限・F205)静脈内に薬物を安全に注入するために必要な知識を学ぶ。バイアルからの薬液の吸い上げ、滅菌操作、翼状針の固定方法と薬液を注入する速度や主な合併症など、静脈内注射技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。  3.静脈採血と静脈内注射技術の練習(Aクラス:4/17・1限・F417/F419)(Bクラス:4/17・2限・F417/F419)  4.筋肉注射(Aクラス:4/17・2限・F205)(Bクラス:4/17・1限・F205)筋肉内に薬物を安全に注入するために必要な知識を学ぶ。アンプルからの薬液の吸い上げ、滅菌操作、針を穿刺する部位と刺入角度、筋肉内に薬液を注入する速度や主な合併症など筋肉注射技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。  5.導尿・膀胱留置カテーテル法(Aクラス:4/24・1限・F417)(Bクラス:4/24・2限・F417)導尿が必要になる患者の状態を理解し、合併症を予防するなど安全に導尿を行うための知識を学ぶ。滅菌操作、患者の羞恥心や苦痛への配慮など導尿技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。  6.酸素療法(Aクラス:4/24・2限・F419)(Bクラス:4/24・1限・F419)酸素吸入療法が必要になる患者の状態を理解し、酸素吸入療法を効果的に行うための知識と技術のポイントを学ぶ。酸素吸入療法に使用される道具や、酸素ボンベの扱い方についても学ぶ。  7.気管内吸引と吸入(Aクラス:5/15・1限・F417/F419)(Bクラス:5/15・2限・F417/F419)人工気道があるなど、呼吸機能が低下した患者を対象とした気管内吸引の技術、吸入技術に必要な知識とポイントを学ぶ。  8.心電図(Aクラス:5/22・2限・F417)(Bクラス:5/22・1限・F417)心電図を記録する目的を知り、心電図を記録する方法と心電図の読み方を学ぶ。  9.技術練習(技術グループごとに5/29・1限または2限・F417/F419)これまで学習した技術を練習用モデル人形に実践し、繰り返し練習する。  10.技術チェック①(6/5・1限・F210/F421/F417/F419)静脈採血、静脈内注射の技術を練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。  11.技術チェック②(6/5・2限・F210/F421/F417/F419)筋肉注射、酸素療法の技術を練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。  12.技術チェック③(6/12・1限・F210/F421/F417/F419)気管内吸引、心電図の技術を練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。  13.技術チェック④(6/12・2限・F210/F421/F417/F419)導尿の技術を練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。</p> <p>*筆記試験(6/19・1限・F210)  *技術チェック①②③④が不合格の学生は、最終技術チェック(6/19・2限・F419)を必ず受けること。</p>			

P11201430 [ NNB3-016 ]

[3看]\*前期水1&一部水2

科目名	治療療養支援技術演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、関尾 裕子、渡邊 紀子、高呂 節子、岸野 真由美、小野 聖子		
<p>[ 成績評価方法 ]  技術チェックの結果(40%)、筆記試験(36%)、演習への参加態度(24%)を総合して評価を行う。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・治療援助技術については、授業中にフィードバックを行う。  ・事前事後課題は、教員が添削して後日返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:・技術チェック  ・演習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:・技術チェック  ・筆記試験  ・演習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。  成績評価方法:・技術チェック  ・演習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:・技術チェック  ・筆記試験  ・演習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:・技術チェック  ・演習への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。  成績評価方法:・技術チェック  ・演習への参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:・演習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:・技術チェック  ・演習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:・技術チェック  ・演習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:・演習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:・技術チェック  ・演習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:・技術チェック  ・演習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:・技術チェック  ・筆記試験  ・演習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:・技術チェック  ・筆記試験  ・演習への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:・技術チェック  ・演習への参加態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  《系統看護学講座 専門分野 I》基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(第17版) 著者名:有田清子 他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1)  看護がみえる vol.2 臨床看護技術 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-89632-734-2)  看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-89632-781-6)</p>			

P11201430 [ NNB3-016 ]

[3看]\*前期水1&一部水2

科目名	発達心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	寺村 ゆかの		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>ミニコメントへのフィードバック内容に関して、受講生と担当者が意見交換等をおこない理解の定着を図る。</small>	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 生涯にわたって発達する人間の姿を、その個人を取り巻く環境(家庭、園や学校、職場や地域社会など)との相互作用という観点から理解できるようになる。</p> <p>[授業概要] 従来、人は成人期を過ぎると様々な面で衰退すると捉えられていた。しかし、私たちは加齢とともに、自己の変化と外界との関係を踏まえて、最適な行動を選択・工夫することによって自己を発達させつづける存在であることが明らかにされてきた。そこで、期間の前半は、科学的根拠にもとづきながら、成人期に至るまでの乳幼児・子ども・青年がどのように自己を発達させていくのかを、彼らが育つ環境(家庭環境や教育環境など)のあり方との関係の中で論じていく。期間の後半は、大人が就職、結婚・出産・育児、子の独立、退職などの重要なライフイベントを契機に、どのように自己を発達させていくのかを、社会の変化も踏まえながら論じる。最終的には、人の外界に対する統制感(自己決定)と積極的社会参加が、生涯発達にとって重要な要因であることを理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業の予定に応じて、事前に授業計画予にある授業テーマやキーワードについて、各自で調べておくこと。また、授業後に提出するミニコメントが不十分な内容であったと自己判断した時は、自分で改めて考え直しておき、「最終コメント」に備えておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション／発達心理学を学ぶ意義(4月8日(月)1限) 2. 自ら環境に働きかける乳幼児(1):ひと・もの・ことへの理解(4月15日(月)1限) 3. 自ら環境に働きかける乳幼児(2):社会の一員となっていく過程(4月22日(月)1限) 4. 自己理解・他者理解にもとづく子どもの社会性(5月6日(月)1限) 5. 多様な学びを通して発達する子どもの有能さ(5月13日(月)1限) 6. 子ども・青年の対人関係(5月20日(月)1限) 7. 教育システムを通じた子ども・青年の自己形成(5月27日(月)1限) 8. これまでの自分とこれからの自分のはざまに悩む青年(6月3日(月)1限) 9. 大人の自己形成(1):就業を契機とした役割アイデンティの発達(6月10日(月)1限) 10. 大人の自己形成(2):妊娠・出産・育児と女性のエンパワメント(6月17日(月)1限) 11. 大人の自己形成(3):ワークライフバランスと夫婦関係の成熟(6月24日(月)1限) 12. 大人の自己形成(4):地域活動への参加を通じたエンパワメント(老年期)(7月1日(月)1限) 13. 講義全体のまとめ(+最終コメント)(7月8日(月)1限)</p>			

科目名	発達心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	寺村 ゆかの		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の講義時間の最後に記述・提出する「ミニコメント又は小テスト」の内容(65%)および「まとめ」の時間後に提出する「最終コメント」の内容(35%)によって評価する。  上記の合計で100%となる。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ミニコメントや小テストについてのフィードバック(解説等)は、次の授業の冒頭で説明する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。  成績評価方法:授業中のミニコメント・小テスト  最終コメント</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。  成績評価方法:授業中のミニコメント・小テスト  最終コメント</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業中のミニコメント・小テスト  最終コメント</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業中のミニコメント・小テスト  最終コメント</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  教科書は使用しない。毎回、講義内容に応じたレジメ・資料を配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  講義の進展に応じて、適宜講義中に参考文献・資料等を紹介する。</p>			

科目名	フィジカルフィットネス	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	野之上 操		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 日常生活に必要な健康や体力の維持・向上を図る。</p> <p>[ 授業概要 ] より良く幸せで充実した人生を送るためには、多様な面から探求し実践していくことが必要である。古来より、「心身一如」や「健全なる精神には健全なる肉体が宿る」といわれるように、体と心は一對のものとして考えられてきた。昨今は、ストレス社会といわれ、心身のバランス(ボディ・マインド・スピリチュアル)の大切さをただ単に頭で理解しているだけではなく、自分のからだと対話することが求められている。それは、自身の体の気づきと心の気づき…この「気づき」学習の方法として、主に太極拳動作を用いての身体操作法、呼吸法、ヨガや気功法(中国医療気功)等を学び、人間本来が持っている自然治癒力を高め、良い生活習慣を身につけることを実践していく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業に体調よく参加できるように日々の生活を送ること。</p> <p>[ 授業計画 ] 履修希望者が45名を越える場合は、初回授業時に人数調整を行うことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本姿勢・呼吸法について (9月26日木曜日)4限</li> <li>2. 太極拳基本動作実践(1) (10月3日木曜日)4限</li> <li>3. 太極拳基本動作実践(2) (10月10日木曜日)4限</li> <li>4. 中国医療気功実践(1) (10月17日木曜日)4限</li> <li>5. 中国医療気功実践(2) (10月24日木曜日)4限</li> <li>6. ヨガ基本と実践 (10月31日木曜日)4限</li> <li>7. まとめ (11月7日木曜日)4限</li> </ol>			



科目名	フィジカルフィットネス	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	野之上 操		
<p>[ 成績評価方法 ]          毎回授業後の振り返りレポート(80%)、参加態度姿勢(20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          授業内でお知らせします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。          成績評価方法:振り返りレポート、参加態度姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。          成績評価方法:振り返りレポート、参加態度姿勢</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:振り返りレポート、参加態度姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢          成績評価方法:振り返りレポート、参加態度姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢          成績評価方法:振り返りレポート、参加態度姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法:参加態度姿勢</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          なし</p>			

科目名	保健統計学	後期	2 単位
サブタイトル	Health Statistics	講義	
担当者	加藤 憲司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的に応じた統計処理を選択、実行できるようになる。</li> <li>2. 保健統計調査の概要を説明できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>健康の維持・増進、あるいは疾病予防などに関する種々のデータを理解するためには、集団を理解するための統計的手法が必要である。この科目ではまず統計学の基礎を学ぶとともに、わが国の衛生関係の統計資料の概要を理解する。さらに人々の健康に関連した指標や疾病予防の観点から、保健・医療における実践や研究に不可欠な統計的データの収集、分析方法などについての基礎的知識や技術を学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回の授業内容を復習理解して、次回授業の予習をしておくこと。</li> <li>2. Microsoft Excelを用いたデータ分析の演習を行うために必要な基礎的事項を学んでおくこと。</li> <li>3. 毎回、予習復習合わせて3時間程度。</li> </ol> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに (9月26日木曜日)5限</li> <li>2. 母集団と標本① (10月3日木曜日)1限</li> <li>3. 母集団と標本② (10月3日木曜日)2限</li> <li>4. データの種類と分布① (10月10日木曜日)1限</li> <li>5. データの種類と分布② (10月10日木曜日)2限</li> <li>6. 確率分布と確率変数① (10月17日木曜日)1限</li> <li>7. 確率分布と確率変数② (10月17日木曜日)2限</li> <li>8. 推定と検定① (10月24日木曜日)1限</li> <li>9. 推定と検定② (10月24日木曜日)2限</li> <li>10. 統計的仮説検定① (10月31日木曜日)1限</li> <li>11. 統計的仮説検定② (10月31日木曜日)2限</li> <li>12. 相関係数 (11月7日木曜日)1限</li> <li>13. まとめ (11月7日木曜日)2限</li> </ol>			

科目名	保健統計学	後期	2 単位
サブタイトル	Health Statistics	講義	
担当者	加藤 憲司		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業後に実施する計4回の課題の合計 80% 授業態度 20%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 講義時間内に全体向けデモンストレーションと各学生への個別指導を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:演習課題の提出状況</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:演習課題の提出状況</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:演習課題の提出状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:演習課題の提出状況</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 保健統計・疫学 改訂7版 (2年前期「疫学」と共通) 著者名:福富和夫 橋本修二 (2023) 出版社:南山堂 (978-4525053376)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 担当教員から適宜指示する。</p>			

科目名	母性看護論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	牛越 幸子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 母性看護の対象を理解し、基本的知識を習得すると共に、母子とその家族に関する社会資源について学ぶ。周産期における母子および家族の心身社会的な経過および健康状態のアセスメントと看護ケアを理解する。</p> <p>[授業概要] 周産期にある女性と新生児、父親、家族の健康に関連する諸問題を概観し、次世代の健全な育成を支援する母性看護の役割を理解する。母子の健康を理解する上で基盤となる概念や理論、母子保健に関連する法律や施策といった社会資源について学ぶ。周産期の母子に生じる生理的変化や正常からの逸脱、それらに伴う対象の反応に関する理解を深め、これらを体験しながら生活している対象が、自らの能力を活かしてこの時期をより健康に過ごすために必要な看護援助ができる能力を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 女性の身体に関する解剖と生理、特に成人における内分泌の生理について十分理解したうえで授業に参加すること(妊娠期の内分泌変化について理解しやすくなります)。疾病と治療Ⅴ(周産期学)、新生児については疾病と治療Ⅵ(小児医学)とも関連させながら各回、予習復習合わせて4時間程度を行い、授業に参加すること。</p> <p>[授業計画] 1. 妊娠の成立、胎児の発育と生理、胎児付属物の機能と生理 (9月27日/金) 2限 2. 妊娠による生殖器、内分泌、全身における変化 (9月30日/月) 1限 3. 妊婦や家族の心理/社会的変化、妊婦と胎児のアセスメント (9月30日/月) 2限 4. 妊娠期における看護①妊婦と家族を対象とした看護ケアの視点および保健指導 (10月4日/金) 2限 5. 妊娠期における看護②、正常から逸脱した妊婦への看護 (10月7日/月) 1限 6. 分娩の定義と分娩の3要素、正常分娩の経過(10月7日/月) 2限 7. 分娩経過に応じたアセスメントの視点と看護①、産婦と家族の心理的变化 (10月11日/金) 2限 8. 分娩経過に応じたアセスメントの視点と看護②、正常から逸脱した産婦への看護 (10月14日/月) 1限 9. 産褥および新生児期の看護① 分娩直後から産褥早期までのアセスメントと看護 (10月14日/月) 2限 10. 産褥および新生児期の看護② 入院中のアセスメントと看護 (10月18日/金) 2限 11. 産褥および新生児期の看護③ 退院後に向けたアセスメントと看護(10月24日/木) 5限 12. 正常から逸脱した産婦への看護(10月25日/金) 2限 13. 正常から逸脱した新生児への看護(11月1日/金) 2限 14. 試験(11月8日/金) 2限</p>			

科目名	母性看護論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	牛越 幸子		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験 (100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後、フィードバックします</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理的実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 著者名:森恵美著 出版社:医学書院 (978-4-260-04223-9) 指定の教科書に加え、病気が見える 10巻も使います</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 授業中に適宜紹介する。</p>			

科目名	学びのグループゼミ I	前期～後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	中岡 亜希子、藤原 由子、藤田 冬子、東 ますみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、洪 愛子、笹谷 真由美、西原 裕子、関尾 裕子、小坂 素子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 恵司、大久保 和実、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学びのグループへの参加を通して、看護や看護の対象となる人々へ関心を向けることができる</li> <li>2. 看護に向き合う姿勢や態度を学ぶことができる</li> <li>3. 第 I 段階の実習に向けての準備性(レディネス)を整えることができる</li> <li>4. 自身の将来への大まかな見通しが想像できる</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。</p> <p>学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各11～12名ずつの45名前後からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。</p> <p>学びのグループゼミ I では主に、自身あるいは2～4年次生の実習体験を聴くことを通して、看護の対象となる人やその人の生活状況、そこで提供されている看護について考えを深めていく。また自身も学びのグループのなかで、年間学習目標や実習体験を表明する機会を得て、他者の考えを聴く姿勢や自身の考えを相手に伝える方法を学んでいく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>学びのグループゼミ I の授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学びのグループゼミ I の意図や授業概要、到達目標についての説明、自己紹介を行い、自身の将来を想像しながら、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月11日木曜日)5限</li> <li>2. 第 I 段階(コミュニティ看護実習 I / 成育看護実習 I)の実習における2年次生の体験やディスカッションを、興味をもったことや疑問に思ったことをメモに取るなどして関心を持って聴く。また、疑問に思ったことやわからないことを積極的に質問し、ディスカッションに参加する。(4月18日木曜日)5限</li> <li>3. コミュニティ看護実習 I / 成育看護実習 I 及び医療看護実習 II (精神) / コミュニティ看護実習 II (老年)における2年次生・3年次生の看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったこと、わからないことを積極的に質問し、ディスカッションに参加することで学びを共有する。(4月25日木曜日)5限</li> <li>4. 医療看護実習 I で出会った患者の入院環境、受けていた看護など、見学したことを学びのグループで発表・共有し、2年次生からアドバイスをもらいながらディスカッションを行う。グループメンバーに見学して分かったことがより深く伝わるよう、発表の内容や方法を工夫する。(9月26日木曜日)1限</li> <li>5. 医療看護実習 I 及び第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)における看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったこと、わからないことを積極的に質問し、ディスカッションに参加することで学びを共有する。(9月26日木曜日)2限</li> <li>6. 医療看護学実習 II (急性期・慢性期) / 成育看護実習 II (小児・母性)の実習における3年次生の看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったこと、わからないことを積極的に質問しながら、ディスカッションに参加する。(12月21日土曜日)1限</li> <li>7. 3年次生の発表やアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見から、ディスカッションに参加することを通して、看護や看護の対象となる人々へ関心を高め、次年度に向けての準備を行う。(12月21日土曜日)2限</li> </ol> <p>【グループ面接】(1月9日木曜日)5限          使用教室 F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529</p>			

科目名	学びのグループゼミ I	前期～後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	中間 亜希子、藤原 由子、藤田 冬子、東 ますみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、洪 愛子、笹谷 真由美、西原 詩子、関尾 裕子、小坂 素子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 憲司、大久保 和美、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]          単位の認定は、指定された日時に実施する「グループ面接」によって行う。          指定された期日までに、指定された方法によって提出された「学生自己評価表」「学習目標についての自己評価」による目標達成度(60%)及び、「課題レポート」によるレポート評価(40%)を基にグループ面接を行い、総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          グループ面接で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探索していける。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          適宜授業内で紹介する。</p>			

科目名	学びのグループゼミⅡ	前期～後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	中岡 亜希子、藤原 由子、藤田 冬子、東 まずみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、洪 愛子、笹谷 真由美、西原 詩子、関尾 裕子、小坂 素子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 恵司、大久保 和美、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護についての問いを持ち、聴くことや書くことを通して、「他者の体験から学ぶ」姿勢を身につけることができる</li> <li>2. 学びのグループへの参加を通して、看護実践の思考過程と倫理的判断について考えることができる</li> <li>3. 学びのグループへの参加を通して、看護の役割や拡がり(予防から治療、地域・在宅への看護の拡がり)に気づくことができる</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。      学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各11～12名ずつの45名前後からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。      学びのグループゼミⅡでは主に、診断や治療のために入院している人への看護実践(第Ⅱ段階の実習)を学びのグループで発表・共有し、自他の看護実践における学びを記述することを通して、看護の役割や拡がりを理解するとともに、看護の思考過程や倫理的判断について考える。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>学びのグループゼミⅡの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学びのグループゼミⅡの意図や授業概要、到達目標についての説明する。自己紹介を行い、1年次に掲げた学習目標と第Ⅰ段階の実習経験を踏まえ、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月11日木曜日)5限</li> <li>2. コミュニティ看護実習Ⅰあるいは、成育看護実習Ⅰで出会った人々が生活していた環境、受けていた看護や支援など見学したことを1年次生にイメージできるような工夫をしながら学びのグループで発表し、自由にディスカッションを行う。(4月18日木曜日)5限</li> <li>3. コミュニティ看護実習Ⅰ／成育看護実習Ⅰ及び医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)での体験や看護実践を共有する場において、学習が深まるよう、他グループの発言に関心を持って聴くことや、質問することを通して「他者の体験から学ぶ」姿勢を身につける。(4月25日木曜日)5限</li> <li>4. 1年次生の医療看護実習Ⅰにおける体験を聴き、自身の知識や経験を生かして実習における思いや体験に共感を示しながらディスカッションに参加する。(9月26日木曜日)1限</li> <li>5. 医療看護実習Ⅰ及び第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)での体験や看護実践を共有する場において、学びの記述を繰り返し、「他者の体験から学ぶ」姿勢を身につける。(9月26日木曜日)2限</li> <li>6. 医療看護実習Ⅱ(急性期・慢性期)／成育看護実習Ⅱ(小児・母性)の実習における3年次生の看護実践報告を聴き、予防や治療、退院後の地域における看護の役割について意識しながらグループディスカッションに参加する。(12月21日土曜日)1限</li> <li>7. 3年次生の発表やアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見を聴いて学びを記述しながら、看護実践の思考過程と倫理的判断について考える。(12月21日土曜日)2限</li> </ol> <p>【グループ面接】(12月19日木曜日)5限          使用教室 F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529</p>			



科目名	学びのグループゼミⅡ	前期～後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	中間 亜希子、藤原 由子、藤田 冬子、東 ますみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、洪 愛子、笹谷 真由美、西原 詩子、関尾 裕子、小坂 素子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 憲司、大久保 和英、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]          単位の認定は、指定された日時に実施する「グループ面接」によって行う。          指定された期日までに、指定された方法によって提出された「学生自己評価表」「学習目標についての自己評価」による目標達成度(60%)及び、「課題レポート」によるレポート評価(40%)を基にグループ面接を行い、総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          グループ面接で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探索していける。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          適宜授業内で紹介する。</p>			

科目名	学びのグループゼミⅢ		前期～後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	中岡 亜希子、藤原 由子、藤田 冬子、東 まずみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、洪 愛子、笹谷 真由美、西原 詩子、関尾 裕子、小坂 素子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 恵司、大久保 和実、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.看護実践を表現すること、伝えることを通して、他者の存在により自己の学びを成長させることができる          2.学びのグループのディスカッションに参加し、看護実践の思考過程と倫理的判断を探求できる          3.看護専門職について考えることができる</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。          学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各11～12名ずつの45名前後からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。          学びのグループゼミⅢでは主に、これまでの講義・演習と第Ⅱ段階の実習の学びの体験の進展を元に、看護実践事例のプレゼンテーション・ディスカッションを通して、他者に伝える力、企画する力を伸ばすとともに、看護専門職としての思考力を身につける。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>学びのグループゼミⅢの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1. 学びのグループゼミⅢの意図や授業概要、到達目標についての説明する。自己紹介を行い、これまでの講義・演習や実習での経験を踏まえ、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月11日木曜日)5限</p> <p>2. 医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)の実習における看護実践を表現すること、伝えることを通して自己の学びを深める。また、ディスカッションを通して、看護実践の思考過程と倫理的判断についての学びを深める。(4月18日木曜日)5限</p> <p>3. コミュニティ看護実習Ⅰ／成育看護実習Ⅰ及び医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)の学びのグループでの学びをさらに深めることができるよう、体験や看護実践を共有する場において、これまでに学習した知識や自己の体験を活用しながらディスカッションに参加する。(4月25日木曜日)5限</p> <p>4. 第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)における4年次生の看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったこと、わからないことは積極的に質問しながら、ディスカッションに参加する。(9月26日木曜日)1限</p> <p>5. 医療看護実習Ⅰ及び第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)での体験や看護実践を共有する場において、積極的に質問しながらディスカッションに参加する。また、看護実践の思考過程と倫理的判断についてこれまでに学習した知識や技術、経験を活用して質問し、検討すべき課題を提案したりするなど、グループ全体の学びを促進する。(9月26日木曜日)2限</p> <p>6. 学びのグループで医療看護実習Ⅱ(急性期・慢性期)、成育看護実習Ⅱ(小児・母性)の看護実践を表現すること、伝えることを通して自己の学びを深める。さらにメンバーの意見も聴く中で、ディスカッションを深め、看護実践の思考過程と倫理的判断を探求する。(12月21日土曜日)1限</p> <p>7. 話し合ったことについて発表し、学びのグループでの意見交換やアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見から、看護専門職について思考する。(12月21日土曜日)2限</p> <p>【グループ面接】(1月16日木曜日)5限          使用教室 F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529</p>				

科目名	学びのグループゼミⅢ	前期～後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	中間 亜希子、藤原 由子、藤田 冬子、東 まずみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、洪 愛子、笹谷 真由美、西原 詩子、関尾 裕子、小坂 素子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 憲司、大久保 和美、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]          単位の認定は、指定された日時に実施する「グループ面接」によって行う。          指定された期日までに、指定された方法によって提出された「学生自己評価表」「学習目標についての自己評価」による目標達成度(60%)及び、「課題レポート」によるレポート評価(40%)を基にグループ面接を行い、総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          グループ面接で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探索していける。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          適宜授業内で紹介する。</p>			

P11201740 [ NNI3-008 ]

[3看]\*通年木5

科目名	学びのグループゼミⅣ		前期～後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	中岡 亜希子、藤原 由子、藤田 冬子、東 まずみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、洪 愛子、笹谷 真由美、西原 詩子、関尾 裕子、小坂 素子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 恵司、大久保 和実、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.看護の学習者として自立することができる</li> <li>2.学びのグループへの参加を通して、仲間と共同する重要性を学ぶことができる</li> <li>3.看護を職業としていくことや将来のキャリアについて目標を持つことができる</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。        学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各11～12名ずつの45名前後からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。        学びのグループⅣでは、1年次生、2年次生及び3年次生が行う第Ⅰ段階・第Ⅱ段階の実習経験の発表において、助言者の役割を引き受ける。さらに、看護を実践していく仲間や仲間と共同する重要性についても学ぶ。実習で扱った臨床の看護課題への取り組みや、そのプロセスを発表して、看護の学習者として自立することについて考えを深め、看護を職業としていくことや将来のキャリアについて目標を見出す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>学びのグループゼミⅣの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学びのグループゼミⅣの意図や授業概要、到達目標についての説明する。自己紹介を行い、これまでの講義・演習や実習での経験を踏まえ、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月11日木曜日)5限</li> <li>2. 医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)の学びのグループでの学びをさらに深めることができるよう、3年次生にアドバイスしながら、看護実践の思考過程と倫理的判断について話し合うべきテーマを提案するなどし、ディスカッションに参加する。(4月18日木曜日)5限</li> <li>3. コミュニティ看護実習Ⅰ／成育看護実習Ⅰ及び医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)での体験や看護実践を共有する場において、これまでの経験や学びを踏まえて下級生にアドバイスする。(4月25日木曜日)5限</li> <li>4. 第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)で扱った臨床の看護課題を探索的に取り組んだプロセスと結果を報告する。3年次生に看護の学習者としての自立や看護を職業としていくことについて身をもって示し、将来のキャリアについて目標を見出す。(9月26日木曜日)1限</li> <li>5. 医療看護実習Ⅰ及び第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)での体験や看護実践を共有する場において、これまでに学習した知識や自己の体験を活用しながら下級生にアドバイスを行い、仲間と共同する重要性を学ぶ。(9月26日木曜日)2限</li> <li>6. 学びのグループで医療看護実習Ⅱ(急性期・慢性期)、成育看護実習Ⅱ(小児・母性)の実習における3年次生の看護実践報告を聴くことやディスカッションを積極的に行うことで、自己の学びを深める。(12月21日土曜日)1限</li> <li>7. 話し合ったことについて発表し、学びのグループで意見交換やアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見から、看護を職業としていくことや将来のキャリアについて思考する。(12月21日土曜日)2限</li> </ol> <p>【グループ面接】(12月12日木曜日)5限        使用教室 F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529</p>				

科目名	学びのグループゼミⅣ	前期～後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	中間 亜希子、藤原 由子、藤田 冬子、東 ますみ、玉木 敦子、内 正子、牛越 幸子、高橋 秋絵、横内 光子、菅野 由美子、小路 浩子、奥井 早月、坂口 めぐみ、洪 愛子、笹谷 真由美、西原 詩子、関尾 裕子、小坂 美子、渡邊 紀子、吉原 文子、柴田 明日香、高呂 節子、服部 律子、加藤 憲司、大久保 和英、小西 真千子、岸野 真由美、小枝 美由紀、細川 愛美、原口 梨那、小野 聖子、峰 博子		
<p>[ 成績評価方法 ]          単位の認定は、指定された日時に実施する「グループ面接」によって行う。          指定された期日までに、指定された方法によって提出された「学生自己評価表」「学習目標についての自己評価」による目標達成度(60%)及び、「課題レポート」によるレポート評価(40%)を基にグループ面接を行い、総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          グループ面接で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢          成績評価方法:ディスカッションへの参加・プレゼン・レポート・グループ面談</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          適宜授業内で紹介する。</p>			

P11200850 [ NNI4-001 ]

[4看]\*通年木5

科目名	慢性期看護論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	藤原 由子、関尾 裕子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他	各授業終わりに事例展開の個人ワークを行う	実務経験のある教員による授業	○	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.成人期にある慢性疾患をもつ人をどのように理解していくかが分かる。  2.慢性期・終末期にある人の病気の体験や看護アセスメントから、健康障害による身体をどのように見ていくかが理解できる。  3.生活習慣病や難病、炎症性疾患、がんなどの慢性疾患にある人の健康の維持・回復、苦痛緩和への援助の方法を理解できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>成人期にある人の特有な健康問題のうち、慢性期・終末期の健康障害と病気と共に生きる人の体験を理解し、ケアリングの考えを基盤にした看護援助について学ぶ。慢性期にある人の病気の体験や看護アセスメントから、健康障害による身体の変化を理解する。生活習慣病や難病、炎症性疾患、がんなどの慢性疾患の人の身体理解と事例展開を通して、健康の回復・苦痛の緩和への看護援助の理論と実践、成人期にある人の健康の増進、生活習慣病の予防の看護援助の理論と実践を理解する。さらに、健康障害により終末期にある人の理解と苦痛の緩和への看護援助の実践を学ぶことにより、治療とともに終末を迎える人や緩和治療について学ぶ。  慢性看護領域の臨床経験を有する教員が、事例を踏まえて身体理解、生活支援を通じた慢性病者の理解と看護について教授します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各授業において該当する教科書の内容を読んでくること。また前回の授業内容を復習し、十分に理解したうえで次の授業へ臨むこと。毎回、予習復習合わせて4時間程度を要する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1. 慢性疾患の定義と特徴(藤原由子)4月8日(月)3限  2. 呼吸器疾患のある人の看護:在宅酸素療法、呼吸リハビリテーションにおける看護(藤原由子)4月8日(月)4限  3. セルフケア支援を促す患者教育:成人学習理論、自己効力を高めるための方略、患者のセルフケアを支援する教育的アプローチ(藤原由子)4月15日(月)3限  4. 自己免疫疾患のある人の看護:甲状腺疾患、代謝障害のある人の看護(藤原由子)4月15日(月)4限  5. 障害受容と疾病認識、障害に関する定義、神経損傷のある人の看護、病気の受容と在宅ケアの調整(学外特別講師 尾田佳代先生)4月22日(月)3限  6. 肝疾患のある人の看護:慢性肝炎を抱えながら生きる人を支援する、肝硬変に至った患者の支援(藤原由子)5月6日(月)4限  7. 病院における患者体験とヘルスケアシステム:慢性疾患の鍵となる問題(長期、不確か、多大な努力重複疾患、侵襲的、費用がかかる)と基本方略(藤原由子)5月13日(月)4限  8. アレルギー疾患のある人の看護:アレルギー疾患による身体の変化の理解、アトピー性皮膚炎患者の生活の理解、アレルギー疾患がある人のセルフケア支援(藤原由子)5月20日(月)4限  9. がん看護総論(学外特別講師 がん専門看護師 橋口周子先生) 5月27日(月)4限  10. 心・血管疾患のある人の看護:虚血性心疾患・心不全のある人の身体理解、心臓リハビリテーションにおける看護(関尾裕子)6月3日(月)4限  11. 化学療法・放射線療法を受ける人の看護(藤原由子)6月10日(月)3限  12. 腎疾患のある人の看護:慢性腎臓病とともに生活する人への支援、人工透析を受ける人への支援(藤原由子)6月10日(月)4限  13. 終末期にある人の理解と看護:終末期における看護技術、国際的な終末期の捉え方、疼痛のアセスメント、疼痛緩和(藤原由子) 6月17日(月)3限  試験 6月17日(月)4限  再試験がある場合は、6月24日(月)3限</p>				

科目名	慢性期看護論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	藤原 由子、関尾 裕子		
<p>[ 成績評価方法 ] 各授業後に記載する演習課題(10%)、試験(90%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 課題は次回の講義時、あるいはmanabaのコメントから添削したものを返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験・演習課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:演習課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:試験・演習課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:試験・演習課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・演習課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験・演習課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 「パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開ー成人看護実習ガイドⅡ 慢性期・回復期・終末期」 著者名:野並葉子編集 出版社:照林社 (9.78E+12) その他、プリント配布 ( )</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 「慢性疾患を生きる ケアとクオリティライフの接点」 著者名:ストラウス著、南裕子訳 出版社:医学書院 (978-4260348614) 慢性疾患の病みの軌跡 著者名:コービン&amp;ストラウス著、黒江ゆり子 出版社:医学書院 (978-4-260-34172-1)</p>			

科目名	薬理学	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>薬が作用する過程を理解するために必要な受容体などの薬の作用点や情報伝達系などの基礎的知識を修得する。さらに、薬物治療に応用できるように、神経系に作用する薬、炎症・アレルギーに対する薬物、抗菌薬や抗悪性腫瘍薬などの作用機構について具体的に理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>疾病の薬物治療において、医師、薬剤師および看護師は、それぞれの立場で協同して治療にかかわらなければならない。そのためには、薬がどのように生体に作用するのかを十分に理解しておく必要がある。「薬理学」は、疾病の治療や予防の目的で使用される薬が、生体にどのように働きかけるのかを科学的に理解しようとする学問である。</p> <p>本科目では、薬が作用する過程を理解し、治療薬がどこにどのように作用して疾患や症状に対する治療効果をもたらすかを解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し、次回の授業の予習をしておき、日頃から医療に関するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学総論①(4月12日) 生理機能と薬理作用の関係および薬はどのように作用するかを学ぶ。</li> <li>2. 薬理学総論②(4月19日) 薬の作用点としての受容体と情報伝達機構を学ぶ。</li> <li>3. 薬理学各論①(4月26日) 生活習慣病治療薬の作用を学ぶ。</li> <li>4. 薬理学各論②(5月10日) 中枢神経系に作用する薬物の作用を学ぶ。</li> <li>5. 薬理学各論③(5月17日) アレルギー疾患・自己免疫疾患に作用する薬物の作用を学ぶ。</li> <li>6. 薬理学各論⑤(5月24日) 感染症に作用する薬物の作用を学ぶ。</li> <li>7. 薬理学各論⑥(5月31日) 抗悪性腫瘍薬の作用を学ぶ。</li> <li>8. 試験(6月7日)</li> </ol>			



科目名	薬理学	前期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験結果(100%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験の解答例はmanabaなどで掲示する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] はじめる!つかえる!看護のための薬理学 1版 著者名:久留米大学客員教授 時政孝行 出版社:南山堂 (978-4-525-14111-0)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	養護概説	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 養護教諭の行う学校保健活動を理解し、養護教諭の専門性と役割、学校での健康支援の方法を修得する。</p> <p>[授業概要] 「児童生徒の養護をつかさどる」専門職である養護教諭は、教育職員の一員として専門性を生かし、学校保健推進の中核的役割を果たしている。 養護教諭の活動は広範囲で多岐にわたり、求められる役割は勤務する校種や対象となる子供たちの発達段階、学校を取り巻く地域の状況によっても変化する。養護教諭の職務の専門性と、養護教諭独自の職務である養護活動について具体的な展開方法を学び、発育・発達段階にある子供たちの健康問題の理解、およびそれらに対する援助方法を習得する。 また、それら、養護教諭が行う学校保健活動の実際を学ぶ中で、専門職として果たすべき役割を論究する。学校内の他の職種や、学校外の専門機関および、保護者・地域との連携についても合わせて学習し、対象に合わせ、保健室の機能を生かした職務を実践できる能力を養う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業内容の予習をしておくこと。各回、予習・復習を合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.養護教諭とは？ 歴史と職務内容、関係法規について学ぶ (12月11日水曜日)4限 2.学校保健計画の作成と保健室経営について学ぶ (12月11日水曜日)5限 3.保健教育についての概要、および、保健指導の手法を学ぶ (12月13日金曜日)1限 4.保健指導案作成の体験を通して、作成方法と保健指導の在り方を学ぶ(12月13日金曜日)2限 5.健康観察・保健調査について、意義と手法を学ぶ(12月18日水曜日)3限 6.学校でよく見られる感染症とその対応、および、疾病管理について学ぶ(12月18日水曜日)4限 7.養護教諭のフィジカルアセスメントと救急処置について、外科的事例をあげ、具体的な対応を学ぶ(12月20日金曜日)3限 8.養護教諭のフィジカルアセスメントと救急処置について、内科的事例をあげ、具体的な対応を学ぶ(12月20日金曜日)4限 9.心臓疾患、腎臓疾患、糖尿病等、慢性的な疾患を持つ子供の学校での健康管理について学ぶ (1月8日水曜日)3限 10.内科検診・歯科検診・耳鼻科検診・眼科検診、法に定められたその他の検診について、意義、目的および実施手順と事後措置を学ぶ。(1月8日水曜日)4限 11.身体測定、視力検査、聴力検査について実施手順と事後措置を学ぶ。(1月21日火曜日)3限 F209 12.身体測定、視力・聴力検査について体験し、実施方法を学ぶ。(1月21日火曜日)4限 F209 13.まとめ、保健指導の実践発表会 (1月22日水曜日)3限 14.試験 (1月29日水曜日)4限</p>			

科目名	養護概説	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み姿勢、レポート、小テスト等 (50%) 定期試験 (50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  次の授業の冒頭で、レポートの講評を行う。  後日、manabaにて試験の講評、解説を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を实践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート、小テスト、定期試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探求していける。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート、小テスト、定期試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート、小テスト、定期試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート、小テスト、定期試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート、小テスト、定期試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート、小テスト、定期試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業への取り組み姿勢等、レポート、小テスト、定期試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  養護教諭の活動の実際 著者名:静岡県養護教諭研究会 出版社:東山書房 (978-4-8278-1487-3)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>			

科目名	予防看護論	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西原 詩子、東 ますみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.1次予防、2次予防、3次予防について述べるができる。</p> <p>2. 集団への看護と個への看護の関連性を述べるができる。</p> <p>3. 生活習慣病と関連する生活習慣(生活行動)について述べるができる。</p> <p>4. 生活習慣病予防に関する施策と看護の関連性について述べるができる。</p> <p>5. 生活習慣変容に関する諸理論と対象者自身が捉える主観的な生活との違いを理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。</p> <p>生活習慣病を理解し、健康的な生活習慣づくりを支援する看護について学びを深める。</p> <p>健康状態と保健行動の分類から、1次予防、2次予防、3次予防について理解する。また疾病管理の考え方をもとに、集団への看護と個への看護の関連性について理解する。</p> <p>生活習慣変容に関する諸理論(健康信念モデル、自己効力理論、変化ステージモデル、エンパワメントモデル等)を概観し、様々な看護のアプローチ法があることを知る。</p> <p>さらに客観的に捉えることを目指したそれら諸理論と対象者が主観的に捉える生活には違いがあることを知り、対象者とともに対象者が望む健康生活を創造する看護とはどのようなものかについて理解を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>関連する文献等を読み理解し、自身の考えを整理しておく。日頃から自分自身や他者の生活に関心を持ち、様々な視点で生活を捉えることを試みる。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1. 健康状態と保健行動の分類(西原詩子)(12月9日月曜日)3限</p> <p>2. 集団への看護と個への看護(西原詩子)(12月9日月曜日)4限</p> <p>3. 生活習慣変容に関する諸理論の概観①(東ますみ)(12月12日木曜日)1限</p> <p>4. 生活習慣変容に関する諸理論の概観②(東ますみ)(12月12日木曜日)2限</p> <p>5. 行動変容を促す、教育・指導方法に必要なアセスメント(生活を理解する)(西原詩子)(12月16日月曜日)3限</p> <p>6. 行動変容を促す、教育・指導方法の実際(西原詩子)(12月16日月曜日)4限</p> <p>7. 対象者が望む健康生活を支援する看護を考える。(西原詩子)(12月17日火曜日)1限</p> <p>8. 試験(12月19日木曜日)2限</p> <p>教室 F210</p>			

科目名	予防看護論	後期	1 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西原 詩子、東 ますみ		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>試験 (80%)、授業への取組 (20%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験後、解答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:試験、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:試験、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:試験、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:試験、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験、グループワーク等での発言内容や取り組み態度</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 「医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 第2版 生活習慣病を中心に」 著者名:松本千明著 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-71068-5) 適宜プリントを配布する。</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 「国民衛生の動向 2022/2023年版」 出版社:一般財団法人厚生労働省統計協会 「健康行動理論による研究と実践」 著者名:一般財団法人日本健康教育学会編 出版社:医学書院 (978-4-260-03635-1) 適宜プリントを配布する。</p>			

科目名	理化学の基礎	前期	2 単位
サブタイトル	Introduction to Chemical Science	講義	
担当者	加藤 憲司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 看護専門領域の科目を理解するための化学の基礎知識を身につけ、以後の専門学習の準備とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 化学分野の知識は、生体内で起こる様々な変化、機能などを理解し、人体の機能や病態の理解を深めるために必要なものである。本講義では、看護・医療の現場において遭遇する多くの現象を理解するために必要となる化学の基礎的な知識を学習する。高等学校における化学の内容を基盤とした化学的現象と日常のトピックスの繋がりを理解することを目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 教科書の該当部分を事前に読んで授業に臨むこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宇宙, 原子, 地球の誕生 (4月11日木曜日)3限</li> <li>2. 生命の起源と地球外生命の謎 (4月18日木曜日)3限</li> <li>3. 人類の誕生と遺伝子 (4月25日木曜日)3限</li> <li>4. 酸素循環の化学: 植物の光合成と動物の呼吸 (5月9日木曜日)3限</li> <li>5. 有機分子と生物の間にあるもの (5月16日木曜日)3限</li> <li>6. 自然が産する多彩な有機化合物 (5月23日木曜日)3限</li> <li>7. 糖鎖は第三の生命鎖 (5月30日木曜日)3限</li> <li>8. がんと闘う先進医療 (6月6日木曜日)3限</li> <li>9. 人類の感染症との闘い (6月13日木曜日)3限</li> <li>10. 持続可能な環境をめざす化学と技術 (6月20日木曜日)3限</li> <li>11. バイオマスのエネルギー利用 (6月27日木曜日)3限</li> <li>12. 放射線の発見から原子力発電へ (7月4日木曜日)3限</li> <li>13. 原子力発電のリスクマネジメント (7月11日木曜日)3限</li> </ol>			

科目名	理化学の基礎	前期	2 単位
サブタイトル	Introduction to Chemical Science	講義	
担当者	加藤 憲司		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題レポート2回 80% 授業態度 20%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] manabaの機能を通じてレポートの内容に関するフィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していける。 成績評価方法:課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。 成績評価方法:課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 教養の化学 ～生命・環境・エネルギー～ 著者名:西原寛・中田宗隆 編 (2023) 出版社:東京化学同人 (978-4807920419)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 担当教員から適宜指示する。</p>			

心理 学 部

心理学科

(授業科目名 五十音順)



科目名	ITビジネス	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	浅木森 和夫		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>授業を通して、次のことを目標とします。</p> <p>① コンピュータと社会の関係を説明できる</p> <p>② ビジネス戦略と企業心理の関係を説明することができる</p> <p>③ 持続的なビジネスとICTの関係が理解できる</p> <p>④ ICTを使ったビジネスモデルを構築できる</p> <p>[授業概要]</p> <p>IT(情報技術)は、ビジネスの世界で欠かせない技術となっている。ますます、AI(人工知能)を代表とする情報技術がビジネスの世界に浸透することは確実であり、ITをビジネスにどのように俊敏に、かつ効果的に活かしていくかが、ビジネスの成功や発展の鍵となっていく。この授業では、ITとビジネスとの関わりについてのこれまでの展開過程や現状を明らかにするとともに、未来の可能性について考究して行く。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>テキストはLMS(Moodle)上に公開します。LMSに公開されるテキストを事前によく読み、積極的に予習・復習をしてください。ICTは世界中を一つにつなぐものです。そのため、ビジネスを世界的視野でみることが求められます。さまざまな分野文献に接し、広い知識を身に付けるように努力しましょう。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 社会とコンピュータ(コンピュータが社会に与えた影響)</li> <li>3. Information and Communication Technology (ICT) が作り出した巨大企業</li> <li>4. ビジネスのグローバル化とICT</li> <li>5. 企業種・業態とICT</li> <li>6. 事例研究: 製麺所のIT化(業務フローを分析する)(グループワーク)</li> <li>7. 事例研究: 製麺所のIT化(業務内容とIT化)(グループワーク)</li> <li>8. 事例研究: 製麺所とIT化(情報の共有と多能工)(グループワーク)</li> <li>9. 事例研究: 製麺所とIT化 (ICTを組み入れたビジネス設計)(グループワーク)</li> <li>10. 人工知能(AI)とは</li> <li>11. ビジネスにおける人工知能の役割(グループワーク)</li> <li>12. 持続的な社会におけるビジネスのあり方</li> <li>13. まとめ理解度確認と解説</li> </ol>			

科目名	ITビジネス	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	浅木森 和夫		
<p>[ 成績評価方法 ] 成績は、学習への振り返り(10%)、グループワーク(30%)、課題(30%)、まとめの試験(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 振り返りの記入を通して得た質問や感想に対しては、授業のはじめにフィードバックします。グループワークについてはその都度コメントをフィードバックします。テストや課題については終了後、解答をフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:試験 課題 ディスカッション</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1 /心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:試験 課題 ディスカッション</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:グループワーク 課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 特にありません。</p>			

科目名	カウンセリング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 各自の自己理解を深めながら、対人距離を含めた面接場面の設定の基本を学び、カウンセリングにおいて重要な話しやすい安心・安全の場を創り出すことができる。
2. 対人援助の基本原則について、カウンセリング技法との関係を説明することができる。
3. ロールプレイングや事例検討を体験し、各自の考えをディスカッションすることを通して、カウンセリング技法のスキルや技能の基本を修得する。
4. カウンセリングおよび心理療法の主要理論について説明できる。

[ 授業概要 ]

近年カウンセリングは、医療、教育、福祉、産業、司法など様々な分野で、幅広く用いられている。どの領域においても適切な援助を行うにあたり共通して求められることは、まず援助を受ける側の気持ちや不安、心理的葛藤等を理解することである。この授業では、「カウンセリングとは」の問いから始まり、対象者理解・自己理解演習をキーワードに、面接の基本的なスキルについて学んでいく。授業では、ロールプレイングや事例検討なども取り入れ、ビデオ教材なども用いながら、面接や対人援助技術についての理論・実践の両面から学び、カウンセリングの基本を修得していく。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

2回生までに学ぶ心理学全般について復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から心のケアやその対応等についても関心をもつこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

1. カウンセリングとは、自己理解・他者理解
2. 対人距離について、面接室の設定・面接室の座り方演習
3. 自己理解演習
4. カウンセリングの基本原則とカウンセリング技法の全体の流れについて
5. 面接の基本的なスキル 1 (ノンバーバルコミュニケーションと3つの「きく」)
6. 面接の基本的なスキル 3 (うなずき・あいづち技法のロールプレイングと振り返り)
7. 面接の基本的なスキル 4 (反復・要約の技法と事例検討)
8. 面接の基本的なスキル 5 (受容と共感について)
9. 面接の基本的なスキル 6 (感情の反射の技法と事例検討)
10. 面接の基本的なスキル 7 (明確化の技法と事例検討)
11. カウンセリングの基礎理論 1 (人間性心理学理論(来談者中心療法))
12. カウンセリングの基礎理論 2 (精神分析理論、認知・行動理論)
13. まとめ・理解度確認試験についての解説

科目名	カウンセリング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(20%)、レポート課題(20%)、試験(60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・授業中の課題は、授業内でフィードバックします。 ・理解度確認試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 対人援助技術の実際―面接技法を中心に― 著者名:白石大介 出版社:創元社 (4-422-11124-8)</p>			

科目名	学習・言語心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐伯 恵里奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトの学習メカニズムの種類とそれぞれの学習が行動変化に与える影響を説明できる</li> <li>2. 言語習得の機序と日常生活における言語の働きを説明できる</li> <li>3. 言語障害の種類と障害がもたらす問題を説明できる</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>私たちは、経験を通して様々な知識や技能を身につけることができます。本講義の前半では、条件づけ、社会的学習、技能学習等、学習の種類と特徴を解説し、経験がどのように行動に影響を与えるかについて考えます。後半は、ヒトだけがもつユニークな心の働きである言語を取り上げます。言語習得の過程やコミュニケーション過程、また言語機能の障害など言語に関わる心の問題についての理解を深めます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業中に配布した資料を復習するとともに、紹介した書籍を図書館で探して読むことで、授業の内容を深く理解し、授業で説明した内容と日常生活の出来事が結びつけられるように予習、復習をしてください。各回予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習・言語心理学とは</li> <li>2. ヒトの行動様式</li> <li>3. 古典的条件づけ</li> <li>4. オペラント条件付け</li> <li>5. 社会的学習</li> <li>6. 技能学習</li> <li>7. 動機づけ</li> <li>8. 言語習得の過程</li> <li>9. 言語と認識</li> <li>10. コミュニケーションの機能・種類</li> <li>11. 会話的推意</li> <li>12. 言語の障害</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	学習・言語心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ] リアクション・ペーパー(25%)、中間確認課題(25%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] リアクション・ペーパーは授業毎に提出を求め、次の授業で記載内容を取り上げ、議論、解説を行います。中間確認課題については実施後、解説を行い質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:リアクションペーパー・中間確認課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:リアクションペーパー・中間確認課題・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:リアクション・ペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:リアクション・ペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:中間確認課題・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] レジメ・資料を配布します</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 公認心理師の基礎と実践8 学習・言語心理学 著者名:楠見孝(編) 出版社:遠見書房 よくわかる言語発達 著者名:岩立 志津夫・亙原 たみ子(編) 出版社:ミネルヴァ書房</p>			

科目名	家族心理学(社会・集団・家族心理学)		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	曾山 いづみ			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族を理解するための鍵概念や基礎知識を修得し、家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響を説明できる。</li> <li>2. 家族の多様性を理解し、受講生それぞれが、家族に対する自分なりの考え方を持てるようになる。それを通して、人の態度及び行動についての理解を深める。</li> <li>3. システム理論の基本的な考え方を身につけ、家族をはじめとした対人関係をシステムの観点から説明できる。それを通して、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程について理解する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>家族は多くの人にとって最も身近な存在であるにもかかわらず、家族について学ぶ機会は非常に少ない。本授業では、家族に起こる様々な出来事や問題を、心理学の観点から理解する。家族にまつわる映像作品や文学作品、各受講生の体験なども交えながら、家族が発達していくプロセスと、家族の多様なあり方について考える。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日ごろから新聞やテレビなどで報道される家族に関する諸問題に関心をもつようにすること。毎回の授業でテーマを提示するため、それに関連するニュースや論文を読んできて、授業内で提示する課題を行うこと。事前学習・事後学習あわせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション、家族とは何か</li> <li>2.家族のライフサイクルとシステム理論、家族や集団及び文化が個人に及ぼす影響</li> <li>3.独身の若い成人期</li> <li>4.結婚による家族の成立</li> <li>5.乳幼児・小学生の子どもとその家族</li> <li>6.思春期・青年期の子どもとその家族</li> <li>7.老年期の家族</li> <li>8.家族とコミュニケーション① 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程と人の態度及び行動</li> <li>9.家族とコミュニケーション②家族の中の暴力</li> <li>10.夫婦関係の危機と援助</li> <li>11.離婚・再婚と子ども</li> <li>12.家族への臨床的アプローチ</li> <li>13.家族の中のジェンダー、多様な家族のかたち</li> </ol>				

科目名	家族心理学(社会・集団・家族心理学)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中に提示する課題(50%)、学期末試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:授業内で提示する課題・学期末試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業内で提示する課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内で提示する課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業内で提示する課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内で提示する課題・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内で提示する課題・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業内で提示する課題・学期末試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 家族の心理 第2版 家族への理解を深めるために 著者名:平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義 出版社:サイエンス社 (978-4-7819-1448-0) 家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助 第2版 著者名:中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 出版社:有斐閣ブックス (978-4-641-18446-6)</p>			



科目名	感情・人格心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	梅垣 佑介		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感情に関する諸理論について学び、感情がいかに喚起されるかを理解する。</li> <li>2. 感情が人の行動や認知に及ぼす影響を理解する。</li> <li>3. パーソナリティの概念や形成過程について理解する。</li> <li>4. 類型論・特性論をはじめとするパーソナリティの諸理論を学び、パーソナリティや個人差を捉える枠組みについて理解する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>人は、喜怒哀楽をはじめとする多様な感情を持ちながら生活している。では、そもそもなぜ感情は存在するのだろうか。人によって感じる感情やその強さが異なるのはなぜだろうか。本講義の前半では、感情に関する諸理論や諸研究を概観しつつ、感情喚起のメカニズムや感情の機能について学ぶ。本講義の後半では、人間一人一人の個人差につながるパーソナリティについて学ぶ。パーソナリティがいかに形成されるか、心理学の中でどのように捉えられてきたのかを、パーソナリティの関連要因や類型論・特性論、検査法、病理といった観点から学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学全般について復習しつつ、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション／人の個人差について考える</li> <li>2. 感情の定義、起源と機能</li> <li>3. 感情と認知的評価</li> <li>4. ポジティブ感情のメカニズムと機能</li> <li>5. ネガティブ感情のメカニズムと機能</li> <li>6. 社会の中の感情と感情の調整</li> <li>7. パーソナリティの定義と形成過程</li> <li>8. パーソナリティの社会的・遺伝的要因</li> <li>9. パーソナリティの類型論と特性論</li> <li>10. パーソナリティ検査法</li> <li>11. パーソナリティの病理</li> <li>12. パーソナリティをめぐる研究と臨床</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	感情・人格心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	梅垣 佑介		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(20%)、試験(80%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中に提示する課題については、授業内で解説・フィードバックをする予定です。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:授業中の課題および試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題および試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題および試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題および試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題および試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 公認心理師の基礎と実践9. 感情・人格心理学 著者名:杉浦義典(編) 出版社:遠見書房 (978-4-86616-059-7)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業内で随時紹介します。</p>			

科目名	教育・学校心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	森下 文		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>講義内容に関連する動画視聴を行い、講義内容の理解を深める。</small>	実務経験のある教員による授業	○

[ 到達目標 ]

教育現場において生じる問題およびその背景について理解し、説明することができる。  
 教育現場における心理社会的課題および必要な支援について理解し、説明することができる。  
 教育現場において心理支援を実践するために必要な他者との信頼関係を構築する力を養う。

[ 授業概要 ]

①教育現場において生じる問題およびその背景、②教育現場における心理社会的課題および必要な支援の2点について講義や少人数によるディスカッション等を通して学ぶ。  
 授業者の教員としての経験、およびスクール・カウンセラー(公認心理師資格を有する)としての実務経験を生かし、教育現場の現状や課題、支援者としての在り方について講義を行う。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

予習は、事前に配布する授業資料について予習し、疑問点をまとめておくこと。  
 復習は、授業のあった日のうちにノートを整理し、疑問点があれば関連文献やインターネット等で調べ補充しておくこと。(各回、予習復習を合わせて4時間程度)

[ 授業計画 ]

1. ガイダンス(教育・学校心理学の概要、授業の方法等についての説明)
2. 教育・学校の組織・制度と支援の関係、チーム学校について
3. 教育相談とスクールカウンセリングについて
4. スクールカウンセリングの概要  
(アセスメント・カウンセリング・コンサルテーション・心理教育・協働・連携)
5. 教育現場におけるアセスメント  
(パーソナリティ・発達状況・学校での人間関係・環境・家庭状況)
6. 子ども支援の基本的態度と知識
7. 教育相談と学校現場に関連する法律に関する理解
8. 不登校の現状と対応について
9. いじめ問題とその背景について
10. 発達障害に関する基礎知識と学校現場の現状について
11. 子どもを取り巻く社会状況と課題①(虐待・マルトリ・ヤングケアラー・貧困等)
12. 子どもを取り巻く社会状況と課題②(子どものメンタルヘルスの現状と支援のあり方)
13. 非行・学級崩壊・学校と子どもの危機的状況に関する対応

科目名	教育・学校心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	森下 文		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート40%  小テスト10%  定期試験50%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポートについては、次回の講義で解説と講評を行います。  小テストについては、授業内で解答の解説を行います。  試験については、終了後に解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  講義で使用するレジメや資料を教科書とする。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  教育・学校心理学 著者名:小野瀬雅人(編著) 出版社:ミネルヴァ書房 (9.78E+11)</p>			

科目名	経営学概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分業を基本とした、企業活動の目的を説明できる。</li> <li>・企業経営における経営資源の必要性を説明できる。</li> <li>・環境が大きく変化するなかでの働く姿勢のあり方を理解できる。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>企業は社会が求める分野に経営資源を投入し、顧客の理解を得ることで利益を確保し、活動を継続する。投入する経営資源のなかで、人的資源は重要な項目となる。利益を確保し活動を継続するためには、役割に沿った人材の配置を行った組織作りが求められる。特に環境変化が大きいなかでの、企業運営における様々な個人と組織との関わりや各構成員の働き方への理解を深めていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学一般を基本とし、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分業体制と企業活動の目的</li> <li>2. 経営資源の必要性和環境変化</li> <li>3. リフレーミングを通じた人材強化</li> <li>4. 目標達成に向けた「PDCA」</li> <li>5. イノベーションへの取り組み</li> <li>6. 変化に対応する多角的視点</li> <li>7. 多様性のなかでの共感に基づく協同</li> <li>8. 働く価値観の見直し&lt;外部講師&gt;</li> <li>9. レジリエンス・コンピテンシー</li> <li>10. レジリエンスとモチベーション</li> <li>11. 逆境時における思考方法の見直し</li> <li>12. エネルギー・マネジメント</li> <li>13. 思考の柔軟性の確保による変革の継続</li> </ol>			

科目名	経営学概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(10%)、レポート課題(30%)、テスト(60%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。授業内で随時資料を配布。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] レジリエンス・トレーニング入門 著者名:宇野カオリ 出版社:電波社(978-4-86490-142-0) 大人の「非認知能力」を鍛える25の質問 著者名:ボーク重子 出版社:ディスカバー・トゥエンティワン(978-4-7993-2930-6)</p>			

科目名	経営組織論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営組織の構成や形成に関する特徴を説明できる。</li> <li>・不透明ななかでの企業の組織デザインの方向性を説明できる。</li> <li>・組織のなかでの取り組み姿勢として必要な視点を身につける。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>不透明感が大きいなかで、活力の維持・向上をもたらす企業の組織運営のあり方に焦点をあてる。経営組織の特徴や推移とともに、組織を構成する集団や個人と組織運営との関わりを解説する。そのうえで、構成員と組織が自律的に活力の維持・向上をもたらすのに望ましい組織づくり、構成員の姿勢への理解を深めること通じ、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学一般を基本とし、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織構造と職務設計</li> <li>2. 組織劣化・機能不全の要因</li> <li>3. 組織運営の循環構造の見直し</li> <li>4. 組織構造の変化に対する制度圧力</li> <li>5. サーバント・リーダーシップの特性</li> <li>6. 組織における心理的安全性の存在</li> <li>7. 行動分析と心理的安全性の涵養</li> <li>8. 組織デザインの戦略的構築・変革</li> <li>9. 組織運営とパーパス</li> <li>10. 知的相互作用促進におけるファシリテーション機能</li> <li>11. 課題解決に向けたプロセス設計</li> <li>12. コンフリクト解決への取り組み</li> <li>13. 組織市民活動にみる行動変容</li> </ol>			

科目名	経営組織論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(10%)、レポート課題(30%)、テスト(60%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。授業内で随時資料を配布。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] だから僕たちは、組織を変えていける 著者名:齋藤徹 出版社:クロスメディア・パブリッシング (978-4-295-40625-9) 大学生のためのコーチングとファシリテーションの心理学 著者名:本山雅英 出版社:北大路書房 (978-4-7628-2868-3)</p>			



科目名	健康・医療心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	庵地 雄太		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

健康・医療心理学に関連する心理支援(ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理社会的課題と必要な支援、保健活動や災害時等における心理的支援)を理解する

[授業概要]

この授業では、心身の健康を保ち向上させてよりよく生きることに関与する心理行動的特徴、心と体の繋がりや予防的観点について学ぶ。また病や不調からの快復だけでなく心身の健康増進を目指して心理学が実践貢献する代表的な活動分野として保健医療分野があり、医療現場における心理支援のニーズや心身の様々な疾患への心理支援を具体的に紹介する。

保健医療分野の心理支援に関する網羅的な基礎知識の習得に加え、実際の医療現場で行われている事例検討を例示しながら、アクティブラーニングを通じてその雰囲気疑似体験してゆく。講師の医療機関での実務経験にも触れながら、医療従事者・多職種チームの一員として求められる心理師像に沿った支援について、講義や議論などを通じて学びを深めてゆく。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

講義2 単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。次の授業のテキストの指定箇所を読み、質問事項を考えておいてください。

[授業計画]

1. 講義 ストレスと心身の疾病との関係「生活習慣と心の健康、ライフサイクルと心の健康」
2. 講義 ストレスと心身の疾病との関係「ストレス症状、心身症」
3. 講義とプレゼンテーション ストレスと心身の疾病との関係「予防の考え方」
4. 講義 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「医療安全、感染対策、医療倫理」
5. 講義とグループワーク 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「精神疾患、リエゾン精神医学、医療倫理」
6. 講義とグループワーク 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「がん、難病、後天性免疫不全症候群、医療倫理」
7. 講義とグループワーク 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「遺伝性疾患、遺伝カウンセリング、医療倫理」
8. 講義とディスカッション 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「QOL」
9. 講義 保健活動における心理的支援「発達相談」
10. 講義 保健活動における心理的支援「うつ、自殺対策、職場復帰支援」
11. 講義 保健活動における心理的支援「依存症、ひきこもり、妊娠・出産・育児」
12. 講義とPBL 保健活動における心理的支援「認知症高齢者」
13. 講義 災害時等の心理的支援「被災者の心身の反応、被災者への支援、心理的応急処置、医療保健領域の災害支援チーム、支援者のケア」

科目名	健康・医療心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	庵地 雄太		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(授業中のワークへの積極的取り組み、50%)、最終試験による理解度確認(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:授業態度(授業中のワークへの積極的取り組み、50%)、最終試験による理解度確認(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業態度(授業中のワークへの積極的取り組み、50%)、最終試験による理解度確認(50%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度(授業中のワークへの積極的取り組み、50%)、最終試験による理解度確認(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度(授業中のワークへの積極的取り組み、50%)、最終試験による理解度確認(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度(授業中のワークへの積極的取り組み、50%)、最終試験による理解度確認(50%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  健康・医療心理学 入門 著者名:島井哲志、長田久雄、小玉正博 編 出版社:有斐閣 (9.78E+12)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	行動経済学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済行動の決定や選択に影響を及ぼす感情的側面のしくみを理解できる。</li> <li>2. 不合理行動の特徴を示す基礎知識や代表的な理論を習得する。</li> <li>3. 現実の様々な現象における不合理性を見抜く思考力や改善に必要な視点を身につける。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>経済行動における人間の心理や感情的側面の影響を重視し、心理学的視点を取り入れることで近年非常に発展してきている行動経済学の知見への理解を深める。そのために、行動経済学が誕生し、発展してきた背景要因を明らかにし、その研究の展開過程を概観する。そして、これまでに得られてきた行動経済学における具体的な知見をとり上げて紹介し、従来の経済学の考え方と比較しながら、あらたな視点についてその特色や意義を把握する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学一般を基本とし、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市場において需要と供給の均衡をもたらす条件</li> <li>2. 伝統的な市場や参加者に関する特性の設定</li> <li>3. 情報の非対称性や不合理性の存在</li> <li>4. 意識のシステムと学習</li> <li>5. 認知的節約による不合理行動(編集:要素の単純化)</li> <li>6. 本能的な評価による不合理行動(価値関数)</li> <li>7. 近視眼的な本能による不合理行動(時間選好、時間不整合性)</li> <li>8. 不確実性による不合理行動(ヒューリスティックと過重関数)</li> <li>9. 自己奉仕バイアス</li> <li>10. プロスペクト理論の構成要素</li> <li>11. 過重関数と評価</li> <li>12. 企業活動におけるアプローチ</li> <li>13. 公正性と自己利益の追求(社会的選好と戦略的互酬性)</li> </ol>			

科目名	行動経済学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中の課題(10%)、レポート課題(30%)、テスト(60%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・授業中の課題、レポート課題は、授業内でフィードバックします。  ・試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし。授業内で随時資料を配布。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  行動経済学入門 著者名:筒井義郎 他 出版社:東洋経済新報社 (978-4-492-31497-5)</p>			

科目名	公認心理師の職責	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎、前田 研史、小原 依子、曾山 いづみ、池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公認心理師の役割について理解する。</li> <li>2. 公認心理師が有する職業的責任について理解する。</li> <li>3. 公認心理師の法的義務と倫理を理解する。</li> <li>4. 公認心理師が働く主要5分野での具体的な活動内容を把握する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>この授業では国家資格者である公認心理師が心理専門職として活動していく上で必要な法的義務及び倫理等について学ぶ。保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野における公認心理師の業務、必要な技能、多職種連携及び地域連携等について、具体的な活動の紹介を交えて理解を深めていく。なお、適宜ディスカッションを取り入れながら、より実践的な知識の修得と理解を目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて 4時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.公認心理師とはどのような資格か: 国家資格成立の経緯、名称、職務 (巢黒)</li> <li>2.公認心理師に必要な技能 :コンピテンシー、コアコンピテンス (巢黒)</li> <li>3.心理支援の専門職になるために :科学者—実践家モデル(小原)</li> <li>4.心理支援の専門職として働くために :問題解決能力と生涯学習 研鑽と卒後研修 (巢黒)</li> <li>5.公認心理師の法的義務と倫理 (曾山)</li> <li>6.支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る: 職業倫理7原則、守秘義務(巢黒)</li> <li>7.連携と情報の適切な取り扱い: 守秘義務、情報共有の内容と範囲 多職種連携、地域連携 (巢黒)</li> </ol> <p>以降、各論で主な職務、この分野で働くための必要な知識と視点、関係職種や機関との連携の在り方を扱う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8.保健医療分野で働く (池尻)</li> <li>9.福祉分野で働く (前田)</li> <li>10.教育分野で働く(曾山)</li> <li>11.司法・犯罪分野で働く(曾山)</li> <li>12.産業・労働分野で働く(池尻)</li> <li>13.まとめと振り返り (曾山、巢黒)</li> </ol>			

科目名	公認心理師の職責	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎、前田 研史、小原 依子、曾山 いづみ、池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] リアクションペーパー: 20%、確認テスト・小レポート: 30%、試験: 50%で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] リアクションペーパーに対して次回授業冒頭で回答、コメントする。 講義中または次回以降の講義中に解説を行う。 試験後、解答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法: 確認テスト、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法: リアクションペーパー</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 公認心理師の職責(公認心理師スタンダードテキストシリーズ1) 著者名: 下山晴彦(監修, 編集), 佐藤隆夫(監修), 本郷一夫(監修), 慶野遥香(編集) 出版社: ミネルヴァ書房 (978-4623086115)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 公認心理師の職責(公認心理師の基礎と実践) 著者名: 野島 一彦(著, 監修, 編集), 元永 拓郎(著), 繁樹 算男(監修) 出版社: 遠見書房 (978-4866160511) 心理職の専門性-公認心理師の職責- 著者名: 吉川 眞理(著), 平野 直己(著) 出版社: NHK出版 (978-4595321849)</p>			

科目名	心の脳科学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. こころの働きと脳の活動の関連を探る方法のひとつとして脳損傷時のこころの働きを観察する方法(神経心理学)があることを知り、その代表的知見を学ぶ。</li> <li>2. 脳の構造や機能を調べる方法である各種の脳画像検査の原理を学び、特徴を説明することができる。</li> <li>3. こころの働きの背景に脳の活動が関連していることを理解する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>こころの働きと脳の活動の関連を探る方法のひとつとして脳損傷時のこころの働きを観察する方法(神経心理学)がある。本授業では、神経心理学の代表的知見を振り返ることによって、こころの働きの背景に脳の活動が関連していることを理解する。また、脳の構造や機能を調べる方法である各種の脳画像検査の進歩や原理、特徴を学ぶ。さらに最近の基礎あるいは実験脳科学の知見を批判的見地も含めて紹介し、こころの働きと脳の活動との関連について考える。適宜、担当教員が医師として経験した症例を提示し、理解を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.総論(こころと脳の関係、研究手法の種類と特徴)</li> <li>2.生態情報の画像化技術-脳形態イメージング、脳機能イメージング-</li> <li>3.記憶の脳科学</li> <li>4.感情の脳科学</li> <li>5.意思、思考の脳科学</li> <li>6.親子関係、養育の脳科学</li> <li>7.自尊心の脳科学</li> <li>8.社会性の脳科学</li> <li>9.加齢の脳科学</li> <li>10.対話の脳科学</li> <li>11.創造性、芸術の脳科学</li> <li>12.時間の脳科学</li> <li>13.まとめ(テストと解説を含む)</li> </ol>			

科目名	心の脳科学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中のリアクションペーパー(33%)、レポート(10%)、テスト(57%)で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中の課題は授業内でフィードバックする。 レポートについては学期内に個別コメントとともにフィードバックする。 学期末試験については、答案回収後、解答の解説をおこなう。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法:授業中のリアクションペーパー(33%)、レポート(10%)、テスト(57%)で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中のリアクションペーパー(33%)、レポート(10%)、テスト(57%)で評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中のリアクションペーパー(33%)、レポート(10%)、テスト(57%)で評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中のリアクションペーパー(33%)、レポート(10%)、テスト(57%)で評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中のリアクションペーパー(33%)、レポート(10%)、テスト(57%)で評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] レジメを作成し、manabaにアップロードする。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 知・情・意の神経心理学 著者名:山鳥重 出版社:青灯社 (9784862280268)</p>			



科目名	コンピュータネットワーク		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	西本 実苗			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1. インターネットの基本的な仕組みを理解するとともに、電子メールなどインターネット上のサービスの特徴を理解し、説明できる。</p> <p>2. 現代社会におけるインターネットのポジティブな側面(光)とネガティブな側面(影)について理解を深め、インターネットを適切に利用できる。</p> <p>3. ネットワーク社会において安全に活動するという観点から、情報セキュリティについて基本的な事項を理解し、説明できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>インターネットをはじめとする、コンピュータ等の機器が相互に接続され構成されるコンピュータネットワークは現代社会を支える基盤となっている。本科目ではコンピュータネットワークの技術的基盤の概要について学び、高度情報化社会におけるインターネット利用の諸相について理解を深める。また、インターネット利用にはポジティブな側面(光)とネガティブな側面(影)の両面があることを理解し、インターネットを適切かつ安全に利用するためにはどのようにすべきか主体的に考え、判断し、行動できるようになることを目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について授業資料の該当する箇所を通読し予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身近なコンピュータネットワーク①</li> <li>2. 身近なコンピュータネットワーク②</li> <li>3. コンピュータの仕組み</li> <li>4. コンピュータネットワークの仕組み</li> <li>5. インターネットの仕組み①</li> <li>6. インターネットの仕組み②</li> <li>7. インターネットの仕組み③</li> <li>8. 情報セキュリティ①</li> <li>9. 情報セキュリティ②</li> <li>10. コンピュータウイルスと感染対策</li> <li>11. インターネットと個人情報保護</li> <li>12. 情報セキュリティとリスクマネジメント</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	コンピュータネットワーク	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		

[ 成績評価方法 ]

毎回の授業時に出题する課題が70%、試験が30%の比率で総合的に判断して評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

授業時に出题する課題については、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。試験については、答案回収後、問題の解説をおこない、その上で質問を受け付ける。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。

成績評価方法:毎回の平常課題、試験

学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。

成績評価方法:毎回の平常課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の平常課題、試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の平常課題、試験

[ 教科書(ISBN) ]

授業資料を作成し配布する

[ 参考書(ISBN) ]

インターネットの光と影Ver.6:被害者・加害者にならないための情報倫理入門 著者名:情報教育学研究会(IEC)情報倫理教育研究グループ 出版社:北大路書房 (9.78E+12)

情報セキュリティ読本 六訂版 著者名:情報処理推進機構 出版社:実教出版 (9.78E+12)

絵でわかるネットワーク 著者名:岡嶋 裕史 出版社:講談社 (9.78E+12)

絵でわかるサイバーセキュリティ 著者名:岡嶋 裕史 出版社:講談社 (9.78E+12)

科目名	サービスデザイン心理学		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	三浦 玉緒			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1、マーケティングの基本を理解する  2、サービス・マーケティングの基礎的な知識を身につける  3、消費者心理がもたらすサービスの課題と対策について、様々な枠組みを用いて説明することができる</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>マーケティング研究は、モノを対象に発展してきましたが、日本だけでなく、世界の産業は、製造業からサービス業、情報産業に移行してきており、モノとサービスの垣根もだんだんとなくなってきました。サービス・マーケティングでは、モノとサービスの違い、サービスの特徴、消費者心理を理解した上で、マーケティングを実践する様々な方法が提案されています。サービス・マーケティングの基本知識を習得し、サービスに関わる事例を用いて、消費者心理がもたらす課題と対応について理解を深めます。</p> <p>企業における実務経験がある者が、その経験を活かして、事例として紹介することにより、授業内容の理解を助けます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃から新聞やニュースで取り上げられるサービスに関わるビジネスに興味を持ち、わからない言葉は調べ、授業の内容に関連付けて理解することを心がけてください。  各回、予習復習合わせて 4 時間 程度の学修を確保してください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1、マーケティングとは何か  2、サービス・マーケティングとは何か  3、モノとサービスの相違  4、サービス品質  5、サービス商品のプロモーション  6、サービス・エンカウンター  7、サービスの消費行動  8、サービス・リカバリー  9、サービス・トライアングル  10、リレーションシップ・マーケティング  11、ケーススタディ①(パッケージツアーのマーケティング)  12、ケーススタディ②(理髪店のマーケティング)  13、まとめ(グループディスカッション)</p> <p>状況によって、順番および内容を変更することがあります。</p>				

科目名	サービスデザイン心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	三浦 玉緒		
<p>[ 成績評価方法 ] 各回の理解度確認小テスト(90%)、提出物(10%) (小テスト、提出物は、manabaで実施する予定です)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内で解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:各回の理解度確認小テストと提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:各回の理解度確認小テストと提出物</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:各回の理解度確認小テストと提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:各回の理解度確認小テストと提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:各回の理解度確認小テストと提出物</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] レジメ、資料を作成しPDFファイルで配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] サービス・マーケティング入門 著者名:山本昭二 出版社:日経文庫(9.78E+12) ラブロック&amp;ウィルツのサービス・マーケティング 著者名:ラブロック、クリストファー/ウィルツ、ヨッヘン 出版社:桐原書店(9.78E+12)</p>			

科目名	産業・組織心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.組織における人の心理や行動に関する主な概念について説明できる。</li> <li>2.職場で働くうえで関わりのある法律・制度の基礎的な知識を習得する。</li> <li>3.職場における問題に対して必要な心理的支援を理解する。</li> <li>4.仕事と生活の調和の実現やキャリア形成を支援する仕組みについて概説できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>産業・組織心理学は、職場や組織における人間行動を領域としており、本講義では、職場や組織における人間の心理や行動に関わる基礎知識について理解を深める。産業・組織心理学の概念や、労働に関わる法律・制度・支援の基礎を理解するとともに、職場での諸問題についても関心を深め、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学一般を基本とし、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織に属する人間の心理や行動に与える影響 について</li> <li>2. 仕事の動機づけ、ワーク・エンゲイジメント</li> <li>3. 職場組織の構造とコミュニケーション、意思決定、規範</li> <li>4. 組織の風土・文化の形成</li> <li>5. 共働の効果を引き出す組織運営 とリーダーシップ</li> <li>6. 職場でのさまざまな問題やストレス と心理的支援</li> <li>7. 職場の多様性【学外特別講師:ネスレ日本、TOPPAN】</li> <li>8. 仕事と生活の調和</li> <li>9. 様々な働き方</li> <li>10. 職場の安全文化と労働災害への対応</li> <li>11. 労働者の心の健康の保持</li> <li>12. 適切な人材管理と職場生活の安定</li> <li>13. 職業生活設計とキャリアコンサルティング</li> </ol>			

科目名	産業・組織心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中の課題(10%)、レポート課題(30%)、テスト(60%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・授業中の課題、レポート課題は、授業内でフィードバックします。  ・試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:レポート、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし。授業内で随時資料を配布。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  基礎から学ぶ産業・組織心理学 著者名:幸田達郎 出版社:勁草書房(9784326251469)  産業・組織心理学 著者名:加藤容子・三宅美樹 出版社:ミネルヴァ書房(9784623087204)</p>			

科目名	産業カウンセリング		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	佐藤 浩			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	??	グループワーク	??	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他	ロールプレイング	実務経験のある教員による授業	??	

[ 到達目標 ]

- 1、産業・労働分野における産業カウンセリングの成り立ち、役割を説明することができる。
- 2、産業カウンセリング、キャリアカウンセリング、組織支援の理論やスキルを習得する。
- 3、産業・労働分野における「セルフケア」を自身で実施することができる。

[ 授業概要 ]

「産業カウンセリング」とは働く人を対象した「産業・労働分野」でのカウンセリングのスキルの一つであり、キャリア心理学(キャリアカウンセリング)や組織への支援も含まれる。

臨床心理士・公認心理師として、現在、企業内で産業カウンセリングを行なっている担当教員が、人、組織の支援について実例を交えながら講義を進める。授業の中で、ストレスや、心の創造性について学び、体験することで、学習者自身のセルフケアを習得していく。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

開講までに「臨床心理学概論」の教科書「臨床心理学と心理的支援を基礎から学ぶ」の「4節 産業・労働領域の心理専門職(P207)」に目を通すとともに、開講後は、授業中に配布した資料などによる復習をしてください。各回予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1、産業カウンセリングとは(対人支援の中での位置付け、概要、受講への考え方)
- 2、「働く」とは
- 3、産業カウンセリングの歴史
- 4、産業心理職のコンピテンシー
- 5、ストレスとセルフケアについて
- 6、キャリアについて①(キャリア心理学)
- 7、キャリアについて②(キャリアカウンセリング、キャリアコンサルティング)
- 8、危機介入の基礎を知る
- 9、組織へ見立てと関わりを知る
- 10、産業カウンセリングの実際①(個人)
- 11、産業カウンセリングの実際②(組織)
- 12、ポジティブメンタルヘルスについて
- 13、まとめ

科目名	産業カウンセリング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 浩		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回のリアクションペーパー(20%)、レポート課題(30%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  リアクションペーパーは授業毎に提出を求め、次の授業で記載内容を取り上げます。試験については、試験終了後に回答を回収後、回答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。  成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし。資料を配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし。授業内で随時紹介します。</p>			



科目名	社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	秋山 学		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人関係ならびに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。</li> <li>2. 人の態度および行動について、種々の理論を用いて説明できる。</li> <li>3. 集団および文化が個々人の行動に及ぼす影響について概説できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>人間は集団の場においては、個人でいるときには行わないような行動をしてしまうことが少なくない。集団に所属することは、個人にとって精神的居場所となることもあるが、一方では、集団を破壊してしまうような方向に向かわせることもある。このように社会関係や集団関係の場で、人はどのような意識を持ち、行動をとることがあるのか、それはどのような要因によっているのかを文化的要因を含め、具体的な例をとり上げながら検討し、その特徴を明らかにする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>社会・集団心理学のテキスト「ライブラリ 読んでわかる心理学10 読んでわかる社会心理学」を読み、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.社会・集団心理学とは何か</li> <li>2.社会の中の自己</li> <li>3.自尊感情と動機づけ</li> <li>4.態度</li> <li>5.対人認知</li> <li>6.社会的推論</li> <li>7.対人関係</li> <li>8.対人魅力・恋愛</li> <li>9.援助と攻撃</li> <li>10.集団の中での人間関係</li> <li>11.社会的相互作用</li> <li>12.集団のパフォーマンス</li> <li>13.文化の影響, 心の文化差</li> </ol>			

科目名	社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	秋山 学		
<p>[ 成績評価方法 ]  以下の2点を総合し、成績評価を行う。  ● 授業中に実施する小テスト・課題(30%):授業中にresponを用いて、簡単なアンケートを行い、その結果も踏まえて授業を実施する。このため、アンケートへの参加を重視し、成績評価に加味している。  ● 期末テスト(70%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ■ 授業中の課題は、授業内でフィードバックします。  ■ 試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:期末テスト、授業内での課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:期末テスト、授業内での課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業内での小テスト・課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業内での小テスト・課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業内での小テスト・課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業内での小テスト・課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:期末テスト、授業内での小テスト・課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  [ライブラリ 読んでわかる心理学-10 読んでわかる社会心理学, <a href="https://www.saiensu.co.jp/search/?isbn=978-4-7819-1488-6&amp;y=2020">https://www.saiensu.co.jp/search/?isbn=978-4-7819-1488-6&amp;y=2020</a>] 著者名:辻川典文・阿部晋吾・神原 歩・田端拓哉 著 出版社:サイエンス社 (978-4-7819-1488-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	障がい児・障がい者心理学(障害者・障害児心理学)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.身体障害、知的障害、精神障害、発達障害について、それぞれの特徴を理解している。  2.障害者・障害児の心理社会的課題および必要な支援について理解している。  3.医療、教育、福祉など関連する領域における課題と支援のあり方について説明できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>身体障害、知的障害、精神障害、発達障害の概要について説明し、それぞれの障害のある障害者の心理社会的課題や必要な支援のあり方について概説する。また、障害者・障害児の家族がどのようなことに向き合い、あるいは困難を抱えているのか考える。さらに、障害者・障害児に関わるさまざまな法律の実際について理解し、その意義について検討する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回の授業で学んだ内容を、自分自身の障害者や障害児との出会いとの体験と照らし合わせて考えてみる。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.障害者・障害児と法律  2.身体障害の概要(肢体不自由)  3.身体障害の概要(障害者施設の実際;学外特別講師)  4.身体障害の概要(視覚障害、聴覚障害)  5.身体障害を取り巻く心理社会的課題と必要な支援  6.知的障害の概要  7.知的障害を取り巻く心理社会的課題と必要な支援  8.精神障害の概要  9.精神障害を取り巻く心理社会的課題と必要な支援  10.発達障害の概要(自閉スペクトラム症、注意欠如/多動症、限局性学習障害)  11.発達障害を取り巻く心理社会的課題と必要な支援  12.障害児・障害者と家族  13.まとめ</p>			

科目名	障がい児・障がい者心理学(障害者・障害児心理学)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験による</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後に解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 障害者・障害児心理学 著者名:柘植雅義、石倉健二、野口和人、本田秀夫 出版社:遠見書房 (978-4-86616-063-4)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業時に資料を配布する。</p>			

科目名	上級心理学実験演習 I		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	佐伯 恵里奈			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仮説を検証するための実験・調査デザインを組むことができる。</li> <li>2. 実験・調査デザインに基づいた適切なデータの収集・分析ができる。</li> <li>3. 仮説の成否を分析結果に基づき説明し、結果の背景にある心的過程を考察できる。</li> <li>4. 序論から考察まで論理構成の整った実証研究のレポートを作成できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>この科目では、仮説の立案、実験・調査の実施、データの収集、分析を行い、数値化されたデータを通して心の働きを検討する、心理学の実証的アプローチをより専門的に実践できる力を身につけます。  * 実験プログラムや調査用紙を作成するため、履修にあたってはPCの操作に習熟していることが必要です。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学研究法、心理学統計法、心理学実験演習 I・II の内容を復習するとともに、自分の実験・調査テーマを設定するために、関心のあるニュース、論文、著書を日常的に調べてください。レポートの作成に加えて、実験・調査の準備、実施、分析でも授業外での作業が求められます。各回、予習・復習あわせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験法と調査法</li> <li>2. 実験法①内容の説明・実施</li> <li>3. 実験法②データ整理・分析・レポートの作成</li> <li>4. 調査法①内容の説明・実施</li> <li>5. 調査法②データ整理・分析・レポートの作成</li> <li>6. テーマの設定・計画立案①</li> <li>7. テーマの設定・計画立案②</li> <li>8. 実験・調査実施の準備①</li> <li>9. 実験・調査実施の準備②</li> <li>10. 実験・調査の実施</li> <li>11. データの分析①</li> <li>12. データの分析②</li> <li>13. 結果の報告・発表</li> </ol>				

科目名	上級心理学実験演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(30%)レポート(50%), 授業の取り組み態度(20%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 実験・調査の計画内容について、実施前に確認しフィードバックを行います。 レポートは採点后、フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業の取り組み態度・授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業の取り組み態度・授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の取り組み態度・授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の取り組み態度・授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の取り組み態度・授業中の課題・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] レジメ・資料を配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 分析者のためのデータ解釈学入門 著者名:江崎貴裕 出版社:ソシム (978-8026-1290-6)</p>			

科目名	上級心理学実験演習Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	曾山 いづみ			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質的研究法の基本的な考え方を身につける。</li> <li>2. 質的研究における代表的な分析方法を体験し、それぞれの特徴を学ぶ。</li> <li>3. 質的研究を用いた研究計画の立案・実施ができるようになる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>近年、人の心や行動、主観的な体験に迫る方法として質的研究が重視されるようになってきている。主に言葉などの定性的なデータを用いた研究方法である質的研究の基本的な考え方とその特徴、量的研究との相違点について理解を深める。質的研究における代表的な分析方法を実際に体験し、それぞれの特徴を学び、研究目的に適した研究方法を選択するための指針を得る。質的研究を用いた研究計画を立案し、研究を実施し、レポートとしてまとめる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業ごとに課題(論文購読・データ収集・分析等)を提示するため、次回までに行ってくる。授業で取り上げた内容に関連する研究論文に目を通すこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質的研究の基本的な考え方・データ収集の方法とサンプリング</li> <li>2. KJ法</li> <li>3. グラウンテッド・セオリー・アプローチ</li> <li>4. 修正版グラウンテッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)</li> <li>5. 複線径路・等至性アプローチ(TEA)</li> <li>6. ナラティブ分析</li> <li>7. そのほかの質的分析方法①(PAC分析・会話分析など)</li> <li>8. そのほかの質的分析方法②(テキストマイニング・混合研究法など)</li> <li>9. 研究計画の立案</li> <li>10. データ収集・分析①データの精読・分析</li> <li>11. データ収集・分析②リサーチクエスションの精緻化</li> <li>12. 結果・考察</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	上級心理学実験演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中に提示する課題(50%)、レポート課題(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。レポート課題については採点后、各自にフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 臨床心理学を学ぶ⑥ 質的研究法 著者名:能智正博 出版社:東京大学出版会 (978-4-13-015136-8)</p>			



科目名	消費者心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	秋山 学		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費者行動と心理学の接点を理解し、説明できる。</li> <li>2. 価格評価などの価値判断における経済学的な見方と心理学的な見方の差異を理解し、説明できる。</li> <li>3. マーケティングに対する心理学的な理解を深めることができる。</li> <li>4. 消費者行動とインターネット社会のつながりについて理解し、説明できる。</li> <li>5. 自らの消費行動の「くせ」が理解できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>商品やサービスの購買や利用・廃棄に伴う消費行動を心理学の視点から解説していく。消費行動に関わる知覚・認知過程や感情といった心理的要因、家族や友人からの影響要因や、所属集団からの影響などの社会的要因を検討するとともに、特殊詐欺に代表される消費者被害の現状を解説し、受講生自らの消費行動の特徴や問題点を自覚するための手がかりを学ぶ。</p> <p>また、商品を提供する側のマーケティングと消費者の消費行動との関連についても検討していく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学やマーケティングの基本を復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。</p> <p>また、消費(者)行動に関するwebサイトや新聞などに掲載されたニュース(記事)を要約し、各回の授業において提出すること。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費者行動への心理学的アプローチの特徴</li> <li>2. 消費欲求と消費社会</li> <li>3. 広告の心理的効果</li> <li>4. 衝動買いと買い物依存</li> <li>5. 消費者の潜在的情報処理</li> <li>6. 消費者の知覚と感覚</li> <li>7. 消費者の感情</li> <li>8. 消費者と社会的アイデンティティ</li> <li>9. 消費者の意思決定</li> <li>10. 価格と支払いの心理(1) 消費者の価格判断</li> <li>11. 価格と支払いの心理(2) 心理的財布と支払い</li> <li>12. 消費者と対人的影響力</li> <li>13. 欺瞞的説得と苦情行動</li> </ol>			

科目名	消費者心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	秋山 学		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中に回答を求める小テスト・課題(40%)</li> <li>●消費行動に関わるニュース(広告)要約課題(10%)</li> <li>●期末テスト(50%)</li> </ul> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中の課題や小テスト結果は、授業内でフィードバックします。消費行動に関するニュースの要約も興味深いものを、毎回の授業で数編取り上げ、解説を行います。</li> <li>●試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</li> <li>●課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</li> </ul> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める小テスト・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●消費行動に関わるニュース(広告)要約課題</li> <li>●期末テスト</li> </ul> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める小テスト・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●消費行動に関わるニュース(広告)要約課題</li> <li>●期末テスト</li> </ul> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める小テスト・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●消費行動に関わるニュース(広告)要約課題</li> </ul> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める小テスト・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●消費行動に関わるニュース(広告)要約課題</li> <li>●期末テスト</li> </ul> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>消費者心理学 著者名:山田一成・池内裕美(編) 出版社:勁草書房 (978-4-326-25128-5)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p> <p>なし</p>			

科目名	女性とビジネス	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	千田 直毅		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会で仕事を通じて活躍する上で必要な企業経営に関する基礎知識を習得する。</li> <li>2. 企業における女性活躍推進、働き方改革やワーク・ライフ・バランスなどの取組実態と課題を理解し、自身の将来の働き方をイメージすることができる。</li> <li>3. 自身の将来のキャリアについて主体的に考える事ができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>現代社会において、女性が仕事生活と私生活を両立させながら生き生きと働き生きていくために、企業はどのようなマネジメント、支援を行っているのかということ、経営学、とりわけ人的資源管理の理論を用いながら学びます。これまでの日本における女性の社会的位置づけや働き方がどのような変遷をたどり現在の女性活躍推進に繋がっているのかという点に着目しながら解説します。</p> <p>また、働く個人の視点から、将来の自己のキャリアを主体的に形成していくために必要な事は何か、心身の健康を維持しながらワークとライフの両者を充実するために考え、実践すべき事は何かを議論します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回に関連するニュースや新聞記事を検索して自主学習、予習復習合わせて 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 経営学とはどのような学問か</li> <li>2. 企業はどのように社会に役に立っているのか</li> <li>3. 女性労働① 女性労働、女性活躍の歴史</li> <li>4. 女性労働② 現代企業における女性活躍</li> <li>5. ワーク・ライフ・バランス</li> <li>6. 企業における女性活躍推進の実例</li> <li>7. ダイバーシティマネジメント</li> <li>8. キャリアマネジメント</li> <li>9. 自身のキャリアをどう作り上げるか</li> <li>10. 労働とメンタルヘルス</li> <li>11. 働きがいのある職場</li> <li>12. 人と企業のマッチング</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	女性とビジネス	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	千田 直毅		
<p>[ 成績評価方法 ] 講義中に実施するミニツレポート(40%)、試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 講義中に行うミニツレポートの解説を翌週以降の講義内で行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 女性の視点で見直す人材育成 著者名:中原淳ほか 出版社:ダイヤモンド社(978-4478102909) 経験から学ぶ経営学入門 著者名:上林憲雄ほか 出版社:有斐閣ブックス(978-4641184435) ベーシック+ 人的資源管理 著者名:上林憲雄ほか 出版社:中央経済社(978-4502169618)</p>			

科目名	神経・生理心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	正木 慶大		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  人間が他の動物より優れているのは脳神経系が優れているためである。特に脳は高次の神経活動にかかわり、人間の行動に大きく影響を与えている。その脳の一部が傷害された場合、高次脳機能障害と総称される状態を呈する。神経生理心理学の講義では大きく3つの内容を学習するが、以下の3項目を到達目標とする。  ①脳の構造及び脳の各領域の機能やその検査法について説明することができる。  ②記憶、感情等の生理学的反応の機序とその障害について説明することができる。  ③高次脳機能障害の概要について理解し、実際の症例検討を通して、その検査法の問題点を指摘することができる。</p> <p>[ 授業概要 ]  精神科医師として20年以上臨床をしている担当教員が臨床場面の経験などを踏まえて神経・生理心理学をわかりやすく指導する。合間に教員が実際に行った研究や経験した症例も紹介する予定である。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  教科書および参考書の該当分野を予習し、講義が終わった後は講義資料を基に再度復習を実施することが望ましい。小テスト実施時にはそれも復習することが望ましい。各回、予習、復習を合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.オリエンテーション  2.脳神経系の構造及び機能①(解剖・生理)  3.脳神経系の構造及び機能②神経兆候  4.脳神経系の構造及び機能③意識、せん妄、睡眠  5.脳神経系の構造及び機能④脳構造・機能の検査方法  6.記憶、感情等の生理学的反応の機序①記憶とその検査、小テスト①  7.記憶、感情等の生理学的反応の機序②記憶の障害、認知症  8.記憶、感情等の生理学的反応の機序③情動の神経基盤について  9.記憶、感情等の生理学的反応の機序④情動の障害  10.高次脳機能障害の概要①基礎と疾患総論、小テスト②  11.高次脳機能障害の概要②基礎と疾患各論  12.高次脳機能障害の概要③高次脳機能障害症例検討  13.神経心理学の展開:発達障害、小テスト③</p>			

科目名	神経・生理心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	正木 慶大		
<p>[ 成績評価方法 ]            基本的には小テスト3回(30点)、最終試験(70点)で評価する。            ただし悪天候や感染症等でテスト実施できない場合など別途レポート等を課す場合もある。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            小テストについてはWebシステムを使用して実施する。試験分野の教科書を読み、問題を解けるようにしてください。最終試験も、同様に教科書から出題する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。            成績評価方法:小テスト(10点×3回)および本試験(70点)</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。            成績評価方法:小テスト(10点×3回)および本試験(70点)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢            成績評価方法:小テスト(10点×3回)および本試験(70点)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力            成績評価方法:小テスト(10点×3回)および本試験(70点)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]            臨床神経心理学 第2版 著者名:緑川晶、山口加代子、三村将 出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-26678-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]            病気がみえるシリーズ vol. 7            脳・神経 第2版            出版社:医療情報科学研究所 (978-4-896-32686-4)</p>			

科目名	人体の構造と機能・疾患(人体の構造と機能及び疾病)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人体の構造と機能及び疾病の概要を述べることができる。</li> <li>2 身体機能とところの関連(心身相関)を説明することができる。</li> <li>3 がんや難病をもつ人の心理やその支援について、主体的に考えることができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>本授業では、人体の構造と機能や心身相関について学習した後、日常で経験し得る状況を想定し、予習に基づく反転授業や教育動画を一部用いて、疾病や一次予防について学ぶ。また、がんや難病をもつ人やその他の疾病をもつ人に対してどのような心理的支援が可能かを、グループワークを通じて主体的に考える機会をもつ。適時、担当教員が医師として経験した症例を提示して理解を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>1回目授業で説明予定。各回、予習して疑問点を明らかにしておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 シラバスの説明、プレテスト、人体の各器官の構造と機能</li> <li>2 生命維持と自律神経系、概日リズム</li> <li>3 検診(出生前、出生後、学校、職場、がんなど)、健診、疾病</li> <li>4 感染症、免疫、ワクチン(HPVワクチンなど)</li> <li>5 妊娠、出産、発達</li> <li>6 生活習慣(食事、運動など)と生活習慣病</li> <li>7 心理的ストレスと依存症</li> <li>8 心理的ストレスと心身症、健康経営</li> <li>9 がんや難病と治療</li> <li>10 がんや難病と支援</li> <li>11 加齢と加齢性疾病、健康長寿</li> <li>12 医療保険制度、介護保険制度</li> <li>13 まとめ(テストと解説を含む)</li> </ol>			

科目名	人体の構造と機能・疾患(人体の構造と機能及び疾病)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内での課題は、授業あるいは次回授業でフィードバックする。  期末試験については、答案回収後に解答の解説をおこなう。  レポートについては、学期内に個別コメントとともにフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  レジメ・資料を作成し、manabaにアップロードする。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			



科目名	心理演習	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎、前田 研史、小原 依子、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、秋山 学		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

- ①心理に関する支援を要する者等との関わり、特にコミュニケーション・心理検査・心理面接・地域支援・多職種連携について、基本的な知識および技能を修得する。主要な心理検査を実際に検査者として他者に向けて説明し導入・実施から採点・集計、解釈及び報告書作成の一連のプロセスを体験する。心理面接の基盤となる傾聴技法を段階的に習得する。
- ②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握から支援計画の作成の流れを理解する。
- ③心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチがどのようなものかを理解し、必要なコミュニケーションができる。
- ④多職種連携および地域連携について、基本的な水準で理解することができる。
- ⑤公認心理師の職業倫理および法的義務を理解する。

[授業概要]

この授業では、支援実践の場で使用頻度の高い心理検査各種を実施から集計、解釈、報告書作成するまでの一連の流れを体験的に習得する。また、心理面接として必要な傾聴スキルをマイクロカウンセリング技法に則してロールプレイにて習得する。1クラス15名を上限として2クラスに分かれて演習形式で実施する。  
また、下記4点については講義で実例を通じて実際の在り方を知り、ディスカッションにより多角的に理解を深める。

- ・心理に関する支援を要する者等の問題の理解とニーズを把握しての支援計画の作成
- ・心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
- ・多職種連携及び地域連携
- ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

さらには4年次「臨床心理実習」に向いた際に臨床実践の場で着目すべきポイントをあらかじめ把握しておく。なお、本科目「心理演習」は公認心理師法の規定する公認心理師となるために必要な科目である。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回の講義について予習・復習を行うこと(各回予習・復習合わせて1時間程度)。

[授業計画]

- 第1回 心理に関する支援を要する者等とのコミュニケーション ー心理支援関係の構築
- 第2回 公認心理師の職業倫理と法的義務の理解
- 第3回 心理に関する支援を要する者等との心理面接 ー傾聴スキルのロールプレイ
- 第4回 心理に関する支援を要する者等との心理面接 ー質問と応答のロールプレイ
- 第5回 心理に関する支援を要する者等との心理面接 ー複数の支援対象のロールプレイ
- 第6回 支援ニーズの把握、ケースフォーミュレーション、支援計画の立て方
- 第7回 心理検査のロールプレイとフィードバック ー質問紙法:性格・症状評価尺度
- 第8回 心理検査のロールプレイとフィードバック ー投影法:描画法
- 第9回 心理検査のロールプレイとフィードバック ー神経心理検査、発達検査実施
- 第10回 心理検査のロールプレイとフィードバック ー発達検査 解釈
- 第11回 多職種連携におけるコミュニケーション ー知識と技術
- 第12回 多職種連携におけるコミュニケーション ーチームアプローチの実際
- 第13回 地域支援、まとめ

科目名	心理演習	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎、前田 研史、小原 依子、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、秋山 学		
<p>[ 成績評価方法 ]  グループワーク、ロールプレイへの参加姿勢やディスカッション(40%)  各回の授業の振り返りや質疑を反映したリアクションペーパー(30%)  レポート課題(30%)  により到達目標に関する到達度の確認をおこなう。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説する。リアクションペーパーに対して次回授業冒頭で回答、コメントする。課題内容に応じては適宜 manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:ディスカッション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:ディスカッション、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:リアクションペーパー、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション、リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション、リアクションペーパー、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:ディスカッション、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  プリント配布  公認心理師の職責(公認心理師スタンダードテキストシリーズ1) 著者名:下山晴彦(監修,編集),佐藤隆夫(監修),本郷一夫(監修),慶野遥香(編集) 出版社:ミネルヴァ書房(978-4623086115)</p>			

科目名	心理学概論 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 心理学の成り立ちを理解する。</li> <li>2, 人間が周囲の世界をどのように捉え、新たな行動を学習するのか、その基本的仕組みを知る。</li> <li>3, 言語や思考の機能について理解する。</li> <li>4, 社会的存在としての人間に見られる特有の行動について理解する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>学問としての心理学が成立した経緯とその発展過程の歴史を明らかにする。その上で、人が感覚器官を通してどのように周りの世界を知覚し、記憶として保存しているのか、また、経験したことを学習するメカニズムはどのようなものかについて検討する。そして、人が行動する際の動機づけや、感情・情動体験について見ていく。さらに、物事を認知し、思考する能力とは心理学的にどのように理解されるのか明らかにする。社会や集団関係の中でどのような影響を受け、行動していくのかについても見ていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回の授業で学び考えたことを復習し、自分自身の日常生活で出会う体験と照らし合わせて理解を深めること。各回、予習、復習合わせて4時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理学の歴史と方法</li> <li>2.感覚と知覚の心理学</li> <li>3.学習の心理学(古典的条件づけ)</li> <li>4.学習の心理学(オペラント条件づけ)</li> <li>5.欲求感情と動機づけ</li> <li>6.記憶</li> <li>7.言語・思考・認知(乳幼児期)</li> <li>8.言語・思考・認知(児童期以降)</li> <li>9.社会的行動(対人認知・対人魅力)</li> <li>10.社会的行動(社会的態度)</li> <li>11.社会的行動(集団行動)</li> <li>12.心理学の生物学的基礎</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	心理学概論 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験による</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後に解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:試験による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 心理学概論－こころの理解を社会へつなげる－ 著者名:日比野英子(監修)永野光朗・坂本敏郎(編) 出版社: ナカニシヤ出版 (978-4-7795-1326-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業時に資料を配布する。</p>			

科目名	心理学概論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の心の発達過程の諸相を捉える力を身につける。</li> <li>2. 個々人を特徴づけるパーソナリティはどのように理解されるのか、代表的な理論について理解する。</li> <li>3. 心が抱える可能性のある諸問題と、それに対する支援のあり方の基本を把握する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理学概論Ⅱでは、心の発達過程を乳幼児期から高齢期まで生涯にわたって続く過程として捉え、それぞれの発達段階ごとの特徴をみていく。また、パーソナリティを理解するためのアプローチの仕方について理解し、パーソナリティ形成のプロセスを検討する。さらに、人が心理的に問題を抱えるとはどのような状態で、そのメカニズムはどのようなになっているのか、そして、心理的問題を抱えた人に対する援助のあり方にはどのようなものがあるのかを概観していく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回の授業で学び考えたことを復習し、自分自身の日常生活で出会う体験と照らし合わせて理解を深めること。 各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達と発達課題</li> <li>2. 乳幼児期の発達</li> <li>3. 児童期の発達(認知発達)</li> <li>4. 児童期の発達(情緒発達)</li> <li>5. 青年期の発達</li> <li>6. 成人期・高齢期の発達</li> <li>7. パーソナリティ(類型論・特性論)</li> <li>8. パーソナリティ(力動的アプローチ)</li> <li>9. ストレスと健康</li> <li>10. 心理テストと心理学</li> <li>11. 臨床心理学の理論と方法(精神分析療法・コング心理学)</li> <li>12. 臨床心理学の理論と方法(人間性心理学・認知行動療法)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	心理学概論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験による</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後に解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:試験による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 心理学概論—こころの理解を社会へつなげる— 著者名:日比野英子(監修)永野光朗・坂本敏郎(編) 出版社:ナカニシヤ出版 (978-4-7795-1326-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業時に資料を配布する。</p>			

科目名	心理学基礎演習		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	曾山 いづみ、佐伯 恵里奈、西本 実苗、吉川 祐介、池尻 義隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  情報収集を行い、その内容を適切にまとめ、整理することができる。  学術的な文章の読み方・書き方を身につけ、自らの考えや調べた事柄をレポートとしてわかりやすく論理的な文章にまとめることができる。  プレゼンテーションに必要な基礎的スキルを身につけ、グループで効果的な発表をすることができる。  課題やグループワークに自主的かつ積極的に取り組む姿勢・態度を身につけ、社会的視点を踏まえ、より発展した心理学研究に取り組むための素地ができる。</p> <p>[ 授業概要 ]  本授業では、心理学を学ぶ上で基本となるスキル(必要な情報を調べる・まとめる・整理する・調べた内容をもとにレポートを書く/プレゼンテーションをする)を養うとともに、心理学の様々な理論を通じて各自の興味・関心を育てていくことを目指す。これらを通して、「社会とつながりながら学ぶ」ために重要となる視点や考え方を育む。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回、予習復習をあわせて4時間程度。各自、次の授業までに指定された資料を読んでくること。また、社会で起こっている出来事に関心を向け、情報収集を行い、自分の考えを深めるようにすること。各自のレポート・発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.オリエンテーション  2.レポートの書き方①:レポートで求められる学術的文章とは  3.レポートの書き方②:学術的な文章の構成  4.図書館利用実習  5.レポートの書き方③:先行研究を調べる、文献・資料の引用の仕方  6.レポートの書き方④:学術的な文章の型に則して内容を適切に要約する、わかりやすく論理的な文章にまとめる  7.グループ別学習①:テーマを設定する  8.グループ別学習②:先行研究を調べる  9.グループ別学習③:先行研究を整理する  10.グループ別学習④:発表の構成を考える  11.グループ別学習⑤:プレゼンテーションの準備をする  12.グループ別プレゼンテーション  13.ディスカッション、まとめ  * 図書館利用実習の日程はクラス単位で調整を行うため、回が前後する可能性があります。</p>				

科目名	心理学基礎演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いつみ、佐伯 恵里奈、西本 実苗、吉川 祐介、池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題(60%)、授業への参加(授業中への取り組みや発表を含む、40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中の課題やレポートは、授業内でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 大学生学びのハンドブック5訂版 著者名:世界思想社編集部 編 出版社:世界思想社 (9.78E+12)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 大学生のためのリサーチリテラシー入門 著者名:山田剛史・林創 出版社:ミネルヴァ書房 (9.78E+12)</p>			



科目名	心理学研究総合演習 I		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	秋山 学、小沢 康英、巢黒 慎太郎、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、栗田 聡子、西本 実苗、吉川 祐介、池尻 義隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の企業やNPO、自治体等とつながりを持ち、実社会での実務を踏まえた課題を理解・説明できる。</li> <li>2. 地域の企業やNPO、自治体等との協働を通して、デザイン思考といった実務を踏まえた課題の解決方法を学習し、実際に解決に向けた試みを行う。</li> <li>3. 「臨床心理」「経営・消費者心理」「メディア心理」各モデルの学修も踏まえ、心理学の学修成果を踏まえた実務上の問題解決を理解・説明できる。</li> <li>4. 学内でのグループワークを通して、集団による問題解決や意思決定の難しさを理解し、その解消にむけた取り組みを地域の企業やNPO、自治体等との協働での実践に活用する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>事業経営の経験をもとに「まちづくり」のコンサルテーションの実務経験をもつ教員などとともに、地域の人々や自治体、企業など連携するフィールドが抱えるさまざまな実際の課題を理解し、グループワークを行いながら心理学的諸側面から分析して解決の方向性を検討する。</p> <p>そのために、地域や企業の人々を招いてその現状や課題について聞き取ったり、各種文献・資料収集による検討、あるいは受講生が実際にフィールドに出かけてその現状を直接体験することを踏まえた参与観察などを通し、さまざまな課題の解決や新たな提案に向かって、心理学の見方・考え方をどのように活かすことができるのかを実践的に学んでいく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>地域の人々や自治体、企業などが抱えている様々な実際の課題について、問題意識をもって探る姿勢を常に持つ。グループワークでの課題について主体的な自己学習を進める。 随時、準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション: 授業の到達目標と授業の進め方、参加フィールド決定(全員)</li> <li>2. 集団問題解決における情報共有や議論の進め方: グループワーク実習①(全員)</li> <li>3. デザイン思考を学ぶ: 実際の課題の解決方法を学習(学外特別講師)</li> <li>4. デザイン思考をグループワーク実践を通して学ぶ: グループワーク実習②(全員)</li> <li>5. 集団内の他メンバーの状態を観ることの重要性: グループワーク実習③(全員)</li> <li>6. 集団極化など集団意思決定における意見集約の難しさ: グループワーク実習④(全員)</li> <li>7. 実際の課題の解説: 企業等の学外のフィールド担当者(ゲストスピーカー)を招き、実際の課題を解説し、現実に即した課題を設定する。(全員)</li> <li>8. 課題取り組み①: 疑問点の明確化(全員)</li> <li>9. フィールド見学・体験(学外実習)①(全員)</li> <li>10. フィールド見学・体験(学外実習)②(全員)</li> <li>11. 課題取り組み②: 課題および疑問点の再確認と課題解決立案に向けた方向性の構築(全員)</li> <li>12. 課題取り組み③: プレゼン準備(全員)</li> <li>13. 発案発表と質疑応答(全員)</li> </ol> <p>※各フィールドの課題や活動内容は大きく異なるため、フィールドごとに授業計画を変更する必要があることに留意すること</p> <p>※夏期休暇中の課題: フィールドワークを行う。フィールドごとに設定したグループにより、各フィールドに出向き、実務上の課題の理解およびグループごとに取りくむ課題の解決に向けたグループワークを、各フィールドの指導に基づき行う場合がある。</p> <p>また、フィールドが遠方の場合、オンラインも活用することもありうる。</p>				

科目名	心理学研究総合演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	秋山 学、小沢 康英、巢黒 慎太郎、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、栗田 聡子、西本 実苗、吉川 祐介、池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加態度(25%)、授業振り返りなどに関するレポート(25%)、プレゼンテーション(25%)、最終レポート(25%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  随時授業内でフィードバックする。個別にも受けつける。  課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]  学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]  教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p>			
[ 教科書(ISBN) ]			

P11300200 [ PPH3-003 ]

[3心]\*前期水4

科目名	心理学研究総合演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	秋山 学、小原 依子、小沢 康英、巢巢 慎太郎、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、栗田 聡子、西本 実苗、吉川 祐介、池尻 義隆		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. 地域の企業やNPO、自治体等とつながりを持ち、実社会での実務を踏まえた課題を理解・説明できる。
2. 地域の企業やNPO、自治体等との協働を通して、デザイン思考といった実務を踏まえた課題の解決方法を学習し、実際に解決に向けた試みを行う。
3. 「臨床心理」「経営・消費者心理」「メディア心理」各モデルの学修も踏まえ、心理学の学修成果を踏まえた実務上の問題解決を理解・説明できる。
4. 学内でのグループワークを通して、集団による問題解決や意思決定の難しさを理解し、その解消にむけた取り組みを地域の企業やNPO、自治体等との協働での実践に活用する。

[授業概要]

「心理学研究総合演習Ⅰ」に続き、事業経営の経験をもとに「まちづくり」のコンサルテーションの実務経験をもつ教員などとともに、地域の人々や自治体、企業などのそれぞれのフィールドが抱える、さまざまな実務上の課題の理解とその解決に取り組む。

各フィールドの課題に関する各種文献・資料収集による検討や、量的あるいは質的な調査、各フィールドでの活動を受講生自身が体験することを踏まえた参与観察などにより理解し、その結果についてデザイン思考などに基づいてグループワークを行い、解決に向けたアイデアを提案していく。こうした活動を通して、実務を踏まえた課題解決に向け、心理学の視点や知見をどのように活かすことができるかを具体的に考える姿勢を学習する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

地域の人々や自治体、企業などが抱えている様々な実際の課題について、問題意識をもって探る姿勢を常に持つ。グループワークでの課題について主体的な自己学習を進める。  
随時、準備学修として各回4時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション: 授業の到達目標と授業の進め方、夏期休暇中に調査した課題の共有(全員)
2. フィールド見学・体験(学外実習)①(全員)
3. フィールド見学・体験に関する振り返りと課題解決に向けた取り組みの検討①(全員)
4. フィールド見学・体験(学外実習)②(全員)
5. フィールド見学・体験に関する振り返りと課題解決に向けた取り組みの検討②(全員)
6. フィールド見学・体験(学外実習)③(全員)
7. フィールド見学・体験に関する振り返りと課題解決に向けた取り組みの検討③(全員)
8. フィールド見学・体験(学外実習)④(全員)
9. 課題解決への取り組みの成果発表に向けての取りまとめ①(全員)
10. 課題解決への取り組み内容に関する、各フィールドとの意見交換(全員)
11. 課題解決への取り組みの成果発表に向けての取りまとめ②(全員)
12. 成果発表会準備: 発表用ポスター作製(全員)
13. 成果発表会(ポスター発表): ディスカッションや交流を通して、様々な視点からのコメントを得て、今後の課題を理解する。(全員)

※各フィールドの課題や活動内容は大きく異なるため、フィールドごとに授業計画を変更する必要があることに留意すること

科目名	心理学研究総合演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	秋山 学、小原 依子、小沢 康英、巢黒 慎太郎、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、栗田 聡子、西本 実苗、吉川 祐介、池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加態度(25%)、授業振り返りなどに関するレポート(25%)、プレゼンテーション(25%)、最終レポート(25%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  随時授業内でフィードバックする。個別にも受けつける。  課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]  学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]  教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○最終レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p>			

P11300210 [ PPH3-004 ]

[3心]\*後期水4

科目名	心理学研究法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 心理学でよく使用される研究法を概観し、心理学における実証的研究法(量的研究・質的研究など)を学び、概要を説明できる。
2. 各研究法の特徴を学び、データを用いた実証的な思考方法を修得する。
3. 研究における倫理を学び、心理学研究を行う上で必要な姿勢と態度を身につける。

[ 授業概要 ]

心理学では目に見えない「心」を扱うからこそ、心理学研究においてはデータに根差して考えることが非常に重要である。この心理学研究法の授業では、どのようにデータを収集し、どのようにデータを分析し、どのような知見を見出すかという研究の一連の流れを理解し、心理学において用いられることの多い代表的な研究法を学び、心理学研究の基本的な考え方を身につける。研究倫理についても理解を深め、研究の計画立案・実施から、分析を行いレポートとしてまとめるまでを体験する。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

各回、予習復習をあわせて4時間程度。授業ごとに課題を提示するため、次回までに行ってくること。授業で取り上げた内容に関連する研究論文に目を通すこと。

[ 授業計画 ]

- 1.心理学における研究とは・研究における倫理
- 2.心理学研究のリサーチデザイン(構成概念・信頼性と妥当性)
- 3.実験法
- 4.調査法(質問紙法)
- 5.観察法
- 6.面接法
- 7.そのほかの研究法①(実践研究・アクションリサーチなど)
- 8.そのほかの研究法②(混合研究法・事例研究・プロセス研究など)
- 9.研究の実際①研究計画の立案
- 10.研究の実際②データ収集
- 11.研究の実際③データの整理・分析
- 12.研究の実際④結果・考察
- 13.まとめ

科目名	心理学研究法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業内で提示する課題(小テスト含む)(30%)、レポート課題(20%)、学期末試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・授業内に提示する課題は、授業時間内でフィードバックします。  ・レポート課題については採点后、各自にフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:小テスト・学期末試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業内で提示する課題・レポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業内で提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:小テスト・レポート・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:レポート・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:小テスト・レポート・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業内で提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  公認心理師スタンダードテキストシリーズ④ 心理学研究法 著者名:監修 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫  編著:三浦麻子・小島康生・平井啓 出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-08614-6)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  心理学研究法[補訂版] 心を見つめる科学のまなざし 著者名:高野陽太郎・岡隆(編) 出版社:有斐閣アルマ  (978-4-641-22086-7)  心理学ベーシック第1巻 なるほど!心理学研究法 著者名:三浦麻子(監修・著) 出版社:北大路書房 (978-4-7628-2966-6)  公認心理師の基礎と実践4 心理学研究法 著者名:村井潤一郎・藤川麗(編) 出版社:遠見書房 (978-4-86616-054-2)</p>			

P11300110 [ PPH2-003 ]

[2心]\*前期金2

科目名	心理学実験演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験計画を立案し心理学実験を行うために必要な基礎的な知識を身につける。</li> <li>2. 実施手続きに則り、適正な実験、調査を実施することができる。</li> <li>3. 行動データの初歩的な分析を行うことができる。</li> <li>4. 心理学論文の形式に沿った、基本的なレポートが作成できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理学では実験、調査を通じてデータを取得し、それらに基づいて心の働きを考えます。この授業では実験・調査を実施する側と実験・調査を受ける側の両方を体験することを通して、心理学実験・調査を行うための基本的な知識を学びます。また得られたデータを分析しそれに基づいてレポートを作成する方法を学び、実験・調査の実施からレポート作成までに必要とされる基礎的なスキルを修得します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>実験・調査で扱うテーマについて予習をするとともに、実習後に学んだ内容、統計手法について十分に復習してください。テーマ毎にレポートの作成が求められます。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション(佐伯・曾山)</li> <li>2.記憶① 実験内容の説明・実験実施(佐伯・曾山)</li> <li>3.記憶② データの整理・分析(佐伯・曾山)</li> <li>4.記憶③ レポート作成(佐伯・曾山)</li> <li>5.スループ効果①実験内容の説明、実験実施(曾山・佐伯)</li> <li>6.スループ効果②データの整理・分析(曾山・佐伯)</li> <li>7.スループ効果③レポート作成(曾山・佐伯)</li> <li>8.ミューリヤー錯視① 実験内容の説明、実験実施(曾山・佐伯)</li> <li>9.ミューリヤー錯視② データの整理・分析(曾山・佐伯)</li> <li>10.ミューリヤー錯視③ レポート作成(曾山・佐伯)</li> <li>11.パーソナルスペース① 実験内容の説明、実験実施(佐伯・曾山)</li> <li>12.パーソナルスペース② データの整理・分析(佐伯・曾山)</li> <li>13.パーソナルスペース③ レポート作成(佐伯・曾山)</li> </ol>			

科目名	心理学実験演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(80%), 授業の取り組み態度(20%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは採点后、フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業の取り組み態度・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 資料を配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 実験実習で学ぶ心理学の基礎 著者名:日本心理学会 日本心理士資格認定委員会(編) 出版社:金子書房(978-4-7608-3131-2)</p>			



科目名	心理学実験演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験計画を立案し心理学実験を行うために必要な基礎的な知識を身につける。</li> <li>2. 実施手続きに則り、適正な実験を実施することができる。</li> <li>3. 行動データの初歩的な分析を行うことができる。</li> <li>4. 心理学論文の形式に沿った、基本的なレポートが作成できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理学では実験、調査を通じてデータを取得し、それらに基づいて心の働きを考えます。この授業では実験を実施する側と実験・調査を受ける側の両方を体験することを通して、心理学実験を行うための基本的な知識を学びます。また得られたデータを分析しそれに基づいてレポートを作成する方法を学び、実験の実施からレポート作成までに必要とされる基礎的なスキルを修得します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>実験・調査で扱うテーマについて予習をするとともに、実習後に学んだ内容、統計手法について十分に復習してください。テーマ毎にレポートの作成が求められます。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション(佐伯・曾山)</li> <li>2.記憶① 実験内容の説明・実験実施(佐伯・曾山)</li> <li>3.記憶② データの整理・分析(佐伯・曾山)</li> <li>4.記憶③ レポート作成(佐伯・曾山)</li> <li>5.スループ効果①実験内容の説明、実験実施(曾山・佐伯)</li> <li>6.スループ効果②データの整理・分析(曾山・佐伯)</li> <li>7.スループ効果③ レポート作成(曾山・佐伯)</li> <li>8.ミューリヤー錯視① 実験内容の説明、実験実施(曾山・佐伯)</li> <li>9.ミューリヤー錯視② データの整理・分析(曾山・佐伯)</li> <li>10.ミューリヤー錯視③ レポート作成(曾山・佐伯)</li> <li>11.パーソナルスペース① 実験内容の説明、実験実施(佐伯・曾山)</li> <li>12.パーソナルスペース② データの整理・分析(佐伯・曾山)</li> <li>13.パーソナルスペース③ レポート作成(佐伯・曾山)</li> </ol>			

科目名	心理学実験演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(80%), 授業の取り組み態度(20%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは採点后、フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。 成績評価方法:授業の取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。プリントを配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 実験実習で学ぶ心理学の基礎 著者名:日本心理学会 日本心理士資格認定委員会(編) 出版社:金子書房(978-4-7608-3131-2)</p>			

科目名	心理学実験演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	秋山 学、尾崎 勝彦、西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[ 到達目標 ]

心理学実験演習Ⅰに続いて、心理学実験演習Ⅱでは主に、質問紙調査法を用いた研究手法を習得することを目的とする。このため、次の3点を目標とする。

1. 研究のテーマ・目標の設定、計画立案、質問紙の作成、調査の実施、データの統計分析、考察までの一連のプロセスを遂行できる。
2. 質問紙調査法に関わるデータ分析の主たる統計手法について理解する。
3. 研究過程に関して、心理学論文の形式に沿った報告書が作成できる。

[ 授業概要 ]

この科目では質問紙調査を用いた研究法について講義と実習を通して学習する。授業の前半ではSD法を用いた質問紙を作成し、調査を実施する。調査で得られたデータを用いて、統計ソフト[JASP,<https://jasp-stats.org/>]を用いて分析を行い、レポートを作成する。

後半ではグループワークを行い、各グループでテーマを設定した上で、リッカート法も用いた質問紙調査票を作成して調査を実施する。調査により収集したデータは統計ソフトを用いて分析し、レポートを作成する。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

本授業と並行して開講される心理統計学(特に記述統計、t検定、分散分析、相関分析)や心理学研究法の学習内容を、本授業の事前に復習してから受講して下さい。作業をした回後は作業のまとめやデータ処理などをしてもらう課題を出す予定です。各回、予習復習併せて2時間程度必要。

[ 授業計画 ]

- 1.オリエンテーション:本演習の狙い、質問紙調査法の特徴、模擬調査への回答(秋山・西本・尾崎)
- 2.質問紙調査法の基礎(SD法①):模擬調査データの分析と報告の仕方(レポート1)、質問紙調査の構成・主な評定尺度法・質問紙の作成(秋山・西本・尾崎)
- 3.質問紙調査法の基礎(SD法②):信頼性と妥当性、調査の実施およびデータ入力・整理(秋山・西本・尾崎)
- 4.質問紙調査法の基礎(SD法③):質問紙調査法に関わる統計手法とデータ分析1(秋山・西本・尾崎)
- 5.質問紙調査法の基礎(SD法④):質問紙調査法に関わる統計手法とデータ分析2(秋山・西本・尾崎)
- 6.質問紙調査法の基礎(SD法⑤):報告の仕方(レポート2の作成に関して)(秋山・西本・尾崎)
- 7.質問紙調査法の実践①:グループワーク:テーマの設定・計画立案(尾崎・西本・秋山)
- 8.質問紙調査法の実践②:グループワーク:質問紙の作成(尾崎・西本・秋山)
- 9.質問紙調査法の実践③:調査の実施(尾崎・西本・秋山)
- 10.質問紙調査法の実践④:データの入力・整理(尾崎・西本・秋山)
- 11.質問紙調査法の実践⑤:データの分析1(尾崎・西本・秋山)
- 12.質問紙調査法の実践⑥:データの分析2(尾崎・西本・秋山)
- 13.質問紙調査法の実践⑦:報告の仕方(レポート3の作成方法(尾崎・西本・秋山))

科目名	心理学実験演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	秋山 学、尾崎 勝彦、西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート1(10%), レポート2(25%), レポート2(35%), 授業への参加・貢献度(30%)を総合的に判断して評価を行う</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポート1については授業内で返却し、修正箇所などをフィードバックする予定です。レポート2は期末レポートに相当します。そのため、必要に応じてレポートの提出までに質問に来てください。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート、授業への参加・貢献度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、授業への参加・貢献度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 心理学研究法 著者名:下山晴彦 監修 出版社:ミネルヴァ書房 (9.78E+12)</p>			

科目名	心理学的支援法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>心理学的な支援を行う支援者の基本的態度を理解する。多数ある心理療法・カウンセリングのうち主要なアプローチの特徴を理解する。また、援助対象として個人だけではなく関係者や組織、地域を含めた視点を持つ。さらには、支援の狙いとして支援を要する人々の困難や不適応を減らすだけでなく心の健康を増進させることも理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理学的な支援の主な方法となる心理面接は、支援を要する者に対して傾聴・相談・助言・指導を行うものである。支援者としての基本的態度、コミュニケーションについて概説し、心理療法の主要なアプローチの各理論や支援技法について、具体的な臨床実践例を適宜紹介しながら理解を深める。また、支援は個人のほか、集団、コミュニティも対象となるため、多様な活動形態を紹介しながら大局的な視点や働きかけの工夫なども触れる。さらには、支援の目的は心理面での不調から回復し困難を減らすことに留まらず、心の健康の保持増進を目指すことも含まれ、予防的な観点や心の健康教育活動の実際についても学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回の講義について予習・復習を行うこと(各回予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.支援者に求められるあり方:倫理、援助的コミュニケーション、</li> <li>2.心理療法の効果と限界、学派と技法の選択、見立て・ケースフォーミュレーション</li> <li>3.心理力動論に基づく支援</li> <li>4.認知行動論に基づく支援①</li> <li>5.認知行動論に基づく支援②</li> <li>6.人間性アプローチに基づく支援</li> <li>7.家族療法に基づく支援</li> <li>8.多様なモード:プレイセラピー、グループセラピー</li> <li>9.多様なモード:非言語やものを媒介としたアプローチ</li> <li>10.コミュニティへの支援:訪問支援、地域支援</li> <li>11.心の健康教育①</li> <li>12.心の健康教育②</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	心理学的支援法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ] 各回の授業の振り返りや質疑を反映したリアクションペーパー(20%)、確認小テスト(20%)、試験(60%)で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:リアクションペーパー</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 公認心理師標準テキスト 心理学的支援法 著者名:杉原保史、福島哲夫、東斉彰(編著) 出版社:北大路書房(9.78E+12)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 心理療法統合ハンドブック 著者名:杉原保史・福島哲夫 編 出版社:誠信書房(4414416787)</p>			

科目名	心理学統計法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.統計に関する基礎的な知識に基づき、実験や調査により得られたデータを適切に集計することができる。</p> <p>2.2変数間の関係性を示す「相関」について理解し、図表や統計的分析結果をもって2変数間の関係性について検討できる。</p> <p>3.統計的仮説検定について理解し、t検定等、心理学分野でよく使われる各種の検定手法を用いて実験や調査により得られたデータを適切に分析することができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理学では人の心や行動について、実験や調査をおこない何らかのデータを収集し、得られたデータの分析をおこなうことが一般的である。そのデータの分析においては、さまざまな統計手法を用いるが、本科目では心理学分野で用いられることの多い各種統計手法について実際の分析例を参照しながら解説し、さらには受講生自ら手を動かしてデータ分析の過程について理解を深め、心理学分野におけるデータ分析について基礎的なスキルを獲得することを目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について授業資料および教科書の該当する箇所を通読し予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.代表値、度数分布表、ヒストグラム</li> <li>2.散布度のいろいろ</li> <li>3.変動係数・正規分布</li> <li>4.パーセンタイル・箱ひげ図</li> <li>5.グラフでデータを視覚化・データの「尺度」とは</li> <li>6.散布図と相関係数</li> <li>7.擬似相関、偏相関係数、独立変数と従属変数</li> <li>8.クロス集計表</li> <li>9.推測統計学、そして仮説検定</li> <li>10.カイニ乗検定</li> <li>11.t検定(2群の平均値の差の検定)</li> <li>12.分散分析(1要因・2要因)</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	心理学統計法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ] 毎回の平常課題が60%、テストが40%の比率で総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 平常課題については、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。 テストについては、答案回収後、問題の解説をおこない、その上で質問を受け付ける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:毎回の平常課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:毎回の平常課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 数学が苦手でもわかる心理統計法入門—基礎から多変量解析まで 著者名:芝田征司 出版社:サイエンス社 (978-4781914084)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業時に紹介する。</p>			



科目名	心理検査法実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  対象者理解のためのアセスメントについて学び、特に心理検査法の実際を中心に実習形式で体験しながら、心理アセスメントの基本を修得することを到達目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ]  心理アセスメント(査定・見立て)は、心理臨床実践において、援助を受ける側(クライアント)の抱える問題等を総合的・包括的に理解するために実施される専門的技法である。  この授業では、クライアント理解のための心理アセスメントの概説と、特に心理検査法の実際を中心にとりあげ、知能検査、発達検査、質問紙法、投影法などの代表的な心理検査を学生同士で実施し合う、あるいは自身が受験者となり実際に実習しながら、各検査結果を集計分析し考えられることをレポートにまとめ、心理アセスメントの基礎的知識を習得していく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  各回の講義について予習・復習を行うこと(各回予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.心理アセスメントとは:検査への動機づけ、支援における心理検査の位置づけ、結果のまとめ方・伝え方  2.知能検査:WAISの紹介、体験  3.発達検査:新版K式発達検査の紹介  4.質問紙法①:質問紙法によるパーソナリティ検査/ YG性格検査の実施と分析(課題1)  5.質問紙法②:エゴグラムの実施と分析(課題2)  6.質問紙法③:ストレスコーピング尺度の実施と分析(課題3)  7.投影法①: 投影法とは / 描画法の紹介、バウムテストの実施と分析(課題4)  8.投影法②: SCT(文章完成法テスト)の実施と分析(課題5)  9.投影法③:PFスタディ、TAT、ロールシャッハテストの紹介、体験  10.作業検査法:内田クレペリン作業検査の体験と解釈(課題6)  11.神経心理学検査の紹介、体験  12.症状評価尺度の紹介、体験  13.振り返りとまとめ</p>			

科目名	心理検査法実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業毎回のコメントシート(30%)、複数回の小レポート(70%)等を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:小レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:小レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:コメントシート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:コメントシート、小レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:コメントシート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:コメントシート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:小レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:小レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:小レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし 授業時に随時資料を配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  精神・心理機能評価ハンドブック 著者名:山内俊雄、鹿島晴雄(編) 出版社:中山書店(978-4-521-74192-5)  ストレススケールガイドブック 著者名:(財)パブリックヘルスリサーチセンター 出版社:実務教育出版(4-7889-6080-X)</p>			

科目名	心理調査概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	秋山 学		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 心理学における実証的研究法に対して、研究倫理や代表的な研究法の基本的な説明ができる。
2. 心理学の研究(実験)計画の立案について、基本的な説明ができる。
3. 心理学における研究データの収集とデータ処理について、基本的な説明ができる。
4. 心理学の研究結果の解釈と報告書の作成について、基本的な説明ができる。
5. 心理学の研究法に関わる基本的な事項に関心を持ち、その基礎的な知識と技能について心理学的観点から批判的に考えることができる。

[ 授業概要 ]

心理調査を必要とする問題・課題をどのように見出せばよいのか、適切な研究方法を設定して実施していくためにはどういった点を考慮しなければならないのか、質問紙調査票を作成する際に求められる倫理的配慮はどのような点にあるのか、また、得られたデータを検証するために必要な統計手法はどのような観点から選択するのかなどといった諸点について概説する。さらに、それらの一連の過程を報告書としてまとめる際の留意点を明らかにする。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

2年前期開講の心理学研究法などを復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

1. 心理調査とは・良い研究を行うために: 心理学研究の倫理(研究参加者との信頼関係&研究知見の再現可能性(疑わしい研究活動を避けるために))
2. 心理調査における数量化の意義および代表的な心理統計技法
3. 実験法の基礎: 統制の重要性を理解する
4. 実験法の実際(1): 模擬データを用いた分析と検討
5. 実験法の実際(2): 実験計画例の批判的検討1
6. 実験法の実際(3): 実験計画例の批判的検討2
7. 実験法の実際(4): 実験計画例の批判的検討3
8. 調査法の基礎: 質問紙調査票の設計
9. 質問紙調査法の実際: 模擬データを用いた分析と検討
10. 観察法の基礎
11. 観察法の実際: 模擬データを用いた分析と検討
12. フィールド研究(写真調査法)
13. 二次分析の基礎と実際

科目名	心理調査概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	秋山 学		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中に実施する小テスト・課題や授業内容に関連した調査への参加(60%)</li> <li>●期末テスト(40%)</li> </ul> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の課題は、授業内でフィードバックします。</li> <li>・試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</li> </ul> <p>課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法:期末テスト、授業内での課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:期末テスト、授業内での課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業内での小テスト・課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業内での小テスト・課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:期末テスト、授業内での課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:期末テスト、授業内での課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>やってみよう! 実証研究入門 心理・行動データの収集・分析・レポート作成をたのしもう 著者名:古谷嘉一郎・村山綾(編) 出版社:ナカニシヤ出版(978-4-7795-14456)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p> <p>心理学研究法 著者名:下山晴彦 監修 出版社:ミネルヴァ書房(9.78E+12) 改訂エンサイクロペディア 心理学研究方法論 著者名:W.J.レイ 出版社:北大路書房(978-4762828065)</p>			

科目名	心理的アセスメント	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	筒井 亮太		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理的アセスメントの目的や倫理を理解できる。</li> <li>2 心理的アセスメントの観点や展開を理解できる。</li> <li>3 心理的アセスメントの方法を理解できる。</li> <li>4 適切な記録や報告ができるようになる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理支援を行ううえで、その根拠となる心理的アセスメントは必須となる。精神医学的な診断と並び、精神力動的見立てや、行動分析的・認知行動論的ケース・フォーミュレーションはなくてはならない技能である。医療や教育や福祉現場で心理検査・アセスメント面接等に従事してきた実務家が、その経験を生かして、心理アセスメントのノウハウを伝える。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>次回授業については、提示された資料やテキストの指定された箇所などをよく読み、十分な予習をして臨むこと。授業中に提示する参考図書なども併せて読むと、学びは深まる。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理アセスメントとは(概論と歴史)</li> <li>2 観察法(行動観察)</li> <li>3 面接法Ⅰ(インテーク面接)</li> <li>4 面接法Ⅱ(アセスメント面接)</li> <li>5 検査法Ⅰ(質問紙法と作業検査法)</li> <li>6 検査法Ⅱ(知能検査と発達検査)</li> <li>7 検査法Ⅲ(投映法)</li> <li>8 まとめ・理論についての解説</li> <li>9 アセスメントの実際(テストバッテリーと実施のコツ)</li> <li>10 アセスメントの解釈と報告</li> <li>11 架空事例Ⅰ(保健・医療・福祉)</li> <li>12 架空事例Ⅱ(教育・産業・司法)</li> <li>13 まとめ・実際についての解説</li> </ol>			

科目名	心理的アセスメント	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	筒井 亮太		
<p>[ 成績評価方法 ] 「授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)」</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法:「授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)」</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:「授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)」</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:「授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)」</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:「授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)」</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:「授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)」</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 公認心理師の基礎と実践⑭——心理的アセスメント 著者名:津川律子・遠藤裕乃(編) 出版社:遠見書房(978-4866160641) プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 実践に学ぶ 30分カウンセリング 著者名:細澤仁・上田勝久(編) 出版社:日本評論社(978-4535563841)</p>			

科目名	精神医学(精神疾患とその治療)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 代表的な精神疾患とその治療について述べるができる。</li> <li>2 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について説明することができる。</li> <li>3 精神保健関連法規やチーム医療について学び、関連職種の役割を述べるができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>本授業では、代表的な精神疾患とその治療(薬物療法、精神療法、リハビリテーションなど)について学び、グループワークを通じて具体的な心理的支援を主体的に考える。また、実際の臨床現場に必要な知識や技能として精神保健関連法規やチーム医療について、特に関連職種の役割や心理職の役割を学ぶ。担当教員が医師として経験した症例を適時提示して理解を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>1回目授業で説明予定。各回、予習して疑問点を明らかにしておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神医学総論</li> <li>2 統合失調症とその類縁疾患</li> <li>3 気分障害</li> <li>4 発達障害</li> <li>5 神経症性障害、パーソナリティ障害</li> <li>6 摂食障害、睡眠障害、リエゾン</li> <li>7 器質性精神疾患、てんかん</li> <li>8 精神作用物質による障害</li> <li>9 検査法</li> <li>10 薬物療法</li> <li>11 関連法規</li> <li>12 チーム医療など</li> <li>13 まとめ</li> </ol>			

科目名	精神医学(精神疾患とその治療)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内での課題は、授業あるいは次回授業でフィードバックする。  期末試験については、答案回収後に解答の解説をおこなう。  レポートについては、学期内に個別にコメントをつけフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の小テスト(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末テスト(35%)。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  レジメ・資料を作成し、manabaにアップロードする。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			



科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.各自が関心をもつ心理学の特定テーマに関する問題意識を高め、文献を読み込むことができる。</p> <p>2.関心をもつテーマについて文献を通して理解を深めることで、効果的なプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>3.プレゼンテーションをもとに、ディスカッションを行い、特定テーマについて多角的な理解を深め合い、より発展した心理学研究に取り組むことができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>臨床心理学を中心とした心理学について、各自が関心をもつ領域やテーマにそった文献を選び、読み込んでいく。その内容について発表資料を作成し、プレゼンテーションとディスカッションをしながら、心理学の専門的テーマへの理解を深め、専門セミナー II へとつなげていく。適時、関連学会・研究会の情報や臨床現場の実習の紹介なども行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学一般の知識や心理学における実験研究・調査研究等の手法について復習をしながら、研究テーマについての発表資料を作成し、ディスカッションのための準備をしておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 文献検索の方法について</li> <li>3. 研究テーマと心理学研究法(実験研究・調査研究・事例研究等)について</li> <li>4. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション①</li> <li>5. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション②</li> <li>6. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション③</li> <li>7. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション④</li> <li>8. 中間まとめ</li> <li>9. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション⑤</li> <li>10. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション⑥</li> <li>11. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション⑦</li> <li>12. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション⑧</li> <li>13. 研究テーマのまとめと専門セミナー II について</li> </ol>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	前田 研史		

[ 成績評価方法 ]  
発表資料作成(20%)、プレゼンテーション(50%)、ディスカッションへの参加態度(30%)で評価します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  
・授業中の課題は、授業内でフィードバックします。  
・課題内容に応じて、適宜manaba・kissシステムを通じて行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]  
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  
成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度

学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  
成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  
成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  
成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  
成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度

[ 教科書(ISBN) ]  
なし。授業内で随時紹介する。

[ 参考書(ISBN) ]  
なし。授業内で随時紹介する。

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	秋山 学		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

- 1.心理学の研究手法について、具体的な研究論文などの資料に基づき、理解し、説明できる
- 2.各自の興味関心に基づいて先行研究を探し、それを読み込み、発表資料を作成の上、発表を行う
- 3.各発表に対して積極的な議論を行う

[ 授業概要 ]

卒業論文のテーマを発見するために、まず専門的な学術論文を読み、その講読を通して研究内容を正確に理解することにあります。  
学術論文独特の記述形式に慣れ、研究方法と研究結果を理解することにより、受講生自身の研究の位置づけと意義を見出しましょう。学術論文の問題点と展望を自分なりに考え、レジュメにまとめ、適切かつ効果的に発表します。そして、他の受講生への適切な質問や意見を表現することを身に付けます。

演習授業における、参考資料などは、授業内で受講生の興味・関心に応じて、適宜指示します。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

先行研究の精読、担当部分のレジュメ作成などに加え、他の受講生の発表資料の復習など、予習復習併せて各回、平均すると2時間程度必要

[ 授業計画 ]

- 第1回 オリエンテーション 授業の全般的な進め方やゼミの運営方法について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。
- 第2回 レジュメの書き方と発表方法 □レジュメの書き方、発表やディスカッションの仕方など基本的な事柄を理解します。また受講生の発表順序や発表内容の概要について検討します。□
- 第3回 剽窃の防止 剽窃とは何か、注意すべき点は何かについて学ぶ。
- 第4回 担当受講生による発表1 担当受講生による発表と全体討論を行います。
- 第5回 担当受講生による発表2 担当受講生による発表と全体討論を行います。
- 第6回 担当受講生による発表3 担当受講生による発表と全体討論を行います。
- 第7回 担当受講生による発表4 担当受講生による発表と全体討論を行います。
- 第8回 担当受講生による発表5 担当受講生による発表と全体討論を行います。
- 第9回 担当受講生による発表6 担当受講生による発表と全体討論を行います。
- 第10回 担当受講生による発表7 担当受講生による発表と全体討論を行います。
- 第11回 担当受講生による発表7 担当受講生による発表と全体討論を行います。
- 第12回 担当受講生による発表7 担当受講生による発表と全体討論を行います。
- 第13回 演習内容のふりかえり 各までの授業のふりかえりと総括を行います。

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	秋山 学		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業内で行う授業への振り返りや、課題の提出 (40%)  授業内での発表 (30%)  期末レポート (30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組むや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組むや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組むや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組むや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組むや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組むや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組むや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組むや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組むや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 心理学の特定テーマに関する理解を深めと分析をできる。</p> <p>[ 授業概要 ] 特定テーマの参考文献を基に、各項目のまとめ、発表を行ったうえで、ディスカッションを行い、レポートを作成する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 特定テーマのまとめ、発表、ディスカッション、レポート作成の各段階において、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 指定項目についてのまとめおよび発表1</li> <li>3. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション1</li> <li>4. 指定項目についてのまとめおよび発表2</li> <li>5. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション2</li> <li>6. 指定項目についてのまとめおよび発表3</li> <li>7. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション3</li> <li>8. 指定項目についてのまとめおよび発表4</li> <li>9. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション4</li> <li>10. 指定項目についてのまとめおよび発表5</li> <li>11. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション5</li> <li>12. 指定項目についてのまとめおよび発表6</li> <li>13. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション6</li> </ol>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(30%)、討論への参加態度(20%)、レポート(50%)による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 世界の学術研究から読み解く職場に活かす心理学 著者名:今城志保 出版社:東洋経済新報社 (978-4-492-53468-7)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜指定する。</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学演習 I	演習	
担当者	栗田 聡子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

①メディア心理学に関連したテーマについて広い視野から探究し、卒業論文に向けてテーマを絞ることができる。  
 ②文献の調べ方、深く読み込む読解力、物事を論理的に考える思考力を身につけることができる。③自ら学んだ知識を、的確なかたちで発表することができる。④自分の考えをわかりやすく他者に伝えるためのコミュニケーション能力を身につけることができる。

[授業概要]

メディア心理学は政治やビジネス、環境・福祉分野等のテーマを含めた極めて広い分野です。卒業論文に備え自らの興味について考え、テーマを絞り、科学的に探究する方法と基礎的技術を修得していきます。さらに、メディア業界で活躍するプロフェッショナルを招き、心理学観点を持つことの有効さ、意義についても共に考えていきます。(4回生になる前にデータ収集を終えることができるよう相談しながら進めます)

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

予習:発表者が選ぶ文献を読み、コメントを考える。  
 自分が発表者の場合は、各自の選んだ文献を読んで発表を準備する。  
 復習:発表に対する様々なコメントから卒業論文に生かせる部分を見つけ、追究する。

[授業計画]

- 1.イントロダクション
- 2.演習の進め方, 卒業論文の書き方など
- 3.メディア心理学のトピックについて
- 4.文献発表とディカッション①
- 5.文献発表とディカッション②
- 6.文献発表とディカッション③
- 7.文献発表とディカッション④
- 8.メディア業界のプロフェッショナルによる特別講義とディスカッション
- 9.文献発表とディカッション⑤
- 10.文献発表とディカッション⑥
- 11.文献発表とディカッション⑦
- 12.文献発表とディカッション⑧
- 13.まとめとディスカッション

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学演習 I	演習	
担当者	栗田 聡子		

[ 成績評価方法 ]

平常点(授業での参加態度・発言・資料読解度)70%・発表と課題 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。

成績評価方法:総合的に判断

学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。

成績評価方法:総合的に判断

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:総合的に判断

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:総合的に判断

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:総合的に判断

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:総合的に判断

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:総合的に判断

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:総合的に判断

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:総合的に判断

[ 教科書(ISBN) ]

資料を配布

[ 参考書(ISBN) ]

資料を配布



科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心のある認知心理学のテーマについて適切な文献を探ることができる。</li> <li>2. 学術論文を分かりやすい形でまとめて、発表することができる。</li> <li>3. 相手の主張を理解し、自分の主張を適切に表明して議論できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>認知心理学は、知覚、注意、記憶、思考といった認知活動の働き・仕組みから私たちのこころと行動を理解しようとする学問領域です。この授業では、認知心理学領域の学術文献を精読することを通して、実際の研究で扱われているトピック、実験・調査手法、分析方法、考察の仕方を学びます。また、文献発表を通して、伝わりやすい発表の仕方と建設的な議論の方法を一緒に考えていきます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>関心のあるテーマをサーベイし、文献を取集すると同時に、新聞やニュースに毎日目を通して社会で起きている出来事についても情報収集してください。予習・復習を含めて4時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 文献の選定</li> <li>3. 認知心理学についての学術文献の発表①</li> <li>4. 認知心理学についての学術文献の発表②</li> <li>5. 認知心理学についての学術文献の発表③</li> <li>6. 認知心理学についての学術文献の発表④</li> <li>7. 中間のまとめ</li> <li>8. 認知心理学についての学術文献の発表⑤</li> <li>9. 認知心理学についての学術文献の発表⑥</li> <li>10. 認知心理学についての学術文献の発表⑦</li> <li>11. 認知心理学についての学術文献の発表⑧</li> <li>12. 認知心理学における研究手法について</li> <li>13. 全体のまとめ</li> </ol>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における発表:40% 議論への参加度:30% レポート:30%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 発表後にフィードバックを行います。レポートについても採点した後フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:授業における発表・議論への参加度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:議論への参加度・授業における発表・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・議論への参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・議論への参加度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:議論への参加度・授業における発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:議論への参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・議論への参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・授業における発表・議論への参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・授業における発表・議論への参加度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 資料を配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業で適宜案内します。</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 各自が心理学の特定テーマに関する問題意識を高め、2024年度後期「専門セミナー II」での取り組みに発展させることができる。</p> <p>[ 授業概要 ] ゼミ担当教員の指導のもとに、心理学の各領域に関する文献を講読する。おもに「臨床心理学」「健康心理学」「心理療法」「認知行動療法」などの領域から、ゼミ担当教員の専門領域を中心に、各自が関心をもつ領域・テーマにそった文献をえらび、順番に発表を担当する。その内容について発表資料を作成して紹介しあい議論しながら、心理学の専門的テーマへの理解を深めていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 心理学一般の知識や心理学における実験研究・調査研究などの手法について復習をしながら、研究テーマについての発表資料を作成し、ディスカッションのための準備をしておくこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 文献検索の方法について</li> <li>3. 先行研究や最新データについて</li> <li>4. 心理学研究法(文献研究、事例研究)について</li> <li>5. 心理学研究法(調査研究、実験研究)について</li> <li>6. 文献研究についての発表とディスカッション①</li> <li>7. 文献研究についての発表とディスカッション②</li> <li>8. 文献研究についての発表とディスカッション③</li> <li>9. 文献研究についての発表とディスカッション④</li> <li>10. 文献研究についての発表とディスカッション⑤</li> <li>11. 文献研究についての発表とディスカッション⑥</li> <li>12. 文献研究についての発表とディスカッション⑦</li> <li>13. 各研究テーマのまとめ</li> </ol>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表 (60%)、討議への参加態度 (40%)による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 発表に対しては授業中に即時コメントやアドバイスを与える。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし。必要に応じて資料を配布する。</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  文献検索(専門書・論文)を行い、自分の問題意識・興味・関心に沿った適切な先行研究にアクセスできるようになる。  先行研究の概要を理解し、適切に要約できる。  自分の興味・関心のあるテーマが心理学ではどのように研究されてきたか概要を説明できる。  自分の興味・関心のあるテーマを研究するために適切な研究方法を複数説明できる。  先行研究を参考にして、卒業論文に向けた研究計画を立てることができる。</p> <p>[ 授業概要 ]  卒業論文に向けて、自らの興味・関心に沿った先行研究(専門書・心理学の学術論文)の検索の仕方を学びます。  先行研究の購読・発表・ディスカッションを通して自らの興味・関心・問題意識を育てていきます。興味関心に応じて、グループでの予備的研究に取り組むことも検討しています。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  提示する課題(文献検索・文献購読・発表準備等)を事前に行ってくる。終了後は関連する論文に目を通すこと。事前・事後学習あわせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.オリエンテーション  2.文献検索の方法(日本語論文・英語論文)  3.文献購読①(臨床心理学全般)  4.文献購読②(臨床心理学、子どもに関する研究)  5.文献購読③(臨床心理学、思春期に関する研究)  6.文献購読④(家族心理学全般)  7.文献購読⑤(家族関係に関する研究)  8.文献購読⑥(親子関係に関する研究)  9.文献購読⑦(きょうだい関係に関する研究)  10.文献購読⑧(質的分析を用いた研究)  11.リサーチクエスションの設定  12.研究計画の立案  13.まとめ</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表60%、授業への参加(ディスカッション)40%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 三訂版 心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために 著者名:松井 豊 出版社:河出書房新社 (978-4-309-25449-4)</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学からマーケティングやまちづくりなどにつながる研究トピックにどのようなものがあるかを把握する。</li> <li>・関連する文献を読み込む能力を養う。</li> <li>・各自、卒業論文につながる具体的な研究テーマを発見する。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理学につながるマーケティングやまちづくりの諸分野が扱う研究課題について、文献を読み込み、現在取り組む実務のフィールドに赴き理解を深め、自らの興味のある研究テーマの発見とその分析方法の習得へとつなげる。授業では、各回で取り上げる研究分野の基本的事項を教員が解説し、フィールドで理解を深めたうえで、関連する文献を紹介する。その後、各回のトピックにそってどんな研究テーマが立てられるかを、個人またはグループで検討し、発表する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>予習:各回に取り上げる研究分野に関連して事前に調査し、興味深いと思う研究テーマをあらかじめ考えておく。  復習:配布資料や講義内容を振り返り、理解を深めておく。  ※各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに:自己紹介・本セミナーについて</li> <li>2. マーケティングやまちづくりの諸分野の紹介</li> <li>3. マーケティング(STP)</li> <li>4. マーケティング(エフェクチュエーション)</li> <li>5. フィールドワーク</li> <li>6. 関連文献の紹介</li> <li>7. まちづくり(商業/観光)</li> <li>8. まちづくり(地域ブランド)</li> <li>9. フィールドワーク</li> <li>10. 関連文献の紹介</li> <li>11. レポート・論文の構成、参考文献の調べ方、記し方</li> <li>12. レポート・論文にふさわしい文体</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>※早期に研究フィールドが確定した学生がおり、理解を深めるにより有用な場合、フィールドワークでの学びを優先することがある。</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、授業中の発表(30%)、レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			



科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

各自が心理学とその隣接分野の特定のテーマに関する理解と知識およびその研究方法論を修得すること。

[ 授業概要 ]

ゼミ担当教員の指導のもとに、各自の関心のある心理学とその隣接分野の研究の文献を精読し、発表と討議を行うことにより、卒業研究に必要な基礎知識の修得を目指す。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

前回の授業内容について授業資料等で復習し、次回の予習や発表資料の準備をすること。  
各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1.オリエンテーション
- 2.文献や資料検索の方法
- 3.発表資料の作成と発表形式について
- 4.選択した文献(資料)についての発表と討議①
- 5.選択した文献(資料)についての発表と討議②
- 6.選択した文献(資料)についての発表と討議③
- 7.選択した文献(資料)についての発表と討議④
- 8.選択した文献(資料)についての発表と討議⑤
- 9.選択した文献(資料)についての発表と討議⑥
- 10.選択した文献(資料)についての発表と討議⑦
- 11.選択した文献(資料)についての発表と討議⑧
- 12.選択した文献(資料)についての発表と討議⑨
- 13.まとめ

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(60%)、討議への参加態度(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] フィードバックは授業内で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 卒業論文のデザイン 質問紙調査による社会心理学研究 著者名:川浦 康至 出版社:福村出版 (978-4571250620)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業時に紹介する。</p>			

科目名	専門セミナーⅠ		前期	2単位
サブタイトル			演習	
担当者	池尻 義隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 神経心理学の古典症例や代表的知見を学ぶ</li> <li>2 具体的な研究疑問をたて、仮説とともに議論することができる</li> <li>3 実行可能な研究計画を立案し、遂行、論文化できる</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>神経心理学に関する国内外の古典文献の精読と関連学会のシンポジウムや発表の知見の抄読を通じ、各自の関心テーマや具体的問いを決め、その解決法を探り、提案し、全員で討議する。その後、研究計画の立案、実行、論文化の準備を進める。担当教員の臨床研究経験を適宜紹介し、理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 振り返りエンターション</li> <li>2. 言語症に関する古典文献の紹介と精読、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>3. 失認症に関する古典文献の紹介と精読、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>4. 失行症に関する古典文献の紹介と精読、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>5. 健忘症に関する古典文献の紹介と精読、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>6. 前頭葉損傷に関する古典文献の紹介と精読、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>7. 関連学会での研究動向の流れの分析、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>8. 各自の関心テーマと具体的問いについての議論</li> <li>9. 各自の研究テーマの紹介と議論</li> <li>10. 各自の研究テーマに適した研究方法についての議論</li> <li>11. 研究計画書の作成</li> <li>12. 研究計画書の作成と発表、議論</li> <li>13. 田とめと専門セミナーⅢについて</li> </ol>				

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内で個別にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 知・情・意の神経心理学 著者名:山鳥重 出版社:青灯社 (9784862280268)□</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.自らの研究テーマについての心理学の学術研究論文を読解し、最新の知見を得ることができる。  2.研究テーマについて得られた情報を要約し、効果的なプレゼンテーションをすることができる。  3.プレゼンテーションをもとにディスカッションを行い、自らの研究テーマについての関心の焦点化を行うことができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>専門セミナーⅠをふまえて、自らの研究テーマについての学術研究論文を選び、読解し、最新の知見を得る。その内容について発表資料を作成し、プレゼンテーションとディスカッションをしながら、関心を焦点化させ、発展的な心理学研究の理解への意欲を高めていく。同時に卒業論文の先行研究となる文献を検索収集し、卒業研究へとつなげていく。適時、関連学会・研究会の情報や臨床現場の実習の紹介なども行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>専門セミナーⅠをふまえて、日頃から自らの研究テーマについての学術研究論文を読解し、発表資料を作成し、ディスカッションのための準備をしておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 文献検索の方法について</li> <li>3. 心理学研究論文の作成方法と文献の引用方法について</li> <li>4. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション①</li> <li>5. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション②</li> <li>6. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション③</li> <li>7. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション④</li> <li>8. 中間まとめ</li> <li>9. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション⑤</li> <li>10.各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション⑥</li> <li>11. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション⑦</li> <li>12. 各自の研究テーマの文献研究発表とディスカッション⑧</li> <li>13. 研究テーマについてのまとめと専門セミナーⅡについて</li> </ol>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表資料作成(20%)、プレゼンテーション(50%)、ディスカッションへの参加態度(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・授業中の課題は、授業内でフィードバックします。 ・課題内容に応じて、適宜manaba・kissシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。授業内で随時紹介する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし。授業内で随時紹介する。</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	秋山 学		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマについて説明できる。</li> <li>2. 研究方法が選択できる。</li> <li>3. 文献を調べることができる。</li> <li>4. 自身の研究の位置づけと意義が説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理学専門演習Ⅱでは、卒業研究の作成のために研究テーマをさらに絞り込み、研究計画と卒業論文の概要を作成することを目的とする。具体的には、研究目的と意義の明確化、研究方法の選択、研究の仮説作成の取り組みを始める。すなわち、各自の研究テーマについて関連する学術論文・資料(日本語及び英語論文)を複数調べ、それらの先行研究で導き出された成果をまとめ、諸研究に対する批判的検討を行い、自身の研究の位置づけと研究の意義を明らかにする。また、予備実験や予備調査なども行い、研究準備を進める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>受講生は、自らの学修状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない。(目安として各回2時間)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>第1回 オリエンテーション この演習授業での最終到達目標、進め方、単位認定などについて説明する。受講生の発表順序なども決める。□</p> <p>第2回 先行研究と自らの研究の位置づけ 研究テーマに基づいて文献検索を行う。</p> <p>第3回 問題設定 各自の研究テーマに関連した近年の研究を知り、理解を深め、まとめる。□</p> <p>第4回 発表と討論1 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第5回 発表と討論2 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第6回 発表と討論3 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第7回 発表と討論4 受講生の発表を基に討論し深める。□</p> <p>第8回 発表と討論5 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第9回 発表と討論6 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第10回 発表と討論7 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第11回 発表と討論8 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第12回 発表と討論9 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第13回 授業のふりかえり 授業全体のふりかえりとまとめを行う。□</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	秋山 学		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業内で行う授業への振り返りや、課題の提出(40%)  授業内での発表(30%)  期末レポート(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:○授業への参加・課題・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○最終レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p>			



科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  一定の研究方法論に基づき、心理学の独自テーマに関する理解を深めと分析をできる。</p> <p>[ 授業概要 ]  関心をもつテーマについて、実験や調査を計画立案すると共に、データ収集、データの整理と分析を行い研究レポートを作成する。まず、計画した問題(テーマ)や方法(実験、調査内容など)について、互いに議論を行うことで内容を深める。その後、互いに協力して調査や実験を実施し、得られたデータを整理分析し、その結果を報告して相互討議する。さらに、まとめとして研究レポートを作成する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  テーマ確定、資料収集、文献の講読、調査実験、収集データの統計的分析、研究レポートの作成など、各ステップで当面する課題の準備を行うこと。  各回、予習・復習合わせて 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 心理学論文作成の方法について</li> <li>3. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表1</li> <li>4. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表2</li> <li>5. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表3</li> <li>6. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表4</li> <li>7. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表5</li> <li>8. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表6</li> <li>9. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション1</li> <li>10. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション2</li> <li>11. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション3</li> <li>12. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション4</li> <li>13. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション5</li> </ol>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(30%)、討論への参加態度(20%)、レポート(50%)による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート、発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜指定する(職場の現象学入門 他)</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学演習Ⅱ	演習	
担当者	栗田 聡子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  今までの授業や演習で身につけたスキルをもとに、①グループで研究テーマを設定し、先行研究を通して仮説を立てることができる。②先行研究と仮説をもとに、研究計画と遂行するためのスケジュールを立てることができる。③実際にデータ収集と分析をし、結果を論理的に解釈することができる。④研究結果をグループで最も効果的な方法で発表することができる。⑤多様な視点を持つメンバーとの協働作業を通して、コミュニケーション能力を向上させることができる。⑥各自が卒論のテーマを決定し、能動的に取り組む姿勢を育むことができる。</p> <p>[ 授業概要 ]  後期は、グループでの共同研究に取り組みます。テーマに関係する情報を集めて分析し、研究結果を発表する過程を通じて、卒業論文に必要な能力と知識・技術を修得します。(4回生になる前にある程度データ収集を終えることができるよう相談しながら進めます)</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  予習:共同研究を進め、発表者に対しては文献を読んでコメントを準備する。  復習:発表に対する様々なコメントから自らの研究に生かせる部分を見つけ、追究する。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. イントロダクション:グループの決定  2. 共同研究/テーマ  3. 共同研究/先行研究  4. メディア業界のプロフェッショナルによる特別講義とディスカッション  5. 共同研究/研究計画  6. 研究計画の発表とディスカッション①  7. 研究計画の発表とディスカッション②  8. メディア心理研究/共同研究の準備①  9. メディア心理研究/共同研究の準備②  10. メディア心理研究/共同研究の準備③  11. メディア心理研究/共同研究の準備④  12. 研究発表とディスカッション①  13. 研究発表とディスカッション②</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学演習Ⅱ	演習	
担当者	栗田 聡子		

[ 成績評価方法 ]

平常点(授業での参加態度・発言・資料読解度)70%・発表と課題 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。

成績評価方法:総合的に評価

学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。

成績評価方法:総合的に評価

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:総合的に評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法:総合的に評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:総合的に評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:総合的に評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:総合的に評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:総合的に評価

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:総合的に評価

[ 教科書(ISBN) ]

資料を配布

[ 参考書(ISBN) ]

資料を配布

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知心理学で用いられる研究手法をより専門的なレベルで説明できる。</li> <li>2. 関心のあるテーマについて複数の文献をまとめた発表ができる。</li> <li>3. 心理学の知見を用いることを意識した議論ができる。</li> <li>4. 卒業研究で扱う研究テーマを具体的に説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>関心のあるテーマを卒業研究に向けて具体化していきます。関心のあるテーマについて複数の文献を読みまとめて発表することを通して、認知心理学研究のどこにそのテーマが位置付けられるかを考えます。また、自分の主張について心理学の知見をもとに明瞭に表現することにより、学術的な討論の仕方を身に付けていきます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>関心のあるテーマをサーベイし、文献を取集すると同時に、新聞やニュースに毎日目を通して社会で起きている出来事についても情報収集してください。予習・復習を含めて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2. 認知心理学についての学術文献の発表①</li> <li>3. 認知心理学についての学術文献の発表②</li> <li>4. 認知心理学についての学術文献の発表③</li> <li>5. 認知心理学についての学術文献の発表④</li> <li>6. 中間のまとめ</li> <li>7. 認知心理学についての学術文献の発表⑤</li> <li>8. 認知心理学についての学術文献の発表⑥</li> <li>9. 認知心理学についての学術文献の発表⑦</li> <li>10. 認知心理学についての学術文献の発表⑧</li> <li>11. 研究構想についての発表①</li> <li>12. 研究構想についての発表②</li> <li>13. 全体のまとめ</li> </ol>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業における発表:50%, 議論への参加度:20% 期末レポート:30%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 発表後にフィードバックを行います。レポートについても採点した後フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:授業における発表・議論への参加度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:議論への参加度・授業における発表・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・議論への参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・議論への参加度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:議論への参加度・授業における発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:議論への参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における発表・議論への参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・授業における発表・議論への参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・授業における発表・議論への参加度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 資料をは配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業で適宜案内します。</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 各自が心理学の特定テーマに関する理解と知識及びその研究方法論を修得することを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 各自が関心をもつテーマについて、自分たちで実験や調査を計画立案すると共に、データ収集、データの整理と分析を行い研究レポートを作成する。まず、自分たちが計画した問題(テーマ)や方法(実験、調査内容など)について、互いに議論を行うことで内容を深める。その後、互いに協力して調査や実験を実施し、得られたデータを整理分析し、その結果を報告して相互討議する。さらに、まとめとして研究レポートを作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テーマ確定、資料収集、文献の講読、調査実験、収集データの統計的分析、研究レポートの作成など、各ステップで当面する課題の準備を行うこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 心理学論文作成の方法について 3. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表1 4. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表2 5. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表3 6. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表4 7. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表5 8. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション1 9. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション2 10. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション3 11. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション4 12. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション5 13. 全体のまとめ</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(30%)、討議への参加態度(20%)、レポート(50%)による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 発表やレポートへのフィードバックは授業時間内で行う。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:討議への参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし。必要に応じて資料を配布する。</p>			



科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

英語論文を含めた最新の心理学的知見にアクセスできる。

先行研究の概要を理解し、適切に要約できる。

自分の興味・関心のあるテーマが心理学ではどのように研究されてきたか、複数の先行研究をまとめて概観できる。

実現可能な研究計画を立て、実行することができる。

[ 授業概要 ]

先行研究の購読・発表・ディスカッションを通して自らの興味・関心・問題意識を育て、卒業論文に向けた研究計画を立案します。最新の心理学的知見に触れるために、英語論文の購読にも挑戦します。グループあるいは個人での予備的研究に取り組むことも検討しています。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

提示する課題(文献検索・文献購読・発表準備等)を事前に行ってくる。終了後は関連する論文に目を通すこと。事前・事後学習あわせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1.オリエンテーション
- 2.文献購読①
- 3.文献購読②
- 4.文献購読③
- 5.文献購読④
- 6.研究計画の立案①
- 7.研究計画の立案②
- 8.データ収集
- 9.分析①
- 10.分析②
- 11.結果
- 12.考察
- 13.まとめ

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表60%、授業への参加(ディスカッション)40%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 三訂版 心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために 著者名:松井 豊 出版社:河出書房新社(978-4-309-25449-4)</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期で概観した研究テーマを参考に、各自、卒業論文につながる具体的な研究テーマを立てる。</li> <li>・各自の研究テーマに関連する文献を批判的に読む力を養う。</li> <li>・論文にふさわしい構成と表現を学び、自ら実践する。</li> <li>・課題を発見する力とそれに対して情報収集して分析する力、および問題を解決に導く力を養う。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>前期に扱った様々な研究テーマを参考にしながら、自らが取り組みたい研究課題を立てる。その後、研究に必要な文献の読み方、資料の収集方法を学び、入手した資料を客観的に分析する。また、資料収集のなかで、実務教員のフィールドへの関与は積極的に行うものとする。自ら考察した内容は授業内で随時発表し、議論を通じて考察をさらに深めたうえで、説得力があり且つ論理的なレポートにまとめる。各自の研究テーマに沿って調査を進めるのと同時に、教科書を用いながら論文やレポートにふさわしい構成および文体についても学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習:各回の担当者はレジュメを用意し、指定された箇所の説明ができるように準備する。その他の受講者も指定された箇所を精読してくる。</p> <p>復習:各回の授業で各自で発見した課題に取り組み、期末レポートに向けた調査を進めること。</p> <p>※各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに:前期の振り返り、後期の計画、発表担当の決定</li> <li>2. 前期末レポートの内容報告会と卒論の研究テーマの検討</li> <li>3. 研究テーマの発表および修正、研究計画の立案</li> <li>4. 参考文献の入手</li> <li>5. 参考文献の読解・分析</li> <li>6. 参照した文献の内容発表会</li> <li>7. フィールド関与</li> <li>8. 論文の作成(1):構成の検討</li> <li>9. 論文の作成(2):研究で明らかにしたい問い・関連する先行研究のレビュー</li> <li>10. 論文の作成(3):調査方法とその結果</li> <li>11. 論文の作成(4):考察</li> <li>12. 論文の作成(5):導入および結論の仕上げ</li> <li>13. これまでの研究内容の発表会</li> </ol> <p>※早期に研究フィールドが確定した学生がおり、理解を深めるにより有用な場合、フィールドワークでの学びを優先することがある。</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、授業中の発表(30%)、レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 各自が心理学とその隣接分野の特定のテーマに関する理解と知識およびその研究方法論を修得すること。</p> <p>[授業概要] 各自が関心をもつテーマについて、自分たちで調査や実験を計画立案するとともに、データ収集、データの整理と分析を行い研究レポートを作成する。まず、自分たちが計画した問題(テーマ)や方法(調査内容など)について、互いに議論を行うことで内容を深める。その後、互いに協力して調査等を実施し、得られたデータを整理分析し、その結果を報告して相互討議する。さらに、まとめとして研究レポートを作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テーマ確定、資料収集、文献や資料の講読、調査・実験、収集データの統計的分析、研究レポートの作成など、各ステップで当面する課題の準備を行うこと。 各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.心理学(とその隣接分野の)論文作成の方法について 3.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表① 4.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表② 5.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表③ 6.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表④ 7.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表⑤ 8.各研究テーマについてのレポート作成と討議① 9.各研究テーマについてのレポート作成と討議② 10.各研究テーマについてのレポート作成と討議③ 11.各研究テーマについてのレポート作成と討議④ 12.各研究テーマについてのレポート作成と討議⑤ 13.まとめ</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(30%)、討議への参加態度(20%)、レポート(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 卒業論文のデザイン 質問紙調査による社会心理学研究 著者名:川浦 康至 出版社:福村出版 (978-4571250620)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業時に紹介する。</p>			

科目名	専門セミナーⅡ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	池尻 義隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 神経心理学の古典症例や代表的知見を学ぶ</li> <li>2 具体的な研究疑問をたて、仮説とともに議論することができる</li> <li>3 実行可能な研究計画を立案し、遂行、論文化できる</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>神経心理学に関する国内外の古典文献の精読と関連学会のシンポジウムや発表の知見の抄読を通じ、各自の関心テーマや具体的問いを決め、その解決法を探り、提案し、全員で討議する。その後、研究計画の立案、実行、論文化の準備を進める。担当教員の臨床研究経験を適宜紹介し、理解を深める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門セミナーIの振り返りとオリエンテーション</li> <li>2. 研究計画書の修正、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>3. 研究計画書の完成、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>4. 研究計画実行にあたっての準備、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>5. 研究計画の実行、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>6. 研究計画の実行、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>7. 研究計画の進捗状況の発表と議論、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>8. 研究計画の進捗状況と問題点についての議論</li> <li>9. 研究計画の修正等についての議論、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>10. 研究計画の結果の整理、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>11. 研究計画の結果の発表と議論、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>12. 研究計画の結果の発表と議論、認知症ケアについての英文単行本の輪読</li> <li>13. 田とめ</li> </ol>				

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内で個別にフィードバックする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。  成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業中の態度(25%)、計画立案(25%)、成果物(50%)によって評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  知・情・意の神経心理学 著者名:山鳥重 出版社:青灯社 (9784862280268)</p>			



科目名	多変量解析	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	江見 圭司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析など、心理学分野で使われることの多い多変量解析の理論と手法について基本的な事項を修得する。
2. 実際の統計データに対し目的に応じた統計手法の選択を行い、統計ソフトを用いた分析をし、その結果を適切に解釈できるようになる。

[ 授業概要 ]

多変量解析を学ぶことにより、複数のデータの相互の関係を分析することができるようになる。本科目では、複数の独立変数からなる多変量データを扱う重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析などの多変量解析の理論と手法について学習する。具体的には、実際の統計データを対象にして、目的に応じ統計手法の選択を行い、統計ソフトを用いて処理し、得られた結果をどのように分析し、理解していくのかを学ぶ。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

心理学統計法の内容をふまえつつ、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1.2要因の分散分析(1要因の分散分析の復習も含む。交互作用、単純主効果も扱う)。手法の解説。
- 2.第1回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 3.因子分析。手法の解説。
- 4.第3回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 5.主成分分析。手法の解説。
- 6.第5回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 7.クラスター分析。手法の解説。
- 8.第7回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 9.単回帰分析・重回帰分析。手法の解説。
- 10.第9回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 11.判別分析。手法の解説。
- 12.第11回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 13.まとめ

科目名	多変量解析	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	江見 圭司		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中のふりかえり(リアクションペーパー)(15%)、レポートの課題(35%)、まとめのレポート(50%)等を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・授業中の課題は、授業内でフィードバックします。  ・試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。  成績評価方法:レポートの課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:まとめのレポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業のふりかえり</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業中のレポート  まとめのレポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  授業資料作成して配布する</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  JASPで今すぐはじめる統計解析入門 心理・教育・看護・社会系のために 著者名:清水 優菜(著), 山本 光(著)  出版社:講談社 (978-4065292945)  研究に役立つ JASPによる多変量解析 - 因子分析から構造方程式モデリングまで 著者名:清水 優菜(著), 山本 光(著) 出版社:コロナ社 (978-4339029161)</p>			

科目名	知覚・認知心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐伯 恵里奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚・知覚及び認知・思考の仕組み・処理過程を理解する。</li> <li>2. 感覚・知覚及び認知・思考の障害が引き起こす問題を説明できる。</li> <li>3. 知覚・認知心理学の知見と日常生活のつながりについて挙げるができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>私たちは「見聞きして、覚えて、推論して、判断して」といった活動を繰り返しながら、日常生活を送っています。知覚・認知心理学では日常生活を支えているこのような心の働きを、主に情報処理の観点から考えます。知覚及び認知過程についての基礎的な知見を解説し、知覚過程と認知過程の仕組みについて学びます。また、知覚過程や認知過程の障害が私たちの行動にどのような影響を与えるかについても解説します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業中に配布した資料を復習するとともに、紹介した書籍を図書館で探して読むことで、授業の内容を深く理解し、授業で説明した内容と日常生活の出来事が結びつけられるように予習、復習をしてください。各回予習・復習併せて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.知覚・認知心理学とは</li> <li>2.感覚モダリティ</li> <li>3.視覚① 基本的しくみ</li> <li>4.視覚② 形の知覚と特徴</li> <li>5.パターン認知</li> <li>6.注意</li> <li>7.記憶① 記憶の分類</li> <li>8.記憶② 記憶の過程</li> <li>9.記憶③ 日常記憶</li> <li>10.問題解決・推論</li> <li>11.認知の個人差</li> <li>12.知覚・認知機能の障害</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	知覚・認知心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ] リアクションペーパー(25%)、中間確認課題(25%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] リアクションペーパーは授業毎に提出を求め、次の授業で記載内容を取り上げ、議論、解説を行います。中間確認課題については実施後、解説を行い質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:中間確認課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:リアクションペーパー・中間確認課題・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:リアクションペーパー・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] レジュメ・資料を配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 知覚・認知心理学 著者名:箱田裕司(編) 出版社:遠見書房</p>			

科目名	データサイエンス入門	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会におけるデータの分析と活用に関する基礎的な知識を習得し、目的に合致したデータの収集と分析・活用ができる。</li> <li>2. 表やグラフ等を使い、データを適切にまとめることができる。</li> <li>3. 代表値、散布度について理解し、適切に利用できる。</li> <li>4. 仮説検定について初歩的な事項を理解し、目的に応じ適切に利用できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>データサイエンスとは、様々なデータから新たな知見や洞察を引き出そうとするアプローチである。その中では情報学や統計学など複数の分野の手法を用いるが、本授業では主にExcelを使った実習を通じて統計学の初歩を学ぶことを通じて、データサイエンスの基礎についての理解を深め、得られたデータを適切に分析・解釈し、活用できるようになることを目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について教科書の該当する箇所を通読し予習しておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データサイエンスとはどんなもの</li> <li>2. データの収集とデータのタイプ</li> <li>3. データの要約(アンケートデータを例に)</li> <li>4. 質的変数の分析:クロス集計表と帯グラフ</li> <li>5. 量的変数の要約(1):代表値、度数分布表、ヒストグラム</li> <li>6. 量的変数の要約(2):散布度、標準誤差</li> <li>7. 平均と標準偏差の活用:偏差、標準化、外れ値</li> <li>8. 2つの平均値の比較(1):F検定、t検定</li> <li>9. 2つの平均値の比較(2):t検定の対応あり・対応なしの使い分け</li> <li>10. 関係性の分析(1):散布図、相関係数</li> <li>11. 関係性の分析(2):回帰分析</li> <li>12. 時系列データの分析</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	データサイエンス入門	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		

[ 成績評価方法 ]

毎回の平常課題が70%、テストが30%の比率で総合的に判断して評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

平常課題については、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。  
テストについては、答案回収後、問題の解説をおこない、その上で質問を受け付ける。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。

成績評価方法:毎回の平常課題、テスト

学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。

成績評価方法:毎回の平常課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の平常課題、テスト

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:毎回の平常課題、テスト

[ 教科書(ISBN) ]

学生のためのデータリテラシー～データの読み方から分析結果の伝え方まで～ 著者名:富士通エフ・オー・エム株式会社 出版社:FOM出版 (978-4-86510-446-2)

[ 参考書(ISBN) ]

データサイエンス入門(第2版) 著者名:竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編 出版社:学術図書出版社 (978-4-7806-0730-7)

科目名	人間行動ビッグデータ解析	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 現代社会におけるビッグデータの活用の実際について理解し、説明できる。 インタビュー調査のデータ、アンケート調査の自由記述、SNSの書き込みアンケート等のデータから知識を抽出する技法のひとつであるテキストマイニングの基礎を習得し、実際のデータに適用できる。 ビッグデータを利用する際の留意点、個人情報保護やプライバシー保護、情報セキュリティの問題について理解し、説明できる。</p> <p>[授業概要] ビッグデータとは、一般的なデータ管理・処理ソフトウェアでは扱うことができないような巨大なデータ群のことを指して使われる用語である。例えばSNSなどに無数に書き込まれている膨大なデータには、人々の嗜好や行動傾向などに関する多様な情報が含まれているが、それらを統計的に分析しまとめることにより、有効に活用することができるようになる。本科目では現代社会におけるビッグデータの活用の実際について理解を深めた上で、心理学分野におけるアンケート調査の自由記述データを題材にして、ビッグデータから知識を抽出する技法のひとつであるテキストマイニングの基礎的なスキルを身につけることを目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について授業資料の該当する箇所を通読し予習と作業をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. ビッグデータとはどんなもの、心理学研究とビッグデータ 2. ビッグデータの活用事例 3. ビッグデータと個人情報保護、プライバシー保護、情報セキュリティ 4. データの取得と管理 5. マルチメディア(画像・音声)データの基礎知識 6. テキストマイニングとはどんなもの、心理学研究とテキストマイニング 7. アンケート調査の自由記述データの例と分析前の下準備 8. KH Coderによる分析(1): 前処理と単語抽出、単語共起の分析 9. KH Coderによる分析(2): 単語どうしの関連を検討 10. KH Coderによる分析(3): 外部変数との関連の検討 11. KH Coderによる分析(4): コーディングルールの作成と利用 12. テキストマイニングから得られた知見の心理学的活用 13. まとめ</p>			

科目名	人間行動ビッグデータ解析	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ] 毎回の平常課題が70%、まとめのレポートが30%の比率で総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 平常課題やレポートについては、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。 成績評価方法:毎回の平常課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:毎回の平常課題、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の平常課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の平常課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回の平常課題、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 授業資料を作成し配布する</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業時に随時紹介する</p>			



科目名	認知システム論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	斎藤 元幸		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>インタラクティブな授業を予定しているため、積極的に参加するようにしてください。</small>	実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な認知機能について、背景となる理論や社会における現象を理解できるようになる。</li> <li>・心や認知について、多様な観点から考察できるようになる。</li> <li>・認知とメディアの関連について、科学的観点から理解と考察できるようになる。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>認知システムとは、我々を取り巻く環境の様々な情報を捉え、それを意味付けて解釈する身体システムのことである。認知システム論では、知覚や記憶や思考といった代表的な認知機能について、理論と現象の両面から解説する。また、認知を実現する脳、脳と環境との接点である身体、身体を取り巻く社会と多様な観点から認知についての理解を深める。そして、これらの知見に基づいてメディアを科学的に理解することも目的とする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>予習: 次の授業開始までに、指定された資料を読んでください。  復習: 講義資料を読み直し、自分の言葉で説明できるように十分理解してください。  (各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知覚 I (注意のモデル)</li> <li>2. 知覚 II (感性認知と神経美学)</li> <li>3. 記憶 I (ワーキングメモリモデル)</li> <li>4. 記憶 II (知能と知能検査)</li> <li>5. 思考 I (二重過程理論)</li> <li>6. 思考 II (集合知と誤情報と陰謀論)</li> <li>7. 認知科学 I (ベイズモデルとベイズ脳)</li> <li>8. 認知科学 II (自由エネルギー原理と生成AI)</li> <li>9. 認知科学 III (心と身体)</li> <li>10. 認知科学 IV (心と脳)</li> <li>11. 認知科学 V (心と社会)</li> <li>12. メディア I (ビデオゲームとアディクション)</li> <li>13. メディア II (映画とウェルビーイング)</li> </ol>			

科目名	認知システム論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	斎藤 元幸		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(40%)、レポート(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。  課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業態度・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  講義資料を配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  認知科学講座1—心と身体— 著者名:嶋田総太郎 出版社:東京大学出版会 (978-4130152013)  認知科学講座2—心と脳— 著者名:川合伸幸 出版社:東京大学出版会 (978-4130152020)  認知科学講座3—心と社会— 著者名:鈴木宏昭 出版社:東京大学出版会 (978-4130152037)  その他講義中に適宜紹介します。</p>			

科目名	発達心理学A(青年期・成人期・高齢期)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 生涯発達の観点から人間理解を深め、各ライフステージの特徴について基礎的知識を習得する。  2. 青年期以降の発達課題と心の問題・病理との関係を理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>人間は生涯発達しつづける存在であるという生涯発達心理学の観点から人間理解をより深めることを目標とし、この授業では青年期から成人期、高齢期までのライフステージをとりあげ、その特徴を明らかにする。ライフステージ各段階における心身の発達の特徴や心理社会的な発達課題について学び、それらに関連して起こり得る心の健康問題や病理も合わせて習得していく。  適宜、動画映像教材や簡潔な演習も用いながら、学生の身近なテーマとして捉えられるよう理解を助け、現代社会を反映する心の問題についても触れていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。授業内容に関する近年の社会的動向にも関心をもつこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.生涯発達① 誕生から死に至るまでの生涯にわたる心身の発達  2.生涯発達② 定型/非定型発達、乳幼児期・児童期の心理社会的発達課題の概説  3.思春期・青年期① 心身の発達、社会性の発達(友人関係と親子関係の発達)  4.思春期・青年期② 発達課題:アイデンティ、自己と他者の関係の在り方と心理的発達  5.思春期・青年期③ 心の健康問題:アパシー、ひきこもり  6.成人期初期 心理社会的発達:大人になる、生き方を選び定める  7.成人期・中年期① 家族内での役割、職業的役割  8.成人期・中年期② 発達課題  9.成人期・中年期③ 心の健康問題:中年期の心の危機  10.高齢期① 高齢者の心理:加齢による身体機能及び認知機能、社会関係の変化  11.高齢期② 発達課題:生きがいとサクセスフルエイジング  12.高齢期③ 心の健康問題、人生の終わりに向けて生きる  13.まとめ</p>			

科目名	発達心理学A(青年期・成人期・高齢期)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ]          毎回授業でのコメントシート(30%)、確認課題(20%)、最終試験(50%)等を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          ・コメントシートには、次回授業中にフィードバックしクラスで共有する。          ・小レポートは授業中やmanabaで、最終試験はmanabaで講評する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。          成績評価方法:確認課題、最終試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。          成績評価方法:コメントシート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:コメントシート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢          成績評価方法:コメントシート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力          成績評価方法:最終試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          エピソードでつかむ生涯発達心理学 著者名:岡本祐子・深瀬裕子 編著 出版社:ミネルヴァ書房(987-4-623-06531-8)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          なし。授業中に随時紹介する。</p>			

科目名	発達心理学B(乳幼児期・児童期)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	鎮 朋子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>人格形成の基盤となる乳幼児期及び学童期の子どもの心身の発達を理解する力を養う。また、子どもの発達の過程において生じる心身の不適応を理解し、援助のための基本的知識を身につける。さらに、様々な障がいを抱えた子どもの心身の発達や学習の過程を理解し、個々の子どもの発達に応じた援助に必要な基本的事項を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>人間の精神発達の過程のうち、乳幼児期から児童期に焦点を当てて見ていく。この時期は人生の急速に発達していく段階である。この時期の数年間の精神発達は認知機能の発達の面においても感情や社会性の発達の面においても目覚ましいものがある。そして、人間のその後のパーソナリティの基盤を形成するたいへん重要な時期である。その具体的な様子を詳しくとり上げていき、それらの特徴がその後の発達にどのように関係していくのかを明らかにしていく。さらに、発達障がい等の非定型発達についての基礎的知識及びその考え方についても取り上げていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>子どもに関するニュース等への関心を示し、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人援助職に必要な基礎知識</li> <li>2. 発達心理学の基礎</li> <li>3. 胎生期の発達</li> <li>4. 乳幼児期の発達①感覚と動きの発達</li> <li>5. 乳幼児期の発達②記憶と言葉の発達</li> <li>6. 乳幼児期の発達③気持ちとかかわりの発達</li> <li>7. 児童期の発達</li> <li>8. 思春期の発達</li> <li>9. 定型発達と非定型発達～発達上の困難と援助</li> <li>10. 保護者への支援</li> <li>11. 事例から考える①</li> <li>12. 事例から考える②</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	発達心理学B(乳幼児期・児童期)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	鎮 朋子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題・レポート等(30%)、テスト(70%)等を総合的に判断して評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・授業内でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 対人援助職のための発達心理学 著者名:監修:渡辺弥生 出版社:北樹出版 (978-4-7793-0657-0)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	ビジネスコミュニケーション	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	千田 直毅		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 現代社会において仕事を通じて活躍する上で必要なコミュニケーション、意思決定、組織行動に関する基礎知識を集約する。
2. 自身が将来働く上でどのようなコミュニケーションや協業が必要であるのかを主体的に考える事ができる。

[ 授業概要 ]

企業経営において、企業の活動を維持・継続していくために組織メンバー同士が協力しながら組織全体のパフォーマンスを高め、様々なビジネス上の課題を解決していくことが求められます。こうした組織行動は、個々のメンバーの意思決定の積み重ねの結果ともいえます。多くの人で構成される組織を円滑に運営していくための要素として、メンバー間の円滑なコミュニケーションと協業が挙げられます。

また、組織メンバー間のコミュニケーションだけでなく、様々な利害関係者(例:提携企業や顧客など)との円滑なコミュニケーションもビジネスを成功裏に導く上で重要となります。本講義ではそのようなビジネス上必要なコミュニケーションや協業、組織行動がいかに行われるのか、企業としてそうした個人および組織全体の行動をどのようにマネジメントしていくのかという点について学びます。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

各講義に関するニュースや新聞記事等を検索して自主学习、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

1. イントロダクション
2. 組織づくり
3. チームワークのマネジメント
4. ビジネススキルとしてのコミュニケーション
5. リーダーシップ① リーダーとフォロワーの関係性
6. リーダーシップ② シェアードリーダーシップ
7. 意思決定
8. 個人と組織のコミュニケーション
9. 対話による人の動機づけ
10. 人を育てるコーチング
11. ダイバーシティマネジメント
12. DX時代のビジネスとコミュニケーション
13. まとめと到達確認

科目名	ビジネスコミュニケーション	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	千田 直毅		
<p>[ 成績評価方法 ] 講義中に実施するミニツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			



科目名	プログラミング		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	浅木森 和夫			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  授業を通して、次のことを目標とします。  ① Python を使って簡単なプログラムを作成できる  ② データ処理の制御構造が理解できる  ③ Python のライブラリを利用できる  ④ コンピュータとプログラムの関係が理解できる</p> <p>[ 授業概要 ]  すべてのコンピューターはプログラムで動いている。そのため、コンピューターを有効に使用するにはプログラムに対する理解を避けて通ることはできない。本授業では、プログラムの基本的な考え方や知識について講義を行う。また、データサイエンスやAIで使用されている言語Pythonを使用し、実際にプログラムを作成し実行することで、コンピューターを実践的に理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  テキストはLMS(Moodle)に公開します。LMSに公開するテキストを事前によく読み、積極的に予習・復習をしてください。また、要所・要所で実施される小テストをクリアできるように自分なりにポイントまとめましょう。タッチタイピングができるようになりましょう。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 授業ガイダンス、Pythonとは  2. Python のインストールと利用環境(Jupyter Notebook)の整備  3. Jupyter Notebook を使った簡単なプログラミングと実行  4. Pythonプログラムの書き方(計算して見よう)  5. 変数とデータの記憶  6. 計算式、関数、データの表示  7. 制御文(if文、for文)  8. 乱数を使った円周率の計算(シミュレーション)  9. モジュールのインポート  10. データファイルからデータを読み込む  11. ライブラリを使った統計計算  12. Pythonによるアンケートデータの集計  13. 学習目標到達度確認・解説</p>				

科目名	プログラミング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	浅木森 和夫		
<p>[ 成績評価方法 ] 成績は、学習振り返り(15%)、小テスト(25%)、課題(30%)、学習成果確認試験(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 振り返りに入力があった質問や感想等については、授業のはじめにフィードバックします。小テストや課題については、終了後、締め切り後、解答、ポイントを解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:課題 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:グループワーク 課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	プロモーションの心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	後藤 こず恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  認知心理学の知見を活かしたプロモーション方法についての知識を身につけることができる。  消費者などのプロモーションのターゲットとなる人々の理解を深め、より有益なプロモーション方法を考案し、提案できるようにする。</p> <p>[ 授業概要 ]  この講義では、認知心理学の考え方に基づいて私たちの身の回りに展開されているプロモーションについて考えていきます。企業がマーケティング活動の中で私たちに様々な働きかけをし、商品やサービスの価値を伝えようとしています。そういったプロモーションのなかで、感覚や記憶、言語などどのように向き合えばより分かりやすく有益な情報の提供が可能になるか、様々な事例を通して考えていきます。  また、学んだ知識を生かして自身の意見を形成し、他者と共有する力を高めることを目的としてグループディスカッションを実施します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  予習として、事前にレジメを読んでわからない言葉をメモして適宜質問してください。自分で辞書などで調べておくのも良いでしょう。復習として、授業で学んだことを振り返り、店舗やウェブサイトを観察し、授業で学んだプロモーション関連の事項を身の回りの事象において発見し、考察してください。</p> <p>[ 授業計画 ]  第1回 認知心理学とプロモーション  第2回 感覚(視覚、聴覚)とプロモーション  第3回 感覚(味覚、嗅覚)とプロモーション  第4回 感覚(触覚、マルチモーダル効果)とプロモーション  第5回 カテゴリー化とプロモーション  第6回 長期記憶とプロモーション  第7回 知識表象とプロモーション  第8回 言語とプロモーション  第9回 製品のプロモーション事例  第10回 小売店のプロモーション事例  第11回 飲食店のプロモーション事例  第12回 旅行商品のプロモーション事例  第13回 全体まとめ、確認テスト、復習</p>			

科目名	プロモーションの心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	後藤 こず恵		
<p>[ 成績評価方法 ]  最終テスト(50%)、各回の小テスト(50%)  グループディスカッションの評価は各回の小テストに含みます。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:毎回の小テストと最終テストで評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:毎回のグループディスカッションで評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:毎回のグループディスカッションで評価します</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:毎回の小テストと最終テストで評価します。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>			

科目名	マーケティング		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	吉川 祐介			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	○
プレゼンテーション		○	実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1、マーケティングの基本を、人に伝えることができる  2、社会でマーケティング(STP)の基本で戦略を考えることができる  3、マーケティングにおける心理学の有用性を考えることができる</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>どのように顧客に価値を伝えて、関係を構築するのか。マーケティングは人の心を惹きつけるメカニズムを科学的に理解する学問であり、心理学に大きく関わります。社会の様々な場面で必要になるスキルを、企業での実践を通して体得していきます。実践は、実務家教員によってリアルタイムの企業等の課題について、戦略を提案し、実行のうえ検証まで行います。サービスデザイン心理学で理解したマーケティングを、実践により体得し、消費者心理学によってさらに心理学に基づいた理論の習得を目指します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日経新聞やMJ新聞でマーケティングに興味を持ち、わからない言葉は調べ、講義内容に関連付けて理解することを心がけてください。  各回、予習復習合わせて 4 時間 程度の学修を確保してください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.マーケティングとは何か(サービスデザイン心理学の復習)  2.マーケティングの前提となる企業の経営  3.STPの基本、マーケティング戦略の策定  4.実践②(中小企業STP)の検討  5.実践②(中小企業STP)の解決策の発表  6.実践③(グローバルSTP)の検討  7.実践③(グローバルSTP)の解決策の発表  8.STPの理解  9.大企業のマーケティング(セブン-イレブンの事例)  10.マーケティングのさまざまな理論  11. エフェクチュエーション  12.実践②③の検証  13. まとめ  ※リアルタイムの企業等の課題を取り扱うため、スケジュールを変更することがある。  ※サービスデザイン心理学の理解を前提としているため、履修していることが好ましい。</p>				

科目名	マーケティング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、授業中の発表(30%)、レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:授業中の発表、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業中の発表</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業への取り組み、授業中の発表、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  1からのマーケティング 著者名:石井淳蔵・廣田章光・清水信年(編著) 出版社:碩学舎 (978-4-502-32771-1)</p>			

科目名	メディア心理学 I	後期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学概論	講義	
担当者	栗田 聡子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①社会背景と心理学の発展を背景に、メディア心理学の歴史と歩みについて理解することができる。②メディア心理学には基礎的な心理学の知識が不可欠であることを理解できる。③多様な興味を持つメンバーで構成されたグループでの討論を通して発表準備をし、他者に対してわかりやすく説得力のある方法で伝えるコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>私たちは、急速に発展しているメディア技術により日常的に膨大な情報を処理し、SNS上で人間関係を構築し、仮想現実空間でも存在するようになりました。メディア心理学は、メディアの形式や内容が個人の認知や感情、そして集団や社会に影響を与える過程について理解を試みる学際的な分野です。超高度情報化社会でこの分野の研究がますます必要とされる背景や欧米を中心に培われてきた知見について学び、日本の視点からも検討していきます。(教員は過去にテレビ番組の制作を経験していることから、その経験から得た知見も加えて指導します)</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>現実に行っている国内外のメディア関連情報の意味を心理学の観点から考えながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業のテーマについて予習をしておくこと。参考書(英語)も読んでおくことで理解が深まります。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション:メディア心理学とは?</li> <li>2. マスメディアの発展と効果研究①強力vs.限定的効果</li> <li>3. マスメディアの発展と効果研究②カルティベーション効果と社会学習理論</li> <li>4. メディアの利用と満足理論</li> <li>5. ニュースと心理:議題設定理論とフレーミング</li> <li>6. メディアと説得:影響力の心理学</li> <li>7. メディアと感情①動機活性化と個人差</li> <li>8. メディアと感情②SNSと感情感染</li> <li>9. 仮想現実/メタバースの心理</li> <li>10. グループ発表準備</li> <li>11. グループ発表</li> <li>12. グループ発表</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>*スケジュールは変更になる可能性があります。</p>			

科目名	メディア心理学 I	後期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学概論	講義	
担当者	栗田 聡子		
<p>[ 成績評価方法 ]          期末試験(40%)と課題(30%) グループ発表と積極性(30%)を総合的に評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          ・基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          レジメ・資料を作成し配布する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          Digital Media Effects 著者名:W. James Potter 出版社:Rowman &amp; Littlefield (9.78E+12)</p>			



科目名	メディア心理学Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	ポジティブメディア心理学	講義	
担当者	栗田 聡子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>①社会のwell-being(幸福や福祉)の概念を理解し、メディア心理学の新たな分野である「ポジティブメディア心理学」が台頭してきた理由と重要性を理解できる。②メディア業界のプロフェッショナルが培ってきた課題解決のための発想の仕方を理解することができる。③多様な興味を持つメンバーで構成されたグループと意見を出しながら、積極的に発表準備に取り組むことができる。④他者に対してわかりやすく説得力のある方法で伝えることができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>メディア心理学Ⅱでは、「メディアを利用してどのように社会や個人のwell-beingに貢献できるのか」について思考する力を養います。授業は①講義 ②メディア業界のプロフェッショナルによる特別講義 ③グループ発表で構成されます。②では、メディア業界のプロがどのように課題解決に従事してきたかについて学び、指導を受けます。その知識をもとに③グループ発表に取り組む、複数の視点を入れながら課題解決に挑戦します。(2回までは、1でカバーできなかった内容を実施予定。教員は過去にテレビ番組の制作を経験していることから、その経験から得た知見も加えます。)</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>現実に行っている国内外のメディア関連情報の意味を心理学の観点から考えながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業のテーマについて予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション:シラバスの説明他</li> <li>2. ヴァーチャルリアリティ(仮想現実)の心理と倫理</li> <li>3. ポジティブメディア心理学①</li> <li>4. 学外特別講師①テレビ局アナウンサー(予定)</li> <li>5. ポジティブメディア心理学②</li> <li>6. ポジティブメディア心理学③</li> <li>7. ポジティブメディア心理学④</li> <li>8. 学外特別講師②コピーライター(予定)</li> <li>9. ポジティブメディア心理学⑤</li> <li>10. グループ発表準備</li> <li>11. グループ発表</li> <li>12. グループ発表</li> <li>13.まとめ</li> </ol> <p>*スケジュールは変更になる可能性があります。</p>			

科目名	メディア心理学Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	ポジティブメディア心理学	講義	
担当者	栗田 聡子		
<p>[ 成績評価方法 ]          期末試験(40%)と課題(30%) グループ発表と授業態度(30%)を総合的に評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          授業時間内で解説するか、manabaかメール経由で送ります。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          『ポジティブメディア心理学入門—メディアで「幸せ」になるための科学的アプローチ。』 著者名:アーサー・A・レイニーほか(著)李 光鎬 ほか(監訳) 出版社:新曜社 (9.78E+12)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          随時紹介</p>			

科目名	メディアと人間行動	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	笹原 寿峰、北川 勝利		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
[ 到達目標 ]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化するマスメディアの特性を理解した上で、マスメディアやインターネットからの情報が、個人や集団の心理にどのような影響を与えているのかを理解する。</li> <li>・様々なメディアからの直接的・間接的な作用が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解する。</li> <li>・メディアが心や社会に及ぼしている影響とその仕組みについて心理学的知見をもとに学び、個人や社会のwell-beingを実現させるためのメディアの有効な活用方法をテレビ・広告業界の事例を取り入れて考え、社会に対応できる資質を身につける。</li> </ul>			
[ 授業概要 ]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化するマスメディアをまず理解するために各メディアの特性や広告・宣伝分野の特性を学ぶ。</li> <li>・社会に対して大きな影響与えたテレビ番組事例等をもとに、その問題点を心理学的に解説し、メディアリテラシーを学ぶ。</li> <li>・多様化するネットメディアとのかかわりの中で、人間がどのように行動をとって行くかを理解し、社会を生きていくためのコミュニケーションを学ぶ。</li> </ul>			
[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、テーマに即してコミュニケーションを行い、自己の考えをまとめて発言することに重点をおいて進行するため、次回の授業テーマ(事前告知の場合)について事前に考えておくこと。</li> </ul>			
[ 授業計画 ]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション／多様化するメディアについて考える(笹原)</li> <li>2. 情報の多様化と消費行動について(北川)</li> <li>3. メディアの影響について/一夜で全国のスーパーから納豆が消え人間行動(北川)</li> <li>4. 人間行動とマーケティング(笹原)</li> <li>5. メディアリテラシーと心理学について(北川)</li> <li>6. CM・宣伝と心理学について(北川)</li> <li>7. 広告の効果と人間行動について(笹原)</li> <li>8. 児童虐待・DVの加害者、被害者の報道キャンペーンで人間(社会)は変わったか(笹原)</li> <li>9. プロモーションとコミュニケーション(北川)</li> <li>10. メディアに惑わされず、ありがとうの大切さを学ぶ(北川)</li> <li>11. 効果的、効率的なクリエイティブ(笹原)</li> <li>12. まとめ 1(笹原)</li> <li>13. まとめ 2(北川)</li> </ol>			

科目名	メディアと人間行動	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	笹原 寿峰、北川 勝利		
<p>[ 成績評価方法 ] 「授業中の理解度確認課題発表(80%)、理解度確認課題提出レポート等(20%)」</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法:「授業中の理解度確認課題発表(80%)、理解度確認課題提出レポート等(20%)」</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:「授業中の理解度確認課題発表(80%)、理解度確認課題提出レポート等(20%)」</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:「授業中の理解度確認課題発表(100%)」</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:「授業中の理解度確認課題発表(100%)」</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:「授業中の理解度確認課題発表(100%)」</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:「授業中の理解度確認課題発表(100%)」</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:「授業中の理解度確認課題発表(100%)」</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:「授業中の理解度確認課題発表(80%)、理解度確認課題提出レポート等(20%)」</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:「授業中の理解度確認課題発表(80%)、理解度確認課題提出レポート等(20%)」</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	メディア倫理	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	栗田 聡子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①国内外で起こっているメディア関連の倫理的問題について、心理学や経済を含む多角的な角度から考えることができる。②メディア心理学を基盤としたメディア・リテラシーが不可欠である理由を理解することができる。③民主主義社会における報道の重要性を理解し、誤情報やフェイクニュースの特性や影響について説明できる。④グループメンバーとのディスカッションを通して、多様な視点を取り入れながら自分の意見を出すことができる。⑤メンバーとの協働で、わかりやすく説得力のある発表をすることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>高度情報化社会においてメディアに関する倫理的思考は不可欠である。情報の受信者として、そして発信者として必要なメディア・リテラシーを心理的に理解することが求められている。この混沌とした世界が抱える偏見やジェンダーギャップ等の課題について考え、報道や広告だけでなく戦争や紛争におけるメディアの役割についての理解も深めていく。内容は米国のメディア学部で主に用いられている教科書をベースとし、関連書籍を参考とする。(教員は過去にテレビ番組の制作を経験していることから、テレビメディアに関してはその経験から得た示唆も加える。SNSやメタバース等のトピックはメディア心理 I でカバーする予定)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>現実に起こっている国内外のメディア関連情報の意味をメディア倫理の観点から考えながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業のテーマについて予習しておくこと。参考書(英語)も読んでおくことと理解が深まります。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 情報処理の観点から: 認知的負荷・関心経済他</li> <li>3. メディアリテラシー: 3つのブロック</li> <li>4. 経済的観点①イノベーター理論</li> <li>5. 経済的観点②メディア会社の所有・統合・コンバージェンス</li> <li>6. 特別講義①テレビの役割と未来(予定: テレビ局アナウンサー)</li> <li>7. グループ発表準備</li> <li>8. グループ発表</li> <li>9. メディアと戦争①ナチス政権</li> <li>10. メディアと戦争②ベトナム戦争他</li> <li>11. 広告と倫理</li> <li>12. 特別講義②新聞の読み方(予定: 新聞記者)</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>* SNS関連トピックは、メディア心理学 I で実施する予定です。</p>			

科目名	メディア倫理	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	栗田 聡子		
<p>[ 成績評価方法 ]          期末試験(40%)と課題(30%) グループ発表と積極性(30%)を総合的に評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力          成績評価方法:総合的に評価</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          レジメ・資料を作成し配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          Media Literacy (10th Edition) 著者名:W. James Potter 出版社:SAGE (9.78E+12)</p>			

科目名	臨床心理学概論	後期	2 単位
サブタイトル	多様な臨床心理学的アプローチ	講義	
担当者	前田 研史		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 臨床心理学的援助の方法として、代表的な諸理論とその実践について、臨床心理学の成り立ちを含めて説明することができる。
2. 臨床心理学的人間理解について、自己理解と他者理解の重要性を知り、心理アセスメントの種類や手法の概要を捉えることができる。
3. 生涯発達観の観点から、人間の各発達課題と起こりやすい心身の問題の関係を理解し、ライフサイクルに応じた支援や心理療法について、支援の現場で活かす方法を説明することができる。

[授業概要]

近年の社会的動向や様々な問題と平行して「心のケア」や「カウンセリング」などの言葉が一般的にも広く知られるようになってきている。しかし、そのような行為の実践のためには、背景にある臨床心理学の諸理論をしっかりと理解していることが重要である。この臨床心理学の授業では、「臨床心理学とは」という問いから始まり、その基礎的理論について歴史的な流れも含めて学ぶ。そして、人間理解をキーワードに、臨床心理学の対象となる領域を人間の発達の観点・ライフサイクルから理解する。また、心理臨床の実践において重要な心理アセスメント、心理療法などについての概説を行い、臨床心理学における理論と実践の基礎的理解を深める。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

2回生前期までに学ぶ心理学・医学領域を復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業テーマに関する教科書を読むなど予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の基礎理論① 精神分析の理論(心の構造、心的装置、精神分析療法)
3. 臨床心理学の基礎理論② 認知・行動理論(行動療法)
4. 臨床心理学の基礎理論③ 人間性心理学の理論(来談者中心療法)
5. 人間理解と心理アセスメント① 正常と異常、心理アセスメントとは
6. 人間理解と心理アセスメント② 性格・人格検査(質問紙法・投影法・作業検査法)
7. 乳幼児期の心身の特性と心理臨床
8. 児童期の心身の特性と心理臨床
9. 思春期の心身の特性と心理臨床
10. 青年期の心身の特性と心理臨床
11. 成人期・中年期の心身の特性と心理臨床
12. 高齢期の心身の特性と心理臨床
13. まとめ

科目名	臨床心理学概論	後期	2 単位
サブタイトル	多様な臨床心理学的アプローチ	講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後、解説を行いません。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 臨床心理学と心理的支援を基本から学ぶ 著者名:日比野英子[監修] 濱田智崇/田中芳幸[編集] 出版社:北大路書房 (978-4-7628-3169-0)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし。授業内で随時紹介する。</p>			